

都市における 「コミュニティ形成」基盤の 把握と診断

—東京首都圏・武蔵野および三鷹の
二地域をフィールドとして—

1. はじめに	5
2. 調査地域の概況	11
3. 調査の概要	29
4. 被調査者（サンプル）の特徴	45
5. 地域との関わり	69
6. 地域活動への参加	83
7. 市行政との関わり	93
8. 近隣との交わり	109
9. 「福祉」に関する意向	119
10. 既成団体への所属と参加	127
11. 個人の生活構造	139
12. 「コミュニティ形成」基盤の把握と診断	151
13. 「コミュニティ形成」基盤の把握と診断 ——多変量解析による試み——	166
14. 分析結果の要約と研究の総括	195
参考文献	209
付表および付図	211

本モノグラフに報告する研究は、『文部省科学研究費』（課題番号/56310022，研究代表者/佐野勝男）および『エッセ学際助成金』（昭和56年度，研究代表者/高倉節子）によって遂行されました。研究の遂行にあたっては，以下の方がたのご協力を得ました。調査サンプルになられてご回答をいただいた武蔵野市および三鷹市の住民の方がた，訪問面接調査員としてご尽力いただいた慶應義塾大学・国際キリスト教大学・ルーテル大学の学生有志および三鷹市ボランティア・グループの有志の皆さん，訪問面接調査全体を監督され，また調査票の整理・コーディング・パンチ作業に基大なご助力をいただいた慶應義塾大学学生団体『ファクター』（会長/同大学文学部助手 小林ポオル氏）の皆さん。記して厚くお礼申しあげる次第です。

1

はじめに

1. 地域社会に対する関連の稀薄性	6
2. 大都市における地域社会の今日的意義	6
(1) 居住環境との関連において	6
(2) 主婦層との関連において	6
(3) 高齢者との関連において	7
(4) 障害者など、要介助者との関連において	7
(5) 人間性の回復との関連において	7
3. 地域社会の好ましい姿としての「コミュニティ」	7
4. コミュニティの形成に向けて	8
5. 本モノグラフの構成	9

1 地域社会に対する関連の稀薄性

産業化の著しい発展によって生じた人口の都市集中、経営体における合理的な組織化の進展、家族形態の変化等により、近年、大都市に生きる人々の生活の様相は急激に変ってきた。居住する地域社会に対しての関連の稀薄性もその一つの表われとみられよう。

まず、時間的に地域社会との接触は少なくなっている。すなわち、人口集中に伴って起った住宅状況の悪化から、居宅に対する不満、それに伴う移転が多く、同一地域における永住者は少なく、*かつ次第に都心から遠隔地に住居を求めなければならないことから、通勤所要時間は長くなってきている。大都市住民の大半（東京では約3分の2）が給与生活者であり、所得を生じる労働の場は居住の場と異なっていることを考え合わせれば、都市住民全般について居住地域との関わりは、時間的接触の面からも弱いものとなっていることは明らかである。

このような物理的問題を踏まえ、さらに地域社会への無関心、隣人への疎遠も考えられよう。すなわち、戦後の急速な技術革新、および巨大な組織体制の圧力は、人々をして熾烈な競争社会へと駆り立て、打算的、自己中心的傾向を助長し、一方、経済成長による国民生活の向上は、豊かな生活への志向を一層強いものとするようになった。これらのことから、給与生活者は、自己の生活向上に関わりの深い職場社会を重視することとなり、趣味や余暇活動さえも職場社会の結びつきの中で充足するようになってきている。このことは、他の社会集団との関係を弱化することとなり、地域社会に対しても無関心を助長することになったと考えられよう。

さらに、戦後、全体主義から個人主義に向かう傾向は、能率主義の管理社会における機能的価値

観の先行と相俟って、人間関係においても、旧来の日本的な所謂“人情”といわれる情緒的な関係を薄弱なものとしており、このことは、地域社会の隣人関係における疎遠とも連なり、近隣に無関心な孤立的な都市住民を生み出しているともみられよう。

2 大都市における地域社会の今日的意義

ところで、この様に都市住民にとって関連の薄いものとなっている地域社会は、他方では、逆説的に重大な今日的意義をもっている。それは、次の5つの視点から考えることができよう。

(1) 居住環境との関連において

まず、産業形態の変化や人口集中は、騒音、日照権などの公害問題を生じさせ、さらに家族環境の変化などによる青少年の問題、流動の激しい社会における人々の孤立化は、諸種の風紀・治安の問題を居住地域にももたらしている。この様な居住地域の問題は、住民の利害の共通性を生み、地域に対しての意識、さらには協力の意欲をもつことが必要となってきている。

(2) 主婦層との関連において

核家族化、子供の数の減少、家事労働の著しい軽減は、主婦に多くの時間的余裕をもたらし、さらに女性の自立に対する自覚からも、主婦の職場進出は著しく多くなっている（全婦人労働者の半数以上は既婚者である）。しかし、都市における女性の中年既婚者の職業は、パートによる就業がその3分の1を占め、これらの人々は、職場を居住地域に近い所に求めている場合が多い。また、職業を専業として従事している人にとっては、児童の保育の問題があり、このことは、単なる施設の充実のみに還元されず、地域における何らかの協力態勢を必要としてきている。

一方、専業主婦にとっては、地域活動への参加や、趣味、スポーツ等の活動を通しての地域との関わりは一層深く、さらに児童をもつ母親にとって、相互の関わりもまた地域と密着したものである。このように、既婚女性にとって最も関わり深い社会集団は、家族に次ぎ、地域社会であると考えられよう。

* 昭和55年の『国勢調査』によれば、東京都における20歳以上の市民で、同一居宅に10年以上居住しているものは42%である。

(3) 高齢者との関連について

急激な高齢化の現状から、この数十年の間に多くの健康な高齢者が増加することは必須である。彼らの多くは、盛年時の職場を去り、居住する地域社会の中で余生を送ることが多く、たとえ就労するとしても、パート就業をすることが多くなり、時間的にも居住地と関連が深くなると考えられる。したがって、近い将来、女性に限らず、男性にとっても、中年以後、最も緊密に変わる社会集団は、地域社会であると予想される。

(4) 障害者など、要介助者との関連において

心身の障害を負っているもの、あるいは寝たきりの老人など日常生活に何らかの介助を必要とする人々も、健全な人々と共に幸福を追求する権利があり、彼らにとって喜ばしい生活は健常者と交わって生きることである、と言われている。このために、従来、避地にあった施設も近年は一般の居住地に建設が進められており、さらにディ・ケアのサービスも含め、居宅における生活を可能とする方向に進んでいる。このことは、一般の住民が、近隣に対する共助の心をもつことによって成就されることであり、近代の個人主義、利益主義に逆らうものであるが、隣人と共に生きる意識こそ人間性の開花であり、近代社会の砂漠化に一つの歯止めをかけるものとなろう。このようにして、地域ケアの発展は、障害者のみならず、健常者一般の向上となるものと考えられ、この意味での地域社会の責務も大なるものとなろう。

(5) 人間性の回復との関連において

都市住民の多くは、日常の職場社会における組織体制からの軋轢、人間疎外の中に生きており、これらから逃れ、憩う場は、多くの場合、家族であろう。その家族は、地域社会の一つの単位であり、家族が閉ざされたものでない限り、居住環境の向上、主婦の交流、学童を通して等々、地域との関連は厚いものといえよう。すなわち、“孤独な群衆”の飢渴を癒す可能性をもつ社会集団としての地域社会を考えていくことが必要であろう。

以上の様に、種々の視点から、今日、地域社会の担う役割が大きいことが認められるのである。

3

地域社会の好ましい姿としての「コミュニティ」

以上に概観したごとく、現代の大都市住民にとって地域社会との関連は稀薄であり、他方で、地域社会の重要性は住民に日々迫るものとなってきている。そこで、都市住民が望み、かつ、満足できるような地域社会を築いていくことが必要となってくる。そのような地域社会を「コミュニティ」として把握しよう。

「コミュニティ」という概念は、MacIver (1917) がそれを導入して以来、多くの社会学者が種々に展開している。しかし地域性、共通性、共属感情をもつ集団であるということは、殆どの学者の間で共通に理解されていることと言えよう。

日本において、コミュニティという語が、地方行政の中でも頻りに用いられるようになったのは、昭和44年、国民生活審議会調査部会のコミュニティ問題小委員会が、『コミュニティ——生活の場における人間性の回復——』という報告を発表して以来のことである。この中で定義づけられているコミュニティは次の様なものである。すなわち、人間疎外の増す産業社会において、人間性の回復の場に対する欲求は大きなものとなり、それは個人と家庭のみでは受けとめ切れない。そうしたことを踏まえて、「生活の場において、市民としての自主性と責任を自覚した個人および家庭を構成主体として、地域性と各種の共通目標をもった開放的で、しかも構成員相互に信頼感のある集団を、われわれは、コミュニティと呼ぶ」と。

私たちは、コミュニティを或る種の枠組で定義づける静的な把握ではなく、より動的な操作的な意味で考えようとしている。すなわち、住民が居住上の共通問題に対して、多少なりとも関心を持ち、住民全体にとっての居住地域の快適化という目標に向って、極めてゆるい意味——同一居住地域住民という意識をもつということ——での相互の関連をもった一定範囲（小学校区程度）の地域社会をコミュニティと考える。そのようなコミュ

ニティは、時代により地域により異なる。さらには、社会的成層その他の差異からくる構成員たる住民の資質の差異、これに伴う希求によって異なった形となるものであろう。それは決して、画一化を目ざすものではなく、構成員に強要を加えるものではない。外面的な組織化を狙うものではなく、むしろ構成員の共通理解と自由意志による居住地域に対する意識を基盤としたものである。

つまり、一定範囲の地域を居住地域として意識し、そこにおいて環境、社会資源等の共通問題を共に考え、人間関係についても相互に気持のよい関係を結び合っていくような地域社会である。

4

コミュニティの形成に向けて

ところで、この様なコミュニティは、現代の日本においては形成していかなければならない。

コミュニティは、そもそも MacIver の概念からすれば、自然発生の基礎的集団と考えられていた。現に欧米におけるコミュニティ問題は、既に存在している地域社会のコミュニティにおける問題解決や、種々の機関の機能の調整に関することなどである。しかし、現代の日本におけるコミュニティの問題は、その存在の必要性とともに、これをいかに形成していくかにある。

日本の現代社会においては、旧来の国家を中心とした「タテ」の関係に繋がれた全体主義が打破され、これを支える道徳思想も消え失せ、これに代って民主主義が植えつけられ、市民性や公共性が社会生活の規範となってきた。しかし、民主主義は未だ十分に根づかず、市民性は自己中心の自由謳歌を制御するに至っていない。さらに、欧米においては、伝統的なキリスト教思想が他者への友愛の心を支えているが、日本においては、旧来のいわゆる「情宣」が社会構造の変化と共に飛散した現在、その無宗教性により、「ヨコ」に手をつなぐ何らの基盤理念ももち合わせない。

この様な状況から、日本の、とくに大都市——そこでは個人主義が助長されている——の地域社会において、市民的な連帯感に基づく住民同志の

関係が自然に生じることはあり得ず、むしろこの様な連帯感の生じ難い精神的土壌の中で、前述の様なコミュニティを意識的に形成してゆかなければならない。

そこで、「いかに形成していくか」が問題となってくる。コミュニティの形成は、本来、構成員たる住民の自主性と責任の自覚の上に立った意欲によって築き上げられていくものであろう。しかし現実には、地域社会の重要な意義を認めながらも、それが当面の身近な問題でない限り、一般住民の実際的な意思行動とは結びつかない場合が多い。そこで、たとえば行政側が、コミュニティ・センターの建設などによって住民主体のコミュニティ形成の促進を助成することも必要となろう。しかし、主体はあくまで住民であり、特定の理念に基いた一部のリーダーや、行政主体からの一方的働きかけで成されるべきものではない。

私たちは、このような「コミュニティ形成」の基盤を、行動科学の立場から考察していくことを目指している。

すなわち、次のようなステップを経ながら「コミュニティ形成に向けてのシステム・モデル」を設計していこうとするのである。

第1ステップは、地域のエコロジカルな状況および住民の社会的成層を踏まえた意識構造などの適確な把握である。これは、地域の諸種の資料の詳細な分析と、住民の意識をサンプリングによる面接調査により調べ、統計的方法により精密に分析することによって得られる。このためには、社会心理学、地理学、統計学など諸種の学問分野から検討を加えていく学際的な探究が必要とされる。

第2ステップは、コミュニティ形成の即自的直接的目標の設定である。これは、第1のステップを通して得られてくるコミュニティ形成に対する住民の意識や行動の潜在的構造、形成を推進する方向や可能性の限界についての知識を基礎として、そのうえで地域住民の中の既成活動グループのリーダーや行政側の人々と詳細な面接をおこない、それらの情報を総合して実行可能な目標を定めていく段階である。

第3ステップは、インタベンションの導入である。すなわち、目標に向かって行動を促進する何らかの働きかけを住民に対して実際におこなっていく。

第4ステップは、その効果の測定である。すなわち、目標に向かっての働きかけによって、どの様な動き

があったか、それが住民の意識構造にどういふ影響を及ぼしたかなどについて、再び統計的な調査を行い、これについて詳細に分析を加える。同時に地域の状況の諸種の変化をも併せ分析する。

この様な段階をくり返しおこなっていくことによって次第に住民に適合したコミュニティが形成されていくものと考えられる。すなわち、私たちの目的は、コミュニティの主体であり客体である地域や住民の動的な状況について、いかにして、科学的に適確な、そして役に立つ情報を得るか、それをいかにして役立てながらコミュニティ形成を促進していくことができるかを考究することにある。

このような「コミュニティ形成に向けてのシステム・モデル」を樹立していく試みとして、私たちは、東京首都圏のうち、まず武蔵野と三鷹の2地域をフィールドとして探索的な研究に着手した。

武蔵野と三鷹を研究のフィールドとして選定した理由は概略つぎのようである。

武蔵野市は、昭和46年以来、行政側がコミュニティ形成に関して熱心なとりくみをしており、東京都の中ではコミュニティのモデル地域として認められている市である。しかも、昭和51年に、私たちは今回と類似の調査を女性有権者を対象として実施している（サンプル600人、回収426人）。そしてこの調査以後5年間に、行政側は、コミュニティ・センターの建設、給食ボランティアの活動など積極的にコミュニティ形成の計画を進めている。そこで、それが住民にどのような変化をもたらしたかを調べることは、丁度、前述した「コミュニティ形成に向けてのシステム・モデル」づくりの「第3ステップ」とも見なすこともでき（私たちはインタベンションを導入してはいないが、市行政側がコミュニティ形成行動をなしたので、それを働きかけとみなして）、5年間の市側の対策の効果を測ることも意義深いと考えたからである。武蔵野市においては、昭和45年と53年にも私たち以外のグループによって、地域住民の意識調査がおこなわれており、これも一つのよい対比資料と考えられた。

三鷹市は、武蔵野市に隣接しており、人口、その流動状況、住民の職業、社会的成層、文化的水準等にお

いて武蔵野市と類似しており、両市の歴史的経緯の中にも、合併の意見が双方から時期を異にして出されたこともみられ、この2市は首都圏の市・区の中では、相似と考えられよう。しかも三鷹市においては、最初のコミュニティ・センターの設置が昭和49年であり、武蔵野より2年早くなされている。しかし、その後のコミュニティ形成についての行政側の働きかけは、武蔵野市とは異なっている。つまり、この両市は、地域状況に関して極めて類似であり、しかもコミュニティ形成について（行政側からの）働きかけが異なっている。そこで、両市の比較は、極めて興味深く、今後の働きかけに大きな示唆を得るものと考えられた。

さらには、この2市は首都圏生活者の“ベッド・タウン”であり、特に三鷹市は、給与生活者の比率（65%）が、東京全体の比率（67%）と極めて類似している。つまり、首都圏の代表的地域のひとつとも考えられ、大都市生活者の全般的な姿を探る上でも、この2市の調査は意義あるものと考えられた。

5

本モノグラフの構成

本モノグラフは、武蔵野および三鷹の2地域をフィールドとした「コミュニティ形成に向けてのシステム・モデル」を探索する研究の「第1ステップ」にかかわる結果の報告である。

私たちは、昭和56年度から昭和57年度にかけて、武蔵野および三鷹2地域の、①地理的な諸種の状況に関して、既存資料の詳細な分析を試み、②それを踏まえて、地域住民の意識調査を実施した。

前者、すなわち①の「地域状況」については、本モノグラフの第2章に詳述される。後者、すなわち②の「地域住民の意識調査」については、本モノグラフの第3章から第13章にわたって、その概要と調査結果が報告される。そして、本モノグラフの終章（第14章）において、①と②の両分析を踏まえた総合的な考察をおこない、第1ステップの研究の結実を示すこととする。

2

調査地域の概況

1. 武蔵野市，三鷹市の位置	12
2. 武蔵野市，三鷹市の自然条件と開拓	12
3. 大都市東京の発展と武蔵野市，三鷹市	12
4. 武蔵野市と三鷹市のプロフィール	14
(1) 人口，世帯の特性	14
(2) 居住の特性	15
(3) 学歴・職業の特性	15
(4) 産業の特性	15
(5) 市の財政と市民の所得	17
(6) 土地利用	17
5. 長期計画の中にみる市行政の対応	17
(1) 武蔵野市	17
(2) 三鷹市	19
6. 町内会など既存の自治組織の現状	21

1

武蔵野市、三鷹市の位置

武蔵野・三鷹の両市は共に東京の都心から西へほぼ18km区部に隣接し、東京の市街地の真中を貫いて走る国鉄中央線の沿線に位置している。

中央線をはさんで北に武蔵野市、南に三鷹市があり、東から吉祥寺、三鷹、武蔵境の各駅がある（ただし、吉祥寺と武蔵境の2駅は武蔵野市側に入っている）。東京駅から快速電車で約32分で、副都心新宿からであれば18分で吉祥寺駅に着く。また、渋谷からは私鉄井ノ頭線が吉祥寺まで通っており、吉祥寺は従って乗り換え駅でもある。ちなみに吉祥寺駅の1日の乗車人員は、中央線で36,267人、井ノ頭線で26,530人となっており、（昭和55年国鉄、私鉄調べ）、新宿以西では中野駅をしのぎ最大である（図2-1を参照）。

両市は、江戸時代からの幹線、五街道のひとつである甲州街道と主要地方道である青梅街道にはさまれた地域にあり、道路交通からのインパクトは小さい。両市に関わる主要な道路としては、両市の西部を南北に横切り調布と田無を結ぶ大山街道、武蔵野市の北部を東西に横切り立川を経て奥多摩に向う五日市街道などである（図2-4を参照）。

2

武蔵野市、三鷹市の自然条件と開拓

武蔵野・三鷹の両市は、蔵武野と呼ばれる全体として起伏の少ない洪積台地にあって、水が少なく、集落の発達には不利な土地柄であった。

武蔵野といえば水に恵まれない土地として知られ、とくに台地の中央部では地下水が深く水が得られないため開拓が困難であった。そうした中で、わずかに丘陵のふもとや台地の末端、段丘崖などには湧水があり、それによって自然発生的に集落ができ、その周辺部は早くから居住地化したことが知られている。井ノ頭池は、三宝寺池、善福寺池などと共に、台地の東部に分布する侵食谷

の湧泉であり、いずれも標高50～60mのところ、ほぼ南北の一線上に分布しており、近くから先史時代の居住跡などが発掘されている。また三鷹市の大沢や牟礼は、調布市の深大寺、小金井市の小金井や貫井などと共に、多摩川の支流野川に沿った段丘崖下の湧水帯にあり、古い集落の存在が認められる。

しかし武蔵野の高燥な深井地域の台地面は、近世にいたるまで広範囲にわたって原野または森林のままであって、開拓され居住地化が大規模に進められたのは、江戸時代に入ってからである。とくに玉川上水が開通（1653年）した江戸中期以降において顕著であった。

武蔵野市も三鷹市も17世紀の中頃に開拓が本格化し、武蔵野市は江戸駒込の吉祥寺の移転を伴ない、また三鷹市は江戸大火による神田連雀町住民の移住等によって開墾が大規模に進められた。当時の新田開発を中心とする耕地拡張は江戸の人口増加とそれに伴う食糧問題の解決策の一つであったが、こうした事実は、同時に農業技術、土木技術の発達がいかに大きかったかをも物語っている。

明治21年4月に市制町村制が公布され、武蔵野村、三鷹村が誕生するが、当時、北、南、西の三多摩地域は神奈川県に属したため、それぞれの村人たちは神奈川県民として新時代を迎えた。明治26年、さまざまないきさつの後に三多摩地域は東京都（東京府）に編入され、大都市東京の一員となり今日に至っている。

3

大都市東京の発展と武蔵野市、三鷹市

明治以後、武蔵野台地の村は、東京の近郊農村として発達し、東京の拡大発展と鉄道の敷設が、武蔵野の都市化を一段と推進するに至った。

明治22年、中央線の前身となった甲武鉄道が開通、誘致合戦の末、新宿を出ると中野の次に停車する駅として境駅が決定、武蔵野村は同駅周辺から近代的発展がはじまった。明治24年には荻窪駅が、同32年には吉祥寺駅が開設され、武蔵野村は

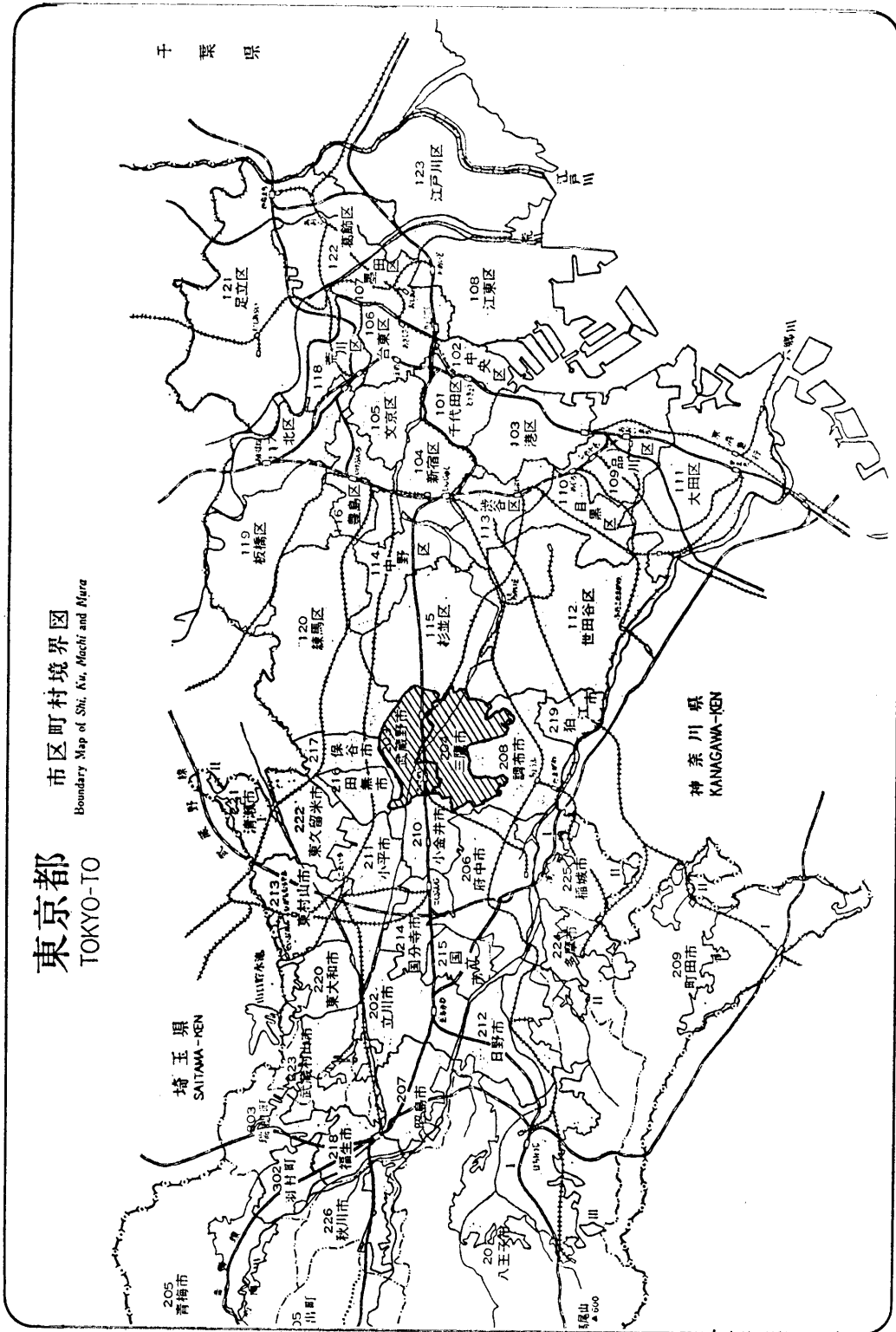


図 2-1
武蔵野市、三鷹市の位置

2つの駅を抱え込み着々と近代化の基盤をかためていった。他方、三鷹は昭和5年まで駅の開設をみなかった。

東京の市街地は山手・下町と二つの地形に分かれるが、山手に住宅地が発達し、それが連続して武蔵野台地の農村部へ延びていった。明治から大正初期にかけて、武蔵野村と三鷹村、2つの村の発展にさほど大きな違いはみられなかった。

大正12年の関東大震災の後、震災で家や土地を失った人々など、郊外に住居を移す人が増え、この頃から武蔵野台地の都市化が本格化する。その最前線にあり、かつ、地元の意志統一も早かった吉祥寺がまず住宅地帯となった。

大正14年に山手線の環状運転が開始され、各私鉄線が山手線に乗り入れ、環状線ターミナル時代がはじまり、郊外から都心方面へ電車で通勤するという人々が急増した。住宅地化の進度は各沿線ごとに異なるが、中央線沿線がもっとも早く、とくに開発の進んだ武蔵野村は、昭和3年にいち早く町に昇格した。

昭和6年の満州事変を契機に、戦時色が強まるにつれ大都市近郊に重工業が建設されるようになり、三鷹村にも工場が急増し、それに伴って人口も増加、昭和15年、武蔵野町に12年遅れて三鷹も町制施行に至った。この年、立川が市制を、福生、氷川、保谷、国分寺、瑞穂が町制を施行し、多摩地方は2市18町をもつことになり、大都東京の発展が次第に広範囲に及んできてきたことがうかがえる。

第2次大戦によって東京の人口は350万人にまで減少したが、昭和25年には630万人、35年には970万人、そして40年には約1,100万人に達し、現在では区部の人口は減少しているものの、東京全体では約1,160万人という膨大な人口をかかえている。

人口の外延的拡大に伴い、戦前まで続いた職住分離の傾向は戦後ますますその傾向が強まり、まず「外山の手」地区はほぼ住宅で埋めつくされ、さらに地価の安い周辺部の住宅地化が急速に進展した。そうした中で武蔵野町は戦後間もない昭和22年に、三鷹町は同25年に市制施行となり以後しばらくの間両市の人口は急カーブで上昇する。武

蔵野市は40年代の後半に14万人余でピークを迎え、50年代に入ると停滞ないしは減少傾向に向い、さらに三鷹市が4～5年おくれて50年代前半ごろ16万7千人余をピークとして同様な動きを示すようになる。この頃から、さらに地価の安いところを求めて公営、市営の団地が都心からきわめて遠い場所に飛び地的に建設され、職と住の分離がなお一層助長されることとなった。

商業地における戦後の発展は、それ以前にすでに萌芽をみせていた都心、副都心、近郊等の商業地の階層の明確化と住宅地間における商店街網の成立、さらに外郭に副々都心的性格を帯びた商業地の成立をみたことにある。吉祥寺の商業的発展は、まさに近郊都市にあって副々都心的性格の代表的な例といえよう。

4 武蔵野市と三鷹市のプロフィール

(1) 人口、世帯の特性

昭和55年の『国勢調査』によれば、武蔵野は136,910人、三鷹164,526人となっており、三鷹が3万程度上まわっているが、人口密度では武蔵野は12,412.5人/Km²で、三鷹の9,775.8人/Km²より約2,600人も多い。

人口の年齢別構成についてみると、幼少年人口(0～14歳)の割合は三鷹の方が高く、高齢人口(65歳以上)は武蔵野がかなり高くなっている。しかし、三鷹の幼少人口指数が低下の傾向にあり、また65歳以上の人口の伸びが急ピッチであることなどから、三鷹においても人口高齢化は急速に進展することが予想される。

世帯数では、武蔵野56,317世帯、三鷹が64,554世帯であり、両市の1世帯当り平均人口は、武蔵野2.42人、三鷹2.51人となっており、武蔵野の方が小規模である。

つぎに世帯を経済的構成から見ると、三鷹においては64.5%がサラリーマン世帯であり、武蔵野よりも12.4%も高い。ちなみに、東京都平均は66.5%と、両市よりもさらに高い比率である。ま

た三鷹には農家世帯も175世帯あり、比率こそ0.3%とあまり高くないが、これは武蔵野(58世帯)の約3倍である。

世帯の類型別には、核家族が武蔵野51.0%、三鷹53.6%となっており、これは東京都の平均56.2%よりもかなり低い。

また65歳以上の親族のいる世帯は、武蔵野で15.6%で、約6世帯に1世帯の割合であるのに対し、三鷹では13.6%と低い(東京都平均は15.8%)。

単身世帯の割合はかなり高く、武蔵野で39.5%、三鷹では37.6%であり、東京都の平均33.0%はもとより、23区平均35.8%にくらべても高い。

さらに単身世帯であって65歳以上という世帯は、武蔵野に1,375、三鷹に1,242となっており、武蔵野は三鷹よりも130世帯も多く、40世帯に1世帯の割合で65歳以上の単身世帯があることになる(三鷹は52.6世帯に1世帯の割合)。

つぎに、両市の人の動きを昼夜間人口からみると、武蔵野は40年ごろから急カーブで上昇し、55年に103.6%と昼間人口が夜間人口を上まわり、活発な街の動きが感じられる。他方、三鷹は40年以降81~82の間であって、大きな変化はなく、サラリーマン世帯で核家族といった近郊住宅地の特徴そのままのような静かなまちといえよう。

昭和55年の昼間人口の中でとくに流入人口についてその中味をしてみると、武蔵野においては通学者の比率が38%をこえており、40年の46.5%をピークにその比率は下がる傾向にあるものの、三鷹にくらべるとかなり高く、夜間人口の高齢化傾向と対比的に、昼間は若人のまちであることがわかる。

(2) 居住の特性

住民の入居時期についてみると、昭和30年代に最初の転入の山があり、第2の山は昭和50年代前半の大きな山であり、両市の傾向はほとんど同じである。しかし、その山のピークと谷の深さ、すなわち振幅は、武蔵野の方がわずかに大きい(図2-2を参照)。

つぎに、住宅の状況についてみると、持家世帯の割合は武蔵野、三鷹ともに35.6%の同比率であ

るが、一戸建の割合は三鷹の方が高い。

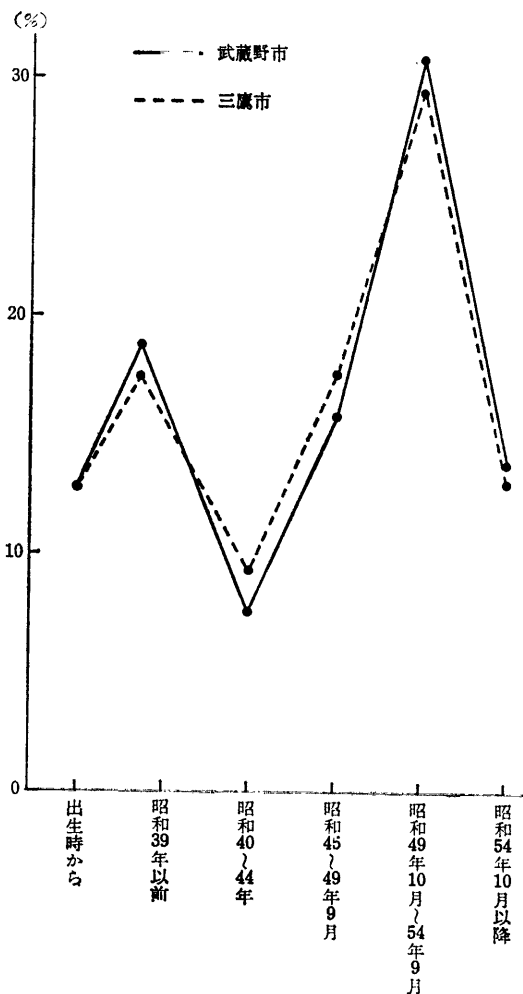


図2-2 入居時期

(3) 学歴・職業の特性

最終卒業校で最も多いのは、両市とも「高校・旧中学卒」であり、第2位は「大学・大学院」となっている。順位は同じであるが、それらの比率をみると「高校・旧中学卒」については三鷹(38.6%)の方がわずかに高く、「大学・大学院」では武蔵野(23.7%)が約4%上まわっている。3位は武蔵野では「短大・高専」(11.4%)であるのに対し、三鷹は「小学校・中学・高小」(15.4%)となっている。武蔵野では「小学校・中学・高小」は11.1%にすぎない。

いま最も比率の高い「高校・旧中学卒」を平均的な教育とみなし、それより高い「短大・高専」及び「大学・大学院」の割合をみると、武蔵野は35.1%、三鷹では29.8%となり武蔵野に高学歴化傾向が認められる。

両市の職種の傾向をみると、最も多いのは労務職であるが、その比率は三鷹の方が高く29.1%となっている。第2位は武蔵野では事務・技術職、三鷹では家事従事・内職者となっており、第3位は武蔵野は家事従事・内職者、三鷹では事務・技術職となり、武蔵野と三鷹では2位と3位が入れかわっている。

武蔵野が三鷹より高い比率を示している職種は事務・技術職(22.5%)、自由業・団体役員・管理職(8.0%)、それに学生・生徒(14.7%)であり、逆に三鷹の方が高くなっているのは、労務職(29.1%)、家事従事・内職者、農林漁業者・雇用者であり、未就業者も多い。

どちらかといえば、武蔵野は比較的高学歴で職業も事務・技術職に加え専門的な分野ないしは管理的職種の傾向が強い。

(4) 産業の特性

① 就業構造

両市の就業者の比率を産業3分類でみると、三鷹市は東京都の平均とほぼ同じ傾向を示しているが、武蔵野は第3次産業の比率がとくに高くなっている。これをもう少し詳しく産業大分類別にみると、両市とも上位3位にランクされる業種は、1位サービス業、2位卸小売業、3位製造業となっているが、武蔵野においてはサービス業の比率がとくに高く、次に卸小売業で、この2つを合わせると55.5%に達する。三鷹はサービス業、卸小売業ともに武蔵野より低く、合わせても51.4%にとどまる。製造業は、三鷹が21.7%と武蔵野の17.4%にくらべるとかなり高い。また金融・保険業、不動産業も武蔵野の方が高い比率を示しており、総じて武蔵野は第3次産業の色あいが濃く、三鷹はどちらかといえば第2次産業の色彩が強い。

また、三鷹には800人弱の農業就業者がいるこ

とも特色のひとつといえよう。

② 事業所・従業者

両市の産業の特性を事業所・従業者の傾向からみる。これは、いわば両市の外向きの顔ともいえ、街の状況を映している。事業所数・従業者数ともに武蔵野の方が多く全体としてまちのにぎわいが感じられるが、この内容を業種、規模などについてみると次のようになる。

事業所数については、武蔵野はとくに卸小売業が51.1%と圧倒的に高く、次いでサービス業22.8%となっており、この2業種で73.9%を占めている。不動産業も12.3%と比較的高く、製造業、建設業はともに4~5%と少ない。三鷹も卸小売業、サービス業の比率が高いが、武蔵野にくらべると卸小売業はかなり低く43.0%であるが、サービス業の方は25.5%と武蔵野よりも高い。また製造業の10.8%、建設業の7.7%も武蔵野よりも高く、第2次産業に強いことがわかる。

つぎに事業所の規模については、1~4人が圧倒的に多く武蔵野66.1%、三鷹72.4%となっており、次の5~9人の規模までのところと合わせると武蔵野で86.2%、三鷹で88.1%と、約9割が10人未満の規模である。10~19人規模は武蔵野で7.9%、三鷹で6.1%あり、20人未満の合計では武蔵野、三鷹ともに約94%と同率を示しているが、全体として武蔵野の方が三鷹より規模が大きい事業所が多い。

従業者数については、三鷹で製造業32.5%が卸小売をしのいで高く注目に値する。武蔵野は事業所とはほぼ同様の傾向を示していて、卸小売業、サービス業の順に高く、合わせて61.1%に達する。

③ 農業について

農業は23区に隣接する地域ではとくに激減しており、武蔵野、三鷹も例外ではない。

昭和55年の農家数は武蔵野135戸、三鷹463戸、そのうち専業農家が前者6戸、後者9戸ある。農家人口としては、武蔵野が668人、三鷹2,429人、何らかの形で農業に従事している人口は武蔵野353人、三鷹で1,203人おり、減少したとはいえ三鷹の1,200余人は無視できない存在といえよう。

都市化の大きな波を武蔵野とほとんど同じように受けながらも、三鷹において土地と密着した人々がこれだけ存続しているということに注目したい。

④ 工業について

工業の主な特徴は、工場数で見ると武蔵野 244 に対し三鷹はその 2 倍近い 466 となっており、工業出荷額等については、三鷹は武蔵野の 3 倍以上にのぼる。三鷹の工業は機械器具が主力業種 (60.7%) であり、中でも電気機器が最も多く 27.8%、次いで一般機器、精密機器が続ぎ、4 位の金属製品も含めていわゆる高次加工型工業が 72.1% を占めている。

武蔵野では、電気機器が最も多く 23.8% であるが、2 位以下に食料品、出版・印刷、一般機器、家具・装備品が 13~8% の間にある。食料品、出版・印刷、家具・装備品等は都市需要充足型工業といわれるものである。

⑤ 商業について

卸売業では、商店数、年間販売額ともに三鷹が多く、とくに販売額は武蔵野の 2 倍近くに達している。

小売業については、商店数、年間販売額ともに武蔵野が多く、とくに販売額では三鷹の約 3 倍である。中でも大規模小売店は圧倒的に武蔵野に多く 200 店を数えるのに対し三鷹は 33 店にとどまっている。これら大規模店の開設時期についてみると、武蔵野では昭和 40 年代の前半に 125 店が集中的に開設しており、都市化の波に乗って立地したことがわかる。三鷹では 30 年代に出店が多くなっているが、以後また出店数は減少し、大きな動きはみられない。

また飲食店数についても、武蔵野は三鷹の 2 倍にのぼっている。卸売業では三鷹に一步ゆずるものの武蔵野における商業力が主として昭和 40 年代前半に、かなりの勢いをもって形成され、根づいてきたことがわかる。

こうした商業活動を背景として、金融機関の店舗数も武蔵野では 30 をかぞえ、三鷹の 2 倍であり、預金額、貸出額も同様の傾向を示している。

(5) 市の財政と市民の所得

両市の歳出額は、1 人当りでみると武蔵野が約 16.5 万円に対し、三鷹は約 14 万円と武蔵野の方が約 2.5 万円多くなっており、市民に対する行政の手厚い対応が感じられる。他方、財政を支える税収入の面をみると、総歳出額が低い武蔵野の方が多く、武蔵野市財政の自立性の高さがうかがえる。また 1 人当り市民税額は、武蔵野 59,630 円、三鷹が 45,981 円となり、これは同時に武蔵市民の所得の高さをも示しているといえよう。

ちなみに、『1978 年民力』によれば、総合民力指数、1 人当り民力水準、生活近代化水準、情報化水準、教育化水準のいずれについても武蔵野は三鷹を上まわっており、とくに教育化水準の格差が大きい。

これらの水準について 23 区の数値と比較してみると、総合指数および 1 人当り民力水準では 23 区にかなわないものの、生活近代化水準、教育化水準では両市とも 23 区をこえており、生活内容の充実している様子がうかがえる。また武蔵野においては情報化水準でも 23 区を上まわっており、多様化の時代に対応しうる地域であることがうかがえる。

(6) 土地利用

以上のような人間活動を反映する土地利用の様子を、地目別土地面積によってみる。

武蔵野の都市化の早さがくっきりとあらわれており、30 年代前半にすでに 75% 以上が宅地化している。他方、三鷹は 50 年になってようやく宅地率が 60% をこえた。

さらに武蔵野の商業地区、三鷹の工業地区の大きさが、30 年代の後半にはほぼ決まり、その後の両市の性格を特徴づけている。

5 長期計画の中にみる市行政の対応

(1) 武蔵野市

武蔵野市は、前長期計画 (昭和 45~55 年度) の

成果をうけて新長期計画（昭和55～65年度）を策定し、その基本目標を「平和・自治・文化の武蔵野、新しい市民のふるさとづくり」としている。

この「市民のふるさとづくり」は、市行政だけが取り組む課題ではない、という観点を重視し、次の7つの基本原則を定めている。

- ① 市民自治の原則
- ② 計画的市政運営の原則
- ③ 地域環境保全の原則
- ④ 市民福祉向上の原則
- ⑤ 市民文化創造の原則
- ⑥ 広域協力の原則
- ⑦ 自治権拡充の原則

これらの原則のうち、第1の市民自治の原則こそ本市の根本原則であって、計画の策定と実現はつねに、市民参加をいっそう発展させ、情報の公開と交流を進め、市民運動、コミュニティ活動を活発にしていくようなものでなければならぬと宣言している。

すなわち市民自治とは、市民参加をつつみ込んだもっと広い理念であって、武蔵野市民が日常生活のあらゆる時と場所で実践する新しい「市民のふるさとづくり」のすべてを意味し、「市民参加の計画」から「市民自治の計画」へと脱皮することを目指している。

以上のような原則に立ち、次の6つの方針を計画の前提としている。

- ① 15万人のまち・個性豊かな3つの圏域を形成しよう。
- ② 広域協力と機能分担を見直そう。
- ③ 用地を確保し土地利用を適正なものにしよう
- ④ コミュニティ・センターづくりからコミュニティづくりに進もう。
- ⑤ 情報の公開と市民参加の発展をはかろう。
- ⑥ 活力ある柔軟な行政を築こう。

これら6つの方針は、すべての個別事業計画を決定し実施するときの指針となるものである。

さらに、市民生活の実現する施策の体系としては、市民の権利としてのシビルミニマムの向上をめざし、「地域環境保全の原則」に対応した環境計画、「市民文化創造の原則」に対応した文教計画、「市民福祉向上の原則」に対応した福祉計画の3部門計画を確立する。そして、いずれの部門計画においても「ものづくり」から「しくみづく

り」に力点を移していくことを明示している。

そしてこの新長期計画は、次のような5つの優先事業と3つの検討課題から成る重点施策によってその特徴が明確になる。

● 5つの優先事業

- ① 市民防災計画の策定
防災担当部門を強化し、大震災害を想定した防災計画を早急に策定する。
- ② 廃棄物処理システムの整備
焼却施設、不燃ごみ処理施設および粗大ごみ破碎施設を包含した総合ごみ処理センターとしてのクリーンセンターを市内に建設する。また、ごみの収集輸送態勢を効率化し、清掃行政部門の企画管理態勢を強化する。
- ③ 中央文化ゾーンの創造
旧市庁舎跡地から武蔵野図書館にいたる一画に、市民ホール(市民文化会館)、郷土資料館、総合教育センターなどの市立の文化諸施設を整備する。
- ④ 市民施設の新ネットワークの形成
市民施設は、コミュニティレベル、3圏域レベル、全市レベルの三層構造別に分けて再編整備する。コミュニティレベルに配置のものは学校、保育園、コミュニティセンター、児童公園・児童遊園とし、3圏域レベルに配置のものは市民会館、図書館分館、体育館、運動公園とする。
- ⑤ 武蔵境駅周辺再開発の推進
個性豊かな3つの圏域の形成をめざして、地元関係者との協議を精力的に進め、ミニ吉祥寺とは異なるこの圏域独自の全体的な整備構想を確立する。とくに武蔵境駅北口再開発計画の決定は国鉄中央線の高架複々線化計画に先行して行う。

● 3つの検討課題

- ① 行政の文化化、市民文化の創造
生活水準の向上に伴い、市民の文化的欲求はたかまり、多様化し個性化していく。市政は市民と共に伝統文化の創造について検討していく。
- ② 市民の健康管理と市民スポーツの振興
市民の健康管理と体力づくりのための施策は武蔵野市政のなかで相対的におくられていたので、健康センター構想を早急に具体化し、市民のライフサイクルを通じた体系的な健康管理計画を整えていくとともに、市民スポーツを真の「コミュニティスポーツ」にしていく方策を検討する。
- ③ 高齢化社会への対応
日本は高齢化社会への道を進んでおり、その速度は世界にも比類をみないほど急速なものである。武蔵野市の高齢者人口比率は全国平均に比べればまだ低いけれども、近隣諸市に比べれば格段にたかくなっているので、長期的な対応方策を確立していく。

武蔵野はいま、市民自治の精神にのっとり、広域的に開かれたまちの形成と地域住民の基本的な要求に応え得る住み良いまちの形成という、一見相矛盾する2つのテーマに取り組んでおり、諸施策の実施にあたって、コミュニティを武蔵野市の“市民生活の基礎単位”として位置づけ、市民の創意と工夫によるまちづくりを実現していこうとしている。したがって、市民の活動のしくみが今後どのようにつくりあげられていくのか、コミュニティがどのように仕組みられ、力をたくわえ増殖作用を行っていくのか、コミュニティの動向がまさに諸計画実現の鍵をにぎっているといえる。

武蔵野市におけるコミュニティ地区と、コミュニティ・センターの位置および設立時期が図 2-4 に示される。

(2) 三鷹市

三鷹市は、昭和50年に議決された基本構想における基本理念「人間の生命の尊重」と「生存の平等の享有」、および都市づくりの基本理念「自然と人間との調和」、これらの理念にもとづいて、昭和53年策定の基本計画では、基本構想に掲げる都市像「人間のあすへのまち」を実現するための具体的目標として、「ふれあいをもつ生活都市——新しいコミュニティの創造を求めて」を基本目標としている。その都市構造は、

- ① 安全と快適の高環境都市
- ② 希望としあわせの高福祉都市
- ③ 創造と向上の教育文化都市
- ④ 自治と参加の市民自治都市

の4つの到達目標が総合的に達成された理想的な都市構造であるとしている。

基本計画策定にあたっての基本原則としては、次の6つをあげている。

- ① 民主性の原則
- ② 都市主体性の原則—都市自治の原則
- ③ 創造性の原則
- ④ 実践性の原則
- ⑤ 地域性の原則
- ⑥ 総合性の原則

さらに、計画の基底となっている、都市のあり方、市民の地位、市政の方向については、次のような視点を重視する。

① 都市のあり方

主体である市民の生存の舞台である都市は、安全、快適、利便、健康などの諸条件が具備されていなければならない。その都市づくりに当っては、《市民》と《市民生活》に原点を求め、それを基点として生活の主体である市民相互の「ふれあい」により実現されるべきものである。そのふれあいの中から、お互いに幸福に生活できる高環境、高福祉の都市がつくりあげられるのであり、このような都市は、市民生活の基点である地域（コミュニティ）を中心に形成される。

② 市民の地位

市民は、都市づくりの主体であり、市政の主権者である。

市民が、自己の生存の目的を実現し、また市民による都市づくりを主体的に行うためには、市政の主権者として憲法、法律によって認められた権利のほか次の権利を有することが確認されなければならない。

- ・ 市政の実情を知る権利
- ・ 市政に参加する権利
- ・ 良好な環境のなかで生活する権利

そして、これらの権利が形成され、また真に市民自身のものとなるためには、常に市政に積極的な関心をはらい、参加して、自覚ある行動と責任、役割分担の実行が望まれるほか、地方自治を侵害する行為などに対しては行政と一体になって行動することが期待される。

とくに、婦人の地位については、憲法に定める男女平等の原則、国際連合の「婦人に対する差別撤廃宣言」に基づく婦人行動計画等をふまえて、地位の向上を進める必要がある。

③ 市政のあり方

市政は常に「市民の、市民による、市民のための市政」でなければならない。市民の信託を受けて行う行政も、常にこの基本原則に則して行なわなければならない。

以上のような考え方にもとづき、基本計画の目標実現のために、図 2-3 に示したような基本戦略

と基本施策を設定している。

この基本計画の目標実現のための施策の実施にあたっては、基本構想の優先順位の考え方、すなわち、生命、安全性の確保、投資効果の平等、合理的な投資、既存投資の蓄積の有効利用などの原則に立って、市民参加のもとに優先順位が選定され、次のように重点目標と重点建設事業が設定されている。

● 5大重点目標

- ① 「ふれあい」ーコミュニティの醸成
- ② 安全、快適な生活環境の整備
- ③ 希望としあわせの福祉推進
- ④ 人間性をはぐくむ教育文化の創造
- ⑤ 自治と参加の推進

● 15大建設事業

- ① コミュニティ・センター建設事業

- ② 地区市民館(地区公会堂)建設整備事業
- ③ 消費者活動センター建設事業
- ④ 三鷹駅前地区再開発事業
- ⑤ 公園と道路建設事業
- ⑥ ごみ焼却施設整備事業
- ⑦ 心身障害者(児)ケア・センター建設事業
- ⑧ 老人ケア・センター建設事業
- ⑨ 健康管理センター建設事業
- ⑩ 小・中学校の建設事業
- ⑪ 校外学習施設建設事業
- ⑫ 教育センター建設事業
- ⑬ 芸術文化センター建設事業
- ⑭ 図書館網(本館,分館等)整備事業
- ⑮ 三鷹の森総合運動公園建設事業

三鷹においては、「ふれあいのある生活都市」を都市の理想像とし、市民の連帯と相互理解、愛といつくしみ、すなわち市民相互の交流と練磨、能

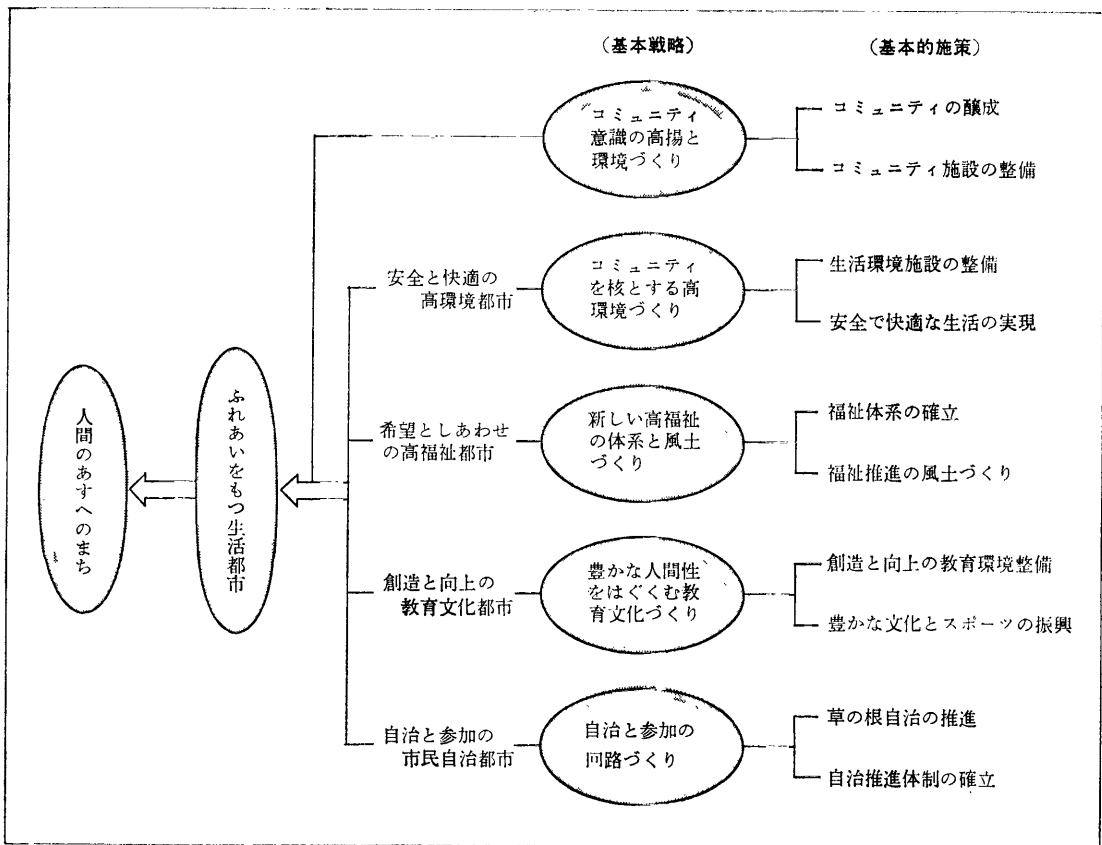


図 2-3 目標実現のための基本戦略と基本施策 (三鷹市)

力の交換がスムーズに行われる都市、かつ「生活をつくる」、「生活をはぐくむ」、「生活をやすらぐ」、「生活をまもる」ことが実現される都市をめざしており、それは、新しいコミュニティの形成によって達成されると考えている。したがって、新しいコミュニティをどのように芽生えさせ、醸成していくかということが最大のテーマとなり、コミュニティが育つ基盤としてのゾーニングの設定にまず十分な配慮を行う。市のあらゆる施策はコミュニティに視点を合わせて実施され、親鳥がひなをかえすがごとく、市の総力をあげてコミュニティをはぐくんでいこうという姿勢である。

三鷹市におけるコミュニティ地区と、コミュニティ・センターの位置および設立時期が図2-4に示される。

6 町内会など既存の自治組織の現状

地域の末端の組織として最も一般的に存在している町内会・部落会などの自治組織は、一般には明治21年の市制、町村制の施行により町村の大合併が行われ、全国7万余あった市町村が5分の1近くの1万5千余となったが、すでに存在していた自治組織としての旧町村が生き残ったものであるといわれる。こうした、本来、自然発生的・自治的なものであったが、戦時体制下（昭和18年）地方制度の根本的な改正が行われた際に、町内会・部落会は法制化され、縦割の一貫した中央集権構造の中に組み込まれた。

しかし戦後、昭和22年の新憲法、地方自治法の施行と同時に、ポツダム政令15号『町内会・部落会またはその連合会等に関する解散、就職禁止その他の行為の制限に関する件』により解散させられることになったが、その後、日米平和条約発効（昭和27年）に伴い政令が失効した。戦後の混迷期における住民の自衛組織として、また、当時不十分であった行政の補完組織として、禁令解除をまたずに徐々に復活したというのが一般の傾向といわれている。

こうした経緯の後、武蔵野と三鷹はこの面に関

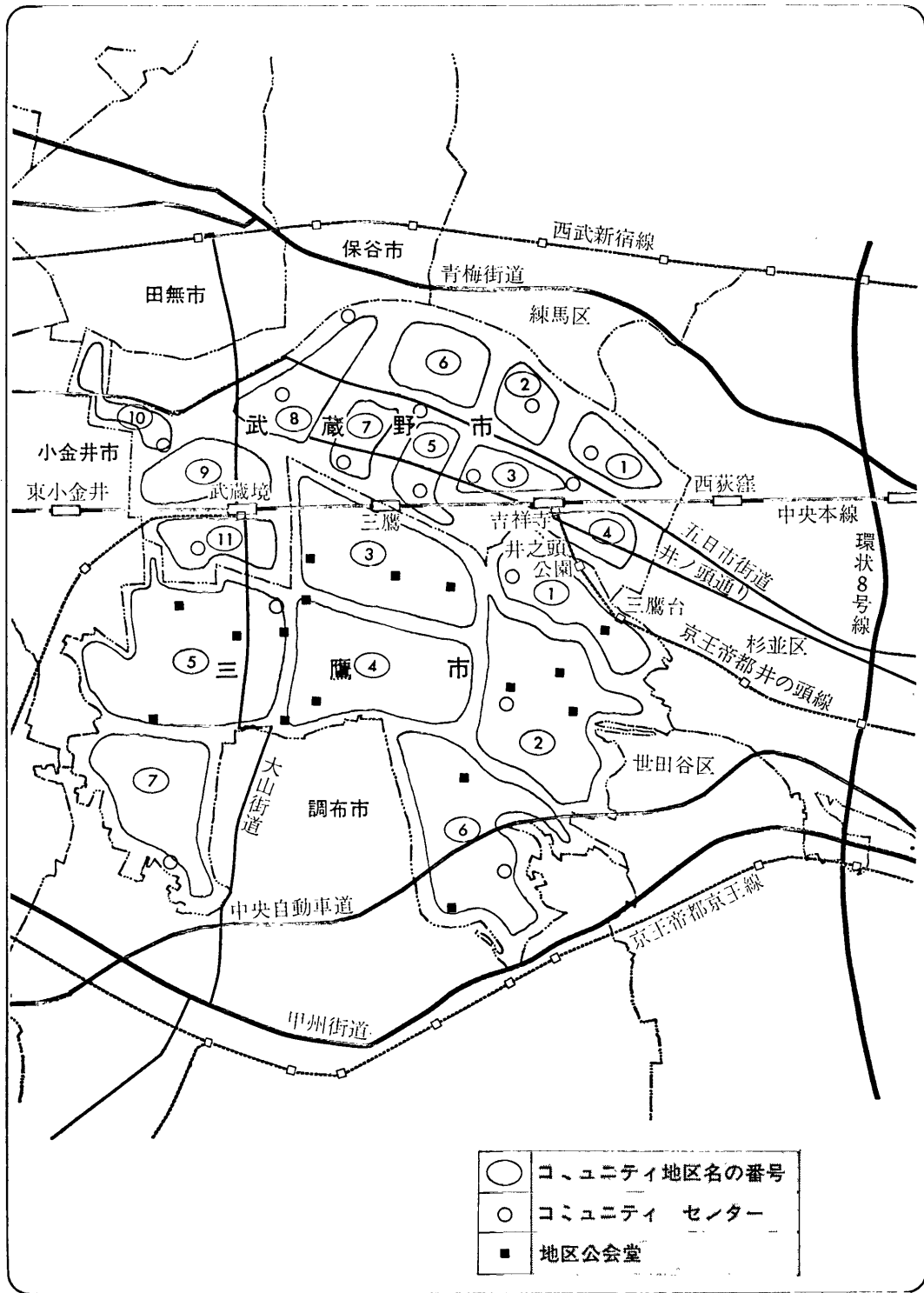
して全く異なる方向へ進むことになる。すなわち、以来武蔵野には町内会・部落会の類は育たず、現在存在する市民組織としては、武蔵野市市民文化会議、武蔵野市コミュニティ市民委員会、武蔵野市広報市民委員会、武蔵野市消防団等々、数十にのぼる目的の明確な市民組織である。これらはいわゆる“なんでも処理する”という体質をもつ町内会・部落会タイプの組織ではなく、明示したテーマに関してのみ対応するという特質をもっている。したがって、市民は問題の解決に当っては、ある程度まで自分で問題を整理し、どこにどのように持ちかければよいかを判断し対処していくことが必要となる。こうした地域では、旧来の自治組織によくみかける、“地域のことは個人的なことでもなんでもよく知っている”というような人は存在しにくい。どちらかといえば個人主義的、近代的、都市的な集団といえよう。高齢化社会に対応する先行的施策として注目を集めている老後保障制度が、こうした土壌からの発想であることは十分うなづける。

他方、三鷹においては、戦後、当時の保守系議員による防犯協会の設立が、その支部組織設立に際して旧町内会の単位をとったことを契機として町内会の復活をみた。当時革新系の団体等からの反対などがあったが、市側は一切関与しない方針をとり今日に至っている。したがって、三鷹における町内会は、ほとんど全市域に組織された住民の代表的なものであるが、行政からの干渉の少ない環境の中で各単位組織ごとに独自の発展過程をたどってきた。しかし、昭和46年度から実施された、近代衛生文化都市をめざす第2次中期計画の中のコミュニティ・センター構想に関連して、昭和45年度から市から町内会に対して交付金を出すことになり、その呼びかけに対し88の団体が応じ、現在、害虫駆除の薬剤散布、各種募金活動、防災灯の維持管理などについては町内会に依存する活動もある。

町内会会員は名目的には世帯主であるが、実際には婦人層によって支えられていることが多く、そこで町内会内部に婦人部を設けているものも少なくない。

三鷹には、町内会の他に、地域婦人会、青年会

図 2-4 武蔵野市、三鷹市におけるコミュニティ地



区、コミュニティ・センターの位置および設立時期

● 武 蔵 野 市			
地区番号	地区名	区 域	C. C.開設年
1	吉祥寺東	吉祥寺東1～4丁目	昭和53年
2	吉祥寺北	吉祥寺北1～3丁目	昭和54年
3	吉祥寺西	吉祥寺本町1～4丁目	未設置
4	吉祥寺南	吉祥寺南町1～5丁目, 御殿山1丁目	未設置
5	中央	御殿山2丁目, 中町1～3丁目	昭和53年
6	中央北	吉祥寺北4, 5丁目, 緑町1, 2丁目	(市役所)
7	西久保	西久保1～3丁目	昭和52年
8	関前	八幡町1～4丁目, 関前1～5丁目	昭和55年
9	境	境1～5丁目	未設置
10	桜堤	桜堤1～3丁目	未設置
11	境南	境南1～5丁目	昭和51年

● 三 鷹 市			
地区番号	地区名	区 域	C. C.開設年
1	井の頭	井の頭1～5丁目	昭和54年
2	牟礼	牟礼1～7丁目, 北野1～3丁目, 新川2丁目(1～3, 10～14), 3丁目(1～4, 3～16)	昭和53年
3	三鷹駅前 周辺	上連雀1～5丁目, 下連雀1～4丁目	未設置
4	下連雀・ 上連雀	上連雀6～9丁目, 下連雀5～9丁目 野崎(1～107)	未設置
5	井口	大字井口, 大字深大寺, 大沢3丁目, 大字大沢(1313以外), 大字野崎(111以降大沢地区以外)	昭和54年
6	新川・中原	北野4丁目, 中原1～4丁目, 新川1, 4, 5, 6丁目, 新川2丁目(4～9, 15～17), 新川3丁目(5～12, 17, 20)	昭和57年
7	大沢	大沢1, 2, 4, 5, 6丁目, 大字大沢(1313), 野崎(195, 198, 152, 177, 206, 226, 230, 231, 234, 255, 264)	昭和49年

も存在しており、これらはすべて地域単位の組織であって、多様なテーマに対応する体質もっていて、武蔵野における目的志向型の組織とは異なる。それら三鷹の組織の主な結成動機は、会員相互の親睦と会員の福祉、住みよい街づくりなどで、具体的なテーマはない。

参加様式については、有限責任のコミュニティ

の色彩が強まってきているが、全戸加入制をとっており、来住層の無関心等の問題が多くなっているものの、地域集団の解体などの動きはない。

以上、調査フィールドとして選定された武蔵野市および三鷹市の地域特性について概観したが、これらを一覧表として表2-1に掲げた。

表 2-1
武蔵野市と三鷹市の地域特性

項 目	武 蔵 野 市	三 鷹 市
市 制 施 行 日	昭和22年11月3日	昭和25年11月3日
行 政 面 積(昭55. 10)	11.03 km ²	16.83 km ²
総 人 口(昭55. 10)	136,910 人	164,526 人
{ 男	69,535 人	85,332 人
{ 女	67,557 人	79,194 人
人 口 密 度(昭55. 10)	12,412.5 人/km ²	9,775.8人/km ²
世 帯 数(昭55. 10)	56,317 世帯	64,554 世帯
1世帯当り平均人口(昭55. 10)	2.42 人	2.51人
人 口 増 加(昭55. 10)	△1,758 人	△860 人
昼 夜 間 人 口 比(昭55. 10)	103.6 %	81.8 %
地 目 別 土 地 面 積 比 率	(昭56)	(昭56)
宅 地	84.5 %	64.8 %
{ 商業地区	6.5	3.3
{ 工業地区	2.1	8.5
{ 住宅地区	75.9	53.1
田	0.0	
畑	8.2	24.2
山林	0.1	2.5
その他	7.2	8.3
世 帯 属 性	(昭55. 10)	(昭55. 10)
世 帯 総 数	(100 %) 55,865	(100 %) 63,895
うち 普 通 世 帯	(92.1%) 51,434	(90.0%) 57,498
サラリーマン世帯	(52.1%) 29,120	(64.5%) 41,214
農 家 世 帯	(0.1%) 58	(0.3%) 175
事 業 主 世 帯	(8.4%) 4,702	(8.7%) 5,573
核 家 族 世 帯	(51.0%) 28,475	(53.6%) 34,234
65 歳 以 上 の 親 族 の いる 世 帯	(15.6%) 8,688	(13.6%) 8,715
単 身 世 帯	(39.5%) 22,087	(37.6%) 24,046
(参 考)	(東京都平均)	(23区平均)
サラリーマン世帯比率	66.5%	65.1%
核 家 族 比 率	56.2%	53.4%
65歳以上のいる世帯比率	15.8%	16.4%
単 身 世 帯 比 率	33.0%	35.8%

項 目	武 蔵 野 市	三 鷹 市
社会経済分類別人口比	(昭50. 1) (15歳以上)	(昭50. 1) (15歳以上)
農林漁業者・雇用者	0.2 %	0.4 %
自由業・団体役員・管理職	8.0	6.7
商工自営業主	3.0	3.0
事務・技術職	22.5	19.7
労働務職	24.2	29.1
学生・生徒	14.7	12.3
家事従事者・内職者	22.0	22.6
未就業者(分類不能を含む)	5.4	6.2
住 宅	(昭55. 10)	(昭55. 10)
住宅に住む普通世帯	52,218	58,166
うち持家世帯	(35.6%) 18,590	(35.6%) 20,717
1戸建世帯	(32.8%) 17,147	(37.6%) 21,876
共同建世帯	(61.1%) 31,900	(55.3%) 32,169
世帯当り昼数	20.1	19.8
入 居 時 期	(昭55. 10)	(昭55. 10)
出生時から	(12.9%) 17,543	(12.8%) 20,965
昭和39年以前	(18.9%) 25,864	(17.5%) 28,663
昭和40～44年	(7.7%) 10,560	(9.4%) 15,422
昭和45年～49年9月	(15.9%) 21,645	(17.6%) 28,921
昭和49年10月～54年9月	(30.8%) 41,977	(29.6%) 48,296
昭和54年10月以降	(13.8%) 18,864	(13.1%) 21,542
(総数)	(100%) 136,506	(100%) 163,874
学 歴	(昭55. 10)	(昭55. 10)
卒業者総数	(84.3%) 93,473	(85.3%) 112,179
小学校, 中学校, 高小	(11.1%) 12,257	(15.4%) 20,263
旧青年学校	(0.9%) 998	(1.3%) 1,820
高校, 旧中	(37.0%) 41,027	(38.6%) 50,667
短大, 高専	(11.4%) 12,639	(10.0%) 13,184
大学, 大学院	(23.7%) 26,281	(19.8%) 25,963
在学者	(15.6%) 17,299	(14.5%) 19,115
未就学者	(—) 58	(0.1%) 133
(総数)	110,830	131,427

項 目	武 蔵 野 市		三 鷹 市	
産 業 別 就 業 者 数	(昭55. 10)		(昭55. 10)	
農 業, 狩 猟 業	(0.4%)	271	(1%)	788
林 業, 水 産, 養 殖 業	—	3	—	7
漁 業, 水 産, 養 殖 業	—	29	—	20
鉱 業	(0.2)	128	(0.2)	118
建 設 業	(6.7)	4,364	(9.4)	7,318
製 造 業	(17.4)	11,305	(21.7)	16,804
卸 売, 小 売 業	(27.2)	17,684	(25.5)	19,794
金 融, 保 險 業	(7.2)	4,657	(4.9)	3,790
不 動 産 業	(2.6)	1,661	(1.7)	1,326
運 輸, 通 信 業	(5.6)	3,670	(5.8)	4,532
電 気, ガス, 水 道, 熱 供 給	(0.6)	371	(0.5)	371
サ ー ビ ス 業	(28.3)	18,413	(25.9)	20,083
公 務	(3.6)	2,346	(3.1)	2,383
(総 数)		(64,990)		(77,489)
産 業 3 部 門 別 人 口 比 率	(昭55. 10)		(昭55. 10)	
第 1 次 産 業	0.5%		1.1%	
第 2 次 産 業	24.3		31.3	
第 3 次 産 業	27.1		67.5	
事 業 所 ・ 従 業 者 数	(昭55)		(昭55)	
	事業所数	従業者数	事業所数	従業者数
総 数	(100%) 6,832	(100%) 56,564	(100%) 5,979	(100%) 48,205
農 林 水 産 業	(0.2) 12	(0.0) 48	(0.3) 17	(0.2) 100
鉱 業	(0.0) 0	(0.0) 0	(0.0) 0	(0.0) 0
建 設 業	(5.2) 358	(5.0) 2,808	(7.7) 460	(7.5) 3,597
製 造 業	(4.9) 335	(14.0) 7,944	(10.8) 644	(32.5) 15,655
卸 売 業 ・ 小 売 業	(51.1) 3,489	(37.2) 20,986	(43.0) 2,562	(23.4) 11,258
金 融 保 險 業	(1.8) 125	(7.5) 4,252	(0.7) 42	(2.2) 1,062
不 動 産 業	(12.3) 839	(3.2) 1,811	(8.8) 522	(2.0) 986
運 輸 ・ 通 信 業	(1.2) 83	(4.9) 2,826	(2.7) 158	(7.3) 3,527
電 気 ・ ガス ・ 水 道 ・ 熱 供 給 業	(0.1) 6	(1.1) 618	(0.1) 6	(0.3) 134
サ ー ビ ス 業	(22.8) 1,558	(23.9) 13,436	(25.5) 1,515	(22.2) 10,740
公 務	(0.4) 27	(3.2) 1,835	(0.4) 21	(2.4) 1,143
従 業 者 規 模 別 事 業 所 数	(昭 55)		(昭 55)	
総 数	(100%)	6,832	(100%)	5,947
1 ~ 4 人	(66.1)	4,517	(72.4)	3,308
5 ~ 9 人	(20.1)	1,374	(15.7)	934
10 ~ 19 人	(7.9)	539	(6.1)	364
20 ~ 29 人	(2.3)	156	(1.8)	107
30 ~ 49 人	(1.7)	113	(1.8)	108
50 ~ 99 人	(1.2)	84	(1.3)	75
100 ~ 299 人	(0.5)	33	(0.6)	35
300 ~ 499 人	(0.1)	8	(0.2)	11
500 人 ~	(0.1)	8	(0.1)	5

項 目	武 蔵 野 市	三 鷹 市
農 業	(昭55. 2)	(昭55. 2)
農 家 数	135戸	463戸
{ 専 業 農 家	(4.4%) 6戸	(1.9%) 9戸
{ 兼 業 農 家	(95.6%) 129戸	(98.1%) 454戸
農 家 人 口	668人	2,429人
{ 農 業 だ け	(23.4%) 156人	(26.3%) 640人
{ 農 業 と 兼 業	(29.5%) 197人	(23.2%) 563人
農 業 粗 生 産 額	134百万円	551百万円
工 業	(昭55. 2)	(昭55. 2)
工 場 数	(100%) 244	(100%) 466
食 料 品	(13.1) 32	(4.3) 20
織 維 工 業	(1.2) 3	(0.4) 2
衣服, その他の織維製品	(2.5) 6	(—) —
木 材, 木 製 品	(2.5) 6	(0.9) 4
家 具, 装 備 品	(8.2) 20	(2.4) 11
パ ル プ, 紙, 紙 加 工 品	(0.8) 2	(0.9) 4
出 版, 印 刷, 同 関 連 産 業	(12.0) 29	(7.5) 35
化 学 工 業	(2.0) 5	(1.7) 8
石 油, 石 炭 製 品	— —	— —
ゴ ム 製 品	(0.8) 2	— —
なめしかわ, 同製品, 毛皮	(0.4) 1	(0.4) 2
窯 業, 土 石 製 品	(0.8) 2	(1.1) 5
鉄 鋼 業	(0.4) 1	(0.2) 1
非 鉄 金 属	(0.8) 2	(1.5) 7
金 属 製 品	(5.7) 41	(11.6) 54
一 般 機 械 器 具	(11.1) 72	(14.2) 66
電 気 機 械 器 具	(23.8) 58	(27.8) 130
輸 送 用 機 械 器 具	(0.8) 2	(4.3) 20
精 密 機 械 器 具	(4.9) 12	(14.4) 67
武 器	(—) —	— —
そ の 他	(8.2) 20	(6.4) 30
工 業 製 品 年 間 出 荷 額 等	79,904百万円	275,000百万円

項 目	武 蔵 野 市	三 鷹 市
商 業	(昭54. 6)	(昭54. 6)
卸 売 業		
商 店 数	217	263
年 間 販 売 額	63,129百万円	115,778百万円
小 売 業		
商 店 数	1,860	1,489
(うち大規模小売店)	200	33
{ 百貨店	3	—
{ セルフサービス店	6	2
{ その他の小売店	191	31
(大規模小売店開設年別商店数)		
{ 昭和19年以前	2	—
{ 昭和20～29年	3	7
{ 昭和30～39年	5	15
{ 昭和40～44年	125	4
{ 昭和45～49年	45	4
{ 昭和50～54年5月	20	3
(スーパーマーケット数)	16	14
(飲食店数)	1,350	753
年 間 販 売 額	185,564百万円	62,906百万円
金 融 機 関	(昭55. 12)	(昭55. 12)
店 舗 数	30	15
うち { 都市銀行	13	4
{ 地方銀行	2	1
銀行預金額	(昭56. 3. 末) 329,339百万円	(昭56. 3. 末) 128,198百万円
貸 出 額	156,126百万円	76,246百万円
(昭和54年度) (『82民力』による)		
歳 出	22,556百万円 (1人当り) 164,751円	23,017百万円 (1人当り) 139,899円
市民税収入額	8,164百万円 (1人当り) 59,630円	7,565百万円 (1人当り) 45,981円
所得格差	167.7	150.4
着工住宅戸数	1,824	1,773
(昭53年度) (『78民力別冊』による)	()内は23区	
総合民力指数	(1,204.9) 14.7	12.7
1人当り民力水準	(166.6) 125.6	90.7
生活近代化水準	(150.0) 190.8	181.7
情報化水準	(106.3) 109.7	81.5
教育化水準	(162.0) 189.8	125.3

3

調査の概要

1. 調査の手続き	30
(1) 被調査者（サンプル）の決定	30
(2) 調査の実施	30
2. 調査の内容	32
(1) 地域との関わり	33
(2) 地域活動への参加	33
(3) 市行政との関わり	33
(4) 近隣との交わり	34
(5) 福祉に関する意向	34
(6) 既存団体への所属と参加	34
(7) 個人の生活構造	34
(8) 属性などの基礎項目	35
3. 「調査票」の見本	36

コミュニティ形成のメカニズムを理解するにあたっては、まず第1に、コミュニティ形成の主体であり客体でもある住民の、当該地域社会に対する意識構造を多角的に把握することが必要となってくる。

本章では、武蔵野および三鷹の2地域の住民を対象として実施した、わたしたちの「住民意識調査」の概要を述べる。

1

調査の手続き

(1) 被調査者（サンプル）の決定

20歳以上の有権者を対象とした。しかし、第1章でも述べた通り、地域社会に特に関わりの深い層は女性である。そのため、女性についてはかなりの精度のある結果を得たいと考え、サンプルの割当は、女性に厚いものとした。

サンプル数は、女600、男300とし、両市とも全地域から一段等確率無作為抽出法で抽出した。抽出は、両市とも選挙人名簿（昭和56年7月1日設定のもの）から行うこととし、武蔵野市は56年7月14日に、三鷹市は9月7日に実施した*。

第2章で詳述したが、両市ともコミュニティ・センターの設置とともに市内をコミュニティ地区に分けている（武蔵野市は11地区、三鷹市は7地区）。そこで、地区別および年齢別の市人口とサンプルにおける人数を一覧表にして示すと、表3-1および表3-2の通りである。人口およびサンプルにおける、それぞれの構成比率をみるとかなり類似したものであり、一応、偏りのないサンプルが得られたものと考えられよう。

(2) 調査の実施

訪問面接調査によっておこなうこととした。大都市においては、昨今とくに、本人に直接面接し

て調査をおこなうことが困難となってきている。しかし留置調査などによると、本人自身の意見であるか否か疑わしい場合が多く、とくに今回のような地域社会の問題に関しては、同一世帯の中でも意識や意見が異なる。わたしたちは、世帯内の代替者の回答は排除したいと考えたので、敢て訪問面接調査の方法をとった。

調査員は原則として1地点（約2km平方程度の広さ）20人のサンプルを受けもつこととした。サンプルは男女別に分け、各市とも、女性サンプルの地点30、男性サンプルの地点15に分けた。被調査者に対しては、原則として予告をせずに訪問した。予じめ郵便などで通知をしておいてから訪問の方が面接可能率が高くなるという意見もあったが、一方では、予告によって被調査者が却って拒否の構えを用意する場合も多いことも考えられ、結果としては予告が必ずしも高回収率に結びつく確証もなく、最初の訪問は予告なしにおこなうこととした。

調査員は、主として慶応義塾大学文学部（人間科学専攻）の学生であり、本研究について理解をもった学生であった。原則として、男のサンプルに対しては男子学生が、女のサンプルに対しては女子学生が当ることとした。これら一般調査員の他に、特にこの研究に深くたずさわるメンバー（約15人）が待機し、一般調査員が「不能」と判断したサンプル（不在が多い場合）について再度訪問し、回収率を上げることに努力した。

調査員の殆どが学生であることから、夏休みを利用することとし、武蔵野市については昭和56年7月15日～8月3日、三鷹市については、同年9月11日～9月30日におこなった。

武蔵野市調査は比較的順調に行われた。しかし、男のサンプルは不在が多く、面接の機会を得るために数回の訪問を必要とし、大都市住民の近年の生活時間の様相を考え合わせても、この様な訪問面接調査の困難を痛感した。武蔵野市調査の際に、「市の協力ということであれば調査に応

* 本研究は「文部省科学研究費」によって遂行されているが、武蔵野市の女性サンプルに対する調査に関しては「エッソ学際助成金」によっておこなった。

表 3-1 コミュニティ地区別にみた人口と調査サンプル

市	コミュニティ地区			人口 (昭57.1.1)			サ ン プ ル		
	No.	地 区 名	区 域	総 数	男	女	総 数	男	女
武蔵野市	1	吉祥寺東	吉祥寺東 1～4丁目	(9) 11976	5792	6184	86	(10) 30	(9) 56
	2	吉祥寺北	吉祥寺北 1～3丁目	(8) 10838	5364	5474	69	(9) 27	(7) 42
	3	吉祥寺西	吉祥寺本町 1～4丁目	(9) 11297	5555	5742	84	(7) 22	(10) 62
	4	吉祥寺南	吉祥寺南1～5丁目, 御殿山1丁目	(12) 16508	8239	8269	114	(13) 38	(13) 76
	5	中央	御殿山2丁目, 中町1～3丁目	(8) 11184	5762	5422	79	(11) 33	(8) 46
	6	中央北	吉祥寺北4,5丁目, 緑町1,2,3丁目	(10) 13329	6668	6661	85	(6) 18	(11) 67
	7	西久保	西久保 1～3丁目	(8) 11199	5754	5445	78	(9) 27	(9) 51
	8	関前	八幡町1～4丁目, 関前1～5丁目	(9) 11360	5917	5443	71	(10) 29	(7) 42
	9	境	境 1～5丁目	(9) 12394	6360	6034	81	(9) 26	(9) 55
	10	桜堤	桜堤 1～3丁目	(6) 8096	3933	4163	55	(6) 18	(6) 37
	11	境南	境南 1～5丁目	(11) 14482	7300	7182	98	(11) 32	(11) 66
合 計				(100) 132663	66644	66019	900	(100) 300	(100) 600
有権者数 (昭56年6月22日)				99692	49710	49982			
三鷹市	1	井の頭	井の頭 1～5丁目	(11) 17396	8836	8560	107	(13) 38	(12) 69
	2	牟礼	牟礼1～7丁目,北野 1～3丁目,新川2丁目 (1～3,10～14),3丁目 (1～4,13～16)	(15) 24288	12539	11749	127	(12) 35	(15) 92
	3	三鷹駅前周辺	上連雀1～5丁目, 下連雀1～4丁目	(19) 30544	15659	14885	184	(20) 60	(21) 124
	4	上連雀・下連雀 野崎	上連雀6～9丁目, 下連雀5～9丁目, 野崎(1～10)	(18) 29257	15101	14156	153	(15) 46	(18) 107
	5	井口,深大寺, 野崎,大沢	井口,深大寺,大沢3丁目, 大字大沢}の一部 大字野崎}	(12) 19503	10511	8992	120	(18) 53	(11) 67
	6	新川・北野・中原	北野4丁目,中原1～4 丁目,新川1,4,5,6丁目, 新川2,3丁目の一部	(17) 27500	13879	13621	94	(18) 54	(7) 40
	7	大沢・野崎	大沢1,2,4,5,6丁目, 野崎の一部, 大字大沢1313	(7) 11489	6040	5449	115	(5) 14	(17) 101
合 計				(100) 159977	82565	77412	900	(100) 300	(100) 600
有権者数 (昭56年7月9日)				114333	58579	55754			

表 3-2 年齢別にみた人口と調査サンプル

市 年齢	武 蔵 野 市					三 鷹 市				
	人口 (昭57. 1. 1)			サ ン プ ル		人口 (昭57. 1. 1)			サ ン プ ル	
	男	女	総 数	男	女	男	女	総 数	男	女
20～24歳	(16) 8138	(13) 6506	14644	(16) 48	(13) 79	(16) 9842	(13) 7193	17035	(16) 49	(16) 94
25～29歳	(14) 7050	(12) 5755	12805	(12) 35	(10) 57	(15) 8982	(11) 6453	15435	(9) 28	(13) 78
30～34歳	(15) 7378	(13) 6533	13911	(18) 54	(12) 72	(15) 8930	(14) 7640	16570	(14) 42	(13) 75
35～39歳	(10) 4846	(10) 4823	9669	(9) 28	(11) 63	(10) 6168	(10) 5738	11906	(11) 32	(8) 48
40～44歳	(9) 4239	(9) 4519	8758	(8) 24	(9) 51	(9) 5534	(10) 5656	11190	(11) 34	(11) 65
45～49歳	(8) 4084	(9) 4575	8659	(7) 22	(9) 54	(9) 5201	(10) 5489	10690	(11) 32	(10) 57
50～54歳	(7) 3547	(8) 4146	7693	(8) 24	(10) 57	(8) 4560	(9) 4813	9373	(8) 25	(7) 41
55～59歳	(16) 2866	(7) 3478	6344	(8) 23	(8) 49	(6) 3448	(7) 3856	7304	(6) 17	(9) 52
60～64歳	(4) 2149	(6) 2755	4904	(4) 13	(6) 35	(4) 2383	(6) 3176	5559	(5) 14	(4) 24
65～69歳	(4) 1925	(5) 2314	4239	(5) 14	(4) 25	(4) 2223	(5) 2559	4782	(4) 12	(5) 31
70歳～	(7) 3231	(9) 4346	7577	(5) 15	(10) 58	(5) 3149	(7) 4009	7158	(5) 15	(6) 35
計	(100) 49453	(100) 49750	99203	(100) 300	(100) 600	(100) 60420	(100) 56582	117002	(100) 300	(100) 600

じるが……」という被調査者もあったことから、三鷹市調査の際は、予じめ市の諒解を願い、被調査者宛の挨拶状にその旨を刷り加えた。しかし、結果的には、この効果は余りなかった。

三鷹市調査の際は、調査員の応募者が少なく、慶応義塾大学の文学部以外の学生10人、他大学の学生16人、三鷹市のボランティア・グループの主婦3人も加わった。このように調査員が混成チームであったことから、本研究への理解不足もあり、9月30日の調査終了時における回収率は極めて悪く5割程度であった。そこで更に、再度訪問調査員として、三鷹市あるいはその近辺の在住者に依頼した。これは、国際キリスト教大学の学生、ルーテル大学の寮生、三鷹市ボランティア・グループの主婦などの12名であった。彼らによる

再度訪問は、約2ヶ月近い期間におこなわれ、12月初旬に調査を打ちきった。こうした努力の結果、回収率は武蔵野を少し上まわるものとなった。しかし、このような状況であったので、三鷹の回収票の中には多少不備の点も見られている。

2

調 査 の 内 容

第1章に述べた意味あいにおいて、コミュニティを形成していくという目標に対しての地域住民の意識構造を可能な限り多角的にかつ深く探ることができるよう質問項目を選択しようと考えた*。このためにはまず、コミュニティ形成につ

* これは、多くの調査でおこなわれているようなア・プリオリにコミュニティ・モデルを想定し、これに適合するか否かをみるといった演繹的立場による項目設定ではない。また、諸種の文献からの多数の質問項目の単なる集積から出発しようという意味での帰納的立場によるものでもない。あくまでコミュニティ形成という目標に対しての住民の意識と行動の構造を多面的に知ろうとするものである。

いて積極性あるいは消極性を示す地域住民の意識と行動を、コミュニティの基盤と見られる次のような側面からみていくこととした。すなわち、「地域との関わり」（これは意識や概念の意味での地域との関わりと、具体的活動を通しての地域社会との関わりの2つの面を含む）、「市行政との関わり」、「近隣の人々との関係」、「既成団体（町内会、P.T.A.など）との関わり」、および「福祉的な意識」という側面である。そして一方では、住民の意識と行動の基底にあると考えられる個人的な生活パターンや属性についてみていくことと

した。

そこで次のような7つの枠組を定め、それぞれの枠組の中で質問項目を選定し、質問文を作成していった。これを列挙すると以下のようである。

(1) 地域との関わり

地域に対する、意識や情緒の面においての、および生活面においての関わりの程度をみる。このために設定した項目とそれに関する質問文の主題は次の通りである。

(項 目)	(質問文の主題と質問番号)
● 地域に関する概念……………	市の理想像 (問49), 改良点 (問7), コミュニティの概念 (問50)
● 生活圏……………	生活必需品の購入地 (問38)
● 地域への愛着……………	愛着感 (問2)
● 地域に対する関心……………	家の周辺での問題 (問4, 問5)

(2) 地域活動への参加

前項が地域との静的な関わりであるのに対し、動的関わり、すなわち、何らかの活動を通しての関わりをみる。

地域活動には種々のタイプのものがあり、どのような活動に積極性を示すかは、住民の類型と密

接な関わりをもつものと考えられる。そこで、可能な限り多くの観点からみられるように、種々の特性を表現するとみられる活動を質問項目とした。

質問項目とした活動、その活動への参加志向にみられる特性、および質問番号を列記すると次の通りである。

(質問項目)	(特性と質問番号)
● 祭りなどの行事への参加……………	伝統的, 集団主義的 (問3)
● 地域における協同作業に参加……………	近隣親交的, 受動的 (問9)
● 周辺の問題に対して地域で協力対処……………	市民的, 主体的 (問6)
● 町づくり活動に参加……………	理念的, 政治的 (問10)
● マンション建設反対運動に参加……………	市民的, 主体的, 功利的 (問17)
● 老人ホーム建設反対運動に参加……………	利己的, 主体的 (問18)
● 住民運動一般について……………	市民的, 理念的 (問19)

(3) 市行政との関わり

市行政をどのように受けとめ、これに対してどのような姿勢を示しているのかをみる。

この枠組に関しては、前回調査(1976年、武蔵野/女を対象)の際には多くの質問項目、すなわち、市行政施策の知識、市行政の知識を得るメデ

ィアについて、施策への要望、市主催の催しへの参加、市施設の利用、市政参加、をとりあげたが、今回は、コミュニティ・センターに焦点をおき、前回調査の結果を参考にしてとりあげる必要性の少ない項目を削除した。

今回とりあげた質問項目と質問文の主題は次の通りである。

- | (項 目) | (質問文の主題と質問番号) |
|-----------------------------------|--|
| ● 市政に対する関心 (市の重点施策の知識)…………… | 市の重点施策の認識 (問8), 希望する市施設 (問13), 市施設の利用経験 (問14), |
| ● 市政への期待・評価 (公的施設の利用や要求を通して)…………… | コミュニティ・センターの認識 (問15), コミュニティ・センターの役割評価 (問16) |
| ● 市政への参加意向…………… | 市政参画への意向と方法 (問11, 問12) |

(4) 近隣との交わり

て, コミュニティ形成に関連深い近隣との親交関係をみる。設定した質問項目と質問文の主題は次の通りである。

地域や市行政との関わりとは異なった角度とし

- | (項 目) | (質問文の主題と質問番号) |
|------------------|--|
| ● 近隣との交流…………… | 近所の人との対話 (問21), 日頃の交際の相手 (問33), 近隣との親交度 (問34, 問35), 近隣に対する問題への対処 (問36) |
| ● 近隣への依存・信頼…………… | 近隣からの援助体験 (問37), 災害時の際の近隣関係 (問40) |
| ● 近隣に対する意識…………… | 近隣関係のわずらわしさ (問27) |

(5) 福祉に関する意向

コミュニティ・ケアの基盤となる福祉に関する認識や意向をみる。設定した質問項目と質問文の主題は次の通りである。

- | (項 目) | (質問文の主題と質問番号) |
|------------------------|--|
| ● ボランティア活動への意向/認識…………… | 給食サービスなどの活動への意欲 (問27), ボランティア活動の認識 (問28) |
| ● 要介助者に対する意識/援助意向…………… | 近所における要介助者の存在 (問29), 近所の要介助者への手伝い (問30) |
| ● 独居老人に対する援助意向…………… | 独居老人の世話をすべき人 (問31) |

(6) 既成団体への所属と参加

コミュニティの基盤としようという意見も多い。そこで, こうした既成団体への所属と関わりをみる。設定した質問項目と質問文の主題は次の通りである。

町内会や自治会など, 既成の団体への参加をコ

- | (項 目) | (質問文の主題と質問番号) |
|----------------------------|--|
| ● 既成団体 (24種) への所属/関わり…………… | 24団体 (或いはその他) への所属 (問22), 積極的な参加 (問23), 役割担当 (問24) |
| ● 団体活動における情緒構造…………… | 満足感 (問25), 生きがい感 (問26) |

(7) 個人の生活構造

より明らかにされる構造の基底にあると考えられる個人的な問題について, 性格, 価値観, 情緒面, 家庭, 政治関心, などの側面についてみることとした。設定した項目および質問文の主題は次の通りである。

上記(1)~(6)の枠組における種々の質問項目は, コミュニティ形成という観点からの住民の意識構造を種々の角度から探る項目であった。これらに

(項 目)	(住民意識構造の 枠組との関連)	(質問文の主題と質問番号)
● 孤独感への対処	近隣関係	淋しい時の行動 (問39)
● 家庭における関心	近隣関係	家のなかでの話題 (問20)
● 政治関心 (投票行動)	市政との関わり	都議選における投票 (問41)
● 要介助の立場における家族依存	福祉的意識	高齢で要介助の際、生活を共にする人 (問32)
● 価値観の表現	個人	大切なもの (問52)
● 性格	個人	性格特性 (問48)

価値観の表現としては、『国民性調査』* においてもよく用いられている「大切なもの」をとりあげた。

性格特性については、20種類を提示し、自己判断で、いくつでも自由に選択してもらった。個人のどんな性格特性が、コミュニティ形成にどのようにかかわっているのかをみるために、被調査者の性格特性を知りたいのであるから、性格特性リストの作成にあたっては出来る限り多くの側面が含まれるのがのぞましいと考えられた。しかしリストの性格特性のなかから自分にあてはまるものをえらぶという方法では、調査員の前で選びにくい側面もあると思われる。そこで、そのような側面は除外し、より自然な形で回答できるような性格特性のみを並べることにした。

まず、基本的な性格類型として考えられているS型(分裂性気質)、Z型(循環性気質)、E型(粘着性気質)の3つからそれぞれ特徴的な特性をいくつかとり出した。次に、その中で調査員の前では認めたくないような特性を除外した。(このような特性はリストに入れても多くの場合は無視されてしまうので、リストにあげる特性の総数

を余り多くしないためにもこれらを除外した。さらに上記3つの基本的性格類型に神経質的な特性等を回答しやすい形で加え、全部で20の性格特性とした。なお、被調査者の性格をこのような形で把握することについてはなお問題が残るかとも思われるが、本研究では調査方法からくる制約等から上述のように性格特性のリストを提示して自分にあてはまるものをえらんでもらうことにした。したがって、ここでの「性格」とは、あくまで被調査者自身が自分の性格をどう思っているかという意味での「性格」である。このような内容の性格とコミュニティ形成に関する項目とのかかわり方をみていくこともそれなりに意義があると考えられた。

(8) 属性などの基礎項目

以上の7つの枠組による質問の他に、基礎項目として、被調査者の属性に関しての10問を問い、その他に、家の状況〔種類(一戸建、集合住宅)と段階(上、中、下)]を調査員に記入させた。これは被調査者の社会成層をみるためのものである。これら基礎項目は次の通りであった。

- | | |
|---------------------|---------------------|
| ● 年齢 (最初の質問) | ● 家族 (人数, 構成) (問47) |
| ● 学歴 (問51) | ● 兄弟 (数, 順位) (問42) |
| ● 職業・就業状況 (問44) | ● 居住年数 (問1) |
| 職業 (本人, 配偶者) (問45) | ● 住居所有 (最後の質問) |
| 勤務地 (本人, 配偶者) (問46) | ● 住居状況 (調査員記入) |
| ● 支持政党 (問43) | |

以上、質問は全体で52問に及び、訪問面接調査としては限界に達する量であった。しかし、質問内容は平易であり、日常生活における身近な問題

が多いため、殆どの被調査者が最後まで回答した。なお、『質問票』そのものを以下に付したので参照されたい。

*『国民性調査』は、統計数理研究所によりおこなわれている調査であり、昭和28年以来5年ごとに実施されている。

「調査票」の見本

お願い

わたしたちは、今、武蔵野市と三鷹市で、地域の生活に関する調査をおこなっています。これは、住んでいる所で、気持のよい生活をしていくためには、どうしたらよいかを考える資料にするためです。このために住民の方々のご意見を伺いたく、当市の有権者の方の中からじ引きのような方法(無作為抽出)で選びましたところ、あなたもその一人に当りました。それで、お忙しい所をまことに恐縮ですが、ほんの少しのあいだ調査にご協力下さいますようお願いいたします。(簡単なことながらも下についてお尋ねいたしますのでお答え頂きたいのです。)

なお、この調査は、研究のための調査ですので、あなたの回答をこの研究以外のことに洩らすことは決してありません。

どうぞよろしくお願いいたします。

昭和56年夏

〒108 東京都港区三田2-15-45(電話：03-453-4511)

應慶義塾大学文学部社会心理学
研究室内・地域生活調査委員会

委員長 佐野 勝 男 (慶應義塾大学文学部教授)

調査票

(武蔵野・三鷹調査)

地点番号	調の 基盤 本 能合	理 由
サンプリング番号	移 転 先	
調査員名(印でよい)	聞 いた 相 手	

訪問日時

(訪問のたびに○印をつけなさい)

1981年	朝食頃	午前	昼食頃	午後	夕食頃	夜
月 日						
月 日						
月 日						

(性・年齢)(サンプリングを確認する。訪問する前に記入しておく)

あなたのお生れは 明治・大正・昭和 年 月 日 ですね?

1 男

2 女

1 その通りだ 2 否 明治・大正・昭和 年 月 日 生まれだ

問1 あなたは、いつ頃から{武蔵野市}にお住みになっていますか?

- 1 昭和20年以前から
- 2 昭和20年～35年
- 3 昭和36年～45年
- 4 昭和46年～50年
- 5 昭和51年～53年
- 6 昭和54年以降
- 7 その他(記入)

8 D.K.

問2 あなたは、今住んでいる〔武蔵野市〕に、愛着のようなものをお感じになりますか？

1 感じる ↓

2 感じない ↓

それはどういふ点ですか？

それはどういふ点ですか？

- 1 近所のひととなじんでいる
- 2 緑多く、自然環境がよい
- 3 春に桜がきれい
- 4 郊外住宅地としてよいイメージ
- 5 文化水準が高い
- 6 市行政の施策がよい
- 7 公共の施設が整っている
- 8 ずっと住んでいるから
- 9 その他(記入)

- 1 住んで間がない
- 2 環境がよくない
- 3 公共施設の不便
- 4 市行政が悪い
- 5 移転する積りだから
- 6 その他(記入)

- 3 どちらでもない
- 4 その他(記入)

5 D.K.

問3 あなたは地域の行事(盆踊り、スポーツ大会、お祭りなど)に参加しますか？

- 1 積極的に参加する
- 3 余り参加しない
- 5 その他(記入)

- 2 つきあい(義理)で参加する
- 4 参加したことはない

6 D.K.

問4 お宅のまわりで、ふだんからおこまりにおこなっていることや、ご不満がありますか？

- 1 ある →問5へ
- 3 その他(記入)

2 ない

4 D.K.

問5 【問4で”ある”と答えた人に】

それは、どのようなことですか？ (リスト)

- 1 害虫・ねずみなどの問題
- 2 ごみ処理
- 3 高層建築物・家の建てこみ、日照権の問題など
- 4 道路・交通問題
- 5 騒音・振動の問題
- 6 煤煙・悪臭など
- 7 下水道など居住設備に関して
- 8 公共施設が不十分
- 9 風紀・犯罪の問題
- 10 児童保育の問題
- 11 近所の人との人間関係
- 12 その他(記入)
- 14 D.K.

問6 あなたは、これらの問題について、地域の中で、協力して対処してゆこうと思えますか？

- 1 思う
- 3 思わない

- 2 どちらともいえない
- 4 その他(記入)

5 D.K.

問7 あなたは、この〔武蔵野市〕をもっと住みよいところにするために、どのようなことをしていったらよいとお考えですか？

問8 〔武蔵野市〕が市に力を入れて行っている事業、施策、運動などの中、あなたがよく知っているものをおあげ下さい。(リスト)〔3つ以内〕

- 1 上水道
- 2 下水道
- 3 道路
- 4 駅周辺都市計画
- 5 清掃
- 6 教育文化施設
- 7 児童公園
- 8 青少年対策
- 9 環境衛生
- 10 市営住宅
- 11 福祉対策
- 12 集会施設
- 13 交通安全対策
- 14 公害対策
- 15 公園緑地
- 16 市民参加
- 17 その他(記入)
- 18 D.K.

問9 あなたは、地域の町内会や自治会から、害虫駆除や清掃などを、一緒にするように、よびかけられたとしたら、どうなされますか？(リスト)

- | | |
|------------------------------|-----------------|
| 1 積極的に協力する | 2 時間の都合がつけば協力する |
| 3 近所の人のつきまとい上、出ないと気まずいので参加する | |
| 4 なるべく避けるようにしている | 5 出ないことにしている |
| 7 その他(記入) | 8 D.K. |

問10 あなたは、地域の人々とグループを作って、何か住みよい町作り活動をしようと思いませんか？

- | | |
|--------|-----------|
| 1 思う | 2 関心がない |
| 3 思わない | 4 その他(記入) |
| | 5 D.K. |

問11 【三鷹市では()内を踏まない】
(武蔵野市は、市民参加の市政といわれていますが)あなたは、何らかの方法で、市政に参加しようと思いませんか？

- | | |
|----------------|---------------|
| 1 参加したい → 問12へ | 2 求められれば参加したい |
| 3 参加しようと思わない | 4 その他(記入) |
| | 5 D.K. |

問12 【問11で“参加したい”と答えた人に】
どのような方法で、参加しようと思っていられるでしょうか？(リスト)【2つ以内】

- | | |
|----------------|--------------|
| 1 選挙によって | 2 市議員と話し合って |
| 3 自治会を通して | 4 住民運動によって |
| 5 市民委員会の参加によって | 6 その他の団体を通して |
| 7 近所の人と協力して | 8 陳情・請願によって |
| 9 その他(記入) | 10 D.K. |

問13 あなたは、この近くにどのような施設がもっとあったらよいと思いませんか？
(リスト)【2つ以内】

- | | | |
|---------|----------------|------------|
| 1 公会堂 | 2 市民会館 | 3 福祉会館 |
| 4 集会所 | 5 図書館 | 6 老人クラブ |
| 7 市営運動場 | 8 体育館 | 9 プール |
| 10 児童館 | 11 遊び場 | 12 保育所 |
| 13 児童遊園 | 14 コミュニティ・センター | 15 その他(記入) |
| | | 16 D.K. |

問14 あなたご自身、又はご家族が、このような市の施設をご利用になったことがありますか？
(同じリスト)いくつでもあげてください。

- | | | |
|---------|----------------|------------|
| 1 公会堂 | 2 市民会館 | 3 福祉会館 |
| 4 集会所 | 5 図書館 | 6 老人クラブ |
| 7 市営運動場 | 8 体育館 | 9 プール |
| 10 児童館 | 11 遊び場 | 12 保育所 |
| 13 児童遊園 | 14 コミュニティ・センター | 15 その他(記入) |
| | | 16 D.K. |

問15 この地区では、コミュニティ・センターがありますか？

- | | | |
|--------|-----------|--------|
| 1 ある | 2 近くにできる | 3 ない |
| 4 知らない | 5 その他(記入) | 6 D.K. |

問16 コミュニティ・センターができれば、地域の人々と、親しく交り易くなると思いませんか？

- | | |
|-------------|------------------|
| 1 交り易くなると思う | 2 特に交り易くなるとは思わない |
| 3 その他(記入) | 4 D.K. |

問17 ところで、次のような場合、あなたはどのようなさいますか？
 お宅の近くに高層マンションが建てられることになりました。このために、目当りが悪くなる
 家が何軒もできるで、近所の人が集って、反対運動を起すことになりました。あなたのお家
 は、直後の影響はなかった(目当りは悪くならない)としたとき、あなたは、その反対運動に
 参加されますか？

- 1 近所全体のことだから、積極的に参加する
- 2 近所とのつきあいで参加する
- 3 関係ないことだから、参加しない
- 4 そうい運動には一切参加しない
- 5 その他(記入)
- 6 D.K.

問18 それでは、次のような場合はどうなさいますか？
 お宅の近くに老人ホームが建てられることになりました。しかし、老人は火の不始末などをしやす
 く、火災の危険もあるので、老人ホーム建設反対の住民運動が起りました。この場合、あなた
 は参加されますか？

- 1 老人ホーム反対運動に参加
- 2 老人ホームができるのは良いことなので参加しない
- 3 そうい運動に参加するのは面倒だから参加しない
- 4 その他(記入)
- 5 D.K.

問19 あなたは、一般的に住民運動というものを、どうお思いになりますか？

- 1 ぜひすべきことと思う
- 2 よいことと思う
- 3 わずらわしいことと思う
- 4 問題による(具体的に)()
- 5 余りよいこととは思わない
- 6 好きな人にまかせておけばよい
- 7 すべきことではないと思う
- 8 その他(記入)
- 9 D.K.

問20 あなたのお宅で、近頃一番よく話されることは、どのようなことがらでしょうか？(リスト)
 話される順に3つあげて下さい。

- 1 住居に関すること
- 2 子供の教育について
- 3 結婚などのこと
- 4 老人問題
- 5 病気・けがのこと
- 6 物価について
- 7 税金問題のこと
- 8 就職の問題
- 9 老後の問題
- 10 団体・政治・社会問題
- 11 近所の人のこと
- 12 地域の問題
- 13 市政のこと
- 14 家族のこと
- 15 新聞・雑誌上で話題になっていること
- 16 D.K.

問21 あなたは、そのようなことがらについて、ご近所の人々と話し合うことがありますか？

- 1 よく話し合う
- 2 たまに話す
- 3 殆ど話さない
- 4 全然話さない
- 5 その他(記入)
- 6 D.K.

問22 あなたは次のような団体やグループに所属していますか？(リスト)【いくつでもあげて下さ
 い】

- 問23 あなたが加入している組織や団体で、積極的にその活動に参加しているものをあげて下さい。
 (リスト)【いくつでもかまいません】
- 問24 あなたは、その団体(又はグループ)で、大事な役を担っておられますか？
- 問25 団体(又はグループ)での活動は、あなたにとって楽しいものですか？
- 問26 それは、あなたにとって生がいいになっていますか？

問27 「部会の生活の良いところは、隣近所にわざわざわさわさわされずに自分の好きなように生活できるとこ
 ろだ」という意見があります。あなたは、これをどう思いますか？

- 1 そう思う
- 2 思わない
- 3 その他(記入)
- 4 D.K.

問27 あなたは、結食サービスなどのボランティア活動を少ししてみようと思うことはありませんか？

1 既にしている(したことがある)	6 D.K.
2 してみたいと思うが、具体的な活動と自分の都合が合わない	
3 時間がなくてできない	
4 そういうことは考えていない	
5 その他(記入)	

問28 ボランティア活動は、どのようなことと思いますか？ あなたのお考えに最も近いものを2つあげてください。(リスト)

1 援助の必要な人のためになる	7 D.K.
2 近隣の人と手をつないで、よい地域社会をつくるためになる	
3 グループ活動を通して友達作りやチーム・ワークの体験をする	
4 他人を助けることによって自分も成長する	
5 みんなが幸せになるようにすること	
6 その他(記入)	

問29 お宅の近くに、一人暮らしの老人、身体の不自由な人、知恵おくれの子供さん等、特に介助を必要とする方がいますか？

1 いる	2 知らない	5 D.K.
3 いない	4 その他(記入)	

問30 もしそのような方がいるとしたら、あなたは、これらの方のために、ご近所の上しみて、何かお手伝いしたいと思いますか？

1 しようと思う	2 たのまればする	8 D.K.
3 したいと思うが実際にはできない	4 無関心	
5 何もしたくない	6 する必要はないと思う	
7 その他(記入)		

該当する欄に (○印を付ける)	問 22 団体所属	問 23 積極的参加	問 24 大事な役	問 25 楽しい	問 26 生きがい
	1 自治会				
	2 町内会				
	3 防犯協会				
	4 消防団				
	5 氏子会				
	6 婦人組織				
	7 P T A				
	8 商店会、同業組合				
	9 青年組織				
	10 消費者団体				
	11 コミュニティ組織				
	12 住民運動団体				
	13 結食ボランティア				
	14 講・無尽				
	15 老人クラブ				
	16 趣味の会				
	17 スポーツ団体				
	18 ライオンズ・クラブ ロータリー・クラブ				
	19 宗義団体				
	20 政治団体・政党				
	21 労働組合				
	22 職場の同好会				
	23 同 窓 会				
	24 県 人 会				
	25 その他(記入)				

26 いずれにも活動していない

27 D.K.

問31 あなたの近所に一人住まいの老人がいたとします。その方が暮こんだ時は、誰が世話をすべきであると思いますか？ (リスト)

- | | | | |
|---|--------------|---|-------------------|
| 1 | その人の親戚 | 2 | 近所の人 |
| 3 | ボランティア精神のある人 | 4 | 市が行っている援助組織から派遣の人 |
| 5 | その他(記入) | 6 | D.K. |

問32 【老後の暮らし方についてお聞きします】

あなたは、年をとって体が不自由になったような時、誰と一緒に暮らしたいと思いますか？

- | | | | |
|---|----------------------|---|----------------------|
| 1 | 配偶者 | 2 | 息子(娘さん)はいますか？ いる いない |
| 3 | 娘(息子)さんはいますか？ いる いない | 5 | 親しい友達 |
| 4 | 親戚(兄弟、甥、姪など) | 6 | 老人ホーム |
| 7 | 独り | 8 | その他(記入) |
| 9 | D.K. | | |

問33 あなたが日頃、よくつきあっている人は次の中のどのよう方でしょうか？ (リスト)【1つだけ】

- | | | | |
|---|--------------|---|-----------------|
| 1 | 隣近所の人 | 2 | 地域の人 |
| 3 | 職場・仕事に関係のある人 | 4 | 趣味・スポーツなどサークルの人 |
| 5 | それ以外の友人 | 6 | いない |
| 7 | その他(記入) | 8 | D.K. |

問34 ご近所とのつきあいについて伺います。あなたは、近所の人々(お宅のまわり2~30軒の人々)と、どの程度のつきあいをしているでしょうか？ (リスト)

- | | | | |
|---|------------|---|------------------------|
| 1 | 挨拶を交す程度 | 2 | 子供の学習・遊びを通して話す |
| 3 | 趣味のサークルを作る | 4 | 世間話をする |
| 5 | 物の貸し借りをする | 6 | 一寸したもののやりとりをする(おすそわひ等) |
| 7 | その他(記入) | 8 | D.K. |

問35 あなたがお留守の時に、デパートから贈り物が届いたとします。しかし、隣人は、それを預かっておいてくれませんでした。そういう時、あなたはそれをどう思いますか？ (リスト)

- | | | | |
|---|------------|---|------------------|
| 1 | 預ってもらいたかった | 2 | しかたがないと思う |
| 3 | 当然だと思う | 4 | 預ってもらわなくてよかったと思う |
| 5 | その他(記入) | 6 | D.K. |

問36 例えば、あなたがお隣の騒音(夜遅くの音楽など)とか悪臭に悩まされていたとします。そういうとき、あなたはどのようにしますか？ 次の中から、あなたの行動に最も近いものを1つあげて下さい。(リスト)

- | | | | |
|---|-----------------|----|--------------------|
| 1 | その家に直接話しにい | 2 | 隣の人に聞こえよがしに不愉快を表現す |
| 3 | 近所の人とそのことについて話す | 4 | 家の中でぐちをこぼす |
| 5 | 独りでもらう | 6 | 対抗して同じことをする |
| 7 | 役所や警察に訴える | 8 | 無関心 |
| 9 | その他(記入) | 10 | D.K. |

問37 あなたは、今迄に困った時、近所の人に助けてもらったことがありますか？

- | | | | | | |
|---|----|---|----|---|------|
| 1 | あり | 2 | なし | 3 | D.K. |
|---|----|---|----|---|------|

問38 あなたは次のものを、主にどこで買いますか？ (武蔵野)市内か否かを答えて下さい。

	(武蔵野)市内	それ以外
1	下着類	
2	背広、スーツ・コート	
3	食料品(日用の)	
4	薬品	
5	日用雑貨(洗剤、ティッシュ、ハミカキ等)	
6	本	
7	写真の焼付	
8	贈答品	

問39 あなたは、ふとさびしいと思った時、どうしますか？ (リスト)

- 1 外出する (デパートなど都心へ)
- 2 友人をよびだす
- 3 テレビで気まぎらわす
- 4 音楽・映画・読書・スポーツ・散歩など趣味のことをする
- 5 パチンコ等の遊戯をしに出かける
- 6 近所の家へ行く
- 7 近所で買物をする
- 8 近所の顔見知りの人がかきつけや店へ行く
- 9 お酒を飲んだり、おいしいものを食べたりする
- 10 その他 (記入)

11 D.K.

問40 大地震がおこったとします。その時、丁度、あなたは家に一人でいたとしたら、どうなさいますか？ (リスト)

- 1 近所の人と行動をもとにする
- 2 ラジオなどの報道にもとづいて、一人で行動する
- 3 その他 (記入)

4 D.K.

問41 先日の都議会議員選挙には、投票にいらっしゃいましたか？

- 1 はい
- 2 いいえ

3 D.K.

問42 あなたは、ご兄弟は何人ですか？ (あなたを含めた人数です)

あなたは、何番目ですか？

人

番目

- 1 自由民主党
- 2 社会党
- 3 民社党
- 4 公明党
- 5 共産党
- 6 新自由クラブ
- 7 社民連
- 8 支持政党なし
- 9 その他 (記入)
- 10 D.K.

問44 あなたは、お勤めをしたり、お仕事をしていますか？

- A もっている ⇨ それは専業ですか、パートですか？
- B もっていない ⇨ 主婦
- 1 専業
- 2 パート
- 3 学生
- 4 学生
- 5 無職
- 6 D.K.

問45 あなたのご職業は？ 御主人}の職業は？
美 様

(○印をつける)

	本人	配偶者
1 事務系従事者 (会社・官庁の事務職、教師、銀行員など)		
2 技術系従事者 (会社・官庁の研究員、技師、プログラマーなど)		
3 労働系従事者 (工具、乗配人、運転手、職人など)		
4 管理職 (会社・官庁の課長以上、副長、学校長など)		
5 自由業 (会社役員、開業医、弁護士など)		
6 商工自営 (小売店主など自営業者)		
7 農業 (専業農家)		
8 農業 (農業を中心とした兼業農家)		
9 林業・漁業		
10 無職・その他 (具体的に)		

11 D.K.

12 D.K.

問46 あなたの勤務地はどちらですか？ 御主人}の勤務地は？
美 様

	本人	配偶者
1 市内		
2 都下		
3 千代田区、中央区、港区		
4 上記3区以外の都区内		
5 その他 (記入)		

問47 ご家族は何人ですか？

家族の方々の年齢と年齢をお書きください(リスト)

_____ (_____) (_____) (_____) (_____)	_____ (_____) (_____) (_____) (_____)
---	---

6才~12才までの子供がいる場合には、公立小学校か否かを聞く

公立の場合には、年令の次に ㊦ と書く

私立 _____ と書く

問48 次の中から、あなたに当てはまると思うものをあげてください。(リスト)

【いくつでもあけて下さい】

- 1 明るい
- 2 きちようめん
- 3 気が短い
- 4 さっぱりしている
- 5 勇気があがる
- 6 おっちょこちよい
- 7 内気・ひっこみ思案
- 8 がんこ
- 9 人をまとめることがうまい
- 10 自分がよいと思ったことを最後までやり通す
- 11 ひとりりているのが好き
- 12 責任感がある
- 13 くよくよする
- 14 物ごとをはっきり言いすぎる
- 15 できばきしている
- 16 頼まれることとわれない
- 17 人とうまくやっけていける
- 18 おせっかい
- 19 規則や習慣にすなおに従える
- 20 新しい所や新しい人になじめない

問49 あなたにとって、今後【武蔵野市】はどのような雰囲気をもってほしいと思いますか？(リスト) (3つ以内)

- 1 古武蔵野の素材さ
- 2 いきいきした町の動き
- 3 文化の香り
- 4 まちのはなやかさ
- 5 昔ながらのゆとり
- 6 つき合いの気やすさ
- 7 さわやかな明るさ
- 8 誇りへのいたわり
- 9 ふるさとのやすらぎ
- 10 盛り場のざわめき
- 11 四季のあざやかさ
- 12 自由のときめき
- 13 ふれあいのぬくもり
- 14 成功への励み
- 15 まちの清潔感
- 16 人々のまじめさ
- 17 土のにおい
- 18 都会的なおしゃれたセンス
- 19 家並の落ちつき
- 20 ぐらしの安全
- 21 まつりのにぎわい
- 22 その他(記入)
- 23 D.K.

問50 コミュニティという言葉から、あなたが連想されるものを、この表から選んで下さい。(リスト) (3つ以内)

- 1 運動会や各種のスポーツ活動
- 2 盆踊りやお祭りなどの活動
- 3 町内会や自治会
- 4 趣味の教室や同好会
- 5 知識や見聞を広める講演会や講習会、教養講座
- 6 消費者活動
- 7 返品回収などの活動
- 8 ボランティア活動
- 9 道徳検定、ドブ掃除などの共同作業
- 10 生活環境を守る運動や公害をなくす運動など
- 11 地域の親睦会
- 12 その他(記入)
- 13 D.K.

問51 あなたが最後に出られた学校は、どちらですか？

- 1 中学校(旧制高等学校)
- 2 高校卒(旧制中学校)
- 3 短大卒
- 4 旧制高等学校卒
- 5 大学卒(旧高専)
- 6 大学院卒
- 7 その他(記入)
- 8 D.K.

問52 あなたにとって、一番大切と思われるものは何ですか？ 1つだけあげて下さい。(何でもかまいません)

長い間、ご協力有難うございました。これは、お礼の品です。つまらないものですが、お受け取り下さい。

まことに失礼ですが、お宅は、持家でいらっしゃいますか？ 借りていらっしゃいますか？

種類	戸建						集合住宅		
	上	中	下	上	中	下			
所有									
持家									
借家									
給与住宅 (社宅・寮・官公舎)									

——— 有難うございました

4

被調査者（サンプル）の特徴

1. サンプル全体について	46
2. 「不能者」について	47
(1) 不能理由	47
(2) 訪問回数	48
3. 「回答者」について	49
(1) 訪問回数・調査時間帯	49
(2) 年齢	49
(3) 学歴	50
(4) 家族人数・家族構成	51
(5) 兄弟人数・兄弟順位	54
(6) 支持政党	56
(7) 職業	59
(8) 勤務地	60
(9) 住居所有・住居状況	61
(10) 居住年	63

本章（第4章）から第13章までは、つぎのような構成で叙述がすすめられる。まず本章において、調査サンプルについての詳細（不能者についてその理由や訪問回数、回答者についての属性など）が報告される。続く第5章から第11章にわたって、前章（第3章）に述べた「調査の内容」の各枠組ごとに1章を充当し、当該枠組に属するすべての質問についての回答結果を、主として「属性とのクロス集計」（付表1～32を参照）に基づいて考察を加えていく。

以上に引き続き第12章においては、質問項目を①コミュニティ形成に関しての積極性を把握し診断する「診断項目」と、②その状況を説明するための「説明項目」とに分けて、両者の連関の様相を主として「クロス集計における比率」に着目して明らかにしていく。つぎの第13章においては、「診断項目」相互の関係、「診断項目」の分類による住民の類型化、これに対する「説明項目」との連

関などを「多変量解析」を援用して探りながら、コミュニティ形成に向けての社会的および心理的基盤を検討する。

前章に述べたごとく、訪問面接調査をおこなうサンプルは、武蔵野・三鷹両市のそれぞれについて女600人、男300人であった。以下、これらサンプルについて、主として属性からみた特性を描いていく。

1
サンプル全体について

まずサンプルを、市別、性別に有効回答者（以後、単に回答者と記す）と、それ以外（以後、不能者と記す）に分け、各々について地区別および年齢別の人数と比率を示すと、表4-1および表

表 4-1
コミュニティ地区別にみたサンプル

サ ン プ ル	武 蔵 野						三 鷹					
	女			男			女			男		
	回 答	不 能	計 (サンプル)	回 答	不 能	計 (サンプル)	回 答	不 能	計 (サンプル)	回 答	不 能	計 (サンプル)
1. 吉祥寺東	(8)34	<u>39</u>	22 (9)56	(7)12	<u>62</u>	18 (10)32	(11)47	<u>32</u>	22 (12)69	(14)27	<u>29</u>	11 (13)38
2. 吉祥寺北	(7)32	<u>24</u>	10 (7)42	(7)13	<u>52</u>	14 (9)27	(14)61	<u>34</u>	31 (15)92	(9)16	<u>54</u>	19 (12)35
3. 吉祥寺西	(10)45	<u>27</u>	17 (10)62	(8)15	<u>32</u>	7 (7)22	(21)89	<u>28</u>	35 (21)124	(18)33	<u>45</u>	27 (20)60
4. 吉祥寺南	(13)58	<u>24</u>	18 (13)76	(13)23	<u>39</u>	15 (13)38	(19)83	<u>22</u>	24 (18)107	(15)28	<u>39</u>	18 (15)46
5. 中 央	(6)24	<u>48</u>	22 (8)46	(11)20	<u>39</u>	13 (11)33	(10)45	<u>33</u>	22 (11)67	(21)40	<u>25</u>	13 (18)53
6. 中央北	(13)54	<u>19</u>	13 (11)67	(6)10	<u>44</u>	8 (6)18	(3)12	<u>70</u>	28 (7)40	(18)34	<u>37</u>	20 (18)54
7. 西久保	(8)35	<u>31</u>	16 (9)51	(7)13	<u>52</u>	14 (9)27	(22)95	<u>6</u>	6 (17)101	(9)9	<u>36</u>	5 (5)14
8. 関 前	(8)34	<u>19</u>	8 (7)42	(13)24	<u>17</u>	5 (10)29	計	(100)432	<u>28</u>	(100)100	<u>38</u>	(100)300
9. 境	(8)34	<u>38</u>	21 (9)55	(8)14	<u>46</u>	12 (9)26		168	(100)187	<u>113</u>		
10. 桜 堤	(6)25	<u>32</u>	12 (6)37	(8)15	<u>17</u>	3 (6)18						
11. 境 南	(13)56	<u>15</u>	10 (11)66	(12)21	<u>34</u>	11 (11)32						
	(100)431	<u>28</u>	169	600	(100)180	<u>40</u>						300

(注)：()内数字は地区別の構成比率(%)を示し、
一上の数字は各地区における不能率(%)を示す。

表 4-2
年 齢 別 に み た サ ン プ ル

サ ン プ ル 年 齢	武 蔵 野						三 鷹					
	女			男			女			男		
	回 答	不 能	計 (サンプル)	回 答	不 能	計 (サンプル)	回 答	不 能	計 (サンプル)	回 答	不 能	計 (サンプル)
20 ~ 25歳	(11)47	<u>41</u> 32	(13)79	(14)25	<u>48</u> 23	(16)48	(14)59	<u>37</u> 35	(16)94	(18)33	<u>33</u> 16	(16)49
26 ~ 30歳	(8)36	<u>37</u> 21	(10)57	(9)17	<u>51</u> 18	(12)35	(12)52	<u>33</u> 26	(13)78	(10)19	<u>32</u> 9	(9)28
31 ~ 35歳	(12)52	<u>28</u> 20	(12)72	(17)30	<u>44</u> 24	(18)54	(13)58	<u>23</u> 17	(13)75	(13)25	<u>40</u> 17	(14)42
36 ~ 40歳	(12)52	<u>17</u> 11	(11)63	(12)22	<u>21</u> 6	(9)28	(8)35	<u>27</u> 13	(8)48	(11)20	<u>38</u> 12	(11)32
41 ~ 45歳	(8)35	<u>31</u> 16	(9)51	(7)13	<u>46</u> 11	(8)24	(11)48	<u>26</u> 17	(11)65	(11)21	<u>38</u> 13	(11)34
46 ~ 50歳	(11)47	<u>13</u> 7	(9)54	(7)13	<u>41</u> 9	(7)22	(12)50	<u>12</u> 7	(10)57	(12)22	<u>31</u> 10	(11)32
51 ~ 55歳	(10)44	<u>23</u> 13	(10)57	(9)17	<u>29</u> 7	(8)24	(7)29	<u>29</u> 12	(7)41	(9)16	<u>36</u> 9	(8)25
56 ~ 60歳	(8)35	<u>29</u> 14	(8)49	(8)15	<u>35</u> 8	(8)23	(9)38	<u>27</u> 14	(9)52	(5)10	<u>41</u> 7	(6)17
61 ~ 65歳	(7)30	<u>14</u> 5	(6)35	(4) 8	<u>38</u> 5	(4)13	(4)18	<u>25</u> 6	(4)24	(4) 8	<u>43</u> 6	(5)14
66 ~ 70歳	(4)17	<u>32</u> 8	(4)25	(5) 9	<u>36</u> 5	(5)14	(5)23	<u>26</u> 8	(5)31	(4) 7	<u>42</u> 5	(4)12
71 歳 ~	(8)36	<u>38</u> 22	(10)58	(6)11	<u>27</u> 4	(5)15	(5)22	<u>37</u> 13	(6)35	(3) 6	<u>60</u> 9	(5)15
合 計	(100)431	<u>28</u> 169	600	(100)180	<u>40</u> 120	(100)300	(100)432	<u>28</u> 168	(100)600	(100)187	<u>38</u> 113	(100)300

(注)：() 内数字は年齢別の構成比率 (%) を示し、一上の数字は各年齢層における不能率 (%) を示す。

4-2 の通りである。

地区別、年齢別にみて、不能率には多少の差違はあるものの、回答者とサンプル全体とについては構成比率は殆んど変わらない。したがって、得られた回答者は、少なくとも地区および年齢の構成に関しては歪みの少ないものと考えられよう。

2
「不能者」について

(1) 不能理由

不能理由とその分布をみると表 4-3 のごとくである。

選挙人名簿が新しいものであったため、「転居」は比較的少なかった。しかし三鷹の場合は、名簿

の設定の日から抽出の日まで2ヶ月の間隔が空いたので、武蔵野に比べて多少「転居」が多くなっている。

「拒否」による不能は3~4割と、かなり高率である。これは「不在」による不能とほぼ同程度であり、訪問面接調査が次第に困難となってきたことがみられる。

不能理由を年齢別にみると表 4-4 の通りである。

「転居」は、女の場合は年齢による差は明らかでないが、男の場合は若年層に多く、この年齢層で流動の多いことがわかる。「病気」は男女とも老年に多い。「不在」(長期不在を含む)は、女の場合は若年層に多く、男の場合は40歳まではほぼ同じ比率で多くなっており、職業や余暇活動による生活時間の様相がこの年代で類似していることが

表 4-3
「調査不能」の理由

不能理由 不能サンプル		転居	病 気 (老 衰)	旅行・出張 (長期不在)	不 在	拒 否	そ の 他	計
女	武蔵野	(8) 14	(10) 17	(17) 28	(36) 60	(28) 48	(1) 2	(100) 169
	三鷹	(18) 30	(11) 18	(5) 9	(20) 33	(43) 72	(4) 6	(100) 168
男	武蔵野	(9) 11	(5) 6	(12) 14	(32) 38	(38) 46	(4) 5	(100) 120
	三鷹	(12) 14	(10) 11	(5) 6	(38) 43	(29) 33	(5) 6	(100) 113

表 4-4
年 齢 別 に み た 「不 能 理 由」

不能理由 年 齢		転居	病 気 (老衰を含む)	旅行・出張 (長期不在)	不 在	拒 否	そ の 他	計	
女	武蔵野	20～25歳	(9) 3		(25) 8	(47) 15	(19) 6		(100) 32
		26～35歳	(2) 1		(15) 6	(56) 23	(22) 9	(5) 2	(100) 41
		36～50歳	(12) 4	(6) 2	(15) 5	(29) 10	(38) 13		(100) 34
		51～65歳	(6) 2	(3) 1	(13) 4	(31) 10	(47) 15		(100) 32
		66歳～	(13) 4	(47) 14	(17) 5	(7) 2	(17) 5		(100) 30
	三鷹	20～25歳	(17) 6	(6) 2	(6) 2	(26) 9	(43) 15	(3) 1	(100) 35
		26～35歳	(30) 13	(2) 1	(7) 3	(14) 6	(42) 18	(5) 2	(100) 43
		36～50歳	(11) 4	(11) 4	(3) 1	(24) 9	(43) 16	(8) 3	(100) 37
		51～65歳	(13) 4	(9) 3	(3) 1	(22) 7	(53) 17		(100) 32
		66歳～	(14) 3	(38) 8	(10) 2	(10) 2	(29) 6		(100) 21
男	武蔵野	20～30歳	(17) 7		(10) 4	(44) 18	(22) 9	(7) 3	(100) 41
		31～40歳	(3) 1	(3) 1	(17) 5	(40) 12	(33) 10	(3) 1	(100) 30
		41～55歳	(7) 2	(4) 1	(15) 4	(22) 6	(48) 13	(4) 1	(100) 27
		56歳～	(5) 1	(18) 4	(5) 1	(9) 2	(64) 14		(100) 22
		三鷹	20～30歳	(24) 6			(44) 11	(20) 5	(12) 3
	31～40歳		(14) 4		(7) 2	(55) 16	(21) 6	(3) 1	(100) 29
	41～55歳		(6) 2	(6) 2	(9) 3	(31) 10	(44) 14	(3) 1	(100) 32
	56歳～		(7) 2	(33) 9	(4) 1	(22) 6	(30) 8	(4) 1	(100) 27

(注)：年齢区分は、理由別分布の差異が現われる段階で区切っている。従って女と男の区分は異なっている。
以下のクロス表においても、概ね、この様な基準で区切っている。
() 内数字は各年齢層における理由別比率(%)を示す。

わかる。「拒否」は、男女とも51～65歳程度の中
高年に多く、高年になる程こうした調査に抵抗を
示すものと考えられよう。

(2) 訪問回数

訪問回数の分布は表 4-5 の通りである。

訪問回数は理由によって異なる。「転居」「病気」
などは1回の訪問で不能と決まることが半数以上
であるが、単なる「不在」の場合は、大多数が3

表 4-5
訪問回数（不能サンプル）

訪問回数 不能サンプル		訪問回数							計
		1 回	2 回	3 回	4 回	5 回	6 回以上	不 明	
女	武蔵野	(27) 46	(27) 45	(22) 38	(9) 15	(6) 10	(8) 14	(1) 1	(100) 169
	三 鷹	(36) 60	(27) 46	(19) 32	(10) 17	(4) 7	(4) 6	—	(100) 168
男	武蔵野	(21) 25	(22) 26	(19) 23	(12) 14	(16) 19	(9) 11	(2) 2	(100) 120
	三 鷹	(43) 49	(15) 17	(20) 23	(9) 10	(10) 11	(3) 3	—	(100) 113

表 4-6
性別・市別にみた「訪問回数」

訪問回数 回答者		訪問回数							計
		1 回	2 回	3 回	4 回	5 回	6 回以上	不 明	
女	武蔵野	(48) 205	(30) 129	(15) 65	(5) 21	(2) 7	(1) 4	—	(100) 431
	三 鷹	(51) 219	(29) 127	(11) 49	(4) 18	(2) 10	(2) 9	—	(100) 432
男	武蔵野	(38) 68	(31) 55	(13) 24	(4) 8	(8) 15	(4) 8	(1) 2	(100) 180
	三 鷹	(44) 82	(31) 58	(12) 23	(9) 16	(4) 7	(1) 1	—	(100) 187

回以上は訪問しており、約3割は5回以上の訪問を重ねて不能としている。「拒否」は1回または2回の訪問で、はっきり拒絶を示され不能となったケースが約半数であるが、4回以上も訪問して結局拒否となったケースも2割程度あった。

3
「回答者」について

(1) 訪問回数・調査時間帯

訪問回数を性別および市別でみた場合、その分布は表4-6のごとくである。

これによると1回目の訪問で調査可能となったものは、女では約半数あるが、男では約4割程度であり、5回以上の訪問をして漸く調査可能となったものも、男には5%以上ある。とくに武蔵野においては6回以上が4%であったことから、武蔵野で男のサンプルを担当した調査員の努力が察せられる。

これを年齢別にみると、両市共通に次のことがわかる（表4-7を参照）。

表 4-7
年齢別にみた「訪問回数」

訪問回数 回答者		訪問回数				(計)	平均
		1 回	2 回	3 回	4 回以上		
女	20～25歳	33%	28%	23%	16%	(100%)	2.4回
	26～65歳	48	32	12	8	(100)	1.6回
	66歳～	73	15	9	2	(100)	1.2回
男	20～55歳	37	34	13	16	(100)	2.3回
	56歳～	55	19	11	15	(100)	2.0回

(注)：ほぼ同比率の年代は、合せて比率(%)を示す。

すなわち、女の25歳以下、男の55歳以下は、調査可能となるまでに平均的に約2.4回訪問しなければならぬということである。これに比し、女の高齢者の約4分の3は1回の訪問で調査可能である。

調査可能となった時間帯の分布は、表4-8の通りである。女については、昼食頃までの時間帯で約3割は可能となる。男については、夕食頃以後に可能となることが多い。

(2) 年 齢

年齢別分布は、すでに表4-2に示してある。武

表 4-8
調査可能となった時間帯

調査時間 回答者		朝食頃		午 前		昼食頃		午 後		夕食頃		夜		不 明		計	
		(1)	(2)	(1)	(2)	(1)	(2)	(1)	(2)	(1)	(2)	(1)	(2)	(1)	(2)	(1)	(2)
女	武蔵野	(1) 4	(16) 70	(9) 39	(49) 211	(15) 66	(10) 41	—	(100) 431								
	三 鷹	(2) 7	(28) 119	(16) 70	(41) 176	(11) 47	(3) 13	—	(100) 432								
男	武蔵野	(1) 1	(5) 9	(7) 12	(39) 71	(24) 44	(23) 41	(1) 2	(100) 180								
	三 鷹	—	(13) 25	(9) 16	(44) 83	(13) 25	(20) 38	—	(100) 187								

蔵野は三鷹に比し、老齢人口（65歳以上）が多い。このことは、第2章においても触れたごとく、表3-2（P.32）に示した市人口の年齢構成によっても明らかである。表4-2に示される通り、サンプル全体および回答者における年齢構成も表3-2と同じ様相を示している。

ところで、以後の分析において、年齢別に回答分布をみていく際、年齢区分の切り方は、当該の項目分布において差異が明らかである点で区切っている。したがって多くの場合、年齢区分は男女によって異なっており、また、各項目ごとに必ずしも一定していない（ただし、予じめ定めた年齢層における回答分布を知ろうという場合は別である）。しかし、この章における他の属性項目との関連、および第5章以降での質問項目との関連においては、多くの場合、次の区分を用いている。すなわち、女においては、〔20～25歳、26～35歳、36～50歳、51～65歳、65歳以上〕の5区分、男においては、〔20～30歳、31～40歳、41～55歳、56

歳以上〕の4区分である。これは、女においては家族における位置、役割の差異を、男においては職場社会への関わり方の差異を示す年齢区分であり、他の属性との関係、とくに地域への問題意識に最も深い関連を示す年齢区分とみられるのである。

（3）学 歴

学歴については問51で尋ねている。質問文と性別、市別の回答結果の分布を示すと表4-9の通りである。

ちなみに、市別に男女を併せた比率（比率による男女平均）と『国勢調査』（昭55年10月）による比率とを比較してみると表4-10のごとくであり、回答者による比率は『国勢調査』におけるものとほぼ合致していることがみられる。

つぎに、学歴を年齢別にみよう。年齢を〔若年、中年、高年〕の3区分とし（この区分は男女により異なる）、学歴を〔新制中学（D.K.を含む）、新制高校（表4-9におけるコードで2,3,4,7

表 4-9

学 歴

問51 あなたが最後に出られた学校は、どちらですか？

学 歴 回答者		1. 中学卒 (旧制高等 小学校)	2. 高校卒 (旧制中 学校)	3. 短大卒	4. 旧制高 等学校卒	5. 大学卒 (旧高専)	6. 大学院 卒	7. その他 (記入)	D. K.
		(13) 56	(52) 226	(12) 53	(7) 32	(13) 55	(1) 2	(1) 3	(1) 4
女	武蔵野	(16) 68	(49) 211	(14) 59	(7) 29	(13) 58	(0) 1	(1) 3	(1) 3
	三 鷹	(11) 19	(36) 64	(2) 4	(2) 3	(45) 81	(2) 3	(2) 3	(2) 3
男	武蔵野	(9) 17	(42) 78	(1) 1	(3) 5	(45) 84	(1) 2	(0) 0	(0) 0
	三 鷹								

(注)：「旧制高等学校卒」に反応した女の回答者が多いが、これは「旧制高等女学校」の誤りで、高校卒に入れるべきものと考えられる。

表 4-10
学歴（『国勢調査』結果との比較）

サンプル		学歴	新制中学 (0, 1)	新制高校 (2, 4, 7)	短大, 高 専(3)	大学以上 (5, 6)
		回答者				
武蔵野	回答者		13%	50%	7%	30%
	国勢調査		13	47	13	27
三鷹	回答者		13	50	8	29
	国勢調査		19	48	11	22

(注)：学歴の欄の()内数字は、表 4-9 における学歴のコードを示す。『国勢調査』による比率(%)は、表 2-1 による人数において在学者(15歳以上)のうち 20歳以上と推定される人数を高卒者とみなし比率を算出したおしものである。学歴の区分は 4 段階にまとめた。回答者のうち、「D.K.」は中学に、「その他」は高校に併合した。

を併合)、大学(大学院を含む)の 3 段階とした。この結果を表 4-11 に示す。

これによると、女においては高年から若年へと、学歴は低い方から高い方へ傾いていくが、男においては、若年になるに従って、学歴の低いものは女と同様少なくなるが、学歴の高い方も若年に向ってやや少なくなってきていることがみられる。これは、男の高年の回答者の中に旧制の高校、専門学校等を「大学」と答える者が多かったためとも考えられるが、中年が若年より大学卒比率の高いことは考慮すべき点であると思われる。

(4) 家族人数・家族構成

家族人数と家族構成については問 47 で尋ねている。まず家族人数についてみると、その分布は表 4-12 に示す通りである。

表 4-11
年齢別にみた「学歴」

回答者		学歴	武蔵野				三鷹			
			新制中学 (D.K., 0, 1)	新制高校 その他 (2, 3, 4, 7)	大 大 学 院 (5, 6)	計	新制中学 (D.K., 0, 1)	新制高校 その他 (2, 3, 4, 7)	大 大 学 院 (5, 6)	計
女	若年	20歳～25歳	(2) 1	(81) 38	(17) 8	47	(0) 0	(76) 45	(24) 14	59
	中年	26歳～50歳	(10) 22	(76) 169	(14) 31	222	(12) 29	(73) 178	(15) 36	243
	高年	51歳～	(23) 37	(66) 107	(11) 18	162	(32) 42	(61) 79	(7) 9	130
		計	(14) 60	(73) 314	(13) 57	431	(16) 71	(70) 302	(14) 59	432
男	若年	20歳～30歳	(2) 1	(57) 24	(41) 17	42	(2) 1	(59) 31	(39) 20	52
	中年	31歳～55歳	(12) 11	(41) 39	(47) 45	95	(9) 9	(43) 45	(48) 50	104
	高年	56歳～	(23) 10	(26) 11	(51) 22	43	(26) 7	(23) 7	(52) 16	31
		計	(12) 22	(41) 74	(47) 84	180	(9) 17	(45) 84	(46) 86	187

(注)：学歴の欄の()内数字は、表 4-9 における学歴のコードを示す。

表 4-12
家族人数

問 47 ご家族は何人ですか？

回答者		家族人数										
		1 人	2 人	3 人	4 人	5 人	6 人	7 人	8 人	9 人	D.K.	
女	武蔵野	(11) 48	(18) 77	(20) 85	(29) 123	(15) 65	(6) 28	(0) 2	(0) 0	(0) 1	(0) 2	
	三鷹	(6) 24	(16) 69	(21) 92	(36) 154	(12) 52	(8) 33	(1) 4	(1) 3	(0) 0	(0) 1	
男	武蔵野	(17) 31	(12) 22	(19) 34	(27) 48	(16) 28	(5) 9	(3) 5	(1) 1	(0) 0	(1) 2	
	三鷹	(13) 24	(10) 19	(25) 47	(26) 49	(17) 31	(4) 8	(1) 1	(0) 0	(0) 0	(4) 8	

表 4-13
年 齢 別 に み た 「 家 族 人 数 」

回 答 者		家 族 人 数						計	平均人数	
		1 人	2 人	3 人	4 人 (D.K.)	5 人	6人以上			
女	武 蔵 野	20~25歳	(34) 16	(9) 4	(11) 5	(30) 14	(13) 6	(4) 2	47	2.9
		26~35歳	(6) 5	(19) 17	(27) 24	(33) 29	(11) 10	(3) 3	88	3.4
		36~45歳	(3) 3	(8) 7	(10) 9	(41) 36	(23) 20	(14) 12	87	4.2
		46~55歳	(2) 2	(10) 9	(26) 24	(41) 37	(18) 16	(3) 3	91	3.7
		56~65歳	(12) 8	(38) 25	(25) 16	(8) 5	(8) 5	(9) 6	65	2.9
		66歳~	(26) 14	(28) 15	(13) 7	(8) 4	(15) 8	(9) 5	53	2.8
	三 鷹	20~25歳	(8) 5	(14) 8	(17) 10	(34) 20	(12) 7	(15) 9	59	3.8
		26~35歳	(4) 4	(12) 13	(26) 29	(47) 52	(8) 9	(3) 3	110	3.5
		36~45歳	(4) 0	(4) 3	(16) 13	(47) 39	(22) 18	(12) 10	83	4.2
		46~55歳	(3) 2	(19) 15	(22) 17	(43) 34	(9) 7	(5) 4	79	3.5
		56~65歳	(16) 9	(30) 17	(27) 15	(13) 7	(4) 2	(11) 6	56	2.9
		66歳~	(9) 4	(29) 13	(18) 8	(7) 3	(20) 9	(18) 8	45	3.6
男	武 蔵 野	20~25歳	(52) 13	(12) 3	(16) 4	(16) 4	(4) 1	() 0	25	2.0
		26~35歳	(26) 12	(11) 5	(21) 10	(23) 11	(11) 5	(9) 4	47	3.1
		36~45歳	(9) 3	(6) 2	(20) 7	(37) 13	(17) 6	(11) 4	35	3.9
		46~55歳	(3) 0	(3) 1	(24) 7	(41) 12	(28) 8	(3) 1	29	4.0
		56~65歳	(13) 3	(30) 7	(4) 1	(35) 8	(13) 3	(4) 1	23	3.2
		66歳~	() 0	(19) 4	(24) 5	(10) 2	(24) 5	(24) 5	21	4.3
	三 鷹	20~25歳	(36) 12	(6) 2	(15) 5	(30) 10	(12) 4	() 0	33	2.7
		26~35歳	(18) 8	(7) 3	(32) 14	(25) 11	(11) 5	(7) 3	44	3.2
		36~45歳	(10) 4	(2) 1	(29) 12	(32) 13	(20) 8	(7) 3	41	3.7
		46~55歳	(8) 3	(8) 3	(13) 5	(50) 19	(26) 10	(3) 1	38	4.0
		56~65歳	() 0	(11) 2	(44) 8	(17) 3	(22) 4	(6) 1	18	3.7
		66歳~	() 0	(62) 8	(23) 3	(8) 1	() 0	(8) 1	13	2.6

ちなみに平均家族人数を算出してみた(ただし、不明を除き、9人以上は一応9人とし、男女のサンプルを単純に加えて合わせて計算した)。この結果は、武蔵野3.41人、三鷹3.55人であり、昭和55年10月1日の『国勢調査』の平均世帯人数(武蔵野2.54人、三鷹2.68人)と比べると、両市とも若干多くなっている。これは、調査の際には別世帯で

あっても同居している者について同一家族として答えたり、または別居の者を家族に加えて答えたりするためと考えられる。

家族人数の分布を年齢別にみると表4-13の通りである。

女では年齢36~45歳、男では46~55歳の所で平均人数は最も多くなっている。この年齢層では3

表 4-14
家 族 構 成

家 族 構 成		1. 定位家族	2. 単 身	3. 夫婦のみ	4. 配偶者と親兄弟等(子, 孫)なし	5. 親と子(学童以下あり)	6. 親なし, 子あり(学童以下あり)	7. 親と子(学童以下なし)	8. 親なし, 子あり(学童以下なし)	9. 被扶養状態	10. D. K.	計
女	武蔵野	(8) 36	(11) 48	(14) 61	(3) 11	(7) 28	(25) 108	(4) 16	(21) 91	(7) 30	(1) 2	431
	三 鷹	(16) 68	(6) 24	(12) 51	(1) 5	(4) 18	(27) 117	(4) 16	(24) 102	(7) 30	(0) 1	
男	武蔵野	(13) 23	(17) 31	(9) 16	(4) 7	(6) 11	(22) 39	(3) 5	(21) 38	(4) 8	(1) 2	180
	三 鷹	(16) 29	(13) 24	(9) 17	(2) 3	(3) 5	(27) 50	(5) 10	(20) 38	(2) 3	(4) 8	

表 4-15
年 齢 別 に み た 「 家 族 構 成 」

家 族 構 成		1. 定位家族	2. 単 身	3. 夫婦のみ	4. 配偶者と親兄弟等(子, 孫)なし	5. 親と子(学童以下あり)	6. 親なし, 子あり(学童以下あり)	7. 親と子(学童以下なし)	8. 親なし, 子あり(学童以下なし)	9. 被扶養状態	10. D. K.	計	
女	武蔵野	20~25歳	(51) 24	(36) 17	(4) 2	(2) 1	(6) 3	(6) 0	(1) 0	(0) 0	(0) 0	47	
		26~35歳	(6) 5	(5) 4	(16) 14	(5) 4	(11) 10	(57) 50	(1) 1	(0) 0	(0) 0		
		36~50歳	(1) 2	(4) 5	(5) 7	(2) 3	(13) 17	(40) 54	(4) 6	(29) 39	(1) 0		
		51~65歳	(5) 5	(7) 8	(23) 25	(3) 3	(1) 1	(1) 1	(9) 10	(41) 45	(9) 10		(1) 1
		66歳~	0 14	(26) 14	(25) 13	0 0	0 0	0 0	0 0	(11) 6	(38) 20		0 0
	三 鷹	20~25歳	(76) 45	(8) 5	(8) 5	(2) 1	(5) 0	(5) 3	(5) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0	110
		26~35歳	(15) 16	(4) 4	(10) 11	(1) 1	(7) 8	(64) 70	(10) 10	(41) 55	(1) 1	(0) 0	
		36~50歳	(3) 4	(2) 2	(2) 3	(2) 2	(8) 10	(32) 43	(10) 13	(41) 55	(1) 1	(0) 0	
		51~65歳	(2) 2	(11) 9	(27) 23	(1) 1	0 0	(1) 1	(4) 3	(44) 37	(9) 8	(1) 1	
		66歳~	(2) 1	(9) 4	(20) 9	(1) 0	0 0	0 0	0 0	(22) 10	(47) 21	0 0	
男	武蔵野	20~30歳	(43) 18	(38) 16	(7) 3	(2) 1	(7) 3	(7) 0	(0) 0	(0) 0	(2) 1	42	
		31~40歳	(6) 3	(23) 12	(4) 2	(4) 2	(10) 5	(48) 25	(4) 0	(4) 2	(2) 1		
		41~55歳	(2) 1	0 0	(2) 1	(5) 2	(14) 6	(26) 11	(7) 3	(44) 19	0 0		0 0
		56歳~	(2) 1	(7) 3	(23) 10	(5) 2	0 0	0 0	(5) 2	(40) 17	(19) 8		0 0
		20~30歳	(50) 26	(29) 15	(4) 2	0 0	(8) 4	(8) 4	(0) 0	(0) 0	(0) 0		(10) 5
	三 鷹	31~40歳	(7) 3	(16) 7	(2) 1	(2) 1	(7) 3	(53) 24	(2) 1	(7) 3	0 0	(4) 2	52
		41~55歳	0 0	(3) 2	(7) 4	0 0	(3) 2	(36) 21	(12) 7	(39) 23	0 0	0 0	
		56歳~	0 0	0 0	(32) 10	(6) 2	0 0	(3) 1	(6) 2	(39) 12	(10) 3	(3) 1	
		20~30歳	(50) 26	(29) 15	(4) 2	0 0	(8) 4	(8) 4	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(10) 5	
		31~40歳	(7) 3	(16) 7	(2) 1	(2) 1	(7) 3	(53) 24	(2) 1	(7) 3	0 0	(4) 2	
41~55歳	0 0	(3) 2	(7) 4	0 0	(3) 2	(36) 21	(12) 7	(39) 23	0 0	0 0			
56歳~	0 0	0 0	(32) 10	(6) 2	0 0	(3) 1	(6) 2	(39) 12	(10) 3	(3) 1			

世代家族であったり、また、子供が殆んど全員家族内に同居している故と考えられる。

つぎに、家族構成についてみていこう。家族構成に関しては家族構成員と世帯主との属性を聞きとり記入した。これにより、たとえば、3世代家族に属するものが何人いるかなど、細かく構成をみていくことができたが、コミュニティに関連をもった分類としては9種に分けた。主として子、特に学童以下の子の有無と親世代との同居ということに着目して分類した。前者は、P. T. A. などの関連もあって地域に積極性を示すであろうということ、後者は、高齢者を通しての地域への親密感があろうことを想定したからである。9種類の家族構成による分布をみると、表4-14のごとくである。

ここで「1. 定位家族」には正確な出自家族だけではなく、兄弟、祖父母、親戚などとのみの同居家族をも含めた。要するに配偶者がなく、かつ本人より下の親などに当るものがないものをすべて含めている。「9. 被扶養状態」とは家族の主体

が本人の子夫婦に移行しているとみられる家族である。

家族構成を年齢別にみると表4-15の通りである。

これによると、当然のことながら家族構成は年齢と深い関係にあるということがわかる。すなわち、若年層で「定位家族」や「単身」が、中年の前半では「学童以下の子あり」の家族が、中年の後半では「学童以外の子あり」の家族が多くなる。高年では「被扶養」あるいは「夫婦のみ」の家族も多くなり、とくに武蔵野の女においては「単身」が多いことが顕著であり、武蔵野の老人対策の反映であることも考えられる。両市とも高齢者の単身世帯が男より女に多いことも注目すべきであろう。

(5) 兄弟人数・兄弟順位

生育環境において兄弟数の多いことは、他人との親交を容易にさせる要因とも考えられ、このことがコミュニティとの交わりにも関係すると考えてこれを問32で尋ねた。兄弟人数の分布は表4-16、

表 4-16

兄 弟 人 数

問42 あなたは、ご兄弟は何人ですか？（あなたを含めた人数です）

兄弟人数		1 人	2 人	3 人	4 人	5 人	6 人	7 人	8 人	9人以上	D. K.
女	武蔵野	(5) 22	(20) 87	(23) 97	(19) 83	(11) 48	(12) 50	(5) 21	(2) 8	(3) 12	(1) 3
	三 鷹	(6) 26	(19) 84	(19) 80	(21) 89	(14) 62	(9) 37	(5) 20	(3) 11	(3) 12	(3) 11
男	武蔵野	(8) 14	(17) 30	(26) 47	(17) 31	(8) 15	(9) 17	(6) 10	(2) 3	(3) 6	(4) 7
	三 鷹	(5) 10	(24) 44	(23) 42	(17) 31	(10) 19	(10) 19	(3) 6	(1) 2	(4) 8	(3) 6

表 4-17

兄 弟 順 位

問42 あなたは、何番目ですか？

兄弟順位		1 番目	2 番目	3 番目	4 番目	5 番目	6 番目	7 番目	8 番目	9 番目 以下	D. K.
女	武蔵野	(36) 155	(22) 95	(19) 83	(10) 42	(7) 28	(4) 15	(1) 4	(1) 5	(0) 2	(0) 2
	三 鷹	(32) 137	(28) 122	(16) 70	(10) 41	(6) 26	(3) 13	(2) 8	(1) 3	(0) 2	(2) 10
男	武蔵野	(36) 65	(22) 39	(19) 35	(11) 19	(3) 6	(2) 3	(1) 2	(1) 1	(2) 3	(4) 7
	三 鷹	(33) 61	(28) 52	(15) 28	(6) 12	(8) 15	(3) 6	(1) 2	(1) 2	(1) 2	(4) 2

表 4-18
年 齢 別 に み た 「兄 弟 数」

回答者		兄弟数					計	平均	回答者		兄弟数					計	平均
		1人	2人	3, 4人 D. K.	5人 以上						1人	2人	3, 4人 D. K.	5人 以上			
女	武蔵野	20~25歳	0	(47) 22	(49) 23	(4) 2	47	2.7	武蔵野	20~25歳	(16) 4	(40) 10	(40) 10	(4) 1	25	2.4	
		26~35歳	(7) 6	(19) 17	(58) 51	(16) 14	88	3.4		26~35歳	(4) 2	(17) 8	(70) 33	(9) 4	47	3.3	
		36~50歳	(4) 5	(16) 21	(44) 59	(37) 49	134	4.3		36~50歳	(6) 3	(9) 4	(43) 20	(43) 20	47	4.6	
		51~65歳	(6) 6	(11) 12	(34) 37	(50) 54	109	4.4		51~65歳	(10) 4	(10) 4	(38) 15	(43) 17	40	4.2	
		66歳以上	(9) 5	(28) 15	(25) 13	(38) 20	53	3.9		66歳以上	(5) 1	(19) 4	(33) 7	(43) 9	21	4.4	
	計	(5) 22	(20) 87	(42) 183	(32) 139	431		計	(8) 30	(17) 30	(47) 85	(28) 51	180				
	三鷹	20~25歳	(14) 8	(54) 32	(29) 17	(3) 2	59	2.3	三鷹	20~25歳	(18) 6	(45) 15	(30) 10	(6) 2	33	2.4	
		26~35歳	(5) 5	(22) 24	(57) 63	(16) 18	110	3.4		26~35歳	(2) 1	(25) 11	(57) 25	(16) 7	44	3.3	
		36~50歳	(5) 7	(11) 14	(34) 45	(50) 67	133	4.6		36~50歳		(17) 0	(40) 25	(43) 27	63	4.6	
		51~65歳	(5) 4	(9) 8	(41) 35	(45) 38	85	4.5		51~65歳	(3) 1	(9) 3	(44) 15	(44) 15	34	4.5	
66歳以上		(4) 2	(13) 6	(44) 20	(38) 17	45	4.2	66歳以上		(15) 2	(31) 4	(31) 4	(23) 3	13	3.3		
計	(6) 26	(19) 84	(42) 130	(33) 142	432		計	(5) 10	(24) 44	(42) 79	(29) 54	187					

表 4-19

支 持 政 党

問43 あなたは、何党を支持していらっしゃいますか？

回答者		政 党									
		1. 自由民主 党	2. 社会党	3. 民社党	4. 公明党	5. 共産党	6. 新自由ク ラブ	7. 社民連	8. 支持政党 なし	9. その他	D. K.
女	武蔵野	(30) 131	(15) 64	(2) 9	(5) 20	(4) 18	(1) 3	(2) 7	(32) 138	(4) 18	(5) 23
	三鷹	(27) 115	(11) 48	(3) 13	(4) 15	(3) 13	(1) 2	(1) 5	(41) 179	(4) 17	(6) 25
男	武蔵野	(30) 54	(9) 16	(3) 6	(2) 3	(7) 12	(1) 2	(2) 4	(36) 65	(4) 7	(6) 11
	三鷹	(29) 54	(10) 19	(3) 5	(4) 7	(4) 7	(2) 4	(0) 0	(41) 76	(2) 4	(6) 11

兄弟順位の分布は表4-17のごとくであった。

ところで兄弟数は、年次による全般的な出生数の変化に大いに関連があり、このことは、出生年すなわち年齢と関係があるとみられる。そこで年齢別に兄弟数をみてみると表4-18のごとくである。

これによると、男女とも36~65歳において兄弟数が多いことが明らかである。このことは、大正5年から昭和20年の間に生まれた人であり出生率

が高い時代と合致している。この事実は、コミュニティに関する意識の分析の際に考慮しなければならないであろう。すなわち、兄弟数が多いという生育時の環境によって他者と交わりやすい（近隣と親交関係を結びやすい）パーソナリティを持っている故か、あるいは、中年という年代がコミュニティに強い志向を持つ故か、判然とは分け難いことに注意すべきであるということである。

なお、兄弟順位は兄弟数に従属しているので、

表 4-20
年齢別・学歴別にみた「支持政党」

年齢・学歴		武蔵野						三鷹						
		1.6 自民党 系	4. 公明党	2.3.5.7 革新系	8. 支持政 党なし	9.0 その他 無答	計	1.6 自民党 系	4. 公明党	2.3.5.7 革新系	8. 支持政 党なし	9. その他 無答	計	
年 齢	女	20～25歳	(13) 6	(2) 1	(19) 9	(60) 28	(6) 3	47	(12) 7	(2) 1	(7) 4	(76) 45	(3) 2	59
		26～35歳	(23) 20	(7) 6	(26) 23	(39) 34	(6) 5	88	(20) 22	(4) 4	(16) 18	(53) 58	(7) 8	110
		36～45歳	(32) 28	(5) 4	(18) 16	(34) 30	(10) 9	87	(31) 26	(6) 5	(14) 12	(39) 32	(10) 8	83
		46～55歳	(34) 31	(4) 4	(30) 27	(20) 18	(12) 11	91	(29) 23	(3) 2	(28) 22	(29) 23	(11) 9	79
		56～65歳	(40) 26	(5) 3	(17) 11	(28) 18	(11) 7	65	(45) 25	(4) 2	(20) 11	(18) 10	(14) 8	56
		66歳～	(43) 23	(4) 2	(23) 12	(19) 10	(11) 6	53	(31) 14	(2) 1	(27) 12	(24) 11	(16) 7	45
	計	(31) 134	(5) 20	(23) 98	(32) 138	(10) 41	431	(27) 117	(3) 15	(18) 79	(41) 179	(10) 42	432	
別	男	20～30歳	(10) 4	(5) 2	(31) 13	(55) 23	0	42	(25) 13	(6) 3	(10) 5	(54) 28	(6) 3	52
		31～40歳	(13) 7	0	(19) 10	(54) 28	(13) 7	52	(16) 7	(4) 2	(24) 11	(47) 21	(9) 4	45
		41～50歳	(36) 9	0	(20) 5	(36) 9	(8) 2	25	(42) 18	(2) 1	(16) 7	(30) 13	(9) 4	43
		51～65歳	(60) 24	0	(15) 6	(8) 3	(18) 7	40	(47) 16	(3) 1	(12) 4	(32) 11	(6) 2	34
		66歳～	(57) 12	(5) 1	(19) 4	(10) 2	(10) 2	21	(31) 4	0	(31) 4	(23) 3	(15) 2	13
		計	(31) 56	(2) 3	(21) 38	(36) 65	(10) 18	180	(31) 58	(4) 7	(17) 31	(41) 76	(8) 15	187
学 歴	女	中学(新), D.K.	(27) 16	(10) 6	(20) 12	(30) 18	(13) 8	60	(28) 20	(6) 4	(18) 13	(32) 23	(15) 11	71
		高校(新), 短大	(32) 101	(4) 14	(23) 72	(31) 98	(9) 29	314	(28) 85	(3) 10	(18) 55	(42) 127	(8) 25	302
		大学以上	(30) 17	0	(25) 14	(39) 22	(7) 4	57	(20) 12	(2) 1	(19) 11	(49) 29	(10) 6	59
	男	中学(新), D.K.	(55) 12	(5) 1	(14) 3	(23) 5	(5) 1	22	(41) 7	0	(12) 2	(35) 6	(12) 2	17
		高校(新), 短大	(26) 19	(1) 1	(24) 18	(42) 31	(7) 5	74	(21) 18	(2) 2	(21) 18	(49) 41	(6) 5	84
		大学以上	(30) 25	(2) 1	(20) 17	(35) 29	(14) 12	84	(38) 33	(6) 5	(13) 11	(34) 29	(9) 8	86

他の属性との関連において特に見るべきものはない。

(6) 支持政党

支持政党について問43で尋ねている。コミュニティ志向が、支持政党の有無、および保守・革新あるいは公明党を支持すること、どの様に関連しているかをみるために、この設問を提示している。回答結果を市別、性別にみると表4-19の通り

である。

これによると、三鷹は武蔵野に比べ「支持政党なし」が多いことが顕著である。支持政党を自民党系（自民党と新自由クラブ）と革新系（社会党、民社党、共産党、社民連）とに2分し、「その他」は無答と合わせて、年齢別、学歴別の分布をみると表4-20のごとくである。

年齢別に見ると次のことがわかる。すなわち、

両市／男女とも若年層に「支持政党なし」が多い。武蔵野においては、男では40歳、女では35歳を境に、これより若年では「革新系」が、これより高年では「自民党系」が多くなることが明らかに見られる。三鷹においては、武蔵野におけるように比率の逆転が顕著ではないものの、やはり概ね同じような傾向がみられる。

学歴別には明らかな傾向はみられないものの、女において学歴の高い方が「支持政党」なしが増すことがやみられる。

表 4-21
就業状況（女）

回答者	有 職		無 職			D.K.	計
	専業	パート	主婦	学生	無し		
武蔵野／女	(33) 141	(14) 62	(43) 187	(2) 7	(7) 32	(1) 2	(100) 431
三鷹／女	(35) 151	(12) 52	(42) 183	(1) 6	(9) 38	(1) 2	(100) 432

表 4-22
「就業状況」と「家族構成」の関係（女）

就業状況	武 蔵 野 / 女				三 鷹 / 女			
	専 業	パ ー ト	無 職	計	専 業	パ ー ト	無 職	計
定 位 家 族	(81) 29	(3) 1	(17) 6	(100) 36	(71) 48	(9) 6	(21) 14	(100) 68
単 身	(48) 23	(10) 5	(42) 20	(100) 48	(67) 16	(4) 1	(29) 7	(100) 24
既婚/子なし, D.K.	(27) 20	(18) 13	(55) 41	(100) 74	(39) 22	(9) 5	(53) 30	(100) 57
子 あり (学童以下あり)	(24) 32	(16) 22	(60) 82	(100) 136	(23) 32	(15) 20	(61) 83	(100) 135
子 あり (学童以下なし)	(27) 37	(15) 21	(58) 79	(100) 137	(22) 33	(64) 95	(14) 20	(100) 148

表 4-23
従事する職業（女）

職 業		4. 管理職	5. 自由業	2. 技術系	1. 事務系	3. 労働系	6. 商工自営	その他 無 答	計
武蔵野／女	専 業	(1) 2	(9) 13	(8) 11	(38) 54	(7) 10	(18) 26	(18) 25	(100) 141
	パ ー ト	(3) 2	(8) 5	(5) 3	(21) 13	(21) 13	(3) 2	(39) 24	(100) 62
	計	(2) 4	(9) 18	(7) 14	(33) 67	(11) 23	(14) 28	(24) 49	(100) 203
三鷹／女	専 業	—	(12) 18	(7) 11	(44) 67	(9) 14	(18) 27	(9) 14	(100) 151
	パ ー ト	—	(6) 3	(15) 8	(27) 14	(31) 16	(2) 1	(19) 10	(100) 52
	計		(10) 21	(9) 19	(40) 81	(15) 30	(14) 28	(12) 24	(100) 203

表 4-24
年齢別にみた「就業状況」と「職業」(女)

回答者	就業状況・職業 年齢	就業状況									計
		専業	パート	主婦	学生, 無し D.K.	2.4.5. 技術・管理・自由	1. 事務系	3. 労働系	6. 商工自営	その他 無答	
武蔵野 /女	20~25歳	(74) 35	(4) 2	(4) 2	(17) (学7) 8	(9) 4	(49) 23	(11) 5	(4) 2	(6) 3	(100) 47
	26~35歳	(36) 32	(19) 17	(44) 39	—	(14) 12	(19) 17	(6) 5	(6) 5	(11) 10	(100) 88
	36~45歳	(21) 18	(20) 17	(59) 51	(1) 1	(6) 5	(11) 10	(6) 5	(7) 6	(10) 9	(100) 87
	46~56歳	(41) 37	(18) 16	(40) 36	(2) 2	(8) 7	(15) 14	(4) 4	(11) 10	(20) 18	(100) 91
	56~65歳	(22) 14	(14) 9	(57) 37	(8) 5	(6) 4	(5) 3	(6) 4	(8) 5	(11) 7	(100) 65
	66歳~	(9) 5	(2) 1	(42) 22	(47) 25	(8) 4	0	0	0	(4) 2	(100) 53
	計	(33) 141	(14) 62	(43) 187	(10) 41	(8) 36	(16) 67	(5) 23	(6) 28	(11) 49	(100) 431
三鷹 /女	20~25歳	(69) 41	(3) 2	(8) 5	(19) (学6)11	(8) 5	(53) 31	(5) 3	(2) 1	(5) 3	(100) 59
	26~35歳	(32) 35	(16) 18	(51) 56	(1) 1	(15) 17	(17) 19	(6) 7	(6) 7	(3) 3	(100) 110
	36~45歳	(31) 26	(18) 15	(48) 40	(2) 2	(11) 9	(19) 16	(7) 6	(8) 7	(4) 3	(100) 83
	46~55歳	(34) 27	(16) 13	(49) 39	0	(8) 6	(15) 12	(10) 8	(8) 6	(10) 8	(100) 79
	56~65歳	(30) 17	(5) 3	(52) 29	(13) 7	(4) 2	(5) 3	(11) 6	(5) 3	(11) 6	(100) 56
	66歳~	(11) 5	(2) 1	(31) 14	(56) 25	(2) 1	0	0	(9) 4	(2) 1	(100) 45
	計	(35) 151	(12) 52	(42) 183	(11) 46	(9) 40	(19) 81	(7) 30	(6) 28	(6) 24	(100) 432

表 4-25
学歴別にみた「就業状況」と「職業」(女)

回答者	就業状況・職業 学歴	就業状況									計
		専業	パート	主婦	学生, 無し D.K.	2.4.5. 技術・管理・自由	1. 事務系	3. 労働系	6. 商工自営	その他 無答	
武蔵野 /女	中学(新) (D.K.)	(27) 16	(13) 8	(33) 20	(27) 16	(5) 3	(3) 2	(10) 6	(12) 7	(10) 6	(100) 60
	高校(新) 短大	(32) 102	(15) 46	(46) 143	(7) 23	(7) 23	(16) 50	(4) 14	(6) 20	(13) 40	(100) 314
	大学以上	(40) 23	(14) 8	(42) 24	(4) 2	(18) 10	(25) 14	(5) 3	(2) 1	(5) 3	(100) 57
三鷹 /女	中学(新) (D.K.)	(32) 23	(17) 12	(30) 21	(21) 15	(8) 6	(8) 6	(14) 10	(11) 8	(7) 5	(100) 71
	高校(新) 短大	(36) 108	(11) 33	(47) 141	(7) 20	(8) 24	(22) 65	(6) 19	(6) 19	(5) 14	(100) 302
	大学以上	(34) 20	(12) 7	(36) 21	(19) 11	(17) 10	(17) 10	(2) 1	(2) 1	(8) 5	(100) 59

表 4-26
年 齢 別 に み た 「職 業」(男)

回 答 者	職 業 年 齢	4.	5.	2.	1.	3.	6.	無職(学生 を含む)	そ の 他 無 答	計
		管 理 職	自 由 業	技 術 系	事 務 系	労 働 系	商 工 自 営			
武 蔵 野 ／ 男	20～30歳	0 (6)	0 (4)	(10) 4	(31) 13	(14) 6	0	(29) (学10)12	(17) 7	(100) 42
	31～40歳	3 (20)	2 (16)	(25) 13	(35) 18	(15) 8	(10) 5	0	(6) 3	(100) 52
	41～50歳	5 (18)	4 (8)	(10) 2	(23) 9	(5) 1	(15) 1	0	(12) 3	(100) 25
	51～65歳	7 (5)	3 (5)	(10) 4	(23) 9	(5) 2	(15) 6	(10) 4	(13) 5	(100) 40
	66歳以上	1	1	(5) 1	(14) 3	0	(10) 2	(62) 13	—	(100) 21
	計	(9) 16	(6) 10	(13) 24	(29) 52	(9) 17	(8) 14	(16) 29	(10) 18	(100) 180
三 鷹 ／ 男	20～30歳	0 (7)	(2) 1	(19) 10	(29) 15	(17) 9	(4) 2	(19) (学10)10	(10) 5	(100) 52
	31～40歳	3 (9)	2 (12)	(22) 10	(40) 18	(18) 8	(9) 4	0	(5) 0	(100) 45
	41～50歳	4 (29)	5 (12)	(9) 4	(42) 18	(12) 5	(12) 5	—	(12) 2	(100) 43
	51～65歳	10 (15)	4 (8)	(12) 4	(18) 6	(6) 2	(12) 4	0	(12) 4	(100) 34
	66歳以上	2	1	(23) 3	(8) 1	(15) 2	(8) 1	(23) 3	0	(100) 13
	計	(10) 19	(7) 13	(17) 31	(31) 58	(14) 26	(9) 16	(7) 13	(7) 13	(100) 187

表 4-27
学 歴 別 に み た 「職 業」(男)

回 答 者	学 歴	4.	5.	2.	1.	3.	6.	無 職 (学生を 含む)	そ の 他 無 答	計
		管 理 職	自 由 業	技 術 系	事 務 系	労 働 系	商 工 自 営			
武 蔵 野 ／ 男	中 学(新 D.K.)	0	(9) 2	(9) 2	(9) 2	(23) 5	(23) 5	(23) 5	(5) 1	(100) 22
	高 校(新 短 大)	(1) 1	(3) 2	(16) 12	(24) 18	(15) 11	(8) 6	(19) (学10)10	(14) 10	(100) 74
	大 学 以 上	(18) 15	(7) 6	(12) 10	(38) 32	(1) 1	(4) 3	(12) 10	(8) 7	(100) 84
三 鷹 ／ 男	中 学(新 D.K.)	0	(6) 1	(6) 1	(6) 1	(41) 7	(18) 3	(12) 2	(12) 2	(100) 17
	高 校(新 短 大)	(10) 8	(2) 2	(18) 15	(23) 19	(20) 17	(12) 10	(11) 9	(5) 4	(100) 84
	大 学 以 上	(13) 11	(12) 10	(17) 15	(44) 38	(2) 2	(3) 3	(2) 2	(6) 5	(100) 86

(7) 職 業

職業構成については、男女によって様相を異にするので性別にみとめることにする。

① 女について

就業の状況について、問44で尋ねた結果を整理

すると表4-21のごとくである。

有職者は約半数。うち「専業」のものは3分の1程度で、そのうち約4割は「主婦」と答えたものである。有職者を専業とパートに分け、家族構成との関係を見ると表4-22の通りである。

これによると、専業は「定位家族」に多く、次いで「単身者」に多く、既婚者の中では「子なし家族」に多い。子のある家族では、パート就業が多くなっている。

有職者について専業、パート別に職業構成をみると表4-23の通りである。

これによると全般に事務系職種が多いが、これは特に専業の中で多くなっており、パート従事者の中では労働系職種についている者が多い。仕事の内容については、はっきり答えない者（無答）もパート従事者の中には多く、これらの人々には職業意識が比較的薄いものとみられる。

就業状況および職業構成を年齢別、学歴別にみると、それぞれ表4-24、表4-25の通りである。

専業従事者について年齢別にみると、M字型をなしていることが明らかであり第1の山は20～25歳に(約7割)、第2の山は46～55歳(約3分の1)にある。これに対しパート従事者は36～45歳をピークに若年、高年に少なく、とくに25歳以下と66歳以上では極めて少ない。職業について年齢別にみると、高水準の職種(技術・管理・自由業)は26～35歳に最も多くなっている。

学歴別にみると、学歴の高いほど専業従事者が多く、高水準職も多くなっている。

② 男について

男は当然のことながら、殆どが専業従事者であるので、就業状況を見ることは余り意味がない。職業構成を年齢別、学歴別にみると、それぞれ表4-26、表4-27の通りである。

これによると全般に事務系職種が多いことがみられる。年齢別にみると、管理職は51～65歳と定年間近の年代に多く、技術系は30歳代に多い。無職は20歳代(殆どが学生)と60歳以上に多い。学歴別にみると、学歴の低いほど労働系職種が多いことが明らかである。

(8) 勤務地

問46で勤務地を尋ねている。女については、専業(商工自営とそれ以外に分ける)とパート別に分けてこれをみると表4-28の通りである。

これによると、商工自営は当然のことながら約9割が市内勤務である。パート勤務者では、両市とも4割強が市内勤務である。

これに対し、男は全般に市内勤務は少ない。男について、職業別に勤務地をみると表4-29の通りであり、市内勤務の最も多い商工自営業でも武蔵野71%、三鷹56%と、女に比し少ない。労働系職種はこれに次いで市内勤務が多い。事務系管理職等は都区部勤務が多くなり、市内勤務は著しく少

表 4-28
勤 務 地 (女)

回答者	勤務地		就業状況							計	
	1. 市内	2. 都下	3. 千代田, 中央, 港区	4. 3以外の都区内	5. その他	無答					
武蔵野/女	専業	商工自営	(88)	(4)	(4)	(4)				(100)	26
		自営以外	(34)	(14)	(22)	(20)	(6)	(4)	(5)	(100)	115
	パート	(45)	(11)	(5)	(26)	(2)	(11)	(7)	(100)	62	
	その他	6	1				非該当	221	(100)	228	
	計	(22)	(6)	(7)	(9)	(2)	(54)	233	(100)	431	
三鷹/女	専業	商工自営	(92)	(4)		(4)				(100)	26
		自営以外	(40)	(15)	(17)	(26)	(2)	3		(100)	125
	パート	(54)	(8)	(6)	(23)	(6)	(4)	2	(100)	52	
	その他	1	2		1		非該当	224	(100)	229	
	計	(24)	(6)	(6)	(11)	(2)	(52)	226	(100)	432	

表 4-29
勤 務 地 (男)

回答者	勤務地 職業	1. 市内		2. 都下		3. 千代田, 中央, 港区		4. 3 以外の都区内		5. その他		無答	計
武蔵野／男	管理職	(12)	6	(20)	10	(36)	18	(26)	13	(6)	3	0	(100)
	自由業, 技術	(10)	5	(12)	6	(33)	17	(42)	22	(4)	2	0	(100)
	事務系	(25)	5	(25)	5	(15)	3	(20)	4	(10)	2	(5)	(100)
	労働系	(71)	10	(7)	1		0		0	(21)	3	0	(100)
	工商業その他 の無答	7		2		5		4		1		25	44
計	(18)	33	(13)	24	(24)	43	(24)	43	(6)	11	(14)	26	180
三鷹／男	管理職	(25)	16	(16)	10	(19)	12	(33)	21	(6)	4	0	(100)
	自由業, 技術	(16)	9	(17)	10	(28)	16	(38)	22	(2)	1	0	(100)
	事務系	(50)	14	(14)	4	(7)	2	(21)	6	(7)	2	0	(100)
	労働系	(56)	9	(25)	4	(6)	1	(13)	2		0	0	(100)
	工商業その他 の無答	3		1		1		4		4		9	22
計	(27)	51	(16)	29	(17)	32	(29)	55	(6)	11	(5)	9	(100)

なくなる。

(9) 住居所有・住居状況

住居所有については聞きにくい質問であるので、調査協力の謝辞を述べた後の帰り際に尋ねるようにした。多少の偽りの回答があるにしても殆どの被調査者から回答を得ることができた。住居状況については、一戸建、集合住宅の別に調査員の判断によって上、中、下のいずれかを記入させた。上、中、下は、つぎのような基準で分けることとした。すなわち、もし、その家を賃貸したとして賃貸料月4万円から8万円と思えるものを中、それ以上を上、それ以下を下とした。

住居所有と住居状況の分布は、それぞれ表4-30、表4-31の通りである。

一戸建／下、集合住宅／上は少ないので、これらをそれぞれ「中」のクラスに併合して、所有状況との関連をみると表4-32のごとくであり、持家は一戸建に多いことが明らかである。

住居所有の状況は、年齢、家族構成との関連が

表 4-30
住 居 所 有

回答者	住居所有	住居所有		給与住宅 (社宅・寮・官舎)	D.K.
		持家	借家		
女	武蔵野	(58) 250	(32) 138	(9) 40	(1) 3
	三鷹	(55) 237	(36) 157	(9) 37	(0) 1
男	武蔵野	(49) 89	(32) 57	(18) 32	(1) 2
	三鷹	(47) 87	(37) 69	(17) 31	(0) 0

深い。表4-33にみるごとく、年齢については、高くなるほど一般に持家が多くなることは当然であるが、最若年の層で男女ともやや「持家」が多くなっているのは親の家にいることが多いためとみられる。武蔵野／女、三鷹／男の最高年齢層で「持家」がやや少なくなるのは、家を次の世代に譲り、再び、単身生活をする高齢層のあることを

表 4-31
住 居 状 況

回答者	住居状況	一 戸 建			集 合 住 宅			無記入
		上	中	下	上	中	下	
女	武 蔵 野	(21) 89	(29) 125	(6) 27	(3) 13	(28) 122	(12) 52	(1) 3
	三 鷹	(18) 76	(37) 158	(5) 22	(5) 20	(23) 97	(13) 58	(0) 1
男	武 蔵 野	(19) 34	(28) 50	(8) 14	(3) 5	(27) 49	(14) 25	(2) 3
	三 鷹	(13) 25	(35) 65	(5) 10	(3) 6	(33) 61	(11) 20	(0) 0

表 4-32
「住居所有」と「住居状況」の関係

回答者	住居状況 住居所有	武 蔵 野					三 鷹					
		一 戸 建		集 合 住 宅			計	一 戸 建		集 合 住 宅		計
		上	中, 下 (無記入)	上, 中	下	上		中, 下 (無記入)	上, 中	下		
女	持 家	(34) 86	(53) 132	(12) 30	(1) 2	(100) 250	(32) 75	(61) 1	(7) 17	(0) 1	(100) 237	
	借 家 (D.K.)	(1) 2	(15) 21	(52) 74	(31) 44	(100) 141	(1) 144	(22) 35	(47) 74	(30) 48	(100) 158	
	給与住宅	(3) 1	(5) 2	(78) 31	(15) 6	(100) 40	0	(5) 2	(70) 26	(24) 9	(100) 37	
男	持 家	(36) 32	(55) 49	(9) 8	0	(100) 89	(29) 25	(66) 57	(5) 4	(1) 1	(100) 87	
	借 家 (D.K.)	(3) 2	(19) 11	(49) 29	(29) 17	(100) 59	0	(20) 14	(67) 46	(13) 9	(100) 69	
	給与住宅	0	(22) 7	(53) 17	(25) 8	(100) 32	0	(13) 4	(55) 17	(32) 10	(100) 31	

示すものといえよう。

家族構成別にみると、このことが更にうらづけられる。すなわち、単身世帯では「持家」は最も少なく、とくに男の単身者では「持家」が少なく「給与住宅」が多い。つぎには、学童以下の子のある家族（30歳代頃）に「持家」は少なく、定住家族、または既婚で子のない家族（親と同居を含む）がこれに続き、大きな子（学童以下でない子）のある家族において最も「持家」が多い。

住居所有は、社会成層と関連があるかと考えたが学歴とは余り関係なく、職業では、男の場合は管理・技術・自由業や自営業に「持家」がやや多

いことがみられた。

住居状況については、表4-34にみるごとく、住居所有と同様に年齢、家族構成との関係がみられる。すなわち、男女とも「集合住宅/下」は最若年層に多く、女26~35歳と男31~40歳において「集合住宅/上・中」が多くなり、次第に年齢が上がるにしたがい「一戸建」が増し、とくに51歳以上では「一戸建/上」が多くなっていく。家族構成別にみると、「集合住宅/下」は単身世帯に最も多く、「一戸建/上」は大きな子（学童以下ではない子）のいる家庭や既婚で子のない家庭に多くなっている。

表 4-33
年齢別・家族構成別にみた「住居所有」の状況

年齢・家族構成		武蔵野				三鷹				
		持家	借家 D.K.	給与住宅	計	持家	借家 D.K.	給与住宅	計	
年 齢	女	20～25歳	(34) 16	(62) 29	(4) 2	47	(47) 28	(41) 24	(12) 7	59
		26～35歳	(31) 27	(53) 47	(16) 14	88	(36) 39	(47) 52	(17) 19	110
		36～50歳	(59) 79	(27) 36	(14) 19	134	(56) 74	(39) 52	(5) 7	133
		51～65歳	(80) 87	(16) 18	(4) 4	109	(66) 56	(31) 26	(4) 3	85
		66歳～	(77) 41	(21) 11	(2) 1	53	(89) 40	(9) 4	(2) 1	45
	男	20～30歳	(24) 10	(50) 21	(26) 11	42	(21) 11	(48) 25	(31) 16	52
		31～40歳	(25) 13	(52) 27	(23) 12	52	(31) 14	(53) 24	(16) 7	45
		41～50歳	(60) 15	(16) 4	(24) 6	25	(56) 24	(28) 12	(16) 7	43
		51～65歳	(75) 30	(18) 7	(8) 3	40	(91) 31	(9) 3	0	34
		66歳～	(100) 21	0	0	21	(54) 7	(38) 5	(8) 1	13
家 族 構 成	女	定位家族	(61) 22	(39) 14	0	36	(62) 42	(29) 20	(9) 6	68
		単身	(29) 14	(65) 31	(6) 3	48	(17) 4	(75) 18	(8) 2	24
		既婚(子なし) D.K.	(61) 45	(32) 24	(7) 5	74	(53) 30	(40) 23	(7) 4	57
		子あり(学童 以下あり)	(45) 61	(38) 52	(17) 23	136	(38) 51	(48) 65	(14) 19	135
		子あり(学童 以下なし)	(79) 108	(15) 20	(7) 9	137	(74) 110	(22) 32	(4) 6	148
	男	定位家族	(52) 12	(35) 8	(13) 3	23	(38) 11	(38) 11	(24) 7	29
		単身	(3) 1	(74) 23	(23) 7	31	(13) 3	(58) 14	(29) 7	24
		既婚(子なし) D.K.	(64) 16	(24) 6	(12) 3	25	(43) 12	(43) 12	(14) 4	28
		子あり(学童 以下あり)	(38) 19	(30) 15	(32) 16	50	(44) 24	(38) 21	(18) 10	55
		子あり(学童 以下なし)	(80) 41	(14) 7	(6) 3	51	(73) 37	(22) 11	(6) 3	51

これを家族人数別にみると表4-35の通りであり、一戸建は家族人数が多くなるほど多くなり、とくに一戸建/上において、この傾向が顕著にみられる。

職業との関連をみると、男では管理・技術・自由業において「上」の住居（一戸建、集合住宅の

何れも）が多くなっている。

(10) 居住年

居住している期間の長短は、その地域への親密度に関連をもち、したがってコミュニティ形成に関しても密接な関連があると考えられる。それ故、この項目は個人の1つの重要な属性として捉える

表 4-34
年齢別・家族構成別にみた「住居状況」

年齢・家族構成		武 蔵 野					三 鷹					
		一戸建 上	一戸建 中・下 無記入	集合住宅 上・中	集合住宅 中・下	計	一戸建 上	一戸建 中・下 無記入	集合住宅 上・中	集合住宅 中・下	計	
年	女	20～25歳	(19) 9	(19) 9	(32) 15	(30) 14	47	(15) 9	(36) 21	(37) 22	(12) 7	59
	27～35歳	(7) 6	(25) 22	(51) 45	(17) 15	88	(7) 8	(31) 34	(46) 51	(15) 17	110	
	36～50歳	(21) 28	(36) 48	(34) 45	(10) 13	134	(23) 31	(41) 55	(18) 24	(17) 23	133	
	51～65歳	(32) 35	(43) 47	(21) 23	(4) 4	109	(21) 18	(48) 41	(20) 17	(11) 9	85	
	66歳～	(21) 11	(55) 29	(13) 7	(11) 6	53	(22) 10	(67) 30	(7) 3	(4) 2	45	
年	男	20～30歳	(10) 4	(24) 10	(33) 14	(33) 14	42	(8) 4	(17) 9	(50) 26	(25) 38	52
	31～40歳	(6) 3	(29) 15	(52) 27	(13) 7	52	(2) 1	(29) 13	(58) 26	(11) 5	45	
	41～50歳	(36) 9	(24) 6	(32) 8	(8) 2	25	(14) 6	(63) 27	(23) 10	(3) 0	43	
	51～65歳	(23) 9	(60) 24	(13) 5	(5) 2	40	(32) 11	(59) 20	(6) 2	(3) 1	34	
	66歳～	(43) 9	(57) 12	0	0	21	(23) 3	(46) 6	(23) 3	(8) 1	13	
家 族 構 成	女	定位家族	(25) 9	(33) 12	(25) 9	(17) 6	36	(19) 13	(43) 29	(26) 18	(12) 8	68
		単身	(2) 1	(29) 14	(40) 19	(29) 14	48	(4) 1	(25) 6	(38) 9	(33) 8	24
		既婚(子なし) D.K.	(27) 20	(28) 21	(32) 24	(12) 9	74	(21) 12	(33) 19	(30) 17	(16) 9	57
		子あり(学童 以下あり)	(13) 17	(34) 46	(42) 57	(12) 16	136	(14) 19	(34) 46	(35) 47	(17) 23	135
		子あり(学童 以下なし)	(31) 42	(45) 62	(19) 26	(5) 7	137	(21) 31	(55) 81	(18) 26	(7) 10	148
	男	定位家族	(9) 2	(48) 11	(35) 8	(9) 2	23	(14) 4	(34) 10	(34) 10	(17) 5	29
		単身	0	(3) 1	(48) 15	(48) 15	31	0	(8) 2	(63) 15	(29) 7	24
		既婚(子なし) D.K.	(36) 9	(40) 10	(20) 5	(4) 1	25	(18) 5	(36) 10	(36) 10	(11) 3	28
		子あり(学童 以下あり)	(18) 9	(30) 15	(40) 20	(12) 6	50	(11) 6	(36) 20	(45) 25	(7) 4	55
		子あり(学童 以下なし)	(27) 14	(59) 30	(12) 6	(2) 1	51	(20) 10	(65) 33	(14) 7	(2) 1	51

べきである(意識や行動ではなく個人のプロフィールという意味で属性として把握)。設問では質問1として市への入居時期を問うている。回答結果は表4-36に示す通りである。

表には、前回調査(1976年、武蔵野/女)の結果を居住年で揃え比率(%)を付記した。居住年

2年未満が今回幾分少なくなっているほかは、大体類似の居住年構成とみられる。なお、『国勢調査』との比較も試みたが、入居の定義の差異(『国勢調査』では、同一市町村内からの移動であっても新しい入居とみる)、20歳以上の人口についてのデータではないなど、正確な比較をすることが

表 4-35
家族人数別にみた「住居状況」

住居状況 家族人数		武 蔵 野					三 鷹				
		一戸建 上	一戸建 中・下 無記入	集合住宅 上・中	集合住宅 下	計	一戸建 上	一戸建 中・下 無記入	集合住宅 上・中	集合住宅 下	計
女	1 人	(2) 1	(29) 14	(42) 20	(27) 13	48	(4) 1	(25) 6	(38) 9	(33) 8	24
	2 人	(22) 17	(27) 21	(34) 26	(17) 13	77	(17) 12	(35) 24	(33) 23	(14) 10	29
	3 人	(15) 13	(38) 32	(38) 32	(9) 8	85	(5) 5	(43) 40	(36) 33	(15) 14	92
	4人, D.K.	(21) 26	(31) 39	(36) 45	(12) 15	125	(21) 33	(42) 65	(25) 39	(12) 18	155
	5 人	(28) 18	(49) 32	(18) 12	(5) 3	65	(29) 15	(48) 25	(10) 5	(12) 7	52
	6人以上	(45) 14	(55) 17	0	0	31	(25) 10	(53) 21	(20) 8	(3) 1	40
男	1 人	0	(3) 1	(48) 15	(48) 15	31	0	(8) 2	(63) 15	(29) 7	24
	2 人	(27) 6	(36) 8	(23) 5	(14) 3	22	(21) 4	(32) 6	(42) 8	(5) 7	19
	3 人	(12) 4	(32) 11	(47) 16	(9) 3	34	(2) 1	(49) 23	(40) 19	(9) 4	47
	4人, D.K.	(18) 9	(46) 23	(28) 14	(8) 4	50	(16) 9	(46) 26	(30) 17	(9) 5	57
	5 人	(32) 9	(54) 15	(14) 4	0	28	(23) 7	(48) 15	(23) 7	(6) 2	31
	6人以上	(40) 6	(60) 9	0	0	25	(44) 4	(33) 3	(11) 1	(11) 1	9

表 4-36
居 住 年

問 1 あなたは、いつ頃から【武蔵野市】
【三鷹市】にお住みになっていますか？

入居時期 回答者		昭和20年 以前から	昭和20年 ～35年	昭和36年 ～45年	昭和46年 ～50年	昭和51年 ～53年	昭和54年 以 降	そ の 他	D.K.	
		女	武 蔵 野	(9) 39	(27) 115	(21) 91	(16) 68	(16) 68	(12) 50	(0) 0
三 鷹	(8) 36		(24) 102	(23) 98	(18) 77	(16) 70	(11) 47	(0) 1	(0) 1	
男	武 蔵 野	(16) 28	(24) 44	(9) 16	(14) 25	(19) 35	(18) 32	(0) 0	(0) 0	
	三 鷹	(8) 15	(19) 35	(23) 42	(18) 33	(21) 39	(11) 21	(1) 1	(1) 1	
前回調査	居住年	10 年 以上			6年～10年	2年～5年	2年未満	その他, 不明		
	武蔵野/ 女	(50)			(15)	(17)	(17)	(1)		

表 4-37
年 齢 別 に み た 「 居 住 年 」

年 齢	入 居 時 期	武 蔵 野						三 鷹					
		昭和35年以前から	昭和36年～45年	昭和46年～50年	昭和51年～53年	昭和54年以降その他D.K.	計	昭和35年以前から	昭和36年～45年	昭和46年～50年	昭和51年～53年	昭和54年以降その他D.K.	計
女	20～25歳	(15) 7	(13) 6	(9) 4	(32) 15	(32) 15	47	(25) 15	(10) 6	(14) 8	(29) 17	(22) 13	59
	26～35歳	(10) 9	(10) 9	(26) 23	(27) 24	(26) 23	88	(12) 13	(10) 12	(26) 29	(28) 31	(23) 25	110
	36～50歳	(21) 28	(34) 46	(22) 29	(17) 23	(6) 8	134	(33) 44	(34) 45	(20) 26	(9) 8	(5) 6	133
	51～65歳	(65) 71	(21) 23	(6) 6	(6) 6	(3) 3	109	(40) 34	(32) 27	(13) 11	(9) 8	(6) 5	85
	66歳～	(73) 39	(13) 7	(11) 6		(2) 1	53	(71) 32	(18) 8	(7) 3	(4) 2	— 0	45
	計	(36) 154	(21) 91	(16) 68	(16) 68	(12) 50	431	(32) 138	(23) 98	(18) 77	(16) 70	(11) 49	432
男	20～25歳	(12) 3	(4) 1	(8) 2	(28) 7	(48) 12	25	(12) 4	(12) 4	(9) 3	(39) 13	(27) 9	33
	26～35歳	(19) 9	(6) 3	(13) 6	(30) 14	(32) 15	47	(20) 9	(5) 2	(25) 11	(32) 14	(18) 8	44
	36～50歳	(28) 13	(17) 8	(21) 10	(26) 12	(9) 4	47	(19) 12	(33) 21	(22) 14	(19) 12	(6) 4	63
	51～65歳	(68) 27	(8) 3	(18) 7	(5) 2	(3) 1	40	(53) 18	(29) 10	(12) 4		(6) 2	34
	66歳～	(95) 20	(5) 1				21	(54) 7	(38) 5	(8) 1			13
	計	(40) 72	(9) 16	(14) 25	(19) 35	(18) 32	180	(27) 50	(22) 42	(18) 33	(21) 39	(12) 23	187

表 4-38
家 族 構 成 別 に み た 「 居 住 年 」

家 族 構 成	入 居 時 期	武 蔵 野						三 鷹					
		昭和35年以前から	昭和36年～45年	昭和46年～50年	昭和51年～53年	昭和54年以降その他D.K.	計	昭和35年以前から	昭和36年～45年	昭和46年～50年	昭和51年～53年	昭和54年以降その他D.K.	計
女	子あり(学童以下なし)	(55) 76	(21) 29	(10) 14	(11) 15	(2) 3	137	(49) 73	(28) 41	(14) 21	(7) 10	(2) 3	148
	定 位 家 族	(39) 14	(19) 7	(11) 4	(22) 8	(8) 3	36	(37) 25	(13) 9	(16) 11	(24) 16	(9) 7	68
	既 婚 / 子 な し D. K.	(41) 30	(20) 15	(12) 9	(14) 10	(14) 10	74	(35) 20	(23) 13	(11) 6	(11) 6	(21) 12	57
	子あり(学童以下あり)	(15) 20	(26) 35	(27) 37	(18) 25	(14) 19	136	(12) 16	(20) 27	(27) 37	(23) 31	(18) 24	135
	単 身	(29) 14	(10) 5	(8) 4	(21) 15	(31) 10	48	(17) 4	(33) 8	(8) 2	(29) 7	(13) 3	24
男	子あり(学童以下なし)	(71) 36	(8) 4	(12) 6	(6) 3	(4) 2	51	(43) 22	(35) 18	(18) 9		(4) 2	51
	定 位 家 族	(42) 10	(9) 2	(13) 3	(17) 4	(17) 4	23	(34) 10	(17) 5	(14) 4	(14) 4	(21) 6	29
	既 婚 / 子 な し D. K.	(56) 14	(12) 3	(8) 2	(12) 3	(12) 3	25	(39) 11	(25) 7	(11) 3	(14) 4	(11) 3	28
	子あり(学童以下あり)	(22) 11	(12) 6	(20) 10	(26) 13	(20) 10	50	(13) 7	(18) 10	(24) 13	(31) 17	(15) 8	55
	単 身	(3) 1	(3) 1	(13) 4	(39) 12	(42) 13	31		(8) 2	(17) 4	(58) 14	(17) 4	24

表 4-39
住居所有別・住居状況別みた「居住年」

住居所有・住居状況	入居時期	武 蔵 野					計	三 鷹					計
		昭和35年以前から	昭和36年～45年	昭和46年～50年	昭和51年～53年	昭和54年以降その他D.K.		昭和35年以前から	昭和36年～45年	昭和46年～50年	昭和51年～53年	昭和54年以降その他D.K.	
住居所有 女	持家	(50) 126	(24) 60	(13) 32	(9) 22	(4) 10	250	(41) 98	(29) 68	(16) 39	(10) 23	(4) 9	237
	借家, D.K.	(19) 27	(20) 28	(16) 23	(22) 31	(23) 32	141	(23) 37	(16) 26	(21) 33	(21) 33	(18) 29	158
	給与住宅(社宅など)	(3) 1	(8) 3	(33) 13	(38) 15	(20) 8	40	(8) 3	(11) 4	(14) 5	(38) 14	(30) 11	37
住居所有 男	持家	(70) 62	(10) 9	(8) 7	(8) 7	(5) 4	89	(43) 37	(30) 26	(16) 14	(7) 6	(5) 4	87
	借家, D.K.	(14) 8	(12) 7	(15) 9	(27) 16	(32) 19	59	(19) 13	(13) 9	(17) 12	(35) 24	(16) 11	69
	給与住宅(社宅など)	(6) 2	(0) 0	(28) 9	(38) 12	(28) 9	32	— 0	(23) 7	(23) 7	(29) 9	(26) 8	31
住居状況 女	一戸建/上	(53) 47	(21) 19	(12) 11	(11) 10	(2) 2	89	(33) 25	(32) 24	(17) 13	(12) 9	(7) 5	76
	一戸建/中・下, D.K.	(52) 80	(24) 37	(14) 21	(5) 7	(6) 10	155	(45) 81	(28) 51	(15) 27	(7) 13	(5) 9	181
	集合住宅/上・中	(14) 19	(19) 26	(20) 27	(27) 36	(20) 27	135	(18) 21	(8) 9	(23) 27	(26) 31	(25) 29	117
	集合住宅/下	(15) 8	(17) 9	(17) 9	(29) 15	(21) 11	52	(19) 11	(24) 14	(17) 10	(29) 27	(10) 6	58
住居状況 男	一戸建/上	(62) 21	(18) 6	(9) 3	(6) 2	(6) 2	34	(36) 9	(36) 9	(16) 4	(12) 3	— 0	25
	一戸建/中・下, D.K.	(67) 45	(7) 5	(6) 4	(12) 8	(7) 5	67	(37) 28	(31) 23	(15) 11	(11) 8	(7) 5	75
	集合住宅/上・中	(9) 5	(4) 2	(24) 13	(43) 23	(20) 11	54	(18) 12	(13) 9	(21) 14	(30) 20	(18) 12	67
	集合住宅/下	(4) 1	(12) 3	(20) 5	(8) 2	(56) 14	25	(5) 1	(5) 1	(20) 4	(40) 8	(30) 6	20

できなかった。

居住年は年齢との関連が強いと考えられる。そこでこの関係をみると表4-37のごとくである。

これによると、男女とも居住年5年以下（昭和51年以降）は36歳以上で著しく減り、51歳以上では更に一段と少なくなり、これに反し20年以上の居住（昭和35年以前から居住）が著しく多くなる。このように年齢と強い関連があることがみられる。

家族構成別にみてもこのことは更にうらづけられる。居住年の古い比率が高い順に家族構成を並べ表にまとめると表4-38の通りである。

これによると居住年の古さの順に並ぶ家族構成別の順位は、やはり世帯としての古さの順になっ

ている（「既婚/子なし」が「学童以下の子あり」より古いのは、前述したように、前者には親の家にいる者が含まれる故と考えられる）。

職業による差異は余りないが、自営業のものは男女とも明らかに居住年が全般より長くなっている（20年以上居住が約半分である）。

住居所有別および住居状況別にみると表4-39の通りであを。

これによると、「持家」の者は男女とも明らかに居住年が長く、「給与住宅」の者では約60%程度が5年未満の居住である。住居状況では、「持家」との関連で推察できる通り、「一戸建」が上中下に関わりなく居住年が長く、「集合住宅」のうちでも特に「下」は最も居住年が短く5年以下のも

のが50%（武蔵野／女）から70%（三鷹／男）もいる（ただし、三鷹／女では、39%）。

このように居住年は、年齢およびこれと関連のある家族構成、さらにこれらと関連のある住居状況と関係の深いことがわかる。

以上、「回答者」の属性について種々の関連を対比させながら検討してきた。その結果、個々の属性が相互に関連をもつ場合が多いことがわかった。したがって次章以降、コミュニティ形成にかかわる意識と行動に関する設問への回答状況を属

性との関連でみていく際も、このことについて慎重に考慮していくことが是非とも必要となってくる。たとえば、兄弟数が或る設問の回答結果と関連をみたとしても、これは「兄弟数そのもの」が効いているのか、あるいは兄弟数を媒介として「年齢」との関連の強さを示すに過ぎないのかなど、個々の関連においては判然と言いきれない場合が多いからである。わたしたちは、第13章に報告する多変量解析の結果において、どの要因が真に関連してきているかを判然と知ることになるであろう。

5

地域との関わり

本章では、「理想とする市」のイメージ、「コミュニティ」という言葉から連想すること、生活必需品の購入地域といった質問項目についての回答結果を検討しながら、静的（概念的および情緒的）な意味あいでの、居住地域に対する住民の関わりあいの様相を探っていく。

1. 市の理想像……………70
 2. 「住みよいところ」にするために為すべきこと ……73
 3. 「コミュニティ」という言葉からの連想 ……74
 4. 生活必需品の購入地域……………77
 5. 地域への愛着感……………77
 6. 家の周辺で困っていること……………79
-

1 市の理想像

「市の好ましいイメージ」として、居住している市に対してどういうものを欲しているかを問49で尋ねた。すなわち、概念的な理想像を通して、地域に対する期待を探ってみたのである。

質問文と回答結果は表5-1の通りである。

表5-1

問49 あなたにとって、今後 **武蔵野市** / **三鷹市** はどのような雰囲気をもってほしいと思いますか？（リストを提示）

回答		1. 古き武蔵野の素朴さ	2. いきた町き	3. 文化の香り	4. まちのよかさ	5. 昔ながらのゆとり	6. つき合気やすさ	7. さやかな明るさ	8. 弱い者へのいわり	9. ふるさとのやすらぎ	10. 盛り場のざわめき	11. 四季のあざやかさ	12. 自由のときめき
女	武蔵野	(46) 196	(13) 57	(19) 82	(1) 4	(18) 76	(6) 25	(12) 53	(11) 49	(7) 29	(0) 1	(15) 65	(2) 8
	三鷹	(49) 211	(10) 44	(13) 57	(1) 3	(15) 66	(13) 58	(14) 62	(12) 50	(8) 36	(0) 1	(13) 56	(1) 6
男	武蔵野	(48) 86	(9) 16	(21) 37	(0) 0	(13) 23	(8) 14	(13) 24	(10) 18	(9) 17	(3) 5	(14) 25	(1) 2
	三鷹	(37) 70	(17) 31	(13) 25	(2) 4	(9) 16	(11) 20	(13) 25	(9) 17	(6) 11	(1) 1	(8) 15	(3) 6

回答		13. ふれあいのぬくもり	14. 成功への賭け	15. まちの清潔感	16. 人々のまじり	17. 土のにおい	18. 都会的なおしゃれセンス	19. 家並の落ちつき	20. ぐらしの安全	21. まつりのにぎわい	22. その他(記入)	D. K.
女	武蔵野	(12) 52	(0) 0	(31) 133	(2) 10	(8) 34	(9) 39	(11) 48	(37) 160	(2) 9	(1) 3	(4) 19
	三鷹	(13) 58	(0) 1	(31) 132	(3) 11	(11) 47	(7) 32	(8) 36	(32) 139	(2) 7	(1) 3	(2) 10
男	武蔵野	(7) 13	(1) 1	(34) 61	(6) 11	(9) 16	(8) 14	(11) 19	(29) 53	(1) 2	(1) 1	(1) 1
	三鷹	(11) 21	(2) 3	(27) 51	(3) 5	(10) 19	(5) 9	(8) 14	(36) 67	(2) 3	(1) 1	(10) 19

表5-2

問49で選んだ個数

個数		1個	2個	3個	D. K.	選んだ平均個数
女	武蔵野	(5) 23	(13) 57	(77) 332	(4) 19	2.6
	三鷹	(9) 40	(16) 70	(72) 312	(2) 10	2.6
男	武蔵野	(12) 21	(20) 37	(68) 122	(1) 1	2.5
	三鷹	(9) 17	(19) 36	(62) 115	(10) 19	2.3

選んだ項目数は、表5-2にみる通り、男より女の方が僅かに多い。

「古き武蔵野の素朴さ」は両市/男女とも1位であり(37%~49%)、リストの1番始めにおかれた偏りも多少あることを考慮しても、やはり両市の住民が伝統的な「武蔵野」というイメージをよきものとして大切にしていることがわかる。女においては両市ともあまり変らないが、男においては武蔵野の方が三鷹よりあげた比率は多い。

次に多くあげられた項目は、「20. ぐらしの安全」「15. まちの清潔感」と比較的実利的なもの

であり、両市 / 男女において大きな差異はない。

次は、「3.文化の香り」「5.昔ながらのゆとり」「11.四季のあざやかさ」「18.都会的なしゃれたセンス」「19.家並の落ちつき」といった文化水準の高さを示す種類のものである(後の2項目は比率は余り高くない)。いずれも、男女それぞれにおいて武蔵野は三鷹より回答比率が僅かに多い。

次には、「2.いきいきした町の動き」「7.さわやかな明るさ」といった健全な都会の雰囲気を表わす項目があげられており、前者については男の場合は三鷹における方が武蔵野よりかなり多い。

次には「6.つき合いの気やすさ」「8.弱い者へのいたわり」「13.ふれあいのぬくもり」という近隣親交、福祉性をもった項目をあげたものが多く、近隣親交の前2項目については男女とも三鷹の方が武蔵野より僅かに比率が高い。

いま、22の項目を次のように5つの種類に分類してみる。すなわち、

① 文化的(古い)

- 1. 古き武蔵野, 3. 文化の香り, 5. 昔ながらのゆとり, 9. ふるさとのやすらぎ, 11. 四季のあざやかさ, 17. 土のおい, 19. 家並のおちつき, 21. まつりのにぎわい

② 文化的(新しい)

- 18. 都会的なしゃれたセンス

③ 大衆的(近代的)

- 4. まちのはなやかさ, 10. 盛り場のざわめき, 12. 自由のときめき, 14. 成功への賭け

④ 親交・福祉的

- 6. つき合いの気やすさ, 8. 弱い者へのいたわり, 13. ふれ合いのぬくもり

⑤ 健全性

- 2. いきいきした町の動き, 7. さわやかな明るさ, 15. 町の清潔感, 16. 人々のまじめさ

⑥ 実利的

- 20. 暮らしの安全

この様に分類した時、それぞれの分類項目に対する回答延数をみると表5-3の通りである。

表5-3

回答		1.	2.	3.	4.	5.	6.	
サンプル		文化的(古い)	文化的(新しい)	大衆的(近代的)	親交福祉的	健全性	実利的(その他を含む)	総延数
女	武蔵野	(48) 539	(3) 39	(1) 13	(11) 126	(22) 253	(14) 163	1,133
	三鷹	(46) 516	(3) 32	(1) 11	(15) 166	(22) 259	(13) 142	1,116
男	武蔵野	(49) 225	(3) 14	(2) 8	(10) 45	(24) 112	(12) 55	459
	三鷹	(40) 173	(2) 9	(3) 14	(13) 58	(26) 112	(16) 68	434

注：()内は総延数に対する比率(%)を示す。

文化的項目をあげたものは僅かながら武蔵野に多く、親交・福祉的項目については三鷹の方が僅かに多い。

ちなみに、各人が選択した項目のパターンから、数量化Ⅲ類を適用して項目の位置づけを試みた。各個人の考えている「市の理想像」が、前述の様に先験的に区分した項目分類と合致しているか、すなわち、各個人はこれら6つのタイプのいずれか1つのタイプを理想としているか或いは別な

類型が現われるかを探ってみた。数量化Ⅲ類を適用した結果の第1根、第2根にみ合う数値を2次元に図示してみると図5-1の通りである(この場合、頻度の少ない項目、すなわち4, 10, 12, 14, 16, 21, 22を除外しておこない、図は女についてのみ掲げる)。

これによると、武蔵野においてはⅢ類による配置と前述の項目分類とが殆ど合致していることがわかる(古い文化的項目の中で9, 健全性項目の中

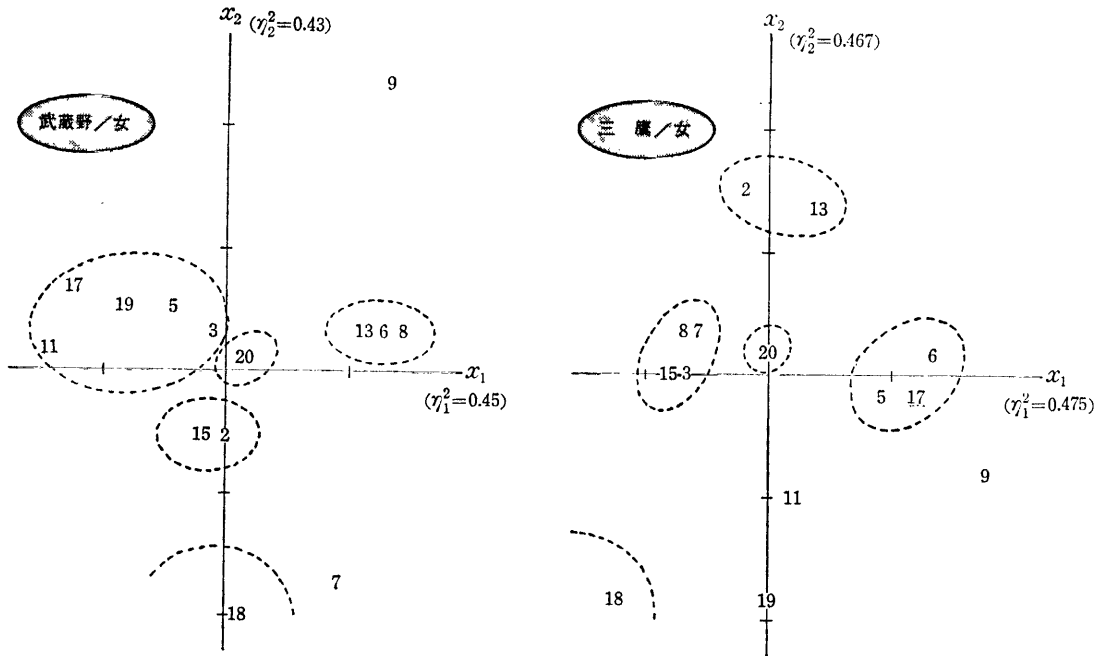


図 5-1 市の理想像 (数量化Ⅲ類による結果)

で7は離れている)。つまり、古い文化的タイプ(3, 8, 11, 17, 19)を望むもの、親交・福祉的タイプ(6, 8, 13)を望むもの、健全・実利(2, 15, 20)を望むもの、というように、理想像は類型化できることがわかる。とくに6, 8, 13は極めて近くに位置しており、親交・福祉の項目を選ぶ人の固さが顕著であることは興味深い。これに反して、三鷹では[3, 7, 8, 15], [5, 8, 17]の2群が第1軸で対立的に分かれ、第2軸で[2, 13]が[19]と対立的に分類され、住民の抱く市の理想像のタイプが武蔵野と異なっていることがわかる。[3, 7, 8, 15]を“新しさ”、[5, 6, 17]を“古さ”、[2, 13]を“活気”と名づけるとすれば、「8. 弱い者へのいたわり」は新しさに、「6. つきあい」は古さに、「13. ふれあい」は活気に吸収され、親交・福祉志向が1つのタイプとなっていないことがみられる。

男については、人数も少ないこともあり、女のパターンとは異なり、また両市の間でも異なっていて、傾向的なものは把握できなかった。

項目選択の類型は、このように性別・市別によって異なるが、属性との関連は一応前述の項目分類にしたがって試みていくこととする。

文化的項目を選んだ個数によって地域に対する文化的期待度を表わすと考え、〔2個または3個選んだ→1.強い、1個選んだ→2.普通、1つも選ばない→3.弱い、なし〕として、以下に属性との関連をみていこう(付表2を参照)。

女については、「強い」人びとは高学歴、専業勤務の層にやや多く、「なし」の人びとは老年層、低学歴層、無職層、集合住宅/下の層の人びとにやや多い。男については、2市の間に差異があり共通した傾向は見られない。同様にして、健全と実利の項目を合わせて健実的期待度を表わすと考え、これと属性別との関連をみたが、女の老年層、低学歴層に「弱い」人びとが多いという以外に関連はみられなかった。

親交・福祉に関しては、項目が少ないので期待度として[6, 8, 13のうち、少なくとも1つ選んだ]→1.あり、[1つも選ばない]→2.なし、として、属性と

の関連をみることにしよう（付表3を参照）。

女については、「あり」の人びとは年齢36歳～50歳層、低学歴層、武蔵野では特に集合住宅／下の層、革新支持層、三鷹では給与住宅（社宅など）層にやや多い。男については低学歴層、革新支持層、武蔵野では30歳代、三鷹では56歳以上の層にやや多い。このことは、第9章において福祉関係についてみていく際に、この結果と関連づけてみるができる。

以上、好ましい地域像については属性との関連は少ないものの、居住地域に対してどのような観点において期待を抱いているかということを知ることができた。さらに、地域に対する期待の方向や行動的関わりとの関連などを後の章においてみていくことにする。

2
「住みよいところ」にするために
すべきこと

問7で、居住の場としての市を更に快適にするためにどういうことをしたらよいと考えているかを尋ね、前節の問49よりさらに操作的な意味において地域社会に対しての期待を探り、それを通して地域への帰属意識をみようとした。

回答は自由回答であり、要点を調査員が記述して戻り、後にその回答結果を総合的に読み、分類・集計したものである。

質問文ならびに分類整理したカテゴリー、および回答頻度を示すと表5-4の通りである。

表5-4

問7 あなたは、この **武蔵野市** / **三鷹市** をもっと住みよいところにするために、どのようなことをして
いったらよいとお考えですか？

回答 サンプル		1. 道路・ 交通の 整備	2. 建築的 規制	3. 緑、公園、 遊び場、 広場の整 備	4. 環境、衛 生、きれ いに	5. 騒防 音止	6. 風紀の 改善	7. 施増 設加	8. 近所の 連帯福 祉	9. 施策の 充実	10. 人規 口制	11. その他 (買物 の等)	12. 別にな (感じ ない)	D. K.
女	武蔵野	(5) 21	(3) 11	(6) 26	(7) 29	(1) 3	(5) 20	(4) 16	(9) 37	(3) 14	(1) 2	(7) 30	(21) 91	(30) 131
	三鷹	(11) 46	(2) 9	(3) 13	(5) 20	(1) 4	(2) 8	(2) 10	(9) 38	(7) 30	(1) 6	(2) 10	(28) 121	(27) 117
男	武蔵野	(5) 9	(2) 4	(7) 12	(7) 13	(0) 0	(2) 3	(3) 6	(7) 13	(3) 5	(0) 0	(8) 14	(27) 49	(29) 52
	三鷹	(6) 11	(2) 3	(4) 7	(3) 5	(0) 0	(2) 3	(4) 7	(8) 14	(5) 10	(1) 1	(6) 11	(26) 49	(35) 66

回答結果をみると、市別、男女別についての差異は明らかなものは見られない。

前回調査（1976年、武蔵野／女）においても同様の質問をしている。しかし前回調査では質問の流れが異なり、また、この設問の前に市の事業・施策等についてリストを提示して尋ねる質問があったので、その影響で市の施策などの中のある項目を回答することが多かった。したがって、質問自体は同じでも回答をそのまま比較することはできない。しかし、今回の回答と同じ内容をもつ項目の回答比率については、比較することが可能

である。ちなみに、前回調査での質問文と回答結果は表5-5に示す通りである。

前回調査の結果と今回の武蔵野／女の結果とを比較すると、次のことがみられる。

① 今回の無答〔D.K.および、別にな〕の比率は51%であり、前回の無答〔D.K.および、現在のままでよい〕の比率48%とほぼ同じである。すなわち、女については約半数の人が、この様なことがらに対して具体的な提案をもっていない、ということが明らかである。

② 「近所の連帯・福祉」などと答えたものは9%

表 5-5 1976年調査 (武蔵野/女)

● 武蔵野市をもっと良い所, もっと住みよい所にするにはどうしたらよいと思いますか。

上水道	下水道	道路	都市計画	清掃	教育文化	遊園地	青少年対策	環境衛生	住宅対策	福祉対策	集会施設	交通対策	公害対策	緑化運動	市民参加
1	2	6	37	6	4	6	3	9	4	3	9	7	9	18	11
0.2	0.5	1.4	8.7	1.4	0.9	1.4	0.7	2.1	0.9	0.7	2.1	1.6	2.1	4.2	2.6

人口対策	風紀 阪犯	政治への 要請 行革	税金問題	相役所に 相談窓口を	近隣と 協力し合う	住民地 域を盛ん の運動を	各自の 心がけ	協働 力 市 からの 機 関を	サー ビス 機 関を	区と 同じ 行政に	現在 の よ い	そ の 他	D・K・	計
4	15	8	14	1	28	5	6	1	1	1	9	3	195	426
0.9	3.5	1.9	3.3	0.2	6.6	1.2	1.4	0.2	0.2	0.2	2.1	0.7	45.8	100.0

で、今回調査の回答項目中では最高比率である。前回結果では「福祉対策」「近隣と協力」「住民運動を盛んに」の回答を合わせると8.5%であり、回答比率としては殆んど同じである。

③ 今回、「環境、衛生、町をきれいに」等のことから挙げたものは7%であり、前回結果の「清掃環境衛生」「公害対策」を併せた比率5.6%とほぼみ合うものである。

④ 今回、「緑、公園、遊び場、広場」等の整備について答えたものは6%であり、前回結果の「遊園地」「緑化運動」を加えた5.6%とほぼ等しい。

以上、今回、回答比率の多い項目については、前回結果とほぼ同じ比率であることは興味深い。

今回調査の結果について、項目カテゴリーを、[8. 近所の連帯, 福祉]→1. 地域志向, [11. その他, 12. 別がない, D・K.]→3. 消極的, [1~7, 9, 10, 11, の項目]→2. 中間, のように併合し、これと属性との関連を以下にみよう。全般に「地域志向」に関しては回答比率が少ないので傾向的なことはみられない。そこで「消極的」について属性との関連をみていく。

(1) 年齢

女については、両市とも中年層(36歳~65歳)には消極的は少ない。男については、武蔵野では30歳代に、三鷹では56歳以上に消極的は少ない。

(2) 学歴別

一般に、学歴が高くなるほど消極性は少なくなるが、三鷹/男については高・低両側に消極性は少ない。

(3) 職業

女については、僅かながら主婦層に消極的が少ない。男については、武蔵野では管理職・自由業層に消極的が多く、三鷹では労働・自営業層に消極的が多い。

(4) 住居状況・居住年

住居状況では全般に集合住宅層に、居住年では少ない層に消極的が多い。

(5) 家族構成

両市/男女とも、子のある家庭の層では消極的が少ない。

以上をまとめると、地域に対して積極的姿勢をもつ層(「消極的」が少ない層)は、女については中年層であり、男については武蔵野では中年、三鷹では高年層である。女の場合は知識層であるが、男の場合は知識層にも無関心のものがある。また、地域に比較的定着している人びとであり、子供がいるということによって、居住地に対して問題意識をもつ人びとであると言えよう。

3
「コミュニティ」という
言葉からの連想

問50で、コミュニティという言葉から連想するものをリストで提示した項目の中から選んでもらい、コミュニティをどのように把握しているかを探ろうとした。

質問文と回答結果は表5-6の通りである。

表 5-6

問50 コミュニティという言葉から、あなたが連想されるものを、この表から選んで下さい。(リストを提示)

回答		1. 運動会や各種スポーツ活動	2. 盆踊りやお祭りなどの活動	3. 町内会や自治会	4. 教室や趣味の同好会	5. 講演会や講習会	6. 消費者活動	7. 廃品回収などの活動	8. ボランティア活動	9. 道路掃除、ドブ掃除などの共同作業	10. 生活環境を守る公害をなくす運動	11. 地域の親睦会	12. その他(起人)	D・K
女	武蔵野	(20) 84	(10) 42	(25) 108	(37) 158	(34) 148	(11) 49	(5) 22	(25) 106	(3) 14	(25) 108	(37) 158	(1) 3	(8) 33
	三鷹	(30) 129	(12) 50	(21) 89	(39) 169	(38) 166	(9) 38	(5) 22	(20) 86	(2) 7	(21) 92	(35) 153	(2) 8	(10) 43
男	武蔵野	(24) 44	(17) 30	(24) 43	(32) 57	(29) 52	(8) 14	(4) 8	(22) 40	(8) 15	(20) 36	(28) 51	(2) 4	(4) 7
	三鷹	(30) 56	(14) 27	(25) 47	(28) 53	(30) 56	(6) 12	(5) 9	(16) 29	(6) 11	(23) 42	(39) 73	(2) 4	(5) 10

また、選んだ項目数の分布と平均個数を示すと表 5-7 の通りである。

表 5-7
問50で選んだ個数

個数		1個	2個	3個	D・K	選んだ平均個数	選んだ総個数
女	武蔵野	(15) 63	(16) 68	(62) 267	(8) 33	2.3	1,000
	三鷹	(10) 42	(17) 74	(63) 273	(10) 43	2.3	1,009
男	武蔵野	(23) 41	(24) 43	(49) 89	(4) 7	2.2	394
	三鷹	(20) 37	(20) 38	(55) 102	(5) 10	2.2	419

選んだ項目数は、男は女に比し、D・K.が少ないが、3個選ぶものも少ない。平均的には、女の方が僅かに多く、女は男に比し、コミュニティの認識をやや広い範囲で把えているといえよう。

選んだ項目についてみていくと、「11.地域の親睦会」「4.趣味の教室や同好会」「5.講演会等の教養講座」を選んだものが最も多く、それぞれ3分の1の人が選んでいる。項目は次の2つの群に大別される。

1. 地域活動に関連する項目

3. 町内会の自治会
6. 消費者活動
7. 廃品回収などの活動
8. ボランティア活動
9. 道路掃除、ドブ掃除などの共同作業

10. 生活環境を守る公害をなくす運動

11. 地域の親睦会

2. 文化活動に関連する項目

1. 運動会や各種のスポーツ活動
2. 盆踊りやお祭りなどの活動
4. 趣味の教室や同好会
5. 講演会や講習会, 教養講座

各分類ごとに項目を選んだ延数と比率を示すと表 5-8 の通りである。

表 5-8

延数		1. 地域活動の関連項目	2. 文化活動の関連項目	その他	総延数
女	武蔵野	(57) 565	(43) 432	3	1,000
	三鷹	(48) 487	(51) 514	8	1,009
男	武蔵野	(53) 207	(46) 183	4	394
	三鷹	(53) 223	(46) 192	4	419

(注)：()内数字は総延数に対する比率(%)を示す。

男については両市、全く同比率であるが、女においては地域活動関連項目をあげたものは武蔵野に多く、文化活動関連項目をあげたものは三鷹に多い。このことは、女については、コミュニティを地域活動として認識しているものは武蔵野にやや多く、文化活動として認識しているものは三鷹にやや多いということであり、武蔵野市におけるコミュニティについての施策が少し根づいたもの

表5-9

問38 あなたは次のものを、主にどこで買いますか？ {武蔵野
三鷹} 市内か否かを答えて下さい。

回答		1. 下着類					2. 背広, スーツ, コート				
		市内	それ以外	買わない	両方	D.K.	市内	それ以外	買わない	両方	D.K.
サンプル		(88)	(10)	(0)	(1)	(1)	(67)	(27)	(2)	(4)	(1)
	女	武蔵野	379	43	1	6	2	290	115	8	15
	三鷹	(46)	(51)	(0)	(4)	(0)	(8)	(87)	(1)	(3)	(1)
		198	218	0	15	1	36	375	6	11	4
男	武蔵野	(88)	(11)	(0)	(1)	(1)	(55)	(39)	(1)	(5)	(1)
		158	19	0	2	1	99	70	1	9	1
	三鷹	(63)	(31)	(1)	(3)	(3)	(23)	(70)	(1)	(4)	(3)
		118	57	1	5	6	43	130	1	8	5
回答		3. 食料品					4. 薬品				
		市内	それ以外	買わない	両方	D.K.	市内	それ以外	買わない	両方	D.K.
サンプル		(95)	(3)	(0)	(1)	(1)	(91)	(7)	(1)	(1)	(1)
	女	武蔵野	411	14	0	4	2	390	29	4	6
	三鷹	(89)	(7)	(1)	(4)	(0)	(83)	(13)	(1)	(2)	(1)
		383	30	2	16	1	359	57	6	8	2
男	武蔵野	(93)	(4)	(0)	(2)	(1)	(89)	(6)	(2)	(3)	(1)
		168	7	0	4	1	160	10	4	5	1
	三鷹	(90)	(6)	(0)	(2)	(2)	(83)	(11)	(1)	(3)	(2)
		169	12	0	3	3	156	21	1	5	4
回答		5. 日用雑貨					6. 本				
		市内	それ以外	買わない	両方	D.K.	市内	それ以外	買わない	両方	D.K.
サンプル		(96)	(4)	(0)	(0)	(0)	(81)	(12)	(2)	(4)	(1)
	女	武蔵野	414	15	0	1	1	351	51	8	17
	三鷹	(88)	(9)	(1)	(2)	(1)	(52)	(40)	(2)	(7)	(1)
		380	39	2	9	2	223	171	7	29	2
男	武蔵野	(93)	(4)	(0)	(2)	(1)	(61)	(31)	(1)	(7)	(0)
		167	8	0	4	1	110	55	2	13	0
	三鷹	(88)	(9)	(0)	(2)	(2)	(44)	(40)	(1)	(14)	(2)
		164	16	0	3	4	83	74	1	26	3
回答		7. 写真の焼付					8. 贈答品				
		市内	それ以外	買わない	両方	D.K.	市内	それ以外	買わない	両方	D.K.
サンプル		(85)	(11)	(3)	(17)	(1)	(76)	(20)	(1)	(2)	(1)
	女	武蔵野	365	46	12	3	5	328	86	6	8
	三鷹	(69)	(27)	(3)	(1)	(1)	(10)	(87)	(1)	(2)	(1)
		298	115	12	4	3	43	375	3	9	2
男	武蔵野	(74)	(22)	(2)	(2)	(0)	(69)	(24)	(2)	(5)	(0)
		133	39	4	4	0	124	43	4	9	0
	三鷹	(72)	(22)	(3)	(2)	(2)	(21)	(68)	(1)	(9)	(1)
		134	41	5	3	4	40	128	1	16	2

とみられよう。

選んだ項目について属性との関連は余りみられないが、「1. スポーツ活動」「4. 趣味の教室」は学歴の低いものには選ばれる率が多く、「5. 教養講座」といった文化活動は学歴の高い層に選ばれ易い。地域活動関連項目については、年齢、学歴など属性との傾向的な関連は殆ど見られない。

4
生活必需品の購入地域

問38で、生活に必要な種々のものを市内で購入しているか否かを問い、生活圏が市域内か否かを探り、この意味での居住地域との親近性を見ようとした。

質問文と回答結果は表 5-9 の通りである。

全般に、武蔵野市においては市内購入が多く、すべての品物について女は男より多い。

食料品、日用雑貨については、女では95%を越え男でも93%と、ほとんどが市内購入である。薬品、下着類も約90%が市内である。これらの品物については女、男の比率の差は僅かである。

写真の焼付、本については、女では8割以上が市内購入であるが、男では女に比べやや低く、通勤途上でなど、市外での購入もあると考えられる。

背広・スーツ、贈答品になると市内購入は女で7割前後となり、男は著しく少なく、特に背広・スーツで約半数程度になる。

三鷹においては、すべての品物に関して武蔵野より市内購入が少ない。食料品、日用雑貨、薬品等は武蔵野における比率と大差はないが、三鷹においてはこれらの品物について男・女による市内購入比率の差がみられない。

三鷹においては、写真の焼付は下着類より市内購入が多く、これについては女は男より少ない。下着類については、市内購入が少なく男の63%に対し、女は46%と半数を割る。背広・スーツ類、贈答品に至っては男で約2割、女では1割と極めて少なく、特に女の市内購入率が極端に少ない。

両市を通し、男については当然のことながら市内で働く層が市内購入率が高い。三鷹市の女の中では中年層、持家の人が市外で購入することが多く、特に学歴の高い層ではこれが著しく、逆に集合住宅/下の層では市内で購入することが多い。この傾向はスーツ、コート、贈答品、下着類等に顕著に現われている(付表5を参照)。

これらのことは、武蔵野市では、吉祥寺駅周辺の発展から、市内で消費生活を充足し得ている様子が明らかにみられる。これに比べ、三鷹市では、この意味で市内での充足はなされていないことがわかる。

一方、この種のものの住民購買圏は、階層に関連深いことが明らかで、このことから階層の高いものは(特に女性の場合)、その好みに適合する程度に市内の発展がなされていない限り、市域に対し、少なくとも消費生活の面からは親近感を持たないであろうことは充分推察し得る。

5
地域への愛着感

住民が居住地域に対して帰属的一体感をもつか否かは、コミュニティ形成の最も基本的な問題である。そこで、問2で居住している市に対して愛着を感じるか否かを尋ねた。質問文と回答結果は表 5-10の通りである。

表 5-10

問2 あなたは、今住んでいる {武蔵野市 / 三鷹市} に、愛着のようなものをお感じになりますか？

回答 サンプル		1. 感じる					2. 感じない					3. どちらでもない					4. その他					D. K.				
		1. 感じる					2. 感じない					3. どちらでもない					4. その他					D. K.				
女	武蔵野	(84)	363	(11)	49	(3)	12	(0)	2	(1)	5															
	三鷹	(79)	343	(17)	74	(3)	13	(0)	0	(1)	2															
男	武蔵野	(74)	133	(17)	31	(6)	10	(0)	1	(3)	5															
	三鷹	(69)	129	(26)	49	(3)	6	(0)	0	(2)	3															

愛着を感じるものは男より女に、三鷹より武蔵

野に僅かながら多くなっている。しかし最も少ない三鷹／男においても69%の人が「感じる」と答えており、大半の人が愛着を感じているとみることができる。したがって属性別に細かくみていくことも余り意味がない。しかし次のことを指摘することができよう。すなわち、年齢は高いほど、居住年は古いほど、住居は集合住宅より一戸建に(特に集合住宅／下は最低)、借家・社宅等より持家の人に愛着を感じるものは多い。これらの属性は相互に関連が深く、地域への定着度によって愛着が深くなると言えよう。

ちなみに1978年の『武蔵野市民意識調査』においても同様の質問がなされている。その質問文と結果を示すと表5-11の通りである。

表5-11

●あなたは今住んでいる武蔵野市に、何か誇りとか、愛着のようなものをお感じになりますか。(1978年『武蔵野市民意識調査』)

感じる	感じない	どちらとも いえない	D.K.
53%	17%	28%	2%

今回は「どちらともいえない」が少なく、その分だけ「感じる」が多くなっている。1978年『武

蔵野市民意識調査』では「誇り」という言葉が入っているためにとまどいがあったものと推察される。

「誇り」というような評価に基づいた概念としてではなく、居住がある程度定着した際に親密感・固着性をもつと考えられよう。

このことは次の付帯質問(問2-1)によってうらづけられる。すなわち、問2-1では、愛着を感じるものに愛着の理由をきいた。質問文と回答結果は表5-12に示す通りである。

武蔵野・三鷹両市、男・女とも理由の項目をあげた比率はほぼ類似している。すなわち、「自然環境」をあげたものが最も多く30~40%であり、次は「ずっと住んでいるから」「暮しに便利」など、定着性や生活面からの理由を挙げる比率が高く、それ以外の理由を挙げるものはそれぞれ10%以下にすぎない。

理由別分布は地域と関連が深く、武蔵野では中央北、西久保、桜堤、三鷹では井の頭地区で「自然環境」の理由が多く、「暮しに便利」は武蔵野では吉祥寺駅に近い地域、三鷹では三鷹駅周辺地区と上連雀、下連雀、新川、北野地区で多く挙げられている。

表5-12

問2-1 「感じる」と答えた人に—それはどういう点ですか?

サ ン プ ル	回 答	1.	2.	3.	4.	5.	6.	7.	8.	9.	D . K .	問2-1を 尋ねた人 数
		近所の人 となじん でいる	緑多く自 然環境が よい	暮しに 便利	郊外住宅 地として よいイメ ージ	文化水準 が高い	市行政の 施策がよ い	公共の施 設が整っ ている	ずっと住 んでいる から	その他		
女	武蔵野	(3) (4) 14	(40) (48) 173	(24) (28) 103	(5) (6) 20	(2) (2) 7	(5) (6) 20	(3) (3) 11	(22) (26) 95	(14) (17) 61	(1) (1) 3	(84) (100) 363
	三鷹	(10) (13) 42	(32) (40) 138	(19) (24) 83	(4) (6) 19	(2) (3) 9	(4) (4) 15	(5) (6) 21	(31) (38) 132	(6) (7) 24	(0) (0) 1	(79) (100) 343
男	武蔵野	(4) (5) 7	(34) (47) 62	(14) (19) 25	(3) (4) 5	(7) (9) 12	(5) (7) 9	(1) (2) 2	(23) (31) 41	(9) (12) 16	(0)	(74) (100) 133
	三鷹	(9) (12) 16	(31) (44) 57	(20) (29) 37	(4) (5) 7	(2) (3) 4	(3) (4) 5	(3) (5) 6	(21) (30) 39	(5) (8) 10	(0)	(69) (100) 129

(注)：各欄の右側()内数字は、「問2-1を尋ねた人数」に対する比率(%)を示す。

愛着を感じないと答えたものにも、その理由を尋ねた(問2-2)。質問文と回答結果を示すと表

5-13の通りである。

「住んで間がないから」と答えた者が最も多

表 5-13

問 2-2 「感じた」と答えた人に—それはどうしてですか？

回答		1.	2.	3.	4.	5.	6.	D. K.	問 2-2
サンプル		住んで間がない	環境がよくない	公共施設の不備	市行政が悪い	移転するつもりだから	その他		を尋ねた人数
女	武蔵野	(5) 20 (4)	(2) 9 (18)	(0) 0 (0)	(0) 1 (2)	(1) 3 (6)	(3) 11 (22)	(2) 7 (14)	(11) 49 (100)
	三鷹	(5) 20 (27)	(1) 5 (7)	(0) 1 (1)	(0) 0	(1) 2 (3)	(6) 27 (36)	(4) 19 (26)	(17) 74 (100)
男	武蔵野	(6) 11 (35)	(1) 1 (3)	(0) 0	(2) 3 (10)	(2) 4 (13)	(5) 9 (29)	(2) 4 (13)	(17) 31 (100)
	三鷹	(8) 14 (29)	(3) 5 (10)	(0) 0	(0) 0	(2) 4 (8)	(8) 15 (31)	(6) 11 (22)	(26) 49 (100)

(注)：各欄の右側()内数字は、「問2-2を尋ねた人数」に対する比率(%)を示す。

く、ここでも定着性と愛着の関連が見られる。その他、種々の理由があげられているが、頻度はいずれも少ない。

女は男より「ある」と答えたものがやや多く、やはり地域の関わりが多いことがみられる。武蔵野/女を対象とした1976年の前回調査においても類似の質問をしているので、その回答結果を最下欄に付記してある。前回はD. K.が多いので、これを除き比率を出しなおすと(下欄右側()内)今回と殆ど一致しており、この様な認識をもつ比率はあまり動かないことがわかる。

6
家の周辺で困っていること

居住地域についての関心をみるために、家の周辺で困っていることや不満の有無を問4で尋ねた。

今回の調査において「ある」と答えたものと「それ以外」とに分けて、以下に属性との関連をみていく(付表6を参照)。

質問文と回答結果は表5-14の通りである。

表 5-14

問 4 お宅のまわりで、ふだんからおこまりになっていることや、ご不満がありますか？

回答		ある	ない	その他	D. K.
サンプル					
女	武蔵野	(39) 167	(60) 260	(1) 3	(0) 1
	三鷹	(38) 165	(61) 264	(0) 1	(1) 2
男	武蔵野	(31) 55	(68) 122	(1) 1	(1) 2
	三鷹	(34) 63	(63) 118	(0) 0	(3) 6
1976年調査 武蔵野/女		(33) (38) 142	(52) (59) 221	(3) (4) 14	(12) — 49

(1) 年 齢

女については、両市とも26歳～35歳、次いで36歳～45歳に「あり」と答えたものが多く、若年層、老年層では少ない。男については、武蔵野では41歳～55歳、三鷹では56歳以上の層に「あり」の比率が高い。

(2) 職業・勤務地

女については、両市とも、専業の勤務をしている層における比率は主婦層より僅かに多く、勤務地では、必ずしも市内勤務が多いとは言えない。男については、武蔵野では労働と自営業層に、三鷹では技術、管理、自由業層に僅かながら「あり」の比率が多い。

(3) 家族構成

両市/男女を通し、学童以下の子のある層に「あり」

の比率は多く、特に女において著しい。

(4) 支持政党

女については、自民党系支持層より革新系支持層に「あり」と答えた比率がやや多いが、男についてはむしろ逆の傾向がある。

(5) その他

住居状況、居住年、学歴等によっては差異がみられない。コミュニティ地区別にみると、女については武蔵野において桜堤地区に「あり」の比率がやや多く、男については、三鷹において井口・深大寺地区で「あり」の比率が非常に少なくでているものの、地区別のサンプル数が少ないので、これを地区の傾向として把握することはできない

以上、属性別にみて、特に年齢、家族構成と関

連があるとみられることから、いわゆる「子育ての時期」からその後にかけてこのような問題に注目することが多いと見られる。地域への接触度（居住歴や居住地域における生活時間の長さ）や本人自身の理念等には関係なく、子育てに関連して、生活の場である家周辺の狭い範囲についてやや問題意識をもっていると考えられよう。

問4の関連質問として、「ある」と答えた人に対し、それはどういうことであるかを尋ねた（実際には問4で「ある」と「その他」の回答の人に問うた）。11の項目を掲示したリストを示し、いくつでもあげてもらふこととした。

質問文と回答結果は表5-15の通りである。

表5-15

問5 「問4で「ある」と答えた人に」——それは、どのようなことですか？（リストを提示）

		1. 害虫・ねずみなどの問題	2. ごみ処理の問題	3. 高層建築・家の建てこみ・日照権の問題	4. 道路・交通の問題	5. 騒音・振動の問題	6. 煤煙・臭いなど	7. 下水道など居住設備	8. 公共施設が不十分	9. 風紀・犯罪の問題	10. 児童保育の問題	11. 近所の人との人間関係	12. その他	D. K.	問5を尋ねた人数
女	武蔵野	(2) (4) 7	(7) (18) 31	(4) (10) 17	(9) (23) 39	(13) (33) 56	(1) (4) 6	(2) (6) 10	(3) (7) 12	(8) (21) 35	(2) (5) 8	(2) (5) 8	(6) (14) 24	(1) (2) 3	(34) 170
	三鷹	(3) (7) 11	(5) (14) 23	(4) (10) 16	(11) (30) 49	(10) (25) 41	(2) (4) 7	(1) (3) 5	(4) (10) 17	(4) (10) 16	(2) (5) 8	(2) (5) 8	(8) (22) 36	(0)	(38) 166
男	武蔵野	(1) (2) 1	(8) (27) 15	(2) (7) 4	(11) (36) 20	(8) (25) 14	(1) (2) 1	(2) (5) 3	(4) (13) 7	(2) (7) 4	(2) (5) 3	(3) (9) 5	(2) (5) 3	(5) 3	(31) 56
	三鷹	(3) (10) 6	(6) (19) 12	(3) (8) 5	(11) (32) 20	(13) (38) 24	(3) (8) 5	(3) (8) 5	(5) (14) 9	(3) (10) 6	(2) (6) 4	(5) (16) 10	(6) (17) 11	(0)	(34) 63

(注)：各欄の右側()内数字は、「問5を尋ねた人数」に対する比率(%)を示す。

いくつでもあげるように指示しているの、あげた数も関心の強さを表現する指標としてみられよう。そこであげた数の分布をみると表5-16の通りである。

あげた項目数は、1項目のみの人が約60%であり、3項目以上をあげた人は約10%に過ぎず、平均的には1.5程度である。

全体の人数に対する比率をみると、2項目以上

あげたものは11%~15%程度と極めて僅かであるが、これを属性別にみると、高学歴層、一戸建住宅層にはやや多いことが見られる(付表7を参照)。

11項目の中、多くあげられた問題は、騒音・振動、道路・交通の問題であり、次いで、ごみ処理、風紀・犯罪、公共施設不十分、家の建てこみ・日照権の問題等である。これらの順位は、市により、性別により多少の差異がみられる。各項

表5-16
問5であげた個数

個数		1個	2個	3個	4個	5個	6個	7個	8個	9個	10個	11個	D. K.	問5を 尋ねた 人数	平均 個数
女	武蔵野	(25) (64) 108	(10) (24) 41	(3) (6) 11	(1) (3) 5	(0.2) (1) 1	(0.2) (1) 1	0	0	0	0	0	(1) (2) 3	(39) (100) 170	1.5
	三鷹	(27) (69) 115	(9) (23) 39	(2) (4) 7	(1) (2) 3	(0.2) (1) 1	(0.2) (1) 1	0	0	0	0	0	0	(38) (100) 166	1.4
男	武蔵野	(18) (59) 33	(8) (27) 15	(2) (5) 3	(1) (2) 1	(1) (2) 1	0	0	0	0	0	0	(2) (5) 3	(31) (100) 56	1.4
	三鷹	(18) (54) 34	(11) (33) 21	(2) (5) 3	(1) (3) 2	0	(1) (2) 1	(1) (2) 1	0	0	0	(1) (2) 1	0	(34) (100) 63	1.9

(注)：各欄の右側()内数字は、「問5を尋ねた人数」に対する比率(%)を示す。

目をあげた人数は少ないのでこれを属性別にみることはできない。

同様の質問は、武蔵野／女に関しては1978年の『市民意識調査』および1976年の前回調査でも問

われているが、質問様式、提示項目等が異なるので正確な比較はできない。しかし問題点の変化をみる意味で、参考として表5-17および表5-18を示す。

表5-17 1978年『武蔵野市民意識調査』(武蔵野／女)

お宅のまわりで、ふだんからおこまりになっていることや、ご不満がございますか
つぎのうちおもなものを3つまであげて下さい。(複数回答)

項	目	回答比率(%)
(1)	1. ハエ、カ、ゴキブリ、ねずみが多い	20
(2)	2. ゴミの回収やくみ取りが十分でない	9
(7)	3. 排水の処理が悪い	4
—	4. 日用品の買物の便が悪い	12
(4)	5. 交通機関の便が悪い	8
(5)	6. 騒音、振動がひどい	22
(6)	7. ばい煙、悪臭がひどい	3
(4)	8. 交通事故の危険が多い	20
—	9. 緑が少ない	7
(4)	10. 道路が悪い	8
(9)	11. 青少年に対する環境が悪い	11
(12)	12. その他 ()	11
	13. D. K.・N. A.	25

(注)：最左欄の()内数字は、今回の調査に対応すると考えられる項目番号。

表 5-18 1976年『前回調査』(武蔵野/女)

● あなたの地域で、みんなが共通に困っている問題がありますか。

1. ある→それはどのような問題ですか。
2. ない 3. その他 4. D.K.

● 「ある」と答えた人に—どのような問題ですか？

塵 介 衛 生	道 路 ・ 交 通 問 題	公 共 施 設 不 足	駐 車 場 遊 び 場 不 足	(環 境 ・ 日 照 権 、 工 場)	風 紀 ・ 犯 罪	居 住 設 備	人 間 関 係	そ の 他	D ・ K
(13) 19	(15) 21	(15) 21	(11) 15	(18) 26	(5) 7	(14) 20	(1) 2	(4) 5	(4) 6

(注)：自由回答の結果を分類・整理したもの。()内数字は、「ある」と答えた142人に対する比率(%)を示す。

1978年調査では回答項目を3項目までと制限づけられているが、平均回答項目数は1.4であり、今回の調査の場合とほとんど変わらず、この様な問題への関心の程度は変わっていないとみられよう。

問題項目についても騒音・振動、道路・交通の問題などが回答比率の高いことは一致している。

「ハエ、カ、ゴキブリ、ねずみ」は回答比率が高いが今回調査の「害虫・ねずみなどの問題」はさほどに高い比率ではない。これは、今回調査における項目の言葉づかいの問題(ハエ、カ、ゴキブリという具体的なものを害虫におきかえたため)により回答率が低くなったものと考えられる。したがって、共通項目の限りでは回答傾向は大体類似とみられる。

1976年調査では、質問は自由回答であり、項目

の分類も異なるが、環境問題、道路・交通問題等が多くあげられていることは類似している。しかし「公共施設不足」が「道路・交通」と同率となっていることは今回調査と異なり、今回では前者をあげた比率は、「ごみ処理」よりはるかに低い比率である。このことは、ここ6年間に武蔵野市が高校新設、コミュニティ・センターの設置等、公共施設の整備に力を注いだ結果を市民が評価した結果といえよう。これに反し、「風紀・犯罪の問題」は前回に比べて今回は増加しており、市の新たな問題と考えられよう。

何れにせよ、この設問ではこれを問われている人が4割以下であり、問題となっている項目の大きな傾向を知るに留まる。

6

地域活動への参加

前章では、静的な意味あいでの地域との関わりを探ったが、本章では、具体的な行動をとおして見た、より動的な意味あいでの居住地域に対する住民の関わり合いの様相を検討していく。

1. 地域の催し・行事への参加……………84
2. 清掃などの呼びかけへの協力……………85
3. 近隣地域で困っている問題への対処……………86
4. 町づくり活動への参加……………88
5. 住民運動（マンション建設反対運動）への参加……………89
6. 住民運動（老人ホーム建設反対の運動）への参加……………90
7. 住民運動一般についての意見……………91



1 地域の催し・行事への参加

問3で祭りなどの地域行事に参加の意向をもっているか否かを尋ねた。質問文と回答結果が表6-1に示される。

ちなみに、前回調査（1976年、武蔵野/女）の質問文と結果を示すと、表6-2の通りである。

前回調査とは質問文および選択肢のとり方が多

少異なるので正確な比較はできないが、「参加」を合わせると35%で、僅かに少なくなっているものの、大体変化はないと考えられよう。

カテゴリーを〔積極的参加・つきあいで参加・する〕→1. 参加,〔余り参加しない〕→2. 消極的,〔参加したことはない・その他・D.K.〕→3. 不参加,と併合して回答分布をみると、両市/男女ともに殆ど差異なく、いずれも30%前後が「参加」であり、40%前後が「不参加」となっている。この結果を、以下に属性別に詳しくみていこう（付表8を参照）。

表 6-1

問3 あなたは地域の行事（盆踊り、スポーツ大会、お祭りなど）に参加なさいますか？

回答 サンプル		1.	2.	3.	4.	5.	6.	D. K.
		積極的に参加する	つきあい(義理)で参加する	余り参加しない	参加したことはない	その他	その他(参加する)	
女	武蔵野	(19) 80	(9) 37	(26) 112	(40) 174	(6) 24	(1) 3	(1) 3
	三鷹	(21) 91	(11) 48	(30) 130	(36) 157	(1) 5	(0) 1	(0) 1
男	武蔵野	(22) 39	(6) 10	(28) 50	(40) 72	(3) 5	(2) 4	(0) 0
	三鷹	(10) 18	(17) 32	(34) 64	(38) 71	(1) 2	(0) 0	(0) 0

表 6-2

● あなたは、お祭りなどの地域の行事に、積極的に参加なさいますか。(1976年調査、武蔵野/女)

1. 参加する	2. 参加しない	3. 義理で少しだけ	4. その他	D. K.	計
(23) 99	(58) 247	(12) 51	(6) 26	(1) 3	(100) 426

(1) 年 齢

女に関しては、武蔵野市では36歳～50歳、三鷹市では26歳～35歳をピークとし、これより若年へ、高年へと比率は下り、武蔵野市では51歳以上の参加が有意に少ない。

男については、両市とも20歳代の参加が少なく、31歳以上では年齢による差は明らかでない。

(2) 学 歴

女については、両市とも中程度の学歴の者に参加が多いが、男では両市とも学歴の低い者に参加が多い。

(3) 職業・勤務地

両市/男女とも無職・学生層は参加が少ない。これ以外の職業については、三鷹市では職業による差異が殆どないが、武蔵野市では、職業により多少の差異がみられる。すなわち、女では、専門のものに参加は少なく、男では、労働・自営業層のものに参加が多くなっている。勤務地別にみると、女では職業をもち、しかも市内で働いている者に参加は有意に多く、男にもこの傾向はかなり明らかに見られる。

(4) 居 住 年

市内に住んで2～3年のものでは、参加は著しく少ない(三鷹市の女の場合のみ例外)が、それ以外は、特に古い方が参加をするということのみられない。

(5) 家族構成

両市/男女を通し、単身者が最も参加が少なく、次いで定住家族のもの、次に既婚者で子のない者が参加が少なく(不参加が多く)になっている。そして、学童またはそれ以下の子を持つものが男女を問わず参加が有意に多くなっている。

(6) 支持政党

女に関しては、両市とも革新系支持に参加が多く、自民系支持者に参加が少ない。男に関しては、三鷹市では女と同様の傾向がみられるが、武蔵野市では革新系支持より自民系支持が僅かながら行事参加が多い。

以上をまとめると、地域行事へ「参加」と答える集団像が多少描ける。すなわち、学童以下の子供のいる家庭(年齢26歳～45歳位)、昼間も市内にいるもの、支持政党は革新系統(武蔵野/男以外)という層に多いということが言えよう。すなわち、子供を通して地域との接触が密であり、多意識の高い人びとと言うことができよう。

2
清掃などの呼びかけへの協力

町内会・自治会からの清掃などの呼びかけのさい協力するかということを開9で尋ねた。質問文と回答結果を示すと表6-3の通りである。

ちなみに1978年『武蔵野市民意識調査』の質問文と結果を示すと表6-4の通りである。

質問文も多少異なり、選択肢の差異も大きいですが、[すすんで協力:26%][もとめられれば協力:53%]は、それぞれ今回調査の選択肢[1]と[2+3]に対応させてみる事ができ、大きな変化のないことを認めることができる。

カテゴリーを[1. 積極的に協力]→1. 協力, [3. つき合いで参加, 4. なるべく避けるようにしている, 5. 出ないことにしている, D.K.]→3. 消極的, [2. 時間の都合がつけば参加, 6. その他]→2. 時による, というように併合して、以下に属性との関連をみていく(付表9を参照)。

表 6-3

問9 あなたは、地域の町内会や自治会から、害虫駆除や清掃などを、一緒にするように、よびかけられたとしたら、どうなさいますか？

回答		1. 積極的に協力する	2. 時間の都合がつけば協力する	3. 近所の人のつき合の上、参加する	4. なるべく避けるようにしている	5. 出ないことにしている	6. その他	D. K.
女	武蔵野	(33) 141	(51) 220	(4) 18	(2) 7	(4) 15	(4) 16	(3) 14
	三鷹	(37) 159	(47) 204	(6) 26	(3) 13	(3) 14	(2) 7	(2) 9
男	武蔵野	(21) 38	(64) 115	(4) 7	(2) 3	(5) 9	(3) 6	(1) 2
	三鷹	(23) 43	(64) 119	(2) 4	(3) 5	(4) 8	(2) 3	(3) 5

表 6-4

● ご近所から害虫の駆除やドブ掃除など、労力奉仕のようなかたちで協力をもとめられた場合、あなたのお考えに一番近いものを選んで下さい。(1978年『武蔵野市民意識調査』) (%)

すすんで協力する	もとめられれば協力する	自分達でお金を出し合って人を雇う	市にやらせるよう皆で話し合う	本来市がやるべきだから、拒否する	その他, D. K.
26	53	2	11	4	4

(1) 年齢

女では、両市とも36歳～50歳で「積極性」を示すものは有意に多く、これをピークに（三鷹では51歳～65歳も殆ど同比率）、若年・老年に向け少なくなり、20歳～25歳では両市とも極めて少なくなっている。男では、両市とも56歳以上で「積極性」が最高（武蔵野では顕著に多い）となり、20歳代で最低（武蔵野では特に顕著）となっている。

(2) 学歴

一般に差は明確でないが、三鷹/女、武蔵野/男では学歴の低い方が「積極性」を示す。

(3) 職業・勤務地

女では、両市とも主婦に「積極的」が最も多く、次にパート勤務者、専業従事者の順である。すなわち、昼間家にいることが少ないものは地域での協同作業に参加しにくいということが明らかに現われている。

男では、両市とも労働・自営業層の人に「積極性」は多くなっている。

勤務地別に見ると、女では市内で職業に従事している人は、主婦・無職・学生層より「積極性」を示すものが多い。このことは、市内でのパート従事者等に地域での「積極的協力」が多いことを示す。男の場合は市内で働く人の層と無職・学生層との差は少ない（三鷹では後者の方に「積極性」が多い）。男の場合、パート従事者は少ないので、女の場合と異なり、市内で働いていても休日は休息をとり地域で協同作業をする時間が少ない人もあることを示すと見られよう。

(4) 住居状況・居住年

両市/男女とも一戸建ての人の方が集合住宅の人より「積極性」を示す。特に集合住宅/下の層では「積極性」を示す人が少ない。このことは低廉アパート居住者には、この種の協同作業の呼びかけも少なく、また居住者の側も永住性が少なく地域協力を示す意向も少ないことがうかがえる。

居住年別では他の質問同様、最近市内に居住し始めたものは「積極性」を示す比率が少ない。

(5) 家族構成

両市/男女とも定位家族のもの（すなわち世帯の中で責任をもつ地位にいないもの）には、「積極性」を示すものが有意に少ない。「積極性」が高い比率を示す層は、子の代が家の中心になっているか、あるいは子が大きい（中学以上）家庭の層である。このことは、年齢層における差異のうらづけとなるものと見ることができよう。

(6) 支持政党

女では両市とも革新系支持者に「積極性」を示すものが最も多い（武蔵野では特に顕著）。

三鷹市では自民党支持者の中でも「積極性」を示すものはかなり多い。男では両市とも支持政党による差は多くないが、その他の政党（公明を含む）支持の中に「積極的」のものが最も多く、革新系支持者では「2.どちらとも」のカテゴリーに反応したものが多く、「積極的」のものは少ない。

(7) その他

地域別に見ると、武蔵野/女では中央北地区、西久保地区に「積極性」が多く、関前地区は少ないことが見られるが有意な差はない。

兄弟数別にみると、両市/男女とも兄弟数が5人以上のものの中に「積極性」が有意に多く、兄弟の順位では下のもの特に4番目以降のものに「積極性」が多いことは興味深い。多数の兄弟の下の方で生育したものはこの様な集団的作業に比較的抵抗なく参加（協力）できるということを示すと考えられよう。

以上をまとめ、この質問9で「積極性」を示すものが多い層を描くと次のように言えよう。すなわち、女では中年層（いわゆる“子育て期”を終り作業もまだできる年齢層）、主婦または市内で働く人びとであり、革新系支持層の人である。男の場合は、定年を迎えた年齢層、市内で働く人びと（自営業を含む）の層である。そして男女を通し、一戸建またはマンションに住む層、生育時に多数の兄弟の下に育ったものと言えよう。つまり、男女ともに、生活時間の多くを市内で過ごす人であり、地域における居住という意識を比較的是っきりもっている人であり、生育歴からくるパーソナリティから、この種の協同作業に抵抗なく参加できる人びとと考えられる。特に女性では、多少進歩的意見をもった人と考えられよう。

3

近隣地域で困っている問題への対処

問6で「お宅のまわりでふだんからお困りになっていることやご不満があったか」と尋ね、それらの問題について地域協力での対処をしようと思うかを聞いている。この質問は、問4で「ない」と答えた人にも「もし何か問題があったとしたら」

表 6-5

問 6 あなたは、それらの問題について、地域の中で、協力して対処してゆこうと思いませんか？

回 答		思 う	どちらとも いえ ない	思 わない	そ の他	D. K.
サンプ ル						
女	武蔵野	(40) 172	(8) 33	(14) 59	(6) 25	(33) 142
	三鷹	(36) 157	(10) 42	(16) 69	(3) 14	(35) 150
男	武蔵野	(28) 51	(6) 10	(8) 14	(4) 8	(54) 97
	三鷹	(26) 49	(9) 16	(17) 32	(1) 1	(48) 89

として一応聞くことにした。

質問文と回答結果は表 6-5 の通りである。

「地域協力をしよう」と思うものは、女の方が男よりかなり多い比率を示す。また、武蔵野の方が三鷹より男女とも僅かばかり多くなっている。前回の調査(1976年、武蔵野/女)の場合とは質問文が異なり前後関係も多少異なるので、今回では D. K. が多く(「実際に問題はないのでわからない」と答えた人も多い)、「思う」比率をそのまま比べることはできない。そこで D. K. を除いた比率で比べてみることにする。前回の質問文と結果を示すと表 6-6 のようである。

表 6-6

● あなたは、地域の中で協力し合って、問題に立ち向かおうと思いませんか。(1976年調査、武蔵野/女)

思 う	どちらとも いえ ない	思 わない	そ の 他	D. K.
(48) 42	(31) 27	(18) 16	(3) 3	(-) 12

(注)：数字は回答者に対する比率(%)を示す。()内数字は D. K. を除いたものについての比率(%)を示す。

前回と比べ今回の武蔵野/女は「思う」と答えたものは多少増えている。

回答を属性別に見ると次の通りである(付表 10 を参照)。

(1) 年 齢

「思う」と答えた比率は、女については中年層に多く、若年、老年へと比率は少なくなる。特に両市とも 20歳~25歳では極めて低い。

男では、武蔵野は41歳~55歳、三鷹では56歳以上がピークであり、両市とも40歳以下はかなり低い比率である。

(2) 学 歴

女は学歴によって、はっきりした差はみられない。しかし三鷹では、学歴の高い方に「思う」比率は多い。これに反し男では、両市とも学歴の低い層に「思う」比率は僅かながら多い。

(3) 職 業・勤 務 地

女では、無し・学生・D. K. の層に「思う」比率が低くなっているが、男では逆に、僅かではあるが、この層において高くなっている。

勤務地別に見ても大きな差異は見られない。

(4) 居 住 年

女については両市とも昭和54年以降の居住者層で極めて少ない。男についてもこの傾向は見られる。

(5) 家 族 構 成

両市/男女とも学童以下の子をもつ家族のものが「思う」比率は高い(特に三鷹/女では非常に高い)。そして単身者や定位家族など、若年層と考えられる層が低い比率であることも両市/男女に共通である。

(6) 支 持 政 党

武蔵野では、男女とも革新系支持層に「思う」比率は最も高く、自民党支持層に最も低い。しかし三鷹では、女では革新系支持者も自民党支持者も「思う」比率はほぼ同じであり、男では革新系支持者の「思う」比率は反対に有意に低い。

なお、公明党支持者は人数も少なく安定した結果とは言えないが、女の中では武蔵野では革新系支持者と同様かなり高く、三鷹では自民、革新より低くなっている。

(7) その他

住居状況(低いほど「思う」比率は少ない)、兄弟数(1人の者が「思う」比率が高い)など多少の差異が見られるが、両市/性別を通しての安定した傾向としては認められない。

以上をまとめると、地域で協力して問題に対処しようというような連帯的行動をとろうという意識を持つものは、中・高年、学童以下の子をもつ家族に多く、若年者、最近居住した者には少ないということのみ両市/男女に共通である。支持政党、学歴との関連は市別男女別に異なっており、連帯的行動意識の高い集団は、単純に属性からは測り切れないものがあるといえよう。

4

町づくり活動への参加

問10で、地域の人びととグループを作って住みよい町にする活動への参加意向があるかを尋ねている。質問票では問9のすぐ後に続くので、被調査者はこれ(問9)と関連づけて考えると思われる。したがって、「住みよい町づくり活動」に、町の清掃など比較的具体的なイメージを描くであろうが、問9が協同作業をはっきり示したのに対し、問10では作業的なことを必ずしも連想せずプランニングなどを想像する場合もあると考えられる。さらに「地域の人びととグループを作って」ということで、前問の受動的行動と異なり積極的行動をとるかが問われている。すなわち、この設問では積極的に地域に対し集団行動をとる意向があるかを問うている。

質問文と回答結果を表6-7に示す。殆ど同じ質問が前回調査(1976年、武蔵野/女)にあるので、その質問文と結果も示すと表6-8の通りである。

表 6-7

問 10 あなたは、地域の人々とグループを作って、何か住みよい町づくり活動をしようと思いませんか？

回 答 サンプル		1.	2.	3.	4.	5.	D.K.
		思 う	関 心 が な い	思 わ な い	そ の 他	時 間 が な い	
女	武蔵野	(30) 131	(8) 35	(43) 183	(10) 43	(7) 28	(2) 9
	三鷹	(37) 161	(11) 48	(42) 181	(7) 30	(0) 1	(3) 11
男	武蔵野	(30) 54	(9) 17	(48) 87	(8) 15	(2) 3	(2) 4
	三鷹	(41) 77	(23) 43	(31) 57	(2) 3	(1) 1	(3) 6

表 6-8

●あなたは婦人同士、または地域の人びととグループを作って、何か住みよい町づくりの活動をしようと思いませんか。(1976年調査、武蔵野/女)

1. 思 う	2. 関 心 が な い	3. 思 わ な い	4. そ の 他	5. D.K.	計
(32) 134	(11) 71	(31) 130	(14) 63	(7) 28	(100) 426

前回調査の結果は今回の武蔵野/女と類似の比率であり、このような意識が全体的には変わっていないことがわかる。

カテゴリーを [1] → 1. 積極性, [3] → 3. 否定

的, [1, 3 以外] → 2. 中間, のようにくくり、以下に「積極性」を示すものを属性別にみていく(付表11を参照)。

(1) 年 齢

女では両市とも36歳～50歳に最も多く、これをピークに若年、高年へと次第に少なくなっている。男については、武蔵野では41歳～55歳、三鷹では56歳以上が最も多い。

(2) 学 歴

女については武蔵野で、男については三鷹で学歴の高い層に比率が多くなっているが傾向的なものとしてはみられない。

(3) 職業・勤務地

女については、武蔵野ではあまり差がないが専業・パート・主婦の順であり、三鷹ではパート・主婦・専業の順となっている。

勤務地別に見ると、女では両市とも市内で働く者に「積極性」比率は最も多い。このことから、女の場合こうした活動に関心をもつのは、主婦よりむしろ働いている人、特に市内で働いている人であると言える。

男の場合は、武蔵野では労働・自営業の層に多く、勤務地別に見ても市内勤務者に比率が高く、この職業層に関心をもっていることを裏付けしている。三鷹では職業別に大きな差はみられないが、僅かながら管理・自由・技術職や事務職の層の方が自営業層より「積極性」の比率が多い。勤務地別にみても区内勤務者に最も多く、職業層との関連をうらづけている。

このことから、男の場合には、武蔵野と三鷹ではこうした活動に関心を示す層が異なることがわかる。

(4) 住居状況・居住年

住居では全般に一戸建の方が多く、特に集合住宅/下は、両市とも男女を通して「積極性」を示すものは少なくなっている。

居住年では新しい居住者に「積極性」を示すものが少ない。このことは他の多くの設問と同様である。

(5) 家族構成

他の多くの設問と同様、両市/男女とも単身世帯・定位家族に在る者は「積極性」比率が小さい。既婚者の中では、学童以下の子供の有無は余り関係なく、両市/男女とも、むしろ親と同居しているものに「積極性」を示すものが多い。このことは、老人問題と関連して地域活動を考える故であるように思える。

(6) 兄弟数

全般に兄弟数の多い方が、そして特に4番目以下の人々に「積極性」がやや多い。

(7) 支持政党

女については、両市とも革新系支持層に「積極性」は有意に多い。男についても武蔵野ではやはり革新系支持層に最も多いが、三鷹では自民党支持層の方が高い比率を示している。

(8) その他

女についてコミュニティ地区別にみると、武蔵野では中央・西久保・関前の区域に、三鷹では牟礼・井口・新川・中原の区域に多い。

以上をまとめると、この質問で「積極性」を示す人びとの層は、前節でみた層と少し異なっていることがわかる。まず、両市/男女を通し、居住年

の少ないもの、集合住宅/下に住むもの（この両者には関連がある）の中には「積極性」が少ない。このことは前節の設問同様であるが、家族構成で学童以下の子の有無は関係なく、むしろ親と同居の者に「積極性」が多い。つまり子を通しての地域との接触ではなく、むしろ老人問題を通しての地域への志向と考えられる。

さらに、女では中年、学歴は高く仕事をもっており、革新系支持者であり、地域活動の意識をかなりはっきり持っている人びとと言える。一方男では、武蔵野と三鷹では様相を異にしている。武蔵野では中年の自営業または労働の仕事で市内で働いており、学歴は低い方であるが革新系支持者であり、三鷹では高年、管理・技術職、自由業で区内に通っており、学歴も高く、自民党支持の人びとである。

調査における歪みが少ないものであるなら、男の場合、武蔵野と三鷹の両市では「住みよい町づくり活動」のイメージが異なっているのではないかも考えられる。

5 住民運動(マンション建設反対運動) への参加

問17で、自分に直接の影響がなくても、家周辺の居住環境の問題に対処する運動への参加の意向を聞いている。この設問はコミュニティ・センターに関する質問の後に来ているので質問の流れの影響はあまりなく、具体的な環境問題対処の活動としてとられるものと思える。

質問と回答結果は表6-9の通りである。

積極的参加の比率は、武蔵野・三鷹とも殆んど同じである。女は男より僅かに高い比率を示している。

カテゴリーを、[1]→1. 積極的参加, [2]→2. 消極的参加, [3・4・5・0]→3. 不参加, というように併合し、以下に「積極的参加」の比率の高い層を属性別にみていく(付表12を参照)。

(1) 年齢

両市/男女とも高年齢層に「積極的参加」が多く、若年層には少なく女では顕著に少ない。

(2) 学歴

表 6-9

問 17 ところで、次のような場合、あなたはどうかされますか？

お宅の近くに高層マンションが建てられることになりました。このために、日当たりが悪くなる家が何軒もできるので、近所の人が集って、反対運動を起すことになりました。あなたのお家は、直接の影響はなかった(日当たりは悪くならない)としたとき、あなたは、その反対運動に参加されますか？

回 答		1. 近所全体のことだから、積極的に参加する	2. 近所とのつきあいで参加する	6. 参加する	3. 関係ないことだから、参加しない	4. そういう運動には一切参加しない	5. その他	0. D.K.
女	武蔵野	(33) 140	(22) 94	(5) 20	(20) 85	(8) 35	(9) 38	(4) 19
	三鷹	(33) 141	(27) 117	(0) 0	(21) 89	(8) 33	(8) 36	(4) 16
男	武蔵野	(26) 47	(13) 23	(5) 9	(24) 44	(9) 16	(21) 38	(2) 3
	三鷹	(23) 43	(28) 53	(2) 4	(21) 40	(11) 20	(8) 15	(6) 12

両市/男女とも、中程度の層に最も少ない。高と低のうちでは低い層に多くなっている(武蔵野/男は逆)。

(3) 職業・勤務地

職業による差は比較的少ないが、女性については、両市とも事務職、次いで技術・管理職、自由業に多く、勤務地には傾向的なものはみられない。

(4) 住居状況・居住年

住居では一戸建/上の層の人びとに多く(武蔵野/女は一戸建/中)、武蔵野市では集合住宅/下、三鷹市では集合住宅/中・上に少ない。

このことはマンション建設反対運動が両市の間で異なることを意味するものと言えよう。すなわち、武蔵野市ではこの運動が一般的住民運動として土着化しているので、すべての地域活動に関心を示している集合住宅/下の層がやはり低い比率を示し、三鷹市の場合は、この運動を一般的地域活動というより、むしろ自分の利害に関連づけて考えるので、集合住宅/中・上の層に関心のものが多くなるのではなかろうか。

居住年ではやはり最も新しい居住者に無関心が多くなっている。

(5) 家族構成

年齢層からみた通りに比較的高年齢層、すなわち家族構成では中高校以上または成人の子をもつもの、あるいは次世代の家族に在るものの層に「積極的参加」が多くなる。

(6) 支持政党

女については両市とも革新系支持層に有意に多い。男については、武蔵野市では革新系支持層に多いが、三鷹市では革新系支持層には最も少なく自民系支持者

に多くなっている。

(7) その他

女についてコミュニティ地域で見ると、武蔵野では中央地区に多く、境南地区で少なくなっている。

以上をまとめると、こうした運動への参加と意識は、「清掃などの協同作業への参加」とも「住みよい町づくり活動への参加」とも多少異なる様子が見えてくる。

高齢層で女では主婦、男ではホワイトカラーの層、革新系支持者層(三鷹市/男は異なる)に多いこと、武蔵野・三鷹両市における住居層の差異などから、一方では問題意識の強さ、また他方では個人のレベルでの生活環境の防衛といった幾つかのことがらが意識の底に低迷しているように考えられる。

6

住民運動(老人ホーム建設反対の運動)への参加

前問(問17)と類似であるが、この問18では運動の目標そのものが自分の周辺地区の利のみを追求する運動であってもこれに参加する意向が「否」かを問うた。質問文と回答結果は表6-10に示した通りである。

反対運動に参加するものは、女7%、男4%と

表 6-10

問 18 それでは、次のような場合はどうなさいますか？

お宅の近くに老人ホームができることになりました。しかし、老人は火の不始末などをしやすく、火災の危険もあるので、老人ホーム建設反対の住民運動が起りました。この場合、あなたは参加されますか？

回答		1.	2.	3.	4.	5.	D.K.
サンプル		老人ホーム反対運動に参加する	老人ホームができるのは良いことなので参加しない	そういう運動に参加するのは面倒だから参加しない	その他	参加しない	
女	武蔵野	(7) 28	(47) 201	(13) 57	(13) 57	(14) 62	(6) 26
	三鷹	(7) 28	(66) 283	(12) 51	(4) 18	(7) 29	(5) 23
男	武蔵野	(4) 8	(49) 89	(9) 16	(21) 37	(12) 21	(5) 9
	三鷹	(4) 8	(67) 125	(13) 25	(5) 9	(4) 8	(6) 12

少なく、選択肢はリスト提示をしていないので2, 3, 4, 5の区分は判然としなかった。

したがってこの質問によって地域活動志向を探ることはできず、細かい分析はおこなわないこととした。

7

住民運動一般についての意見

特定の条件を設定した際の住民運動について参加意向を問う2つの質問により、具体的なイメージを想起した後に、一般的に住民運動について意見をたずねた。質問文と回答結果を示すと表6-11の通りである。

两市 / 男女の回答比率はよく類似している。いま、カテゴリーを[1・2]→肯定, [4, 8]→2. 中間, [3, 5, 6, 7]→3. 否定のように併合し、以下に属性との関連をみよう(付表13を参照)。

表 6-11

問 19 あなたは、一般的に住民運動というものを、どうお思いになりますか？

回答		1.	2.	3.	4.	5.	6.	7.	8.	D.K.
サンプル		ぜひすべきことと思う	よいことと思う	わずらわしいことと思う	問題による	余りよいこととは思わない	好きな人にまかせておけばよい	すべきことではないと思う	その他	
女	武蔵野	(7) 28	(28) 121	(2) 7	(26) 113	(4) 17	(7) 28	(1) 2	(13) 56	(14) 59
	三鷹	(7) 28	(25) 108	(2) 9	(30) 130	(5) 20	(10) 44	(1) 3	(7) 31	(14) 59
男	武蔵野	(7) 13	(29) 52	(1) 1	(21) 38	(7) 13	(8) 15	(2) 4	(17) 31	(7) 13
	三鷹	(5) 9	(31) 57	(2) 3	(39) 72	(5) 10	(10) 19	(0) 0	(4) 7	(5) 10

(1) 年齢

女については36歳～50歳に「肯定」の比率が最も高く、これをピークに若年、高年へと次第に「肯定」の比率は低くなる。男については中年において(武蔵野では41歳～55歳、三鷹では31歳～55歳あたり)「肯定」

の比率が高くなる。

(2) 学歴

全般に、学歴の高い層に「肯定」の比率が高く(三鷹/男では中・高学歴は同程度)、学歴の低い層では「否定」の比率が極めて高い。

(3) 職業・勤務地

女については、主婦・パート就業者層に「肯定」比率が高く、無職・学生層では最も少ない。男については、事務職（武蔵野）、技術・管理職・自由業（三鷹）において「肯定」比率が高く、労働職・自営業において「肯定」比率は最も低く、「否定」比率は最も高い。勤務地別には明瞭な傾向は見られない。

(4) 住居状況・居住年

住居状況による差異は、男女/両市によって異なり傾向を把握することはできない。居住年については前節までの多くの地域関係の設問の場合と異なり、居住年の少ない層において「肯定」の比率がかなり高く、三鷹/男では最高を示し、他の場合は居住年層による差異は比較的少ない。

(5) 家族構成

単身世帯の層では「肯定」の比率が少ないということ以外に、全体を通して傾向的なことはあまり見られない。

(6) 兄弟数

女では兄弟数が多く順位は下のものの層で「肯定」比率が高く、男では逆に兄弟数が少なく順位も上の層で「肯定」比率が高い。

(7) 支持政党

女では、革新系支持層に「肯定」は際立って多く（武蔵野では特に顕著）、自民党支持層には最も少ない（武蔵野では特に少ない）。男の場合は、女の場合より差は明らかでなく、特に三鷹では革新系支持層に「肯定」はそれほど多くない。

以上をまとめてみると、この質問に対する「肯定」（積極性）層は、女においては①中年、②学歴は高く、③専業の仕事を持っていない人びとであり、④革新系支持層に多く、男においては①中年、②学歴は中以上で、③ホワイトカラー、④革新系支持層にやや多くなっている。

居住年数と勤務地別で差異の少ないことから地

域との接触の緊密性とはあまり関連がなく、家族構成とも関係は少ない。一方、兄弟数が女では多い方に、男では少ない方に「肯定」が多いことは、女では集団行動志向の人びとであり、男ではむしろ個人として行動していこうという人びとであると考えられる。このことから、男女による判断や志向の根拠の差異が覗える。すなわち、女においては革新的イデオロギーを持ちそのエネルギーを地域で（職場ではない）発揮し、それを集団行動に結びつけるものと考えられ、男においては個人的に考え判断してこれを是とするものであり、意識の段階に留まっている（自分の現実的行動とは結びつかない）ものではないかと考えられる。

地域における活動への参加に関する6個の質問（問18は割愛）を総合して、属性との関連の差異から地域への関わり方の違いをみていこう。

「地域行事への参加」は、地域と生活的な関わりの深いもの（勤務地が市内、小さい子をもつ）が積極的であり、「家周辺の困った問題」は、ある程度の居住年数があり、女では主婦、パートなど、男では無職に多いが、小さい子をもつ家族のものに多く、時間的余裕をもち地域への関心をもっている人びとに多いことがわかる。

「清掃等の呼びかけに参加」は、協同作業ということであるので意識は高くなくても集団行動に志向している人と言えよう。これら3問に対して、次の3問は、地域との関連の深さよりむしろイデオロギーの面での志向が強く効いているように思える。特に「町づくり活動」と「住民運動」は女では学歴の高い層に多く、意識の高い人びとであり、特に「町づくり活動」はさらに強い地域志向が加わっている。「マンション建設反対」は生活環境との関係が加わってきていると言えよう。

7

市行政との関わり

本章では、市がおこなっている事業や施策や運動に対する知識と関心のありかた、市の諸施設（とくに、コミュニティ・センター施設）の利用状況などを問題にしながら、市行政に対する住民の関わり合いの様相を探っていく。

1. 市行政に対する関心……………94
 - (1) 武蔵野市について……………95
 - (2) 三鷹市について……………96
 2. 希望する市施設……………96
 3. 市施設の利用経験……………98
 4. コミュニティ・センター施設への認識……………102
 5. コミュニティ・センターの役割への評価……………104
 6. 市政参画への意向と方法 ……106
-

1
市行政に対する関心

問8で市が行っている事業、施策、運動などについての知識を問い、これによって市行政との関わりをみようとした。

リストに示した項目は、歳歳野市が施策や事業として力を入れて行っているとしている項目であり、1976年の前回調査においても1978年の『市民意識調査』においても、リストに指示されている項目である(後者では質問が異なるので「市民参加」は入っていない)。三鷹市については、市の施策に関する資料などから、これに加えるべき項目が特にないとみなされたので同じ項目をそのまま用いることにした。

複数回答であるが、今回は3つ以内限定した。あげた個数の分布は表7-1の通りである。

両市の間には殆ど差異がなく、女は男より平均的にやや多くあげていることがみられ、女の方が行政側の施策への関心がやや高いと言えよう。D.K. は約10% (三鷹/男ではやや多い) で全般的に市の行政施策を受けとめていると言えよう。

表 7-1
問8で選んだ個数

サンプル		個数			D.K.	総個数	平均個数
		1個	2個	3個			
女	武蔵野三鷹	(15) 65	(21) 92	(55) 236	(9) 38	957	2.22
	三鷹	(16) 69	(21) 90	(53) 229	(10) 44	936	2.17
男	武蔵野三鷹	(23) 42	(19) 34	(46) 83	(12) 21	359	1.99
	三鷹	(17) 31	(28) 52	(42) 78	(14) 26	369	1.97

(注)：() 内数字は人数に対する比率(%)を示す。

表 7-2

問8 {武蔵野市/三鷹市} が特に力を入れて行っている事業、施策、運動などのうち、あなたがよく知っていらっしゃるものをあげて下さい。(リストを提示して3つ以内を選択回答)

サンプル		回答	1. 上水道	2. 下水道	3. 道路	4. 周辺都市計画	5. 清掃	6. 教育文化施設	7. 児童遊園	8. 青少年策	9. 環境衛生
			女	武蔵野三鷹	(4) 16	(16) 69	(7) 29	(20) 89	(12) 52	(16) 68	(9) 37
三鷹	(18) 76	(55) 238		(10) 41	(18) 77	(12) 50	(13) 56	(11) 48	(6) 25	(9) 39	
男	武蔵野三鷹	(7) 12	(17) 31	(7) 12	(27) 49	(7) 12	(15) 27	(11) 19	(7) 12	(8) 14	
	三鷹	(21) 39	(55) 102	(11) 20	(16) 30	(4) 8	(13) 24	(10) 19	(4) 7	(8) 15	

サンプル		回答	10. 市営住宅	11. 福祉対策	12. 集会施設	13. 交通安全対策	14. 公害対策	15. 公園緑地	16. 市民参加	17. その他	D.K.
			女	武蔵野三鷹	(1) 5	(57) 246	(12) 52	(6) 25	(4) 19	(27) 117	(8) 36
三鷹	(2) 7	(22) 96		(11) 46	(8) 33	(3) 12	(12) 53	(7) 32	(2) 7	(10) 44	
男	武蔵野三鷹	(3) 5	(37) 66	(12) 21	(7) 12	(3) 6	(22) 39	(9) 17	(3) 5	(12) 21	
	三鷹	(2) 4	(13) 24	(14) 27	(7) 13	(3) 5	(9) 17	(6) 12	(2) 3	(14) 26	

表 7-3

● 武蔵野市がおこなっている事業、施設、運動などをご存知ですか。よく知っていらっしゃるものをあげて下さい。(リストを提示して5つ以内を選択回答)(1976年調査、武蔵野/女)

上水道	下水道	道路	駅周辺都市計画	清掃	教育文化施設	児童遊園	青少年対策	環境衛生
(23) 39	(32) 55	(14) 23	(18) 31	(30) 51	(14) 25	(12) 20	(9) 16	(12) 21
市営住宅	福祉対策	集会施設	交通安全対策	公害対策	公園緑地	市民参加	その他	D.K. (1つもあげない)
(5) 8	(18) 32	(4) 8	(8) 14	(6) 10	(13) 23	(3) 6	(0.1) 0.2	(6) 10

質問文と各項目への回答結果は表7-2の通りであった。

ちなみに、武蔵野/女を対象とした1976年の前回調査の質問文と結果を表7-3に示す。

前回調査では5つ以内と限定していたので、あげた個数は全体的に多い。下段の数字は回答人数に対する比率(%)であるが、全体的に多く今回との比較をなし難いので、この比率の合計を今回の武蔵野/女の総比率と同じに調整した。()内の数字(%)がそれである。

この調整比率にもとづいて、今回の武蔵野/女の回答比率と比べてみる。上水道、下水道、清掃、道路などを挙げたものは相対的に少なくなり、福祉対策をあげたものが著しく増し、半数以上のものがこれをあげている。このことから、武蔵野市がこの5年間に福祉対策に力を入れたということをも市民(特に女)が受けとめていることがみられる。武蔵野/男では福祉対策をあげたもの37%と、他の項目よりは、はるかに多い比率であるが女と比べると約3分の2程度である。公園緑地、集会施設についても前回調査の調整比率13%、4%に対しそれぞれ27%、12%と大きくのびており、コミュニティ・センターなどの建設に力を入れたことをよく反映している。武蔵野で男が女より多くあげている項目は駅周辺都市計画であり、女が福祉に関心を持つことに対比して男の関心の対象は居住地域における生活に関係ある問題より、むしろ通勤途上などに接触の多い場所の合理性にあることは注目すべきことである。

三鷹市では前回の調査はなく、以前と比較する

ことはできない。福祉対策については女で22%と武蔵野の前回調査に近い比率を示しており、男は13%とやはり女に比べてこの問題への関心はうすい。三鷹市ではここ数年間に下水道整備に非常に力を注いでおり、市内の90%が整備され東京周辺市街地区第一を誇っているが、このことは、市民に充分浸透しており、男女とも55%と半数以上のものがこれをあげている。上水道、集会施設で男は女より僅かに多い比率を示すが清掃、公園緑地と生活に身近な問題については女の方が多い。全般的に武蔵野と三鷹とを比べると、福祉対策、下水道について著しく異なるほかは、上水道(三鷹に多い)、公園緑地(武蔵野に多い)でやや差があり、それ以外では両市の回答パターンは類似している。

各市ごとに、多くあげられている項目について、その項目をあげた人の属性別特徴をみていこう。

(1) 武蔵野市について

① 福祉対策をあげたもの

女では、年齢では中高年層、家族構成では親と同居している人びとであり老親扶養世帯と見られる人びと、一戸建居住層、居住年の長い層である。そして、市内でのパート勤務者または主婦層であり、高学歴層、革新系支持層に多い。

男では、年齢では熟年(41歳~55歳)層、家族構成では単身層、続いて学童以下の子のいる層に多く、住居状況は関連がない。そして低学歴層であり、労働・自営業層に多く、支持政党は殆ど関連がない。

すなわち、女では意識の高い人びとで、身近な生活の中で福祉に関心をもつ人びとでとも言えよう。これに対し、男では自分の身近な生活とは比較的關係がうすく、単に知識としてこれをあげたと考えられよう。

なお、女では、集会施設をあげた人の属性の特徴は、福祉対策をあげた人の属性の特徴と殆ど一致する。

② 駅周辺都市計画・公園緑地をあげたもの

女では、年齢では26歳～35歳、20歳～25歳と比較的若年層に多く、職業では無職・学生層に著しく少ないほかは差異が少ない。学歴では中の層は多く、支持政党、住居状況などには関連がない。

男では居住年の少ない層に多く、駅周辺都市計画は高年齢層（56歳～）に少ないが、公園緑地をあげたものは年齢による差がない。職業では、前者については事務職層、後者については管理・自由業層に多く、その他の属性とは殆ど関連がない。

(2) 三鷹市について

① 下水道をあげたもの

女では、年齢では36歳～50歳、高学歴層に多く、職業では差異はない。男では、年齢では41歳～55歳層、学歴ではやや低い層に多く、労働・自営業(市内勤務)層に多い。男女とも住居状況に関連深く、一戸建居住者層で居住年が長いほど、あげているものが多く、男では集合住宅/下の層では著しく少ない。

② 福祉対策をあげたもの

男女ともに高年齢層、革新系支持層に多い。女では市内でパートで働くものに多く、学歴は高くなるほど多くなり、住居状況には差異はない。男では無職層、学歴は低いほど多くなっており、住居は一戸建居住者層に多く、集合住宅/下の層では著しく少ない。

③ 駅周辺都市計画をあげたもの

女では、年齢では若年層に多いが、職業では主婦層、革新系支持層に多く、集合住宅/下の層では著しく少ない。男では、年齢では高年齢層であるが、高学歴層、ホワイトカラー層、都の中心区部に通勤する層に著しく多い。

以上、あげた施策の主なものについて属性との

関連をまとめると次のように言えよう。

女では、これらの施策をあげた人びとは、年齢層と関連もあるが、全般に意識の高い人びと（高学歴、革新系支持）であると言えよう。これに対し、男では、福祉対策や三鷹市における下水道をあげた人びとは、地域での生活時間も長く、比較的地域に密着している人と言えよう。駅周辺計画や公園緑地をあげた人びとは、前者と少し層を異にし、女の若年層や男の居住年の短い層など地域との関係は比較的少ない人びとであり、男ではホワイトカラー層であり、全般に合理性志向の人びととも言えよう。これらのことから、市政の受けとめ方も施策により、住民の属性により、種々の接点でうけとめているということを見ることができる。

2 希望する市施設

問13では、居住地域での生活をより快適にする社会資源としてどのような施設を望んでいるかを尋ね、これにより地域におけるコミュニティとしての連帯感への希求を見るときともに市行政側への期待を探っていこうとしている。

質問文と回答結果を表7-4に示す。

「別がない」「D. K.」は約20%近くあり、この種の社会資源に無関心のものもかなりあると考えられよう。武蔵野市においては、1978年の『市民意識調査』にも殆ど同様の設問があるが、リストに示した施設は多少異なるので正確な比較はできない（1978年調査では、公会堂、市民会館、福祉会館、老人クラブ、遊び場、コミュニティ・センターはなく、その代り、幼稚園、老人休養施設、がはいっている）。しかし、図書館、プール、体育館、運動場、児童遊園の回答率が高いことなどは、今回調査と類似している。

両市/男女を通し、最も高い比率は図書館である。次には(市別、性別で順位は多少異なるが)、プール、体育館、市営運動場という体育関係の施設であり、続いては遊び場、保育所、児童遊園と子供の健全育成の施設である。コミュニティ・セ

表 7-4

問13 あなたは、この近くにどのような施設がもっとあったらよいと思いますか？
(リストを提示して2つ以内を選択回答)

回答		1.	2.	3.	4.	5.	6.	7.	8.
サンプル		公会堂	市民会館	福祉会館	集会所	図書館	老 ク ラ ブ	市 運 動 場	体 育 館
女	武蔵野	(6) 26	(4) 15	(4) 17	(2) 10	(29) 123	(5) 23	(6) 24	(13) 55
	三鷹	(3) 12	(1) 6	(4) 17	(2) 10	(32) 136	(5) 21	(10) 44	(9) 40
男	武蔵野	(6) 11	(4) 8	(3) 6	(4) 8	(30) 54	(1) 2	(21) 38	(19) 34
	三鷹	(3) 6	(3) 6	(3) 6	(5) 9	(23) 42	(3) 5	(25) 46	(21) 40

回答		9.	10.	11.	12.	13.	14.	15.	16.	D.K.
サンプル		プ ール	児 童 館	遊 び 場	保 育 所	児 童 遊 園	コ ミ ュ ニ テ ィ ・ セ ン タ ー	そ の 他	別 に ない	
女	武蔵野	(18) 76	(9) 40	(10) 45	(8) 36	(9) 40	(6) 27	(5) 23	(11) 48	(8) 35
	三鷹	(19) 82	(7) 28	(13) 55	(6) 24	(10) 42	(6) 26	(7) 28	(6) 27	(13) 58
男	武蔵野	(22) 39	(5) 9	(11) 19	(8) 15	(9) 16	(7) 13	(2) 4	(4) 8	(6) 11
	三鷹	(14) 27	(2) 3	(11) 20	(3) 6	(8) 15	(9) 16	(2) 3	(4) 7	(15) 28

ンターや集会所は既に整備されている地区も多い故か、回答率は低い。

図書館、体育関係の施設をあげたものは、両市/男女を通し、年齢は若年層、学歴は中・高、職業は男では労働・自営業層以外の層、市外で働く人びと、居住年は少ないという層に多い。これらは、地域社会に余り興味をもたないと考えられる層の人びとであり、それらの人びとが、こうした文化、体育関係施設をあげていることがわかる。

子供の健全育成施設に関しては、学童以下の子供のある家庭の人に有意に多く、年齢は中年、職業は女では主婦またはパート勤務層、男では事務または管理職・自由業層、比較的新しい居住者層、支持政党は、女は革新系、男は自民党系の層の人に多い。

コミュニティ・センターをあげたものは6～9%と少ないので、属性別の特徴を見ることはできない。両市とも各々コミュニティ・センター(以

下C.C.と略記)が設置されている地区と未設置の地区に分け、各々でC.C.をあげた結果を見ていくと表7-5の通りである。

C.C.未設置地区でも、欲している施設としてC.C.をあげている人は、それ程多くない。男女とも、三鷹は武蔵野よりやや多いことが見られる。C.C.が既に設置されている地区で欲しい施設にこれをあげるといことは、既設のC.C.が遠すぎることも考えられるが、C.C.に関心が少なく、既に設置されていることもよく知らずにあげている場合も多いと考えられ、無関心の1つの尺度と考えられよう。

この回答の結果から、住民の欲しい施設は体育関係や児童の健全育成施設であり、これは直接的にコミュニティの連帯感につながるものではないが、今後コミュニティ形成を推進する上では、体育や児童に関する施設を媒体として進めていく可能性のあることを示唆するものと言えよう。

表 7-5 「コミュニティ・センター」を希望した数

地 区	サンプル		男	
	女	三 鷹	武蔵野	三 鷹
C. C. 既設置地区				
武蔵野 (地区 No. 1,2,5,7,8,11)	(2.8)	(7.3)	(5.8)	(4.3)
三 鷹 (地区 No. 1,2,5,7)	215	248	103	92
C. C. 未設置地区				
武蔵野 (地区 No. 3,4,6,9,10)	(9.7)	(13.0)	(9.1)	(12.6)
三 鷹 (地区 No. 3,4,6)	216	184	77	95

(注)：()内数字は、地区内人数に対して C. C. をあげた比率(%)を示す。

表 7-6 「利用した市施設」の数

利用数 サンプル	利用数													D. K.	利用し ない	利用した 総種類数	平 均	
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13					
女	武蔵野	(22) 94	(12) 52	(13) 55	(9) 39	(6) 27	(6) 24	(4) 16	(2) 9	(2) 7	(1) 5	(1) 3			(14) 61	(9) 39	1,128	2.62
	三 鷹	(19) 81	(15) 66	(15) 66	(11) 48	(6) 27	(5) 21	(2) 10	(2) 8	(1) 6	(1) 4	(0) 1	(1) 2	(1) 2	(8) 35	(13) 55	1,153	2.67
男	武蔵野	(28) 50	(14) 26	(15) 27	(6) 11	(6) 10	(3) 5	(4) 7	(1) 2		(3) 5	(1) 2			(8) 15	(11) 20	444	2.47
	三 鷹	(24) 45	(16) 30	(13) 25	(8) 14	(8) 15	(2) 3	(2) 4	(3) 5	(1) 1			(1) 0		(11) 20	(13) 24	418	2.24

3

市 施 設 の 利 用 経 験

問14(あなたご自身、またはご家族が、このような市の施設をご利用になったことがありますか?)は、本人またはその家族が利用した市の施設を問い、これにより行政側から提供されている社会資源の利用状況を見、これを通して市の施策に対する認識について探るとともに、今後コミュニティの連帯感を深めるのに役立つ施設整備に関する示唆を得ようというものである。

いくつでもあげるように指示しているのであげた個数も利用の広さを物語るものと言えよう。個数別分布は表7-6の通りである。

平均利用種類数はやはり女の方が男より多く、男の中では武蔵野が三鷹より少し多い。この個数を、[6以上]を最多利用者(1)、[4, 5]をやや多い利用者(2)、[2, 3]を平均的利用者(3)、[1のみ]

を少ない利用者(4)、[D. K. および利用しない]を否定的層(5)とし、これを属性別にみていくとつぎのようである(付表14を参照)。

(1) 年 齢

両市/男女とも「最多利用」は中年層に多く、「否定的」は若年、高年に多い。

(2) 職業・勤務地

女では両市とも、市内で働くもの、パート勤務者に多く、主婦層がこれに次ぐ。

男については、武蔵野では管理職・自由業層、市内勤務のものが多く利用しており、「否定的」は労働・自営業層に多い。三鷹では、「最多利用」「否定的」のいずれも無職・学生層に多い。

(3) 学 歴

両市/男女とも「最多利用」は中程度のものに多い。「否定的」は、女では低学歴層に多い。

(4) 支持政党

両市／男女とも、「最多利用」は革新系支持層の方が
自民党支持層よりやや多い。男については「否定的」
もまた革新系支持層に多い。

(5) 住居状況・居住年

両市／男女とも「否定的」は、集合住宅／下の層、
居住年の少ない層に多い。

(6) 家族構成

両市／男女とも、「最多利用」は学童以下の子供の
ある家庭に多く、「否定的」は単身世帯のものに多い。

(7) 兄弟数・兄弟順位

両市／男女とも、「否定的」は兄弟数の少ない(1～
2人)層に多く(三鷹／女には差異がない)、「最多利
用」は、兄弟数が多く、順位も下の方にやや多い(三
鷹／男には差異がない)。

以上をまとめると、市の施設の利用は、家族状
況、年齢層によること、地域での生活時間が比較
的長く、ある程度の地域での居住歴のあるもので

表 7-7 施設別にみた「市施設の利用経験」

施設		公会堂	市民会館	福祉会館	集会所	図書館	老 ク ラ ブ	市 運 動 場	体育館
女	武蔵野三鷹	(31) 133	(15) 66	(24) 103	(7) 29	(39) 170	(7) 31	(23) 101	(9) 38
	三鷹	(32) 140	(14) 60	(18) 79	(13) 58	(49) 210	(6) 24	(8) 36	(14) 59
男	武蔵野三鷹	(24) 43	(14) 25	(17) 31	(9) 16	(33) 59	(4) 7	(23) 42	(12) 22
	三鷹	(26) 48	(13) 24	(11) 20	(10) 19	(41) 77	(2) 3	(14) 27	(12) 22

施設		プ ー ル	児 童 館	遊 び 場	保 育 所	児 童 遊 園	コ ミュ ニ テ ィ ・ セ ン タ ー	そ の 他	な い	D.K.
女	武蔵野三鷹	(32) 138	(4) 17	(8) 36	(9) 38	(17) 71	(35) 151	(1) 5	(9) 39	(14) 61
	三鷹	(29) 124	(6) 27	(11) 46	(7) 32	(26) 111	(35) 149	(3) 13	(13) 55	(8) 35
男	武蔵野三鷹	(36) 65	(6) 10	(14) 26	(9) 17	(21) 37	(24) 44	(0) 0	(11) 20	(8) 15
	三鷹	(30) 56	(4) 7	(10) 19	(3) 6	(19) 36	(29) 54	(0) 0	(13) 24	(11) 20

表 7-8 利用経験の高い市施設

女				男			
武	蔵	野	三鷹	武	蔵	野	三鷹
図	書	館	39%	図	書	館	49%
コ	ミュ	ニテ	35%	コ	ミュ	ニテ	35%
プ	ー	ル	32%	プ	ー	ル	36%
公	会	堂	31%	公	会	堂	24%
福	祉	会	24%	福	祉	会	23%
市	営	運	23%	市	営	運	21%
図	書	館	49%	図	書	館	41%
コ	ミュ	ニテ	35%	コ	ミュ	ニテ	30%
プ	ー	ル	32%	プ	ー	ル	29%
公	会	堂	29%	公	会	堂	26%
福	祉	会	26%	福	祉	会	19%
市	営	運	18%	市	営	運	14%

あり、生育環境により集団行動に抵抗なく入れるものと言うことができよう。

利用施設別に整理した回答結果は表7-7の通りである。

また、利用経験の比率の高いものから順に6つを並べてみると表7-8のようになる。

これから次のことがわかる。図書館の利用は男女ともかなり高くなっている（図書館の利用者層は、前節における「希望する市施設」で図書館を

あげた人びとの属性と類似している）。福祉会館は、女の場合、武蔵野では三鷹よりかなり高い比率である。このことは、前問の市行政の施策に関する知識のうらづけともなっていると見えよう、すなわち、力を入れている施策として福祉対策をあげたものは女で57%男で37%であったが、その半数近い比率のものが何らかの形で福祉会館を利用しており、市の福祉施策とのつながりをもっているということが見られる。

表 7-9 地区別にみた「コミュニティ・センターの利用経験」

市	コミュニティ地区		女		男	
			地区別回答数	C. C. 利用数	地区別回答数	C. C. 利用数
武蔵野	C. C. 設置地区	1. 吉祥寺東	34	(44) 15	12	(0) 0
		2. 吉祥寺北	32	(56) 18	13	(31) 4
		5. 中央	24	(33) 8	20	(45) 9
		7. 西久保	35	(63) 22	13	(39) 5
		8. 関前	34	(47) 16	24	(29) 7
		11. 境南	56	(50) 28	21	(29) 6
		計	215	(50) 107	103	(30) 31
	C. C. 未設置地区	3. 吉祥寺西	45	(24) 11	15	(20) 3
		4. 吉祥寺南	58	(12) 7	23	(17) 4
		6. 中央北	54	(22) 12	10	(0) 0
		9. 境	34	(32) 11	14	(14) 2
10. 桜堤		25	(12) 3	15	(27) 4	
	計	216	(20) 44	77	(17) 13	
三鷹	C. C. 設置地区	1. 井の頭*	47	(45) 21	27	(44) 12
		2. 牟礼	61	(46) 28	16	(75) 12
		5. 井口・深大寺・野崎・大沢	45	(47) 21	40	12
		7. 大沢・野崎	95	(36) 34	9	(33) 3
		計	248	(42) 104	92	39
C. C. 未設置地区	3. 三鷹駅前周辺・上連雀・下連雀	89	(19) 17	33	(21) 7	
	4. 野崎	83	(28) 23	28	(14) 4	
	6. 新川・北野・中原	12	(42) 5	34	4	
	計	184	(25) 45	95	15	

(注)：*は分館設置を意味し、()内数字は比率(%)を示す。

コミュニティ・センターの利用に関しては、1978年『武蔵野市民意識調査』によると、境南、西久保の設置地区で48%、吉祥寺北、吉祥寺西、関前の未設置地区で26%の人が利用したと言っていることが記されているが、その数値と大差ない比率が得られている（『市民意識調査』では「コミュニティ・センターを利用したことがありますか？」と聞いているので、今回の様な複数回答より多くあげられていると考えられる）。

さて、コミュニティ・センターを利用した人びとはどのような人であるのか。その属性を以下にみていこう（付表15を参照）。

（1）地区

コミュニティ・センター利用者はまずその地域にセンターが整備されているか否かと関連が深いことは明らかである。そこでこれをコミュニティ地区別に見てゆく。地区別の比率を示すと表7-9の通りである。

まず武蔵野市についてみる。女では西久保(63%)、吉祥寺北(56%)、境南(50%)において利用をあげた率は有意に多い。西久保、境南はセンターが最も早く整備された地域であり、吉祥寺北は比較の後(昭和54年)に開館された地域である。利用をあげた率が有意に少ないのは吉祥寺南(12%)と桜堤(12%)であり、いずれもセンターが設置されていない地区である。

全体をセンター設置地区(1,2,5,7,8,11)と未設置地区とに分けてみると、設置地区は50%、未設置地区は20%と明らかに差がみられるが、未設置地区の中でも、境地区などは約3分の1の人がセンターを利用したことがあると言っている。

男の場合はサンプル数が少ないので、地区別に細かく見ていくことはできない(サンプリング誤差が大きく比率は不安定である)。しかし、設置地区では30%、未設置地区では17%とやはりセンターの設置・未設置により、センター利用をあげた比率は著しく異なっている。三鷹市では井の頭、牟礼、井口、大沢にセンターが設置されており、他は目下建設準備中である。女では三鷹駅前地区で非常に少なく、牟礼、井口、井の頭でやや多いことがみられる。井の頭地区は本館は設置されていないが分館は設置されている。設置地区(2,5,7)と未設置地区(1,3,4,6)とに分けてみると、前者では41%、後者では29%と明らかに設置地区に利用者が多い。男について設置・未設置地区別に見ると、前者では42%、後者では22%とやはり明らかに差がみら

れる。

（2）年齢

女では両市とも36歳～50歳に有意に多く、これをピークに若年、高年へと少なくなっている。男については武蔵野では56歳以上、三鷹では41歳～55歳をピークとしている。

（3）学歴

三鷹/女、および武蔵野/男では義務教育のみのものは利用率は最低である。その他については性別、市別で学歴による差異は殆んどみられない。

（4）職業

女では両市ともパート就業者の中に利用者が最も多い(50%)。このことは主婦専業でずっと家にこもっている人びとより、パートによって少し働こうというように外に出ていく意欲のある人がセンターを利用することが多いと言えよう。男については、武蔵野では労働・自営業者層にやや多く、三鷹では事務職に多くなっている。

（5）住居状況・居住年

両市/男女とも一戸建に居住する人の中には多く、全般に集合住宅/下の人は利用が少ない。居住年では、昭和36～50年頃から住んでいる人に多い(武蔵野/男では、古いほど利用者比率が高い)。

（6）家族構成

両市/男女とも学童以下の子供をもつものに利用する人が多い。女では単身世帯や既婚で子供のいない世帯の人は利用している人が有意に少ない。男でも同様の傾向が見られるが顕著なものはみられない。

（7）兄弟数・兄弟順位

兄弟の多いもの、順位は下のものほど、利用している者の比率が僅かながら高くなっている。

（8）支持政党

女では両市とも革新系支持者に利用者が多くなっているが(三鷹市では有意に差がある)、男では両市とも自民系支持者層に多くなっている。

以上、コミュニティ・センターを利用している人びとはまずセンターが設置されている地域の住

人であり、中年の人びとで学童以下の子あるいは老親を仲介として利用していることが多いように考えられる。古くから住んでいて一戸建の家に住んでいる人の方が利用しているようであるが、三鷹では土着の人（20年以上住んでいる人）では利用が少ない。兄弟順位で下位のものにやや利用者が多いことは、生育環境によるパーソナリティと多少の関連があるように思える。男女による支持政党の違い、職業層の女と男では利用者層に差異があるように見られる。すなわち、女では革新的であり、家にこもっているよりパートで職場に出ようという種類の人びとで、男では必ずしも革新的ではなく、武蔵野では中年層の自営業層、三鷹では比較的若年層の人が多少利用するということであろう。

4 コミュニティ・センター施設 への認識

問15でコミュニティ・センターがあるか否かをたずね、この施設に対する認識を探った。質問文と回答結果を示すと表7-10の通りである。

表 7-10

問 15 この地区では、コミュニティ・センターがありますか？

サンプル	回答	1.	2.	3.	4.	5.	6.						
		あ	る	近々に できる	な	い	知らな い	その他	D. K.				
女	武蔵野	(55)	(4)	(19)	(19)	(0)	(3)	238	17	80	82	1	13
	三鷹	(50)	(7)	(27)	(13)	(0)	(3)	215	32	115	55	1	14
男	武蔵野	(55)	(3)	(19)	(18)	(1)	(3)	99	6	35	33	2	5
	三鷹	(54)	(6)	(20)	(19)	(0)	(1)	100	12	38	35	0	2

実際の設置地区・未設置地区別に各コミュニティ地区の回答結果を示すと表7-11の通りである（男はサンプル数が少ないため各コミュニティ地区別には比率を付記しない）。

コミュニティ設置地区では「ある」と答えるものが多いことは当然である。武蔵野では女83%、

男74%と正答率はかなり高く、女は男よりはるかに高い。三鷹では女65%、男82%で女の方がかなり少なくなっている。このことは、非の頭地区には分館が設置されているだけであるので、これを「ある」とみるものと「まだない」とみるものがある故と考えられる。しかし、7の大沢・野崎地区ではセンターが最も古く（昭和49年に）設置されているにも拘らず「ある」と答えているものが少ない。これはセンターが南端に設置されているのでこの地区の北端部では「ある」という意識が少ない故と考えられよう。

センター未設置地区では「ない」または「近々にはできる」と答えるのが正答である。正答は全体で44%程度に過ぎず（武蔵野/女39%・男44%、三鷹/女47%・男45%）であり、「ある」と誤答したものは30%近くにも及ぶ。とくに武蔵野の吉祥寺西・中央区域における女に誤りが多い。これは自分の居住地区の区域を正確に知らず隣接地区のセンターを思い浮かべ「ある」と答える者が多い故であろう。

自分のコミュニティ地域にセンターがあるかないかを知らない人は全体で約2割程度である。これは、センター設置地区では約1割程度であるが、未設置地区ではコミュニティ・センターという施設に対する意識がうすい故か「知らない」という人が約30%近くいる。これを市別にみると、武蔵野では女33%、男26%と女の方がやや多く、三鷹市では女24%、男28%で男の方が僅かに多い。

「知らない」（またはD.K.）と答えた者について属性別にみると次の通りである（付表16を参照）。

(1) 年 齢

両市/男女を通して若年層に顕著に多く、中年層（女では36歳～50歳、男では41歳～55歳）には少ない。

(2) 職 業

無職・学生の層に多い。

(3) 住居状況・居住年

両市/男女を通し、居住年の最も短い層に顕著に多い。住居別では集合住宅/下の層に特に多い（三鷹/

表 7-11 地区別にみた「コミュニティ・センター施設への認識」

市	コミュニティ地区		女				男			
			1.あ る	2.近 々に 3.な い 5.そ 他の	4. 知らない D.K.	計	1.あ る	2.近 々に 3.な い 5.そ 他の	4. 知らない D.K.	計
武蔵野	C.C.設置地区	1. 吉祥寺東	(77) 26	(6) 2	(18) 6	34	4	1	7	12
		2. 吉祥寺北	(78) 25	(6) 2	(16) 5	32	12	0	1	13
		5. 中央	(67) 16	(17) 4	(17) 4	24	14	2	4	20
		7. 西久保	(89) 31	(3) 1	(9) 3	35	12	0	1	13
		8. 関前	(83) 28	(9) 3	(9) 3	34	18	3	3	24
		11. 境南	(93) 52	(2) 1	(5) 3	56	16	3	2	21
		計	(83) 178	(6) 13	(11) 24	215	(74) 76	(9) 9	(17) 18	103
	C.C.未設置地区	3. 吉祥寺西	(47) 21	(24) 11	(29) 13	45	10	2	3	15
		4. 吉祥寺南	(16) 9	(40) 23	(45) 26	58	5	10	8	23
		6. 中央北	(37) 20	(30) 16	(33) 18	54	4	4	2	10
		9. 境	(24) 8	(56) 19	(28) 7	34	4	8	2	14
10. 桜堤		(8) 2	(64) 16	(28) 7	25	0	10	5	15	
	計	(28) 60	(39) 85	(33) 71	216	(30) 23	(44) 34	(26) 20	77	
三鷹	C.C.設置地区	1. 井の頭*	(55) 26	(34) 16	(11) 5	47	17	3	7	27
		2. 牟礼	(79) 48	(12) 7	(10) 6	61	12	2	2	16
		5. 井口・深大寺・野崎・大沢	(93) 42	(7) 3		45	37	2	1	40
		7. 大沢・野崎	(47) 45	(38) 36	(15) 14	95	9	0	0	9
		計	(65) 161	(25) 62	(10) 25	248	(82) 75	(8) 7	(11) 10	92
C.C.未設置地区	3. 三鷹駅前周辺・上連雀・下連雀	(25) 22	(42) 37	(34) 30	89	11	12	10	33	
	4. 野崎	(34) 28	(52) 43	(15) 12	83	11	9	8	28	
	6. 新川・北野・中原	(33) 4	(50) 6	(17) 2	12	3	22	9	34	
	計	(29) 54	(47) 86	(24) 44	184	(26) 25	(45) 43	(28) 27	95	

(注)：*は分館設置を意味し、()内数字は比率(%)を示す。

女は有意差なし)。

(4) 兄弟数・兄弟順位

兄弟数4人以上、4番目以下の人びとの中には知らない人は少ない。

(5) 家族構成

単身世帯や定位家族の人に多く、学童以下の子のある家族には少ない。

(6) その他

学歴や支持政党は関連がない。

以上をまとめてみると、「地域との関わり」や「市行政との関わり」の項目において積極的でなかった人の属性と、学歴、政党支持以外は類似していることが見られる。すなわち、コミュニティ・センターの所在の認識は地域や行政に対する志向の積極性と関連のあることが把握できた。

5
**コミュニティ・センターの
 役割への評価**

問16でコミュニティ・センターの設置により地域の人々との親交が容易になるかと質問し、センターという施設が地域親交すなわちコミュニティづくりに向けて有効であると評価しているか否かをみた。質問文と回答結果を示すと表7-12の通りである。

表 7-12

問 16 コミュニティ・センターができると、地域の人々と、親しく交り易くなると思いますか？

回答 サンプル	交り易くなる と思う	特に交り易 くなると思 わない	そ の 他	D. K.	
女	武蔵野 三鷹	(62) 265	(22) 96	(7) 32	(9) 38
	武蔵野 三鷹	(62) 269	(28) 122	(3) 12	(7) 29
男	武蔵野 三鷹	(53) 96	(30) 54	(5) 9	(12) 21
	武蔵野 三鷹	(57) 106	(31) 58	(3) 5	(10) 18

「交り易くなると思う」は、女では両市とも62%、男では武蔵野53%、三鷹57%で、女は男より親交に関してセンターを有効と評価していることがわかる。

この回答結果をコミュニティ地区別に整理してみると表7-13に示した通りである。

武蔵野の女では、境南地区において「交り易くなると思う」が82%に達し第1位であり、中央北が48%で最低である。三鷹では、女では井口・深大寺地区が73%で最高であり、他は余り差がない。

男については、サンプル数が少ないため地区別にみることはできない。

センター設置の有無により地区別に分けて見ると以下のような通りである。すなわち、女では両市とも設置地区の方が評価が高いが、男ではこれら地区

による差はないと見なされる。

以下に、属性との関連を探ってみよう（付表17を参照）。

(1) 年 齢

女では年齢による傾向はみられないが、男では高齢(56歳以上)に最も高く、若年(20歳代)に最も低い。

(2) 学 歴

女では差異がないが、男では両市とも低学歴層に評価が高くなっている。

(3) 住居状況・居住年

居住年が数年以下のものは評価も低くなっている。住居状況については、三鷹/女では関連がみられないが、他はすべて集合住宅/下において評価が低い。

(4) その他

職業、勤務地、家族構成、支持政党等に関しては明瞭な傾向はみられない。

この設問で「交り易くなると思う」と答えた比率はかなり高いものの、属性との関連が少ないことは、この回答の根拠が人によって種々であるからのように思われる。ちなみに、問50の「コミュニティという言葉からの連想」との関係を見ると表7-14に整理したごとく、市別・性別によって関連が全く異なることがわかる。

すなわち「コミュニティからの連想」において、

- ・武蔵野/女では……4,1,8(趣味の会, 体育活動, ボランティア活動)
- ・武蔵野/男では……8 (ボランティア活動)
- ・三鷹/女では……2,1 (盆踊り, 体育活動)
- ・三鷹/男では……5 (講演会)

をそれぞれあげたものの中で「交り易くなると思う」の比率は最高となっている。つまり「交り易くなると思う」の根拠は、市別、性別ごとにコミュニティに対し上記のようなことを思い浮かべ回答していると考えられる。このことは、後述するようにコミュニティづくりに当って考慮すべきこととなる。

表 7-13 地区別にみた「コミュニティ・センターの役割への評価」

市	コミュニティ地区		女		男	
			地区別回答数	交わり易くなると思う	地区別回答数	交わり易くなると思う
武蔵野	C.C.設置地区	1. 吉祥寺東	34	(59) 20	12	5
		2. 吉祥寺北	32	(59) 19	13	10
		5. 中央	24	(46) 11	20	12
		7. 西久保	35	(63) 22	13	5
		8. 関前	34	(59) 20	24	9
		11. 境南	56	(82) 46	21	9
		計	215	(64) 138	103	(49) 50
	C.C.未設置地区	3. 吉祥寺西	45	(67) 30	15	10
		4. 吉祥寺南	58	(55) 32	23	13
		6. 中央北	54	(48) 26	10	5
		9. 境	34	(74) 25	14	10
		10. 桜堤	25	(56) 14	15	8
計		216	(59) 127	77	(60) 46	
三鷹	C.C.設置地区	1. 井の頭*	47	(66) 31	27	16
		2. 牟礼	61	(62) 38	16	9
		5. 井口・深大寺・野崎・大沢	55		40	25
		7. 大沢・野崎	95	(65) 62	9	4
	計	248	(66) 164	92	(59) 54	
C.C.未設置地区	3. 三鷹駅前周辺・上連雀・下連雀	89	(56) 50	33	16	
	4. 野崎	83	(55) 46	28	18	
	6. 新川・北野・中原	12	(75) 9	34	18	
	計	184	(57) 105	95	(55) 52	

(注)：*は分館設置を意味し、()内数字は比率(%)を示す。

表 7-14 「交わり易くなると思う」(問16)と「コミュニティという言葉からの連想」(問50)との関係

「交わり易くなると思う」の比率(問16)	女		男	
	武蔵野	三鷹	武蔵野	三鷹
「コミュニティ」という言葉から連想するもの(問50)				
1. 運動会や各種のスポーツ活動	64 (9)	61 (11)	47 (- 8)	60 (6)
2. 盆踊りやお祭りなどの活動	53 (- 2)	64 (14)	58 (3)	42 (-12)
4. 趣味の教室や同好会	65 (10)	58 (8)	56 (1)	60 (6)
5. 知識や見聞を広める講演会	59 (4)	52 (2)	59 (4)	65 (11)
8. ボランティア活動	63 (8)	58 (8)	69 (14)	59 (5)

(注)：()内数字は、性別・市別平均との差を示す。

6

市政参画への意向と方法

問11は、市民の側から積極的に市政に参加していく意向があるか否か、そしてあるとしたら、実際に具体的な方法を考えているか否を尋ね、市政参加意向の強さを測ろうとする質問である。この問11で「参加しようと思わない」または「無答」の人以外には問12の質問を問うた。

問11および問12の質問文とそれぞれへの回答結果は表7-15と表7-16に示す通りであった。

ちなみに1976年の前回調査での同じ質問と回答結果を示すと表7-17および表7-18の通りである。これを今回の武蔵野/女と比べてみる。質問文や選択肢が異なるので正確な比較はできないが、次のことが見られよう。市政に「参加したい」比率は前回、今回とも殆ど同じである。無答は今回少なくなっている。否定の答は前回、今回でその強

表 7-15

問 11 (武蔵野市は、市民参加の市政といわれていますが) あなたは、何らかの方法で、市政に参加しようと思いませんか? [三鷹市では()内を読まない]

回答サンプル	参加したい	求められれば参加したい	参加しようと思わない	その他	D. K.	
女	武蔵野	(29) 124	(15) 66	(47) 204	(6) 24	(3) 13
	三鷹	(26) 110	(15) 63	(53) 230	(2) 8	(5) 21
男	武蔵野	(32) 58	(7) 12	(49) 88	(8) 15	(4) 7
	三鷹	(26) 49	(17) 32	(54) 101	(1) 2	(2) 3

度が異なるので明確な比較はできないが、今回の方が若干増加しており中間回答が否定の方に流れたと考えられよう。一方、参加の方法では、「住民運動によって」「近所の人と協力して」という

表 7-16

問 12 [問11で参加したいと答えた人に]

どのような方法で、参加しようと思っていच्छいますか? (リストを提示して2つ以内を選択回答)

回答サンプル	選挙によって	市議員と話し合	自治会を	住民運動	市民委員	その他の	近所の人	陳情・請	その他	D. K.	問11で「参加したい」の人数	
女	武蔵野	(14)(29) 61	(7)(14) 29	(6)(11) 24	(10)(21) 44	(2)(4) 9	(5)(10) 21	(16)(32) 68	(7)(14) 31	(1)(2) 5	(7)(14) 29	(50)(100) 214
	三鷹	(16)(38) 68	(4)(9) 16	(5)(13) 23	(7)(17) 31	(2)(4) 7	(4)(9) 17	(12)(29) 52	(6)(14) 26	(1)(2) 3	(5)(13) 23	(42)(100) 181
男	武蔵野	(15)(32) 27	(7)(15) 13	(4)(9) 8	(8)(16) 14	(4)(9) 8	(3)(7) 6	(9)(20) 17	(8)(18) 15	(1)(2) 2	(6)(13) 11	(47)(100) 85
	三鷹	(16)(36) 30	(5)(11) 9	(5)(11) 9	(7)(16) 13	(4)(8) 7	(7)(16) 13	(11)(24) 20	(4)(8) 7	(0) 0	(3)(7) 6	(44)(100) 83

表 7-17

● a 武蔵野市は 市民参加の 市政といわれていますが、あなたは市政に参加しようと思いませんか。(1976年調査、武蔵野/女)

1. 参加したい	2. どちらでもない	3. 参加する必要がない	4. その他	5. D. K.	計
(30) 128	(32) 137	(12) 52	(14) 61	(11) 48	(100) 426

回答が増えていることが顕著である。市政に参加しようという意向のあるもののうち、地域連帯により参加していこうというものが僅かながら増してきていることが見られよう。

武蔵野・三鷹両市を比べると、次のことがみられよう。

男女とも、武蔵野の方が三鷹より僅かに参加の意向が多く、否定的のものが少ない。両市とも男

表 7-18

● b [aで「参加したい」と答えた方に]

どのような方法で参加しようと思っていच्छいますか。(1976年調査, 武蔵野/女)

選挙 よって	市会 議員と 話し合 って	自治会 を 通して	住民 運動 によ って	市民 議会 への 参加	その 他の 団体 から	近所 の人 等と 協力 して	陳情 ・請 願 によ って	そ の 他	計 (人 数)
(10) 43	(3) 13	(2) 9	(5) 21	(1) 4	(3) 13	(8) 33	(4) 17	(2) 10	426
(27)	(8)	(6)	(13)	(3)	(8)	(21)	(11)	(6)	158*

(注) : *は今回調査での問12の人数。下欄は158人に対する比率(%)を示す。

女の比率がほぼ同じであることは、他の地域での行動に関する質問(女は男より積極的)に比べて政治的行動には男が参加する傾向が強いためとみられる。

参加の方法については、両市/男女ともあまり差異がないが、「住民運動によって」「近所の人と協力して」では女が男より、武蔵野は三鷹より、多いことが見られる。

いま、問11と問12を合わせ、次のようなカテゴリーに分けて市政参加への意向の強さを表わすものとする。

問11	問12	問11×12
1. 参加したい	4. 住民運動に... よって 7. 近所の人と 協力して	1. 地域連帯による参加
→4.7. 以外の方法... よって →D. K.		2. 通常の参加
2. 求められれば 参加したい	方法は何でも	...3. 消極的
4. その他 D. K.	方法は何でも —	
3. 参加しようと 思わない	—	...4. 否定的

この様なカテゴリーに分けた回答結果を、属性別にみていくと、その関連は次の通りである(付表18を参照)。

(1) 年 齢

「地域連帯による参加」は、両市とも女では36歳～

50歳、男では56歳以上に多く、「否定的」は男女とも、高齢層、若年層の両方に多くなっている。

(2) 学 歴

両市とも女では高い層に「参加」が多く、男では逆に低い層に「地域連帯による参加」は多い。「否定的」は男女とも高い層に少ない。

(3) 職業・勤務地

女では両市とも、パート勤務層に「地域連帯による参加」が多く、専業層に「通常の参加」が多く、勤務地は必ずしも市内に多いとは言えない。男は両市とも無職層に「地域連帯による参加」が多い。

(4) 住居状況・居住年

住居状況については、女では集合住宅/下の層、居住年3年未満の層は「参加」はやや少なく「否定的」が多い傾向にある。男には傾向的なものは見られない。

(5) 支持政党

「地域連帯による参加」は、女については両方とも革新系支持層が有意に多いが、男については武蔵野では公明党、三鷹では革新系支持層にやや多く見られるものの、サンプル数が少ないのではっきりした傾向は把握されない。

(6) 家族構成

女については両方とも単身世帯に「参加」が少なく「否定的」が有意に多い。男についても同様に、「地域連帯参加」は定位家族、単身世帯に多い。

(7) その他

兄弟数、兄弟順位については、両市／男女を通しての傾向は見られない。女性については、地域別にみると「地域連帯による参加」は武蔵野では西久保地区、三鷹では牟礼地区に多く、「否定的」は武蔵野では吉祥寺東・桜堤地区に、三鷹では、井口・深大寺地区に多い。

以上をまとめてみると、男女によって著しい違いのあることがわかる。すなわち、女では中年で

意識の高い人びとに「地域連帯参加」を志向する人が多い。職業ではパートが多く、また、勤務地や家族構成(子供や親の状況)とは関連が少ないことから、家族を媒体とする地域との関わりとは関連なくむしろ個人的特性によってこの志向性が示されているようにみられる。これに反し男では、年齢(高年)、学歴(低)、職業(無・学・D.K.)という具合で、むしろ地域との接触に「地域参加志向」が見られることから、態度によるものと考えられる。

8

近隣との交わり

本章では、近所の人びととの親交度、近隣からの騒音や悪臭への対処のしかた、また近所づきあいそのものわずらわしさ、などを問題にしなが、近隣関係の様相を探っていく。

1. 近所の人びととの話し合い…………… 110
2. 「日頃の交際の相手」としての近隣者 …… 111
3. 近隣との親交度…………… 113
4. 近隣への対処 一騒音・悪臭の場合一 …… 114
5. 近隣からの援助経験…………… 116
6. 近隣関係のわずらわしさ…………… 116
7. 災害時における近隣関係…………… 117



1 近所の人びととの話し合い

問21で、まず「お宅で近頃一番よく話されること」ということを尋ね（リストを提示して3つ選んでもらう）、次に「そのようなことがらについて近所の人びとと話しあうことがあるか」を問うている。これによって近隣との間に会話がしばしば交されるように親交をもっているかどうかを見、居住地域の人びととの連帯意識と共助行動の可能性を探ろうとした。

質問文と回答結果は表8-1に示す通りである。

両市とも女の方が話し合うことが多く、男女とも三鷹の方が武蔵野より僅かながら話すことが多い様子がみられる。女では「話す」者と「話さない」者が殆ど半々であり、男では「話す」者は約30%程度である。

カテゴリーを〔1. よく話し合う〕→1. 話す、〔2. たまに話す, 5. その他〕→2. 中間, 〔3. 殆ど話さない, 4. 全然話さない, D.K.〕→3. 話さない, のようにまとめ、属性との関連をみてゆく（付表19を参照）。

表 8-1

問 21 あなたは、そのようなことがらについて、ご近所の人々と話し合うことがありますか？

回 答 サンプル		よく話し合う	たまに話す	殆ど話さない	全然話さない	その他	D. K.
		女	武蔵野 (23) 97	(21) 92	(20) 87	(33) 144	(1) 4
	三鷹 (24) 104	(26) 112	(19) 82	(29) 125	(0) 1	(2) 8	
男	武蔵野 (15) 27	(13) 24	(24) 43	(44) 79	(2) 4	(2) 3	
	三鷹 (9) 16	(23) 43	(28) 52	(35) 66	(1) 1	(5) 9	

(1) 年齢・家族構成・職業

まず女についてみる。両市とも「話す」は26歳～35歳に多く、高年齢になるにつれ「話す」は少なくなり「話さない」が多くなる。若年層（20歳～25歳）では「話す」は有意に少ない。

このことは、家族構成からもうらづけられる。すなわち、学童以下の子をもつ家族では有意に多く、定位家族にいるものは「話す」は少なく「話さない」が極めて多い（ともに有意差あり）。職業別でみると、主婦に最も多くパート勤務がこれに次ぐ。

男についてはサンプルによる歪みもあり両市の間で傾向に安定性が少ないが、中年前期（30歳代）層、事務職層に「話す」は少なく、「話さない」人は若年層または高年齢にやや多い。家族構成では定位家族の層に「話す」比率は有意に少なく、学童以下の子供のある家族層では有意に多い。

(2) 支持政党

公明党支持者は少なく、比率は安定した数値ではないが、女については両市とも「話す」比率はこの層に最も多く、特に三鷹市では有意に多い。男については、はっきりした傾向は見られない。

(3) 学 歴

女では傾向的なものはみられないが、男では「話す」比率は低学歴の層に有意に多い。

(4) その他

居住年が少ないと「話す」比率はやや少ない傾向が見られるほかは、住居状況、兄弟数などには傾向的なものはみられない。

以上から、この質問による近隣交流は男女とも居住地域での生活時間が長いこと、小さい子供がいる家庭で、子供を通しての対話があるということであり、学歴は低い方、女では公明党支持者に多いようである。

2

「日頃の交際の相手」としての近隣者

問33で、日頃つきあっている人はどういう人かを、リストの中から1つだけ選んでもらい、これによって隣り近所や地域の人が「最もよくつきあっている人」としてどの程度挙げられるか、また、これを挙げた人はどういう層の人かを探った。質問文と回答結果を表8-2に示す。

女では、各カテゴリーの比率が両市とも殆んど同じであり、近所の人や地域の人をあげたものは

約40%である。男では、両市の間で多少差異があり、「近所・地域の人」は武蔵野市では14%の人があげているが、三鷹市では8%にとどまる。「職場関係の人」では、三鷹は武蔵野より10%多い。

カテゴリーを、[1. 隣近所の人, 2. 地域の人] → 1. 近隣, [3. 職場・仕事関係の人] → 2. 職場関係, [4. 趣味・スポーツなどサークルの人] → 3. 趣味関係, [5. それ以外の友人, 6. いない, 7. その他, 0. D.K.] → 4. その他, のように併合して、属性との関連を以下にみていこう (付表20を参照)。

表 8-2

問33 あなたが日頃、よくつきあっている人は次の中のどのような方でしょうか? (リストを提示して1つだけ選択回答)

回 答 サンプル		回 答							
		隣近所の人	地域の人	職場・仕事 に関する人	趣味・スポ ーツなどサー クルの人	それ以外の 友人	いない	その他	D. K.
女	武蔵野	(33) 141	(6) 27	(21) 89	(13) 56	(21) 89	(3) 13	(3) 14	(1) 2
	三鷹	(35) 149	(4) 17	(21) 90	(13) 56	(23) 99	(2) 10	(3) 11	(0) 0
男	武蔵野	(10) 18	(4) 7	(57) 103	(14) 25	(11) 19	(4) 7	(1) 1	(0) 0
	三鷹	(6) 11	(2) 4	(67) 126	(10) 19	(13) 24	(1) 2	(1) 1	(0) 0

(1) 年齢・職業

年齢別の様相を男女別に対比してみると興味深い(図8-1を参照)。

まず女についてみよう。「近隣」をあげるものは20歳～25歳の層に有意に少なく、26歳以上ではどの年齢層もかなり多くなっている。職業別にみても主婦層に有意に多く、パート・無職層・専業の順に少なくなっていることが明らかである。三鷹では特に26歳～35歳および66歳以上に有意に多く、前者は学童以下の子供を通しての交流、後者は高齢で趣味でのつきあいもなく「近隣」が増すと考えられる(武蔵野の場合は「趣味」がこの年齢で多くなる)。

「職場関係」をあげた人は、当然のことながら、20歳～25歳に有意に多く、年齢が増すにつれ少なくなり、高齢者では有意に少ない。職業別にみても専業に有意に多く、次はパートである。

「趣味」は、26歳～35歳(子育てに忙しい時期)において最も少なく、20歳～25歳がこれに次ぐ。後者は武蔵野では高齢になるに従い比率が増し、66歳以上で有意に多くなるが、三鷹では36歳以上は殆んど変わらず、66歳以上では逆にやや少なくなる。このことは職業との関連からもみられる。武蔵野では、無職層に「趣味」をあげる人が有意に多いが、三鷹では、このことはみられない。こうしたことから、女性の生活パターンが両市の間で多少異なることをうかがい見ることができる。

次に男についてみる。両市とも「近隣」をあげた比率は、40歳以下に非常に少なく、職業で事務職・管理・自由職業層に少ないことと対応している。そして56歳以降になると有意に多くなっているが、三鷹では武蔵野よりかなり低い。武蔵野では自営業層で多くなっており、41歳～55歳の中年後期でも多少「近隣」をあげている。

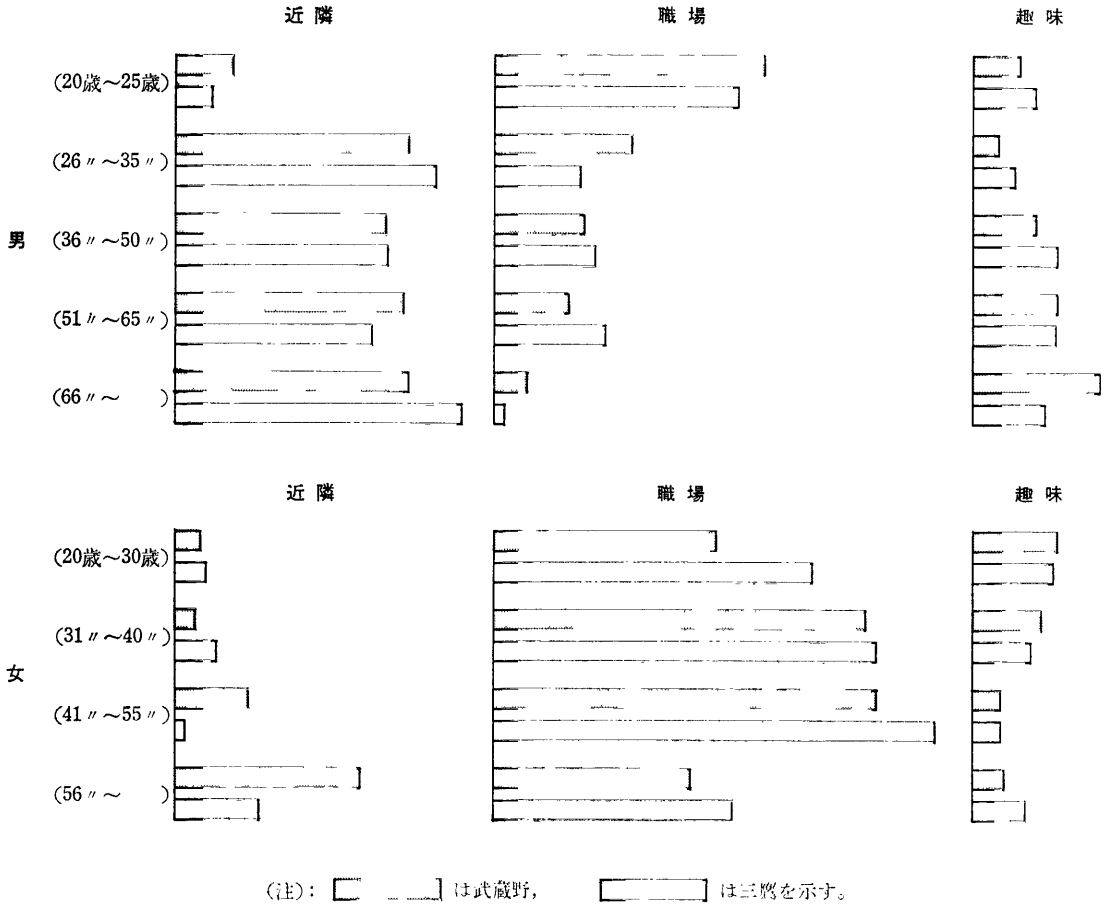


図 8-1 年齢別にみた「日頃の交際の相手」

「趣味」をあげたものは20代に多いことは理解できることであるが、武蔵野では36%と極めて高い比率を示している。職業では、武蔵野では無職層に有意に多いが三鷹ではそれ程に差はない。また管理・自由業層にもかなり多くでている。

このように年齢層・職業層による差異が極めて明瞭であり、両市の差異も多少見えることは興味深い。

(2) 学 歴

両市/男女を通して学歴の低いものほど「近隣」をあげたものが多くなっている。

「職場」や「趣味」をあげたものは、女では学歴の高い方に多く、男では学歴による差は少ないが、低い層では少なくなっている。

(3) 住居状況・居住年

「近隣」をあげたものは、両市とも居住年が長いもの

に多く、男については特にその差が大きい。住居が一戸建居住者層に多いことも明らかに見られる。

(4) そ の 他

女の場合、家族構成で学童以下の子のある家族は「近隣」をあげるものが有意に多い。兄弟数については男女とも多い方に僅かながら多く現われるようである。

以上をまとめると、日頃最もよくつきあっている人として「近隣」をあげるものは、年齢や職業により地域での生活時間の長いもの、趣味で楽しむことの少ないもの、地域に古くから住み、学歴は低い方であり、比較的多数の兄弟で育ったもの、という像が描かれよう。

3
近 隣 と の 親 交 度

問34で、近所（お宅のまわり2～30軒ぐらいと限定）の人びとと、どの程度のつきあいがあるかを尋ね、それによって近隣との協力の可能性をみようとした。質問文と回答結果は表8-3の通りである。

表 8-3

問34 ご近所とのつきあいについて伺います。あなたは、近所の人々（お宅のまわり2～30軒の人々）と、どの程度のつきあいをしているでしょうか？（リスト）

回 答		1. 挨拶を交す程	2. 子供の学習や遊びを通して話す	3. 趣味のサークルを作る	4. 世間話しをする	5. 物の貸し借りをする	6. 一寸したもののやりとりをする	7. その他	8. つき合いがない	D. K.
女	武蔵野	(39) 167	(9) 37	(0) 1	(17) 71	(2) 10	(28) 122	(4) 19	(1) 2	(0) 1
	三鷹	(37) 160	(7) 29	(2) 8	(19) 81	(1) 6	(32) 139	(1) 5	(0) 1	(0) 1
	武蔵野	(61) 110	(4) 7	(2) 3	(10) 18	(2) 3	(16) 28	(2) 4	(1) 1	(1) 2
男	三鷹	(63) 117	(2) 4	(3) 5	(8) 14	(3) 6	(15) 28	(3) 5	(1) 1	(4) 7

カテゴリーを親交の深さによって3段階に分けることとし、[3.趣味のサークル, 5.物の貸し借り, 6.もののやりとり]→1.深い親交, [2.子供を通し, 4.世間話し, 7.その他]→2.中度の親交, [1.挨拶, 2.つき合わない, D. K.]→3.疎遠, のように併合する。このように併合してみると「深い親交」は両市とも男では約20%, 女では30～35%であり、「疎遠」は男では約3分の2近くいるが女では40%に達しない程度であって、男女による近隣親交の差異は明らかである。なお、女では三鷹の方が武蔵野より「深い親交」がやや多いことがみられる。

これを属性に分けてみていこう(付表21を参照)

(1) 年 齢

女については、両市とも「深い親交」は中・高年に多く(武蔵野は中年, 三鷹は高年), 若年, 高年へと次第に少なくなり, 若年においては「疎遠」が著しく多い。「中度の親交」は、「子供を通じて」が多い故か, 26歳～35歳に最も多い。

男については、両市とも「深い親交」は、56歳以上に最も多く, 年齢が若くなるにつれ次第に少なくなる。「疎遠」はこの逆となり, 武蔵野では特に若年と高年

の差が著しい。「中度の親交」は武蔵野では「深い親交」と同様若い方に少なく, 三鷹では逆に(「疎遠」と同様)高齢ほど少なくなっている。

(2) 学 歴

全般に低学歴の方が親交が深い。武蔵野/女については高学歴に「深い親交」が多く, 「疎遠」もまた多い。

(3) 職 業

女については武蔵野では主婦層に特に, 三鷹では主婦, パート勤務者層に「深い親交」が多い。

男については無職層, 労働・自営業層に親交は多くなっている。

(4) 住居状況・居住年

両市/男女を通じ一戸建の方が親交がやや深く, 集合住宅/下の層, 昭和51年以降の居住者層では親交は浅い。

(5) 家族構成

両市/男女とも単身者, 定位家族のものは親交がうすい。

(6) 兄弟数・順序

全般に兄弟数の多いものに親交の深いものが多い。

(7) その他

支持政党との関連は、はっきりした傾向はみられない。

以上をまとめると、近隣と親交を結ぶものは当然のことながら女に著しく多く(約6割)、特に中高年層に多い。男では全体に少なく(約3分の1)、その中でも56歳以上の高齢層である。そして、男女とも比較的低学歴、一戸建居住のものに多く、兄弟数の多いものにやや多いことがみられる。

要するに交際範囲の少ない人びとであり、生活空間が居住地にある人であり、パーソナリティ

として他者とうちとけ易い人(多数兄弟で育った人)と言えよう。

問35では、留守の際に贈物が届いた時、それを預っておいてもらいたかったか否かを問い、それにより近隣に対し素朴に開放的に交わる意志があるか、あるいは閉鎖的であるかを見ようとした。質問文と回答結果は表8-4の通りである。

表 8-4

問35 あなたがお留守の時に、デパートから贈り物が届いたとします。しかし、隣りの人は、それを預っておいてくれませんでした。そういう時、あなたはそのことをどう思いますか？(リストを提示)

回答		1. 預ってもら いたかった	2. しかたがな いと思う	3. 当然だと思 う	4. 預ってもら わなくてよ かったと思 う	5. その他	6. そういうこ とはない	D. K.
女	武蔵野	(29) 126	(52) 222	(7) 30	(2) 8	(3) 12	(4) 19	(3) 14
	三鷹	(33) 141	(48) 206	(7) 28	(2) 10	(3) 13	(4) 19	(4) 15
男	武蔵野	(41) 73	(47) 84	(8) 14	(1) 2	(1) 2	(2) 3	(1) 2
	三鷹	(38) 71	(46) 86	(3) 6	(1) 2	(3) 6	(1) 1	(8) 15

「預っておいてくれなかったことを」当然と思うものや「預ってもらわなくてよかったと思う」ものは近隣との親交に否定的タイプと考えられるが、これは9%程度(三鷹/男は4%)にすぎない。「預っておいてもらいたかった」と回答するものを近隣親交に肯定的立場をとるものと考え、この肯定的回答は女より男の方に約10%近く多い。

これを年齢別にみると両市/男女ともに20歳~25歳の層に多く中年層に少なくなっており、今までの多くの質問への回答パターンと異なることがわかる。職業別にみても、主婦、無職層より働いている人(男ではホワイト・カラー)の層の中に肯定的回答が多い。このことはこの設問が近隣親交とは余り関連なく、外で働く人にとって「預っておいてもらう」ことは生活における簡便であり、こ

のために肯定的回答となっていると考えられる。それ故、これを近隣親交の尺度とすることはできないが、少なくとも肯定的回答をしたものは近隣に対して閉鎖的ではないとみることはできよう。

4

近隣への対処 —騒音・悪臭の場合—

問36は、隣家の騒音・悪臭など、隣家の原因で自分の生活にとって不快なものがあった場合、これに対処し、その隣家にどのような行動をとるか、これによって近隣との交流のあり方を、協力的親交の可能性を探ることを狙った設問である。質問文と回答結果は表8-5の通りである。

表 8-5

問36 例えば、あなたがお隣りの騒音（夜遅くの音楽など）とか悪臭に悩まされていたとします。そういうとき、あなたはどうしますか？ 次の中から、あなたの行動に最も近いものを1つあげて下さい。（リストを提示）

回答		1. その家に直接話しに行く	2. 隣りの人に聞こえよがしに不愉快を表わす	3. 近所の人にそのことについて話す	4. 家の中でぐちをこぼす	5. 独りでがまんする	6. 対抗して同じことをする	7. 役所や警察に訴える	8. 無関心	9. その他	D. K.
女	武蔵野	(41) 175	(0) 1	(10) 42	(15) 64	(18) 76	(0) 0	(6) 25	(4) 18	(4) 16	(3) 14
	三鷹	(41) 175	(1) 2	(9) 37	(16) 68	(21) 90	(0) 0	(5) 20	(4) 16	(3) 11	(3) 13
男	武蔵野	(52) 93	(1) 2	(6) 11	(6) 10	(11) 20	(1) 2	(9) 16	(11) 19	(1) 2	(3) 5
	三鷹	(57) 106	(1) 2	(3) 6	(9) 17	(10) 18	(2) 3	(6) 12	(6) 11	(2) 4	(4) 8

カテゴリーを、[1. その家に直接話しに行く] → 1. 卒直交流, [2. 聞こえよがし, 3. 近所に話す, 6. 対抗して, 7. 役所や警察に] → 2. 不満を間接的発散, [8. 無関心, 9. その他, D. K.] → 2'. 無気力, [4. 家の中でぐち, 5. 独りでがまん] → 3. 内向型, のように併合し, それぞれへの回答パターンをみると表 8-6 のごとくである。

表 8-6

回答		1. 卒直交流	2. 間接的発散	2'. 無気力	3. 内向
女	武蔵野	41	17	11	33
	三鷹	41	15	10	37
男	武蔵野	52	17	11	33
	三鷹	57	15	10	37

両市とも卒直交流, 無気力は男に多く, 内向型は女に多い。不満発散は男・女とも殆んど同比率になるが, 細かいカテゴリーで見れば, 比率は少ないものの「3. 近所の人に話す」が女に多く, 「7. 役所や警察に訴える」は僅かながら男に多いことが見られる。これにより女の「井戸端」的交流志向, 男の公的機関志向が覗われる。

併合したカテゴリーで属性別にみると, 次のことがわかる (付表 22 を参照)。

(1) 年齢

女では, 両市とも卒直交流は26歳~35歳に多く, 男については, 武蔵野では41歳~55歳, 三鷹では40歳以下の層で最も多く, 市により多少の差違がみられる。両市/男女とも老年層では卒直交流は少ない。

(2) 学歴

両市/男女を通し, 低学歴層では卒直交流は著しく少なく, 内向型が多い。

(3) 職業・勤務地

両市/男女を通し, 卒直交流は市外で働いている人(男ではホワイト・カラー層)に多い。

(4) 住居状況・居住年

全般に卒直交流は一戸建より集合住宅に多く, 特に集合住宅/下の層に多い。居住年では, 女については昭和51年~53年に居住し始めたものに最も多く, 54年以降ではやや少なくなる傾向がみられる。男については傾向的なものはみられない。

(5) 支持政党

両市/男女を通し, 卒直交流は, 自民党支持層より革新系支持層に顕著に多い。

(6) その他

家族構成, 兄弟数との関連には, 傾向的なものはみられない。

以上をまとめると, 卒直的交流をする人のタイプを次のように描くことが出来よう。すなわち, 年齢や職業との関連から, 物ごとを事務的に処理する生活態度が身につけている人びとであろうこ

とが想定され、また革新系支持者に多いことから進歩的意識をもつ人びとと考えられる。一方、速やかな改善を求めることが住居状況(集合住宅)から必然的である人びとでもあり、女の場合では居住がある程度古い(15年以上)人びとは近隣親交があっても卒直には言い難く、また、極めて最近から(2~3年)の居住者は余り気にしていないので、ちょうど居住年が3~5年の人びとに卒直交流が多くなるとも考えられよう。

つまり、この設問では近隣親交の程度は測り得ないが、近隣に対し率直に接し得る人びとのタイプをみるができる。コミュニティづくりに関しても一つの示唆とすることができよう。

5

近隣からの援助経験

問37で、困ったときに近所の人から援助を受けたことがあるかを尋ね、これにより近隣に対して好印象を持っているか否かを見た。質問文と回答結果は表8-7の通りである。

表8-7

問37 あなたは、今迄に困った時、近所の人に助けてもらったことがありますか？

回答 サンプル		回答		
		あり	なし	D. K.
女	武蔵野	(48) 207	(48) 207	(4) 16
	三鷹	(46) 199	(49) 212	(5) 21
男	武蔵野	(39) 70	(59) 106	(2) 4
	三鷹	(40) 74	(57) 106	(4) 7

「あり」と答えたものは女の方が男より僅かに多い。「なし」と「D. K.」を併合して、以下に属性との関連とみてみよう(付表23を参照)。

(1) 年齢

「あり」と答えたものは両市とも女では26歳~35歳、男では41歳~55歳に多い。

(2) 住居状況・居住年

全般に一戸建より集合住宅の方に「あり」と答えたも

のが多い(ただし三鷹/男は例外)。住居所有についてみると女では明らかに社宅居住層に「あり」と答えた人が多い。居住年別には差異はみられない。

(3) 支持政党

公明党支持の人数は少ないので安定した結果としてはみられないが、「あり」と答えたものは両市/男女を通して公明党支持層に最も多く、次は革新系支持層である。

(4) 家族構成

両市を通し女では学童以下の子をもつ家族に、男ではこれと定住家族の両方に「あり」と答えた人が多い。

(5) その他

学歴、職業などには傾向的なものは見られない。

以上をまとめてみると、この設問で「あり」と答えたものは近隣に対し肯定的な態度をもっている人であり、さきにみた問35でのタイプと似ているが、この設問では地域での生活時間の長さ、すなわち地域との接触の密度はあまり関連なく、むしろ住居状況別からみられるように居住状況が近隣と近接している人びとであり、支持政党からの類推によっても理念的に近隣友好の気持をもった人びとと考えられよう。

6

近隣関係のわずらわしさ

この問27'においては、生活行動の場としてではなくむしろ生活意識において、地域での連帯感に対する拒否的な意向を探り、隣人親交を逆の側からみていこうとする。

質問文と結果は表8-8の通りである。

質問では「そう思う」という回答が出易いようにバイアスがかけられているが、それでも「思わない」という回答が4割近くある。このことは近隣に無関心といわれている都会人も半数近くが、たとえタマエにもせよ隣人関係を無視していないことがわかる。武蔵野においては、「一概に言えない」といった中立の答が多く「その他」が著しく多くなっている。このために肯定、否定の比率を単純に比較することはできない。

この設問では、コミュニティ形成の観点からみ

表 8-8

問27 「都会の生活の良いところは、隣り近所に
わずらわされずに自分の好きなように生活
できるところだ」という意見があります。
あなたは、これをどう思いますか？

回答		1. そう思う	2. 思わない	3. その他	4. D. K.
女	武蔵野	(42) 179	(29) 124	(19) 81	(11) 47
	三鷹	(45) 193	(43) 184	(6) 27	(7) 28
男	武蔵野	(36) 65	(39) 71	(13) 24	(11) 20
	三鷹	(44) 82	(43) 81	(5) 10	(8) 14

れば、「思わない」という否定の方が地域に積極的な態度とみられ。そこで「思わない」と答えたものについて属性別にみていく（付表24を参照）。

(1) 年齢

女については武蔵野では36歳～50歳の層、三鷹では26歳～35歳の層、男については武蔵野では30歳代層、三鷹では41歳～55歳層に「思わない」が多く、他の多くの設問において地域に積極性を示す年齢層に比べて両市/男女すべてに一段階若い年齢層であることは注目すべきことであろう。すなわち、行動としては必ずしも未だ積極性を示さないとしても、潜在的に地域の人間関係について肯定的に傾きつつある年代であると考えることができよう。

(2) 学歴

男女とも、武蔵野においては低学歴層に、三鷹においては高学歴層に否定が多い。

(3) 職業・勤務地

女については、武蔵野では主婦層、三鷹では専業(市内勤務)層に、男については、労働・自営業層に否定が多い。

(4) その他

住居状況、居住年、支持政党、家族構成、兄弟数などの関連では全般的には明らかな傾向はみられない。

以上をまとめると、女については武蔵野・三鷹両市における意識の差異が多少みられる。すなわち、武蔵野ではこの設問を実際の生活に即した隣人関係を想起しつつ答えていると思えるが(属性との関連の様相が前節までの近隣親交と類似して

いる)、三鷹においては、高学年層、専業有職層に否定が多いことなどから比較的、生活の規範として答えている様子が見える。このことは、少なくとも女における両市の間の居住地域に対する意識の差異の一つの現われとみられよう。

7

災害時における近隣関係

問40で、大地震という様な危急の際に隣人と行動を共にするか、あるいは1人で行動するかを尋ね、意識の上での隣人への志向性をみようと考えた。質問文と回答結果は表8-9の通りである。

表 8-9

問40 大地震がおこったとします。その時、
度、あなたは家に一人でいたとしたら、
どうなさいますか？(リストを提示)

回答		1. 近所の人と 行動をと にする	2. ラジオなど の報道で、 一人で行動	3. その他	D. K.
女	武蔵野	(63) 270	(29) 124	(6) 27	(2) 10
	三鷹	(60) 261	(32) 137	(6) 22	(3) 12
男	武蔵野	(51) 92	(39) 71	(7) 13	(2) 4
	三鷹	(44) 82	(45) 84	(5) 10	(6) 11

隣人志向は女は男よりかなり多く、武蔵野は三鷹より僅かながら多い。これを属性別にみていくと以下のようである(付表25を参照)。

(1) 年齢

武蔵野/女、三鷹/男においては若年層に隣人志向が多く、特に最高年齢層においては両市/男女とも隣人志向が少ないことは興味深いことである。この質問ではリストを提示しているの、質問の意味のとり違いや調査員の聞き違いはないものと考えられ、高齢者の単独行動志向については、今後、考慮すべき問題と思われる。

(2) 住居状況

女においては集合住宅層の方が一戸建住宅層より隣人志向が多く、男においてはこの差は見られない。

(3) 支持政党

回答者数が少なく安定したものではないが、女については両市とも公明党支持層において隣人志向が多いことは注目すべきであろう。

(4) 家族構成

全般に学童以下の子のある家族は隣人志向が著しく多い（三鷹 / 男においては顕著ではない）。

(5) その他

学歴，職業，居住年，兄弟数などとの関連では傾向的なものは見られない。

以上をまとめてみると，この設問による「近所の人と行動をともにする」という回答は，一般的な意味での隣人志向としてはみなされないと考えられる。むしろ生活の知恵として自分の身の安全に何が最適かを考えて選んだ回答であり，そこで「近所の人」が意識に浮かんだとしても，そのことは恒常的な近隣志向とは別なことと考えねばならないであろう。

9

「福祉」に関する意向

本章では、ボランティア活動に対する受けとめかた、身体障害者や一人住まいの老人に対する世話といった問題を取りあげ、地域住民の福祉に関する意向を探っていく。

1. ボランティア活動への参加の意向120
2. ボランティア活動に対する認識121
3. 「要介助者」の存在122
4. 「要介助者」への援助の意向124
5. 「独居老人」の世話126

1

ボランティア活動への参加の意向

福祉関係の設問として、問27でボランティア活動について尋ねている。質問文と回答結果は表9-1に示す通りである。

表9-1

問27 あなたは、給食サービスなどのボランティア活動を少ししてみようと思うことはありませんか？

回答		1. 既に行っている	2. してみたいが 自分の都合が 合わない	3. 時間がなくて できない	4. そういうこと は考えていな い	5. その他	D. K.
女	武蔵野	(4) 19	(20) 85	(20) 88	(44) 189	(9) 39	(3) 11
	三鷹	(4) 17	(25) 106	(23) 97	(44) 191	(4) 16	(1) 5
男	武蔵野	(4) 7	(6) 10	(22) 40	(61) 109	(5) 9	(3) 5
	三鷹	(2) 3	(12) 23	(32) 60	(51) 95	(1) 2	(2) 4

武蔵野/女に対する前回調査で「ボランティア活動を実際にしたことがあるか」という問に対し「ある」と答えたものは11%であった。これに比べ今回の武蔵野/女では「既に行っている」は4%と意外に少ないように思える。しかし前回では「したことがあるか」という過去の経験を聞いたのに対し、今回は意向を尋ねているので過去に経験があっても将来する意向のあるもののみが「既に行っている」と答えたからとも考えられる。いずれにしてもこの活動に積極的に参加した、あるいは、しようという意向のものは僅かである。選択肢に単に「してみたい」というものが落ちているが、こう答えたものは僅かであり、これは「2. してみたいと思うが自分の都合に合わない」に併合した。

両市とも男の方が女より否定的に傾いていることがみられる。

両市を比べると、女については武蔵野と三鷹はほとんど同じ回答状況であり、男については武蔵野に僅かながら否定的のものが多。市行政が福祉対策に力を入れていることを充分に受けとめていた武蔵野市民であるが、自らの福祉活動には特に積極性を示していないことがみられる。

カテゴリーを、〔1. 既に行っている, 2. してみ

たいが都合に合わない〕→1. 肯定的, 〔3. 時間がない, 5. その他〕→2. 中間, 〔4. 考えていない, D. K.〕→3. 否定的, のように併合し、属性との関連をみてみよう(付表26を参照)。

(1) 年齢

女については「肯定的」は武蔵野では51歳～65歳、三鷹では36歳～50歳の層に多く、両市とも26歳～35歳の層に少ない。26歳～35歳の層は子育て期であるので「肯定的」は少なく「中間」回答が多くなる。「否定的」は66歳以上に最も多い。

男については「肯定的」回答は少なく、特に30歳代、40歳代(三鷹では20歳代も)の働き盛りの時期には少ない。

(2) 学歴

両市とも女では低層に「肯定的」が少なく「否定的」が多い。男では逆に低層に「肯定的」が多い。

(3) 職業

女では両市とも主婦層に「肯定的」が最も多く、男では、はっきりした傾向は見られない。

(4) 住居状況・居住年

両市/男女とも、住居では一戸建の方が、居住年では古い方がやや「肯定的」である。

(5) 家族構成

女では両市とも単身世帯のものに「肯定的」が少

ない。

(6) 支持政党

女では両市とも「肯定的」は革新系支持に多いが、男では傾向的なものは見られない。

(7) その他

女では兄弟数の多いものに「肯定的」がやや多いようにみられるが、男では傾向的なものはみられない。

以上をまとめると、肯定的が多いのは女では中年層、主婦層、高学歴層、革新系支持層と地域活動全般に積極的な層と類似している。男については低学歴層に多く、働き盛りの年代には少ないと

いうこと以外には属性との関連は明らかなものが見られない。一般に福祉活動は未だ男性とはかなり距離のある問題とみることができよう。

2
ボランティア活動に対する認識

問28で、ボランティア活動はどういうことと思うかを尋ね、「ボランティア活動についての認識」をみようとした。質問文と回答は結果表9-2に示す通りである。

表9-2
問28 ボランティア活動は、どのようなことと思いますか？
あなたのお考えに最も近いものを2つあげて下さい。(リストを提示)

回答		1. 援助の必要な人のためになることをする	2. 近隣の人とよい地域社会をつくること	3. グループ活動で友達作りやチームワークの体験をすること	4. 他人を助けて自分も成長すること	5. みんなが幸せになるようにすること	6. その他	D. K.
女	武蔵野	(43) 185	(24) 104	(13) 57	(58) 249	(42) 179	(1) 6	(3) 13
	三鷹	(41) 178	(18) 78	(15) 66	(58) 252	(39) 169	(1) 5	(5) 20
	武蔵野	(45) 81	(28) 50	(14) 25	(51) 91	(41) 73	(1) 2	(1) 2
男	三鷹	(44) 82	(26) 49	(14) 27	(39) 73	(41) 76	(3) 5	(4) 7

両市／男女の間に殆ど差異はみられない。しかし「他人を助けて自分も成長」が男にはやや少なく、特に三鷹／男に少ないこと、「近隣の人とよい地域社会をつくる」は女の中で武蔵野が三鷹よりやや多いことなどがみられる。このことから武蔵

野が三鷹に比べ、僅かばかり意識が高いようにもみられる。

この質問は殆ど同じ内容で前回調査（武蔵野／女）においても問うているので、これと比較してみる。前回調査の質問文と回答結果を示すと表9-3

表9-3
● ボランティア活動は、次のうち、どのようなことと思いますか。いくつでもあげて下さい。
(1976年調査、武蔵野／女)

1.	援助の必要な人のためになること	233人 (55)
2.	近隣の人と手をつないで、よい地域社会をつくること	153人 (36)
3.	よりよい社会をつくるために何かすること——教育、司法、都市行政などから	121人 (28)
4.	自分の成長、発展になること	53人 (12)
5.	グループ活動を通して友だち作りやチームワークの体験をすること	91人 (21)
6.	自分を含めて、みんながしあわせになるように努力すること	249人 (58)
7.	その他	8人 (2)
	D. K.	58人 (14)

(注)：()内数字は比率(%)を示す。

の通りである。

前回調査においては質問文の流れが異なり、選択肢も6個で選択肢文にも差異があり、また選択の仕方にも異なるので正確な比較はできない。しかし前回の回答において3番を除いた選択総個数(784)は今回のそれ(780)と殆ど同数であるので、選択肢各々の比率は、今回の武蔵野/女のそれと粗い意味で比べることができる。

これをみると「他人を助けて自分も成長」が今回において著しく増しており、他のカテゴリーはいずれも少なくなっている。この変化は「他人を助けて」という言葉が挿入されたための増加であるのか、あるいはボランティア活動への認識が変ってきた(自分の人間的成長のためという意義が強くなり認識されるようになった)ことからなのかは判然としない。この項目以外では、各カテゴリーの選ばれた比率は相対的に殆ど変化はないことがみられる。

そこで次に、今回調査でカテゴリーの「2. 近隣の人とよい地域社会をつくる」と「5. みんなが幸せになるように」の少なくとも何れかをあげた人についてみていくことにする。5は広い視野を示すもので2は地域社会への積極的志向を示すものである。前回結果においてこの何れかを挙げたひとは、地域社会への積極性を測る他の項目に対する反応と強い関連をもっていた。これが2と5を注目してとりあげる理由である。いま、[2または5をあげた人]→1. 高い認識, [それ以外の人]→2. 普通, とすれば、各々の人数は表9-4の通りである。

表9-4

回答		高い認識	普通
サンプル			
女	武蔵野	(60) 260	(40) 171
	三鷹	(52) 223	(48) 209
男	武蔵野	(59) 106	(41) 74
	三鷹	(58) 109	(42) 78

(注)：()内数字は比率(%)を示す。

これを属性別にみると以下のような通りである(付表

27を参照)。

(1) 年齢

武蔵野/女、三鷹/男では高年齢になるほど、武蔵野/男では中年層(30歳~55歳)において「高い認識」が多い。三鷹/女では年齢による差異は見られない。

(2) 学歴

武蔵野では中程度に、三鷹では高学歴に「高い認識」が多い。

(3) 職業・勤務地

女では両市とも主婦層に多く、男では武蔵野では労働・自営業層、市内勤務者に、三鷹ではホワイトカラー層に多い。

(4) 住居状況・居住年

三鷹/男においては差異がみられないが、女においては住居では一戸建層に多く、居住年は古い(昭和36年以前からの居住者)層に、次いで新しい(51年以後の居住者)層に多くなっており、「高い認識」の人々の中には選択肢を選ぶ根拠の異なる人々が混在していることが見られる。

(5) 家族状況

両市/男女とも、定位家族層、単身世帯層において「高い認識」が少なく、学童以下の子供のいる層も子育て期で忙しい故に少ない。

(6) 支持政党

武蔵野/女においては革新系支持層の方が自民党支持層より「高い認識」が多いが、武蔵野/男、三鷹/男女においては逆に自民党支持層における方が革新系支持層におけるより「高い認識」の比率は高い。

以上をまとめると、ボランティア活動への認識は、武蔵野市においては一般に地域社会に積極的な層に根づいているが、三鷹市(特に男)においては活動とは別に概念として認識している人が多いように思われる。

3

「要介助者」の存在

問29で、近所に介助を必要とする人がいるか否かを尋ね、近隣に対する福祉的姿勢の有無をみようとした。質問文と回答結果を示すと表9-5の通りである。

表9-5
問29 お宅の近くに、一人暮らしの老人、身体の不自由な人、知恵おくれの子ども等、特に介助を必要とする方がいますか？

回答		1. いる	2. 知らない	3. いない	4. その他	D. K.
女	武蔵野	(16) 70	(17) 73	(67) 286	(0) 0	(0) 2
	三鷹	(13) 57	(19) 82	(67) 289	(0) 0	(1) 4
男	武蔵野	(11) 19	(22) 40	(67) 120	(0) 0	(1) 1
	三鷹	(8) 14	(29) 54	(63) 117	(0) 0	(1) 2
1976年調査(武蔵野/女)		(16) 69	(34) 146	(47) 200	0	(3) 11

前回調査(武蔵野/女)においても同じ質問をおこなっているので、その結果を同表の最下欄に付記した。

「いる」と答えたものは、今回と全く同じ比率であることは興味深い。これは男より女に、三鷹より武蔵野に僅かながら多いことがみられる。「いない」と答えたものは今回著しく増し、両市/男女とも約3分の2に達している。ちなみに、武蔵野、三鷹両市と周辺類似地区における障害者や独居老人の人数は表9-6の通りである。

表9-6

市 区	人 口 (千人)	世帯数 (千世帯)	a 独居老人 (65歳以上)		b 寝たきり老人		c 心身障害者		合 計 人 数	人 口 1,000人 に対する 比
			人 数	65歳以上 人口比	人 数	65歳以上 人口比	人 数	人口1,000 人に対する 比		
武蔵野市°	134	54	745	7.3	230	2.2	1,291	9.6	2,266	16.9
三鷹市°	162	64	513	5.2	180	1.8	1,535	9.5	2,228	13.8
小金井市°	100	38	180	3.0	123	2.0	857	8.6	3,388	33.9
調布市°	175	65	503	5.5	205	2.2	1,817	10.4	2,525	14.4
府中市°	183	65	547	5.4	220	2.2	1,953	10.7	2,720	14.9
武蔵野市*	136		260	3.1	174		1,005	7.4	1,439	10.6
三鷹市*	156		210	2.9	113		282	1.8	605	3.9

(注)：°印は昭和53年，*印は昭和48年の資料。

表中の合計人数は、1人でa, b, cの中の2つ以上に重複がないと考えたときの人数である。

一応、この合計人数を介助を必要とする者と考えると、両市とも(特に三鷹市)、昭和48年から53年の5年間で、これらの人びとが著しく増えている。これらの人びとが1世帯に2人以上いないとするならば、武蔵野では約25世帯に1人、三鷹では約30世帯に1人の割合でこの様な要介助者がいるわけである。25~30世帯とは日頃出合うことの多い比較的近辺の人びとということであろうが、平均的にはほぼその程度の範囲に要介助者がいるとしても、「いない」と断定的に答えたものが3分の2にも達している。このことは、都市生活

における隣人への無関心を示すものとみられよう。しかし、「いない」という答えは「この周辺については知っている。しかしそういう人はいない」という意味にうけとめるなら、隣人への無関心は事実であるとしても、「知らない」または「無答」の回答より多少は地域志向があるともみられよう。このように解釈するなら、今回調査において「知らない」が減少し「いない」が増したことは住民の地域への姿勢の進歩とみるべきものとも考えられる。

そこで、[1. いる]→1. あり, [3. いない]→2. 無関心, [2. 知らない, 4. その他, D. K.]→3. 消極的, のようにカテゴリーを併合し、属性との関連

をみていく（付表28を参照）。

（1）年 齢

女では36歳以上に福祉志向が多くなり、三鷹では51歳～65歳の年齢層に顕著に多い。

男女を通し、若年層では福祉志向が少なく、女では35歳以下、男では40歳以下に消極的が多い。

（2）学 歴

武蔵野では低い方に、三鷹では高い方に福祉志向が多い。

（3）職業・勤務地

女では無職、主婦層、あるいは市内で働くものに福祉志向がやや多い。

（4）住居・居住年

女については、住居は一戸建、10年以上住んでいるものに福祉志向は多く、集合住宅層ととくに昭和54年以降の居住者には顕著に消極的が多い。男についても大体同様な傾向がみられる。

（5）家族構成

両市／男女を通し、単身世帯、定位家族のものに福祉志向は少なく、とくに単身世帯では消極的が顕著に多い。

（6）その他

支持政党には傾向的なものはみられないが、武蔵野

／女では、福祉志向は革新系支持層に顕著に多い。

以上をまとめてみると、この設問での福祉志向には種々の要素がからみ合っているように思える。すなわち地域との接触がある程度深いこと（住居状況・居住年別に見られる）、近隣関係で積極的傾向があること（年齢、職業などからみられる）、福祉的関心のあること（学歴等からの推測）、などである。それ故に、属性別にみたとき必ずしも明瞭な差異が現われてこないものと考えられる。

4 「要介助者」への援助の意向

独居老人や心身障害者などが近くにいるか否かを尋ねた問29での回答の諾否にかかわらず、そのような方がもしあれば何か手伝ってあげる意向があるか否かを問30として尋ねている。質問文と回答結果は表9-7に示す通りである。

表9-7

問30 もしそのような方がいるとしたら、あなたは、これらの方のために、ご近所のよしみで、何かお手伝いしたいと思いますか？

回 答		1.	2.	3.	4.	5.	6.	7.	
サンプル		しようと思 う	たのまれ ればする	3. したいと思 うが実際 にはでき ない	無関心	何もし たくない	する必 要はない と思 う	その他	D. K.
女	武蔵野	(53) 227	(16) 67	(14) 53	(1) 2	(3) 15	(1) 5	(10) 43	(3) 13
	三鷹	(57) 246	(17) 74	(16) 68	(1) 6	(3) 13	(1) 5	(2) 7	(3) 13
男	武蔵野	(49) 88	(10) 18	(10) 19	(5) 9	(6) 11	(2) 4	(14) 26	(3) 5
	三鷹	(35) 65	(14) 26	(31) 58	(5) 9	(3) 6	(4) 7	(3) 5	(6) 11

ちなみに前回調査（武蔵野／女）でも殆んど同様の質問をしているので、質問文と回答結果を表9-8に示す。

前回と今回を比べると、前回では「同じ地域の住民として」が今回では「ご近所のよしみで」と

してあるところが質問文における主なちがいである。今回の方が「諾」の回答が幾分出易い質問文であるかもしれない。しかし、この語句の差だけで「しようと思う」が25%（前回）から53%（今回）に増加したとは考えられない。しかも今回は「た

表9-8

●あなたは、これらの方がたのために、同じ地域の住民として、あなたの
 できることで少しでもお手伝いしたいと思いますか。(1976年調査、武蔵野/女)

1. 積極的にしようと思う	2. したいと思うが実際にはできない
3. 無関心	4. 別に何もしたくない
5. その他	6. D. K.

1. 積極的にしようと思う (25)	2. したいと思うが…… (57)	3. 無 関 心 (3)	4. 別に何もしたくない (3)	5. そ の 他 (4)	6. D. K. (8)	計 (100)
105	244	13	13	18	33	426

のまれればする」も加えれば約70%の人が「する」という回答である。このことは、やはり今回の方が前回より肯定の意向の人が増えたと考えてもよいであろう。これは単なる「タエマエ」の考えで「ホンネ」として実際に行動するか否かとは異なることであるかもしれない。しかし、兎に角「タエマエ」としてでも、こうした意識が増してきたことは、武蔵野に限らず、近年都市社会における福祉対策とくにコミュニティ・ケアについての啓蒙の実りと考えられよう。今回の調査結果をみると、女については武蔵野・三鷹両市の間に殆ど差異はないが、男については武蔵野は三鷹よりかなり「する」意向が多く、女に近い傾向となっている。三鷹はこれに比べかなり否定的に傾いており、女との差異は著しい。

カテゴリーを、[1.しようと思う]→1.意向あり [2.たのまれればする, 3.したいと思うが実際にはできない]→2.消極的, [4.無関心, 5.何もしたくない, 6.する必要はない, 7.その他, D. K.]→否定的, のように併合し, 以下に属性との関連をみよう(付表29を参照)。

(1) 年 齢

「意向あり」のものは、女については武蔵野では中高年、三鷹では高年に最も多く、若年へ老年へと少なくなる。男については武蔵野では中年、三鷹では高年に最も多い。

(2) 住居状況・居住年

住居では一戸建の方に「意向あり」が多く、集合住

宅/下では最も少ない。ただし三鷹/女については、これと全く逆の傾向で集合住宅の特に下において最も多くなっている。居住年でみると、全般的に古い方「意向あり」が多く、居住歴が数年間にすぎないものの中では著しく少ない。

(3) 支持政党

両市/男女を通して革新系に「意向あり」が多い。

(4) 家族構成

全般に定位家族、単身世帯に「意向あり」が少なく、大きな子(中学以上)のある家族に多い。

(5) 兄弟数

両市/男女とも4人以上では「意向あり」がかなり多い。

(6) その他

学歴では全体を通しての傾向的なものはみられない。職業についても女では余り差異なく、男では、武蔵野では技術・管理、自由業に少なく、三鷹ではこの職業において「意向あり」が最も多くなるなど傾向的に把えることはできない。

以上をまとめてみると、福祉的援助活動に関して意向のあるものは、中・高年層、比較的古くから住んでいる人びと、革新系支持層に多少多いということである。しかし学歴、職業などの生活様相を特徴づけることは余り関連がなく、むしろ多兄弟で育った人に多いことからパーソナリティのうえで他者に向かう姿勢をもった人びとに多い、ということも言えよう。

「独居老人」の世話

福祉関係の前3問（問27、問29、問30）においては本人の意向を尋ねたのに対し、この問31では

一般的にかつ概念的に要介助者（独居老人）にどう対処すべきと考えているかを把えようとしている。「一人住まいの老人」は今後の高齢化に向う時代に身近な問題であり、概念的とは言え、特に中年以上の者は自分を想定し、ある程度の具体性を踏まえて回答したものも多いと考えられる。質問文と回答結果は表9-9の通りである。

表9-9

問31 あなたの近所に一人住まいの老人がいたとします。その方が寝こんだ時は、誰が世話をすべきであると思いますか？（リストを提示）

回答		1. その人の親戚	2. 近所の人	3. ボランティア精神のある人	4. 市が行っている援助組織から派遣の人	5. その他	D. K.
女	武蔵野	(49) 213	(14) 58	(6) 26	(25) 109	(4) 16	(2) 9
	三鷹	(52) 225	(16) 68	(3) 13	(23) 101	(4) 15	(2) 10
	武蔵野	(62) 111	(11) 20	(3) 6	(20) 36	(3) 5	(1) 2
男	三鷹	(56) 105	(9) 17	(5) 10	(25) 47	(1) 2	(3) 6

「近所の人」と答えたものの比率は女の方が男より僅かながら多く、地域志向についての男女差がここにも表われる。両市の差は殆どみられない。

カテゴリーを、[2. 近所の人]→1. 近所の人、[3. ボランティア精神のある人、4. 市の援助組織から派遣の人]→2. 公的・善意の人、[1. その人の親戚、5. その他、D. K.]→3. 親戚など、のように併合し、以下に属性との関連をみよう（付表30を参照）。

(1) 年齢

「公的・善意の人」と答えたものについてみると、女については、武蔵野では51歳～65歳、三鷹では36歳～50歳に、男については、武蔵野では56歳以上、三鷹では31歳～55歳において比率は最高となり、これより若年へ、高年へと次第に少なくなっている。このことは他の地域志向項目のパターンと類似している。

「近所の人」と答えるのは、女では26歳～50歳、男では30歳代に少ない。

「親戚など」と答えるものは必ずしも老年層に多くないことは、現代の高齢者に既に親戚などに頼れない状態にあるということを示していると考えられよう。

(2) 学歴

女については低学歴層に「公的・善意の人」と答えるものが多く、男については低学歴層に「近所の人」と答えるものが多い。全般に高学歴層は「親戚など」と答えるものが多い。

(3) 住居状況・居住年

住居状況による差異はみられないが、居住年の少ない層では「近所の人」と答えたものの比率は最も少なく、「親戚」と答えるもの比率は最も多い。

(4) 支持政党

女については「近所の人」や「公的・善意の人」と答えるものは僅かながら革新系支持層に多いが、男については傾向的な差異はみられない。

(5) その他

家族構成、兄弟数とは関連が見られない。

以上をまとめると、「近所の人」または「公的・善意の人」と答える人の層は前の多くの設問におけるように年齢層と関連の深い地域志向の人々の層とやや類似している。しかし、全般に属性との関連において傾向的な差異が少ないことは、回答の根拠が人によって種々であることを意味しているように思われる。

10

既成団体への所属と参加

本章では、自治会・町内会をはじめとする24種の地域内の既成団体をとりあげ、コミュニティづくりに深い関連をもつと考えられる、それら既成団体への所属状況やそこでの活動参加への積極性、また団体活動に対する満足感や価値づけの様相を探っていく。

1. 既成団体への所属状況…………… 128
2. 所属団体における活動の積極性…………… 130
3. 団体活動に対する満足と価値づけ…………… 135
4. まとめ…………… 135



既成の団体に所属しているか、その団体に対してどのような意識でどのような強さの関わり合いをもっているか、ということはコミュニティづくりと深い関連があると考えられる。そこで既成の諸種の団体(24種)をリストで提示し、それに所属しているか否かを問い、続いて所属している団体の活動への参加の積極性、団体での役割、楽しさ、などについて尋ねた。

1 既成団体への所属状況

問22で、一般に知られている諸種の団体(24種)をリストで提示し、所属している団体を幾つでも列挙してもらった。リストに掲載された24集団は1978年の『武蔵野市民意識調査』において提示されたものと同じである。この1978年調査で示された集団は武蔵野市、三鷹市の在住者が所属するであろうと考えられる集団が列挙されており、全く同じ種類の集団を提示したことによって1978年の調査結果との正確な比較ができる。

今回の質問文とリストに示された団体の種類、これに対する回答結果、ならびに1978年『武蔵野市民意識調査』の質問文と結果を表10-1に示す。

(1) 団体所属の数

今回の調査において、回答者が列挙した団体数の分布は表10-2の通りである。

これによると、列挙した数は、女では三鷹の方が、男では武蔵野の方が僅かに多い。1978年『武蔵野市民意識調査』においては、「いずれにも参加しない」もの31%、平均所属団体数1.5であった。今回の私たちの調査における武蔵野/男女の平均をとると、前者は32%、後者は1.6となり、極めてよく類似しており、この3年間では変化のないことがみられる。

しかし、1976年の前回調査(武蔵野/女に対して)では、「団体に属している」と答えたものは僅かに15%である。ちなみにこの時の質問文を示すと以下のようであった。ここでは、具体的な団体名を提示せずに、単に「属しているか」と問うている。そのため、かなり意識的に(自発的・積極的に)参加した場合に

限り「属している」と答えたであろうなど、質問文の違いによる差異が大きいものと考えられる。

●あなたは何かの団体に属していらっしゃいますか。

1. 属している	→19-1 どの団体ですか
2. 属していない	
3. その他	↓
4. D.K.	19-2 ここではどんな活動をしていらっしゃいますか

この場合「属している」と答えた人が少ないので、その付帯設問の「どの団体」の間による団体の種類別頻度も少なく、今回との比較はできない。それでも、やや多い頻度のあったものはP.T.A.(11人, 13%)奉仕団体(7人)、宗教団体(6人)であった。なお、属している団体をあげたもの(13%)に対し「その団体では、どういう活動をしているか」を問うたところ、半数以上は無答であり、団体参加は消極的であることがわかった。

今回の調査では、1978年時点に比べるとやはり団体参加が積極的になっているとみられよう。

(2) 列挙された団体の種類別頻度

団体の種類別に、「所属している」と答えた人数の比率についてみていく。

まず、1978年『武蔵野市民意識調査』と今回の武蔵野における比率(男女それぞれの比率)の平均とを比べると大体よく類似していることが見られる(表10-1を参照)。ただし、町内会、自治会に対する比率の相異が目立つ。このことは、武蔵野においては多くの地域で町内会を作っておらず(これは武蔵野の一つの特徴である)、市全域にわたっては町内会所属が少ないことは当然である(三鷹と比べても顕著に少ない)。1978年調査は市全域について行われていないので、調査地点が丁度、町内会組成の地域であった故と考えられる。

つぎに、男女の差異を明らかにしながら、団体所属の全般的様相をみていこう。

女については、三鷹では町内会に所属と答えたものが約3分の1ですべての種類の中で1位であり、次に同窓会(25%)、P.T.A.(29%)、趣味の会(18%)と続く。武蔵野では、前述の様に町内会は少なく、1位はP.T.A.(20%)、次に趣味の会(18%)、同窓会(17%)と続き、同窓会が三鷹に比べ少ないことが目立つ。

男については、両市とも1位は同窓会で4分の1を越え、次が三鷹においては町内会(28%)であるが

表10-1
問22 あなたは次のような団体やグループに所属していますか？
(リストを提示していくつでも選択させる)

団 体	女		男		男 女
	武 蔵 野	三 鷹	武 蔵 野	三 鷹	武 蔵 野
1 自 治 会	(11) 46	(14) 60	(14) 26	(9) 17	(7)
2 町 内 会	(15) 63	(34) 145	(15) 27	(28) 52	(20)
3 防 犯 協 会	(7) 32	(5) 20	(9) 16	(5) 9	(7)
4 消 防 団	(1) 4	(1) 5	(2) 3	(1) 2	(1)
5 氏 子 会	(5) 21	(3) 13	(6) 11	(2) 4	(6)
6 婦 人 組 織	(5) 23	(5) 20	(1) 2	(0) 0	(1)
7 P. T. A.	(20) 88	(19) 82	(7) 12	(6) 11	(17)
8 商店会, 同業組合	(4) 16	(14) 19	(9) 16	(7) 14	(8)
9 青 年 組 織	(0) 0	(0) 1	(2) 3	(2) 4	(2)
10 消 費 者 団 体	(2) 8	(2) 9	(0) 0	(2) 3	(2)
11 コミュニティ組織	(2) 10	(2) 10	(2) 3	(1) 2	(3)
12 住 民 運 動 団 体	(1) 6	(1) 4	(2) 3	(1) 2	(1)
13 給食ボランティア	(2) 9	(0) 1	(1) 1	(0) 0	(1)
14 講・無 尽	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(△)
15 老 人 ク ラ ブ	(4) 17	(2) 7	(2) 3	(1) 2	(1)
16 趣 味 の 会	(18) 79	(18) 76	(10) 18	(12) 23	(12)
17 ス ポ ー ツ 団 体	(6) 24	(9) 37	(13) 24	(10) 18	(6)
18 ライオンズ・クラブ ロータリー・クラブ	(1) 4	(0) 1	(2) 3	(1) 2	(0)
19 宗 教 団 体	(7) 31	(7) 31	(7) 12	(3) 5	(5)
20 政治団体・政党	(1) 4	(1) 2	(4) 7	(2) 3	(2)
21 労 働 組 合	(3) 15	(4) 16	(16) 29	(12) 22	(10)
22 職 場 の 同 好 会	(5) 20	(5) 21	(23) 42	(9) 16	(9)
23 同 窓 会	(17) 72	(25) 110	(28) 50	(30) 56	(24)
24 県 人 会	(1) 5	(3) 15	(6) 11	(8) 15	(4)
25 そ の 他 (記入)	(2) 8	(4) 18	(2) 3	(3) 5	(3)
26 いずれにも所属して いない	(34) 147	(26) 110	(29) 53	(32) 60	{(31)}
27 D. K.	(1) 4	(1) 5	(0) 0	(2) 3	
総 計 (列挙された総団体数)	(140) 605	(167) 723	(181) 325	(153) 287	(152)

(注)：最右欄は、1978年『武蔵野市民意識調査』(「現在、あなたが加入している組織や団体を残らずあげて下さい」)での結果を示す。()内数字は、回答者人数に対する比率(%)を示す。△印は、比率(%)が0.5未満であることを意味する。

表10-2
所 属 し て い る 団 体 数

団体数		1	2	3	4	5	6	7	8	9	いずれにも所属していない	D. K.	列举された総団体数	平均所属団体数
サンプル		(25)	(18)	(12)	(6)	(2)	(0)	(0)			(34)	(1)		
女	武蔵野	107	79	53	28	10	2	1	0	0	147	4	605	1.4
	三鷹	(28)	(21)	(13)	(6)	(3)	(1)	(0)	(0)	(1)	(25)	(1)		
男	武蔵野	39	37	24	11	6	6	2	2		53	0	325	1.8
	三鷹	(22)	(22)	(11)	(7)	(2)	(1)			(1)	(32)	(2)		
		41	42	20	13	4	2	0	0	2	60	3	287	1.5

武蔵野においては前述のように15%と少なく（しかし自治会は町内会とはほぼ同率で14%）、職場の同好会、(23%)、労働組合(16%)と職域関係の団体が2位、3位となっている。

三鷹では、労働組合(12%)は4位であるが職場の同好会は少ない(9%)。女には少なかった商店会・同業組合は男については両市とも多い。つまり男においては職域関係の団体が多いことが明らかである。趣味の会、スポーツ団体は、両者を併せれば両市/男女とも22~23%程度ではほぼ同じであるが、女においては、やはり趣味の会がスポーツ団体より多く、男においてはこの二者は殆んど同率である。

P. T. A. は両市とも男においては少なく、はるかに下位である。

(3) 列举した数と団体との関係

加入の団体数が少ない場合と多い場合で団体の種類が異なるか否かを見た。1つの団体のみに加入している人、2つの団体に加入している人、3つ以上の団体に加入している人等をそれぞれ別々に集計してみても、列举された団体の種類別頻度の順位は変わらなかった。

この設問では「所属している」団体を問うているが、被調査者が「所属」ということをどのように解釈して答えているかは明確でない。自らの意向で加入していない場合、たとえば町内会、氏子会等のように居住していることによって自動的に加入者になっている場合には、メンバーになっていることを想起して「所属」と答えることも、またはそれを想起しないで「所属」としては列举し

ない場合もあろう。したがってこの設問では、こうした受動的加入に関する実態を正確には把握されず、そのことを「想起」したか否かによる数字が現われたに過ぎず、これを帰属意識と言えるものか否かは疑わしい。

私たちの知りたいことはむしろ、団体に意識的に加入し、活動しているか否かであり、これは次の設問で明らかになるので、この問22に関しては属性との関連など細かくみることを割愛した。

2

所属団体における活動の積極性

前問ではむしろ「加入」を想起した所属団体を調べたが、この問23では、加入している団体の中で積極的な活動をしている団体を挙げてもらい、能動的に関わりをもっている団体をみていこうとするものである。質問文と回答結果は表10-3の通りである。1978年『武蔵野市民意識調査』でも類似の質問があるのでこれをも付記してある。

まず女についてみる。積極的参加をしていると答えた団体総数は、前問同様三鷹が武蔵野より僅かに多い。団体別に様相をみていくと、両市とも「趣味の会」が1位であり、P. T. A., 同窓会がこれに続き、自治会、町内会等の地域団体に対してはずっと少なくなる。

これに反し、消費者団体、コミュニティ組織、

表10-3
問23 あなたが加入している組織や団体で、積極的にその活動に参加しているものをあげて下さい。
(リストを提示していくつでも選択させる)

団 体	女		男		男 女
	武 蔵 野	三 鷹	武 蔵 野	三 鷹	武 蔵 野
1 自 治 会	(4) (35) 16	(4) (28) 17	(4) (27) 7	(2) (18) 3	(2)
2 町 内 会	(3) (19) 12	(7) (19) 28	(2) (11) 3	(3) (12) 6	(4)
3 防 犯 協 会	(1) (16) 5	(1) (15) 3	(3) (31) 5	(2) (33) 3	(2)
4 消 防 団	(0) (25) 1	(1) (40) 2	(1) (33) 1	(1) (50) 1	(△)
5 氏 子 会	(1) (24) 5	(0) (8) 1	(2) (27) 3	(0) (0) 0	(1)
6 婦 人 組 織	(3) (61) 14	(2) (35) 7	(0) (0) 0	(0) (0) 0	(1)
7 P. T. A.	(8) (39) 34	(7) (39) 32	(3) (50) 6	(1) (9) 1	(8)
8 商店会, 同業組合	(1) (25) 4	(2) (42) 8	(4) (44) 7	(3) (43) 6	(5)
9 青 年 組 織	(0) (0) 0	(0) (0) 0	(1) (33) 1	(2) (75) 3	(1)
10 消 費 者 団 体	(1) (63) 5	(1) (44) 4	(0) (0) 0	(1) (33) 1	(1)
11 コミュニティ組織	(2) (80) 8	(1) (40) 4	(1) (67) 2	(1) (100) 2	(2)
12 住 民 運 動 団 体	(1) (83) 5	(1) (75) 3	(1) (33) 1	(1) (50) 1	(1)
13 給食ボランティア	(2) (89) 8	(0) (100) 1	(1) (100) 1	(0) (0) 0	(1)
14 講・無 尽	(0) (0) 0	(0) (0) 0	(0) (0) 0	(0) (0) 0	(0)
15 老 人 ク ラ ブ	(1) (35) 6	(1) (57) 4	(1) (33) 1	(1) (50) 1	(△)
16 趣 味 の 会	(12) (67) 53	(12) (67) 51	(9) (89) 16	(6) (52) 12	(12)
17 スポーツ団体	(4) (63) 15	(8) (89) 33	(10) (75) 18	(5) (50) 9	(7)
18 ライオンズ・クラブ ロータリー・クラブ	(0) (25) 1	(0) (100) 1	(1) (33) 1	(1) (100) 2	(0)
19 宗 教 団 体	(4) (58) 18	(5) (65) 20	(4) (67) 8	(1) (40) 2	(4)
20 政治団体・政党	(0) (25) 1	(0) (0) 0	(3) (71) 5	(1) (33) 1	(1)
21 労 働 組 合	(1) (27) 4	(2) (50) 8	(4) (24) 7	(4) (36) 8	(4)
22 職 場 の 同 好 会	(2) (50) 10	(2) (48) 10	(15) (64) 27	(5) (63) 10	(6)
23 同 窓 会	(7) (39) 28	(9) (36) 40	(7) (26) 13	(5) (18) 10	(8)
24 県 人 会	(0) (20) 1	(1) (27) 4	(2) (27) 3	(2) (20) 3	(1)
25 そ の 他 (記入)	(1) (75) 6	(2) (50) 9	(1) (33) 1	(2) (60) 3	(3)
26 いずれにも所属して いない	(34) 147	(26) 110	(29) 53	(32) 60	{(46)}
27 D. K.	(1) 4	(1) 5	(0) 0	(2) 3	
総 計	(60) (43) 260	(67) (40) 290	(76) (42) 137	(47) (31) 88	(121)

(注)：最右欄は、1978年『武蔵野市民意識調査』(「あなたが加入している組織や団体で、積極的にその活動に参加しているものを3つまであげて下さい」)での結果を示す。各欄内の左側()内数字は回答者人数に対する比率(%)を示し、右側()内数字は所属団体総数に対する比率(%)を示す。△印は、比率(%)が0.5未満であることを意味する。

住民運動団体、給食ボランティア等の地域運動団体においては、所属の比率は少ないものの、所属者のうちで「積極的参加」をしているものは非常に多い。「積極的参加」の比率のみに注目するならば、地域団体とはほぼ同率に近いほどである。職場の同好会についても（三鷹においては労働組合も）同様の傾向がある。

1978年調査では問い方も異なり3つまでとの限定もあるので正確な比較はできないが、趣味の会、P.T.A.、同窓会において比率が高いことなど今回と類似の傾向がみられる。

次に男についてみよう。「積極的参加」をしていると答えた団体数は武蔵野は三鷹の約1.5倍であり、武蔵野の方が全般に団体参加が積極的であ

ることがみられる。これを団体の種類別にみていくと、武蔵野で「積極的参加」が最も多い団体は職場の同好会であるが、三鷹ではこれは余り顕著ではない。この他では、スポーツ団体、趣味の会が比率が高く、次に同窓会、労働組合等が続く。町内会または自治会の「積極的参加」は女の場合と同様4%程度であり低い方である。

要するに積極的に参加をしている団体となると加入している団体数の約4割（三鷹では3割）程度であり、この程度が意識的に参加しているものとみなされよう。

いま、問22から問26までの設問に対して列举した総数と比率を一覧表にして示すと表10-4のごとくである。

表10-4
問22～問26の設問で列举された団体総数

サンプル	回答	問22.	問23.	問24.	問25.	問26.
		所属団体 総数	「積極的 参加」の 団体総数	「大事な 役」の団 体総数	「楽しい」 の団体総数	「生きがい」 の団体総数
女	武蔵野	(140) 605	(60) (43) 260	(27) (19) 115	(63) (45) 272	(36) (26) 156
	三鷹	(167) 723	(67) (40) 290	(24) (14) 102	(67) (40) 289	(34) (20) 146
男	武蔵野	(181) 325	(76) (42) 137	(43) (24) 78	(73) (41) 132	(32) (18) 58
	三鷹	(153) 287	(47) (31) 88	(20) (13) 38	(47) (31) 88	(17) (11) 32

(注)：各欄内の、左側()内数字は回答者人数に対する比率(%)を示し、右側()内数字は所属団体総数に対する比率(%)を示す。

所属しているそれぞれの団体において大事な役を担っているかという質問(問24)に対して「担っている」と答えた総数は前掲の表10-4の通りである。武蔵野/男においてやや多い(24%)が他においては少なく、団体別にもみるべきものは少ないが次のことを指摘しておこう。

女において「大事な役」を担っていると答えた団体で最も多いのはP.T.A.(回答者の5~6%)、次が宗教的団体(2~3%)であり、この順位は両市とも同じであり比率もほぼ同じである。両市とも、それ以外の団体においては、すべて2%にも達しない。男においては、武蔵野では職場

の同好会(6%)が最も多く、次いで同窓会、スポーツ団体、商店会、宗教団体(何れも4%)と続き、次に趣味の会(3%)であり、自治会、町内会が2%を僅かに越えている。三鷹ではまず同窓会、次に労働組合、スポーツ団体と続くが、いずれも3%と少なく他はすべて2%に達しない。問24から問26の設問に対する団体別顕度を一覧表にして示すと表10-5のごとくである。また、問22での「所属状況」、問23での「積極的参加」問26での「生きがい」に対する回答比率をまとめ図示すると図10-1のごとくである。

表10-5

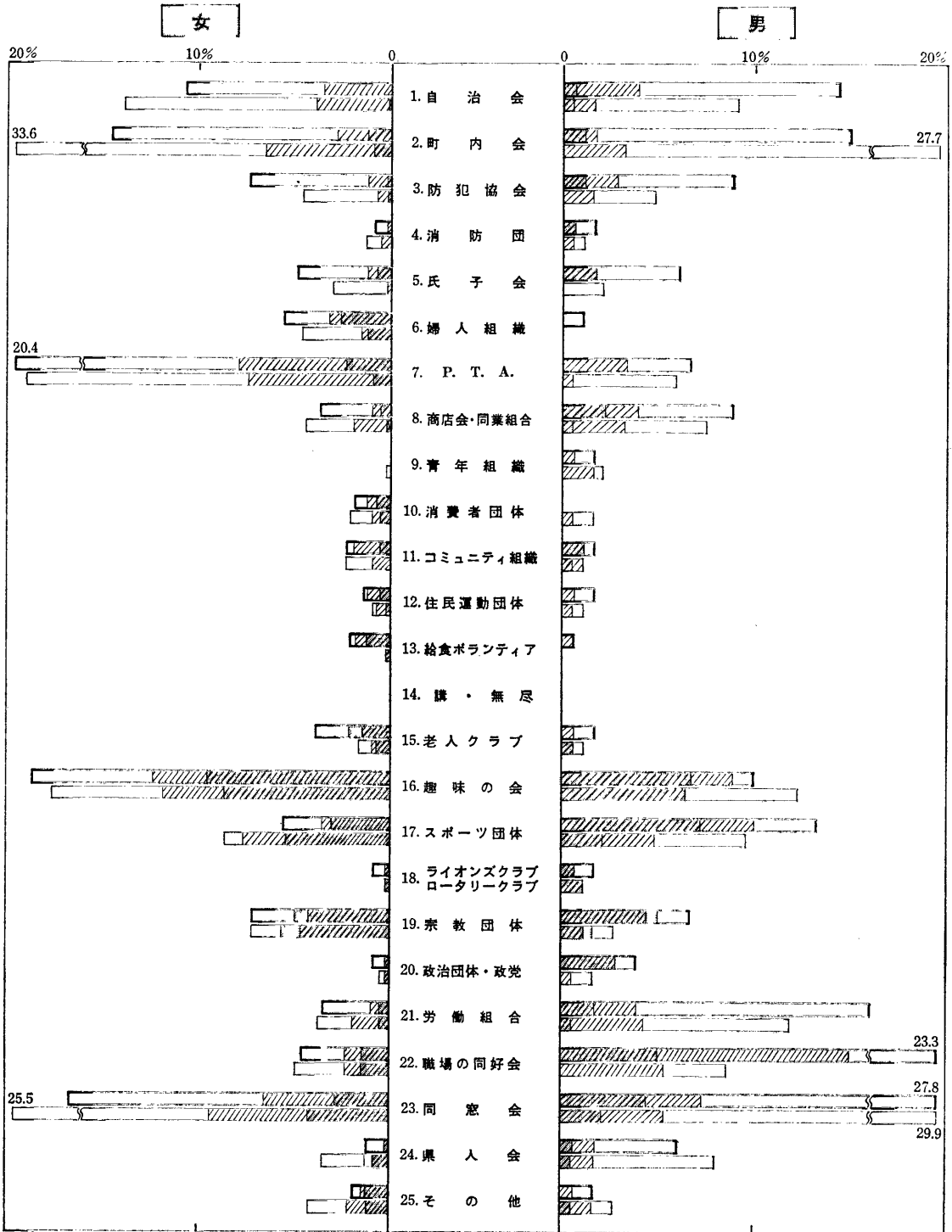
問24 あなたは、その団体（またはグループ）で、大事な役を担っておられますか？

問25 団体（またはグループ）での活動は、あなたにとって楽しいものですか？

問26 それは、あなたにとって生きがいになっていますか？

団 体 回 答 者	質 問																								
	問24 大事な役					問25 楽しい					問26 生きがい														
	女		男			女		男			女		男												
	武蔵野	三 鷹	武蔵野	三 鷹	武蔵野	三 鷹	武蔵野	三 鷹	武蔵野	三 鷹	武蔵野	三 鷹	武蔵野	三 鷹											
1 自治会	(2)	8	4	4	2	3	6	2	2	0	1	1	1												
2 町内会	(2)	7	(2)	9	4	2	(2)	(4)	13	19	3	4	5	4	2	0									
3 防犯協会		3	1	3	0	2	2	3	2	1	1	2	0												
4 消防団		1	0	1	0	0	1	0	0	0	0	1	0												
5 氏子会		2	0	2	0	4	0	3	1	3	0	3	0												
6 婦人組織		4	5	1	0	(4)	(83)	(3)	(55)	19	11	0	0	(3)	(48)	(1)									
7 P. T. A.	(6)	25	(5)	21	3	0	(5)	(26)	(4)	(22)	23	18	1	0	(2)	(11)									
8 商店会、同業組合		2	3	(4)	7	3	4	3	2	1	2	1	4	1											
9 青年組織		0	0	0	2	0	0	1	2	0	0	0	0												
10 消費者団体		1	1	0	0	3	2	0	1	3	2	0	0												
11 コミュニティ組織		4	4	1	1	(2)	8	4	2	1	2	1	2	1											
12 住民運動団体		1	1	1	0	4	1	1	0	2	1	0	0												
13 給食ボランティア		2	0	0	0	(2)	8	1	0	0	5	1	0	0											
14 講・無 尽		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0												
15 老人クラブ		3	0	1	1	(2)	(59)	10	4	0	1	(2)	9	3	0	1									
16 趣味の会	(4)	19	(3)	14	(3)	6	(17)	(90)	(15)	(86)	(9)	(94)	(10)	(78)	(10)	(52)	(9)	(49)	(7)	(67)	(6)	(52)			
17 スポーツ団体		4	(2)	8	(4)	8	5	(5)	(83)	(8)	(95)	(12)	(86)	(6)	(67)	(3)	(54)	(5)	(62)	(7)	(54)	(2)			
18 ライオンズ・クラブ ロータリー・クラブ		1	1	1	1	3	1	2	2	1	0	1	0	1	2										
19 宗教団体	(2)	9	(3)	11	(4)	7	1	(4)	(61)	(5)	(65)	(4)	7	3	(5)	(68)	(6)	(77)	(5)	9	3				
20 政治団体・政党		0	0	3	0	1	1	4	0	1	1	5	0												
21 労働組合		1	4	5	5	3	4	4	2	2	2	3	1												
22 職場の同好会		4	2	(6)	10	1	(3)	(3)	(66)	(21)	(88)	(5)	(63)	6	6	(5)	9	0							
23 同窓会	(3)	12	(2)	8	(4)	(3)	6	(9)	(53)	(14)	(56)	(11)	(38)	(12)	(41)	(3)	(17)	(4)	(16)	(4)	8	4			
24 県人会		0	1	0	3	3	5	2	2	1	5	1	1												
25 その他(記入)		2	4	2	3	6	(2)	(56)	10	1	1	5	5	0	1										
総 計	(27)	(19)	(24)	(43)	(20)	(63)	(67)	(73)	(47)	(36)	(34)	(32)	(17)	(11)	115	102	78	38	272	289	132	88	156	146	58

(注)：各欄内の左側()内数字は、回答者人数に対する比率(%)を示し、右側()内数字は、所属団体総数に対する比率(%)を示す。なお、頻度の少ないものについては比率を省略した。



(注): [] は武蔵野を, [] は三鷹を意味する。なお、棒グラフの外枠は「所属」の比率(%), 斜線部は「積極的参加」の比率(%), [] は「生きがい」の比率(%を示す。

図10-1 団体への「所属」「積極的参加」「生きがい」の比率

3

団体活動に対する満足と価値づけ

問22で列挙したそれぞれの団体（またはグループ）における活動は楽しいものであるかを問25で尋ねている。

列挙している団体総数に対して約6～7割程度（三鷹／男では5割）の団体において「楽しい」と感じていることがわかる（表10-4を参照）。これは、全体としては「積極的な参加」と同程度の比率であるが、団体別にみえていくと、必ずしも積極的に参加していなくても「楽しい」と答えている団体があることがわかる。

女についてみると両市ともまず趣味の会、次に同窓会である。回答者全体に対する比率で見ると、前者は両市とも16～15%と殆ど同じであるが、後者については武蔵野では9%、三鷹では14%というぐあい、三鷹ではかなり多い。続いて武蔵野においては、P.T.A.(5.3%)、スポーツ団体(4.6%)、婦人組織、宗教団体(いずれも4.4%)と並ぶ。三鷹においては次にスポーツ団体(8%)であり、次に宗教団体(4.6%)、町内会(4.4%)、P.T.A.(4.2%)と並ぶ。この順序・比率を見ると、武蔵野、三鷹の差異を多少見ることができる。すなわち、同窓会、スポーツ団体といった親交や趣味の様な場において「楽しい」というものが三鷹に多く、P.T.A.、婦人組織等の団体組織活動の場において「楽しい」というものは武蔵野の方が多くなっている。これらの差異は僅かであるが目すべきことである。

男についてみると、武蔵野では職場の同好会(11%)、そして趣味の会(9%)と続く。三鷹においては、同窓会(12%)、趣味の会(10%)、スポーツ団体(6%)、職場の同好会(5%)と並ぶ。武蔵野との差異は、職場の同好会について著しく、またスポーツ団体についてもかなりみられるが、この4種が上位に挙がっており、他のすべての団体において4%を越えるものがないという点については両市において共通している。

団体（またはグループ）での活動が、個人の生活にどれ程の重要度を占めているかを探るために「生きがい」という表現を用い、問22で列挙されたそれぞれの活動が生きがいになっているかを問26で尋ねた。回答結果は前掲の表10-5に示されているとおりであり、列挙している団体数の約3分の1（三鷹では約6分の1）程度が「生きがい」になっていることがわかる。

これを団体別に詳しくみていこう。

女については、まず趣味の会(9～10%)、次いで宗教団体(5～6%)、スポーツ団体(3～5%)、同窓会(3～4%)と続くことは順位・比率ともに両市共通であり、武蔵野では次に婦人組織(3%)、P.T.A.(2%)、老人クラブ(2%)が2%を越えているが、三鷹では上記4種類の他はすべて2%に達しない。

このことから問25でと同様、両市の類似点とともに僅かの差異がみられ、さらに武蔵野における老人クラブの充実も多少見ることができる。

男については、三鷹では趣味の会(6%)以外は殆んどみるべきものではなく、スポーツ団体、職場の同好会は僅か2%、他に「生きがい」になる団体は殆ど挙げられていない。武蔵野についてはスポーツ団体、趣味の会(いずれも7%)の他に宗教団体、職場の同好会(いずれも5%)、同窓会(4%)と続き、政党政治団体、商店会・同業組合が2%を僅かに越えている。

いずれにしても団体活動が生きがいになっていると答えたものは僅かであり、団体別に明らかにすることはできないが、問25の回答結果と合わせ、男女ともに武蔵野の方が三鷹より団体活動により深く関わっている様子が僅かながらみられる。

4

ま と め

以上、団体関係の設問への回答結果は次のようにまとめることができよう。

問22による「所属する団体」として挙げられたものは必ずしも帰属意識をもった団体とは考えられず、特に町内会、氏子会等は回覧板の伝送とか祭礼の寄付金の均等割等によって僅かに帰属を想起したものを挙げている場合もあり、コミュニティづくりに関連をもつ団体帰属の表現とはならないと考えられた。

問24による「大事な役の担当」については「担っている」と答えた人数は僅かであり、団体別にみた場合には安定のある数字とならない。

問25による「楽しい」と問26による「生きがい」によっては、どのような団体に対して個人個人がその人間的生活の面で深い関わりをもっているかをみることができた。これによって現代の都市に生活する人びとが集団活動において情緒的な満足を得られるとすれば、それは多くの場合、趣味関係のもの、あるいは旧交を通して人間関係を暖めるものであり、男の場合は職域での交友に関したのもも挙げられるが、地域に関しての集団との関わりは現段階においては個人の生活に何らかのメリットをもたらすものではないということもみることができた。それ故、この2問の設問についての回答も、コミュニティ形成という目標に対しては、直接的に関連のうすいことがわかった。

そこで、コミュニティ形成との関連という点から、団体に積極的参加(問23)をしているということ、それがどのような団体であるか、ということによって範疇化しようと考えた。この場合、団体別に「積極的参加をしている」と答えた頻度も考慮に入れたので、男と女によってカテゴリーの分け方は異なったものとなっている。

まず団体の中では、1.自治会、2.町内会、3.防犯協会、4.消防団、5.氏子会、8.商店会(同業組合)は地域的な集団と考えられ、これらの集団のいずれかに積極的に関わっているものを「1.地域関係集団に積極的」とした。これについては男女共通である。これに属さないものについては男女別々に次のようなカテゴリーに分ける。すなわち、女については6.婦人組織、10.消費者団体、11.コミュニティ組織、12.住民運動団体、13.給食ボランティアの5つの集団のいずれかに積極的と

答えたものを「2.組織活動的集団に積極的」とし、次に上記1.,2.のいずれにも属さないもののうち、7.P.T.A.に積極的と答えたものを「3.P.T.A.に積極的」とした。2.組織活動的集団に積極的、3.P.T.A.に積極的は、いずれもコミュニティ形成と関連の深い団体活動であるので、頻度は余り多くないが、このようなカテゴリーを作することは重要なことと考えられる。しかし、男についてはこれらのカテゴリーに属するものは殆どなく、このような範疇化はできない。そこで男については、16.趣味の会、17.スポーツ団体のいずれかに積極的と答えたものを「2.趣味関係集団に積極的」とし、次に上記1.,2.のいずれかにも属さないもののうち、21.労働組合、22.職場の同好会のいずれかに積極的と答えたものを「3.職域関係集団に積極的」とした。これらは直接的にはコミュニティ形成との関連はうすいが、この様な団体活動に積極的というタイプが間接的にはコミュニティと何らかの関連づけをして考えることができるかと推測したからである。

さらに、男女とも、上記3グループのいずれにも属さないが、他のいずれかの集団に積極的であるものを「4.その他に積極的」とし、つぎに、積極的参加はしていないが、いずれかの集団に所属している、と答えたものを「5.参加のみ」とし、最後に、所属の集団を1つもあげなかったものを「6.不参加」とした。この6つのカテゴリーを一応団体参加指標のカテゴリーとして、各カテゴリーの頻度と比率を性別、市別にみたのが表10-6である。

これによると、「1.地域関係」については性別、市別に差異がみられないが、「5.参加のみ」は僅かながら三鷹に多く、「6.不参加」は女では武蔵野、男では三鷹に僅かに多くなっている。「2.組織活動的集団」については、女は武蔵野は三鷹より多く、男は「2.趣味関係集団」「3.職域関係集団」の2つとも武蔵野は三鷹より多い。

これらのカテゴリーごとの分布を属性別にみていこう(付表31を参照)。

表10-6

団体活動への参加の程度

カテゴリー		1.	2.	3.	4.	5.	6.
サンプル		地域関係 集団に積 極的	組織活動 的集団に 積極的	P. T. A. に積極的	その他に 積極的	参加のみ	不参加
女	武蔵野	(9) 39	(6) 25	(5) 23	(17) 74	(28) 119	(35) 151
	三鷹	(11) 48	(2) 10	(5) 21	(25) 106	(31) 132	(27) 115
カテゴリー		1.	2'.	3'.	4.	5.	6.
サンプル		地域関係 集団に積 極的	趣味関係 集団に積 極的	職域関係 集団に積 極的	その他に 積極的	参加のみ	不参加
男	武蔵野	(11) 20	(16) 28	(12) 21	(6) 11	(26) 47	(29) 53
	三鷹	(8) 15	(10) 19	(7) 13	(7) 13	(34) 64	(34) 63

(1) 年 齢

女においては、カテゴリーの1., 2., 3., 4.について、いずれも中・高年層に多い。「3. P. T. A.」については、36歳～50歳の層に多いことは当然のことである。男においては、「1. 地域関係」は56歳以上の層、「2'. 趣味関係」は20歳代層、3'. 職域関係は30歳代層といずれも両市共通で、男の団体活動のパターンについて年齢による差異が明らかである。

「6. 不参加」のカテゴリーについては、男と女の両方とも20歳代に最も多く、若年層の無関心が明らかに見られる。

(2) 学 歴

「1. 地域関係」は男女とも学歴の低い層に多い（武蔵野/女では中の層）。このことは、女においては特に低学歴層が趣味関係の団体に参加せず、団体活動をするとなれば地域関係の活動となるためと考えられる。女において「4. その他に積極的」が高学歴層に多く、武蔵野/男において「2'. 趣味関係」が低学歴層に少ないことは、これをうらづける。三鷹/男においては2'., 3'. のカテゴリーと学歴との関連はみられないが、武蔵野においては、これらのカテゴリーは高学歴層に多くなっている。

女においては「6. 不参加」も低学歴層に多く、女の低学歴層は無関心あるいは地域団体活動となると推察される。

(3) 職業・勤務地

女についてみると、カテゴリーの1., 2., 3. は武蔵野

ではパート勤務層に、三鷹では主婦層に多く、このことからこれらの団体活動への積極的参加者は両市において少し層が異なることが推測される。「6. 不参加」が両市とも専業層、無職・学生層に多いことは、前者は忙しく後者は無関心のためと理解される。なお、勤務地別にみると、1. については両市とも市内勤務層に最も多い。このことはやはり地域との接触時間の多い故と考えられる。

男についてみると、1. に関しては両市とも労働・自営業層に多く、武蔵野では勤務地別に見ても市内勤務層に多い。「2'. 趣味関係」に関しては、三鷹ではやはり自営業層、武蔵野では無職・学生層に多く、両市に多少差が見られる。「6. 不参加」については両市とも無職・学生層に多い。

(4) 住居状況・居住年

「1. 地域関係」については、両市/男女とも一戸建層、居住年の長い層に多く、女においては2. についても同じことが言える。「6. 不参加」については1. と逆に集合住宅層、居住年の短い層に多く、これらの団体活動も地域への定着性に何らかの関連があるとみられる。

(5) 家族構成

女については、「定位家族と単身世帯では1., 2., 3. の団体活動に積極的参加をしているものは殆どなく、「4. その他に積極的」にかなりの比率を占めている。これは、これらの家族層が趣味関係に参加しているものが多いためである。「3. P. T. A. に積極的」は言う

までもなく学童以下の子のある層に著しく多い。

男についてはやはり「1. 地域関係」は定位家族，単身世帯に少なく，この層は「2'. 趣味関係」，「3'. 職域活動」に多く，特に「趣味関係」に関しては単身層において最も多い。

これらから，コミュニティに関連のある団体活動に関係深いのは，やはり既婚家族であることがわかる。

(6) 兄弟数

「1. 地域関係」は兄弟数5人以上の層に最も多い(三鷹/男では1人の層に最も多く，次が5人以上の層となっている)。「6. 不参加」は両市/男女を通して兄弟数の少ない層に多く，4人以上の層に少ないことが明らかにみられる。これらのことから，団体活動に関しては生育の際の兄弟数により形成されるパーソナリティと関連のあることが見られる。

(7) その他

支持政党については傾向的なものはられない。

以上をまとめると，「1. 地域関係集団に積極的」は中・高年層，低学歴層であり，職業，家族構成，居住年等から居住地域への関連が深い層の人びとであり，生育歴から他者と交わり易い人びとと行うことができよう。女についての「2. 組織活動的集団に積極的」は意識の高い人々であり，武蔵野に多いことも特徴的なことであろう。「3. P. T. A. に積極的」は学童のいる家族層である。「6. 不参加」は男女とも他の多くの設問での消極的層と同様であった。

これらのことから，この団体参加指標は，コミュニティ形成に関して注目されるべき一つの項目であると考えられる。

11

個人の生活構造

本章では、さきの第5章から前章の第10章にわたって検討してきた「住民の意識構造」の基底にあると考えられる「個人の生活」をとりあげて、その社会・心理的構造を探っていく。

1. 淋しいときにどうするか140
 2. 家のなかで話題にすること140
 3. 選挙への関心142
 4. 齢をとって動けなくなったとき一緒に暮したいのは誰か143
 5. 自分にとって一番大切なもの146
 6. 自分の性格147
-

1

淋しいときにどうするか

問39は、都会の生活の中で淋しいと思ったとき、どのようにして気晴しをするかを尋ね、その行動と地域におけるコミュニティへの志向との関連を探ろうというものである。質問文と回答結果は表11-1の通りである。なお、この質問はリストを提示し2つまでを選ぶ複数回答である。

「2. 友人をよび出す」「1. 外出する」「6. 近所の家へ行く」「7. 近所で買物をする」という回答は女に多く、「4. 趣味のことをする」「5. 遊戯をしに出かける」「9. 飲んだり食べたりする」は男に多い。このことは、気晴しの方法が男女によって異なることを示しており、淋しいと感じた場合、それに対処する女の行動は近隣との関係を結ぶ傾向であることを示している。

そこで特に、カテゴリの中で「6. 近所の家へ行く」「7. 近所で買物をする」「8. 近所の知人を訪ねる」の項目のいずれかをあげた人（「近隣志向者」と名づける）について属性別の関連をみることにしよう（ただし、男においてはこの該当者が極めて少ないので女についてのみ検討していく）。

近隣志向者は、武蔵野で46人（11%）、三鷹で44人（10%）とほぼ同率である。年齢は武蔵野では36歳～50歳層、三鷹では26歳～35歳層、両市とも主婦層、給与住宅（社宅等）層、学童以下の子

のある家族層、多数兄弟層に多い。このことは、近隣親交を探る種々の設問において積極性のみられた属性と類似しており、女性の場合、孤独感への対処の行動は近隣関係における積極性と類似の意識構造においてなされているようにみられる。

これは、次のことからもうらづけられる。すなわち、この問39にもとづいて「近隣志向者」と「それ以外」との群に分け、ほかの21項目との関連を見たところ、多くの質問で「近隣志向者」は積極性に傾いた反応をしている。この傾向は特に武蔵野において著しい。しかも以下の質問項目については両市を通してこのことが明らかである。すなわち、Q16. (C. C.による親交)、Q21. (近隣との対話)、Q27. (近隣関係のわずらわしき)、Q31. (独居老人の世話)、Q33. (「日頃の交際」の相手)であり、いずれも近隣親交に関連した項目である。

なお、他のカテゴリ、たとえば「4. 趣味のことをする」「3. テレビをみる」「2. なし」なども他の幾つかの質問項目と関連が見られるがそれは直接的関連ではなく、他の属性項目（たとえば学歴）を媒介としているものと考えられる。

2

家のなかで話題にすること

家庭における話題はどういうことがらを含んでいるのであろうか。それは、家庭内の問題に留まっているのか否か、近隣や地域の問題あるいは一

表 11-1

問 39 あなたは、ふとさびしいと思った時、どうしますか？（リストを提示して2つまで選択回答）

サンプル	回答											
	1. 外出する	2. 友人をよび出す	3. テレビをみる	4. 趣味のことをする	5. 遊戯をしに	6. 近所の家へ行く	7. 近所で買物をする	8. 近所の知人を訪ねる	9. 飲む 食べる	10. その他	D. K.	淋しいと思わない
女	(18) 79	(23) 99	(17) 71	(33) 140	(1) 5	(6) 27	(4) 18	(1) 2	(4) 16	(8) 36	(3) 11	(8) 36
	(13) 56	(22) 96	(18) 79	(39) 169	(0) 0	(7) 28	(2) 10	(1) 6	(6) 24	(8) 35	(4) 19	(6) 24
男	(11) 19	(13) 24	(16) 29	(39) 70	(4) 8	(2) 3	(1) 1	(0) 0	(21) 38	(7) 12	(4) 7	(6) 10
	(12) 23	(14) 27	(18) 34	(45) 84	(8) 14	(3) 5	(1) 1	(1) 1	(19) 36	(5) 9	(8) 15	(3) 5

表11-2

問20 あなたのお宅で、近頃一番よく話されることは、どのようなことがらでしょうか？
話される順に3つあげて下さい。(リストを提示)

回答		1. 住居に関する こと	2. 子供の教育 について	3. 結婚などの こと	4. 老人問題	5. 病気・けがの こと	6. 物価につ いて	7. 税金問題の こと	8. 就職の問題
女	武蔵野	(26) 111	(39) 167	(9) 39	(9) 38	(25) 106	(32) 137	(21) 89	(6) 26
	三鷹	(31) 133	(39) 170	(10) 42	(8) 33	(21) 89	(31) 134	(19) 80	(7) 30
男	武蔵野	(27) 49	(36) 64	(10) 18	(7) 13	(24) 43	(21) 38	(22) 39	(7) 12
	三鷹	(27) 51	(33) 62	(7) 14	(3) 6	(17) 31	(25) 47	(20) 38	(8) 15

回答		9. 老後の問題	10. 団体・政治・ 社会問題	11. 近所の人の こと	12. 地域の問題	13. 市行政のこ と	14. 家族のこと	15. 新聞・雑誌 上で話題の こと	D. K.
女	武蔵野	(19) 80	(8) 35	(4) 18	(3) 14	(5) 21	(25) 109	(32) 140	(8) 35
	三鷹	(17) 72	(6) 27	(6) 26	(4) 17	(3) 13	(26) 114	(38) 163	(7) 32
男	武蔵野	(14) 26	(11) 20	(5) 9	(6) 11	(6) 11	(28) 50	(34) 61	(8) 15
	三鷹	(9) 16	(14) 27	(7) 14	(6) 11	(2) 3	(21) 39	(35) 66	(13) 25

一般的な社会や行政の問題も含まれているのであろうか。このような家庭の話題に含まれる関心領域のありかたはコミュニティ形成と関連づけてみていくことができるのではないかと考えられる。そこで質問20が設定された。質問文と回答結果は表11-2の通りである。

この質問では、リストを示し、順位をつけて3つを選んでもらった。1番目、2番目、3番目の順位によって選択項目の頻度分布に大きな差異はみられなかったので、表11-2においては、1位、2位、3位において選択された頻度の合計とその比率を掲げた(ただし、D. K.は、ひとつも答えなかった人数である)。約8割(三鷹/男では約7割)の人が3位の項目までをあげている。

多くの人があげた項目は、「2.子供の教育」「15.新聞・雑誌上での話題」であり、次いで、「6.物価について」「14.家族のこと」「1.住居に関する

こと」「5.病気・けがのこと」「7.税金問題」などであった。性別・市別によって多少順位は異なるが、これらの7項目が頻度の多い項目であることは両市/男女を通して共通である。それ以外の項目の中では、「9.老後の問題」が女に多く「10.団体・政治・社会問題」が男に多いことが顕著である。これらの回答分布によると、家庭で多く話されていることは、上記7項目に見られるように、家族の日常生活に関連の深いことであることは明らかである。

「11.近所の人のこと」「12.地域の問題」「13.市行政のこと」は、ほぼ5%前後であり極めて少ない。

家族の日常生活以外のことがら、すなわち、10., 11., 12., 13.の中の少なくとも1つ以上をあげた人は、生活空間が家族の外に広がっている人と考えられ、コミュニティ形成に向けて積極的

な態度をとる可能性があるのではないかと考えられる。そこで、「1.社会・地域関係の話題をもつ人」と「2.それ以外」との2つのカテゴリーに併合し、属性との関連をみていこう。特にカテゴリーの1に属する人について詳しくみていく（付表32を参照）。

(1) 年齢

武蔵野においては、女では51歳～65歳層、男では56歳以上層に多く、これは地域や隣人関係に積極的な層と同じである。

三鷹においては、女については51歳～65歳層に多いが、20歳～25歳の層でも同様の比率である。三鷹の男については年齢層による差異は全くない。

(2) 学歴

武蔵野においては男女とも高学歴に多く、三鷹においては学歴の中・高の差異は明らかでないが、男女ともやはり低学歴には少ない。

(3) 職業

両市とも男に関しては、無職・学生層にやや多く、女に関しては逆にこの層に少ない。

(4) 住居状況・居住年

両市／男女とも、一戸建／上の層に多く、女においては持家層に、男においては給与住宅(社宅等)層に多く、借家層では少ない。

居住年で見ると、両市／男女とも新しい層に少なく、特に武蔵野では古い層に多い。

(5) 家族状況

全般に既婚で子のない層に多いが、三鷹／男においては定住家族層に多い。

以上をまとめると、「社会・地域関係の話題」をもつ人は、ある部分は、地域や隣人関係における積極層と重なっているように見えるが、一方、比較的知識階級層、中以上の階層に多いこともみられ、単純な関連に帰着させることはできない。

3

選挙への関心

投票行動、特に地方自治体に関する選挙への投票は、地方行政への関心の1つの指標となるであ

表11-3

問41 先日の都議会議員選挙には、投票に
いらっしゃいましたか？

回答		1. はい	2. いいえ	D. K.	実際の投票率
女	武蔵野	(66) 286	(33) 143	(1) 2	51%
	三鷹	(61) 263	(39) 166	(1) 3	43%
男	武蔵野	(72) 130	(27) 49	(1) 1	48%
	三鷹	(60) 113	(40) 74	(0) 0	40%

ろう。とりわけ今回は、都議会議員選挙が私たちが武蔵野市で調査を実施した旬日前(7月5日)におこなわれており、市民が自分の投票行動をよく記憶していると考えられた。そこで問41が設定された。

質問文と調査結果、および実際の投票率は表11-3に示す通りである。

まず実際の投票率との著しい差異に注目すべきであろう。

この様な投票行動についてのアンケートでは、回答者の嘘つき率は14%ということが過去の調査研究*で示されているが、今回の調査においては、それを更に上まわっており、とくに男(特に武蔵野)においては20%を越えている。これは、この質問が地域に関することであり、特に男にとって無関心の項目が多く、質問に対してもいい加減に答えたものが多いためと考えられる。

しかし、この調査で「はい(行った)」と答えたものは少なくとも選挙に何らかの関心はあったのではないかと考えられ、この設問に対して一応「行った」と答えたものについて属性との関連をさぐってみよう。

なお、三鷹市での調査は、武蔵野の2ヶ月後であったので、記憶が薄れていることを危惧したが無答は武蔵野に比べ多くはなかった。

(1) 年齢

*「面接調査法の諸問題」統計数理研究所彙報第3巻1号, 1955。

女については、武蔵野では36歳～65歳層が73%で最も多く、三鷹では66歳以上層が76%で最も多い。両市とも若年層ほど少なくなる。

男については、武蔵野では41歳～55歳層が91%と極めて多く、三鷹では女と同様最高年齢（56歳以上）層が94%と極めて多い。これらの年齢層では「行かなかった」と答えることに抵抗があったものとみられる。女と同様、両市とも若年層ほど少なくなっている。

(2) 学歴

女については、武蔵野では傾向的なものはなく、三鷹では高学歴層に多い。

男については、両市とも低学歴層に多くなっている。

(3) 職業・勤務地

女については、両市とも極めて僅かながらパート勤務層に多く、勤務地では市内勤務層に多い。

男については、両市を通しての職業による傾向はみられないが、両市とも無職・学生層に少ないことは明らかであり、勤務地では市内勤務者に著しく多くなっている。

(4) 住居状況・居住年

一般に一戸建層に多く、特に中・下層に多い。住居所有については持家層に多く、借家層には少ない。居住年は最も新しい層には少なく昭和50年以前からの層に多い。

以上をまとめると、「投票に行った」と答えた層は、概略的にみると全般的に地域や近隣関係に積極性を示した層と類似しているとみることがで

きるが、実際の投票層はこの回答層より4分の1ないし3分の1も少ないものであることに注意しなければならない。

4
**齢をとって動けなくなったとき
 一緒に暮したいのは誰か**

問32で、老齢になり介助を必要とするようになった場合、誰と一緒に暮したいかを尋ねている。質問文と回答結果は表11-4の通りである。

回答が息子または娘の時には前者であれば「娘さんはいますか」、後者であれば「息子さんはいますか」という付帯質問がある。これにより、息子志向・娘志向が必然的のものか、あるいは他の可能性があってもそれを選んでいるのかをみようとした。

表11-4の中では、この付帯質問の回答数と比率が〔 〕内に示される。「息子」「娘」それぞれの「計」欄の数に充たない分は付帯質問に対する回答が「無答」であったことを意味している。「無答」は「まだ子がない」というものが殆どである。なお、子がまだないため「息子」または「娘」とははっきり答えることができないが、単に「子」と答えた場合には一応「息子」として扱った。

回答結果をみると、「配偶者」と答えたものは男に多く、男女とも三鷹は武蔵野より多く、三

表11-4

問32 「老後の暮らし方についてお聞きします」あなたは、年をとって体が不自由になったような時、誰と一緒に暮したいと思いますか？

回答 サンプル	1. 配偶者	2. 息子				3. 娘				4. 親 戚	5. 親しい 友 達	6. 老 人 ホー ム	7. 独 り	8. そ の 他	D. K.	9. 考 え て い ない
		計	い る	い ない	計	い る	い ない									
女	武蔵野	(20) 86	(33) 142	(12) 51	(10) 44	(23) 98	(11) 46	(9) 38	(4) 17	(1) 3	(5) 23	(4) 17	(4) 17	(6) 24	(1) 4	
	三鷹	(26) 114	(30) 128	(11) 47	(12) 51	(20) 87	(7) 29	(12) 50	(6) 25	(1) 5	(5) 21	(4) 18	(1) 6	(6) 27	(0) 1	
男	武蔵野	(29) 53	(26) 47	(7) 13	(7) 13	(8) 14	(3) 6	(4) 8	(6) 11	(2) 3	(5) 9	(6) 11	(3) 6	(10) 18	(4) 8	
	三鷹	(45) 84	(21) 40	(6) 12	(7) 14	(5) 10	(1) 1	(3) 6	(5) 10	(2) 3	(6) 11	(3) 6	(2) 3	(9) 17	(2) 3	

鷹／男では半数に近いものが「配偶者」と答えている。平均寿命において男女差が7歳あるので、「配偶者」と答えるものが男に多いことは当然であろう。これに反し、「息子」または「娘」と答えたものは女に多く、武蔵野は三鷹より多い。「娘」と答えたものは男には著しく少ない。付帯質問により、息子の場合は娘が、娘の場合は息子がいるかという問いかけでは、無答を別とすれば「いる」と「いない」はほぼ同率であり、息子(または娘)との同居希望はいずれの中でも必然的なものとは考えられない。

「老人ホーム」「独り」はいずれも5%程度であり、性別、市別の差はみられない。

「考えていない」と「無答」は男ではかなり多く、この様な問題に関して男には無関心のものが多いことが明らかである。なお、こうした回答は、男女いずれも若年層に著しく多い(男約2割、女約1割)ことは当然と考えられる。全般に男、女によって回答パターンが異なるので、男女別に属性との関連をみていく。

まず女についてみよう。

「配偶者」、「息子」、「娘」と答えた比率についてみると、年齢、学歴、住居状況、居住年との関連では両市の傾向が全く一致しており興味深い。この傾向は、両市の様な住民層におけるある程度安定した様相とみることができよう。

年齢については、35歳より若い層では「配偶者」が多く、高年になるにつれてこれは少なくなり「息子」が増してくる。高年になると、現実問題として「配偶者と一緒に」ということの実際の不可能さに直面するからであろう。20歳～25歳の層で「息子」が「娘」に比べ多いのは、単に「子」と答えたもの(子がいないので性別を明言できないため)を「息子」に含めているからであり、この年代が息子志向という意味ではないことに注意する必要がある。26歳から50歳にかけて「娘」が多くなり、51歳以上では「息子」が急増し「娘」は僅かに少なくなる。このことは日本における家族形態の変遷をよく物語るものと言えよう。すなわち51歳以上では現実的には娘との同居の可能性は少ないが、50歳以下の層ではその望みを多分に持っていることが明らかである。

学歴についてみると、低いものは「子」(特に「息

子)」に頼り、中・高では「配偶者」と答えたものが多くなっている。

住居状況では、一戸建層、持家層のものは「息子」に、集合住宅層(特に集合住宅/下の層)、借家層(武蔵野では社宅層も)では「娘」と答えるものが多い。

居住年では、古い層に「息子」が多く、比較的新しい層に「配偶者」や「娘」が多くなり、最も新しい層では「娘」が少なくなる。これらの住居状況や居住年との関連は年齢層による影響があると考えられる。

支持政党別では、両市を通して傾向的なものはみられず、「支持政党なし」「無答」の層で「息子」「娘」が少なく「配偶者」が多いことがみられるのみである。

家族構成でみると、既婚/子無しの層では「配偶者」が著しく多く、学童以下の子ありの層では「娘」は「息子」より多くなっており、大きい子(中学以上)ありの層では「息子」が著しく多くなっている。このことは年齢層による差異をうらづけるものとみられよう。

次いで、男についてみよう。「娘」と答えた比率は少なく、これを属性別にみることはできない。そこで「配偶者」と「息子」の回答について属性別にみる。全般に両市に共通した傾向が少なく、次のことについてのみ記すことができる。

年齢別にみると、41歳～55歳層に「配偶者」と答えたものが最も多く、若年層、高齢層では少なく、特に高齢層では「息子」と答えるものが多い。

学歴別にみると、高学歴ほど「配偶者」が多くなり、これと逆に低学歴では「息子」が著しく多い。

職業別にみると、管理・自由業、事務職では「配偶者」が多く、労働・自営業、無職層ではこれが少ない。

住居状況では、集合住宅/下には「配偶者」が少なく、持家層、一戸建上の層にはこれが多い。

以上の、属性との関連を整理して示すと図11-1のごとくである。

「老齢になり介助を必要とするようになった場合、誰と一緒に暮らしたいか」という質問41への回答の分析結果を要約すれば、おおよそ以下のような点が指摘される。

まず第1に、日本の家族においては「老人ホーム」や「独り」で生活していこうと考えるものは、やはりまだ極めて僅かであり、これは、男

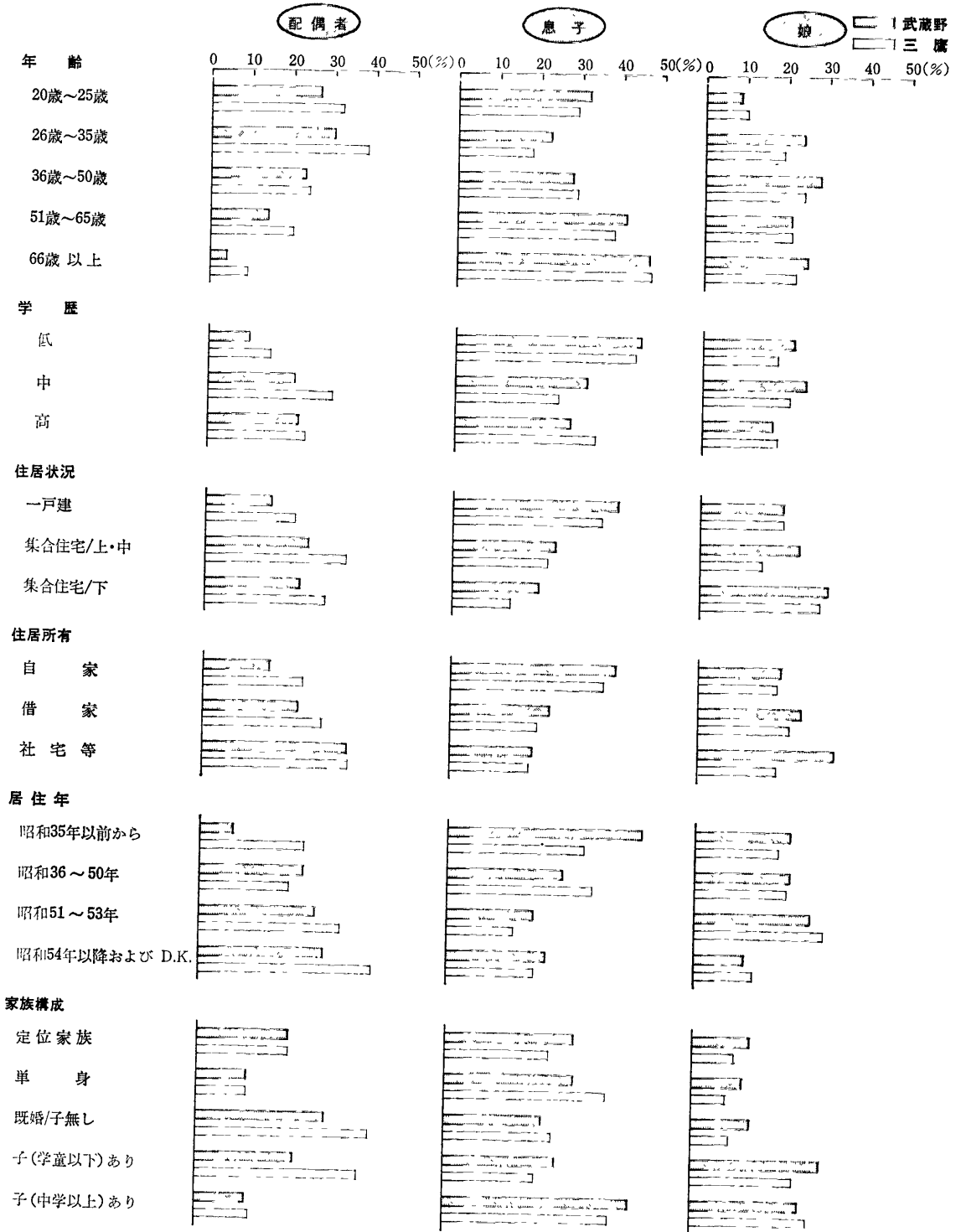


図 11-1

高齢になり介助を必要とする状況で「一緒に暮したいひと」は誰か

女に共通である。7割以上の人（女では76%）が「配偶者」あるいは「息子」または「娘」と暮すつもりであると答えており、家族に頼る傾向が明らかである。

男については、階層の高いと思われる層においては「息子」より「配偶者」と答えるものが多く、別居（老夫妻）家族を想定している様子がみられる。

女については、高齢の際、寡婦の状態である可能性が強く、高齢者ほどこのことを現実問題として捉え、「子」（特に「息子」との同居を考えている。しかし中年層や住宅の安定を得ていない層では、「息子」との同居の困難をみている故か、「娘」と同居したいと答えるものも15%程度いる。

これらのことから、今後も老人問題は地域に還元されることが多いことが充分に見通される。「娘」との同居も多少増加していくことも予想さ

れ、このことが、妻、老母とが連繫した地域における何らかの活動の可能性を暗示していると言える。

5
自分にとって一番大切なもの

問52で、被調査者本人が一番大切と思っているものを1つだけあげてもらった。この設問は、『国民性の調査』においてとりあげられてきた設問であり、生活における価値観の一面が表われるものと見られ、個人の特徴の一つの標識と見ることができよう。質問文と回答結果は表11-5の通りである。

『国民性の調査』（1973年）では、カテゴリーの

表11-5

問52 あなたにとって、一番大切と思われるものは何ですか？
1つだけあげて下さい。（何でもかまいません）

回答		1. 家族関係	2. 健康	3. 真心	4. 人間関係	5. 抽象的項目	6. 物質的項目	D. K.
女	武蔵野三鷹	(31) 132	(23) 97	(12) 51	(8) 34	(21) 89	(3) 15	(3) 13
	武蔵野三鷹	(40) 173	(17) 73	(11) 48	(9) 41	(16) 69	(5) 20	(2) 8
男	武蔵野三鷹	(25) 45	(13) 24	(9) 16	(11) 20	(31) 55	(7) 13	(4) 7
	武蔵野三鷹	(23) 43	(14) 26	(12) 22	(7) 13	(25) 46	(7) 13	(13) 24

(注)：1, 4, 5, 6 のカテゴリーはそれぞれ次のような項目を含む。

1. 家族関係：〔家族、子、家庭、配偶者、親、親族、先祖、子の成長、家庭の和〕
4. 人間関係：〔友人、友情、人との和、信頼、協力、その他の人間関係〕
5. 抽象的項目：〔生命、愛、自由、幸福、結婚、趣味、信念、宗教、精神修養、克己、生き方、自己開発、自分〕
6. 物質的項目：〔金、地位、身分、仕事、環境、住宅、宝石など〕

分け方が多少異なるものの次の様な結果が得られている。すなわち、家族関係30%、健康・生命20%、金・財産8%、抽象的(愛情、精神、信用、国家、社会など)30%、その他12%である。これと今回の調査結果を比べてみると大きな差がないことがわかる。『国民性の調査』結果(1973年)でと同様、「抽象的項目」は男に多く、「家族関係」

は女に多いことがみられる。

属性との関連を以下にみていこう。

(1) 年齢

「家族関係」は、女においては26歳~35歳層、男においては30歳代層に多い。「健康」「真心」が「家族関係」より多少高年齢層に多いことは了解可能である。反面、「人間関係」が若年層に多い(武蔵野/男に

おいては異なる)ことは興味深い。ひとつの解釈としては、職域において始めての経験として他者との関係に気をつけようとしているものが多い故とも考えられる。

(2) 学歴

「家族関係」「健康」「真心」に関しては、全体を通して傾向的なものはみられない。「人間関係」に関しては、女では高い方、男では低い方に多いことがやや見られる。

「抽象的項目」は、男女とも学歴の高い方に多く、このことは『国民性の調査』結果(1973年)と同じである。

(3) 職業

「家族関係」は、無職・学生層には少なく、女では主婦に多い。「人間関係」は、女では専業層、無職・学生層に多く、「抽象的項目」に関しては、無職・学生層または技術・管理・自由業に多い。

(4) 支持政党

全般に、「家族関係」および「健康」については、保守系における方が革新系におけるより多く、「抽象的項目」についてはその逆であり、革新系における比率は自民系のそれより著しく多い。

(5) 家族構成

「家族関係」については、全般に子のある家族(特に学童以下の子あり)において多く、男では特に定位家族、単身世帯には少ない。「人間関係」については、女では単身世帯、次いで定位家族に多いが、男においては傾向的なものはみられない。「抽象的項目」は女では単身世帯、既婚者(子なし)の層に多く、男では明らかな差異はみられない。

(6) その他

ほかの属性とには傾向的なものは認められない。

以上をまとめると、回答結果は『国民性の調査』結果(1973年)と大体同様の傾向があることが確かめられた。この回答は、個人の特徴の一表現としてみる事ができよう。

6 自 分 の 性 格

地域における集団への帰属意識や地域における諸活動への対応は、各個人のパーテナリティとも

密接に関連すると考えられる。そこで問48で、20種の性格特性をリストで提示し、その中から自分に当てはまると思うものをいくつでもあげてもらうこととした。質問文と回答結果を表11-6に、また各人が選んだ個数の分布および平均を表11-7に示す。

表11-7から、女の方が僅かながら多く選ぶ傾向があることがうかがえる。

属性との関連をみていくと以下のようである。女においては、両市とも、若年層(20歳~25歳)、中年層(36歳~50歳)、高学歴層が多く選んでおり、男においては、武蔵野では高年層が、三鷹では高学歴層が多く選んでいることがわかる。しかしそのほかの属性とは関連がみられない。

個々の性格について、属性との関連が顕著であるものをあげてみるとつぎのようである。

・「2.きちょうめん」は、両市/男女を通し、高齢層に多く選ばれている。

・「3.気が短かい」は、女においては若年層に多く、男においては属性との関連はみられない。

・「6.おっちょこちょい」は、女に多く、両市/男女を通し若年層に多く選ばれている。

・「7.内気・ひっこみ思案」は、女に多く、女の中では主婦層に多く専業層に少ない。なお、女の中で兄弟数が多く順位も下の方にこの性格をあげたものが多いことは興味深い。

・「9.人をまとめる」を選んだものは少なく、特に女においては少ない。両市/男女を通して、中高年層(性別、市別により細かい年齢層は異なる)、高学歴層に多く、兄弟数の多い層に多い。なお、男においては自民党支持層に多い。

・「11.ひとりであるのが好き」は、女に多く特に単身世帯層に顕著に多い。

・「12.責任感がある」は、両市/男女を通し、高齢層に多い。男においては技術・管理・自由業層に多く、一戸建/上の層に顕著に多い。男女を通し、持家層に多いことから、階層として中より上の層に多いと言えよう。さらに、兄弟数の多い層に多いことがみられる。

・「14.物ごとをはっきり言う」は、女においては低学歴層に著しく少なく、専業層に多い。

・「16.頼まれるとことわれない」は、男女とも最も多く選ばれた性格特性である。女においては、主婦に

表11-6

問48 次の中から、あなたに当てはまると思うものをあげて下さい。
いくつでもあげて下さい。(リストを提示)

回答		1. 明るい	2. きちょうめん	3. 気が短い	4. さっぱりしている	5. 勇気がある	6. おっちょこちょい	7. 内気・ひっこみ思案	8. がんこ	9. 人をまとめる	10. 最後までやり通す
女	武蔵野	(42) 180	(28) 119	(26) 110	(42) 181	(10) 45	(42) 181	(22) 93	(20) 86	(7) 31	(37) 158
	三鷹	(48) 206	(31) 135	(23) 97	(45) 196	(7) 32	(42) 180	(23) 98	(23) 99	(10) 41	(38) 162
男	武蔵野	(31) 56	(31) 56	(28) 50	(28) 51	(12) 21	(21) 37	(17) 31	(27) 48	(14) 26	(42) 76
	三鷹	(38) 71	(33) 61	(27) 50	(39) 73	(6) 12	(14) 27	(13) 25	(27) 50	(17) 31	(36) 68

回答		11. ひとりであるのが好き	12. 責任感がある	13. くよくよする	14. 物ごとをはっきり言う	15. てきばきしている	16. 頼まれるとことわれない	17. 人とうまくやれない	18. おせっかい	19. 規則や習慣に従える	20. 新しい人になじめない
女	武蔵野	(26) 110	(29) 126	(15) 65	(28) 122	(11) 48	(58) 251	(39) 169	(10) 45	(29) 123	(10) 43
	三鷹	(26) 112	(34) 148	(15) 65	(27) 115	(16) 71	(56) 243	(40) 173	(6) 27	(30) 128	(10) 41
男	武蔵野	(19) 35	(41) 73	(9) 17	(27) 48	(9) 17	(51) 92	(42) 75	(5) 9	(26) 47	(11) 19
	三鷹	(15) 28	(49) 91	(8) 14	(24) 44	(14) 26	(46) 86	(32) 59	(6) 12	(24) 45	(9) 17

表11-7

選ばれた「性格特性」の個数

回答		1 個	2 個	3 個	4 個	5 個	6 個	7 個	8 個	9 個～	D. K.	平均 個数
女	武蔵野	(5) 22	(9) 38	(17) 72	(17) 72	(13) 55	(10) 43	(9) 37	(5) 23	(15) 66	(1) 3	5.3
	三鷹	(3) 12	(6) 24	(20) 88	(18) 78	(13) 56	(8) 35	(10) 42	(7) 31	(15) 63	(1) 3	5.5
男	武蔵野	(10) 18	(9) 16	(17) 31	(16) 28	(13) 24	(9) 16	(7) 12	(6) 11	(12) 21	(2) 3	4.9
	三鷹	(2) 4	(14) 26	(23) 43	(19) 36	(15) 28	(6) 11	(7) 13	(1) 1	(11) 21	(2) 4	4.8

著しく多く、男女を通して住居が給与住宅（社宅等）の層に多いように見られる。さらに、女においては兄弟数が多いほど多く選ばれており、男においては革新系支持層で多く選ばれている。

・「19. 規則や習慣に従える」は、男女とも高学歴層に多く選ばれている。

以上から、性格が性や年齢によって特徴づけられるもの、生育時の家族構成（兄弟数）や教育に影響されるもの、さらに、性格から生活の仕方や政治的志向が関連づけられるもの等を見ることができた。

ちなみに、これらの性格特性の選択パターンに対して数量化Ⅲ類を適用してみた。性格特性の種類の類型化、個人の類型化ができれば、その類型と他の項目との関連を探ることができると考えた

からである。各性格特性に与えられた数値を第2根にみ合う値までとり、これを2次元に描き出した結果が図11-2に示される。

性格特性の選び方は男女によって異なるとして

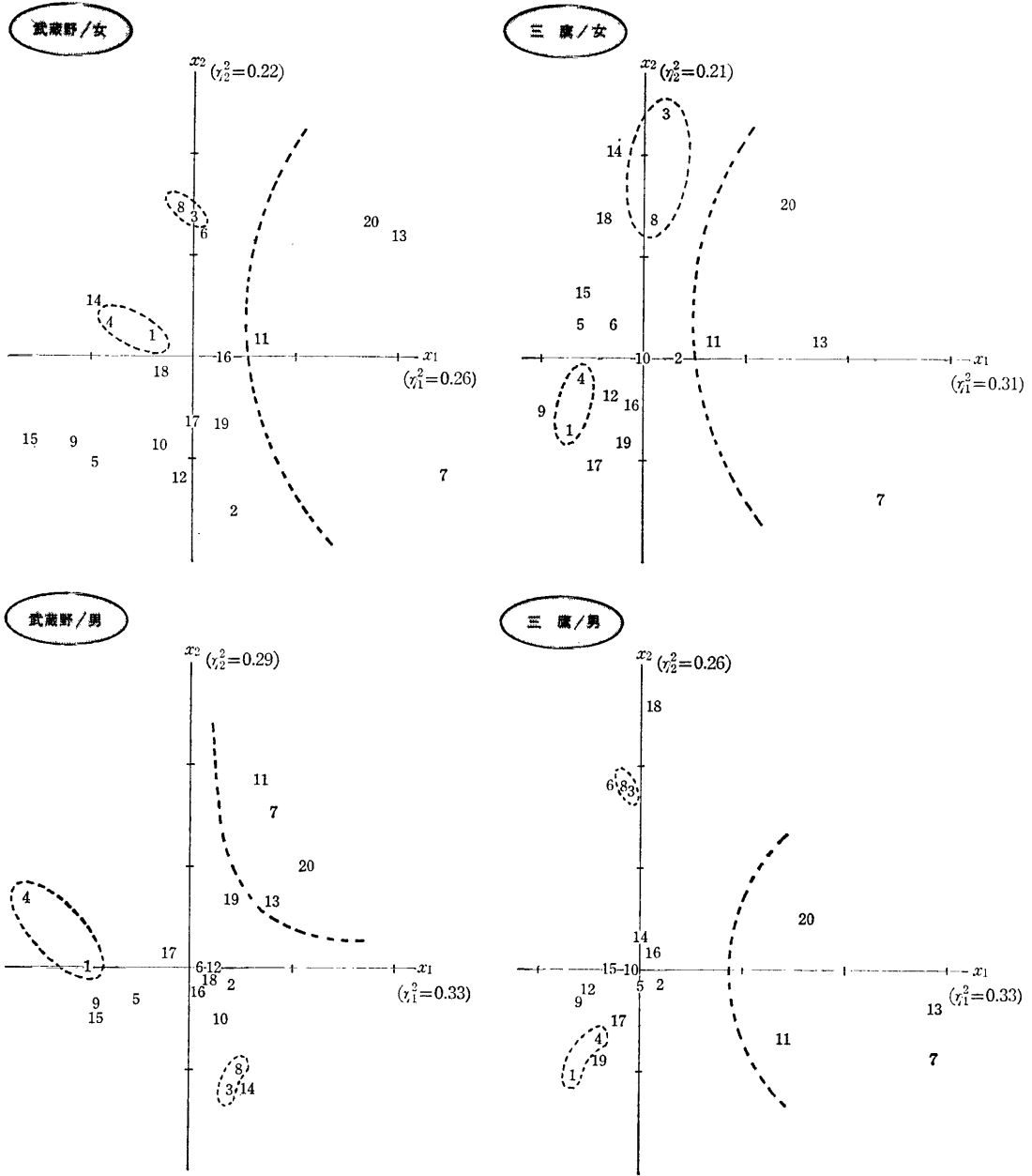


図 11-2

「自分にあてはまると思う性格の特徴」の選択パターン (数量化Ⅲ類による分析の結果)

も、両市の差異は余りないものと考えられる。そこで、両市で類似の位置づけがされるもののみをとりあげる(これは一応安定したものと考えられるからである)。

まず、[7.内気, 11.ひとりが好き, 13.くよくよ, 20.新しい人になじめない]という4つの性格特性は、男女を通し共通の位置づけがみられ、内向的な性格特性が1群をなすことが明らかに示される。これは、第3章7節で述べた性格類型のS型にあたるものと考えられる。

次いで、[3.気が短い, 8.がんこ], [1.明るい, 4.さっぱりしている]も各々aからdの4図を通

じて近い位置にあることがみられる。[3.気が短い, 8.がんこ]は、どちらかといえば、性格類型のE型にあたり、[1.明るい, 4.さっぱりしている]はZ型に近い。

その他に関しては、両市を通した顕著な類型はみられない。

このような類型または各々の性格特性が、コミュニティ形成に関する項目にどのように関わっているかについては、後章において詳しく検討される。

12

「コミュニティ形成」基盤の把握と 診断

1. コミュニティ形成に向う過程の「診断項目」と「説明項目」…152
2. 「診断項目」に対する「説明項目」の関連……………154

これまで第5章から第11章をとおして、質問の内容領域ごとに、各質問に対する回答の結果を性別・市別に整理して示し、そして回答結果と回答者の属性との関連を検討してきた。

本章からは、いままでの分析をさらに統合化して深く検討していく。

まず、コミュニティの形成をより有機化させ促進させていくのに重要な関係を有していると考えられる「地域住民の意識や行動」に注目する。実際には、今回の調査での質問項目のなかからそれらを選定していく。選定された質問項目は、コミュニティ形成に向けての地域住民のかかわりのありようを把握し診断することに関連している項目という意味あいからコミュニティ形成へ向う過程の『**診断項目**』と呼ばれる。

つぎに、これら地域住民の意識や行動のありように影響を及ぼし、あるいは規定している諸要因を想定する。これらの要因は、一般には住民の個人的属性や性格特性である。やはり、今回の調査項目のなかから、これらの要因に相応する項目や事項を選定してくる。これらの項目・事項は、コミュニティ形成に向けての地域住民の意識や行動のありようを説明する項目という意味でコミュニティ形成へ向う過程の『**説明項目**』と呼ばれる。

さて、本章で試みる分析は、以上のコミュニティ形成へ向う過程の「**診断項目**」と「**説明項目**」とのあいだに存在する相互関連の構造を抽出し、コミュニティ形成を有機化させ促進していくための構図を探ることである。

1

コミュニティ形成に向う過程の 「**診断項目**」と「**説明項目**」

(1) 地域との関わり (第5章で扱った領域)

第5章5節で述べたとおり、地域に対する帰属意識・一体感、地域への関心・問題意識は、いずれもコミュニティ形成と直接的に関係が深い。

しかしこの領域でとりあげた7項目の質問のうち、1.市の理想像(問49)、3.「コミュニティ」という言葉からの連想(問50)は、いずれも“概念的なもの”であり、住民のコミュニティに対す

る“直接的意識や行動”ではなく、むしろ個人そのものを特徴づける項目と考えられる。そこで、これら2つは「**説明項目**」としてとり扱う。

4.生活必需品の購入地域(問38)は、消費生活における地域との交流の様相をとおして地域に対する帰属意識をみるものであった。しかし、地域の消費都市的特性が極めて強く影響しており、コミュニティ形成に関しては直接的な関連がうすいと考えられる。そのため、この項目は「**診断項目**」「**説明項目**」のいずれとしても用いないことにする。

5.市に対しての愛着の有無とその理由(問2)で、愛着の有無については、大多数の回答者が「愛着あり」と答えているので、本章での分析に用いることはできない。しかし「理由」については、少なくとも能動的な理由(2,4,5,6,7)であるか否かで愛着度の強さをみることができると考え、これを「**説明項目**」として用いることにする。

7.家の周辺で困っている問題(問5)については、この設問が問4との関連質問であり、これを問われた人が半数にみえないこと、また回答の各カテゴリーが、地域の問題を知る上では役に立つが、コミュニティづくりの意識や行動とは直接的に関連がうすいことなどから、「**診断項目**」としては用いない。ただし、「困っていることがら」としてあげた問題の数は、地域に対する関心の表現とみることができ、これを「**説明項目**」として用いる。

したがって、地域との関わりに関する質問領域では、2.市を「住みよい所」にするためになすべきこと(問7)、6.家の周辺で困っている問題や不満の有無(問4)の2問を「**診断項目**」として用いることになる。

(2) 地域活動への参加 (第6章で扱った領域)

この領域における質問項目は、第5章の静的な意味での地域との関わり質問項目と異なり、住民が地域の種々の場面に際し、どのような行動をとるかという項目であり、コミュニティ形成と密接な関係をもつ住民の行動様相であり、いずれも「**診断項目**」としてとりあげる。ただし、6.老人

ホーム建設反対運動への参加(問18)は、第6章で触れた通りの理由で除外する。

(3) 市行政との関わり(第7章で扱った領域)

コミュニティ形成は、住民主体でありながらも、市の行政と深い関わりをもって推進されるものである。したがって、どの様な関わりをもっていかかという事はコミュニティづくりの推進にかかわる1つの大事な要素である。

1. 市が力を入れておこなっている施策などの認識(問8)は、市政に対する知識を問うているものであり、コミュニティ形成に直接的に関係する行動ではない。したがってこの項目は「説明項目」としてとり扱う。この場合、リストに提示した種々の施策のうち最も多く知られているもの、すなわち、武蔵野では福祉対策、三鷹では下水道対策を知っているか否かによって市政に対する知識の尺度とした。

2. 希望する市施設(問13)の質問において、コミュニティ・センターが多く挙げられているならば、これを「診断項目」として用いようと考えていた。しかし、コミュニティ・センターを挙げたものは僅かであり、他の施設は個人的生活の希求によるものであるとみられたので、この項目は「診断項目」としてはとりあげないこととした。しかし「説明項目」としてはとりあげる。

3. 市施設の利用経験(問14)では、コミュニティ・センターを利用したか否かを「診断項目」に入れることとした。さらに利用した施設の種類の数(数に制限なく挙げさせている)を「説明項目」として扱うこととした。

4. コミュニティ・センター施設の認識(問15)は、センター設置地区と未設置地区によって回答は大いに異なるので、「診断項目」「説明項目」のいずれからも除外した。

5. コミュニティ・センターの役割への評価(問16)は、センターの設置がなされている地区か否かによって回答に影響はあるが、そのことを含めてコミュニティ形成に深い関係があると考えられるため「診断項目」としてとり扱う。

6. 市政参画への意向(問11・問12)は、前回調査にも用いた質問項目であり、「診断項目」のな

かでも重要なものの1つである。

(4) 近隣との交わり(第8章で扱った領域)

近隣と親交関係を結ぶということもコミュニティ形成に不可決の要素である。そこでこれらに関する質問項目も「診断項目」にとり入れる。ただし、4. 留守などの際の届け物(問35)について、および、5. 隣家への対処—騒音や悪臭の場合(問36)は、近隣との親交関係の尺度と成らない項目であることが明らかとなったので、本章での分析ではとりあげない。

6. 近隣からの援助経験(問37)は、過去の体験であり、これが近隣親交への態度にどう影響するかをみるものであり、「説明項目」として用いる。

(5) 「福祉」に関する意向(第9章で扱った領域)

コミュニティ形成はコミュニティ・ケアの問題と関連しているので、福祉に関しての積極性はコミュニティ形成への積極性の指標と考えられる。そこでこの領域の5項目はすべて「診断項目」として扱う。

(6) 既成団体への所属と参加(第10章で扱った領域)

既成の団体に対する関わり方のタイプは、コミュニティという新たな地域集団に対しての態度と関連づけてみることができよう。そこで第10章6節に説明した団体参加指標を「説明項目」としてとりあげることにする。

第10章6節に述べた通り、団体における大事な役(問24)、および、生き甲斐(問26)は該当者が少なく、満足感(楽しい)(問25)はコミュニティ形成との関連がうすい。このため、これら3問に関する回答は、本章の分析ではとりあげない。

(7) 個人の生活構造(第11章で扱った領域)

個人の生活構造は、個人の属性と同様に、「説明項目」として用いる。ただし、3. 都議会議員選挙への投票(問41)は虚偽の回答が多いこと、また、4. 高齢で要介助のさい生活を共にしたい人(問32)はコミュニティ形成との関連が少ないことからとりあげないことにする。

表12-1

コミュニティに対する「地域住民の意識と行動」を把握・診断するための項目
(コミュニティ形成に向う過程の「診断項目」/21項目)

項目記号	質問番号	項目の内容	参照すべき章・節	参照すべき付表
A	7	「住みよいところ」にするために為すべきこと	5・2	4
B	4	家の周辺で困っていること	5・6	6
C	3	地域の催し・行事への参加	6・1	8
D	9	清掃などの呼びかけへの協力	6・2	9
E	6	近隣地域で困っている問題への対処	6・3	10
F	10	町づくり活動への参加	6・4	11
G	17	住民運動(マンション建設反対運動)への参加	6・5	12
H	19	住民運動一般についての意見	6・7	13
J	14	市施設(コミュニティ・センター)の利用経験	7・3	15
K	16	コミュニティ・センターの役割への評価	7・5	17
L	11×12	市政への参画	7・6	18
M	21	近所の人びととの話し合い	8・1	19
N	33	「日頃の交際相手」としての近隣者	8・2	20
O	34	近隣との親交度	8・3	21
P	27'	近隣関係のわずらわしさ	8・6	24
Q	40	災害時における近隣関係	8・7	25
R	27	ボランティア活動への参加の意向	9・1	26
S	28	ボランティア活動に対する認識	9・2	27
U	29	要介助者の存在	9・3	28
V	30	要介助者への援助の意向	9・4	29
W	31	独居老人の世話	9・5	30

(8)個人の属性

年齢, 学歴, 職業, 勤務地, 住居状況, 住居所有, 居住年, 支持政党, 家族構成, 兄弟数, 兄弟順位, コミュニティ地区などの「属性」はすべて「説明項目」として扱う。

以上をまとめ, 本章での分析のために選定された「診断項目」および「説明項目」を一覧表にして示すと, 表12-1および表12-2のごとくである。

2

「診断項目」に対する「説明項目」の関連

さて, コミュニティ形成に向けての地域住民の意識や行動の状況を把握・診断する「診断項目」として表12-1に示した21項目を選定した場合, これら「診断項目」に対して回答者の属性を含むところの「説明項目」がどのような関連を有してい

表12-2
 コミュニティに対する「地域住民の意識と行動」を説明するための項目
 (コミュニティ形成に向う過程の「説明項目」/25項目)

項目種類	項目番号	質問番号	項目の内容	参照すべき章・節	参照すべき付図
属性項目	1	—	年齢	—	1
	2	51	学歴	—	2
	3	44, 45	職業	—	3
	4	46	勤務地	—	4
	5	—	住居状況	—	5
	6	—	住居所有	—	6
	7	1	居住年	—	7
	8	43	支持政党	—	8
	9	47	家族構成	—	9
	10	42	兄弟数	—	10
	11	42	兄弟順位	—	11
	12	—	コミュニティ地区	—	12
質問項目	13	49	市の理想像	5・1	13
	14	50	「コミュニティ」という言葉からの連想	5・3	14
	15	2-1	地域への愛着の理由	5・5	15
	16	5	家の周辺で困っている問題(数)	5・6	15
	17	8	市行政に対する関心	7・1	15
	18	13	希望する市施設	7・2	18
	19	14	市施設の利用経験(利用した種類の数)	7・3	16
	20	37	近隣からの援助経験	8・5	18
	21	22×23	既成団体への所属と活動の積極性	10・1,2	17
	22	39	淋しいときの行動	11・1	18
	23	20	家のなかでの話題	11・2	18
	24	52	大切なもの	11・5	—
	25	48	性格特性	11・6	19

るか、すなわち、「説明項目」それぞれのいずれの категорияが「診断項目」に対して深い関係をもっているか、を検討していこう。

このために次のような数値を算出する。すなわち、「診断項目」(たとえば、A)への積極的かか

わりを示す比率を $p(A)$ とし、「説明項目」(たとえば、年齢)の1つのcategory(たとえば、若年層)に属する層がA項目に対して積極性を示す比率を $p_{年, 若(A)}$ としたときの、 $p_{年, 若(A)}$ と $p(A)$ との差を正規化した値、すなわち

$$Z_{\text{年, 若}}(A) = \frac{P_{\text{年, 若}}(A) - P(A)}{\sqrt{\frac{P(A)(1-P(A))}{n_{\text{年, 若}}}}}$$

(ここで $n_{\text{年, 若}}$ は年齢が若年層の人数)

を算出するのである(このZ値は、比率の差の検定に用いる値である)。

それぞれの「説明項目」の 카테고리ごとに、21個の「診断項目」に対する値を算出し、その分布状況を付図1～付図19に示した。図では、Z値に対応して「診断項目」が記号(A～W)で位置づけられている。図の読みとりかたは以下のものである。すなわち、Z値が±1の範囲にあるとすれば、その「説明項目」カテゴリーはあまり効いていないことを意味し、+の方向に大きな数値で位置する記号(A～W)の多いほど、当該「説明項目」のそのカテゴリーに属する人びとはコミュニティとのかかわりに積極的であり、逆に-の方向に位置する記号(A～W)が多い程、そのカテゴリーに属する人びとは消極的であることを意味する。ただし図においては、±2.8を越える値の場合は、すべて+あるいは-2.8の位置に示してある。

以下に、「説明項目」ごとに「診断項目」との関連を詳しくみていこう。

(1) 属性説明項目—年齢

女については、両市とも36歳～50歳層が最も積極的であり、積極性を示す項目もJ, F, D, R, B, L, H, Mと両市共通に効いている項目が多い。そしてこの年齢層をピークに若年層、高年層へと次第に消極性に向かい、特に20歳～25歳層においては殆どの項目に関してZ値は大きな負の値(すなわち、積極性を示す比率が著しく少ない)をとる項目が多く、この年齢層がコミュニティとのかかわりに消極的であることが明らかである。

男については、41歳以上の層に積極性が多いが、女の場合ほどには顕著でない。両市共通に積極性を示す項目は、41歳～55歳層ではE, B, A, Dと地域活動関係の項目であり、56歳以上の層では、N, D, K, Oと近隣親交などに関する項目である。30歳代層、20歳代層と若い層ほど次第に負の値を示す項目が多くなることが顕著である。

(2) 属性説明項目—学歴

年齢の様には両市共通の顕著な差異はみられない。

女については、中程度のものすべての項目が平均近くにあるが、低・高学歴については項目による差異が大きい。低学歴では、G, Nなど、近隣との共助の項目で積極性を示し、高学歴では逆にN, V, Qなどの面において消極性が強く、B(地域の問題意識)で積極性が示される。

男においては、低学歴層に積極性比率の高い項目が多い。特にN, M, K, O, C, すなわち近隣親交、行事参加の項目で両市共通に積極性の強いことが示される。高学歴層は、武蔵野では消極的、三鷹では積極的傾向があり、両市の様相が異なっている。

(3) 属性説明項目—職業

女については、主婦層において積極性を示す項目が多く、中でもN, D, M, O, R, E, Hは両市共通であり、地域親交を中心に地域での協力活動などに積極的であることがわかる。パート勤務層、無職・学生層と次第に積極性を示す項目は少なくなる。専業層はZ値が負(積極性が少ない)である項目がかなり多く、これらの項目をみると、両市共通に地域親交関係であり、専業層の消極性が理解できる。

男については、職業による差異が少なく、武蔵野において労働・自営業層が僅かに積極的項目が多い。

(4) 属性説明項目—勤務地

女については、市内勤務の層、勤務なし(無職、学生、主婦)層に積極性を示す項目が多く、他の勤務地のものには負の値(積極性の比率が少ない)の項目が多い。勤務なし層で大きなZ値を示す項目はN, O, Rと近隣親交の項目であり、市内勤務層で大きなZ値項目はC, D, J, Fと地域への積極的参加項目が多く、この2つの層の差異が明らかである。

男については勤務地別に余り差がないが、武蔵野においては市内勤務層に積極性を示す項目がややみられる。しかし、これは職業別の自営業層に

おけるものとはほぼ同じことを示しているとみられよう。

(5) 属性説明項目—住居状況

性別による相異より、むしろ市別による相異がみられる。すなわち、武蔵野では男女とも一戸建／中・下の層が積極性を示す項目が最も多く、一戸建／上はむしろ積極性の少ない（Z値が負）項目が多い。

両市／男女を通して、集合住宅／下の層は積極性の少ない項目が多いことがわかる。いずれにしてもZ値が±1を超える項目は、性別・市別で異なっていて安定した傾向はみられない。

(6) 属性説明項目—住居所有

住居所有による差異は、三鷹／女を除き、持家層に積極性が多く、借家層において逆の傾向があることは明らかである。

差異の明らかな項目をみると、武蔵野／女においてはJ、F、Bが持家では多く借家では少ないこと、男においてはD、Bが持家に多い項目であり、特にDは借家に著しく少ないことも両市共通である。第6章でふれた通り、家の周りの共同作業などは持家層が対象であることが多いので、これは当然のこととみられよう。これら以外の項目については両市を通しての共通性はない。

(7) 属性説明項目—居住年

女については、昭和36年～50年の層に積極性を示す項目が最も多く、これをピークに、より古い層、より新しい層へと積極性を示す項目は少なくなる。新しい層で負の大きな値をとる項目の中ではJ、G、V、E、U、Dが両市に共通であり、地域に新しい人びとは福祉や地域における運動などに興味を示さないことがみられる。

昭和35年以前の層に昭和36年～50年の層よりやや積極性が少ないことは、女にのみみられることである。古い層には高齢者が多くなるが、女の場合は地域に土着の人びとが住民の比較的新しい運動に対して積極性を示さないことは、コミュニティ形成を考えるうえで考慮すべき問題であろう。両市に共通して大きな負の値をとる項目がAとQ

であることも興味深い。

男については、両市共通に古い層から新しい層へと積極性を示す項目は正から負へと移り、新しい層がコミュニティに関心のうすいことが明らかにみられる。古い層で積極性を示す項目のうち、両市共通のものはN、B、D、Kであり、この層の人びと（高齢者が多い）が近隣とよく交わっていくことを希望している様子がみられる。新しい層で負の値の大きい両市共通の項目はN、K、C、V、P、Oであり、古い層とは逆に、近隣と交わる意志があまりないことが見られる。

(8) 属性説明項目—支持政党

女については、革新支持層に積極性を示す項目が最も多く、特に武蔵野においては顕著である。その他の政党、公明党、自民党の支持層の間ではZ値の分布は殆ど差異がない。しかし武蔵野では自民党支持層は僅かながら負に傾いており、「支持政党なし」と「無答」の層は、両市とも負の方向にZ値の大きい（積極性の少ない）項目が多い。Z値の端にきている項目のうち、両市共通のものに着目し、層の特性をみていくとつぎのようである。自民党支持層では両市共通に、近隣親交とコミュニティの評価（N、O、K）に、公明党では近隣親交と町づくり活動（N、F）に、それぞれ積極的である。これに対し、革新系支持層ではH、L、G、F、Jという項目について積極性比率が多く、住民運動、市政参加、町づくり活動、C.C.利用と、意識の強い運動的な項目に積極性の強いことが顕著であり、支持政党による差異が明らかに浮彫りにされる。

男については支持政党による差異は少ないが、三鷹では「自民党支持」「支持政党なし」「無答」の層がやや積極性を示す項目が多く、武蔵野では多い順に自民系、革新系、その他の政党、支持政党なしの順である。両市ともに自民系支持層の方が革新系支持層より僅かながら積極性を示している。自民党支持層においては両市共通項目はK、Jであり、コミュニティ・センターを支持している様子がみられる。

(9) 属性説明項目—家族構成

両市／男女とも、定位家族層、単身家族層において消極性項目が最も多い。女においては、学童以下の子のある層において積極性項目が最も多く、なかでも特に著しいC, N, Jを始め、Q, M, P, E, F等、いずれも両市に共通した積極性を示す項目であり、この家族層は、近隣と親しく、行事に参加、C. C.を利用、町づくり運動もしようというように、多くの分野で積極的であることが顕著である。定位家族層ではN, O, M, D, Cと、近隣親交項目および行事や作業などの地域参加に極めて消極的であることが明らかである。単身層は、C. C.を利用せず、行事参加も消極的であることがわかる。

男においては、単身層ではE, F, D, Cと地域活動的参加において消極的であり、学童以下の子のある層ではE, Jのみが、中学以上の子のある層ではK, Dのみが両市共通に積極性を示す項目であり、家族層の特徴は女の場合ほどには明らかでない。

(10) 属性説明項目—兄弟数・兄弟順位

両市／男女を通して、2人の層においては積極性を示す項目が少なく、全般にZ値による分布の範囲が狭い（項目による積極度の差異が少ない）ことが目立つ。

3～4人層から5人以上層へと積極性を示す項目が増し、特に5人以上層では顕著である。5人以上層で著しく積極性を示す項目のうち、D（清掃への呼びかけ）は、両市／男女に共通であり、この他、女においては、近隣との交際が深く、ボランティア活動（給食サービス）にも積極性を示すこと（O, R）が両市に共通に現われており、兄弟数が多い方がコミュニティ活動に積極性をもつことが示される。なお、兄弟順位では明らかな差異はみられず、4番目以下の層が、両市／男女を通してやや積極的項目が多いことがみられるのみである。

(11) 属性説明項目—コミュニティ地区

コミュニティ地区別では、各カテゴリーでの回答者数が少なく、安定した傾向として把握することはできない。特に男については、地区別にみる

ことはできない。

女については、今回の回答者の結果からは、表12-3に示したような特徴がみられる。

表12-3 コミュニティ地区別の特徴(女)

地区 市	積極性を示す 項目の多い地区	消極性を示す 項目の多い地区
武蔵野	②. 北祥寺北 6. 中央北 ⑦. 西久保 9. 境 11. 境南	①. 吉祥寺東 3. 吉祥寺西 4. 吉祥寺南
三鷹	②. 牟礼 ⑤. 井口・深大寺	1. 井の頭 4. 野崎

(注)：番号を○で囲んだ地区は、コミュニティ・センターが設置されている。

積極性を示す項目の多い地区は、武蔵野においてはC. C.設置と関連なく、三鷹においては2地区ともC. C.設置地区である。このことは必ずしも設置と関連のないことを示すが、いずれにしても地区別には回答者が少なく、この結果を地区全般の様相とはみなせず、地区の特性と関連づけて強調することはできない。

(12) 質問説明項目—問49. 市の理想像

第5章1節でふれたように、市の理想像として種々のことがらがあげられていた。これらの「市の理想像」とコミュニティ形成に向けての「診断項目」との関連をみる。

21種の理想像のそれぞれについて、それを選択した層ごとにZ値の分布をみていった。このとき、選択したものが著しく少ない(ほぼ10%以下)項目は省略したので、結果的にとりあげた項目(理想像)は1, 2, 3, 5, 6, 7, 8, 11, 13, 15, 17, 19, 20の13項目である。

これら13項目のうち、+1以上のZ値が大きい項目(理想像)を性別、市別に列挙すると表12-4の通りである。

多く現われている理想像は、1.古き武蔵野の素朴さ、6.つき合いの気やすさ、8.弱い者へのいたわり、13.ふれ合いのぬくもり、であり、6, 8, 13の親交・福祉の理想像を選んだ層は「診断項目」

表12-4 Z値の大きい「市の理想像」

女	武蔵野	1, 2, 3,	8, 13,
	三鷹	3, 6, 8,	20,
男	武蔵野	1,	5, 6, 7, 13,
	三鷹	1, 2,	5, 6, 8, 13,

のいずれの項目においても積極性を示していることは興味深い。

これら13理想像のそれぞれの選択者層についてZ値の大きな項目をみると、性、市を通して共通のものは少ない。

「1.古き武蔵野」を選んだ人々のうちでは、武蔵野においては男女を通してJ(C.C.の利用)について積極性の多いことが示されている。「6.つきあいの気やすさ」を選んだ人々のうちでは、三鷹においては男女共通にP(近隣関係)、C(行事参加)について積極性を示す。「8.弱い者へのいたわり」を選んだ人々のうちでは、V,C,N,E,Dが女に共通であり、このうちV,C,Nは三鷹の男にも共通して積極性の多い項目であり、この像を好ましいとした人々は、近隣親交や福祉に積極性を示しており、意見の整合性がみられる。「13.ふれあいのぬくもり」を選んだ人々の中では、武蔵野においては男女を通してP,C,Fについて積極性が多く、このうちFは三鷹の男にも共通である。このことから、この理想像を選んだ人々は、単に近隣親交に留まらず、協力して“町づくり活動”もしようという意欲があり、その意味において“ふれあい”を選んでいることがうかがわれる。

以上、ここでは両市／男女を通して共通性のあるものを取りあげたが、親交・福祉に関した市の理想像が、コミュニティ形成に向けての「診断項目」と関連が深いことは興味深い。

(13) 質問説明項目一問50.「コミュニティ」という言葉からの連想

「コミュニティ」という言葉から連想される11項目のそれぞれの選択者層について、Z値が正の方に大きく傾いている(積極性を示す項目の多い)

連想項目をみると以下の4項目であった(これは、両市／男女を通して共通である)。すなわち、1.運動会や各種のスポーツ活動、4.趣味の教室や同好会、5.知識や見聞を広める講演会や講習会、11.地域の親睦会、である。

「1.スポーツ活動」を選んだ人々については、積極性の多い項目のうちで両市共通のものには顕著なものは少ないが、女においてはK,P,J,男においてはCがあげられる。すなわち、女においては主にC.C.の利用とその役割評価であり、男においては行事参加ということである。女においては、スポーツ活動→コミュニティ・センター→コミュニティというような把握がなされているようであり、男では、スポーツ活動→行事→コミュニティというように概念把握がなされていることがみられよう。

「4.趣味や同好会」を選んだ人々のうちでは、女においてはJ,K,すなわちC.C.の利用とその評価が、男においてはJ,E,すなわちC.C.利用と地域の問題への対処とが、それぞれ共通して積極性の多い項目である。これも、前述のスポーツ活動と同様、趣味→コミュニティ・センター→コミュニティという把握がなされているということが言えよう。

「5.講演会」を選んだ人々については、「1.スポーツ活動」や「4.趣味」とは様相を異にする。積極性の多い共通項目は、女においてはD,C,Hであり、地域での行事や活動・運動との強い関連がみられる。男においてはO,Jが両市共通に積極性を示す項目であり、これは近隣親交とC.C.利用であって、女のように活動・運動との関連はみられない。

「11.地域の親睦会」を選んだ人々についてみると、女においては、J,F,C,Kに関して共通して積極性が著しく多い。すなわち、C.C.の利用と評価、行事参加、町づくり活動であり、コミュニティをこのように把握している人々は、行事にも参加し町づくり活動にも意欲をもつことがわかる。男においては、女のように明らかなものはみられず、積極性の多い両市に共通の項目もQとWで、近隣親交、福祉的項目のうちの2つのみである。

以上をまとめると、女の場合、「1. スポーツ活動」「4. 趣味」を選んだ人々は、ほぼ類似タイプであり、これらの人々はC.C.をよく利用している。「5. 講演会」を選んだ人々は、地域での活動や運動に積極性を示す人々である。「11. 地域の親睦会」を選んだ人々は、コミュニティ形成に最も緊密な関係をもつ人々であり、今後多くの市民がコミュニティに対してこのような把握をするように指導することがコミュニティ形成に向けての第一歩のように考えられる。なお、このことは、女の場合であって、男の場合には、全般に地域コミュニティとかなり遠い距離にあることが察せられる。

(14) 質問説明項目一問2-1. 「市への愛着」 の理由

居住している市に愛着を感じる人は大多数であるが、このうち、愛着の理由が少なくとも惰性的なものではなく、何らかの点における評価に基づいたもの、すなわち、2. 自然環境、4. イメージ、5. 文化水準、6. 市の施策、7. 公的施設の整備のうちのいずれかをあげたものについてZ値の分布をみていく。

両市／男女を通して、正の値（積極性の比率が高い）が多いことは明らかである。Z値が+1.0以上の項目をみると、女においてはL（市政参加）とO（近所とのつきあい）が両市に共通の項目であり、この2項目は性質の異なるものであることから、この様な理由での愛着層のうちには、コミュニティに対して種々の意向をもつ人が混在していると考えられる。男においては、Z値+1.0以上の両市共通の項目はK（C.C.の役割の評価）とR（ボランティア活動）であり、親交・福祉性やや関連があると考えられる。

(15) 質問説明項目一問5. 家の周辺で困っている 問題（問題数）

この質問は、問4で「困っていることがある」と答えた人にそれは何かを尋ね、答えた問題の種類数を地域への関心の指標としたものである。すなわち、多数あげたものは地域への関心があり、コミュニティにも積極性を示すのではないかと考

えた。そこであげた問題数が2つ以上、1つ、無答または非該当の3つの層に分け、Z値の分布をみることにした。

女においては、2つ以上をあげた層では正への傾きがみられ、特にA, C, E, F, G, J, L, Oについては両市共通にZ値が大きい。地域への参加や市政との関わり（C.C.の利用、市政への参加）において、特に積極性が強いことが顕著がある。なおこの層では、両市共通にK（C.C.の評価）の項目についてZ値が-1以下であり、C.C.利用では積極的でありながらC.C.と親交との関連は薄いと考えていることがみられ、コミュニティ形成を考えるにあたってはこうした人々への慎重な考慮が必要とされよう。

男については、問題を2つ以上あげた層と1つのみをあげた層との間に差異があまりみられない。

(16) 質問説明項目一問8. 市の力を入れている施策

武蔵野については福祉対策を、三鷹においては下水道対策をあげている層について、Z値の分布をみる。

女においては、J, G, Rが両市共通に積極性を示す比率が多く、施策に関心をもっている人々はC.C.を利用し、地域の運動や活動に多少積極性をもっていることがわかる。

男においては、両市に共通してZ値が+1以上の項目はP, J, Kであり、この層の人々が近隣を受容し、C.C.を利用・評価していることがみられる（なお、市の重要施策が両市において異なっており、これを知っているという共通点とは別に、福祉対策（武蔵野）に印象づけられている人々と下水道対策（三鷹）に印象づけられている人々とは、差異があることも考えられる）。

武蔵野においては、男女を通して近隣親交・協力活動項目に積極性がみられ、三鷹／女においては家周辺の問題やその対処に積極性がみられる。これは前者を福祉対策、後者を下水道対策と対応づけてみると理解しうる様相である。

(17) 質問説明項目一問13. 希望する市施設

近くに欲しい施設として、地域親交に関連ある

施設(市民会館, 福祉会館, 集会所, C. C.)のうち, 少なくとも1つを答えた人々について, 「診断項目」との関連をみることにした。この層の人々は, 女/武蔵野(65人), 女/三鷹(56人), 男/武蔵野(32人), 男/三鷹(34人)であり, 人数はあまり多くないが地域親交に関連のある施設を選んだ人々として1つの層とした。この層においては, Z値はやはり正の値が多く, 両市/男女を通してK, Gが, さらに女においてはC, 男においてはA, Vが共通にZ値+1以上を示している。このことから, この層の人々がC. C.を評価し, 地域を住みよくすることに積極性を示していることがわかる。

これ以外の施設として, スポーツ関係や図書館をとりあげて層を作ってみたが, Z値の分布にはみるべきものがなかった。

児童館, 遊び場, 保健所, 児童遊園など, 児童関係の施設を選んだ人々の層では, Z値が+1以上の項目が多いが, これは家族構成で学童以下の子のある層とはほぼ同じであるので, Z値の意味づけは割愛する。

(18) 質問説明項目一問14. 市施設の利用経験

利用した市施設の種類数による区分ごとにZ値の分布をみる。利用経験の多い層においてはZ値の大きい項目が多い。

それらを見ると, 両市/男女を通してJ (C. C.利用)で最も高い値を示しており, 施設を多種類利用するものは, そのうちの1つとしてC. C.利用の多いことが明らかである。このほか, C(行事参加)も三鷹/男以外はすべて積極性の比率の多いことが目立つ。さらに女においてはF, M, 男においてはM, U, LについてZ値が高いが, 項目の種類が散らばっており, 特定の傾向は把握できない。

(19) 質問説明項目一問37. 近隣からの援助経験

「あり」と答えた人々についてZ値の分布をみると, 正の大きな値が著しく多い。女においてはM, N, O, C, J, B, F, Kが両市共通に積極性の比率の高い項目であり, 近隣親交, 地域との関わり, C. C.の利用と評価において積極性を示して

いることが明らかである。男においては, 女においてほど顕著ではないが, M, O, F, E, C, J, U, Vについて両市共通にZ値はやや大きい, 項目が多種にわたって特定の傾向は把握されない。しかし, 福祉関係の2項目(U, V)があることは意味のある関連とみることができよう。

(20) 質問説明項目一所属団体への積極的参加

第10章でふれた団体参加指標のカテゴリー別にZ値の分布をみた。

まず女についてみていこう。地域関係団体と組織活動関係団体に積極的参加の層では, Z値の高い値を示す項目が多い。地域関係団体に積極的参加の層では, 両市共通にZ値の高い項目はN, C, F, G, E, Mであり, この層の人々は地域活動や近隣親交に積極性が強いことが示される。組織活動関係団体に積極的参加の層では(三鷹においては人数が少なく安定した結果ではないが), 両市共通にZ値の高い項目はJ, F, L, G, Cであり, やはり住民運動的活動や市政参加, C. C.の利用というような意識の高い革新的活動に積極性をもつことが示される。以上の2つの層においては既成団体への参加状況とコミュニティ形成に向けての「診断項目」に対する反応との間に明らかな整合性がみられる。

上記2つのいずれの団体にも積極的に参加せず, P. T. A.には積極的参加をしているという人々の層においては, 上記2層よりやや弱いながらもZ値はかなり正に傾いている。両市共通にZ値の高い項目はJ, D, Fであり, 地域活動への参加およびC. C.利用に関して積極性の強いことがみられ, P. T. A.に積極的な人々はこれらの集団活動にも積極的であることが把握できる。

上記3つの団体以外のいずれかの団体に積極的な人々の層については, Z値が+2以上となる項目はなく, +1~+2の間において両市に共通の項目はみられない。

積極的参加は1つもなく単に既成団体に所属しているという人々の層ではZ値は全般に僅かながら負に傾いており, 「診断項目」に対して積極性を示す反応は顕著でない。

既成団体に1つも所属していない人々の層で

は、Z値は大きく負に傾いている。しかし、この層の人々は、20歳代層、低学歴層に多いことから、コミュニティ形成に向けての「診断項目」に対する消極性は、“属性”によるものか、あるいは既成団体所属なしという“タイプ”によるものかは、この段階では明らかでない。

つぎに男についてみよう。地域関係団体に積極的参加の人々は、人数は少ないものの、コミュニティ形成と深い関係があるので1つの層としてみることにした。この層においては、Z値は明らかに正に傾き、この傾向は武蔵野において特に顕著にみられる。両市共通にはD、M、N、Jの項目でZ値が高く、やはり地域活動、地域親交に積極性を示すことがみられる。

地域関係以外の団体に積極的参加の人々は、第10章で触れたように、その団体により、趣味関係、職域関係、その他の3層に分けると、人数も少なく安定性もないので、一括して1つの層としてみることにした。この層の人々は、三鷹においては殆どの項目についてZ値が高く（地域関係団体に積極的参加の層より、さらに正に傾いている）、特に地域に対する意識および活動の項目において強い積極性を示している。しかし武蔵野においては、この層に何の特徴もみられない。

積極的参加はなく、団体に単に所属をしているのみという人々の層では、Z値は僅かながら負に傾き、団体に所属なしの層では、Z値の負への値きはやや強くなっている。

以上をまとめると、女については、「団体参加状況」とコミュニティ形成に向けての「診断項目」への反応とが関連の深いことがわかり、男に関しては、この関連が両市共通に顕著なものは少ない、ということである。

(21) 質問説明項目一問39. 淋しいときの行動

淋しいとき、近所の関係（カテゴリ-6,7,8）のなかで淋しさをまぎらわそうとする「近隣志向者層」（女のみ）についてZ値の分布をみる。

両市とも+1以上の値をとる項目が多い。このうち、両市共通の項目をみると、N、C、P、O、M、Qであり、近隣関係のすべての項目および行事参加において積極性の強いことが示され、回答に整

合性のあることがわかる。逆に言えば、この設問が、近所関係のカテゴリーをこのようにまとめた場合、コミュニティ形成に向けての「診断項目」とくに近隣関係項目と強い関連をもつことがみられる。しかし、近隣関係における積極層と属性が類似していることから、この設問との関連はむしろ属性との関連に還元されるものと考えられよう。

(22) 質問説明項目一問20. 家のなかでの話題

社会・地域関係の話題をもつ人々（カテゴリ-10,11,12,13のうち、少なくとも1つあげた人々）の層についてZ値の分布をみる。

女においては正の値をとる項目は多く（三鷹においては顕著ではない）、この層の人々が「診断項目」に関してやや積極性を示していることがわかる。しかし、Z値が+1以上の値をとる両市共通の項目はJとUのみであるが、C.C.利用と関連のあることはみられよう。

男については、逆に三鷹において+1以上の値をとる項目が多い。両市に共通して+1以上の値をとる項目はO、Sのみであり、傾向的なものはみられない。

(23) 質問説明項目一問23. 大切なもの

個人の価値観の一表現であると考えられる大切なものについて6つのカテゴリ（1.家族関係、2.健康、3.真心、4.人間関係、5.抽象的項目、6.物質的項目）に分け、それぞれの層におけるZ値の分布をみた。

物質的項目を選んだ層のみ両市／男女共通にやや負に傾いている様相がみられたが、他の層においては正負いずれにも顕著な傾きを示さない。物質的項目を選んだ層は負に傾いてはいるものの、この層の人数は、両市／男女とも少なく（10人～20人）、しかもZ値-2.1以下の値をとる項目はなかった（ちなみに、この「説明項目」についてのZ値の分布状況の図示は省略した）。

(24) 質問説明項目一問48. 性格

20種の性格特性を示し、いくつでも選択させているので、各性格特性を選択した層についてZ値の分布をみた。

選択の様相は、男女によって異なると考えられるが、市による差異は考えられない。そこで男女のそれぞれに分けて、Z値の分布が両市共通の傾向を示し、かつ正または負に傾いているか、あるいはほかの著しい特徴がみられた性格特性についてのみ詳しくみていく。

① 女について

「5. 勇気がある」を選んだ層は、Z値が高い正の値を示す項目が多い。このうち、両市共通の項目はL, F, O, G, H, U, Rであり、地域活動や市政参加など、意識が高く革新的な項目において強い積極性を示しており、さらにR, Uなど福祉的項目においても積極性がみられる。

「6. おっちょこちょい」を選んだ層は、両市とも正の値への傾きがみられるものの、+1以上の値において両市の共通項目はみられず安定した関連は把握できない。

「9. 人をまとめることがうまい」を選んだ層は、両市とも+1以上の項目がかなり多い。このうち、両市に共通の項目はF, C, U, Vであり、福祉的項目と町づくりや行事などの地域活動参加に積極性の強いことがみられる。

「10. よいと思ったことを最後までやり通す」を選んだ層は正の値への傾きがみられ、+1以上で両市に共通の項目はF, B, Eである。これらは地域の問題や地域活動に関した項目で、この様な方向との関連のあることがみられよう。

「12. 責任感がある」を選んだ層は、著しく大きいZ値はみられないものの、正への傾きがあり、+1以上で両市に共通の項目はJ, G, F, O, Uであり、C. C. 利用と地域活動および近隣との親近性においてやや積極的であることがみられる。

「16. 頼まれるとことわれない」を選んだ層では、正の値を示す項目は多いが、値の大きなものはあまりない。+1以上で両市に共通の項目はG, K, Vであり、ボランティア活動や住民運動に積極性を示すことは、この性格特性の関連として十分考えられることであろう。

「17. 人とうまくやっっていける」を選んだ層においては正への傾きがあり、値はあまり大きくないものの+1以上で両市に共通の項目はJ, U,

O, M, Fと比較的多く、C. C. 利用、近隣関係において積極性を示していることがみられる。

「19. 規則や習慣にすなおに従える」を選んだ層については、正への傾きはみられるものの、三鷹においては+1を僅かに越えるに過ぎない項目が多い。しかし、+1以上で両市に共通の項目はD, F, J, K, M, Uとかなり多く、C. C. の利用と評価、地域活動などに積極性がみられ、近隣との親交にも多少は関連があると考えられる。

この他、「7. 内気」「11. ひとりでいるのが好き」「13. くよくよする」など内向的性格特性を選んだ層では、項目によるZ値の散らばりが非常に大きいことが目立ち、とくに「11. ひとりでいるのが好き」を選んだ層ではZ値が負に傾いている。つまり、コミュニティ形成に関連したほとんどの「診断項目」について消極的であることが顕著である。

Z値の分布状況の図示は、コミュニティ形成に関連の深いと考えられる9, 10, 12, 16, 17の性格特性を選んだ層についてのみ掲げた。

② 男について

「2. きちょうめん」を選んだ層は、正のZ値が多いが、+1以上で両市に共通の項目はJ (C. C. 利用)のみであり、みるべきものはあまりない。

「9. 人をまとめることがうまい」を選んだ層では、正方向への傾きがかなり顕著であり、+1以上で両市に共通の項目はD, F, Gと地域活動関係の項目において明らかに積極性が示される。「人をまとめることがうまい」ことは、コミュニティ形成と関連の深い性格特性であることがわかる。

「10. 最後までやり通す」を選んだ層では、正方向への傾きは明らかであるが、+1以上で両市に共通の項目はD, J, Uであり、C. C. の利用と近隣への親交がやや見られるという程度である。

「12. 責任感がある」を選んだ層では、Z値は正であってもいづれも比較的小さく、両市に共通した項目もみられない。

「14. はっきり言いすぎる」「16. 頼まれるとことわれない」をそれぞれ選んだ層では、Z値は正の値が多いが、+1以上の値をとる両市に共通の

項目はそれぞれ1つ（前者ではU，後者ではP）であり，安定した関連はみられない。

「17. 人とうまくやっていたいける」を選んだ層については，武蔵野のみで正の値が多く，安定したものはみられない。

その他，5，13，15，18，20は選択した人数が少なく，安定した傾向はみられない。

以上をまとめると，性格特性において，女についてはコミュニティ形成に向けての「診断項目」との関連がかなりみられたが，男については傾向的な関連がみられない。このことは，男の居住地への態度の消極性を示すものと考えられる。なお，この性格特性との関連については，後章で再びまとめてふれられる。

本章では，質問項目を，コミュニティ形成に対して直接的に影響があると考えられる地域住民の

意識や行動を測る項目（すなわち，コミュニティ形成へ向う過程の「診断項目」と，地域住民の意識や行動の基盤となっていると考えられる各人の属性や潜在的特性を測る項目（すなわち，コミュニティ形成へ向う過程の「説明項目」とに分けて，それぞれの「説明項目」のどのカテゴリーが「診断項目」に対してどのように効いているのかをみてきた。その結果を要約的に整理すれば表12-5に示したごとくである。

大まかに見れば，まず女と男では，単純な反応頻度分布も異なるものが多く，さらに種々の「説明項目」別のZ値分布の様相も異なり，性別によって意識構造が異なっていることが容易に察せられる。武蔵野と三鷹の間の差異は，ある面についてはみられるものの，概括的にみれば両市はかなり類似した様相を示しているともみることができよう。

表 12-5

各「説明項目」のなかでZ値が全「診断項目」を通して高い値を示す(コミュニティに積極性を示す)カテゴリー一覽

説明項目	女		男	
	武 蔵 野	三 鷹	武 蔵 野	三 鷹
年 齢	36～50歳	36～50歳	56歳～	56歳～
学 歴	—	—	低	低
職 業	主 婦	主 婦	労働・自営	—
勤 務 地	無し，無答，(市内)	市 内	市 内	市 内
住 居 状 況	一戸建/中・下	一戸建/上	一戸建/中・下	一戸建/上
住 居 所 有	自 家	社宅など	—	自 家
居 住 年 (昭和)	36～50年	36～50年	35年以前	35年以前
支 持 政 党	革新系	革新系	自民党	—
家 族 構 成	学童以下あり	学童以下あり	学童以下あり	学童以下あり
兄 弟 数	5人以上	5人以上	5人以上	5人以上
兄 弟 順 位	4番目以降	4番目以降	4番目以降	—
コ ミ ュ ニ テ ィ 地 区	西久保，境南	井口，深大寺		
市 の 理 想 像	弱い者へのいたわり，ふれあいのぬくもり	つき合いのきやすさ，弱い者へのいたわり	つき合いのきやすさ	—
「コミュニティ」という言葉からの連想	地域の親睦会	地域の親睦会	—	地域の親睦会
地域で困った問題(数)	2以上	2以上	2以上	2以上
市施設の利用経験	4以上	4以上	4以上	4以上
既存団体への所属と参加	組織活動団体に積極的	地域関係団体] 組織活動団体]に積極的	地域関係団体に積極的	地域関係団体に積極的

「コミュニティ形成」基盤の把握と診断 — 多変量解析による試み —

1. 「診断項目」相互の連関 — クロス集計にもとづく分析 — ……167
 - (1) 項目別にみた場合……………168
 - (2) 市別にみた場合……………168
 2. 「診断項目」相互の連関 — MDA-OR による分析 — ……169
 3. 「診断」項目の分類 — 数量化 III 類による分析 — ……172
 - (1) 「診断項目」のグルーピング……………172
 - (2) グルーピングされた「診断項目群」の特徴……………174
 - (3) 前回調査（1976年，武蔵野／女）との比較……………176
 - (4) 男のサンプルからの分析結果……………178
 - (5) 各類型における「個人」の分類（女のサンプルについて）…178
 4. 各類型の潜在的構造 — 数量化II類による分析 — ……181
 - (1) 武蔵野／女について……………189
 - (2) 三鷹／女について……………190
-

前章では、コミュニティ形成基盤の「診断項目」(21項目)と「説明項目」(25項目)を設定し、これら項目のあいだの相互連関を分析した。

「説明項目」の効き方は「診断項目」によって異なるものもみられ、そして、これらの差異は「診断項目」の枠組による違いとは限らなかった。「診断項目」は、枠組の差異のほかにも、意識が進歩的であるか保守的であるか、地域への関わりや接点や深度など、種々の次元の意識と行動の構造を測る項目が混在しており、これらの多様な差異と住民層とは複雑にからみ合っていることがみられた。

本章では、以上の分析結果をふまえて、先ず、

住民の反応が類似である項目(すなわち、Aなる項目に関して積極性を示せばBなる項目についても積極性を示す、というような項目)を集め項目の類型化をおこない、コミュニティ形成に関しての住民の意識構造の次元を明らかにしていくことを試みる。しかる後に、明らかにされた次元のそれぞれにおいて積極性/消極性を示す要因を「説明項目」の中から探っていく。

本章における分析は、主として女の回答者について細かく分析していく。男の場合は、サンプル数が少なく、そのために抽出される次元の安定性が低いので明確な結論を導くことが難しい。した

表 13-1
「診断項目」相互の連関 (武蔵野/女)

項目記号	項目記号 項目No.	A	B	C	D	E	F	G	H	J	K	L	M	N	O	P	Q	R	S	U	V	W
		Q 7	Q 4	Q 3	Q 9	Q 6	Q 10	Q 17	Q 19	Q 14	Q 16	Q 11×12	Q 21	Q 33	Q 34	Q 27'	Q 40	Q 27	Q 28	Q 29	Q 30	Q 31
A	Q 7																					
B	Q 4	1																				
C	Q 3	2	4																			
D	Q 9	1	4	2																		
E	Q 6	1	1	2	1																	
F	Q 10	1	1	1	1	2																
G	Q 17	2	4	3	2	2	3															
H	Q 19	2	1	3	3	3	1	1														
J	Q 14	3	2	1	2	1	1	1	1													
K	Q 16	4	4	2	1	2	3	3	2	1												
L	Q 11×12	1	1	1	1	2	1	2	1	1	3											
M	Q 21	3	2	1	1	2	1	1	1	1	3	1										
N	Q 33	4	4	1	1	3	2	4	3	1	2	3	1									
O	Q 34	3	2	1	1	3	1	2	1	1	2	1	1	1								
P	Q 27'	3	3	1	4	4	1	3	1	2	4	3	1	1	1							
Q	Q 40	4	3	3	2	2	3	4	3	4	2	4	1	2	2	4						
R	Q 27	3	4	1	2	4	1	2	3	2	2	1	1	2	2	2	4					
S	Q 28	4	3	2	4	3	4	2	4	3	4	3	4	4	4	4	2	4				
U	Q 29	4	3	3	2	3	1	2	4	2	2	1	1	1	2	2	4	3	4			
V	Q 30	2	3	2	1	2	1	1	2	2	1	1	3	3	3	1	3	1	3	2		
W	Q 31	3	2	4	3	4	4	3	3	3	3	2	3	4	4	4	2	4	4	4	2	
連関度別頻度																						
1		5	5	8	9	4	13	4	8	10	3	12	13	7	9	7	1	5	0	4	7	0
2		4	4	6	6	8	2	8	3	6	8	3	2	4	6	3	7	7	3	7	7	4
3		6	5	4	2	5	3	5	7	3	5	4	4	4	3	4	5	3	5	4	4	7
4		5	6	2	3	3	2	3	2	1	4	1	1	5	2	6	7	5	12	5	5	9
平均		2.55	2.6	2.0	1.95	2.35	1.7	2.35	2.15	1.75	2.50	1.70	1.65	2.35	1.90	2.45	2.90	2.40	3.45	2.50	1.95	3.25

表 13-2
「診断項目」相互の連関 (三鷹/女)

項目記号	項目記号 項目No.	A	B	C	D	E	F	G	H	J	K	L	M	N	O	P	Q	R	S	U	V	W
		Q 7	Q 4	Q 3	Q 9	Q 6	Q 10	Q 17	Q 19	Q 14	Q 16	Q 11×12	Q 21	Q 23	Q 34	Q 27'	Q 40	Q 27	Q 28	Q 29	Q 30	Q 31
A	Q 7																					
B	Q 4	1																				
C	Q 3	3	2																			
D	Q 9	1	4	1																		
E	Q 6	2	1	2	1																	
F	Q 10	1	2	1	1	1																
G	Q 17	2	3	2	1	2	2															
H	Q 19	1	3	1	1	3	3	1														
J	Q 14	3	3	1	3	1	1	3	3													
K	Q 16	3	4	3	2	4	3	3	1	4												
L	Q 11×12	2	1	2	1	1	1	1	1	1	3											
M	Q 21	2	3	1	1	2	1	1	2	2	3	4										
N	Q 33	4	4	1	1	3	1	3	4	1	4	3	1									
O	Q 34	1	4	1	1	2	1	1	4	1	4	2	1	1								
P	Q 27'	2	3	3	3	3	3	4	3	2	3	4	2	1	2							
Q	Q 40	3	3	3	3	4	4	4	3	3	3	1	1	1	1	1						
R	Q 27	3	3	4	2	4	1	3	3	2	4	1	4	2	4	4	4					
S	Q 28	4	3	3	3	3	4	4	3	3	4	4	1	2	4	4	3	3				
U	Q 29	1	3	3	2	2	2	3	4	2	4	2	1	3	1	2	4	3	4			
V	Q 30	3	3	3	1	2	1	3	1	3	3	3	2	1	3	3	3	2	4	1		
W	Q 31	4	3	3	3	2	2	2	4	3	1	2	3	4	3	4	3	1	3	2	2	
連関度別頻度																						
1		6	3	7	11	5	11	5	7	6	2	9	9	9	10	2	5	3	1	4	5	2
2		5	2	4	3	8	4	5	1	4	1	5	6	2	3	5	0	4	1	7	4	6
3		6	11	8	5	4	3	7	8	9	9	3	3	4	2	8	10	6	9	5	10	8
4		3	4	1	1	3	2	3	4	1	8	3	2	5	5	5	5	7	9	4	1	4
平均		2.3	2.8	2.15	1.8	2.25	1.8	2.4	2.45	2.25	3.15	2.0	1.9	2.25	2.1	2.8	2.75	2.85	3.3	2.45	2.35	2.7

がって、男の回答者についての分析結果は参考とするに留める。

1
「診断項目」相互の連関
—クロス集計にもとづく分析—

まず、「診断項目」21項目相互の連関をクロス集計からみていく。この場合、数値が安定のあるものとしてみられるように、各項目別の項でふれたようにカテゴリーを併合し、2～4段階とした。各項目のカテゴリーは積極性 ↔ 消極性の順序

を一応考えることはできるが確定的なものではないので、名義尺度とみなすこととした。

そこで、項目相互の連関の度合を χ^2 の値に着目して探っていくことを考えた。 χ^2 検定をによる独立性の棄却水準を次の様に設定し、これにより項目相互の連関の度合をみていくことにしよう。すなわち、

- | | |
|---|-----------|
| 項目間の χ^2 値 | 項目間の連関度 |
| $\chi^2 \geq \chi_0^2 (0.01)$ | かなり高い (1) |
| $\chi_0^2 (0.01) > \chi^2 \geq \chi_0^2 (0.10)$ | やや高い (2) |
| $\chi_0^2 (0.10) > \chi^2 \geq \chi_0^2 (0.50)$ | 低い (3) |
| $\chi_0^2 (0.50) > \chi^2$ | 殆どない (4) |

これらの区分は、単に相対的な連関の度合をみ

るためのものであって、検定の意味ではない。4つの区分に対応する棄却水準の値は、単に、すべての項目間の組み合わせの数が、ほぼ均等に4区分に分けられることを狙って定めたものである。

以上の手続きにしたがって、「診断項目」21項目の相互の連関の度合を市別に整理したものが表13-1と表13-2に示される。

(1) 項目別にみた場合

連関の度合が高い(すなわち、1)の項目個数が多く、平均連関度も高い(すなわち、数値が小さい)項目は、武蔵野においてはF、J、L、M、Oであり、三鷹においてはD、F、L、M、Oであり、F、L、M、Oは、両市共通に、他項目との連関の多い項目であることがわかる。

一方、連関の殆どない項目(すなわち、4)の個数も多く、平均連関度の数値が多い(すなわち、連関度が低い)項目は、武蔵野においてはQ、S、Wであり、三鷹においてはK、P、Q、R、S、Wが顕著である。これらの項目は、他項目との連関が少なく、この項目に積極性を示しても他の項目に関する積極性とは独立であり、異なった要因が作用していることが見られる。

(2) 市別にみた場合

まず、連関度について両市を比較する。同じ項目の組合せを作った際、両市の連関度が全く一致、1段階違い、2段階違い、3段階違いの4種に分けて、それぞれに該当する項目数を診断項目別に整理してみると、表13-3のごとくである。

表13-3によると、連関度が全く一致しているものは、全体で約半数、1段階違いを合わせると8割を越える。項目間の連関の様相を通してみた場合、武蔵野・三鷹の両市がかなり類似していることがわかる。このことは、回答の安定性を示すものとも考えられる。

しかし両市の一致度を項目別にみると、細かい点で両市の差異が見られる。すなわち、項目M、Rでは「3段階違い」の項目が3つあり(Mに関してはL、R、S、そしてRに関してはC、M、W)、項目H、K、P、V、Wでは「全く一致」の数は6～7であり、「1段階違い」を合せた数も15以下

表 13-3
「連関度」について両市の差違別分布
(項目ごとにみた場合)

項目 (記号)	全く一致	一段階違い	二段階違い	三段階違い	項目 (記号)	全く一致	一段階違い	二段階違い	三段階違い
A	8	10	1	1	N	12	4	4	0
B	11	6	3	0	O	8	7	4	1
C	8	8	3	1	P	6	8	5	1
D	12	7	1	0	Q	8	9	1	2
E	11	6	3	0	R	10	4	3	3
F	11	6	3	0	S	9	8	2	1
G	6	11	3	0	U	10	6	3	1
H	6	7	6	1	V	7	8	5	0
J	12	5	2	1	W	7	8	4	1
K	6	6	7	1					
L	9	8	1	2	合計	188 (45)	148 (35)	64 (15)	20 (5)
M	11	6	0	3					

(注)：「合計」の欄の()内数字は比率(%)を表わす。

であり、他の項目に比べて差異がみられる。

つぎに、連関度の高い(すなわち、1または2)の個数を、項目別に、両市について比較してみる(図13-1を参照)。

相関係数を計算すると0.71であり、両市間の類似性がかなり高いことがこれからもわかる。いま、回帰直線に1σの幅づけをした場合、この1σの

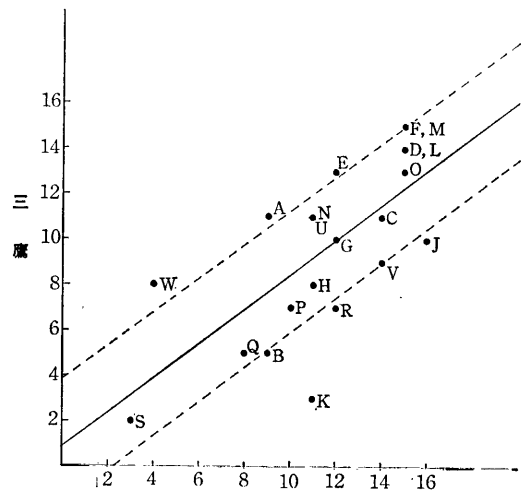


図 13-1

「連関度 1 および 2」の頻度

範囲の外にある項目は、両市の間で何らかの意味で差異のある項目と考えられよう。K, J, R, Vはコミュニティ・センター関係と福祉関係の項目であり、これらの項目に関して武蔵野は三鷹より連関のある項目が多い。このことは次のように理解できよう。すなわち、第7章および第9章でふれたように、武蔵野においては、これらの問題について住民がかなり関心をもっており、浮動的回答が少なく、その故に他の項目と整合性をもっている、と考えられる。W（独居老人の世話）、さらにA（住みよい所にするために）、E（地域で困っている問題への集団的対処については、武蔵野は三鷹より他項目との連関が少ない。

さて、表13-1 および表 13-2 の連関度表に対して以上の如くの考察を加えたが、これを総合して項目の位置づけをみるためには多次元解析によらねばならない。そこで次節において、この連関度表にMDA-ORを適用して解析を試みよう。

2
「診断項目」相互の連関
—MDA-OR による分析—

連関度は類似性 ↔ 非類似性を示す尺度とみなすことができる。そこで項目間の非類似性（非類似度が高いほど高い値）を基にMDA-ORの方法を適用する。

いま、2項目 (i, j) 間の距離（一般にS次元）を d_{ij} とし、

$$d_{ij} = \sum_{s=1}^S (x_{is} - x_{js})^2$$

(x_{is} は i 項目の第 s 次元における座標)

とする。この場合、 i, j の組み合わせにより非類似性の各段階が決っているのでこの段階別に d_{ij} の分布をとった場合、 $\bar{d}(1) > \bar{d}(2) > \bar{d}(3) > \bar{d}(4)$ （ここで $\bar{d}(k)$ は非類似性の段階が k であるすべての組み合わせに対する d_{ij} の平均値を表わす）の条件の下に相関比が最も大きくなるように x_{is} ($i=1, 2, \dots, I, I$ は項目総数) を決めるのであり、Sは1（1次元）から出発し、次第に高次元に展開し、次元をあげても相関比の増加が微少となった

場合にその次元までで留め、 x_{is} ($s=1, 2, \dots, S$) を定める。

次元を3次元までとした場合、項目に与えられた数値を最初の2次元に関して描くと、図13-2および図13-3のようになる。図のなかの $\eta_{(3)}^2$ は、次元を3次元とした際の相関比の2乗である。

図をみると、関連の少ない項目、すなわち、武蔵野においては、S, Q, Wが第1軸で対立的に極めて著しく離れており、三鷹においては、Sと

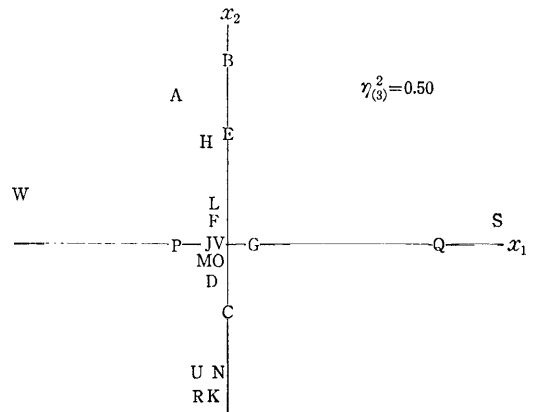


図 13-2

「診断項目」（21項目）相互の連関：武蔵野／女
 (MDA-OR による分析結果)

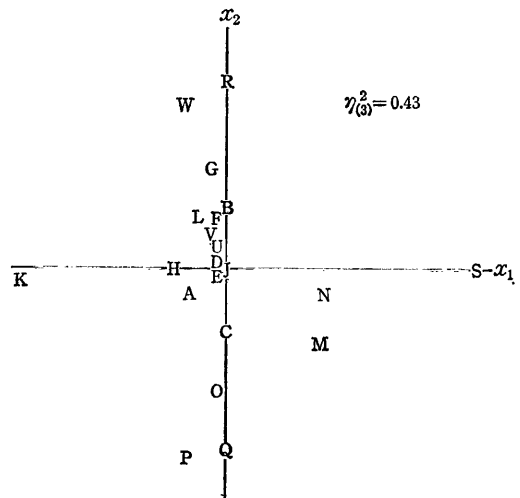


図 13-3

「診断項目」（21項目）の相互連関：三鷹／女
 (MDA-OR による分析結果)

Kが第1軸で、R,WとP,Qが第2軸で、対立して極めて離れて位置している。これらの特異な配置をする項目についてクロス集計の結果を考え合わせ省察すると以下のことが見出される。

S (ボランティア活動の認識)については、「説明項目」からの効き方も他の項目と異なり(政党が効いている),他の「診断項目」とは独立な動きを示す項目である。

Q (大地震の際の行動)については、武蔵野においては年齢が強く効いており、他の項目では積極性を示さない若い年齢層が「近所と行動」と答えているものが多く、三鷹においては住居状況が効いており、比較的積極性の少ない集合住宅の層が「近所と行動」と答えているものが多いなど、他の「診断項目」とは異質な反応を示している項目であることがわかった。これらの結果を合せ考えると、Qはコミュニティ形成に直接的に関わる項目というより、むしろ個人的な行動として、性格などと同様「説明項目」として扱う方が妥当と思われる。そこでこの設問に対する回答パターンは、後に再びとりあげることにする。

W (独居老人の病気の際の世話)については、両市とも年齢51～65歳層で「近所の人」と答えるものが多く、これも他項目とは異なった効き方をしている。

以上のS, Q, Wの3項目は、回答のパターンが他項目と著しく異なっており、このために連関度も低く、他の「診断項目」とは異質であると考えられる。したがって、以降の多次元解析においては、「診断項目」からは除くことにした。あまり特異なものが入っていると、それを選別することに引っぱられて他の項目の弁別が明かにならないからである。コミュニティ形成に関する住民の意識構造の診断に対しては、S, Q, Wの3項目の反応は別途に考慮する、ということである。

項目B(家の周りで困っていることの有無)については、武蔵野では2軸で離れており、三鷹では離れて位置してはいない。しかも、この項目Bと高い連関を示す項目はかなり少ない。高い連関度をみせている項目にE(問6.近隣地域で困っている問題への対処)がある。しかしこれは、項目B(問4.家の周りで困っていることの有無)への回答に関わらず、「問題があったと仮定して、問題への対処」を問うことにしていたところ、問4で「ない」と答えたものは問6では「わからない」「無答」が極めて多く、このために高い連関が生じてきたものと考えられる。このような項目Eとの特殊な連関は、他の項目との位置づけにも影響を及

ぼすことが予想されるので、項目Bも以後の多次元解析では「診断項目」から除くこととした。

また、三鷹においては、項目K(Q16. C. C.と親交との関係)も極めて特異な位置関係を示しているのので、これも「診断項目」からは除外することにした。

結局、武蔵野においてはS, Q, W, Bを除いた17の「診断項目」に対して、三鷹においてはS, Q, W, B, Kを除いた16の「診断項目」に対して、MDA-ORを再度適用してそれぞれの相互連関を分析してみた。その結果を図13-4および図13-5に示す。両図とも、次元を3次元まで高めたときの、1次元、2次元の項目配置を表している。

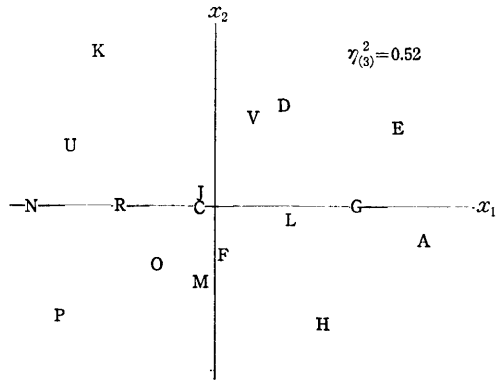


図 13-4 「診断項目」(17項目) 相互の連関: 武蔵野/女 (MDA-OR による分析結果)

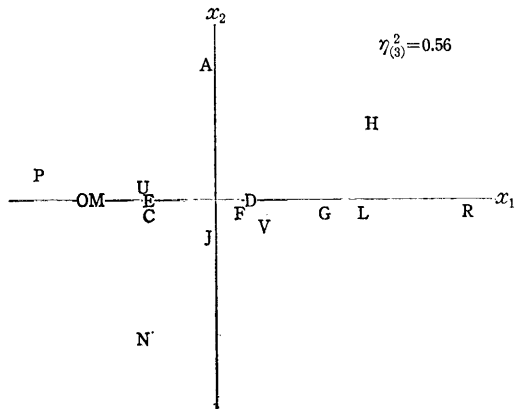


図 13-5 「診断項目」(16項目) 相互の連関: 三鷹/女 (MDA-OR による分析結果)

次元を3次元までとしたとき、(相関比)²は、武蔵野で0.52三鷹で0.56であり、連関度の段階別に「診断項目」をかなり弁別できる、と言えよう。

図13-4と図13-5から以下のことがわかる。すなわち、N, P, O, M, U, C (仮に第1群と名づける)は、両市共通に比較的近い所に位置している。これらに対立して両市共通に H, L, G, V, D (仮に第2群と名づける)が位置しており、さらに武蔵野においてはA, Eが最も顕著にN, Pと対立しており、三鷹においてはRが最も顕著にP, Oと対立している。第1群のうちC(行事参加)以外は近隣関係に関連した設問であり、これに対し第2群は、H, L, Gが住民運動や市政参加の様な比較的進歩的態度を示すものであり、D(清掃などを共にする)およびV(要介助者への手伝い)は、H, L, Gとは少し意味は異なっているが、いずれにしても運動的参加の項目である。武蔵野においてのみ第2群に属するA, Eは市民運動的というよりむしろ地域に向う積極性を示すものであり、三鷹においてのみ第2群の系統に属するRは「ボランティア」という福祉性の活動である。

以上のことから、両市間の類似性と相異性を探ることができよう。すなわち、何らかの住民運動的なものと近隣親交的なものとが分離される点は、両市に共通である。そして前者は、武蔵野においては地域に向う積極性と連なるものであるが、三鷹においては福祉的活動と関連をもっているということがみられよう。

両市を比較した際、とりあげた項目が両市において異なっていた。つまり、三鷹ではKを途去している。このために差異が生じていることも考えられるので、武蔵野においてもKを除去し、再度計算を行なって項目配置を検討してみた。しかしその結果は、Kを含んでいる場合と全般的配置において殆ど変わらず、前述の状況を覆えずものはなかった。

ちなみに、男に関して、「診断項目」21項目に同様の手続きをとおしてMDA-ORを適用してみたところ、図13-6および図13-7に示したごとの結果を得た。前述したごとく、男はサンプル数(回答数)が少ないので、 χ^2 の値は女の場合より

全般に小さい。したがって、女と同じ水準で棄却水準を区分すると、区分1および2は頻度が少なくなる。そこで、区分1, 2を併合し、全体で3つの段階に区分してMDA-ORを適用した。

図13-6および図13-7をみると、やはり両市ともQ, S, W, Bは離れて位置しており、これら4項目を「診断項目」から除くことの妥当性が男の分析結果からも確認されたかたちとなった。

以上のMDA-ORを適用しての「診断項目」相互の位置づけは、「診断項目」のすべての組み合わせ

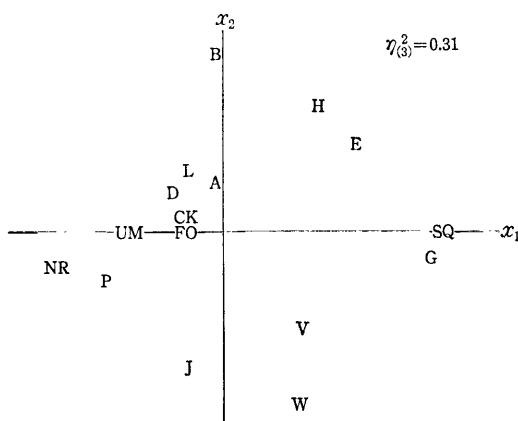


図 13-6

「診断項目」(21項目)相互の連関：武蔵野/男
(MDA-ORによる分析結果)

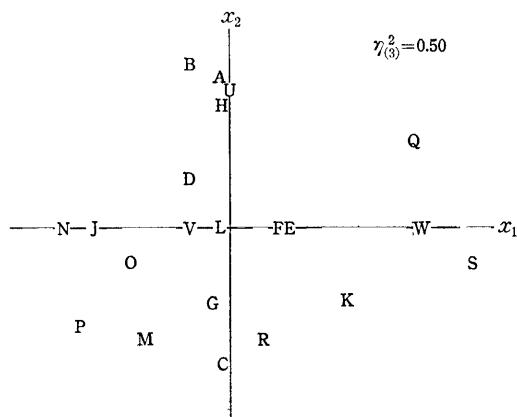


図 13-7

「診断項目」(21項目)相互の連関：三鷹/男
(MDA-ORによる分析結果)

(2項目)間の従属性に基づいて計算・分析されたものである。したがって、多項目間の同時的連関は考慮されてはいない。そこでつぎに、この同時的連関を考慮した「診断項目」の類型化を試みる。

3

「診断項目」の分類
—数量化Ⅲ類による分析—

(1) 「診断項目」のグルーピング

「診断項目」に対する回答パターンの同時的連関を考慮して項目を分類するには、類量化Ⅲ類の適用が最も適切と考えられる。この場合、MDA-ORを適用した分析で除かれた項目のうち、BはEと本来的な連関があるので、やはり除去することとし、またQは「説明項目」に加える方が妥当と考えられるので、これも除去することとした。しかし、S、Wは含めておこなうこととした。SとWは、すべての2項目相互の関連に基づいた場合、特異な位置となったが、同時的連関から出発する数量化Ⅲ類の方法によっても同様に特異な位置づけになることは断定できないからである。したがって、ここでは19の「診断項目」について数量化Ⅲ類を適用し、項目の分類をおこなっていく。

ところで、各「診断項目」の回答カテゴリー数は、殆どの場合、積極性・中間・消極性の3つであり、L、Nは4つ、J、K、Sは2つである。これら19の「診断項目」のすべての回答パターンに数量化Ⅲ類を適用しても、項目・カテゴリーの配置は散乱し、傾向を把握することは困難であろうと予想される。そのため、MDA-ORを適用した場合の結果を一応の目安として、まずは12項目前後の項目数から出発して分類を試みていくことにした。

たとえば、武蔵野の場合、まずK、U、N、P、R、O、M、F、C、J、V、D、Wについて計算し配置をみて、次にA、E、G、H、L、D、V、F、M、C、J、Sについて配置をみる。そして、両方に入っているM、C、J、F、V、Dはどちらの群に近いか、あるいはいずれの項目が同じ方向のカテゴリーについて近くに位置するかというようにみていく。「1. 積極性」「2. 中間」

「3. 消極性」を示すカテゴリーが、それぞれ塊りとなって位置するような項目群を、試行錯誤的に(種々の項目の組み合わせについて数量化Ⅲ類をくり返し適用して)探していく。

たとえば図13-8は、項目A、C、E、F、L、M、N、O、R、S、Vに対して計算をおこなった結果である。図を見れば、[A、F、L]、[M、N、O]、[C、E、R、V]という様な項目群に分けられるであろうという見当をつけることができる。このようなことを、項目の組み合わせを変えて安定性をみながらくり返しおこない、最終的に、武蔵野/女においては4群、三鷹/女においては3群のかなり安定した項目群を得るに至った。

ただし、項目S(ボランティア活動への認識)と項目W(独居老人の世話)は、やはり両市とも極めて異質な位置を占め、この異質性の故に他の項目が引っぱられて全体が歪む様相がみられた。そこで、これら2項目は別個に考慮することとした。さらに、項目U(要介助者の存在)も、いずれの群に加えても離れて位置する項目であったの

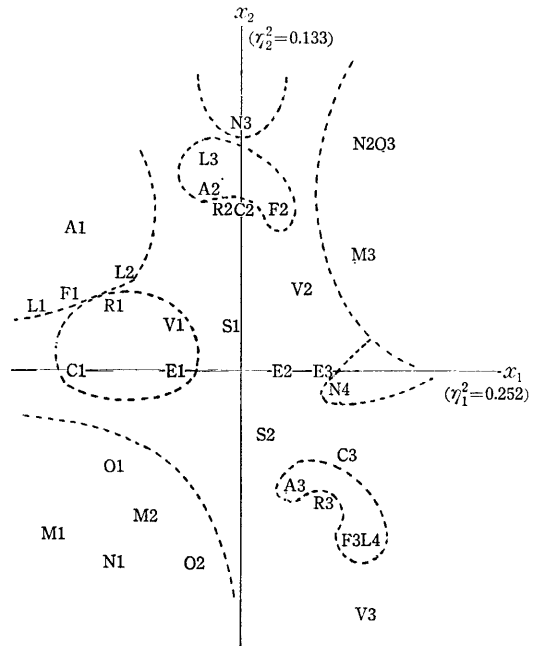


図 13-8

数量化Ⅲ類による「診断項目」の分類の例(診断項目 A、C、E、F、L、M、N、O、R、S、V に適用した場合の例)

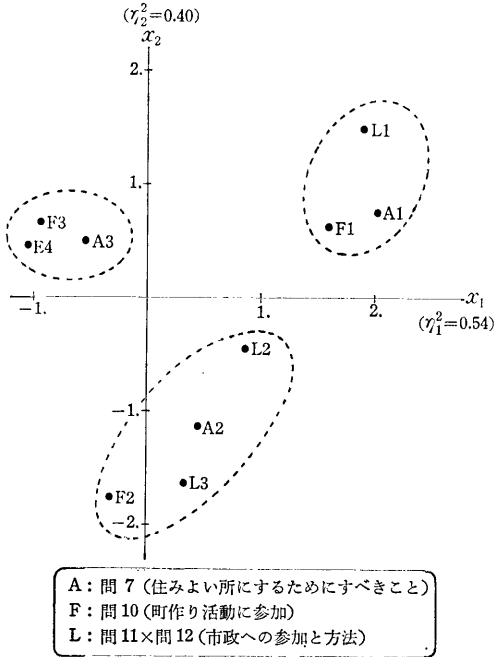


図 13-9
武蔵野/女：第 1 項目群

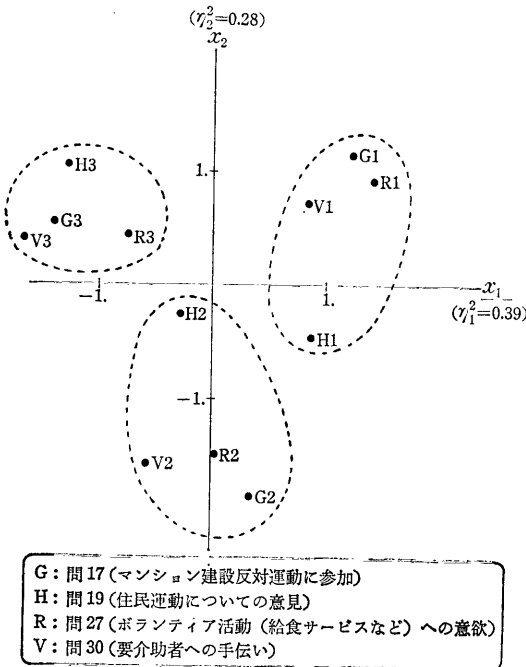


図 13-10
武蔵野/女：第 2 項目群

で、これも別個に考慮することにした。結局、武蔵野においては16の「診断項目」が4つの項目群に分類されることとなった。

三鷹においては、上記3項目(S, U, W)のほかに、さらにK(C.C.と親交)とP(近隣のわずらわしさ)が異質であり、どの群に加えても分離することがみられた。三鷹においては、KはMDA-ORを適用した場合においても同様であり、項目KとPにおいて積極性を示す人々は他の項目と連関がなく、整合性のある答が得られていないということがわかる。このため三鷹では結局、14の「診断項目」が3つの項目群に分類されることとなった。K, Pについては別個に考慮することとした。

両市における項目のグルーピングは類似のものもあれば異なるものもある。ここに両市の類似性と相異性を更に明瞭にみる事ができる。

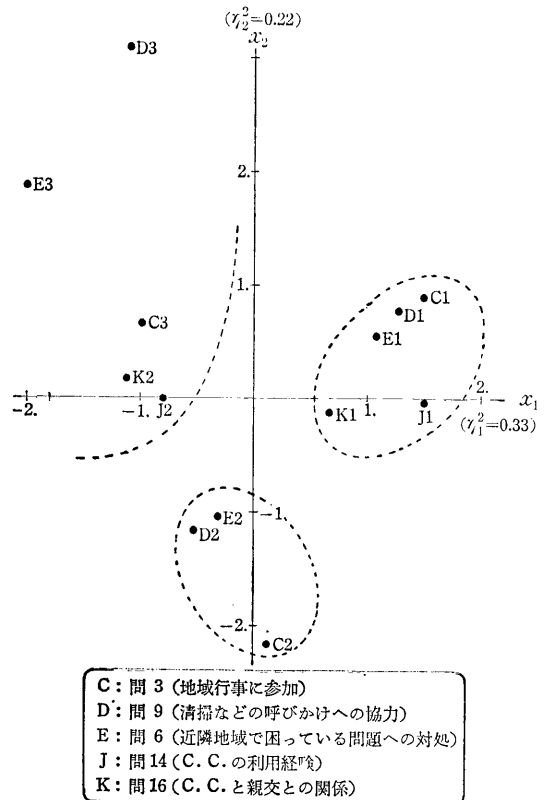


図 13-11
武蔵野/女：第 3 項目群

図 13-9 から 図 13-15 にわたって、武蔵野／女および三鷹／女の「項目群」のそれぞれに数量化Ⅲ類を適用した結果の各項目・カテゴリーの2次元の配置（第1，第2の固有値にみあう各項目・カテゴリーの数値 x_1, x_2 による2次元の配置）が示される。

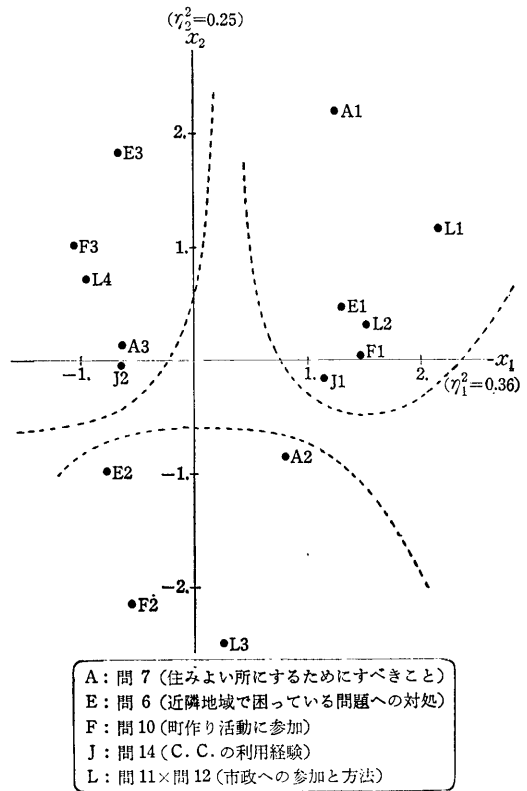
(2) グループングされた「診断項目群」の特徴

数量化Ⅲ類の適用によってこの様に項目がグループングされて位値づけられたということは、同一群に属する項目に対する反応が類似であったことを示すものである。そこで、グループングされた「項目群」のそれぞれが示す性質（共通性）をみていくこととする。

① 武蔵野／女について

●第1目項群（図13-9を参照）

A：問 7（住みよい所にするために為すべきこと）



A：問 7（住みよい所にするためにすべきこと）
 E：問 6（近隣地域で困っている問題への対処）
 F：問 10（町作り活動に参加）
 J：問 14（C. C. の利用経験）
 L：問 11×問 12（市政への参加と方法）

図 13-13
三鷹／女：第1項目群

F：問10（町づくり活動に参加）

L：問11×問12（市政への参加と方法）

この3群の間における共通性は、いずれも進歩的意識をもって活動参加をするか否かの問題と考えられよう。すなわち、これらに積極性を示す回答は、自己の実際の行動に基づくより、むしろ理念的な意識が先行するものと考えられよう。

そこで、この項目群すなわちA, F, Lの3群に対する反応によって積極性から消極性へと弁別されていく軸を「理念的活動型」（第1類型）と名づけることとする。

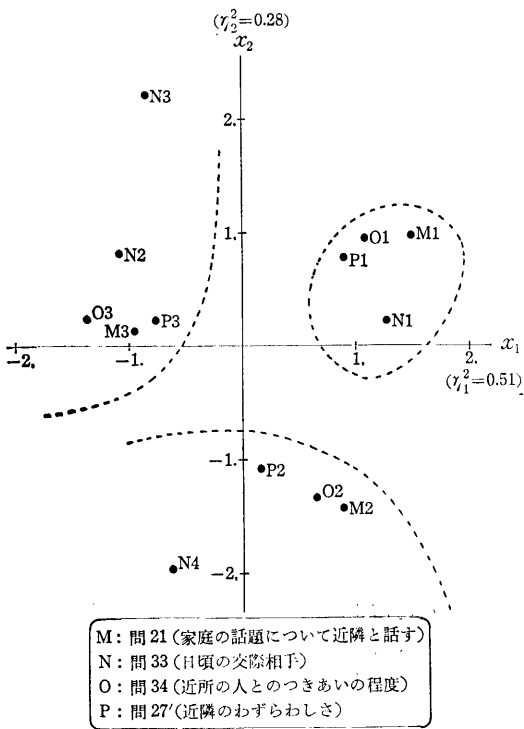
●第2項目群（図13-10を参照）

G：問17（マンション建設反対運動に参加）

H：問19（住民運動についての意見）

R：問27（ボランティア活動—給食サーブスなど—への意欲）

V：問30（要介助者への手伝い）



M：問 21（家庭の話題について近隣と話す）
 N：問 33（日頃の交際相手）
 O：問 34（近所の人とのつきあいの程度）
 P：問 27（近隣のわずらわしさ）

図 13-12
武蔵野／女：第4項目群

この項目群においては、福祉的な活動項目と住民運動的活動項目とが併合されている。このことは三鷹においても同様である。地域におけるボランティア活動への志向は、住民運動などの志向と類似していることがみられるのは興味深い。この項目群は、地域（近隣）で連帯して自分達の生活をまもり、よいものにしていこうという「連帯活動型」（第2類型）の軸と考えられよう。

なお、H₁、H₂は、それぞれ1-カテゴリー、2-カテゴリーの群の中では多少離れているものの、他の何れの項目群よりこの第2項目群において近くに位置づけられるので、この群に入れている。この設問が意見を問うているので、直接的活動のイメージより、むしろ理念に近いものとして印象づけられ、多少の分離をみたと考えられよう。

●第3項目群（図13-11を参照）

- C：問3（地域行事に参加）
- D：問9（清掃などの呼びかけへの協力）

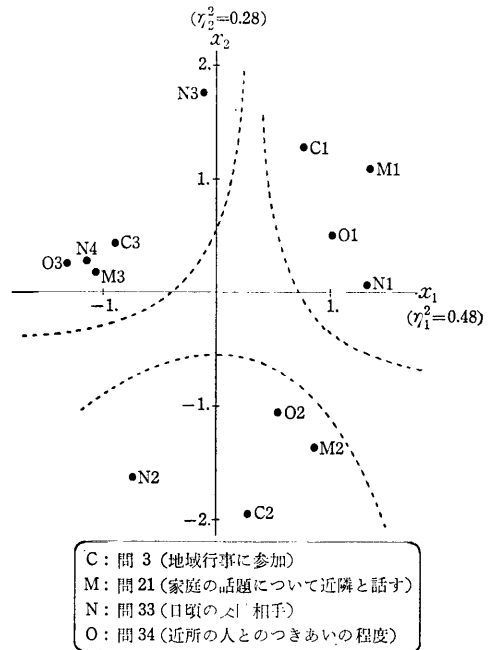


図 13-15

三鷹/女：第3項目群

- E：問6（近隣地域で困っている問題への対処）
- J：問14（C.C.の利用経験）
- K：問16（C.C.と親交との関係）

この項目群においては、近隣地域における親交活動とコミュニティ・センターの利用および評価の項目とが併合されている。武蔵野においては、コミュニティ・センターに関する行動や意識が身近な地域活動に結びついているということが把握できる。

これらは、「地域活動型」（第3類型）の軸と名づけられよう。

●第4項目群（図13-12を参照）

- M：問21（家庭の話題について近隣と話す）
- N：問33（日頃の交際相手）
- O：問34（近所の人とのつきあいの程度）
- P：問27'（近隣関係のわずらわしさ）

この項目群は、すべて近隣親交に関する項目が集っている。項目N（日頃の交際相手）については、カテゴリーが他の項目におけるように積極から消極へと並べられるものではない。しかし、こ

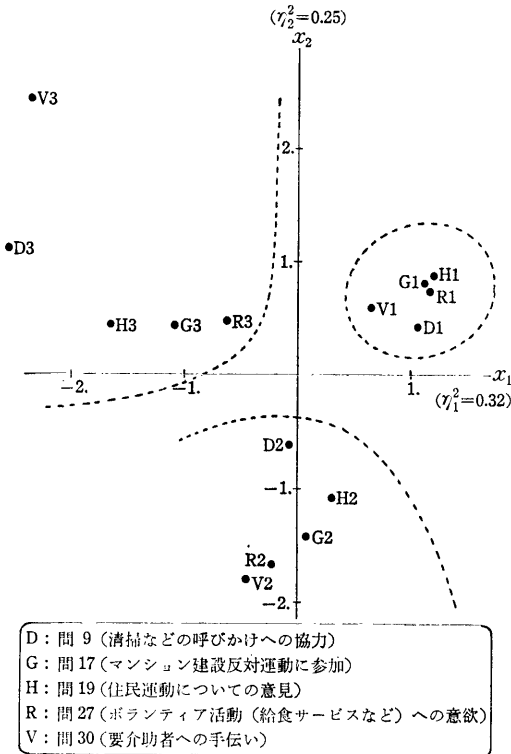


図 13-14

三鷹/女：第2項目群

の分類結果から、〔1. 近所・地域の人〕が積極性に、〔2. 職場の人〕が消極性に、〔3. 趣味の人〕が〔2.〕より更に消極的方向に離れ、〔4. それ以外の人、いない、無答〕が中間のカテゴリーに位置づけられることが明瞭に理解される。

これらの項目群は、「**近隣親交型**」(第4類型)と名づけられよう。

② 三鷹／女について

●第1項目群 (図13-13を参照)

A：問7 (住みよい所にするためにすべきこと)

E：問6 (近隣地域で困っている問題への対処)

F：問10 (町づくり活動に参加)

J：問14 (C.C.の利用経験)

L：問11×問12 (市政への参加と方法)

A, F, Lは、武蔵野の第1項目群と同じ理念的活動の項目群であるが、三鷹においては、E, Jがこれらと併合されることにおいて武蔵野との差異を示す。項目Eは「地域の中で協力して対処してゆこうと思いませんか」と問うているので、質問のニュアンスとしては理念的活動に近いものであり、A, F, Lと同一群となることは了解しうる。しかし項目Jがこの項目群に併合されていることから、C.C.利用者層が武蔵野より理念型層に傾いているのではないかと考えられる。言いかえれば、三鷹においては、一般住民は、未だ、C.C.に充分なじんでおらず、C.C.という施設を理念的活動と結びつけて認識している人々も多いのではなからうか、と考えられるということである。このことから、項目N (問16. C.C.と親交との関係)に対する回答が三鷹において特異な位置となったことも説明し得ると考えられる。

この項目群は、武蔵野における第1項目群 (理念的活動型)に、第3項目群 (地域活動型)の一部 (E, J)が併合されたものである。したがって、「**理念的地域活動型**」(第1類型)と名づけることができよう。

●第2項目群 (図13-14を参照)

D：問9 (清掃などの呼びかけへの協力)

G：問17 (マンション建設反対運動への参加)

H：問19 (住民運動についての意見)

R：問27 (ボランティア活動一給食サービスなど一への意欲)

V：問30 (要介助者への手伝い)

武蔵野の第2項目群と同じ項目 (G, H, R, V)にDが併合されたものであり、武蔵野と同様に「**連帯活動型**」(第2類型)を弁別する軸と考えることができよう。

●第3項目群 (図13-15を参照)

C：問3 (地域行事に参加)

M：問21 (家庭の話題について近隣と話す)

N：問33 (日頃の交際相手)

O：問34 (近所の人とのつきあいの程度)

これも武蔵野の第3項目群とほぼ同じであり、武蔵野におけるP (問27. 近隣のわずらわしき)に代って、Cが加わっている。武蔵野においては「お祭りなどの地域行事に参加」は第3類型 (地域活動型)に分類されていた。三鷹においては、これは地域活動としてではなく近隣親交として認識されていることが解り、地域行事への態度は市によって異なることが明らかになった。

この項目群 (第3類型)は、武蔵野の第4類型と同様「**近隣親交型**」の軸と考えられよう。

以上、項目の分類は、両市において概略的には類似であり、しかも個々の僅かの差異の中から住民の意識構造の差異をみていくことができた。すなわち、武蔵野においては地域活動型の軸は住民の類型化の1つの軸となるような塊りをなすが、三鷹においてはこのような分類はなし得ず、これに属する項目は、他の群に分在することとなる。つまり、三鷹においてはこうした活動意識が根づいていないということがみられよう。

(3) 前回調査 (1976年, 武蔵野／女)との比較

1976年に実施した武蔵野／女を対象とした前回の調査から得られた項目分類と今回のそれとを比較してみよう。質問文の前後関係やワーディングさらには回答カテゴリーにおいて異なるものもあり、正確な比較はできないが、同一あるいは類似の項目を選んで比較を試みる。

比較のため選ばれた質問項目は、以下の7つで

ある。すなわち、

- A：住みよい所にするために為すべきこと
- E：近隣地域で困っている問題への対処
- F：町づくり活動に参加
- L：市政への参加と方法
- M：家庭の話題について近隣と話す
- S：ボランティア活動への認識
- V：要介助者への手伝い

このうち、M以外の質問項目については、第5章から第9章において、質問文そのもの、および、それへの回答比率を対比して示しておいたのでそれを参照されたい。項目M（問21.家庭の話題について近隣と話す）は、1976年調査では、問17として「家庭でよく話される話題」（今回の調査の問20に同じ）を尋ねた直後に「これらの問題を解決するためにはどのようになさいますか」と問うており、回答が「家族以外の人との関連」を答えたか否かによってカテゴリーを分けている。この質問17は問題提起が不明瞭であったので今回の調査では除いており、これに近い質問としてM（問21）を代替したのであった。

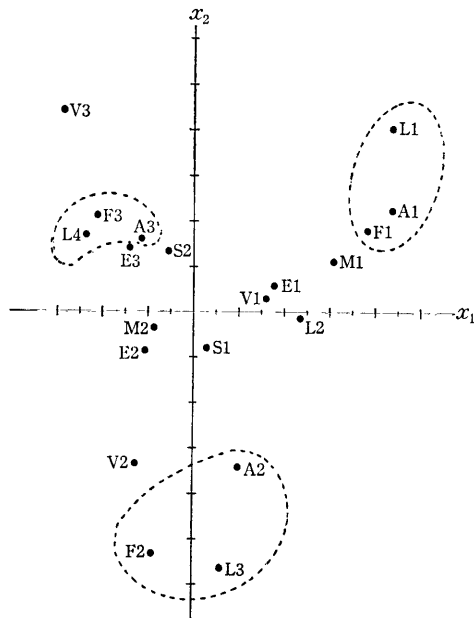


図 13-17
今回調査（武蔵野／女）

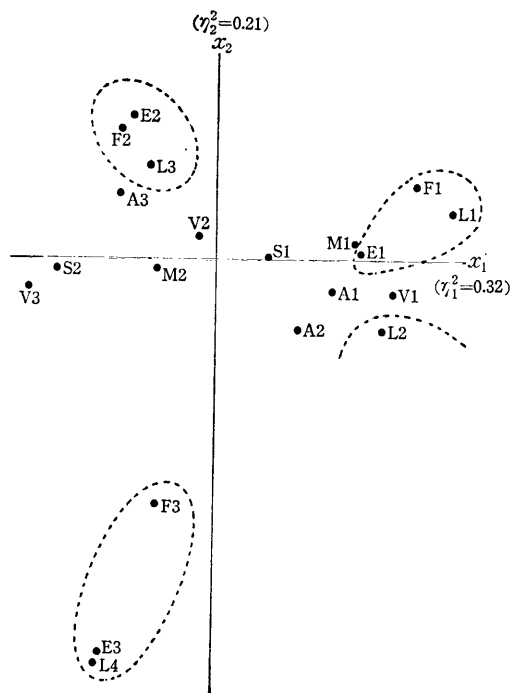


図 16-16
1976年調査（武蔵野／女）

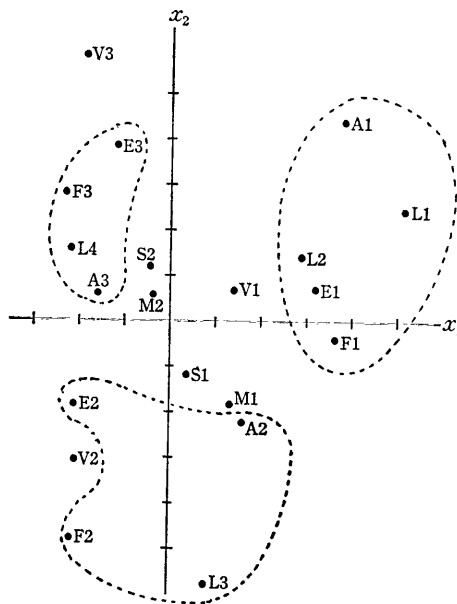


図 13-18
今回調査（三鷹／女）

表 13-4
 男のサンプルから得られた「診断項目」のグルーピング

類	型	武蔵野 / 男	三鷹 / 男
第1類型 (理念的連帯活動型)	項目	E, F, G, H, V, W	A, E, G, L, R, V
	(相関比) ²	$\eta_1^2=0.32, \eta_2^2=0.22$	$\eta_1^2=0.35, \eta_2^2=0.31$
第2類型 (地域活動型)	項目	A, C, D, J, K, L, P	C, F, J, K, P, W
	(相関比) ²	$\eta_1^2=0.25, \eta_2^2=0.16$	$\eta_1^2=0.29, \eta_2^2=0.21$
第3類型 (近隣親交型)	項目	M, N, O	D, M, N, O, U
	(相関比) ²	$\eta_1^2=0.63, \eta_2^2=0.41$	$\eta_1^2=0.36, \eta_2^2=0.25$

(注)：(相関比)² は、第1と第2のみを掲げた。

上記の7項目に対して数量化Ⅲ類を適用した結果を、図13-16(1976年、武蔵野/女)、図13-17(今回、武蔵野/女)、図13-18(今回、三鷹/女)に示す。

1976年調査の分析にあたっては、この7項目から〔E, F, L〕,〔A, M, S, V〕の2群に分けた。今回調査の武蔵野/女については、これだけの項目について強いて分けようとするれば〔A, F, L〕〔E, M, S, V〕となり、三鷹/女については〔A, E, F, L〕〔M, S, V〕と分けることができよう。

1976年調査(武蔵野/女)の〔E, F, L〕,今回調査(武蔵野/女)の〔A, F, L〕,三鷹/女の〔A, E, F, L〕は、いずれも「理念的活動型」と考えられる項目群である。この「理念的活動型」は、少なくともこれら2都市において女の地域に向かう意識構造をみた場合に、明らかに弁別をなし得る1つの軸と考えられよう。

(4) 男のサンプルからの分析結果

前述したように、男のサンプルは人数も少なく、回答の整合性も低い。その故か、数量化Ⅲ類の適用によっても安定した結果をもたらさない。すなわち、項目を1つ入れ替えることによって、他の項目の2次元の位置づけが著しく変動するものもあり、女の場合のように、カテゴリーの段階別に項目分布が塊りとなるような項目群を見いだすことは困難であった。個々の反応パターンの分離度を示す(相関比)²も、全般的に女の場合より低い。

しかし、一応の項目分類をなし得たので、それを補足的に提示しておくとして表13-4のごとくである。

項目Wは、女の場合は削除したが、男の場合は第2類型に無理なく位置づけられた。これに反し、武蔵野/男はR(ボランティア活動への意欲)、三鷹/男ではH(住民運動についての意見)が、何れの類型に入れても異質であり、類型化の項目としては用いられなかった。このことは、福祉に対して関心の高い武蔵野においても、男は「給食サービスなどのボランティア活動」には無関心であり、三鷹においては、男は「住民運動」などにあまり関心がなく、そのために他項目との関連がない(すなわち、意見に統一性がない)ためとも考えられる。

各類型を、女の場合と同様の規準で名づけてみた。武蔵野/男の第3類型のように、(相関比)²も高く、近隣親交関係の項目のみが明らかに1群をなしているものもあるが、類型化は全般に、女の場合のように明瞭なものではない。したがって、男についてのこの項目分類は素描に過ぎず、参考に留めるものとする(ちなみに、2次元の項目配置の図示も省略した)。

(5) 各類型における「個人」の分類 (女のサンプルについて)

さて、以上の分析をとおして、それぞれの類型を構成する項目の各カテゴリーに対して数値が定まった。固有値つまり(相関比)²の値からみて、第2根にみ合う数値までを問題とすれば十分であ

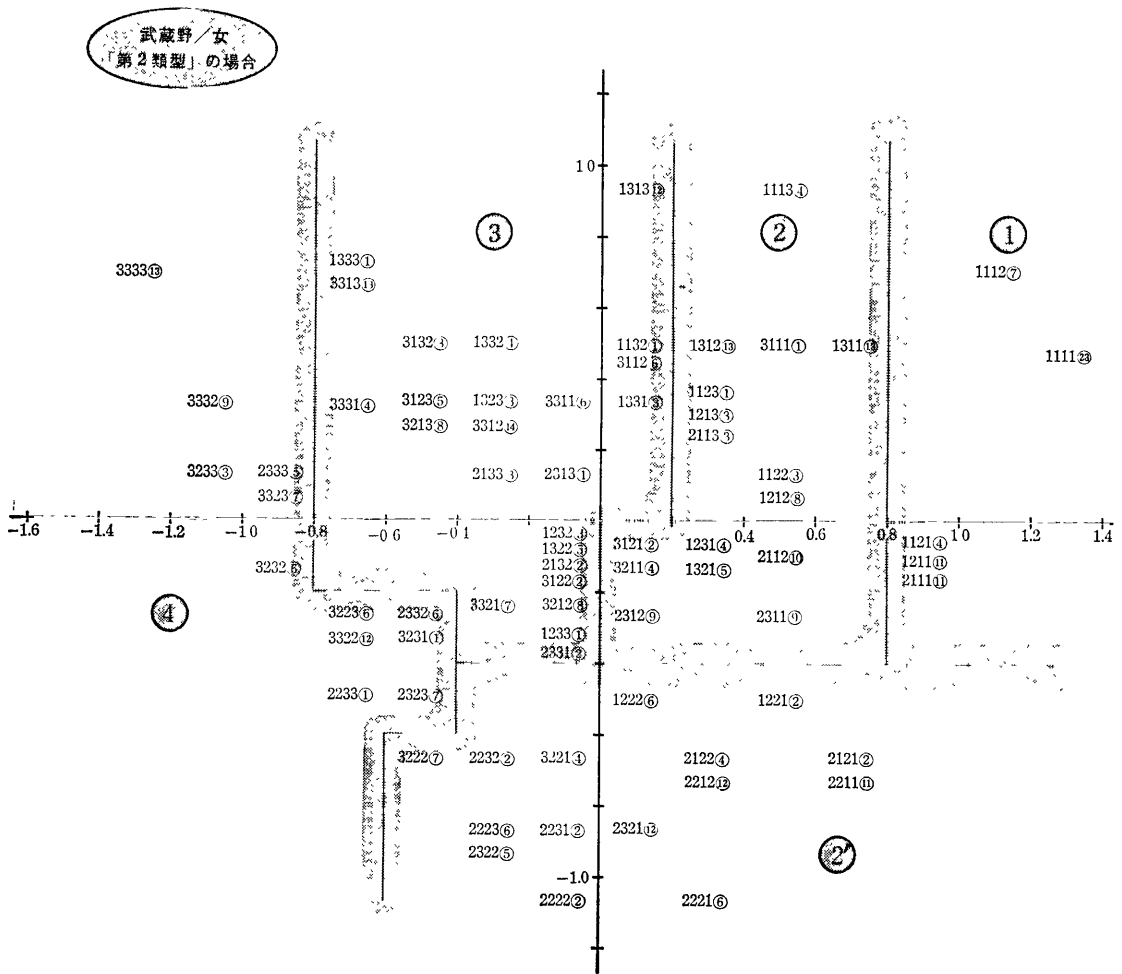


図 13-19
「診断項目」の各類型での「個人の回答パターン」の分類

表 13-5

武蔵野/女					三鷹/女			
類 型 クラス	類 型				類 型 クラス	類 型		
	1. 理念的 活動型	2. 連帯 活動型	3. 地域 活動型	4. 近隣 親交型		1. 理念的 地域活動型	2. 連帯 活動型	3. 近隣 親交型
1. 積極的	53	56	54	58	1. 積極的	43	51	59
2. やや積極的	172	175	187	197	2. やや積極的	78	191	170
3. やや消極的	115	124	131	131	3. やや消極的	173	127	151
4. 消極的	91	74	59	45	4. 消極的	138	63	52

ることもわかった。

そこで、第2次元までの数値 (x_1, x_2) を各個人の回答パターンにあてはめていこう。すなわち、各個人が回答したカテゴリーに与えられた数値の平均 (各項目群の全項目について加えていき、その値を項目数で除した値) をもって、個人の値 (y_1, y_2) — y_1, y_2 はそれぞれ x_1, x_2 による数値— とする。この y_1, y_2 の値を2次元の座標とし、これに、その項目群の各項目に対する回答カテゴリーと、そのようなカテゴリーのパターンをとった人数を記す。そして、2次元の位置と回答パターンを参照し、かつ頻度がバランスがとれるようにグループを構成していく。すなわち、ここでは、クラスター分析によらず、手作業で分離線をきめていくのである。1例を示すと図13-19のごとくである。

つぎに、各弁別軸 (類型) において、積極性から消極性へと5~7段階の分類をし、この分類にしたがって「説明項目」との連関をみていく。あまり差のない段階は併合し、何れの類型においても4段階、すなわち、1. 積極的、2. やや積極的、3. やや消極的、4. 消極的、に分けることとした。このような手続きをとおして得られた各段階 (以下、クラスと呼ぶ) に該当する人数を表13-5に示した。

表13-5に示した人数は、各類型を軸とする多次元 (武蔵野においては4次元、三鷹においては3次元) の空間における回答頻度の周辺分布を意味するものと考えられる。多次元の頻度分布は頻雑にすぎるので、いま、クラス1と2を positive (P)、3と4を negative (N) として併合した場合の多次元パターンの頻度を表13-6として示そう。

このように、クラスを併合した頻度をみると、すべての類型において、積極性または消極性を示すものは約3分の1である。ちなみに、2つの類型間の頻度分布を示すと表13-7のとおりである。

しかし、ここでは、類型にもとづいた多次元空間における位置づけよりも、むしろ各類型 (弁別軸) に投影したときの位置づけで、各個人をみて

いこうと考える。そして、次節において、「説明項目」との連関を詳細に分析する。

表 13-6

●武蔵野/女

第1類型	第2類型	第3類型	第4類型	人数	Pの個数による人数
P	P	P	P	83	④ 83
P	P	P	N	20	③ 105
P	P	N	P	23	
P	N	P	P	31	
N	P	P	P	31	
P	P	N	N	18	② 112
P	N	P	N	22	
P	N	N	P	18	
N	P	P	N	11	
N	P	N	P	23	
N	N	P	P	20	
N	N	N	P	26	① 81
N	N	P	N	23	
N	P	N	N	22	
P	N	N	N	10	
N	N	N	N	50	⑤ 50

●三鷹/女

第1類型	第2類型	第3類型	人数	Pの個数による人数
P	P	P	59	③ 59
P	P	N	28	② 139
P	N	P	18	
N	P	P	93	
N	N	P	59	① 137
N	P	N	62	
P	N	N	16	
N	N	N	97	④ 97

(注) : ○内数字はPの個数を示す。

表 13-7

●武蔵野/女

類型	類型		2. 連帯活動型				3. 地域活動型				4. 近隣親交型			
	クラス	人数	クラス				クラス				クラス			
			1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4
			56	175	124	54	54	187	131	59	58	197	131	45
1. 理念的活動型	1	53	15	22	15	1	15	24	12	2	18	26	8	1
	2	172	22	85	48	17	30	87	43	12	19	92	50	11
	3	115	17	41	35	22	5	49	39	22	14	45	38	18
	4	91	2	27	26	36	4	37	37	23	7	34	35	15
			2. 連帯活動型				3. 地域活動型							
			1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4
			13	29	9	3	24	79	57	27	14	44	45	28
			5	13	13	18	23	23	13	18	5	23	13	18
			15	30	7	6	15	30	7	6	15	30	7	6
			27	88	57	25	27	88	57	25	27	88	57	25
			12	47	43	29	12	47	43	29	12	47	43	29
			2	10	17	16	2	10	17	16	2	10	17	16
			2	10	17	16	2	10	17	16	2	10	17	16
			14	47	43	29	14	47	43	29	14	47	43	29
			6	25	13	18	6	25	13	18	6	25	13	18
			14	47	43	29	14	47	43	29	14	47	43	29
			6	25	13	18	6	25	13	18	6	25	13	18

●三鷹/女

類型	類型		2. 連帯活動型				3. 近隣親交型			
	クラス	人数	クラス				クラス			
			1	2	3	4	1	2	3	4
			51	191	127	63	59	170	151	52
1. 理念的活動型	1	43	10	22	9	2	7	23	13	0
	2	78	15	40	15	8	18	29	27	4
	3	173	17	85	51	20	29	61	59	24
	4	138	9	44	52	33	5	57	52	24
			2. 連帯活動型				3. 近隣親交型			
			1	2	3	4	1	2	3	4
			9	33	10	7	23	87	42	18
			23	87	42	18	13	60	56	22
			6	11	19	16	6	11	19	16
			9	33	10	7	9	33	10	7
			23	87	42	18	23	87	42	18
			6	11	19	16	6	11	19	16

4
各類型の潜在的構造
—数量化Ⅱ類による分析—

各類型と「説明項目」とのクロス集計を参照しながら、類型にあまり関連しない項目、すなわち、「兄弟順位」「問13. 望む市施設」「問52. 大切なもの」を削除し、もともと「診断項目」に入っていた「問40. 大地震の時の行動」を加え、計28

の項目を類型の潜在的構造を推定するための項目として使用する。分析の結果を述べるまえに、これら28の項目の以下のものについて少しく補足説明を加えておくことが必要であろう。すなわち、

●「コミュニティ地区」は、コミュニティ・センターの設置年度と地域の特徴を考え合わせて、武蔵野は5、三鷹は6の地区に併合した。

●「問49. 市の理想像」については、少なくとも6、8、13の何れかをあげたものと、それ以外、とに区分した。

●「問50. コミュニティという言葉からの連想」で

は、「趣味」、「講演会」、「地域の親睦」をとりあげて3項目とし、各々をあげたものとそれ以外という2カテゴリーとした。

●「問22×問23. 団体への積極的参加」については、第10章2節でふれた通りのカテゴリーの分け方による(付表31を参照)。このなかでは「組織活動団体」「P. T. A.」などは人数がかなり少ないが、しかしこれらは特徴的なものであり、他と併合しては意味を失なうので、そのまま残すこととした。

●「問39. 淋しい時の行動」については、選択肢6, 7, 8, すなわち「近所」と関連をもつ項目を選んだか否かによって分けた。

●「問48. 性格」については、関連が強く人数もかなりある5項目(5, 10, 12, 16, 17)を選び、それぞれ、それをあげたか否かによってカテゴリーを分けた。

さて、28の項目に数量化Ⅱ類を適用して、各類型の潜在的な構造を探っていこう。数量化Ⅱ類は、項目の各カテゴリーに数値が与えられたとしたとき、各人について、すべての項目の反応カテゴリーに関して与えられた数値の項目平均を算出し、この値にもとづいて、各個人のクラスに関する相関比の2乗が最大となるように、各項目・カテゴリーの数値をきめていく、という方法である。(クラスの数-1)個のランクの固有方程式の解として求まるが、ここでは、その最大根にみあう固有値、つまり(相関比)²、固有ベクトルの値(各項目の各カテゴリーの数値)のみをとりあげる。このことは、最大根が第2根に比べてかなり大きいので、最大根にみあう値で充分であると考えたからである。

サンプルに比し項目数が多いので、弁別はかなり効率がよく、相関比は0.6前後である。クラス間の弁別の様子は図13-20(武蔵野/第4類型の例)に示される。各類型に対する28項目の各カテゴリーに与えられる数値、および、この数値の各項目における range, クラスに対する各項目の単相関係数および偏相関係数を一覧表のかたちで表13-8および表13-9として示した。

単相関係数, 偏相関係数, range の何れもが、項目の効き方を示す指標である。とくに、偏相関係数は他の項目の条件を一定としたとき、その項

表 13-8
数量化Ⅱ類による分析結果(武蔵野/女)

質問 No.	項目	カテゴリー	人数	第1類型に対して			第2類型に対して			第3類型に対して			第4類型に対して		
				数値(x ₁)	range	相関係数	数値(x ₁)	range	相関係数	数値(x ₁)	range	相関係数	数値(x ₁)	range	相関係数
1	年齢	20歳	47	0.16	(0.11) ^⑦	-0.50	(0.20)	-0.29	(0.12)	0.11	(-0.17)				
		25歳	88	0.06	0.14	-0.20	0.07	0.07	0.07	0.21					
		35歳	134	0.16	0.62	0.29	0.14	0.03	0.36	0.10	0.21				
		50歳	109	-0.03	0.14	0.22	0.02	0.02	0.05	0.05	0.06				
		65歳	53	-0.59	0.14	-0.41	0.03	0.03	-0.07	0.05	0.06				
51	学歴	中学校(新)	60	-0.34	(0.13) ^⑧	0.00	(0.03)	0.09	(0.05)	0.16	(0.03)				
		高等学校(新)	314	-0.01	0.13	-0.02	0.02	0.04	0.10	-0.04	0.20				
		大学以上	57	0.41	0.75	0.11	0.12	-0.33	0.42	0.04	0.04				

44	職業	専業主婦, D.K.	141 62 187 41	0.14 -0.27 -0.13 0.53	0.80 0.14	(-0.00) 0.13	-0.13 -0.34 0.23 -0.08	0.57 0.10	0.62 0.20 0.07 -0.42	(0.17) 0.11 0.43 0.19	-0.56 -0.17 0.99 0.33	(0.33) 0.33
—	住居状況	一戸建/上 一戸建/中・下 集合住宅/上・中 集合住宅/下	89 155 135 52	-0.28 0.09 0.17 -0.23	0.45	(0.09) 0.12	-0.32 -0.27 0.32 0.45	(-0.01) 0.14 0.36 0.00	-0.24 0.12 0.02 0.00	(0.13) 0.10 0.46 0.22	-0.24 0.11 -0.06 0.22	(0.06) 0.11 0.46 0.11
—	住居所有	自家 借家 社宅等	250 141 40	-0.02 0.02 0.03	0.05	(-0.19) 0.01	0.18 -0.09 -0.82	(0.05) 0.13 1.00	0.04 -0.03 -0.10	(0.01) 0.03 0.14 -0.01	0.07 -0.13 0.20 -0.01	(0.08) 0.07 0.20 0.07
—	居住年(昭和)	35年以前 36~50年 51~53年 54年以降, D.K.	154 159 68 50	0.17 0.07 0.03 -0.80	0.97	(0.23) 0.18	0.29 -0.28 -0.07 0.08	(0.06) 0.12 0.57	0.06 0.07 -0.09 -0.28	(0.17) 0.02 0.08 0.10	-0.01 0.02 -0.11 0.10	(0.04) 0.05 0.21 0.05
43	政党	自民党 革新系 その他 無, D.K.	131 98 41 161	-0.20 0.22 0.02 0.03	0.42	(0.13) 0.10	-0.47 0.62 -0.25 0.07	(0.21) 0.21 1.09	-0.26 0.38 -0.12 0.02	(0.17) 0.17 0.17 0.14	0.09 0.09 0.04 -0.14	(0.16) 0.09 0.23 0.09
47	家族構成	定単既学学 位婚童童 家子以下 族子以下 身無 族無	36 48 74 136 137	-0.55 -0.32 -0.01 -0.02 0.28	0.83	(0.16) 0.15	-0.40 -0.10 0.11 0.14 -0.06	(0.16) 0.08 0.54	0.05 -0.05 -0.10 0.30 -0.25	(0.26) 0.29 0.15 0.43 0.16	-0.60 -0.29 1.16 0.56 -0.07	(0.43) 0.30 1.16 0.30 0.07
42	兄弟数	1~2人 3~4人 5人~	109 183 139	0.00 0.01 -0.01	0.02	(0.06) 0.00	-0.19 -0.03 0.19	(0.13) 0.07 0.38	0.07 -0.06 0.03	(-0.03) 0.04 0.10	-0.01 -0.07 0.17	(0.07) 0.06 0.17
—	コミュニティ地区	7. 西久保, 11. 境南 2. 吉祥寺北, 8. 関前 1. 吉祥寺東, 5. 中央 6. 中央北, 9. 境, 10. 桜堤 3. 吉祥寺西, 4. 吉祥寺南	91 66 58 113 103	0.15 -0.34 -0.29 -0.09 0.35	0.69	(0.07) 0.17	0.16 0.06 0.26 -0.28 -0.02	(0.05) 0.10 0.54	0.40 -0.46 0.15 -0.20 0.08	(0.08) 0.21 0.86 0.16 -0.12	0.17 0.00 -0.27 0.44 0.12	(0.15) 0.12 0.44 0.12 0.12

49	都市イメージ	少なくとも6, 8, 13 それ以外	110 321	0.09 -0.03	0.12	(0.10) 0.03	-0.10 0.04	0.14	(-0.08) 0.03	0.05 -0.02	0.07	(0.07) 0.02	0.23 -0.08	0.31	(0.21) 0.11
50	講演会	4. 「趣味」をあげた それ以外	158 273	0.02 -0.01	0.03	(0.04) 0.01	-0.20 0.11	0.31	(-0.00) 0.08	-0.00 0.00	0.00	(0.14) 0.00	-0.05 0.03	0.08	(-0.08) 0.03
		5. 「講演会」をあげた それ以外	148 283	-0.13 0.07	0.20	(-0.06) 0.06	-0.17 0.08	0.25	(-0.02) 0.06	0.24 -0.12	0.36	(0.15) 0.13	0.02 -0.01	0.03	(0.06) 0.01
2	市に愛着の理由	11. 「地域親交」をあげた それ以外	158 273	0.07 -0.04	0.11	(0.14) 0.04	0.14 -0.08	0.22	(0.12) 0.06	0.02 -0.01	0.03	(0.15) 0.01	0.10 -0.06	0.16	(0.13) 0.06
		積極的理由 それ以外(情性)	201 230	0.01 -0.01	0.02	(0.03) 0.01	0.11 -0.09	0.20	(0.05) 0.05	0.07 -0.06	0.13	(0.07) 0.05	0.14 -0.12	0.26	(0.10) 0.11
5	家周辺で困ったこと	2 以上	59	0.77	0.77	(0.30) 0.23	0.22	0.33	(0.06) 0.05	0.13 -0.25	0.38	(0.11) 0.11	0.51 0.03	0.64	0.20 0.17
		1, D.K. 非該当	111 261	0.17 -0.25	1.02	0.23	-0.11 -0.00	0.33	(0.06) 0.05	-0.25 0.08	0.38 0.08	0.11	0.03 -0.13	0.64	0.17
8	重点施策	「福祉対策」をあげた 否	246 185	0.08 -0.11	0.19	(0.13) 0.06	0.15 -0.14	0.29	(0.11) 0.06	0.09 -0.12	0.21	(0.13) 0.08	0.02 -0.02	0.04	(0.07) 0.02
		4 以上 2, 3 1 なし, D.K.	130 107 94 100	0.10 0.11 0.05 -0.43	0.10 0.63	(0.28) 0.15	0.52 -0.31 -0.35 -0.01	0.87	(0.18) 0.18	0.61 0.31 -0.29 -0.87	0.13 1.48	(0.47) 0.36	0.13 -0.10 -0.15 0.07	0.28	(0.16) 0.10
37	援助をうけた体験	あり なし, D.K.	208 223	0.19 -0.18	0.37	(0.21) 0.12	0.09 -0.08	0.17	(0.11) 0.04	-0.02 0.02	0.04	(-0.13) 0.01	0.24 -0.23	0.47	(0.28) 0.18
		地域関係団体に積極的参加 組織活動関係団体に積極的参加 P.T.A. に積極的参加 それ以外に積極的参加 参加のみ 参加せず, 無答	39 25 23 74 119 151	0.21 0.75 0.01 0.21 -0.07 -0.23	0.21 0.98	(0.31) 0.16	-0.19 0.45 -0.09 0.24 0.08 -0.20	0.65	(0.14) 0.11	0.06 0.32 0.60 0.22 -0.19 -0.12	0.06 0.32 0.79	0.06 0.52 0.10 0.12 0.03 -0.23	0.28 0.26 0.16 0.16 0.03 -0.23	0.28 0.52 -0.10 0.12 0.03 -0.23	0.75
39	淋しい時の行動	少なくとも6, 7, 8 それ以外	46 385	0.07 -0.01	0.08	(0.04) 0.02	0.35 -0.04	0.39	(0.09) 0.06	0.20 -0.02	0.22	(0.12) 0.05	0.33 -0.04	0.37	(0.18) 0.09

20	話題 1～3 番目	10-13 社会・地域など それ以外	79 352	0.21 -0.05	(0.17) 0.07	0.32 -0.07	(0.15) 0.08	-0.21 0.05	(-0.02) 0.07	-0.20 0.04	(-0.01) 0.08	
												5 を選 否
48	性	10. やり通す	158 273	0.13 -0.08	(0.13) 0.06	-0.03 0.02	(-0.03) 0.01	0.01 -0.01	(0.03) 0.01	0.18 -0.11	(0.43) 0.10	
		12. 責任感	126 305	-0.22 0.09	(-0.07) 0.08	-0.37 0.15	(0.00) 0.11	0.07 -0.03	(0.05) 0.03	-0.22 0.09	(-0.02) 0.10	
		16. 頼まれ	251 180	0.05 -0.07	(0.10) 0.04	0.26 -0.36	(0.16) 0.16	-0.01 0.02	(-0.07) 0.01	-0.01 0.02	(-0.10) 0.01	
40	大地震の時の行動	17. 人とうま	169 262	0.09 -0.06	(0.13) 0.05	-0.04 0.03	(-0.08) 0.02	-0.01 0.01	(-0.11) 0.00	0.06 -0.04	(0.13) 0.03	
		近所の人と	270 161	0.07 -0.11	(0.04) 0.06	0.10 -0.16	(0.05) 0.06	0.14 -0.23	(0.14) 0.13	0.06 -0.10	(0.09) 0.06	
各類型におけるクラス				クラスの数	クラスの数	クラスの数	クラスの数	クラスの数	クラスの数	クラスの数	クラスの数	
				積	0.89	53	0.81	56	1.16	54	1.18	58
				や	0.38	172	0.31	175	0.25	187	0.28	197
				や	-0.32	115	-0.45	124	-0.38	131	-0.66	131
各類型における相関比				クラスの数	クラスの数	クラスの数	クラスの数	クラスの数	クラスの数	クラスの数	クラスの数	
				1 根	0.33 (0.57)	0.23 (0.49)	0.38 (0.62)	0.43 (0.66)				
				2 根	0.14 (0.38)	0.14 (0.38)	0.17 (0.41)	0.11 (0.34)				
3 根	0.08 (0.29)	0.10 (0.32)	0.12 (0.35)	0.10 (0.31)								

(注)：相関係数の、上段()内の数値は単純相関係数を意味し、下段ゴザックの数値は偏相関係数を意味する。
偏相関係数の左肩に付された○印番号は、それぞれの「順位」内での「順位」(係数の大きい順位)を表わす。

表 13-9

数量化II類による分析結果 (三鷹/女)

質問 No.	項 目	カテゴリー	人数	第1類型に対して			第2類型に対して			第3類型に対して		
				数 値 (x_1)	range	相 関 係 数	数 値 (x_2)	range	相 関 係 数	数 値 (x_1)	range	相 関 係 数
—	年 齢	20歳 ~ 25歳	59	-0.07			-0.80			0.05		
		26 ~ 35	110	-0.02		(-0.08)	-0.46		(0.23)	0.21		(0.03)
		36 ~ 50	133	-0.06	0.23	0.06	0.26	1.32	0.20	-0.07	0.44	0.11
		51 ~ 65	85	0.16			0.31			-0.23		
		66	45	0.05			0.64			0.03		
51	学 歴	中 学 (新)	71	-0.31		(0.13)	-0.43		(0.09)	0.13		(-0.10)
		高 校 (新)	302	0.01	0.61	0.11	0.11	0.54	0.12	0.03	0.44	0.10
		大 学 以 上	59	0.30			0.07			-0.31		
44	職 業	専 業	151	-0.03		(0.15)	0.03			-0.12		(0.26)
		パ ー ト	52	0.32		0.12	0.08		(0.12)	-0.05		0.11
		主 婦	183	0.03	0.71		0.05	0.48	0.08	0.17	0.37	
		無, 学, D. K.	46	-0.39			-0.40			-0.20		
—	住居状況	一戸建/上	76	0.33			0.05			0.11		
		一戸建/中・下	181	-0.00		(0.14)	0.09		(0.01)	-0.05		(0.06)
		集合住宅/上・中	117	-0.18	0.51	0.11	-0.11	0.21	0.04	0.13	0.37	0.10
		集合住宅/下	58	-0.08			-0.12			-0.24		
—	住居所有	自 家	237	-0.05		(-0.03)	-0.32		(0.05)	-0.09		(0.05)
		借 家	158	0.03	0.27	0.05	0.29	1.04	0.15	0.11	0.19	0.06
		社 宅 等	37	0.22			0.73			-0.08		
1	居 住 年 (昭和)	35年以前	138	-0.08			-0.08		(0.12)	0.24		(0.09)
		36 ~ 50年	175	0.14		(0.18)	0.06		0.13	0.06		0.17
		51 ~ 53年	70	0.04	0.46	0.10	0.32	0.77		-0.37	0.61	
		54年以降, D. K.	49	-0.32			-0.45			-0.35		
43	政 党	自 民 党	115	-0.16		(0.12)	-0.05			0.21		(0.21)
		革 新 系	79	0.26		0.11	0.23		(0.11)	0.04	0.54	0.15
		そ の 他	34	-0.16	0.42		-0.21	0.44	0.07	0.36		
		無, D. K.	204	0.02			-0.03			-0.19		
47	家 族 構 成	定 位 家 族	68	-0.54			-0.31			-0.89		
		単 身	24	-0.12		(0.26)	-0.31		(0.21)	0.10		(0.43)
		既 婚 / 子 無 し	57	-0.35	0.83	0.21	-0.13	0.74	0.15	0.05	1.32	0.29
		学 童 以 下 有	135	0.29			-0.20			0.43		
		学 童 以 下 無	148	0.14			0.43			-0.02		
42	兄 弟 数	1 ~ 2 人	110	0.02			0.09			0.13		
		3 ~ 4 人	180	-0.13	0.27	(0.10)	-0.15	0.28	(0.11)	-0.10	0.23	(-0.04)
		5 人 ~	142	0.14		0.08	0.12			0.03		0.07

質問 No.	項目	カテゴリー	人数	第1類型に対して			第2類型に対して			第3類型に対して		
				数 値 (x_1)	range	相 関 数	数 値 (x_1)	range	相 関 数	数 値 (x_1)	range	相 関 数
—	コミュニティ地区	1. 井の頭	47	0.12			-0.12			-0.17		
		2. 牟礼	61	0.06			0.32			-0.02		
		3. 三鷹駅周辺	89	-0.08			0.10		(0.08)	-0.21		(0.14)
		4. 上連雀 (6~9丁目) 下連雀 (5~9丁目)	83	-0.19	0.36	(0.07) 0.09	0.04	0.77	0.13	0.04	0.44	0.12
		5.6. 井口, 深大寺, 新川, 中原	57	-0.06			-0.45			0.23		
		7. 大沢(除3丁目)野崎	95	0.17			-0.00			0.12		
		49	都市イメージ	少なくとも 6, 8, 13 それ以外	147 285	0.12 -0.06	0.18	(0.12) 0.06	0.05 -0.03	0.08	(0.10) 0.02	0.13 -0.07
50	「コミュニティの連想」 4. 趣味	4. 「趣味」をあげた それ以外	169 263	0.15 -0.09	0.24	(0.10) 0.08	0.09 -0.06	0.15	(0.06) 0.04	0.03 -0.02	0.05	(0.08) 0.02
		5. 講演会	166 266	-0.28 0.17	0.45	(0.00) 0.15	0.05 -0.03	0.08	(0.09) 0.02	-0.01 0.01	0.01	(-0.09) 0.00
	11. 地域親睦	11. 「地域親交」をあげた それ以外	153 279	0.07 -0.04	0.11	(0.12) 0.04	0.07 -0.04	0.11	(0.06) 0.03	-0.21 0.12	0.33	(0.03) 0.13
2	市に愛着の理由	積 極 的 理 由 それ以外 (惰性)	175 257	0.28 -0.19	0.47	(0.18) 0.16	0.36 -0.25	0.61	(0.20) 0.18	0.01 -0.01	0.02	(0.08) 0.01
5	家周辺で困ったこと	2 以 上 1, D.K. 非 該 当	51 115 266	0.62 0.20 -0.21	0.83	(0.26) 0.20	-0.26 0.26 -0.06	0.52	(0.07) 0.10	0.04 0.04 -0.03	0.07	(0.05) 0.03
8	重点施策	「下水道」をあげた それ以外	238 194	-0.02 0.02	0.04	(-0.10) 0.01	-0.11 0.13	0.24	(-0.03) 0.07	-0.03 0.03	0.06	(0.03) 0.02
14	利用施設種類数	4 以 上 2, 3 1 なし, D.K.	129 132 81 90	0.28 0.12 -0.31 -0.29	0.52	(0.30) 0.16	0.31 0.05 -0.23 -0.32	0.63	(0.19) 0.14	0.14 0.02 -0.04 -0.18	0.32	(0.20) 0.09
37	援助をうけた体験	あり なし, D.K.	199 233	0.06 -0.05	0.11	(0.15) 0.04	0.09 -0.08	0.17	(0.14) 0.05	0.31 -0.26	0.57	(0.31) 0.22
22 × 23	団体に積極的参加	地域関係団体に積極的参加 組織活動関係団体に積極的参加 P.T.A.に積極的参加 それ以外に積極的参加 参 加 の み 参 加 せ ず, 無 答	48 10 21 106 132 115	0.34 1.17 0.26 0.28 -0.25 -0.28	1.45	(0.31) 0.23	0.32 0.79 0.56 -0.04 -0.18 -0.06	0.97	(0.19) 0.14	0.58 0.09 -0.05 0.04 0.08 -0.37	0.95	(0.32) 0.21

質問 No.	項目	カテゴリー	人数	第1類型に対して			第2類型に対して			第3類型に対して			
				数値 (x_1)	range	相関 係数	数値 (x_1)	range	相関 係数	数値 (x_1)	range	相関 係数	
39	淋しい時の行動	少なくとも6,7,8 それ以外	44 388	-0.23 0.03	0.26	(0.00) 0.06	-0.15 0.02	0.17	(0.00) 0.03	0.44 -0.05	0.49	(0.21) ^⑨ 0.12	
20	話題 1~3番目	10~13. 社会・地域な どそれ以外	76 356	0.16 -0.03	0.19	(0.06) 0.05	0.38 -0.08	0.46	(0.06) 0.11	0.06 -0.01	0.07	(0.03) 0.02	
48	性 格	5. 勇気	5 を 選 択 否	32 400	1.11 -0.09	1.20	(0.21) ^⑩ 0.21	0.48 -0.04	0.52	(0.08) 0.08	-0.28 0.02	0.30	(0.01) 0.06
		10. やり 通す	10 を 選 択 否	162 270	-0.05 0.03	0.08	(-0.09) 0.03	-0.09 0.05	0.14	(-0.05) 0.04	-0.06 0.04	0.10	(-0.00) 0.04
		12. 責任 感	12 を 選 択 否	148 284	-0.02 0.01	0.03	(-0.12) 0.01	-0.05 0.03	0.08	(-0.09) 0.02	0.13 -0.07	0.20	(0.09) 0.07
		16. 頼ま れ	16 を 選 択 否	243 189	-0.02 0.03	0.05	(-0.05) 0.02	0.19 -0.25	0.44	(0.17) ^⑪ 0.13	0.04 -0.06	0.10	(0.14) 0.04
		17. 人と うまく	17 を 選 択 否	173 259	-0.07 0.05	0.12	(-0.06) 0.04	0.08 -0.05	0.13	(0.09) 0.04	0.13 -0.09	0.22	(0.13) 0.08
40	大地震の時の 行動	近 所 の 人 と 一 人 で	261 171	-0.03 0.05	0.08	(-0.01) 0.03	0.05 -0.08	0.13	(0.05) 0.04	0.14 -0.22	0.36	(0.22) ^⑫ 0.14	
各類型における クラス				クラスの 数 値 人 数		クラスの 数 値 人 数		クラスの 数 値 人 数					
1. 積 極 的				1.46	43	1.17	51	0.78	59				
2. や や 積 極 的				0.38	78	0.16	191	0.50	170				
3. や や 消 極 的				-0.04	173	-0.34	127	-0.46	151				
4. 消 極 的				-0.62	138	-0.73	63	-1.18	52				
各類型における 相関比				η^2	η	η^2	η	η^2	η				
第 1 根				0.36	(0.60)	0.29	(0.53)	0.42	(0.65)				
第 2 根				0.14	(0.37)	0.12	(0.35)	0.20	(0.45)				
第 3 根				0.12	(0.35)	0.12	(0.34)	0.13	(0.36)				

(注)：「相関係数」の、上段()内の数値は単純相関係数を意味し、下段ゴチックの数値は偏相関係数を意味する。偏相関係数の左肩に付された○印番号は、それぞれの「類型」内での「順位」(係数の大きい順位)を表わす。

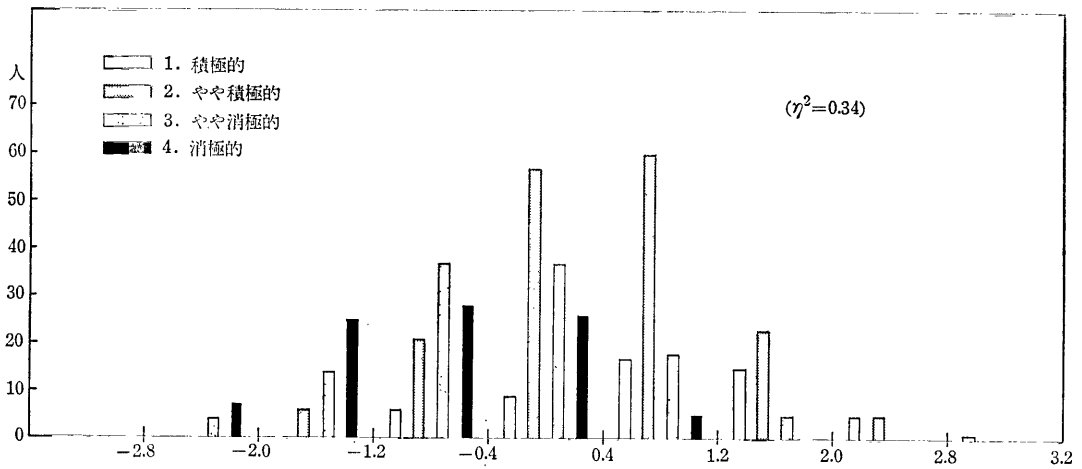


図 13-20 クラス間の弁別(武蔵野/女/第1類型の場合)

目が各類型のクラス弁別にどれほど効いているかを示すものであり、これと range を考え合わせて、効いている項目に考察を加えていく。なお、各カテゴリーに与えられる数値は、他項目との関連の上で求められた値であるので、その値の大きがそのまま各類型における積極 ↔ 消極のクラスを測る尺度にはならない。したがって、クロス集計表により、そのカテゴリーにおける分布が積極性に傾いているか否かを合わせてみていく必要がある。

(1) 武蔵野/女について

●第1類型「理念的活動型」の特徴

「問5. 家周辺で困ったこと (の種類数)」が偏相関係数において1位で、range も1位であり、非常に効いている項目であることがわかる。とくに「2以上」というカテゴリーは数値も高く、クロス集計表(付表2~3)からも有意に効いていることが示されている。このことから、地域に対する関心の高さは「理念的活動」での積極性を示すものと言えよう。

なお、前節でふれた1976年の前回調査(武蔵野/女)に数量化Ⅲ類を適用して得られた「理念的活動型」に対しても17個の「説明項目」を用いて数量化Ⅱ類を適用してみた。その結果においても、

この項目は最も効いていた。それ故、「問5. 家周辺で困ったこと」という項目がこの類型での積極 ↔ 消極性に関連深いということは、安定性のある現象とみてよいだろう。

「コミュニティ地区」は、偏相関係数で3位であり、〔吉祥寺西, 吉祥寺南〕地区(C.C. は未設置)や、〔西久保, 境南〕地区(C.C. 設置が古く、センター活動はかなり活潑)が、数値からもクロス集計表からも積極性を示している地区であることがわかる。このことは、C.C. の設置とは無関係に、これらの地区に意識の高い人々が多いということの意味している。

「団体参加」は、偏相関係数では4位であるが range は2位であり、かなり効いている項目である。「組織活動関係の団体に積極的参加」のカテゴリーが最も高い値であり、クロス集計表からは、これが「地域関係団体参加」とともに積極性を示している。やはりこうした活動をしている人々が、コミュニティに関しても意識が高く、活動にも積極性を示すということがわかる。

「学歴」は、高い方が数値も高く、クロス集計表においても高い方が積極性に多くの比率を示している。

その他に効いている項目をみると、「居住年」や「職業」、「年齢」や「家族構成」であるが、前二

者は後二者と内部相関が比較的にあるので、カテゴリ値をそのまま積極性の尺度とみることはできない。

その他、偏相関係数について10位までの項目をあげるとすれば、「利用施設種類数」(5位)、「住居状況」(10位)がやや関連があると言えよう。

●第2類型「連帯活動型」の特徴

すべての類型を通して、最も相関比が低く($\eta^2=0.24$)、弁別の悪い類型である。

「支持政党」が、項目の中で最も強く効いており(偏相関係数、rangeともに1位)、このことは武蔵野の特徴と言えよう(三鷹では、類似の類型/第2類型において1位は年齢である)。積極性を示しているのは「革新系」であり、このことは数値およびクロス集計表から明らかにみられる。

偏相関係数で2位は「利用施設の種類の数」であり、「4以上」と答えた層は数値も高く、クロス集計の結果からもこのことがうらづけられる。公共施設もよく利用する人々は、住民運動的活動に積極性を示すことが明らかである、と言える。

偏相関係数の3位は、「性格」のなかでの「頼まれるとことわれない」という項目であり、8位の「責任感がある」とともに性格要因の方が政治意識や生活行動のような社会関連の項目より効いており、この第2類型の潜在構造には個人の性格特性が占める割合が多い、ということがうかがえる。

「年齢」(偏相関係数で4位)は、やはり中年層で数値が高く、クロス集計の結果からも「36~50歳層」に積極性がみられる。

「住居状況」「住居所有」「居住年」と居住に関する項目も10位以内の効く項目となっているが、前二者は内部相関もあり、1つの項目の数値そのものには余り意味がないが、居住の状況が「連帯的活動」に関連があるということは明らかである。

●第3類型「地域活動型」の特徴

最も効いている項目は「利用施設種類数」であり、多種利用しているほど積極性が示され、施設利用を中心に活動に積極性をもっていることがわかる。

次に効いている項目は「コミュニティ地区」であり、数値、クロス集計の結果のいずれにおいても、積極性を示す順位はC.C.設置年の古い順に

なっており、この類型に対するセンター活動の重要性がみられる。

次いで、「支持政党」「団体参加」「家族構成」が偏相関係数が高く、「政党」では「革新系」,「団体」では「P.T.A.に積極的参加」,「家族構成」では「学童以下の子のある家族」の層において積極性が示される。

続いて「コミュニティという言葉からの連想で“講演会”をあげたか否か」と「大地震の時の行動」が効いている。前者はやや意識の高さを、後者は近隣親交を示すものであり、この類型が、この両方にまたがったタイプのものであることをうらづけているとみられよう。

次には「職業」が効いており、「パート従事者」が積極性を示していることもこの類型の特徴と言えよう。

●第4類型「近隣親交型」の特徴

最も効いている項目は、「職業」(「主婦」層が積極性を示す)、「家族構成」(「学童以下の子あり」層が積極性を示す)であり、次いで「近隣からの援助を受けた体験」(「有り」の層が積極性を示す)が効いている。このことは「近隣親交」のタイプをよく表現していると言えよう。

次には、「家周辺で困っていること」と「団体参加」が効いている。これらは第1類型や第3類型にも効いていた項目であるが、効き方は多少異なる。とくに「団体参加」では「地域関係団体に積極的参加」がかなり高い数値を示し、これはクロス集計からもうらづけられる。

続いては「コミュニティ地区」が効いているが、これも第1、第3類型と異なり〔中央北、境、桜堤〕〔吉祥寺北、関前〕〔西久保、境南〕の地区が積極性を示し、設置の関係ではなく、地域の社会的成層により近隣親交のパターンを示しているということがわかる。

「市に愛着をもつ理由」が、この類型でのみ、偏相関係数で10位以内に入ってきて、効く項目の中にはいる。これも近隣親交型の特徴を示すものと考えられる。

(2) 三鷹/女について

●第1類型「理念的地域活動型」の特徴

武蔵野の第1類型とは多少異なるので、項目の

効き方も多少は異なってくることは予想されていた。しかし、その差異は著しいものであった。

まず、偏相関係数および range の何れによっても、第1に効いている項目は「団体参加」である。しかし、「住民運動関係に積極的参加」の категорияは人数がとくに少なく(10人)、このためにこの項目が第1に効くことになったとも考えられる。ともあれ、このカテゴリーに属する人の半数は、この類型で「積極的」に属している。

第2に効いている項目は、性格のなかの「勇気がある」である。これをあげた人数も比較的少ないが、武蔵野と大体同数であり、武蔵野では少しも効いていなかったことを考え合わせれば、やはり三鷹の特徴とみることができよう。すなわち、三鷹において、これは様な活動をする人々は「勇

気がある」と自認している人々であり、社会的関連の項目以上に個人の性格特性が効いていることに注目すべきであろう。

第3に効いている項目は「家族構成」であり、「学童以下の子あり」の層が数値も高く積極性を示している。

偏相関係数で第4位から第7位までに効いている項目は、「家の周辺で困ったこと」「市に愛着の理由」「利用施設数」「コミュニティの連想に“講演会”をあげたか」であり、地域的なことがらと関係の深い項目である。

そして、次に8位以下で効いている項目に職業、学歴、支持政党が続く。このように、第1類型に効く項目の順位は、両市の間に差異があり、このような理念的な地域活動に向かう人々の意識

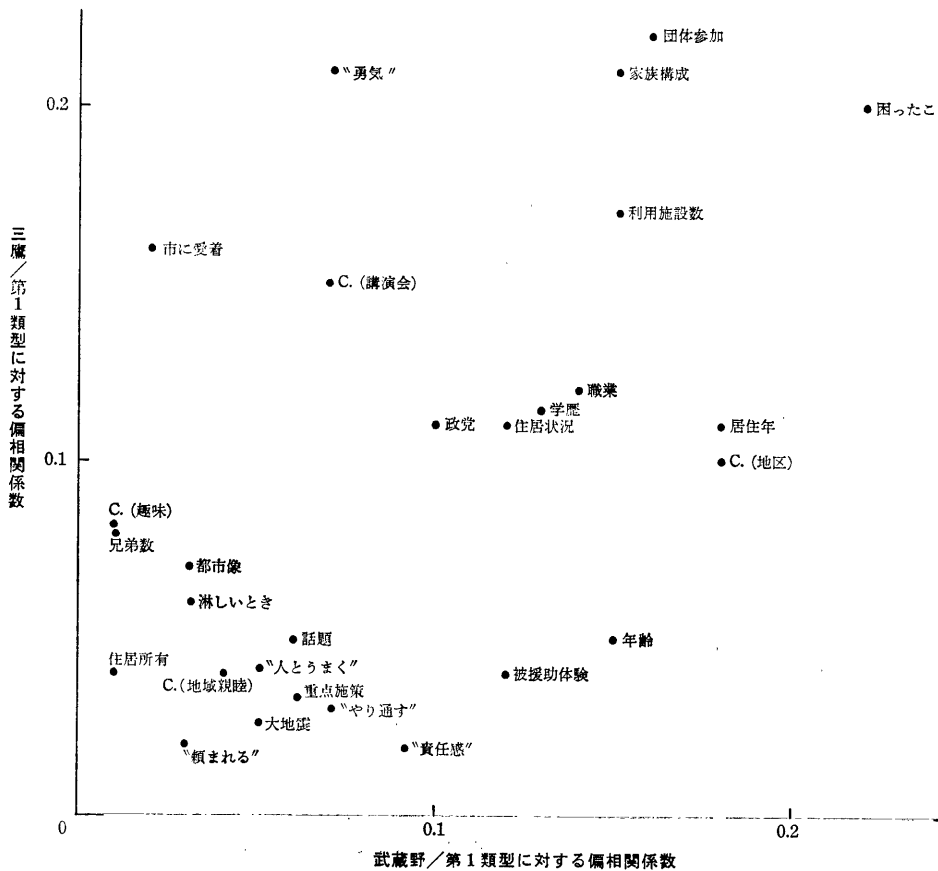


図 13-21
武蔵野・三鷹両市の異同 (1)

構造も、両市間で異なることがうかがえる。ちなみに、28項目の第1類型に対する偏相関係数にもとづいて、両市間で相関図を描いてみると図13-21のようになる。

図をみると、「困ったこと」「団体参加」「家族構成」「利用施設種類数」などは、比較的両市共通に効いている項目であることがわかる。しかし、「居住年」「コミュニティ地区」、「年齢」などの項目は武蔵野のみに、「勇気」「市への愛着理由」「コミュニティの連想(講演会)」は三鷹のみに効いている。このことから、このタイプの活動参加は、三鷹においては、個人の心理的・社会的行動特性によって積極性を示すが、武蔵野においては、より普遍化しており画一化しているとみることができよう。

●第2類型「連帯活動型」の特徴

三鷹の第2類型は、武蔵野のそれと殆ど類似している。そこで、項目の効き方も類似しているか否かをみていこう。

偏相関係数にもとづいて両市の間に関関図を描くと図13-22の通りである。

図からつぎのことがわかる。三鷹では「市への愛着理由」がかなり効いている項目(2位)であるが武蔵野では効いておらず、武蔵野では「支持政党」が効いているが三鷹では効いていない。このほか、「住居状況」「責任感がある」は武蔵野においてかなり効いているが三鷹では全く効いておらず、「学歴」は三鷹では効いているが武蔵野では効いていない、という差異がみられる。しかしこれらの項目を除けば、他の項目の効き方は両市

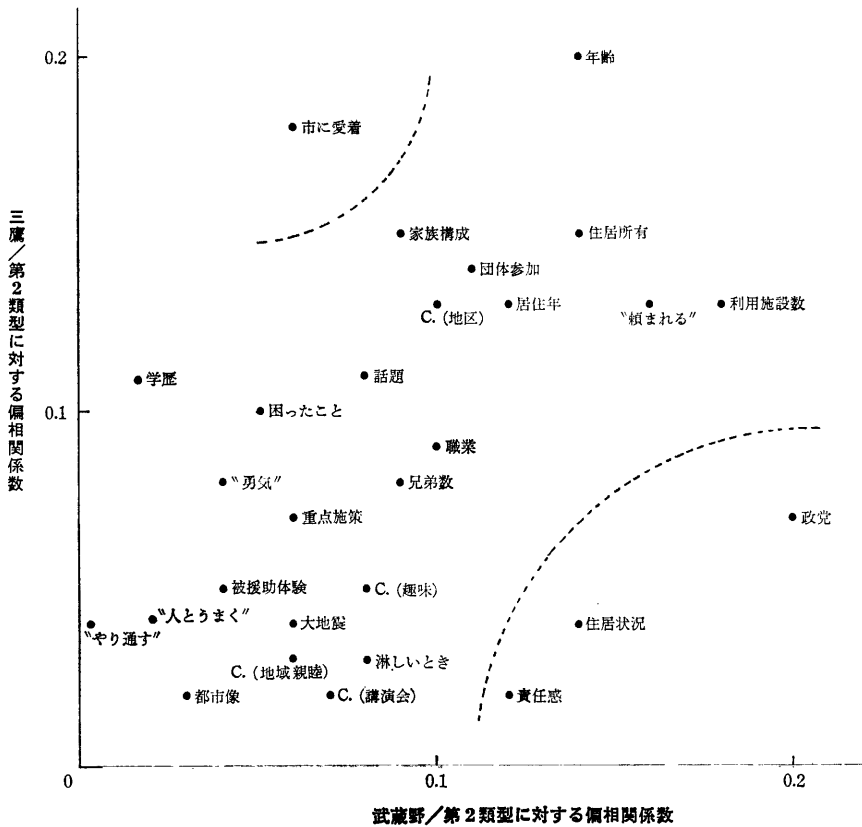


図 13-22
武蔵野・三鷹両市の異同(2)

でかなり類似をみせている。

●第3類型「近隣親交型」の特徴

これは、武蔵野の第4類型とみ合う類型であるが、項目群は全く同じではない。そこでまず、項目の効き方について両市を比較してみる。武蔵野における第4類型に対する偏相関係数の値と三鷹における第3類型に対するそれとで相関図を描いてみると図13-23のごとくである。

「家族構成」の偏相関値が著しく高いことは両市共通であり、「学童以下の子あり」の層で最も積極性を示し、「定位家族層」で最も消極性を示すことも両市共通である。

「援助をうけた経験」や「団体参加」も両市共通に効いている項目である。しかし、「団体参加」については、三鷹では「地域関係団体に積極的参加」がこの類型に対して最も積極性を示しているが、武蔵野では「組織活動関係に積極的参加」である。

「職業」は武蔵野では最も効いている項目であったが、三鷹では偏相関係数で10位であり余り効いていない。このことは、三鷹においては「職業」と「家族構成」との内部相関が高く(0.41)、後者に吸収されたからと考えられる。

この他、「家の周辺で困ったこと」「市への愛着理由」などは、武蔵野では比較的効いている項目であるが三鷹では殆ど効いておらず、かえって、「居住年」「支持政党」などが効いている。さらに、「大地震の時の行動」や「コミュニティの連想で“地域親睦”をあげたか」という項目も、三鷹では比較的効いている項目である。なお、三鷹における「支持政党」で、この類型に最も積極性を示すカテゴリーは「その他の政党」であり、これに属する人の半数は公明党である。

三鷹の第3類型には「地域行事に参加」が併合されており、このことから三鷹においては、地

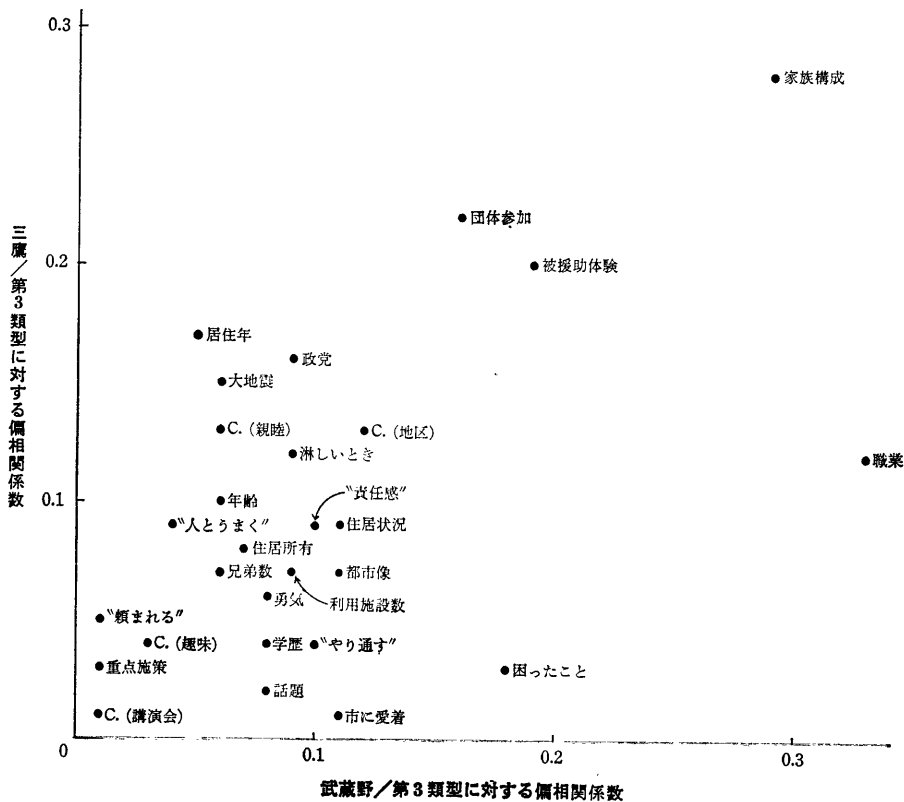


図 13-23

武蔵野・三鷹両市の異同(3)

域共同体的近隣親交の様相が見られる。これに対し、武蔵野の第3類型は、人間関係の意味での近隣親交型とみることができよう。

項目の効き方の差異も、両市における近隣親交の内部構造の差異の表現とみられよう。

以上、武蔵野／女および三鷹／女のサンプルより得られた各類型における「クラス」(積極 ←→ 消極を示す)と「説明項目」28項目との関わり方を数量化Ⅱ類を適用して吟味してきた。関わり方を検討することをおして、武蔵野・三鷹両市の

共通性および差異性が理解できた。また、各類型を特徴づけている潜在的な構造も把握することができた。

なお、両市の男のサンプルについても数量化Ⅱ類を適用して同様の分析を実施した。しかし、女のサンプルの場合と同じ項目を用いると、項目数がサンプル数(回答数)に比してかなり多くなり、相関比は高い値を示して、結果(項目・カテゴリーの数値)は再現性の低い意味のうすいものとなってくる。この理由から、男のサンプルの結果については割愛した。

分析結果の要約と研究の総括

1. 地域に対する意識・行動における男女差	196
(1) 「積極性」における男女差	196
(2) 「整合性」における男女差	198
(3) 「属性との連関」における男女差	198
2. 武蔵野・三鷹両市の共通性—巨視的見地からみた特色—	198
(1) 「単純集計」の結果から	198
(2) 「診断項目」と「説明項目」の連関から	198
(3) 「診断項目」相互の連関から	199
(4) 「多変量解析」による項目類型から	199
(5) 「項目類型」に対する「説明項目」の効き方から	199
(6) 地域概況にみる共通性	200
3. 武蔵野・三鷹両市の相異性—微視的見地からみた特色—	200
(1) 「単純集計」の結果から	200
(2) 「診断項目」と「説明項目」の連関から	202
(3) 「診断項目」相互の連関から	202
(4) 「多変量解析」による項目類型から	204
(5) 「項目類型」に対する「説明項目」の効き方から	204
(6) 地域概況にみる相異性	205
4. コミュニティ形成に向けての働きかけ	205
(1) 普遍的事項	205
(2) 個別的事項	206
5. 地域住民意識の調査と分析への覚え書き	207

第1章で述べた通り、本研究において私たちは、「コミュニティ形成」を促進していくための行動科学的なシステム・モデルを探索していくことを目標に、その第1ステップとして、フィールドとして選定した武蔵野・三鷹の2地域において「地域概況の分析」をおこない(第2章)、これを踏まえて「地域住民の意識調査」を実施し(第3章)、その結果について分析をおこなった(第4章～第13章)。この結果、コミュニティ形成に向う社会的および心理的基盤に関する貴重な情報が数多く得られた。

本章においては、まず、住民の地域に対する意識構造における男女の差について要約しよう。この種の多くの調査においては男女を分けて分析せず、属性の1つとして性別を扱っている場合が多い、しかし、地域住民の意識を解析するにあたって、地域社会との接触に関しての性別による差異は、その社会的・生活空間の差異により決定的なものと考えられる。したがって男女を合わせて「住民」として捉えた場合には、明瞭に分析できる意識構造も判然としないものになりかねない。そこで住民意識の分析にあたっては男女別々に行なうことが必要であろうことが示唆される。

つぎに、本研究で選定した2地域における住民意識(男女別)の調査・分析の結果得られた情報の概要を示そう。これは、武蔵野・三鷹両市の共通性(類似性)の中にみられるもの、すなわち巨視的見地における特色と、両市の相異性の中にみられるもの、すなわち微視的見地における両市各々の特色とに分けて見ていく必要がある。このことは本研究の結果を将来ほかの地域に適用して考える際、考慮すべき重要なことと考えられるからである。この両市の共通性と相異性を見ていく際、住民意識の調査結果は地域概況との関連において考察されることが必要である。

そして最後に、これらの巨視的・微視的立場により把握した情報に基づいて、研究の次のステップに向けての示唆を提示し、さらに住民意識調査の方法論についても触れる。

地域に対する意識・行動における男女差

住民の意識調査に関しては当初より男女において異なることを想定し、とくに居住地域に対して女性が深く関わっていると考えられることから、サンプルの割当も女性を多く抽出することにした。第5章以降の分析もすべて男女別におこない、その様相を対比してきた。

分析の結果、当初の想定のとおり、男女により地域との関わり方の異なることが明らかに見られた。この差異は、個々の質問における回答への積極性の多少、回答全般の整合性の多少、「診断項目」と「説明項目」との連関など、多くの点においてみられた。

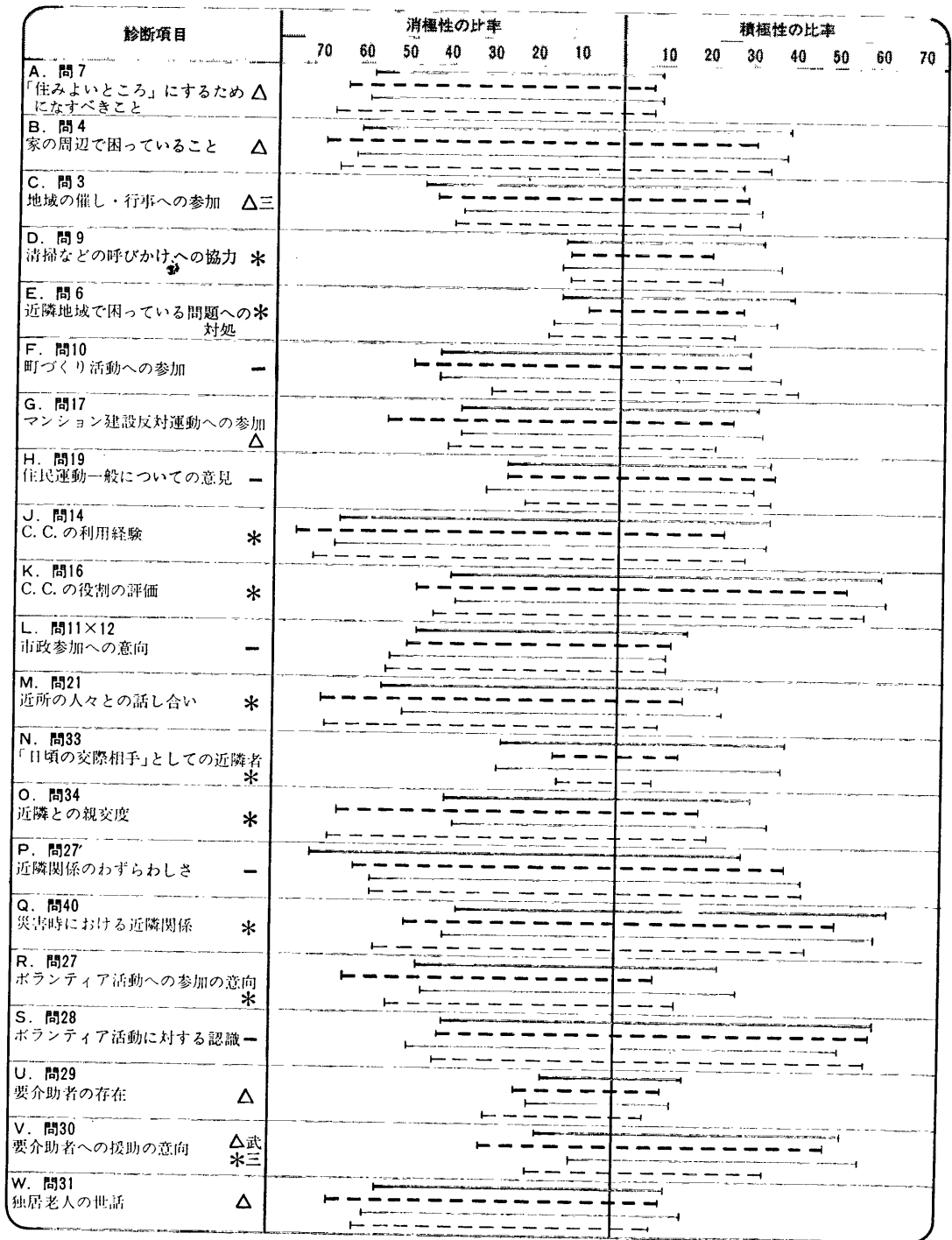
地域住民と一口に言うことが多いが、今後ますます女性の社会的進出が多くなることを考えあわせれば、「住民」を世帯単位として見るべきものではなく、男と女とを分けて考えることがより効果ある対処を導き得るものと考えられる。

(1) 「積極性」における男女差

第12章で述べたコミュニティ形成に向う過程の「診断項目」(21項目)について、各々の項目で積極性(positive)を示すと考えられるカテゴリー、逆に消極性(negative)を示すと見られるカテゴリーにそれぞれ反応した比率に着目して男女を比べてみると、図14-1に示したとおりである。

積極性を示すカテゴリーの比率で有意差(5%水準)が認められた項目は9項目に及び、有意差は認められないものの差のあるものは7項目であり、差の全くみられないもの或いは男の方がむしろ積極性がやや多いとみられるものは問10、問19、問11×12、問27'、問28の項目のみである。これらの項目は、概念的なもの(問28)または理念的参加活動(問10、問19、問11×12)が殆どである(問27'は「タテマエ」の表現であろうか)。

以上の事実からみて、地域に対する態度はその



男女間の差異 { * 5%水準で有意差あり
 Δ 有意差なし、差あり
 - 男に積極性

————— 武蔵野/女
 - - - - - 武蔵野/男
 ———— 三鷹/女
 - - - - - 三鷹/男

図 14-1 21個の「診断項目」にみる積極性と消極性の比率

積極度によって男女により著しく異なることが明らかである。

(2) 「整合性」における男女差

回答間の整合性が男の回答に少ないことは、第5章から第12章までに触れた多くのクロス集計の分析の中にも見られる。たとえば、或る項目に対する属性の効き方は類似であっても回答パターンの類似性が少ないとか、或いはまた他の調査結果等から当然類似であろうと考えられる質問間に類似性がみられないなど、一貫性が女の場合より少ないことがみられた。

このことは、項目間の類似度の比較などによって数値的にはっきりと捉えることは難しい。男のサンプルが少ないことから、男女によってカテゴリーの分類を変えている場合もあり、また男については、女についておこなった様な χ^2 値による項目間の近似度も、女と同じ尺度によっては算出されないなどによるものである。しかし、このことは、第13章に示した21個の「診断項目」の類型化(数量化Ⅲ類を適用)の際に明らかになる。すなわち表13-4(p.178)に示された「診断項目」の分類による2次元配置は、積極性⇔消極性を示すカテゴリーの位置づけが女の場合のように凝縮性が少なく、回答に一貫性の稀薄なことを示していた。

(3) 「属性との連関」における男女差

21個の「診断項目」に対する属性の効き方についても、次のように男女によってその効き方の差異が著しい。すなわち、女では中年、高学歴、主婦層が積極性を示すが、男では高年、低学歴、自営業層であり、男においては殆ど居住地域への接触度(主として時間的)によってのみ積極性が示されるものとみられる。支持政党において、女においては革新系支持者が積極性を示しているのに対し、男においては自民系支持者が積極性を示していることもこれをうらづけていると考えられる。

以上のことから、男女の差異の著しいことは明

瞭である。

地域社会の問題に対しては世帯(家族)単位で関わるのが本来であるとしても、少なくとも現代の日本の社会において男女の生活空間が異なり、地域の実際の活動や社会資源の利用等の関わりを通じた地域との関係は、男と女によって著しく異なることは事実である。したがって今後、「コミュニティ形成」を促進していくにあたって、家族単位に向けて対策を検討することはもとより、さらに男女差を十分に考慮して、男と女に対してそれぞれ異なった対策をたてていくことを考える必要があるだろう。

2

武蔵野・三鷹両市の共通性 —巨視的見地からみた特色—

第5章から第13章にわたって住民の意識調査の結果を詳細に分析したが、両市の共通性は次の様な段階においてみることができよう。

(1) 「単純集計」の結果から

第5章から第11章まで各項目に対する回答分布を示してきたが、両市の間で、僅かな差異は認められるものもあったとしても、殆どの項目において回答の分布は著しく類似していた。とくに21個の「診断項目」について積極性⇔消極性の比率を描いた図14-1においても明らかなように、両市の間には殆ど差が認められない。ちなみに、これらの項目について両市間の差異を男と女各々について χ^2 検定により調べてみると、5%水準で有意差を示す項目は男女各々3項目ずつであり、18項目については有意差が認められない(有意差のある項目については後述)。したがって、このような質問項目に対する回答パターンは、両市において極めて類似していると言えよう。

(2) 「診断項目」と「説明項目」の連関から

第12章2節に詳述されている通り、「説明項目」

の効き方の程度や効いているカテゴリー等も、両市間で多少の差異がある場合もあるが（たとえば支持政党、都市イメージとの連関など）、概ねは両市間の差異は少ないと考えられる。

付図1～19をみても、効き方を示すZ値の全体的な様相は、男女とも両市間で類似している場合が多い（全体的なZ値の傾向について両市に差異がみられる「説明項目」は、男については2項目、女については3項目であり、これ以外の「説明項目」に関しては殆ど類似の様相を呈している）。最も積極性を示す（値の高い）カテゴリーについても両市は極めて類似している（表14-5を参照）。

（3）「診断項目」相互の連関から

診断項目の中での相互連関の類似性については第13章1節で述べた通りであり、21項目の相互連関度（ $\alpha_1 C_2 = 210$ 通り）のうち、両市を比較すると、「全く一致」が45%、「一段階の差」が35%であり、相互連関の状況は8割程度が両市間ではほぼ一致しているとみられ、両市の意識構造の類似はさらに確められる。

（4）「多変量解析」による項目類型から

項目の類型に関しては、女性回答者については次の通りである。理念的活動と考えられる項目（A, F, L）と近隣親交に関する項目（M, N, O）とは明瞭に分れて分類され、その中間に連带的活動に関する項目（G, H, R, V）が1群をなすということについては両市共通の結果である。このことは、後述されるような地域概況をもった大都市地域における一般的傾向と考えられよう。これは前回調査（1976年、武蔵野/女）の結果からもうらづけられることである。ただし、今回の調査結果の特徴として、住民運動的問題に対する反応と福祉活動に対する反応とが類似性を示して同一群となったこと、しかもこれは両市共通の現象であったことは注目すべきであろう（前回調査では、とり扱った項目も異なるが、福祉活動は近隣親交の項目と近似していた）。住民運動的活動は、現

在においては、単に理念的活動というよりむしろ福祉活動と同じ水準の地域活動であり、さらに福祉活動はいわゆる情宜的なレベルではなく、住民としての意識に基づいた或る種の地域連帯の活動として把握されていることがみられる。なお男の回答者については、数量化Ⅲ類による類型に明瞭なものとは得られなかったものの、理念的活動としてE, G, V, 地域親交活動としてC, J, K, P, 近隣親交的項目としてM, N, Qが両市共通の項目であった。

（5）「項目類型」に対する「説明項目」の効き方から

これについては女性に関してのみ分析結果を得ている。

理念的活動項目群による、積極性↔消極性を弁別することに有効な説明項目は、次のものが両市共通のものであった。すなわち、「家の周辺で困ったこと（種類数）」「団体参加」「家族構成」「利用施設数」などが両市共通に最も効いており（2市において別個に効いている項目については後節で扱う）、次いで「職業」「住居状況」「政党」等の属性項目が続く。「団体参加」は他の項目類型にも効いている項目であり、「住民運動関係団体に積極的参加」の層が最も積極性を示していることも両市共通である（ただし、近隣親交項目群に対しては三鷹市では積極性を示すカテゴリーは異なる）。「家族構成」もすべての項目群に効いている項目であるが、積極性を示すカテゴリーは両市共通ではない。「家の周辺で困ったこと」と「利用施設数」は理念型項目群のみに効く項目であった。とくに前者は、前回調査の際も効いている項目であり、この種の意識・行動が理念的活動と結びつくことも両市に共通して言えることと考えられる。

連带的活動項目群に対して最も効いている項目は両市共通に「年齢」であるが、最も積極性を示す年齢層は両市において多少異なる（武蔵野36～50歳、三鷹51～65歳）。その他、「住居状況」「居住年」「コミュニティ地区」「学歴」等の属性と、「利用施設数」「頼まれるとことわれない」という性格とが両市共通に効いている項目である。

近隣親交型項目群に対しては、「家族構成」「団体参加」「近隣から援助を受けた経験」の項目が両市共通に効いている。

以上のことから、項目類型の固さと同様、効いている「説明項目」の共通性からも、武蔵野・三鷹のような地域概況をもつ地域においてのかなり安定した結果として、女性の地域社会への意識構造をみることができる。

以上、単純集計、クロス集計、さらに多変量解析によって両市の多くの共通性をみてきた。これら両市においては、回答の状況からかなりの部分の共通性が得られるということが明らかになった。つぎに、これらの共通性の根源を地域概況の中にみていこう。

(6) 地域概況にみる共通性

第2章に詳述されている通り、武蔵野および三鷹市は東京の西部に位置し、早くから発達した国鉄中央線の沿線上3つの駅にまたがって位置している。都心から18kmの地点にあり、山の手台地から連続した台地であり、都中心部からの連続した住宅地の延長上に位置している。いずれも、大正末期から次第に住宅地として開拓された所である。農業世帯も極めて僅か残っているものの、戦後のいち早い市制施行とともに新宿副都心化に従って、高度成長経済の波に乗り、給与生活者の住宅地として発展してきた地域であり、生活近代化水準*は都内でも最も高い。一方、行政側も、人口増大に伴なう市の発展と共に市の新しい施策をたて、住民参加の市政、コミュニティの形成に力を注ぎ、コミュニティ・センターの建設も意欲的に行ってきた市である。

以上述べた両市の共通性から、概略的に次のことが言えよう。それは、巨視的見地に立った1つの結論とも言うことができる。すなわち、都心から約20km(約1時間)、副都心から約20分程度の地理的位置、首都の住宅地として開拓されて約

60年を経、かなり高度の生活環境状況およびそれと関連した住民階層(半数以上がサラリーマン世帯、学歴・職種も水準が高い)の地域で、行政側もコミュニティづくりに積極的な態勢にある地域においては、住民の意識構造は次の通りである。

すなわち、住民としての地域に対する意識およびその潜在構造は、男女において著しく異なる。男は、女に比し、居住地域コミュニティに対しての積極性は少なく、意識構造において整合性も少なく、積極性に関連する属性も異なるのである。

3

武蔵野・三鷹両市の相異性 — 微視的見地からみた特色 —

両市の相異性を、まず、住民意識調査の分析結果のなかにみていこう。

(1) 「単純集計」の結果から

質問項目に関する回答パターン(多くの場合、カテゴリーは積極↔消極を示す段階に併合)について両市の差異を男女別に χ^2 検定で調べた結果、有意差(5%水準)のあった項目は表14-1に示す通りである(差を生じたカテゴリーとそのカテゴリーにおいて、比率の多い方の市名、および差を生じた性別とを付記しておく)。

このうち、「診断項目」については女では2(F, P)、男では3(F, G, V)のみである。「F/問10. 町づくり活動への参加」は、男女ともに三鷹に積極性比率が多い。このことは、三鷹においてこのような連帯的活動を肯定する意向がやや多いということとみられよう。「P/問27. 近隣関係のわずらわしさ」を否定する者が三鷹/女にやや多いことも、三鷹における近隣志向を示すものとみられよう。男の回答者について、「G/問17. マンション建設反対運動への参加」が三鷹/男にやや多く、「V/問30. 要介助者への援助の意向」が武蔵野にやや多いことは、いずれも周囲の動向に影響された理

* 生活近代化水準とは、所得格差、一人当り数、上水道・下水道供与人口比、医療施設、(対昼間人口比)等による数値である。『78民力』によると、武蔵野191、三鷹182であり、他の地区(160以下)より群を抜いて高い。

表 14-1 武蔵野・三鷹市間で回答比率に有意差を生じた項目

参照すべき章・節	診断項目説明項目No.	質問番号	項 目 の 内 容	有意差を生じたカテゴリー	有意差を生じた性	比率の大なる市
5.1	13	49	市の理想像	文化的期待 親交・福祉の期待	男	武蔵野
5.3	14	50	「コミュニティ」という言葉からの連想		女	三鷹
5.4	—	38	生活必需品の購入地域	各種スポーツ活動 「ボランティア」活動 8品目すべてについて：市内購入	女・男	三鷹
6.4	F	10	町づくり活動への参加		女・男	武蔵野
6.5	G	17	住民運動（マンション建設反対運動）への参加	積極性	女・男	三鷹
7.1	17	8	市政に対する関心	参加	男	三鷹
8.6	P	27'	近隣関係のわずらわしさ	上水道、下水道 福祉対策、公園緑地	女・男	三鷹
9.4	V	30	要介助者への援助の意向		否定	女
10.1	21	22	既成団体への所属	積極性	男	武蔵野
10.1	21	23	所属団体における積極性		町内会 職場の同好会 自治会 婦人組織 趣味の会	女・男 男 女・男 女 男
11.5	—	52	自分にとって一番大切なもの	スポーツ団体	女 男	三鷹 武蔵野
				家族健康 抽象的項目	女	三鷹 武蔵野

念的な(現実的行動意欲とは異なったものによる)希求とみることができないのではないだろうか。

「診断項目」以外で差のある項目は、「説明項目」としてとりあげている問49、問50、問8、問22、問23の5項目および問38であり、いずれも地域の状況(市行政の姿勢を含む)の如実な反映とみられよう。

すなわち、「問49.市の理想像」の文化的期待に関して武蔵野/男が比率が多いことは、武蔵野市民の文化水準の高いことと呼応しており、親交・福祉の期待に関して三鷹/女が比率が高いことは、市政のスローガンの1つに「ふれあい・ぬくもりの町・三鷹」が掲げられていることの反映とみられよう。

「問50.コミュニティという言葉からの連想」では、三鷹においては「各種スポーツ活動」、武蔵野においては「ボランティア活動」と答えたものが多いことは、それぞれの市におけるコミュニテ

ィづくりへのアプローチが、まさに各々、これらの活動を通しておこなわれ或いはおこなわれようとしているものであり、市の姿勢が市民によく浸透しているとみられよう。同様のことは「問8.市政に対する関心」についても明らかにみられ、それぞれの市の重点対策を市民がよく知っていたということが言えよう。

「問22および問23.既成団体への所属および積極性」においても市民性の特徴が表われていると言えよう。すなわち、団体所属で「町内会」は武蔵野においては組織していない町が多いので、当然、三鷹の方が多い。これに反し、所属している団体における積極性からみれば、自治会に対して武蔵野市民(男女とも)が積極性を示すものが多いことがみられる。

男について、職場の同好会、趣味の会、スポーツ団体の所属者の中での積極的参加の比率が武蔵野が三鷹に比し多いことは、市民の文化水準に関

わりの深いことである。女について、武蔵野では婦人組織、三鷹ではスポーツ団体への積極的参加比率が高い。これも、前者は市民（とくに女性の意識の高いものについて）の革新志向を、後者は市のスポーツ奨励の姿勢の反映を示すものと言えよう。

「問38. 生活必需品の購入地域」の差異は、第2章で詳述されている通り、武蔵野の消費都市としての特性の正直な表現とみられよう。

「問52. 大切なもの」の回答の差異も両市の市民性の表現とみられよう。

以上、単純集計の結果における差異については、市の概況が市民の生活行動に反映したことを示すものが多く、意識やその内部構造の差異は殆んど表われていないことがみられる。

(2) 「診断項目」と「説明項目」の連関から

「説明項目」が「診断項目」(21項目)に対して

表 14-2 「診断項目」に対する効き方において武蔵野・三鷹市間で差異のみられる「説明項目」

説明項目	カテゴリー	差異のある性	武蔵野	三鷹
学歴	高い	男	-	+
職業	労働・自営	男	+	○
住居状況	一戸建/中・下	女・男	+	○
住居所有	持家	女	+	○
支持政党	自民党系	女	-	+
	革新系	女	+	+
	革新系	男	+	-
	無し, D.K.	男	-	+
市の理想像	ふれあいのぬくもり	女	+	○
	弱い者へのいたわり	男	○	+
団体への所属と積極的参加	地域関係以外の団体に積極的	男	-	+

(注)：+…診断項目(21項目)について積極性を示すもの($Z > 0$)が多い。

○…診断項目(21項目)についてZ値の平均は0に近い。

-…診断項目(21項目)について消極性を示すもの($Z < 0$)が多い。

どの様に効いているかについては、前節の類似性のところで説明されている通りである。すなわち、個々の「診断項目」との連関は別として、全般的な効き方は両市において殆ど差異がない。両市において効き方が異なる「説明項目」(およびそのカテゴリー)は表14-2の通りである。

表14-2をみると、コミュニティへの志向を示す人々の層が男については両市に多少差異のあることがわかる。すなわち、武蔵野では労働・自営業層、革新系支持層であるが、三鷹では高学歴層、支持政党無し層、地域関係以外の団体に積極的参加をしている層であり、市の理想像として“弱い者へのいたわり”をもっている層である。したがって、三鷹においては比較的文化的な給与生活者層が、武蔵野では自営業層が想定される。

女については殆ど差異がなく、つぎのことだけが見られる。すなわち、住居状況から武蔵野ではいわゆる“土地付き”の人の層が積極性を示すが、三鷹ではこのことは関連がない。さらに武蔵野では革新系支持層が著しく地域に積極的であり自民党系支持者は消極的であるのに対して、三鷹では自民党系支持者も積極性を示している。

市の理想像で“ふれあいのぬくもり”をあげた人は、武蔵野では積極性を示すが三鷹では、この都市像をもつことと地域社会志向とは関連がない。

以上、コミュニティ形成にポジティブである住民層は、両市において(とくに女には)差異がみられるものは少ないことがわかる。

(3) 「診断項目」相互の連関から

「診断項目」相互の連関度についての両市の差異(女については第13章2節で述べられている。連関度の2段階以上の違いが6以上の項目(表13-3を参照)を拾い、その項目に対して連関がより強かった方の市名を記入してみると表14-3の通りである。

「コミュニティ・センターの役割評価」の設問と他の「診断項目」との連関において、両市は最も著しい差異を示す。武蔵野における方が他の項目

表 14-3 「診断項目」相互の連関度において武蔵野・三鷹市間で差異のみられる項目

項目記号	項目の内容	2段階以上の異なる項目数	差異を生じた項目，連関度がより強い市 (ゴチックは3段階違い)							
K	C.C.の役割への評価	8	E 武	J 武	N 武	O 武	R 三	U 武	V 武	W 三
H	住民運動一般についての意見	7	B 武	C 三	D 三	F 武	J 武	O 武	P 武	
R	ボランティア活動への参加の意向	6	C 武	K 武	M 武	O 武	P 武	W 三		
P	近隣関係のわずらわしさ	6	C 武	F 武	H 武	Q 三	R 武	V 武		

との連関度が高いことから、コミュニティ・センターに対する意識が三鷹においては一般に定着していないことがみられる。「ボランティア活動への参加の意向」についても、三鷹/女の回答は現実性からやや離れ、理念として答えているようにみられる。「住民運動についての意見」に関しても同様のことが言えよう。「近隣関係のわずらわしさ」は前節で述べた通り三鷹の方が積極性は多いものの、それらはG, F, Hなど地域社会への参加の問題やR, Vなどの福祉関係の積極性との連関性が少なく、近隣関係との整合性に留まっている(Qとの連関が強い)ものとみられる。

(4) 「多変量解析」による項目類型から

数量化Ⅲ類による項目類型から両市の差異をみていこう(第13章3節を参照)。項目類型を両市対照して整理すると図14-2のごとくである。

両市の差異の細目については第13章でも述べられているが、これらを総合すると、女については次のように見ることができよう(男については、両市の差異を見るほど安定性ある結果と考えられないので割愛する)。

① コミュニティ・センターの利用について

武蔵野においては、C.C.利用者はC.C.を評価し(親交に役立つと評価)、他の実際的な地域活動に対しても類似の反応を示すが、三鷹においては、これが理念的項目と同一群に位置づけられ、C.C.の評価は異質(他項目との整合性をもたな

い)であることによって除外される。これらのことから、三鷹においては、コミュニティ・センターという施設が住民全般に十分に浸透していないことがみられ、C.C.利用者が一部の理念的活動志向の人々に限られているのではないかとみられる。

② 地域活動、連帯活動について

武蔵野においては、地域活動、連帯活動がそれぞれ明瞭に群化されていることから、これらの活動意識が住民一般に咀嚼されていることがみられよう。一方三鷹においては、地域活動は理念型と併合されることから、これらの活動が住民(女)一般に理念として把握されていることがみられよう。さらに連帯型においても、比較的現実性をもった活動(D, V)に対しての「拒否」が異質な位置づけを見せる(図13-14を参照)ことは、実際的問題に迫った設問では、思わず“ホンネ”(拒否)を答えたものが異質となって表われることとみられ、活動への参加に対する回答はややタテマエ論であるのではないかと考えられる。

すなわち、三鷹においては地域における活動に対する意識は、タテマエの域を出ず、具体的行為とは遠いものではないかと考えられるのである。

③ 地域行事への参加について

お祭りなどの地域行事はコミュニティ形成の一つのきっかけとなることが多い。しかし、これへの参加意識は両市において異なることに注目しなければならない。すなわち、地域行事への参加

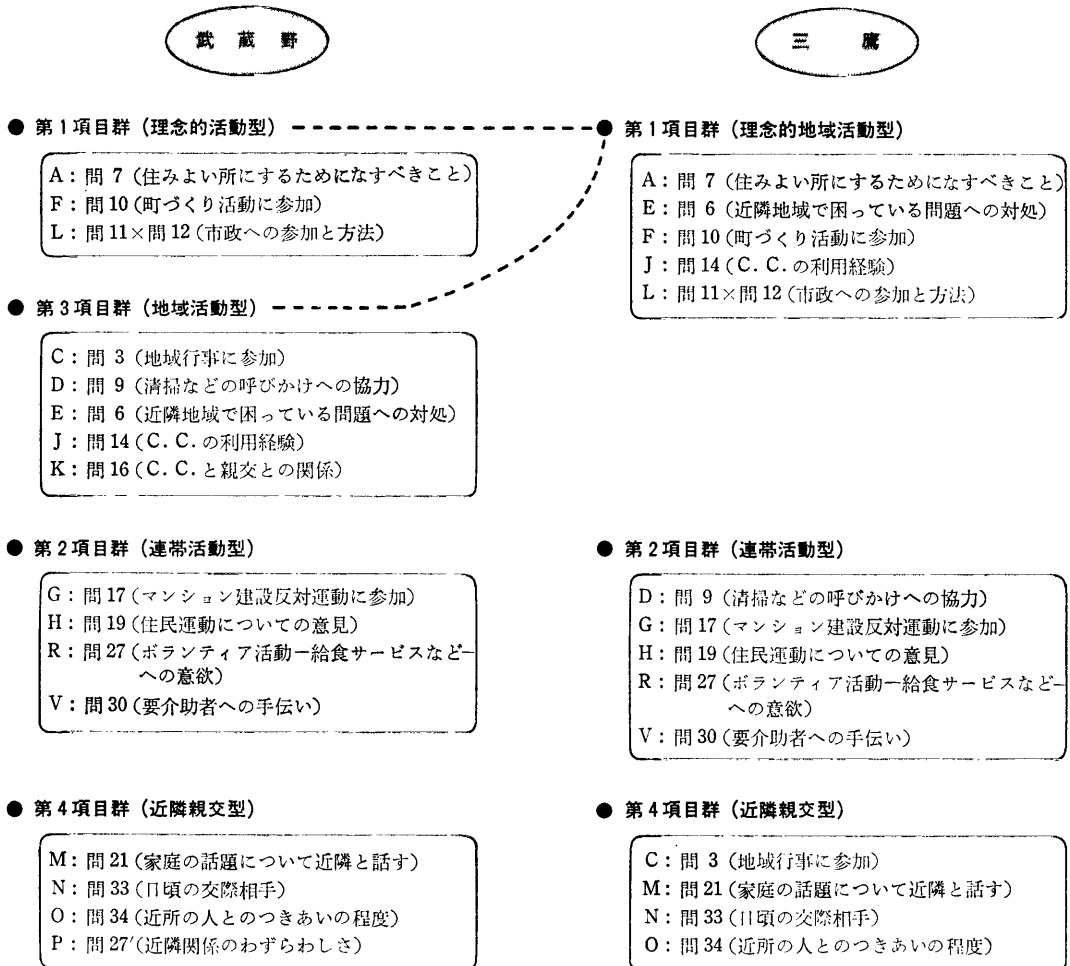


図 14-2 数量化Ⅲ類による「項目類型」の武蔵野・三鷹市間の異同

は、武蔵野においては清掃やC. C. 利用の活動と類似に意識されているが、三鷹においてはその様な活動とは別に近隣が親しく交わる一つの機会として把握されていることがみられる。

(5) 「項目類型」に対する「説明項目」の働き方から

各類型 (項目群) において積極性↔消極性の段階を「説明項目」により弁別することについては第13章4節で詳述されている。「説明項目」の働き方は意識の潜在構造を示すものであり、これに関しての両市の差異は次のように把握できよう。

理念的活動および地域的活動への参加の要因において両市間で差異を示すものをみると、武蔵野においては社会的要因 (居住年, コミュニティ地区) や年齢, 学歴等の属性が効いているのに対し、三鷹においては個人的要因 (パーソナリティ/勇気, 市への愛着理由など) が効いていることが理解された。すなわち、地域活動が武蔵野においては普遍化されていることがみられ、一方三鷹では、地域活動への参加が特殊なものとして意識されていることがわかる。

以上のことは連帯的活動への参加の要因の差異によってもうらづけされる。地域におけるこれら

のコミュニティ志向の活動は、武蔵野においては一般市民（女）のものとして定着してきているが、三鷹においては未だやや浮き上がったものであり、一般市民が抵抗なく参加意識をもつには至っていないということがみられよう。

以上、住民の意識調査の結果からみた両市住民のコミュニティ志向およびその意識構造における両市の差異をみてきた。つぎに、これらの差異をうらづける地域概況の差異を第2章から拾い上げていこう。

(6) 地域概況にみる相異性

両市の発展の歴史をみると、武蔵野は常に三鷹に先んじて都市化をしてきており、現在の農業の残存状況からも、三鷹には未だどこかに農村的雰囲気が残滓が感じられる。これに反し、武蔵野は吉祥寺駅を中心に商業の発展も著しく、学歴や職業、1人当りの歳出や市民税の物語る社会的階層からも、文化的水準において三鷹にまさっていることが見られる。

デモグラフィックな状況を見ると、武蔵野は三鷹に比し転入者の多少について年度による差異が大きいこと、昼間人口の夜間人口に対する比率が大きいこと等から活気ある町であることが察せられる。さらに、65歳以上の人口が多く、これに対応し給食サービス等のボランティア活動を始めとし行政側は福祉対策を充実・浸透させている。

行政側の対策は両市とも福祉対策や市民参加を重視し、これら対策の基盤としてコミュニティ形成を市政計画の中に大きく位置づけている。市政計画の要綱の中には両市の差異は全く見られないものの、現実の施策の中にはかなりの差異がみられる。武蔵野市は、昭和46年以来、革新市長の下に極めて熱心にコミュニティ・センター建設を中心としたコミュニティ形成に力を注いできている。これに反し、三鷹市では大沢のコミュニティ・センターは武蔵野より早くに建設したものの、その後、他地区のセンター設置・運営に関しては武蔵野よりやや緩慢に進んだといえよう。

武蔵野においては、市から独立したボランティ

ア・センターも開設（昭和53年）され、福祉対策は積極的に進められたが、三鷹市においては、市が最も力を注いだことは下水道対策であり、ほぼ100%の完成により、東京でも環境条件において屈指の近代化を示す地域となった。しか福祉対策などについては、武蔵野のような画期的な展開は示していない。

三鷹市におけるコミュニティ形成は市の対策要綱で「醸成」という言葉で表現している通り、酵母を入れ発酵・醸成させながら育てていくという方針であり、とくにスポーツ等の文化活動を通して浸透させていこうというものである。武蔵野市の場合は、コミュニティ・センター設置に力を注ぎ、センター活動を通してのコミュニティ形成を狙っていることがみられる。

このような地域状況、行政側の姿勢の差異は、まさしく住民の意識構造の差異として表われていることが理解できよう。

4 コミュニティ形成に向けての 働きかけ

以上、本研究の第1ステップ（地域の概況分析を考え合わせた住民の意識調査）での成果の概要を整理してきた。以下では、これらに基づいた「コミュニティ形成」への働きかけを、①両市の共通性を踏まえた普遍的事項と②両市それぞれの特殊性の上に立った個別の事項とに分けて示唆することを試みよう。

(1) 普遍的事項

① コミュニティ形成の働きかけは、まず、住民の中でも特に女性を働きかけの中心に考えて進める方が効果的であろう。男性、とくに若年・中年の男性サラリーマンで勤務地が市外の人にとっては地域社会としてのコミュニティに対応する意向は極めて少ない。そこで、たとえば家族ぐるみで参加できる催しなどを計画しても、これに参加し、そのことが地域への交流を深めることになる

家族（とくに夫）は限られた人々であろう。そうしたことよりむしろ、母親（35～50歳）を対象とする催し→母親同志の共通話題→地域社会への関心→地域における何らかの活動→コミュニティとしての連帯感→家族への浸透→家族全体でのコミュニティへの接近、という進行過程を狙っていくことの方がより効果的であるように思われる。

男性の中では、とくに50歳以上の年代あるいは市内勤務（特に自営業）の人々に向くような催し（講演会、スポーツ活動など）を通して地域への関心を深めることも一つの方法ではなかろうか。

② 市行政の姿勢は、その広報活動が充実している限り、比較的好く市民に反映するものである（1976年の武蔵野/女の調査において市報の講読率は78%であった）。

武蔵野市においてはボランティアなどの福祉活動を通しての連帯感から、三鷹市においては文化（スポーツを含む）活動を通しての地域への関心から、コミュニティづくりへの接近を計画している行政側の姿勢を市民は感じとっている。このような市の姿勢は、市民によく浸透していくものであることを踏まえ、今後の指針を打出すことができよう。

③ 両市の調査を通して、地域コミュニティへの積極性には、既成団体との関わりがかなり関連の強いことが把握できた。しかし、少なくとも女性については、これは組織活動への積極的参加の有無が効いており、既成の地域団体（町内会など）に単に所属しているということは余り関連がない。

コミュニティづくりの運動においては、しばしば、町内会などの地域組織団体を基盤に運動を展開しようという例がみうけられる。もちろん地域の諸種の条件にもよるであろうが、少なくとも首都圏のように比較的文化度が高く給与生活者の多い地域においては、本研究の結果からもこの方向は妥当でないと考えられる。たとえ、地域団体の一部の人の活動が活発なものであっても、それを軸として発展させようとすることは、次代を担う若年や中年の世代に呼応した新しい意味のコミュニティではなく、旧来の全体主義的連帯感の強要

になるのではないかと考えられる。

むしろ、何らかの組織団体に所属して積極的に活動している中年女性の活力を地域社会に還元することを旨とする方が、今日的意義に適うものと考えられる。

④ 住民の文化水準、職業構成、市行政のコミュニティ対策等において武蔵野、三鷹に近いような地域であるならば、少なくとも女性に関しては、その活動意識において今回の結果と同様の類型が現われることが多いであろう。「理想的活動型」と「地域親交型」の2つ、さらに中間の「連帯的活動型」を含め、このような類型が女性の中に内在していることを考慮に入れて対策をたてていくことが必要であると思われる。

理念的活動に積極性を示す人々は、とにかく外面的に極めて活発であるが故に、そのような動向が、女性の、ひいては住民のすべての意向であるかのような錯覚を人々にもたらすことが多い。一方において、こうしたタイプの活動には必ずしも積極的でなくても、近隣親交あるいは連帯活動に積極性をもつ人々も多いことを看過することなく対応していくべきであろう。

それぞれのタイプの活動への積極性を進めつつも、より市の広い他のタイプとの共通部分を広げていくような方向への指針をもつことが必要であろう、ということである。

（2） 個別的事項

① 両市いずれも、コミュニティ・センターの設置を基礎にコミュニティ対策を進めている。しかし、三鷹の方がコミュニティ地区の範囲が広い故か、センターの利用が一般的に普及していないようにみられる（利用者は多くても特定の人々に限定されている傾向がみられる）。三鷹においては、センターがより一層地域の連帯性に機能していくように対策をたてた方がよいのではなかろうか。

とくに、武蔵野の西久保地区において、センター利用を中心として地域社会志向の積極性は著しい。この様な地区のあり方も、今後の一つの参考資料となろう。

② 両市の間には、地域社会に対する住民の意識構造において、かなりの差が認められた。すなわち、地域への志向が、武蔵野においては普遍化し、三鷹においては個人のレベルに留まっている。このことから、武蔵野においては、ややもすれば、意識が各個人の主体性の中に根づかない危険性を持ち、三鷹においては、地域活動が特定の人々の層に限定されるという危険性をもつということがみられよう。今後の対策の中には、この点の留意が必要ではなからうか。

③ 三鷹においては、コミュニティを文化活動と関連づけて把握していることが多いようにみられる。文化活動が一つのよいきっかけであり、市の文化向上にも役立つことであるとしても、このことから地域連帯感（決して狭い意味ではない）、そしてさらにコミュニティ意識が生まれてくることがより望ましいことではなからうか。コミュニティ・センターを中心とした文化活動が、さらに地域連帯の方向に向かうことが適しいことではないかと考えられる。

④ 武蔵野においては、コミュニティを福祉活動などを通して地域連帯として把握することが、住民にかなり広く根づいてきている。しかし、一方ではこうした福祉活動に決然とした拒否の反応を示す人々も現われてきている（前回の1976年調査との比較においてみられる）。具体的な活動に身近に接し、かえって逆方向に向かう人々の出現は、活動の見直しを行なう必要を感じさせるとともに、福祉の方向の市をさらに広くする必要を示唆するものとも感じられる。

以上、本研究の第1ステップにおける成果を踏まえて研究の第2のステップに向けての一つの示唆を提示したが、何れにしてもコミュニティ形成の問題は、現代における大都市社会におけるある程度の普遍的な回答を踏まえつつ、しかも各地域の特殊性を考え合わせて試行錯誤的におこなっていくこととなるろう。

5

地域住民意識の調査と分析への覚え書き

最後に、私たちのとった研究の方法について若干の補足をのべて本モノグラフを閉じることにしたい。

第1章で述べた通り、私たちのとった立場は、“コミュニティ形成という目的に向って最も有効に”という観点から、地域住民意識の構造を探ろうということであった。したがって、研究対象地域における住民の意識構造が何らかのア・プリオリに設定されたモデルにどの程度適合しているかを検討するというような接近法（演繹的アプローチ*）ではない。また、コミュニティ意識に関するモデルを計量的な操作によって、ア・ポステリオリに抽出する接近法（帰納的アプローチ*）でもない。こうした住民意識のモデルを構築していくことよりもむしろ、コミュニティ形成に最も役に立つ情報を得るための、いわば、操作的アプローチであると言えよう。計量的な方法を用いて類型を描出した点に関しては、いわゆる帰納的アプローチに類似しているかのようにみられるであろうが、目的と方向において異なっている。したがって“無思想に”“計量的技法に依存”* することではなく、目的に照して計量的方法の中から有効と思われる方法を選択して用いたのである。

私たちは、常に目的に対して有効な方法を考えた。統計的な方法は、でき得る限り仮定をおかずに使えることが望ましい。また、種々の段階に入ってくる誤差についても考慮することが必要であり、その誤差によって起る歪みを考慮した上で結論を導くことが必要なのである。

質問文は数に制限があるので、精選する必要がある。このために、まず必要な項目の枠組を作りこれに従って質問文を作っていくことが必要となる。コミュニティ形成の問題は、地域状況と密接

* 神戸都市問題研究所(編)『コミュニティ行政の理論と実践』勁草書房、1979年、p. 11

な関係があり、したがって質問文も各地域によって異なるものも多いであろう。すなわち、質問文には、比較的普遍的なものと、地域の特性を抽出するための地域性の強いものが混合することになる。しかも、類型は質問項目に（ある時は質問文にも）依存するので、ある種の限定の下で普遍的な結論を導くことになるのであり、普遍性をそれ以上に拡張してモデル化することは危険である。

本研究の第1ステップにおける研究成果の報告を終えるにあたり、私たちの重視した立場が、常に「役に立つ」情報を得ることであって、理論的な興味ある結論を導くことを第一の目的としていなかったことを再度強調しておこう。私たちの提示した「コミュニティ形成」に向けての示唆は、本研究の第2ステップにおいてその妥当性が確かめられていくはずである。

● 参 考 文 献

- 朝日新聞社（編）『82民力』朝日新聞社，1982年。
- 朝日新聞社（編）『別冊民力・エリア都市別民力測定資料』朝日新聞社，1982年。
- Bernard, J.（正岡寛司監訳）『コミュニティ論批判』早稲田大学出版部，1978年。
- Community Organization 研究会『保健福祉の領域におけるコミュニティ・オーガニゼーションに関する研究
—第3次報告書（三鷹市における調査報告書）—』1976年。
- 磯村英一『人間にとって都市とは何か』日本放送出版協会，1968年。
- 国民生活センター（編）『現代日本のコミュニティ』川島書店，1975年。
- 国民生活審議会調査部会『コミュニティ生活の場における人間性の回復—』1969年。
- 神戸都市問題研究所（編）『コミュニティ行政の理論と実践』勁草書房，1979年。
- 松原治郎（編）『現代のエスプリ No. 68—コミュニティ—』至文堂，1978年。
- MacIver, R. M.（中久郎ほか訳）『コミュニティ』ミネルヴァ書房，1975年。
- 三鷹市『三鷹市基本計画策定のためのアンケート調査報告書』1977年。
- 三鷹市『三鷹市基本計画』1978年。
- 三鷹市『わがまち「三鷹」の現況』1979年。
- 武蔵野市『武蔵野市長期計画—昭和46年～55年度—』1971年。
- 武蔵野市『武蔵野市第二期構想長期計画—昭和56年～67年度—』1981年。
- 武蔵野市『武蔵野市民の生活と意識調査』1978年。
- 武蔵野市『武蔵野市地域生活環境指標』1979年。
- 中根千枝ほか『日本人と隣人』YMCA 出版，1981年。
- 岡 静二『コミュニティづくりとボランティア活動』相川書房，1980年。
- 岡村重夫『地域福祉論』光生館，1976年。
- 奥田道大（編）『現代のエスプリ No. 77—現代都市論—』至文堂，1973年。
- 奥田道大ほか『コミュニティの社会設計』有斐閣，1982年。
- Ross, M. G.（岡村重夫訳）『コミュニティ・オーガニゼーション』全国社会福祉協議会，1963年。
- 佐藤 笠（編）『コミュニティをめぐる問題事例』学陽書房，1980年。
- 佐藤 笠（編）『現代のエスプリ No. 158—住民参加—』至文堂，1980年。
- 沢登貞行ほか『コミュニティ・スポーツへの挑戦』不昧堂，1980年。
- 園田恭一『現代コミュニティ論』東京大学出版会，1978年。
- 高倉節子『コミュニティ・オーガニゼーションを目指す地域診断の一方法』『東京女学館短期大学紀要』1979, 1,
1-26.
- 統計数理研究所国民性調査委員会『第3日本人の国民性』至誠堂，1975年。
- 東京統計協会『東京都統計年鑑—昭和55年—』1980年。
- 東洋経済（編）『週刊東洋経済 臨時増刊—1982年版・地域経済総覧—』東洋経済新報社，1982年。
-

付表

各質問項目に対する回答状況を「被調査者の属性」別に整理した結果を、付表2～付表32として示した。各表の小数点つき数字は、市別および性別にみた「属性の各カテゴリーの人数に対する比率(%)」を意味している。

付表 1
属性の「カテゴリー」とそれに該当する「人数」

女				男			
属性	カテゴリー	武蔵野	三鷹	属性	カテゴリー	武蔵野	三鷹
年 齢	1. 20歳～25歳	47	59	年 齢	1. 20歳～30歳	42	52
	2. 26歳～35歳	88	110		2. 31歳～40歳	52	45
	3. 36歳～50歳	134	133		3. 41歳～55歳	43	59
	4. 51歳～65歳	109	85		4. 56歳～	43	31
	5. 66歳～	53	45				
学 歴	1. 低(新制中学程度以下)	60	71	学 歴	1. 低(新制中学程度以下)	22	17
	2. 中(新制高校・短大程度)	314	302		2. 中(新制高校・短大程度)	74	84
	3. 高(旧制高専・大学以上)	57	59		3. 高(旧制高専・大学以上)	84	86
職 業	1. 専業勤務	141	151	職 業	1. 技術・管理職・自由業	50	63
	2. パート勤務	62	52		2. 事務職	52	58
	3. 主婦	187	183		3. 労働職、農・工・商自営業	34	44
	4. 無職、学生、D.K.	41	46		4. 無職、学生、D.K.	44	22
勤 務 地	1. 市 内	96	103	勤 務 地	1. 市 内	33	51
	2. 都 下	25	26		2. 都 下	24	29
	3. 千代田・中央・港区(中心区)	29	24		3. 千代田・中央・港区(中心区)	43	32
	4. 上記以外の区部(区部)	40	46		4. 上記以外の区部(区部)	43	55
	5. 無職、D.K.	241	233		5. 無職、D.K.	37	20
住 居 状 況	1. 一戸建/上	89	76	住 居 状 況	1. 一戸建/上	34	25
	2. 一戸建/中・下	155	181		2. 一戸建/中・下	67	75
	3. 集合住宅/上・中	135	117		3. 集合住宅/上・中	54	67
	4. 集合住宅/下	52	58		4. 集合住宅/下	25	20
住 居 所 有	1. 持 家	250	237	住 居 所 有	1. 持 家	89	87
	2. 借 家	141	158		2. 借 家	59	69
	3. 社宅など	40	37		3. 社宅など	32	31
居 住 年	1. 昭和35年以前から	154	138	居 住 年	1. 昭和35年以前から	72	50
	2. 昭和36～50年から	159	175		2. 昭和36～50年から	41	75
	3. 昭和51～53年から	68	70		3. 昭和51～53年から	67	62
	4. 昭和54年以降から	50	49				
支 持 政 党	1. 自民党、新自由クラブ	131	115	支 持 政 党	1. 自民党、新自由クラブ	54	54
	2. 公明党	20	15		2. 社会党、民社党、共産党、社民連	38	31
	3. 社会党、民社党、共産党、社民連	98	79		3. その他の政党	23	26
	4. その他の政党	21	19		4. 無し、D.K.	65	76
	5. 無し、D.K.	161	204				
家 族 構 成	1. 定位家族	36	68	家 族 構 成	1. 定位家族	23	29
	2. 単身	48	24		2. 単身	31	24
	3. 既婚/子無し	74	57		3. 既婚/子無し	25	28
	4. 既婚/子あり(学童以下あり)	136	135		4. 既婚/子あり(学童以下あり)	50	55
	5. 既婚/子あり(学童以下なし)	137	148		5. 既婚/子あり(学童以下なし)	51	51
兄 弟 数	1. 1 人	22	26	兄 弟 数	1. 1 人	13	10
	2. 2 人	87	84		2. 2 人	30	44
	3. 3～4人	183	180		3. 3～4人	85	79
	4. 5 人～	139	142		4. 5 人～	51	54
兄 弟 順 位	1. 1 番 目	157	147	兄 弟 順 位	1. 1 番 目	72	68
	2. 2, 3 番 目	178	192		2. 2, 3 番 目	74	80
	3. 4 番 以 降	96	93		3. 4 番 以 降	34	39
全 体 (N)		431	432	全 体 (N)		180	187

付表 2
問49 市の理想像 - 文化的期待 -

回答カテゴリー 属性 カテゴリー	性 女						性 男						
	武蔵野			三 鷹			武蔵野			三 鷹			
	1 強い	2 普通	3 なし	1 強い	2 普通	3 なし	1 強い	2 普通	3 なし	1 強い	2 普通	3 なし	
全 体	38.	40.	22.	34.	45.	21.	全 体	38.	43.	19.	25.	40.	35.
年 齢							年 齢						
1. 20歳~25歳	45.	30.	26.	32.	54.	14.	1. 20歳~30歳	38.	52.	10.	27.	37.	37.
2. 26歳~35歳	42.	40.	18.	36.	49.	15.	2. 31歳~40歳	31.	38.	31.+	22.	44.	33.
3. 36歳~50歳	31.	49.	20.	29.	46.	26.	3. 41歳~55歳	49.	37.	14.	24.	42.	34.
4. 51歳~65歳	40.	43.	17.	41.	40.	19.	4. 56歳~	37.	44.	19.	26.	35.	39.
5. 66歳~	38.	25.-	38.+	29.	33.	38.+							
学 歴							学 歴						
1. 中 学(新)	32.	33.	35.+	30.	35.	35.+	1. 中 学(新)	41.	36.	23.	18.	47.	35.
2. 高 校(新)	39.	43.	19.	34.	48.	19.	2. 高 校(新)	36.	43.	20.	23.	35.	43.
3. 大 学 以 上	42.	35.	23.	37.	46.	17.	3. 大 学 以 上	39.	44.	17.	28.	44.	28.
職 業							職 業						
1. 専 業	43.	38.	18.	39.	42.	19.	1. 技・管・自由	32.	42.	26.	25.	48.	27.
2. パ ー ト	34.	47.	19.	29.	52.	23.	2. 事 務	48.	40.	12.	29.	43.	28.
3. 主 婦	35.	45.	20.	34.	46.	20.	3. 労 働・自営	35.	32.	32.+	18.	30.	52.+
4. 無, 学, D.K.	41.	17.-	41.+	24.	43.	33.	4. 無, 学, D.K.	36.	55.	9.	23.	32.	45.
勤 務 地							勤 務 地						
1. 市 内	43.	36.	21.	37.	35.-	28.	1. 市 内	36.	33.	30.	20.	37.	43.
2. 都 下	32.	44.	24.	31.	58.	12.	2. 都 下	17.-	46.	37.+	28.	38.	34.
3. 中 心 区	48.	41.	10.	29.	67.+	4.-	3. 中 心 区	51.	35.	14.	38.	47.	16.-
4. 区 部	28.	50.	23.	37.	52.	11.	4. 区 部	37.	51.	12.	22.	38.	40.
5. 無, D.K.	37.	40.	23.	32.	45.	23.	5. 無, D.K.	41.	49.	11.	20.	45.	35.
住 居 状 況							住 居 状 況						
1. 一戸建/上	36.	44.	20.	42.	34.	24.	1. 一戸建/上	56.+	35.	9.	36.	32.	32.
2. 一戸建/中・下	41.	40.	19.	31.	50.	19.	2. 一戸建/中・下	27.	52.	21.	17.	45.	37.
3. 集合/上・中	43.	37.	20.	32.	49.	20.	3. 集合/上・中	39.	41.	20.	25.	39.	36.
4. 集合/下	21.-	44.	35.+	24.	40.	26.	4. 集合/下	44.	32.	24.	35.	35.	30.
住 居 所 有							住 居 所 有						
1. 自 家	38.	42.	20.	36.	45.	19.	1. 自 家	38.	46.	16.	25.	43.	32.
2. 借 家	40.	38.	21.	32.	44.	23.	2. 借 家	37.	36.	27.	19.	42.	39.
3. 社 宅 等	33.	35.	33.	22.	51.	27.	3. 社 宅 等	41.	47.	13.	35.	29.	35.
居 住 年							居 住 年						
1. 35年以前	40.	43.	18.	30.	46.	25.	1. 35年以前	36.	44.	19.	24.	40.	36.
2. 36~50年	40.	36.	25.	39.	43.	18.	2. 36~50年	44.	41.	15.	27.	36.	37.
3. 51~53年	41.	40.	19.	34.	47.	19.	3. 51年以降	37.	42.	21.	23.	45.	32.
4. 54年以降	24.-	48.	28.	24.	51.	24.							
支 持 政 党							支 持 政 党						
1. 自 民 党	41.	41.	18.	38.	39.	23.	1. 自 民 党	48.	31.	20.	20.	43.	37.
2. 公 明 党	25.	45.	30.	27.	47.	27.	2. 革 新 系	34.	45.	21.	39.	42.	19.
3. 革 新 系	38.	40.	22.	27.	52.	22.	3. そ の 他	30.	43.	26.	23.	27.	50.
4. そ の 他	43.	52.	5.	32.	47.	21.	4. 無, D.K.	35.	51.	14.	22.	42.	36.
5. 無, D.K.	37.	38.	25.	34.	46.	20.							
家 族 構 成							家 族 構 成						
1. 定 位 家 族	56.+	19.-	25.	34.	54.	12.	1. 定 位 家 族	39.	48.	13.	34.	28.	38.
2. 単 身	33.	35.	31.	42.	42.	17.	2. 単 身	26.	45.	29.	17.	46.	37.
3. 既 婚/子 無 し	36.	42.	22.	35.	42.	23.	3. 既 婚/子 無 し	36.	44.	20.	32.	46.	21.
4. 学 童 以 下 有	42.	41.	17.	30.	50.	20.	4. 学 童 以 下 有	52.	34.	14.	22.	44.	35.
5. 学 童 以 下 無	32.	46.	22.	34.	39.	26.	5. 学 童 以 下 無	33.	47.	20.	22.	37.	41.
兄 弟 数							兄 弟 数						
1. 1 人	32.	14.-	55.+	23.	58.	19.	1. 1 人	64.	21.	14.	20.	30.	50.
2. 2 人	36.	39.	25.	32.	56.	12.-	2. 2 人	40.	50.	10.	25.	45.	30.
3. 3~4 人	37.	44.	19.	31.	44.	26.	3. 3~4 人	33.	47.	20.	28.	38.	34.
4. 5 人~	42.	40.	17.	40.	39.	21.	4. 5 人~	39.	37.	24.	20.	41.	39.
兄 弟 順 位							兄 弟 順 位						
1. 1 番 目	34.	39.	27.	35.	43.	22.	1. 1 番 目	42.	37.	21.	28.	35.	37.
2. 2, 3 番 目	41.	41.	18.	30.	49.	20.	2. 2, 3 番 目	34.	50.	16.	21.	45.	34.
3. 4 番 以 降	40.	42.	19.	38.	41.	22.	3. 4 番 以 降	41.	38.	21.	26.	38.	36.

(注): 数値に+または-の符号がある場合は、その属性カテゴリーに対応する回答比率(%)の差の検定値(第12章で説明されているz値)が+または-2以上であったことを意味している。以下、付表32まで同じ。

付表 3

問49 市の理想像—親交・福祉的期待—

回答カテゴリー 属性 カテゴリー	性 女				性 男			
	武蔵野		三 鷹		武蔵野		三 鷹	
	1 あり	2 なし	1 あり	2 なし	1 あり	2 なし	1 あり	2 なし
全 体	26.	74.	34.	66.	22.	78.	27.	73.
年 齢								
1. 20歳~25歳	23.	77.	24.	76.	24.	76.	29.	71.
2. 26歳~35歳	19.	81.	35.	65.	29.	71.	22.	78.
3. 36歳~50歳	31.	69.	39.	61.	16.	84.	22.	78.
4. 51歳~65歳	24.	76.	34.	66.	19.	81.	39.	61.
5. 66歳~	26.	74.	29.	71.				
学 歴								
1. 中 学(新)	33.	67.	37.	63.	32.	68.	29.	71.
2. 高 校(新)	26.	74.	34.	66.	27.	73.	27.	73.
3. 大学以上	16.	84.	31.	69.	15.	85.	26.	74.
職 業								
1. 専 業	26.	74.	32.	68.	28.	72.	27.	73.
2. パ ー ト	16.	84.	37.	63.	21.	79.	22.	78.
3. 主 婦	28.	72.	37.	63.	3.	97.	32.	68.
4. 無, 学, D.K.	24.	76.	26.	74.	18.	82.	27.	73.
勤 務 地								
1. 市 内	22.	78.	41.	59.	15.	85.	31.	69.
2. 都 下	20.	80.	31.	69.	42.+ 58.-		21.	79.
3. 中 心 区	21.	79.	17.	83.	14.	86.	25.	75.
4. 区 部	23.	78.	30.	70.	23.	77.	27.	73.
5. 無, D.K.	29.	71.	34.	66.	24.	76.	25.	75.
住 居 状 況								
1. 一戸建/上	22.	78.	29.	71.	18.	82.	24.	76.
2. 一戸建/中・下	26.	74.	34.	66.	22.	78.	32.	68.
3. 集合/上・中	22.	78.	38.	62.	24.	76.	22.	78.
4. 集合/下	38.+ 62.-		33.	67.	24.	76.	25.	75.
住 居 所 有								
1. 自 家	24.	76.	32.	68.	19.	81.	33.	67.
2. 借 家	30.	70.	32.	68.	31.	69.	16.- 84.+	
3. 社 宅 等	20.	80.	51.+ 49.-		16.	84.	32.	68.
居 住 年								
1. 35年以前	30.	70.	38.	62.	17.	83.	34.	66.
2. 36~50年	23.	77.	33.	67.	29.	71.	29.	71.
3. 51~53年	19.	81.	33.	67.	24.	76.	18.	82.
4. 54年以降	28.	72.	29.	71.				
支 持 政 党								
1. 自 民 党	23.	77.	30.	70.	17.	83.	30.	70.
2. 公 明 党	35.	65.	53.	47.	34.	66.	35.	65.
3. 革 新 系 他	37.+ 63.-		38.	62.	39.	61.	23.	77.
4. そ の 他	14.	86.	42.	58.	14.	86.	22.	78.
5. 無, D.K.	21.	79.	33.	67.				
家 族 構 成								
1. 定 位 家 族	17.	83.	25.	75.	22.	78.	38.	62.
2. 単 身	25.	75.	4.- 96.+		26.	74.	21.	79.
3. 既 婚/子 無 し	24.	76.	40.	60.	20.	80.	39.	61.
4. 学 童 以 下 有	27.	73.	39.	61.	24.	76.	22.	78.
5. 学 童 以 下 無	27.	73.	36.	64.	20.	80.	22.	78.
兄 弟 数								
1. 1 人	36.	64.	31.	69.	21.	79.	50.	50.
2. 2 人	16.- 84.+		33.	67.	13.	87.	25.	75.
3. 3~4 人	25.	75.	33.	67.	26.	74.	25.	75.
4. 5 人~	30.	70.	37.	63.	22.	78.	26.	74.
兄 弟 順 位								
1. 1 番 目	27.	73.	29.	71.	22.	78.	29.	71.
2. 2, 3 番 目	20.	80.	38.	62.	18.	82.	28.	73.
3. 4 番 以 降	32.	68.	33.	67.	32.	68.	21.	79.

付表 4

問7・A 「住みよいところ」にするために為すべきこと

性 市 回答 カテゴリー 属性 カテゴリー	女						男						
	武蔵野			三 鷹			武蔵野			三 鷹			
	1 地域 志向	2 中間	3 消極的	1 地域 志向	2 中間	3 消極的	1 地域 志向	2 中間	3 消極的	1 地域 志向	2 中間	3 消極的	
全 体	9.	33.	58.	9.	33.	59.	全 体	7.	29.	64.	7.	25.	67.
年 齢							年 齢						
1. 20歳~25歳	6.	28.	66.	8.	24.	68.	1. 20歳~30歳	2.	21.	76.	6.	23.	71.
2. 26歳~35歳	0.	27.	62.	7.	30.	63.	2. 31歳~40歳	4.	38.	58.	7.	20.	73.
3. 36歳~50歳	0.	37.	53.	9.	38.	53.	3. 41歳~55歳	4.	26.	60.	0.	25.	64.
4. 51歳~65歳	0.	35.	55.	8.	38.	54.	4. 56歳~	9.	28.	63.	6.	35.	58.
5. 66歳~	2.	32.	66.	3.	27.	60.							
学 歴							学 歴						
1. 中 学(新)	7.	22.	72.+	7.	28.	65.	1. 中 学(新)	5.	18.	77.	12.	29.	59.
2. 高 校(新)	9.	32.	59.	9.	33.	58.	2. 高 校(新)	7.	28.	65.	6.	21.	73.
3. 大学 以上	7.	49.+	44.-	12.	36.	53.	3. 大学 以上	8.	32.	60.	8.	28.	64.
職 業							職 業						
1. 専 業	9.	29.	62.	7.	32.	62.	1. 技・管・自由	4.	26.	70.	0.	27.	63.
2. パ ー ト	3.	37.	60.	0.	33.	58.	2. 事 務	8.	35.	58.	7.	24.	69.
3. 主 婦	2.	34.	55.	0.	34.	56.	3. 労働・自営	6.	29.	65.	7.	20.	73.
4. 無 学, D.K.	2.	37.	61.	1.	28.	61.	4. 無 学, D.K.	1.	25.	64.	5.	32.	64.
勤 務 地							勤 務 地						
1. 市 内	7.	30.	62.	0.	36.	54.	1. 市 内	9.	36.	55.	8.	27.	65.
2. 都 下	4.	16.	80.+	0.	23.	77.	2. 都 下	7.	21.	62.	7.	38.	55.
3. 中 心 区	7.	48.	45.	4.	29.	67.	3. 中 心 区	5.	35.	60.	9.	25.	66.
4. 区 部	5.	30.	65.	7.	28.	65.	4. 区 部	5.	28.	67.	9.	13.-	78.
5. 無, D.K.	0.	34.	55.	0.	33.	56.	5. 無, D.K.	5.	22.	73.	0.	35.	65.
住 居 状 況							住 居 状 況						
1. 一 戸 建 / 上	6.	39.	55.	1.	38.	51.	1. 一 戸 建 / 上	9.	32.	59.	8.	40.	52.
2. 一 戸 建 / 中・下	0.	36.	54.	9.	32.	59.	2. 一 戸 建 / 中・下	7.	25.	67.	8.	25.	67.
3. 集 合 / 上・中	0.	33.	57.	9.	32.	60.	3. 集 合 / 上・中	6.	35.	59.	6.	21.	73.
4. 集 合 / 下	6.	12.-	83.+	7.	29.	64.	4. 集 合 / 下	8.	20.	72.	0.	20.	70.
住 居 所 有							住 居 所 有						
1. 自 家	8.	38.	53.	1.	37.	53.	1. 自 家	0.	29.	61.	9.	31.	60.
2. 借 家	9.	24.-	67.+	6.	27.	67.+	2. 借 家	5.	29.	66.	4.	23.	72.
3. 社 宅 等	0.	30.	60.	1.	30.	59.	3. 社 宅 等	3.	28.	69.	0.	13.	77.
居 住 年							居 住 年						
1. 35年 以前	6.	39.	55.	7.	34.	59.	1. 35年 以前	8.	31.	61.	8.	26.	66.
2. 36~50年	1.	35.	55.	2.	34.	54.	2. 36~50年	0.	27.	63.	1.	28.	61.
3. 51~53年	2.	26.	62.	7.	31.	61.	3. 51年 以降	4.	28.	67.	3.	21.	76.
4. 54年 以降	6.	18.-	76.+	6.	24.	69.							
支 持 政 党							支 持 政 党						
1. 自 民 党	0.	35.	55.	9.	37.	54.	1. 自 民 党	7.	30.	63.	4.	28.	69.
2. 公 明 党	0.	20.	80.	0.	20.	80.	2. 革 新 系 他	5.	29.	66.	6.	23.	71.
3. 革 新 系 他	8.	37.	55.	4.	39.	47.-	3. そ の 他	3.	30.	57.	4.	19.	77.
4. そ の 他	4.	48.	38.	5.	42.	53.	4. 無, D.K.	6.	28.	66.	2.	26.	62.
5. 無, D.K.	8.	29.	63.	8.	27.	65.							
家 族 構 成							家 族 構 成						
1. 定 位 家 族	3.	36.	61.	6.	18.-	76.+	1. 定 位 家 族	0.	22.	78.	3.	28.	69.
2. 単 身	4.	29.	67.	2.	33.	54.	2. 単 身	0.	23.	77.	7.	8.	75.
3. 既 婚 / 子 無 し	5.	26.	69.	4.	23.	63.	3. 既 婚 / 子 無 し	6.	20.	64.	4.	21.	75.
4. 学 童 以 下 有	2.	37.	51.	8.	35.	57.	4. 学 童 以 下 有	6.	38.	56.	9.	29.	62.
5. 学 童 以 下 無	0.	34.	56.	8.	41.+	51.	5. 学 童 以 下 無	2.	31.	57.	6.	29.	65.
兄 弟 数							兄 弟 数						
1. 1 人	8.	23.	59.	8.	42.	50.	1. 1 人	4.	29.	57.	0.	10.	90.
2. 2 人	8.	31.	61.	0.	31.	60.	2. 2 人	0.	37.	63.	1.	25.	64.
3. 3 ~ 4 人	0.	32.	58.	3.-	38.	58.	3. 3 ~ 4 人	9.	22.	68.	5.	24.	71.
4. 5 人 ~	5.	37.	58.	5.+	25.-	60.	4. 5 人 ~	6.	35.	59.	9.	30.	61.
兄 弟 順 位							兄 弟 順 位						
1. 1 番 目	9.	36.	55.	0.	34.	56.	1. 1 番 目	8.	33.	58.	7.	28.	65.
2. 2, 3 番 目	0.	29.	61.	4.-	33.	63.	2. 2, 3 番 目	5.	24.	70.	8.	21.	71.
3. 4 番 以 降	6.	35.	58.	7.+	30.	53.	3. 4 番 以 降	9.	29.	62.	8.	28.	64.

付表 5
問38 生活必需品の購入地域一下着類について

回答カテゴリー 属性カテゴリー	性 女			性 男								
	市			市								
	武蔵野	三 鷹		武蔵野	三 鷹							
	1 市内	2 市外	3 その他 D.K.	1 市内	2 市外	3 その他 D.K.	1 市内	2 市外	3 その他 D.K.			
全 体	88.	10.	2.	46.	50.	4.	88.	11.	2.	63.	30.	6.
年 齢												
1. 20歳~25歳	85.	15.	0.	20.-	75.+	5.	81.	17.	2.	54.	42.	4.
2. 26歳~35歳	90.	7.	3.	45.	51.	5.	83.	13.	4.	82.+	11.-	7.
3. 36歳~50歳	87.	12.	1.	52.	45.	3.	93.	7.	0.	56.	36.	8.
4. 51歳~65歳	88.	9.	3.	53.	45.	2.	95.	5.	0.	65.	29.	6.
5. 66歳~	89.	8.	4.	51.	44.	4.						
学 歴												
1. 中 学(新)	90.	5.	5.	65.+	30.-	6.	95.	5.	0.	59.	35.	6.
2. 高 校(新)	89.	10.	2.	46.	51.	3.	84.	14.	3.	70.	24.	6.
3. 大 学 以上	82.	16.	2.	22.-	75.+	3.	89.	10.	1.	57.	36.	7.
職 業												
1. 専 業	81.-	18.+	1.	38.	58.	4.	86.	14.	0.	63.	35.	2.
2. パ ー ト	95.	3.	2.	44.	54.	2.	90.	10.	0.	64.	29.	7.
3. 主 婦	91.	7.	2.	54.+	43.	3.	85.	9.	6.	70.	20.	9.
4. 無 学, D.K.	85.	5.	10.+	41.	50.	9.	89.	9.	2.	45.	41.	14.
勤 務 地												
1. 市 内 下	91.	8.	1.	52.	44.	4.	94.	6.	0.	75.	20.	6.
2. 都 下	84.	12.	4.	23.-	69.	8.	96.	4.	0.	45.-	48.+	7.
3. 中 心 区	66.-	34.+	0.	29.	71.	0.	74.-	19.	7.+	59.	34.	6.
4. 区 部	83.	18.	0.	26.-	72.+	2.	88.	12.	0.	59.	27.	4.
5. 無 D.K.	91.	6.	3.	51.	45.	4.	92.	8.	0.	50.	35.	15.
住 居 状 況												
1. 一 戸 建 / 上	94.	6.	0.	41.	57.	3.	85.	15.	0.	36.-	52.+	12.
2. 一 戸 建 / 中・下	88.	8.	5.+	44.	50.	6.	90.	7.	3.	68.	25.	7.
3. 集 合 / 上・中	87.	12.	1.	45.	53.	2.	93.	7.	0.	69.	27.	4.
4. 集 合 / 下	81.	19.+	0.	60.+	38.	2.	76.	20.	4.	60.	35.	5.
住 居 所 有												
1. 自 家	91.	6.	2.	40.	56.	4.	90.	10.	0.	60.	33.	7.
2. 借 家	82.-	16.+	1.	54.+	43.	3.	83.	15.	2.	68.	29.	3.
3. 社 宅 等	88.	10.	3.	49.	49.	3.	91.	3.	6.+	61.	26.	13.
居 住 年												
1. 35年以前	88.	9.	3.	51.	46.	2.	90.	10.	0.	66.	30.	4.
2. 36~50年	87.	10.	3.	42.	53.	5.	90.	10.	0.	64.	27.	9.
3. 51~53年	91.	9.	0.	46.	49.	6.	84.	12.	4.	60.	35.	5.
4. 54年以降	84.	14.	2.	43.	55.	2.						
支 持 政 党												
1. 自 民 党	85.	12.	2.	40.	56.	4.	91.	9.	0.	61.	33.	6.
2. 公 明 党	80.	15.	5.	73.+	20.-	7.	87.	13.	0.	68.	29.	3.
3. 革 新 系	92.	8.	0.	43.	54.	3.	91.	9.	0.	58.	27.	15.
4. そ の 他	00.	0.	0.	58.	42.	0.	85.	11.	5.	64.	30.	5.
5. 無 D.K.	87.	10.	3.	47.	49.	4.						
家 族 構 成												
1. 定 位 家 族	86.	14.	0.	18.-	75.+	7.	87.	9.	4.	59.	38.	3.
2. 単 身	90.	10.	0.	37.	62.	0.	74.-	23.+	3.	46.	46.	8.
3. 既 婚 / 子 無 し	81.	19.+	0.	51.	49.	0.	84.	16.	0.	61.	29.	11.
4. 学 童 以 下 有	92.	6.	2.	53.	43.	4.	88.	10.	2.	69.	24.	7.
5. 学 童 以 下 無	88.	8.	4.	52.	45.	3.	98.+	2.	0.	69.	27.	4.
兄 弟 数												
1. 1 人	95.	5.	0.	23.-	65.	12.+	86.	14.	0.	70.	30.	0.
2. 2 人	87.	9.	3.	36.	62.+	2.	90.	10.	0.	61.	30.	9.
3. 3 ~ 4 人	86.	11.	2.	51.	47.	2.	86.	11.	4.	68.	24.	8.
4. 5 人 ~	89.	9.	1.	50.	45.	5.	90.	10.	0.	56.	41.	4.
兄 弟 順 位												
1. 1 番 目	90.	8.	2.	40.	56.	3.	93.	7.	0.	60.	34.	6.
2. 2, 3 番 目	86.	12.	2.	50.	47.	3.	85.	12.	3.	69.	25.	6.
3. 4 番 以 降	87.	9.	3.	46.	47.	6.	82.	15.	3.	56.	36.	8.

付表 6

問4・B 家の周辺で困っていること-困っていることの有無-

回答カテゴリー 属性 カテゴリー	性 女		性 男					
	武蔵野		三 鷹		武蔵野		三 鷹	
	1 あり	2 ない、他 D.K.	1 あり	2 ない、他 D.K.	1 あり	2 ない、他 D.K.	1 あり	2 ない、他 D.K.
全 体	39.	61.	38.	62.	31.	69.	34.	66.
年 齢								
1. 20歳~25歳	21.-	79.+	37.	63.	29.	71.	29.	71.
2. 26歳~35歳	44.	56.	46.	54.	15.-	85.+	33.	67.
3. 36歳~50歳	43.	57.	45.	55.	47.+	53.-	34.	66.
4. 51歳~65歳	41.	59.	28.	72.	35.	65.	42.	58.
5. 66歳~	78.	72.	18.-	82.+				
学 歴								
1. 中学(新)	35.	65.	21.-	79.+	23.	77.	29.	71.
2. 高校(新)	37.	63.	40.	60.	32.	68.	31.	69.
3. 大学以上	53.+	47.-	47.	53.	31.	69.	37.	63.
職 業								
1. 専 業	43.	57.	42.	58.	30.	70.	43.	57.
2. パ ー ト	39.	61.	37.	63.	27.	73.	24.	76.
3. 主 婦	41.	59.	37.	63.	35.	65.	34.	66.
4. 無,学,D.K.	12.-	88.+	33.	67.	32.	68.	32.	68.
勤 務 地								
1. 市 内	37.	62.	43.	57.	39.	61.	37.	63.
2. 都 下	32.	68.	42.	58.	12.	87.	28.	72.
3. 中 心 区	52.	48.	29.	71.	42.	58.	34.	66.
4. 区 部	50.	50.	39.	61.	21.	79.	31.	69.
5. 無, D.K.	37.	63.	36.	64.	32.	68.	40.	60.
住 居 状 況								
1. 一戸建/上	42.	58.	37.	63.	35.	65.	52.	48.
2. 一戸建/中・下	39.	61.	36.	64.	31.	69.	36.	64.
3. 集合/上・中	40.	60.	42.	58.	26.	74.	27.	73.
4. 集合/下	29.	71.	38.	62.	32.	68.	25.	75.
住 居 所 有								
1. 自 家	42.	58.	35.	65.	36.	64.	40.	60.
2. 借 家	34.	66.	42.	58.	29.	71.	30.	70.
3. 社 宅 等	33.	68.	41.	59.	19.	81.	23.	77.
居 住 年								
1. 35年以前	39.	61.	32.	68.	40.	60.	46.	54.
2. 36~50年	40.	60.	42.	58.	20.	80.	25.	75.
3. 51~53年	35.	65.	43.	57.	27.	73.	34.	66.
4. 54年以降	40.	60.	37.	63.				
支 持 政 党								
1. 自 民 党	34.	66.	33.	67.	35.	65.	31.	69.
2. 公 明 党	45.	55.	40.	60.	32.	68.	29.	71.
3. 革 新 系	47.	53.	44.	56.	30.	70.	27.	73.
4. そ の 他	43.	57.	47.	53.	30.	70.	27.	73.
5. 無, D.K.	36.	64.	38.	62.	26.	74.	39.	61.
家 族 構 成								
1. 定 位 家 族	28.	72.	41.	59.	9.-	91.+	41.	59.
2. 単 身	25.	75.	37.	62.	32.	68.	21.	79.
3. 既 婚/子 無 し	42.	58.	33.	67.	36.	64.	21.	79.
4. 学 童 以 下 有	44.	56.	46.	54.	36.	64.	44.	56.
5. 学 童 以 下 無	39.	61.	32.	68.	31.	69.	31.	69.
兄 弟 数								
1. 1 人	41.	59.	50.	50.	43.	57.	60.	40.
2. 2 人	37.	63.	33.	67.	30.	70.	23.	77.
3. 3 ~ 4 人	37.	63.	38.	62.	25.	75.	30.	70.
4. 5 人 ~	42.	58.	39.	61.	37.	63.	43.	57.
兄 弟 順 位								
1. 1 番 目	37.	63.	44.	56.	33.	67.	37.	63.
2. 2, 3 番 目	38.	62.	33.	67.	23.	77.	30.	70.
3. 4 番 以 降	44.	56.	39.	61.	41.	59.	36.	64.

付表 7

問5 家の周辺で困っていること一選んだ項目数一

回答カテゴリー 属性 カテゴリー	女						男						
	武蔵野			三鷹			武蔵野			三鷹			
	1 2以上	2 1, D.K.	3 非該当	1 2以上	2 1, D.K.	3 非該当	1 2以上	2 1, D.K.	3 非該当	1 2以上	2 1, D.K.	3 非該当	
全 体	14.	26.	61.	12.	27.	62.	全 体	11.	20.	69.	15.	19.	66.
年 齢							年 齢						
1. 20歳~25歳	2.-	21.	77.+	7.	31.	63.	1. 20歳~30歳	12.	17.	71.	13.	15.	71.
2. 26歳~35歳	5.-	40.+	56.	15.	32.	53.	2. 31歳~40歳	6.	12.	83.+	16.	18.	67.
3. 36歳~50歳	20.+	23.	57.	14.	32.	55.	3. 41歳~55歳	19.	28.	53.-	19.	15.	66.
4. 51歳~65歳	20.	23.	57.	13.	15.-	72.	4. 56歳~	9.	26.	65.	10.	32.	59.
5. 66歳~	9.	19.	72.	2.	16.	82.+							
学 歴							学 歴						
1. 中 学(新)	12.	23.	65.	7.	14.-	79.+	1. 中 学(新)	9.	14.	77.	6.	24.	71.
2. 高 校(新)	14.	24.	62.	12.	29.	59.	2. 高 校(新)	8.	24.	68.	14.	17.	69.
3. 大 学 以上	16.	37.	47.-	17.	31.	53.	3. 大 学 以上	14.	18.	68.	17.	20.	63.
職 業							職 業						
1. 専 業	14.	30.	56.	12.	39.	58.	1. 技・管・自由	12.	20.	64.	22.	21.	57.
2. パ ー ト 婦	15.	24.	61.	12.	25.	63.	2. 事 務	12.	15.	73.	10.	14.	76.
3. 主 婦	15.	27.	58.	12.	26.	62.	3. 労 働・自 営	6.	29.	65.	14.	20.	66.
4. 無 学, D.K.	5.	10.-	85.+	11.	22.	67.	4. 無 学, D.K.	14.	18.	68.	9.	23.	68.
勤 務 地							勤 務 地						
1. 市 内 下 部	14.	25.	61.	16.	27.	57.	1. 市 内 下 部	9.	30.	61.	16.	22.	63.
2. 都 心 区 部	8.	24.	61.	4.	38.	58.	2. 都 心 区 部	4.	12.	83.	21.	7.	72.
3. 中 心 区 部	14.	38.	48.	4.	25.	71.	3. 中 心 区 部	23.+	19.	58.	13.	22.	66.
4. 区 部	13.	38.	50.	13.	25.	61.	4. 区 部	2.	19.	79.	16.	15.	69.
5. 無 D.K.	15.	23.	63.	12.	25.	63.	5. 無 D.K.	14.	19.	68.	5.	35.	60.
住 居 状 況							住 居 状 況						
1. 一 戸 建 / 上	16.	27.	57.	9.	28.	63.	1. 一 戸 建 / 上	15.	21.	65.	24.	28.	48.
2. 一 戸 建 / 中・下	18.	22.	60.	13.	24.	64.	2. 一 戸 建 / 中・下	10.	21.	69.	16.	20.	64.
3. 集 合 / 上・中	10.	30.	60.	9.	32.	58.	3. 集 合 / 上・中	9.	19.	72.	12.	15.	73.
4. 集 合 / 下	6.	25.	69.	17.	22.	60.	4. 集 合 / 下	12.	20.	68.	10.	15.	75.
住 居 所 有							住 居 所 有						
1. 自 家	17.	26.	57.	11.	24.	65.	1. 自 家	12.	24.	64.	20.	21.	60.
2. 借 家 等	10.	25.	65.	13.	29.	58.	2. 借 家 等	12.	19.	69.	13.	17.	70.
3. 社 宅 等	8.	25.	68.	8.	32.	59.	3. 社 宅 等	6.	13.	81.	6.	16.	77.
居 住 年							居 住 年						
1. 35年以前	18.	22.	60.	12.	20.	68.	1. 35年以前	14.	26.	60.	26.+	20.	54.
2. 36~50年	13.	26.	60.	14.	29.	58.	2. 36~50年	7.	15.	78.	5.-	20.	75.
3. 51~53年	13.	24.	63.	11.	31.	57.	3. 51年以降	10.	16.	73.	18.	16.	66.
4. 54年以降	2.-	38.	50.	6.	31.	63.							
支 持 政 党							支 持 政 党						
1. 自 民 党	12.	24.	64.	14.	19.	67.	1. 自 民 党	9.	26.	65.	17.	15.	69.
2. 公 明 党	15.	30.	55.	0.	40.	60.	2. 公 明 党	11.	24.	66.	10.	19.	71.
3. 革 新 系 他	15.	32.	53.	14.	30.	56.	3. 革 新 系 他	13.	17.	70.	12.	15.	73.
4. そ の 他	24.	19.	57.	21.	26.	53.	4. そ の 他	12.	14.	74.	17.	22.	61.
5. 無 D.K.	12.	24.	63.	10.	28.	62.	4. 無 D.K.	12.	14.	74.	17.	22.	61.
家 族 構 成							家 族 構 成						
1. 定 位 家 族	3.	28.	69.	10.	31.	59.	1. 定 位 家 族	0.	9.	91.+	28.	14.	59.
2. 単 身	4.	21.	75.+	8.	29.	62.	2. 単 身	10.	23.	68.	8.	12.	79.
3. 既 婚 / 子 無 し	16.	26.	58.	11.	23.	67.	3. 既 婚 / 子 無 し	16.	24.	60.	7.	14.	79.
4. 学 童 以 下 有	15.	29.	56.	16.	31.	53.	4. 学 童 以 下 有	18.	18.	64.	22.	22.	56.
5. 学 童 以 下 無	18.	23.	59.	10.	22.	68.	5. 学 童 以 下 無	8.	24.	69.	8.	24.	69.
兄 弟 数							兄 弟 数						
1. 1 人	0.	41.	59.	19.	31.	50.	1. 1 人	14.	36.	50.	20.	40.	40.
2. 2 人	13.	24.	63.	6.	27.	67.	2. 2 人	7.	23.	70.	9.	14.	77.
3. 3 ~ 4 人	13.	25.	62.	13.	26.	61.	3. 3 ~ 4 人	6.	19.	75.	18.	13.	70.
4. 5 人 ~	18.	25.	57.	12.	27.	61.	4. 5 人 ~	22.+	16.	63.	15.	28.	57.
兄 弟 順 位							兄 弟 順 位						
1. 1 番 目	11.	27.	62.	12.	33.	55.	1. 1 番 目	10.	25.	65.	21.	16.	63.
2. 2, 3 番 目	13.	25.	61.	9.	24.	67.	2. 2, 3 番 目	5.	18.	77.	11.	19.	70.
3. 4 番 以 降	19.	25.	56.	18.	20.	61.	3. 4 番 以 降	26.+	15.	59.	13.	23.	64.

付表 8
問3・C 地域の催し・行事への参加

回答 属性 カテゴリー	女						男						
	武蔵野			三 鷹			武蔵野			三 鷹			
	1 参加	2 消極的	3 不参加	1 参加	2 消極的	3 不参加	1 参加	2 消極的	3 不参加	1 参加	2 消極的	3 不参加	
全 体	28.	26.	46.	32.	30.	37.	全 体	29.	28.	43.	27.	34.	39.
年 齢							年 齢						
1. 20歳~25歳	17.	23.	60.	19.-	31.	51.+	1. 20歳~30歳	24.	21.	55.	15.	33.	52.
2. 26歳~35歳	32.	30.	39.	46.+	25.	28.-	2. 31歳~40歳	31.	27.	42.	31.	44.	24.-
3. 36歳~50歳	42.+	23.	35.-	36.	35.	29.	3. 41歳~55歳	33.	35.	33.	29.	34.	37.
4. 51歳~65歳	18.-	26.	56.+	22.	36.	41.	4. 56歳~	30.	28.	42.	35.	23.	42.
5. 66歳~	15.-	30.	55.	24.	16.-	60.+							
学 歴							学 歴						
1. 中 学(新)	25.	28.	47.	20.-	35.	45.	1. 中 学(新)	41.	36.	23.	41.	24.	35.
2. 高 校(新)	30.	26.	44.	36.	30.	34.	2. 高 校(新)	30.	20.	50.	26.	33.	40.
3. 大 学 以上	19.	23.	58.	31.	25.	44.	3. 大 学 以上	26.	32.	42.	24.	37.	38.
職 業							職 業						
1. 専 業	23.	26.	52.	35.	27.	38.	1. 技・管・自由	26.	30.	44.	27.	40.	33.
2. パ ー ト	34.	31.	35.	35.	31.	35.	2. 事 務	29.	29.	42.	29.	40.	31.
3. 主 婦	32.	24.	45.	34.	32.	34.	3. 労働・自営	44.	12.-	44.	30.	27.	43.
4. 無 学, D.K.	20.	32.	49.	15.-	30.	54.+	4. 無 学, D.K.	23.	36.	41.	14.	18.	68.+
勤 務 地							勤 務 地						
1. 市 内	41.+	19.	41.	50.+	23.	27.-	1. 市 内	39.	39.	21.-	31.	29.	39.
2. 都 下	12.	24.	64.	23.	38.	39.	2. 都 下	25.	29.	46.	17.	59.+	24.
3. 中 心 区	7.-	41.	52.	25.	33.	42.	3. 中 心 区	28.	26.	47.	25.	38.	38.
4. 区 部	20.	33.	48.	20.	30.	50.	4. 区 部	28.	26.	47.	29.	31.	40.
5. 無, D.K.	28.	26.	46.	29.	32.	39.	5. 無, D.K.	27.	22.	51.	25.	15.	60.
住 居 状 況							住 居 状 況						
1. 一戸建/上	20.	27.	53.	26.	26.	47.	1. 一戸建/上	26.	38.	35.	20.	40.	40.
2. 一戸建/中・下	32.	28.	40.	31.	30.	38.	2. 一戸建/中・下	39.	27.	34.	33.	35.	32.
3. 集合/上・中	28.	24.	47.	38.	32.	31.	3. 集合/上・中	26.	28.	46.	25.	33.	42.
4. 集合/下	27.	23.	50.	33.	31.	36.	4. 集合/下	16.	16.	68.+	15.	30.	55.
住 居 所 有							住 居 所 有						
1. 自 家	28.	26.	46.	29.	31.	40.	1. 自 家	34.	30.	36.	31.	36.	33.
2. 借 家	24.	30.	46.	35.	30.	34.	2. 借 家	19.	22.	59.+	20.	32.	48.
3. 社 宅 等	40.	10.-	50.	41.	24.	35.	3. 社 宅 等	38.	31.	31.	29.	35.	35.
居 住 年							居 住 年						
1. 35年以前	24.	31.	45.	36.	31.	33.	1. 35年以前	32.	35.	33.	46.+	32.	22.-
2. 36~50年	34.	24.	42.	31.	34.	35.	2. 36~50年	39.	24.	37.	24.	39.	37.
3. 51~53年	34.	21.	46.	29.	26.	46.	3. 51年以降	21.	22.	57.+	15.-	31.	55.+
4. 54年以降	12.-	24.	64.+	33.	20.	47.							
支 持 政 党							支 持 政 党						
1. 自 民 党	28.	21.	50.	26.	34.	40.	1. 自 民 党	39.	30.	31.	30.	31.	39.
2. 公 明 党	25.	15.	60.	47.	27.	27.	2. 革 新 系	32.	26.	42.	52.+	16.-	32.
3. 革 新 系	37.	28.	36.-	35.	33.	32.	3. そ の 他	17.	26.	57.	15.	31.	54.
4. そ の 他	14.	33.	52.	21.	42.	37.	4. 無, D.K.	25.	28.	48.	18.	45.	37.
5. 無, D.K.	24.	29.	47.	35.	26.	39.							
家 族 構 成							家 族 構 成						
1. 定 位 家 族	11.-	33.	56.	18.-	32.	50.+	1. 定 位 家 族	22.	35.	43.	21.	24.	55.
2. 単 身	10.-	23.	67.+	0.-	37.	62.+	2. 単 身	10.-	10.-	81.+	12.	29.	58.
3. 既 婚/子 無 し	16.-	26.	58.+	26.	30.	44.	3. 既 婚/子 無 し	16.	32.	52.	25.	32.	43.
4. 学 童 以 下 有	53.+	24.	23.-	56.+	24.	20.-	4. 学 童 以 下 有	52.+	32.	16.-	25.	47.+	27.
5. 学 童 以 下 無	20.-	27.	53.	25.	34.	41.	5. 学 童 以 下 無	29.	29.	41.	39.+	29.	31.
兄 弟 数							兄 弟 数						
1. 1 人	18.	23.	59.	35.	35.	31.	1. 1 人	36.	43.	21.	10.	40.	50.
2. 2 人	21.	30.	49.	32.	31.	37.	2. 2 人	20.	30.	50.	20.	25.	55.+
3. 3~4 人	34.	21.	45.	32.	27.	41.	3. 3~4 人	28.	24.	48.	32.	39.	29.
4. 5 人~	26.	31.	43.	32.	32.	35.	4. 5 人~	35.	29.	35.	28.	33.	39.
兄 弟 順 位							兄 弟 順 位						
1. 1 番 目	24.	32.	44.	29.	33.	38.	1. 1 番 目	31.	31.	39.	22.	37.	41.
2. 2, 3 番 目	30.	20.	50.	33.	30.	37.	2. 2, 3 番 目	27.	26.	47.	33.	33.	35.
3. 4 番 以 降	31.	26.	43.	37.	27.	37.	3. 4 番 以 降	32.	26.	41.	23.	33.	44.

付表 9

問9・D 清掃などの呼びかけへの協力

回答カテゴリー 属性カテゴリー	性 女						性 男					
	武蔵野			三 鷹			武蔵野			三 鷹		
	1 協力	2 時に よる	3 消極的	1 協力	2 時に よる	3 消極的	1 協力	2 時に よる	3 消極的	1 協力	2 時に よる	3 消極的
全 体	33.	55.	13.	37.	49.	14.	21.	67.	12.	23.	65.	12.
年 齢												
1. 20歳~25歳	13.-	70.+	17.	12.-	61.	27.+	2.-	88.+	10.	12.	71.	17.
2. 26歳~35歳	23.	72.+	6.	25.-	63.+	13.	15.	73.	12.	22.	64.	13.
3. 36歳~50歳	43.+	48.	10.	48.+	42.	10.	30.	53.	16.	27.	66.	7.
4. 51歳~65歳	39.	49.	13.	48.+	44.	8.	37.+	53.	9.	35.	55.	10.
5. 66歳~	30.	43.	26.+	44.	29.-	27.+						
学 歴												
1. 中 学(新)	35.	42.-	23.+	42.	39.	18.	36.	41.-	23.	24.	59.	18.
2. 高 校(新)	32.	56.	11.	38.	47.	14.	18.	76.	7.	21.	63.	15.
3. 大学 以上	32.	60.	9.	22.-	68.+	10.	20.	67.	13.	24.	69.	7.
職 業												
1. 専 業	24.-	65.+	11.	31.	56.	13.	20.	68.	12.	22.	70.	8.
2. パ ー ト	39.	52.	10.	37.	52.	12.	19.	77.	4.	17.	71.	12.
3. 主 婦	40.+	49.	11.	44.	46.	10.	29.	56.	15.	34.	55.	11.
4. 無 学, D.K.	20.	51.	29.+	28.	35.	37.+	18.	64.	18.	18.	59.	23.
勤 務 地												
1. 市 内	44.+	45.	11.	42.	50.	8.	33.	55.	12.	25.	61.	14.
2. 都 下	16.	68.	16.	15.-	58.	27.	8.	67.	25.+	28.	52.	21.
3. 中 心 区	21.	76.+	3.	17.-	62.	21.	21.	70.	9.	19.	81.	0.-
4. 区	8.-	88.+	5.	30.	59.	11.	12.	86.+	2.	16.	73.	11.
5. 無, D.K.	36.	49.	15.	40.	44.	16.	30.	54.	16.	35.	50.	15.
住 居 状 況												
1. 一 戸 建 / 上	33.	52.	16.	42.	39.	18.	24.	59.	18.	44.+	52.	4.
2. 一 戸 建 / 中・下	34.	53.	13.	38.	46.	16.	30.	55.-	15.	21.	71.	8.
3. 集 合 / 上・中	34.	58.	8.	36.	54.	10.	15.	78.	7.	19.	63.	18.
4. 集 合 / 下	25.	58.	17.	29.	59.	12.	8.	88.+	4.	15.	70.	15.
住 居 所 有												
1. 自 家	34.	53.	13.	39.	43.	18.	28.	58.	13.	30.	63.	7.
2. 借 家	27.	60.	13.	31.	58.+	11.	5.-	81.+	14.	13.	70.	17.
3. 社 宅 等	45.	48.	8.	49.	46.	5.	31.	66.	3.	26.	61.	13.
居 住 年												
1. 35年 以 前	34.	51.	15.	36.	44.	20.	29.	58.	12.	30.	64.	6.
2. 36 ~ 50年	34.	54.	12.	46.+	44.	10.	22.	68.	10.	20.	69.	11.
3. 51 ~ 53年	35.	59.	6.	29.	57.	14.	12.	76.	12.	21.	61.	18.
4. 54年 以 降	20.	64.	16.	18.-	67.+	14.						
支 持 政 党												
1. 自 民 党	30.	52.	18.+	41.	49.	10.	30.	54.-	17.	20.	69.	11.
2. 公 明 党	30.	55.	15.	33.	60.	7.	21.	74.	5.	16.	81.	3.
3. 革 新 系	45.+	48.	7.	46.	46.	9.	30.	57.	13.	31.	54.	15.
4. そ の 他	38.	57.	5.	42.	42.	16.	11.-	78.	11.	25.	61.	14.
5. 無, D. K.	27.	61.	12.	31.	50.	19.						
家 族 構 成												
1. 定 位 家 族	8.-	78.+	14.	15.-	54.	31.+	0.-	91.+	9.	17.	72.	10.
2. 単 身	19.-	67.	15.	21.	67.	12.	0.-	94.+	6.	8.	58.	33.+
3. 既 婚 / 子 無 し	31.	61.	8.	32.	58.	11.	20.	64.	16.	21.	71.	7.
4. 学 童 以 下 有	37.	54.	9.	36.	58.+	7.-	30.	60.	10.	22.	71.	7.
5. 学 童 以 下 無	41.+	42.-	18.	53.+	32.-	16.	35.+	49.-	16.	35.+	55.	10.
兄 弟 数												
1. 1 人	45.	41.	14.	23.	62.	15.	0.	100.+	0.	30.	50.	20.
2. 2 人	24.	64.	11.	30.	54.	17.	7.	83.	10.	20.	66.	14.
3. 3 ~ 4 人	28.	58.	14.	34.	49.	17.	15.	72.	13.	16.	73.	10.
4. 5 人 ~	42.+	46.-	12.	47.+	44.	9.	45.+	41.-	14.	33.	56.	11.
兄 弟 順 位												
1. 1 番 目	29.	59.	13.	33.	54.	14.	17.	72.	11.	22.	62.	16.
2. 2, 3 番 目	31.	57.	12.	34.	49.	17.	22.	69.	9.	20.	70.	10.
3. 4 番 以 降	42.	45.	14.	48.+	41.	11.	29.	53.	18.	31.	62.	8.

付表 10

問6・E 近隣地域で困っている問題への対処

回答カテゴリー 属性カテゴリー	性 女						性 男					
	武蔵野			三 鷹			武蔵野			三 鷹		
	1 思う	2 中間	3 思わ ない	1 思う	2 中間	3 思わ ない	1 思う	2 中間	3 思わ ない	1 思う	2 中間	3 思わ ない
全 体	40.	46.	14.	36.	49.	16.	28.	64.	8.	26.	57.	17.
年 齢												
1. 20歳~25歳	23.-	62.+	15.	20.-	53.	27.+	21.	64.	14.	17.	60.	23.
2. 26歳~35歳	40.	49.	11.	35.	49.	15.	21.	75.	4.	18.	60.	22.
3. 36歳~50歳	44.	43.	13.	44.	41.	15.	40.	53.	7.	34.	58.	8.
4. 51歳~65歳	47.	38.	16.	40.	47.	13.	33.	60.	7.	39.	45.	16.
5. 66歳~	30.	57.	13.	31.	58.	11.						
学 歴												
1. 中学(新)	42.	42.	17.	27.	63.+	10.	32.	64.	5.	35.	53.	12.
2. 高校(新)	40.	46.	13.	37.	47.	16.	28.	59.	12.	20.	57.	23.
3. 大学以上	35.	51.	14.	44.	31.-	25.	27.	68.	5.	30.	57.	13.
職 業												
1. 専 業	38.	50.	13.	36.	48.	16.	26.	70.	4.	27.	56.	17.
2. パ ー ト	44.	35.	21.	31.	52.	17.	27.	65.	8.	26.	60.	14.
3. 主婦	44.	44.	11.	41.	44.	15.	24.	65.	12.	23.	59.	18.
4. 無,学,D.K.	22.-	61.	17.	24.	59.	17.	36.	55.	9.	32.	45.	23.
勤 務 地												
1. 市 内	43.	48.	9.	40.	48.	13.	27.	58.	15.	22.	55.	24.
2. 都 下	28.	56.	16.	27.	54.	19.	25.	71.	4.	21.	62.	17.
3. 中 心 区	41.	41.	17.	37.	50.	12.	30.	65.	5.	34.	59.	6.
4. 区 部	30.	43.	28.+	26.	50.	24.	26.	70.	5.	25.	56.	18.
5. 無, D.K.	41.	46.	12.	38.	46.	16.	32.	57.	11.	35.	50.	15.
住居状況												
1. 一戸建/上	46.	34.-	20.	41.	50.	9.	21.	68.	12.	36.	52.	12.
2. 一戸建/中・下	36.	55.+	9.	37.	49.	14.	34.	60.	6.	32.	53.	15.
3. 集合/上・中	42.	41.	16.	31.	47.	22.	33.	63.	4.	19.	64.	16.
4. 集合/下	35.	56.	10.	40.	43.	17.	12.	72.	16.	15.	50.	35.+
住居所有												
1. 自 家	40.	45.	14.	38.	50.	11.	34.	58.	8.	30.	55.	15.
2. 借 家	40.	46.	13.	33.	42.	25.+	27.	61.	12.	25.	55.	20.
3. 社 宅 等	35.	55.	10.	38.	54.	8.	16.	84.+	0.	19.	65.	16.
居 住 年												
1. 35年以前	42.	44.	14.	37.	49.	14.	33.	58.	8.	36.	48.	16.
2. 36~50年	47.	42.	11.	42.	42.	17.	27.	71.	2.	20.	65.	15.
3. 51~53年	29.	53.	18.	31.	51.	17.	24.	66.	10.	26.	53.	21.
4. 54年以降	26.-	58.	16.	22.-	59.	18.						
支持政党												
1. 自 民 党	36.	51.	13.	41.	53.	6.-	26.	67.	7.	26.	65.	9.
2. 公 明 党	50.	35.	15.	33.	40.	27.	34.	61.	5.	10.-	71.	19.
3. 革 新 系 他	51.+	34.-	15.	41.	44.	15.	26.	61.	13.	35.	42.	23.
4. その他	38.	33.	29.	26.	47.	26.	28.	65.	8.	30.	50.	20.
5. 無, D. K.	35.	53.	11.	33.	47.	20.						
家族構成												
1. 定位家族	44.	47.	8.	21.-	56.	24.	22.	74.	4.	21.	52.	28.
2. 単 身	25.-	60.	15.	25.	54.	21.	13.	71.	16.	8.	62.	29.
3. 既婚/子無し	39.	43.	18.	35.	53.	12.	24.	60.	16.	29.	61.	11.
4. 学童以下有	47.	45.	8.	47.+	39.	13.	40.	60.	0.-	36.	53.	11.
5. 学童以下無	37.	45.	18.	36.	49.	16.	31.	61.	8.	25.	59.	16.
兄 弟 数												
1. 1 人	55.	41.	5.	46.	42.	12.	43.	57.	0.	60.+	30.	10.
2. 2 人	37.	53.	10.	30.	55.	15.	13.	63.	23.+	20.	59.	20.
3. 3~4 人	40.	48.	12.	34.	48.	18.	26.	68.	6.	19.	66.	15.
4. 5 人~	39.	42.	19.	42.	44.	15.	37.	59.	4.	35.	46.	19.
兄 弟 順 位												
1. 1 番 目	42.	47.	11.	37.	46.	17.	31.	62.	7.	28.	49.	24.
2. 2,3 番 目	40.	45.	15.	36.	46.	18.	22.	68.	11.	21.	68.	11.
3. 4 番 以 降	35.	48.	17.	37.	53.	11.	38.	59.	3.	33.	49.	18.

付表 11
問10・F 町づくり活動への参加

回答カテゴリー 属性カテゴリー	性 女						性 男					
	武蔵野			三 鷹			武蔵野			三 鷹		
	1 積極的	2 中間	3 否定的	1 積極的	2 中間	3 否定的	1 積極的	2 中間	3 否定的	1 積極的	2 中間	3 否定的
全 体	30.	27.	42.	37.	21.	42.	30.	22.	48.	41.	28.	30.
年 齢												
1. 20歳~25歳	21.	28.	51.	15.-	29.	56.+	31.	21.	48.	33.	33.	35.
2. 26歳~35歳	25.	26.	49.	39.	23.	38.	29.	19.	52.	38.	24.	38.
3. 36歳~50歳	40.+	25.	34.	46.+	15.	39.	33.	23.	44.	42.	29.	29.
4. 51歳~65歳	27.	31.	42.	42.	20.	38.	28.	23.	49.	58.	26.	16.
5. 66歳~	30.	25.	45.	27.	24.	49.						
学 歴												
1. 中 学(新)	27.	28.	45.	32.	25.	42.	36.	18.	45.	35.	24.	41.
2. 高 校(新)	30.	27.	43.	39.	19.	41.	28.	16.	55.	39.	30.	31.
3. 大 学 以上	39.	26.	35.	32.	24.	44.	30.	27.	43.	44.	28.	28.
職 業												
1. 専 業	33.	31.	36.	30.	21.	50.	22.	20.	58.	44.	29.	27.
2. パ ー ト	31.	23.	47.	50.	13.	37.	29.	29.	42.	43.	28.	29.
3. 主 婦	27.	26.	47.	44.	22.	33.-	35.	12.	53.	41.	23.	36.
4. 無 学, D.K.	37.	24.	39.	20.-	24.	57.+	36.	23.	41.	27.	41.	32.
勤 務 地												
1. 市 内	35.	33.	31.-	44.	16.	41.	36.	18.	45.	41.	35.	24.
2. 都 下	24.	32.	44.	31.	12.	58.	29.	25.	46.	31.	24.	45.
3. 中 心 区	31.	17.	52.	21.	33.	46.	23.	16.	60.	44.	28.	28.
4. 区 部	30.	28.	43.	28.	24.	48.	33.	28.	40.	51.	20.	29.
5. 無, D.K.	29.	25.	46.	39.	22.	39.	30.	22.	49.	25.	40.	35.
住 居 状 況												
1. 一 戸 建 / 上	28.	29.	43.	46.	18.	36.	26.	24.	50.	60.	12.	28.
2. 一 戸 建 / 中・下	39.+	21.	40.	35.	24.	41.	33.	27.	40.	47.	29.	24.
3. 集 合 / 上・中	24.	33.	43.	37.	17.	46.	31.	17.	52.	31.	31.	37.
4. 集 合 / 下	23.	29.	48.	34.	21.	45.	24.	16.	60.	30.	35.	35.
住 居 所 有												
1. 自 家	34.	25.	41.	38.	20.	42.	29.	24.	47.	52.	22.	26.
2. 借 家	22.-	30.	48.	35.	20.	46.	25.	20.	54.	33.	32.	35.
3. 社 宅 等	35.	33.	33.	43.	30.	27.	41.	19.	41.	29.	39.	32.
居 住 年												
1. 35年以前	33.	29.	38.	30.	22.	47.	31.	25.	44.	46.	26.	28.
2. 36~50年	32.	26.	42.	45.+	18.	37.	41.	7.-	51.	41.	25.	33.
3. 51~53年	32.	24.	44.	37.	20.	43.	22.	27.	51.	37.	34.	29.
4. 54年以降	14.-	28.	58.+	29.	27.	45.						
支 持 政 党												
1. 自 民 党	26.	25.	49.	38.	19.	43.	30.	20.	50.	50.	22.	28.
2. 公 明 党	45.	15.	40.	60.	13.	27.	42.	29.	29.-	32.	29.	39.
3. 革 新 系	42.+	27.	32.-	51.+	16.	33.	30.	26.	43.	35.	42.	23.
4. そ の 他	29.	33.	38.	26.	11.	63.	23.	17.	60.	41.	28.	32.
5. 無, D.K.	25.	30.	45.	31.	25.	44.						
家 族 構 成												
1. 定 位 家 族	22.	22.	56.	15.-	26.	59.+	30.	13.	57.	31.	24.	45.
2. 単 身	15.-	33.	52.	29.	17.	54.	16.	13.	71.+	21.-	37.	42.
3. 既 婚 / 子 無 し	23.	32.	45.	35.	25.	40.	24.	36.	40.	46.	39.	14.
4. 学 童 以 下 有	36.	23.	41.	47.+	18.	36.	46.+	14.	40.	42.	25.	33.
5. 学 童 以 下 無	36.	28.	36.	41.	20.	39.	25.	31.	43.	53.	24.	24.
兄 弟 数												
1. 1 人	14.	41.	45.	27.	23.	50.	21.	21.	57.	50.	20.	30.
2. 2 人	31.	31.	38.	33.	23.	44.	23.	37.	40.	30.	39.	32.
3. 3~4 人	29.	27.	44.	36.	24.	40.	33.	15.	52.	41.	34.	25.
4. 5 人 ~	35.	23.	42.	43.	15.	42.	31.	24.	45.	50.	13.-	37.
兄 弟 順 位												
1. 1 番 目	29.	30.	41.	33.	27.	41.	29.	26.	44.	44.	29.	26.
2. 2, 3 番 目	30.	27.	43.	37.	20.	43.	28.	20.	51.	38.	34.	29.
3. 4 番 以 降	33.	23.	44.	45.	14.	41.	35.	15.	50.	44.	15.	41.

付表 12

問17・G 住民運動への参加——マンション建設反対運動の場合——

回答カテゴリー 属性カテゴリー	女						回答カテゴリー 属性カテゴリー	男					
	武蔵野			三鷹				武蔵野			三鷹		
	1 積極的 参加	2 消極的 参加	3 不参加	1 積極的 参加	2 消極的 参加	3 不参加		1 積極的 参加	2 消極的 参加	3 不参加	1 積極的 参加	2 消極的 参加	3 不参加
全 体	32.	31.	37.	33.	31.	37.	全 体	26.	19.	54.	23.	37.	40.
年 齢							年 齢						
1. 20歳～25歳	15.-	34.	51.+	12.-	31.	58.+	1. 20歳～30歳	17.	19.	64.	19.	38.	42.
2. 26歳～35歳	25.	28.	47.	23.-	36.	41.	2. 31歳～40歳	19.	17.	63.	18.	31.	51.
3. 36歳～50歳	34.	34.	32.	41.	24.	35.	3. 41歳～55歳	33.	26.	42.	27.	37.	36.
4. 51歳～65歳	41.	27.	32.	41.	33.	26.-	4. 56歳～	37.	16.	47.	29.	42.	29.
5. 66歳～	40.	32.	28.	44.	33.	22.							
学 歴							学 歴						
1. 中学(新)	43.	30.	27.	45.+	30.	25.	1. 中学(新)	23.	23.	55.	41.	29.	29.
2. 高校(新)	30.	30.	40.	29.	32.	39.	2. 高校(新)	16.	22.	62.	19.	36.	45.
3. 大学以上	35.	39.	26.	36.	27.	37.	3. 大学以上	36.+	17.	48.	23.	40.	37.
職 業							職 業						
1. 専 業	27.	29.	44.	30.	28.	42.	1. 技・管・自由	32.	28.	40.-	24.	41.	35.
2. パート	32.	27.	40.	31.	33.	37.	2. 事 務	35.	19.	46.	24.	38.	38.
3. 主婦	38.	32.	30.	34.	32.	34.	3. 労働・自営	15.	18.	68.	23.	32.	45.
4. 無,学,D.K.	27.	37.	37.	35.	35.	30.	4. 無,学,D.K.	18.	11.	70.+	18.	32.	50.
勤 務 地							勤 務 地						
1. 市 内	33.	27.	40.	34.	28.	38.	1. 市 内	18.	21.	61.	25.	43.	31.
2. 都 下	24.	20.	56.+	19.	23.	58.+	2. 都 下	33.	17.	50.	17.	31.	52.
3. 中心区	31.	28.	41.	17.	33.	50.	3. 中心区	33.	16.	51.	22.	28.	50.
4. 区 部	25.	35.	40.	37.	33.	30.	4. 区 部	26.	26.	49.	18.	45.	36.
5. 無, D.K.	34.	33.	32.	34.	32.	33.	5. 無, D.K.	22.	16.	62.	40.	20.	40.
住居状況							住居状況						
1. 一戸建/上	33.	35.	33.	39.	34.	26.	1. 一戸建/上	41.	21.	38.	28.	20.	52.
2. 一戸建/中	34.	32.	34.	36.	31.	33.	2. 一戸建/中	22.	21.	57.	25.	45.	29.
3. 集合/上	33.	27.	39.	25.	30.	45.	3. 集合/上	24.	20.	56.	18.	34.	48.
4. 集合/下	25.	31.	44.	29.	26.	45.	4. 集合/下	20.	12.	68.	25.	35.	40.
住居所有							住居所有						
1. 自 家	34.	34.	32.	35.	32.	32.	1. 自 家	33.	20.	47.	25.	38.	37.
2. 借 家	33.	26.	42.	29.	26.	45.+	2. 借 家	20.	19.	61.	22.	35.	43.
3. 社 宅 等	20.	33.	48.	32.	41.	27.	3. 社 宅 等	19.	19.	63.	19.	39.	42.
居 住 年							居 住 年						
1. 35年以前	40.+	30.	30.	36.	36.	28.-	1. 35年以前	29.	19.	51.	16.	44.	40.
2. 36～50年	33.	32.	35.	37.	26.	37.	2. 36～50年	37.	20.	44.	27.	33.	40.
3. 51～53年	25.	24.	51.+	24.	27.	49.+	3. 51年以降	16.	19.	64.	24.	35.	40.
4. 54年以降	16.-	40.	44.	18.-	37.	45.							
支持政党							支持政党						
1. 自 民 党	28.	26.	46.+	38.	30.	32.	1. 自 民 党	26.	24.	50.	30.	35.	35.
2. 公 明 党	25.	30.	45.	20.	53.	27.	2. 革 新 系	39.	18.	42.	16.	48.	35.
3. 革 新 系	45.+	32.	23.-	44.+	24.	32.	3. そ の 他	26.	17.	57.	31.	42.	27.
4. そ の 他	48.	29.	24.	32.	37.	32.	4. 無, D.K.	18.	17.	65.	18.	32.	50.
5. 無, D.K.	27.	35.	38.	26.-	32.	42.							
家族構成							家族構成						
1. 定位家族	25.	31.	44.	18.-	34.	49.+	1. 定位家族	13.	22.	65.	28.	28.	45.
2. 単 身	21.	29.	50.	21.	25.	54.	2. 単 身	10.-	23.	68.	17.	33.	50.
3. 既婚/子無し	26.	38.	36.	32.	40.	28.	3. 既婚/子無し	28.	20.	52.	32.	54.	14.-
4. 学童以下有	34.	33.	33.	28.	30.	41.	4. 学童以下有	30.	18.	52.	18.	33.	49.
5. 学童以下無	41.+	26.	34.	46.+	27.	27.-	5. 学童以下無	37.	18.	45.	24.	39.	37.
兄 弟 数							兄 弟 数						
1. 1 人	32.	32.	36.	35.	27.	38.	1. 1 人	14.	14.	71.	30.	60.	10.
2. 2 人	29.	26.	45.	25.	36.	39.	2. 2 人	20.	17.	63.	30.	34.	36.
3. 3～4人	28.	33.	38.	36.	31.	34.	3. 3～4人	28.	20.	52.	16.	41.	43.
4. 5人～	40.	30.	29.	33.	29.	38.	4. 5人～	29.	22.	49.	26.	30.	44.
兄 弟 順 位							兄 弟 順 位						
1. 1 番 目	31.	31.	38.	34.	33.	33.	1. 1 番 目	28.	15.	57.	29.	35.	35.
2. 2,3番目	30.	32.	38.	33.	29.	39.	2. 2,3番目	22.	23.	55.	16.	45.	39.
3. 4番以降	41.	28.	31.	30.	32.	38.	3. 4番以降	32.	21.	47.	26.	23.	51.

付表 13
問19・H 住民運動一般についての意見

回答カテゴリー 属性 カテゴリー	性 女						性 男					
	武蔵野			三 鷹			武蔵野			三 鷹		
	1 肯定	2 中間	3 否定	1 肯定	2 中間	3 否定	1 肯定	2 中間	3 否定	1 肯定	2 中間	3 否定
全 体	35.	39.	26.	31.	37.	31.	36.	38.	26.	35.	42.	22.
年 齢												
1. 20歳~25歳	30.	40.	30.	20.	44.	36.	29.	40.	31.	35.	52.	13.
2. 26歳~35歳	32.	43.	25.	30.	38.	32.	37.	38.	25.	40.	33.	27.
3. 36歳~50歳	40.	37.	23.	40.+	35.	25.	44.	33.	23.	37.	37.	25.
4. 51歳~65歳	35.	39.	27.	28.	36.	35.	35.	42.	23.	26.	48.	26.
5. 66歳~	30.	38.	32.	31.	33.	36.						
学 歴												
1. 中学(新)	32.	32.	37.	21.	30.	49.+	32.	23.	45.+	18.	47.	35.
2. 高校(新)	34.	40.	25.	32.	40.	27.	36.	45.	19.	39.	37.	24.
3. 大学以上	40.	40.	19.	39.	31.	31.	37.	37.	26.	35.	47.	19.
職 業												
1. 専 業	32.	42.	26.	30.	35.	35.	32.	50.	18.	43.	38.	19.
2. パ ート	32.	39.	29.	37.	37.	27.	48.	35.	17.	33.	43.	24.
3. 主婦	39.	39.	23.	36.	37.	27.	24.	32.	44.+	27.	45.	27.
4. 無学, D.K.	29.	34.	37.	13.-	46.	41.	36.	34.	30.	36.	45.	18.
勤 務 地												
1. 市 内	33.	39.	28.	31.	40.	29.	36.	30.	33.	41.	39.	20.
2. 都 下	32.	44.	24.	35.	12.-	54.+	42.	46.	12.	24.	45.	31.
3. 中 心 区	24.	59.+	17.	25.	37.	37.	33.	42.	26.	25.	50.	25.
4. 区 部	45.	18.-	38.	33.	41.	26.	30.	44.	26.	36.	45.	18.
5. 無, D.K.	35.	40.	25.	32.	38.	30.	43.	30.	27.	50.	25.	25.
住 居 状 況												
1. 一戸建/上	35.	36.	29.	28.	36.	37.	26.	41.	32.	40.	44.	16.
2. 一戸建/中・下	32.	42.	26.	31.	39.	30.	33.	42.	25.	33.	47.	20.
3. 集合/上・中	39.	39.	23.	32.	40.	27.	46.	33.	20.	34.	37.	28.
4. 集合/下	31.	38.	31.	36.	28.	36.	36.	36.	28.	40.	40.	20.
住 居 所 有												
1. 自 家	34.	40.	26.	30.	38.	32.	31.	39.	29.	38.	41.	21.
2. 借 家	34.	34.	32.	31.	39.	30.	37.	39.	24.	30.	46.	23.
3. 社 宅 等	40.	50.	10.-	43.	27.	30.	47.	34.	19.	39.	35.	26.
居 住 年												
1. 35年以前	37.	40.	23.	34.	37.	29.	36.	36.	28.	28.	50.	22.
2. 36~50年	30.	42.	28.	30.	39.	31.	37.	29.	34.	33.	37.	29.
3. 51~53年	37.	35.	28.	30.	37.	33.	36.	46.	18.	44.	42.	15.
4. 54年以降	38.	32.	30.	33.	33.	35.						
支 持 政 党												
1. 自 民 党	26.-	40.	34.+	28.	37.	35.	31.	41.	28.	31.	43.	26.
2. 公 明 党	40.	20.	40.	33.	53.	13.	42.	34.	24.	35.	45.	19.
3. 革 新 系	51.+	31.	18.	42.	33.	25.	39.	48.	13.	38.	38.	23.
4. そ の 他	52.	24.	24.	32.	42.	26.	35.	35.	29.	37.	42.	21.
5. 無, D.K.	29.	48.+	23.	29.	37.	33.						
家 族 構 成												
1. 定 位 家 族	25.	42.	33.	19.-	44.	37.	22.	39.	39.	41.	52.	7.-
2. 単 身	31.	37.	31.	8.-	46.	46.	35.	42.	23.	29.	58.	12.
3. 既 婚/子 無 し	41.	35.	24.	28.	40.	32.	28.	52.	20.	36.	36.	29.
4. 学 童 以 下 有	36.	45.	19.	35.	36.	30.	44.	32.	24.	36.	38.	25.
5. 学 童 以 下 無	34.	36.	31.	39.+	33.	28.	39.	35.	25.	33.	37.	29.
兄 弟 数												
1. 1 人	18.	50.	32.	31.	46.	23.	50.	43.	7.	30.	70.	0.
2. 2 人	34.	31.	34.	27.	35.	38.	37.	33.	30.	48.	27.-	25.
3. 3 ~ 4 人	33.	43.	24.	32.	37.	32.	33.	36.	31.	38.	39.	23.
4. 5 人 ~	39.	38.	23.	34.	38.	28.	37.	43.	20.	22.-	54.	24.
兄 弟 順 位												
1. 1 番 目	34.	37.	29.	30.	38.	32.	44.	36.	19.	44.	40.	16.
2. 2, 3 番 目	32.	40.	28.	32.	35.	33.	27.	39.	34.	31.	41.	28.
3. 4 番 以 降	40.	41.	20.	32.	41.	27.	38.	41.	21.	28.	49.	23.

付表 14-1

問14 市施設の利用経験—利用する施設の種類数—(女)

属性 カテゴリー	性 女									
	武蔵野					三 鷹				
	1 最多 利用	2 やや多 い利用	3 平均的 利用	4 少ない 利用	5 否定的	1 最多 利用	2 やや多 い利用	3 平均的 利用	4 少ない 利用	5 否定的
全 体	15.	15.	25.	22.	23.	12.	17.	31.	19.	21.
年 齢										
1. 20歳~25歳	13.	13.	23.	19.	32.	14.	8.	34.	20.	24.
2. 26歳~35歳	12.	11.	34.+	27.	15.	12.	27.+	36.	13.	12.-
3. 36歳~50歳	25.+	22.+	23.	13.-	17.	20.+	21.	31.	15.	13.-
4. 51歳~65歳	11.	12.	22.	28.	27.	4.-	9.	26.	29.+	32.+
5. 66歳~	4.-	13.	21.	25.	38.+	7.	9.	20.	22.	42.+
学 歴										
1. 中 学(新)	12.	12.	25.	13.	38.+	6.	13.	27.	15.	39.+
2. 高 校(新)	17.	14.	24.	24.	21.	14.	16.	31.	22.	18.
3. 大 学 以 上	9.	25.	28.	21.	18.	14.	31.+	34.	7.-	15.
職 業										
1. 専 業	16.	13.	26.	18.	28.	12.	17.	30.	19.	22.
2. パ ー ト	21.	18.	24.	23.	15.	17.	23.	33.	17.	10.
3. 主 婦	14.	16.	25.	26.	19.	14.	16.	31.	20.	20.
4. 無, 学, D.K.	7.	20.	22.	12.	39.+	4.	15.	28.	17.	35.+
勤 務 地										
1. 市 内	25.+	14.	27.	18.	17.	17.	24.	32.	12.	16.
2. 都 区	16.	12.	24.	24.	24.	12.	23.	19.	31.	15.
3. 中 心 下	10.	21.	21.	28.	21.	8.	8.	46.	21.	17.
4. 区 部	5.	10.	20.	25.	40.+	11.	11.	30.	17.	30.
5. 無, D.K.	13.	17.	25.	22.	23.	12.	16.	30.	21.	22.
住 居 状 況										
1. 一戸建/上	11.	21.	21.	26.	20.	13.	20.	34.	12.	21.
2. 一戸建/中・下	22.+	19.	22.	15.	21.	15.	16.	29.	18.	22.
3. 集合/上・中	11.	10.	27.	24.	27.	9.	17.	32.	26.	16.
4. 集合/下	10.	8.	33.	27.	23.	10.	19.	29.	16.	26.
住 居 所 有										
1. 自 家	15.	20.	22.	22.	21.	14.	17.	32.	16.	20.
2. 借 家	13.	9.-	30.	22.	26.	9.	18.	28.	20.	24.
3. 社 宅 等	18.	13.	23.	23.	25.	19.	14.	30.	27.	11.
居 住 年										
1. 35年以前	14.	16.	25.	23.	21.	15.	20.	28.	19.	19.
2. 36~50年	21.+	19.	24.	16.	19.	13.	17.	35.	17.	18.
3. 51~53年	12.	9.	29.	26.	24.	11.	19.	31.	19.	20.
4. 54年以降	0.-	10.	20.	30.	40.+	4.	12.	22.	24.	37.+
支 持 政 党										
1. 自 民 党	11.	15.	23.	26.	25.	8.	16.	32.	21.	23.
2. 公 明 党	5.	15.	35.	25.	20.	20.	20.	27.	20.	13.
3. 革 新 系	21.	16.	23.	21.	17.	16.	19.	29.	19.	16.
4. そ の 他	19.	24.	29.	14.	14.	16.	5.	26.	21.	32.
5. 無, D.K.	15.	14.	25.	19.	27.	13.	19.	31.	17.	21.
家 族 構 成										
1. 定 位 家 族	11.	19.	25.	22.	22.	10.	16.	38.	18.	18.
2. 単 身	6.	0.-	17.	23.	54.+	0.	4.	21.	25.	50.+
3. 既 婚/子 無 し	4.-	5.-	26.	38.+	27.	7.	7.-	19.	30.+	37.+
4. 学 童 以 下 有	27.+	19.	29.	18.	7.-	22.+	27.+	33.	10.-	7.-
5. 学 童 以 下 無	12.	21.	23.	17.	27.	9.	15.	30.	22.	24.
兄 弟 数										
1. 1 人	5.	9.	27.	14.	45.+	8.	15.	27.	31.	19.
2. 2 人	14.	15.	25.	24.	22.	14.	14.	36.	15.	20.
3. 3 ~ 4 人	16.	17.	24.	19.	23.	11.	22.	28.	18.	22.
4. 5 人 ~	15.	14.	25.	25.	21.	15.	14.	31.	20.	20.
兄 弟 順 位										
1. 1 番 目	12.	13.	28.	22.	25.	13.	20.	28.	20.	19.
2. 2, 3 番 目	15.	20.	22.	21.	22.	11.	15.	32.	17.	25.
3. 4 番 以 降	20.	10.	25.	24.	21.	14.	18.	32.	20.	15.

付表 14-2

問14 市施設の利用経験-利用する施設の種類の数-(男)

回答 属性 カテゴリー	性 男									
	武蔵野					三 鷹				
	1 最多 利用	2 やや多 い利用	3 平均的 利用	4 少ない 利用	5 否定的 利用	1 最多 利用	2 やや多 い利用	3 平均的 利用	4 少ない 利用	5 否定的 利用
全 体	12.	12.	29.	28.	19.	7.	16.	29.	24.	24.
年 齢										
1. 20歳~30歳	2.	7.	21.	38.	31.	12.	10.	21.	29.	29.
2. 31歳~40歳	17.	17.	25.	21.	19.	7.	24.	18.	29.	22.
3. 41歳~55歳	14.	7.	47.+	21.	12.	8.	19.	41.	17.	15.
4. 56歳~	12.	14.	26.	33.	16.	0.	6.	39.	23.	32.
学 歴										
1. 中 学(新)	9.	9.	36.	36.	9.	6.	12.	24.	29.	29.
2. 高 校(新)	15.	16.	20.	22.	27.	10.	12.	25.	25.	29.
3. 大学 以上	10.	8.	36.	31.	15.	6.	20.	35.	22.	17.
職 業										
1. 技・管・自由	18.	10.	28.	32.	12.	6.	13.	38.	24.	19.
2. 事 務	10.	10.	29.	29.	23.	5.	17.	31.	22.	24.
3. 労働・自営	12.	12.	32.	18.	26.	9.	18.	18.	34.	20.
4. 無,学,D.K.	7.	16.	30.	30.	18.	14.	14.	23.	9.	41.
勤 務 地										
1. 市 内 下	24.+	15.	30.	15.	15.	14.	16.	25.	27.	18.
2. 都 区	12.	21.	21.	33.	12.	7.	21.	28.	28.	17.
3. 中 心 区	7.	9.	28.	35.	21.	6.	13.	44.	22.	16.
4. 区 部	9.	5.	28.	35.	23.	2.	15.	31.	27.	25.
5. 無, D.K.	8.	14.	38.	19.	22.	10.	15.	15.	5.	55.+
住 居 状 況										
1. 一戸建/上	9.	15.	32.	29.	15.	8.	20.	56.+	0.-	16.
2. 一戸建/中・下	15.	12.	28.	31.	13.	9.	17.	31.	23.	20.
3. 集合/上・中	13.	9.	31.	22.	24.	7.	13.	19.	33.	27.
4. 集合/下	4.	12.	24.	28.	32.	0.	10.	25.	30.	35.
住 居 所 有										
1. 自 家	12.	12.	31.	26.	18.	10.	20.	37.	14.-	20.
2. 借 家	7.	7.	31.	31.	25.	6.	13.	19.	32.	30.
3. 社 宅 等	19.	19.	22.	28.	13.	3.	10.	32.	35.	19.
居 住 年										
1. 35年以前	17.	11.	31.	26.	15.	14.	12.	34.	20.	20.
2. 36~50年	15.	17.	29.	22.	17.	8.	16.	35.	25.	16.
3. 51年以降	4.	9.	28.	33.	25.	2.	18.	19.	26.	35.+
支 持 政 党										
1. 自 民 党	11.	13.	33.	24.	19.	4.	13.	37.	24.	22.
2. 革 新 系	13.	11.	32.	18.	26.	13.	16.	13.-	23.	35.
3. そ の 他	17.	9.	17.	48.+	9.	12.	0.-	31.	35.	23.
4. 無, D. K.	9.	12.	29.	29.	20.	7.	22.	30.	21.	20.
家 族 構 成										
1. 定 位 家 族	4.	9.	26.	35.	26.	28.+	10.	24.	24.	14.
2. 単 身	3.	3.	19.	26.	48.+	0.	4.	8.-	25.	62.+
3. 既 婚 / 子 無 し	12.	4.	24.	36.	24.	0.	11.	29.	29.	32.
4. 学 童 以 下 有	24.+	20.	30.	18.	8.-	9.	33.+	27.	20.	11.-
5. 学 童 以 下 無	8.	14.	39.	31.	8.-	2.	8.	45.+	25.	20.
兄 弟 数										
1. 1 人	0.	21.	21.	36.	21.	10.	10.	20.	40.	20.
2. 2 人	7.	13.	37.	20.	23.	7.	16.	18.	23.	36.+
3. 3 ~ 4 人	9.	12.	27.	34.	18.	6.	11.	34.	27.	22.
4. 5 人 ~	22.+	8.	31.	20.	20.	9.	22.	33.	19.	17.
兄 弟 順 位										
1. 1 番 目	7.	12.	25.	35.	21.	6.	16.	24.	29.	25.
2. 2, 3 番 目	11.	11.	35.	27.	16.	10.	11.	34.	19.	26.
3. 4 番 以 降	24.+	12.	26.	15.	24.	5.	23.	31.	26.	15.

付表 15

問14-J 市施設の利用経験—コミュニティ・センターの場合—

回答カテゴリー 属性 カテゴリー	性 女				性 男			
	武蔵野		三 鷹		武蔵野		三 鷹	
	1 利用	2 否	1 利用	2 否	1 利用	2 否	1 利用	2 否
全 体	35.	65.	34.	66.	24.	76.	29.	71.
年 齢								
1. 20歳～25歳	21.	79.	29.	71.	7.-	93.+	23.	77.
2. 26歳～35歳	33.	67.	35.	65.	27.	73.	31.	69.
3. 36歳～50歳	49.+	51.-	49.+	51.-	30.	70.	41.+	59.-
4. 51歳～65歳	30.	70.	20.-	80.+	33.	67.	13.	87.
5. 66歳～	25.	75.	24.	76.				
学 歴								
1. 中 学(新)	28.	72.	23.-	77.+	23.	77.	29.	71.
2. 高 校(新)	36.	64.	36.	64.	27.	73.	25.	75.
3. 大 学 以 上	35.	65.	39.	61.	23.	77.	33.	67.
職 業								
1. 専 業	31.	69.	31.	69.	22.	78.	25.	75.
2. パ ー ト	50.+	50.-	50.+	50.-	25.	75.	40.	60.
3. 主 婦	36.	64.	36.	64.	29.	71.	23.	77.
4. 無, 学, D.K.	22.	78.	22.	78.	23.	77.	23.	77.
勤 務 地								
1. 市 内	46.+	54.-	42.	58.	42.+	58.-	31.	69.
2. 都 下	24.	76.	42.	58.	25.	75.	21.	79.
3. 中 心 区	31.	69.	37.	62.	26.	74.	47.+	53.-
4. 区 部	25.	75.	24.	76.	14.	86.	20.	80.
5. 無, D.K.	34.	66.	32.	68.	19.	81.	30.	70.
住 居 状 況								
1. 一 戸 建 / 上	29.	71.	45.	55.	29.	71.	32.	68.
2. 一 戸 建 / 中・下	50.+	50.-	34.	66.	25.	75.	36.	64.
3. 集 合 / 上・中	28.	72.	29.	71.	24.	76.	24.	76.
4. 集 合 / 下	19.-	81.+	33.	67.	16.	84.	15.	85.
住 居 所 有								
1. 自 家	41.+	59.-	38.	62.	26.	74.	32.	68.
2. 借 家	23.-	77.+	31.	69.	19.	81.	26.	74.
3. 社 宅 等	38.	63.	27.	73.	31.	69.	26.	74.
居 住 年								
1. 35年以前	37.	63.	35.	65.	32.	68.	28.	72.
2. 36～50年	45.+	55.-	39.	61.	27.	73.	32.	68.
3. 51～53年	21.-	79.+	34.	66.	15.	85.	26.	74.
4. 54年以降	16.-	84.+	18.-	82.+				
支 持 政 党								
1. 自 民 党	33.	67.	26.	74.	31.	69.	37.	63.
2. 公 明 党	40.	60.	33.	67.	24.	76.	26.	74.
3. 革 新 系	43.	57.	48.+	52.-	26.	74.	19.	81.
4. そ の 他	33.	67.	26.	74.	18.	82.	28.	72.
5. 無, D.K.	32.	68.	35.	65.				
家 族 構 成								
1. 定 位 家 族	28.	72.	35.	65.	9.	91.	38.	62.
2. 単 身	10.-	90.+	8.-	92.+	10.	90.	17.	83.
3. 既 婚 / 子 無 し	22.-	78.+	18.-	82.+	20.	80.	11.-	89.+
4. 学 童 以 下 有	49.+	51.-	48.+	52.-	40.+	60.-	40.	60.
5. 学 童 以 下 無	39.	61.	32.	68.	27.	73.	27.	73.
兄 弟 数								
1. 1 人	23.	77.	27.	73.	29.	71.	30.	70.
2. 2 人	29.	71.	37.	63.	20.	80.	25.	75.
3. 3～4 人	36.	64.	33.	67.	24.	76.	24.	76.
4. 5 人～	40.	60.	36.	64.	27.	73.	39.	61.
兄 弟 順 位								
1. 1 番 目	33.	67.	34.	66.	21.	79.	26.	74.
2. 2, 3 番 目	34.	66.	34.	66.	26.	74.	30.	70.
3. 4 番 以 降	40.	60.	35.	65.	29.	71.	31.	69.

付表 16

問15 コミュニティ・センターの有無への認識

回答カテゴリー 属性カテゴリー	女						回答カテゴリー 属性カテゴリー	男					
	武蔵野			三鷹				武蔵野			三鷹		
	1 ある	2 ない D.K.	3 知らない その他	1 ある	2 ない D.K.	3 知らない その他		1 ある	2 ない D.K.	3 知らない その他	1 ある	2 ない D.K.	3 知らない その他
全 体	55.	23.	22.	50.	34.	16.	全 体	55.	24.	21.	53.	27.	20.
年 齢							年 齢						
1. 20歳~25歳	36.-	17.	47.+	36.-	32.	32.+	1. 20歳~30歳	45.	17.	38.+	48.	19.	33.+
2. 26歳~35歳	56.	18.	26.	50.	35.	15.	2. 31歳~40歳	60.	19.	21.	62.	20.	18.
3. 36歳~50歳	56.	31.+	13.-	59.+	33.	8.-	3. 41歳~55歳	56.	33.	12.	58.	31.	12.
4. 51歳~65歳	60.	23.	17.	49.	35.	15.	4. 56歳~	58.	28.	14.	42.	42.	16.
5. 66歳~	60.	13.	26.	40.	36.	24.							
学 歴							学 歴						
1. 中 学(新)	48.	27.	25.	49.	37.	14.	1. 中 学(新)	59.	27.	14.	53.	24.	24.
2. 高 校(新)	55.	24.	21.	49.	34.	17.	2. 高 校(新)	50.	23.	27.	58.	26.	15.
3. 大 学 以上	61.	12.	26.	54.	31.	15.	3. 大 学 以上	58.	24.	18.	49.	28.	23.
職 業							職 業						
1. 専 業	51.	19.	30.+	52.	32.	17.	1. 技・管・自由	50.	40.+	10.	57.	22.	21.
2. パート	52.	29.	19.	56.	37.	8.	2. 事務	62.	12.-	27.	60.	21.	19.
3. 主婦	61.	25.	14.-	51.	34.	15.	3. 労働・自営	59.	26.	15.	41.	39.	20.
4. 無学, D.K.	46.	17.	37.+	33.-	39.	28.+	4. 無学, D.K.	50.	18.	32.	50.	32.	18.
勤 務 地							勤 務 地						
1. 市 内	59.	18.	23.	64.+	30.	6.-	1. 市 内	73.+	21.	6.-	63.	24.	14.
2. 都 下	40.	36.	24.	58.	23.	19.	2. 都 下	58.	25.	17.	45.	34.	21.
3. 中 心 区	41.	24.	34.	33.	33.	33.+	3. 中 心 区	47.	26.	28.	50.	22.	28.
4. 区 部	35.-	25.	40.+	35.-	43.	22.	4. 区 部	58.	23.	19.	53.	24.	24.
5. 無, D.K.	60.	23.	17.	47.	36.	17.	5. 無, D.K.	43.	24.	32.	50.	40.	10.
住 居 状 況							住 居 状 況						
1. 一戸建/上	52.	28.	20.	59.	28.	13.	1. 一戸建/上	65.	24.	12.	48.	48.+	4.
2. 一戸建/中・下	67.+	21.	12.-	49.	39.	12.	2. 一戸建/中・下	54.	25.	21.	59.	24.	17.
3. 集合/上・中	53.	21.	26.	46.	32.	21.	3. 集合/上・中	54.	28.	19.	52.	25.	22.
4. 集合/下	33.-	23.	44.+	47.	33.	21.	4. 集合/下	48.	12.	40.+	45.	15.	40.+
住 居 所 有							住 居 所 有						
1. 自 家	62.+	22.	16.-	52.	33.	15.	1. 自 家	55.	29.	16.	52.	31.	17.
2. 借 家	43.-	23.	35.+	51.	34.	16.	2. 借 家	56.	20.	24.	58.	20.	22.
3. 社 宅 等	58.	25.	18.	32.-	43.	24.	3. 社 宅 等	53.	16.	31.	48.	29.	23.
居 住 年							居 住 年						
1. 35年以前	60.	25.	15.-	52.	37.	11.	1. 35年以前	61.	26.	12.	54.	30.	16.
2. 36~50年	58.	23.	18.	54.	34.	12.	2. 36~50年	54.	29.	17.	52.	29.	19.
3. 51~53年	46.	25.	29.	47.	30.	23.	3. 51年以降	49.	18.	33.+	55.	21.	24.
4. 54年以降	44.	10.-	46.+	33.-	33.	35.+							
支 持 政 党							支 持 政 党						
1. 自 民 党	53.	28.	19.	47.	37.	16.	1. 自 民 党	63.	24.	13.	52.	31.	17.
2. 公 明 党	50.	20.	30.	60.	33.	7.	2. 公 明 党	55.	34.	11.	55.	19.	26.
3. 革 新 系	65.+	20.	14.	57.	28.	15.	3. 革 新 系	61.	17.	22.	42.	38.	19.
4. そ の 他	48.	29.	24.	53.	32.	16.	4. そ の 他	46.	20.	34.+	58.	22.	20.
5. 無, D.K.	53.	19.	28.	48.	35.	17.							
家 族 構 成							家 族 構 成						
1. 定 位 家 族	36.-	19.	44.+	47.	32.	21.	1. 定 位 家 族	35.	26.	39.+	55.	14.	31.
2. 単 身	29.-	19.	52.+	33.	33.	33.+	2. 単 身	58.	10.	32.	58.	17.	25.
3. 既 婚/子 無 し	58.	16.	26.	47.	37.	16.	3. 既 婚/子 無 し	64.	12.	24.	39.	36.	25.
4. 学 童 以 下 有	65.+	24.	11.-	53.	35.	12.	4. 学 童 以 下 有	54.	36.+	10.	53.	31.	16.
5. 学 童 以 下 無	58.	28.	15.-	51.	34.	15.	5. 学 童 以 下 無	59.	25.	16.	59.	29.	12.
兄 弟 数							兄 弟 数						
1. 1 人	41.	23.	36.	46.	31.	23.	1. 1 人	50.	21.	29.	50.	30.	20.
2. 2 人	57.	14.	29.	51.	32.	17.	2. 2 人	57.	13.	30.	52.	18.	30.
3. 3 ~ 4 人	55.	22.	22.	49.	34.	17.	3. 3 ~ 4 人	56.	24.	20.	53.	28.	19.
4. 5 人 ~	56.	29.	15.	51.	36.	13.	4. 5 人 ~	53.	31.	16.	56.	31.	13.
兄 弟 順 位							兄 弟 順 位						
1. 1 番 目	52.	22.	26.	49.	35.	16.	1. 1 番 目	58.	18.	24.	54.	26.	19.
2. 2, 3 番 目	56.	22.	21.	51.	31.	18.	2. 2, 3 番 目	51.	28.	20.	55.	20.	25.
3. 4 番 以 降	59.	24.	17.	48.	39.	13.	3. 4 番 以 降	56.	26.	18.	49.	41.+	10.

付表 17

問16・K コミュニティ・センターの役割への評価

回答 属性 カテゴリー	性 女				性 男			
	武蔵野		三 鷹		武蔵野		三 鷹	
	1 有効	2 不明	1 有効	2 不明	1 有効	2 不明	1 有効	2 不明
全 体	61.	39.	62.	38.	53.	47.	57.	43.
年 齢								
1. 20歳~25歳	49.	51.	63.	37.	38.	62.	40.-	60.+
2. 26歳~35歳	68.	32.	55.	45.	40.	60.	64.	36.
3. 36歳~50歳	60.	40.	63.	37.	67.	33.	59.	41.
4. 51歳~65歳	68.	32.	69.	31.	70.+	30.-	68.	32.
5. 66歳~	53.	47.	62.	38.				
学 歴								
1. 中 学(新)	62.	38.	62.	38.	77.+	23.-	71.	29.
2. 高 校(新)	63.	37.	63.	37.	49.	51.	51.	49.
3. 大 学 以 上	53.	47.	59.	41.	51.	49.	59.	41.
職 業								
1. 専 業	55.	45.	62.	38.			62.	38.
2. パ ー ト	71.	29.	58.	42.	54.	46.	64.	36.
3. 主 婦	65.	35.	60.	40.	50.	50.	50.	50.
4. 無, D.K.	54.	46.	76.	24.	55.	45.	36.	64.
勤 務 地								
1. 市 内	69.	31.	59.	41.	58.	42.	63.	37.
2. 都 下	40.-	60.+	65.	35.	58.	42.	48.	52.
3. 中 心 区	52.	48.	58.	42.	40.	60.	59.	41.
4. 区 部	58.	43.	63.	37.	56.	44.	62.	38.
5. 無, D.K.	63.	37.	64.	36.	59.	41.	35.	65.
住 居 状 況								
1. 一 戸 建 / 上	61.	39.	62.	38.	50.	50.	56.	44.
2. 一 戸 建 / 中・下	63.	37.	61.	39.	66.+	34.-	61.	39.
3. 集 合 / 上・中	67.	33.	63.	37.	44.	56.	55.	45.
4. 集 合 / 下	44.-	56.+	64.	36.	44.	56.	45.	55.
住 居 所 有								
1. 自 家	63.	37.	62.	38.	56.	44.	61.	39.
2. 借 家	57.	43.	60.	40.	46.	54.	52.	48.
3. 社 宅 等	70.	30.	70.	30.	59.	41.	55.	45.
居 住 年								
1. 35年以前	66.	34.	61.	39.	62.	37.	66.	34.
2. 36~50年	58.	42.	67.	33.	59.	41.	56.	44.
3. 51~53年	62.	38.	63.	37.	40.-	60.+	50.	50.
4. 54年以降	58.	42.	49.	51.				
支 持 政 党								
1. 自 民 党	65.	35.	70.	30.	65.	35.	67.	33.
2. 公 明 党	50.	50.	47.	53.	61.	39.	65.	35.
3. 革 新 系	67.	33.	67.	33.	39.	61.	38.	62.
4. そ の 他	62.	38.	53.	47.	45.	55.	53.	47.
5. 無, D.K.	57.	43.	58.	42.				
家 族 構 成								
1. 定 位 家 族	58.	42.	60.	40.	35.	65.	38.-	62.+
2. 単 身	46.-	54.+	75.	25.	52.	48.	42.	58.
3. 既 婚 / 子 無 し	64.	36.	61.	39.	48.	52.	68.	32.
4. 学 童 以 下 有	63.	37.	55.	45.	54.	46.	56.	44.
5. 学 童 以 下 無	65.	35.	68.	32.	65.	35.	69.	31.
兄 弟 数								
1. 1 人	68.	32.	58.	42.	57.	43.	30.	70.
2. 2 人	55.	45.	63.	37.	50.	50.	52.	48.
3. 3 ~ 4 人	61.	39.	62.	38.	49.	51.	61.	39.
4. 5 人 ~	65.	35.	63.	37.	61.	39.	59.	41.
兄 弟 順 位								
1. 1 番 目	59.	41.	56.	44.	57.	43.	53.	47.
2. 2, 3 番 目	63.	37.	65.	35.	45.	55.	59.	41.
3. 4 番 以 降	61.	39.	67.	33.	65.	35.	59.	41.

付表 18

問11×問12・L 市政への参画

回答カテゴリー 属性カテゴリー	女								男								
	武蔵野				三 鷹				武蔵野				三 鷹				
	1 地域 連帯 参加	2 通 常 的 参 加	3 消 極 的	4 否 定 的	1 地 域 連 帯 参 加	2 通 常 的 参 加	3 消 極 的	4 否 定 的	1 地 域 連 帯 参 加	2 通 常 的 参 加	3 消 極 的	4 否 定 的	1 地 域 連 帯 参 加	2 通 常 的 参 加	3 消 極 的	4 否 定 的	
全 体	16.	12.	25.	47.	11.	13.	22.	53.	全 体	12.	19.	19.	49.	11.	14.	21.	54.
年 齢									年 齢								
1. 20歳~25歳	11.	13.	21.	55.	7.	17.	17.	59.	1. 20歳~30歳	5.	21.	19.	55.	6.	23.	12.	60.
2. 26歳~35歳	16.	8.	18.	58.	14.	7.	26.	53.	2. 31歳~40歳	15.	15.	15.	54.	13.	13.	24.	49.
3. 36歳~50歳	19.	15.	29.	37.	15.	20.*	20.	46.	3. 41歳~55歳	12.	23.	28.	37.	10.	12.	29.	49.
4. 51歳~65歳	14.	16.	29.	41.	9.	12.	24.	55.	4. 56歳~	16.	19.	16.	49.	16.	6.	16.	61.
5. 66歳~	13.	4.	21.	62.*	4.	7.	24.	64.									
学 歴									学 歴								
1. 中 学(新)	12.	7.	30.	52.	10.	7.	21.	62.	1. 中 学(新)	23.	9.	14.	55.	18.	6.	24.	53.
2. 高 校(新)	14.	12.	25.	48.	11.	13.	24.	52.	2. 高 校(新)	9.	26.	18.	47.	6.	13.	23.	58.
3. 大 学 以上	28.*	16.	19.	37.	14.	22.*	17.	47.	3. 大 学 以上	12.	17.	23.	49.	14.	17.	19.	50.
職 業									職 業								
1. 専 業	14.	16.	25.	45.	13.	17.	17.	53.	1. 技・管・自由	4.	20.	18.	58.	8.	21.	19.	52.
2. パ ー ト 時 勤	19.	15.	23.	44.	15.	6.	19.	60.	2. 事 務	15.	13.	25.	46.	17.	10.	28.	45.
3. 主 婦	16.	10.	25.	49.	11.	14.	25.	50.	3. 労 働・自 営	15.	24.	18.	44.	2.	16.	18.	64.
4. 無, 学, D.K.	15.	2.	29.	54.	2.	7.	33.	59.	4. 無, 学, D.K.	16.	23.	16.	45.	18.	5.	14.	64.
勤 務 地									勤 務 地								
1. 市 内	17.	15.	27.	42.	14.	15.	21.	50.	1. 市 内	18.	24.	15.	42.	4.	22.	22.	53.
2. 都 下 区	12.	12.	16.	60.	4.	23.	19.	54.	2. 都 下 区	21.	4.	25.	50.	10.	14.	21.	55.
3. 中 心 区	10.	17.	24.	48.	17.	21.	17.	46.	3. 中 心 区	2.	30.	14.	53.	16.	13.	16.	56.
4. 区 部	15.	18.	23.	45.	13.	9.	11.	67.	4. 区 部	19.	12.	23.	47.	15.	13.	24.	49.
5. 無, D.K.	16.	10.	26.	49.	10.	12.	26.	52.	5. 無, D.K.	5.	22.	22.	51.	10.	5.	20.	65.
住 居 状 況									住 居 状 況								
1. 一 戸 建 / 上	18.	11.	17.	54.	16.	17.	17.	50.	1. 一 戸 建 / 上	3.	29.	24.	44.	16.	20.	20.	44.
2. 一 戸 建 / 中・下	21.	13.	22.	45.	12.	13.	25.	51.	2. 一 戸 建 / 中・下	16.	15.	18.	51.	13.	9.	25.	52.
3. 集 合 / 上・中	10.	13.	33.*	43.	9.	13.	27.	51.	3. 集 合 / 上・中	11.	22.	17.	50.	6.	15.	19.	60.
4. 集 合 / 下	10.	8.	27.	56.	10.	10.	10.*	69.*	4. 集 合 / 下	16.	12.	24.	48.	10.	25.	10.	55.
住 居 所 有									住 居 所 有								
1. 自 家	18.	12.	24.	46.	13.	13.	22.	52.	1. 自 家	11.	24.	19.	46.	15.	10.	26.	48.
2. 借 家	14.	10.	26.	50.	8.	14.	22.	57.	2. 借 家	12.	15.	19.	54.	9.	17.	14.	59.
3. 社 宅 等	8.	18.	30.	45.	16.	11.	30.	43.	3. 社 宅 等	16.	16.	22.	47.	3.	19.	19.	58.
居 住 年									居 住 年								
1. 35年以前	18.	14.	27.	42.	7.	17.	20.	56.	1. 35年以前	14.	24.	18.	44.	12.	10.	26.	52.
2. 36~50年	17.	13.	25.	45.	14.	14.	23.	49.	2. 36~50年	17.	10.	24.	49.	12.	13.	24.	51.
3. 51~53年	12.	12.	31.	46.	16.	9.	20.	56.	3. 51年以降	7.	21.	18.	54.	8.	19.	13.	60.
4. 54年以降	10.	6.	10.*	74.*	8.	8.	27.	57.									
支 持 政 党									支 持 政 党								
1. 自 民 党	10.	9.	27.	53.	10.	14.	21.	55.	1. 自 民 党	9.	26.	20.	44.	11.	13.	20.	56.
2. 公 明 党	10.	25.	10.	55.	0.	27.	40.	33.	2. 革 新 系 他	16.	24.	24.	37.	16.	13.	16.	55.
3. 革 新 系	24.*	14.	28.	34.*	19.*	10.	23.	48.	3. そ の 他	26.*	9.	26.	39.	4.	15.	27.	54.
4. そ の 他	19.	19.	24.	38.	21.	5.	21.	53.	4. 無, D.K.	8.	15.	14.	63.*	11.	16.	21.	53.
5. 無, D.K.	15.	11.	24.	51.	9.	14.	22.	56.									
家 族 構 成									家 族 構 成								
1. 定 位 家 族	11.	14.	25.	50.	6.	18.	18.	59.	1. 定 位 家 族	4.	13.	22.	61.	7.	28.*	10.	55.
2. 単 身	4.*	6.	21.	69.*	8.	4.	12.	75.*	2. 単 身	6.	19.	16.	58.	4.	25.	17.	54.
3. 既 婚 / 子 無 し	19.	9.	23.	49.	9.	16.	23.	53.	3. 既 婚 / 子 無 し	16.	20.	12.	52.	11.	11.	25.	54.
4. 学 童 以 下 有	18.	10.	26.	46.	14.	11.	22.	53.	4. 学 童 以 下 有	16.	18.	20.	46.	13.	11.	22.	55.
5. 学 童 以 下 無	16.	17.	27.	40.	13.	14.	26.	48.	5. 学 童 以 下 無	14.	24.	24.	39.	14.	8.	25.	53.
兄 弟 数									兄 弟 数								
1. 1 人	14.	0.	23.	64.	15.	15.	23.	46.	1. 1 人	0.	29.	29.	43.	20.	20.	10.	50.
2. 2 人	11.	8.	25.	55.	10.	18.	14.	58.	2. 2 人	10.	13.	30.	47.	11.	14.	23.	52.
3. 3 ~ 4 人	16.	14.	25.	46.	10.	8.	23.	58.	3. 3 ~ 4 人	14.	19.	15.	52.	6.	18.	19.	57.
4. 5 人 ~	18.	14.	26.	42.	13.	16.	25.	45.	4. 5 人 ~	14.	22.	18.	47.	15.	9.	24.	52.
兄 弟 順 位									兄 弟 順 位								
1. 1 番 目	11.	13.	28.	48.	12.	14.	24.	50.	1. 1 番 目	10.	24.	21.	46.	13.	21.	12.	54.
2. 2, 3 番 目	17.	8.	24.	51.	9.	12.	19.	59.	2. 2, 3 番 目	15.	15.	20.	50.	5.	14.	26.	55.
3. 4 番 以 降	20.	18.	22.	41.	15.	14.	25.	46.	3. 4 番 以 降	12.	21.	15.	53.	18.	5.	26.	51.

付表 19

問21・M 近所の人びととの話し合い

回答カテゴリー 属性 カテゴリー	性 女						性 男					
	武蔵野			三 鷹			武蔵野			三 鷹		
	1 話す	2 中間	3 話さない	1 話す	2 中間	3 話さない	1 話す	2 中間	3 話さない	1 話す	2 中間	3 話さない
全 体	23.	22.	55.	24.	26.	50.	15.	16.	69.	9.	24.	68.
年 齢												
1. 20歳~25歳	6.-	13.	81.+	8.-	10.-	81.+	7.	5.	88.+	12.	10.-	79.
2. 26歳~35歳	28.	25.	47.	31.	26.	43.	10.	23.	67.	4.	36.	60.
3. 36歳~50歳	27.	28.	46.-	28.	32.	40.-	21.	21.	58.	8.	32.	59.
4. 51歳~65歳	21.	17.	61.	25.	31.	45.	23.	12.	65.	10.	13.	77.
5. 66歳~	19.	23.	58.	16.	20.	64.						
学 歴												
1. 中学(新)	22.	18.	60.	25.	23.	52.	36.+	18.	45.-	24.+	24.	53.
2. 高校(新)	23.	23.	54.	25.	29.	46.	14.	16.	70.	2.-	30.	68.
3. 大学以上	19.	25.	56.	19.	17.	64.+	11.	14.	75.	12.	17.	71.
職 業												
1. 専 業	13.-	17.	70.+	19.	23.	59.+	12.	20.	68.	10.	32.	59.
2. パ ー ト	19.	26.	55.	27.	23.	50.	8.	12.	81.	7.	14.	79.
3. 主 婦	33.+	25.	42.-	30.	33.+	37.-	29.+	24.	47.-	7.	34.	59.
4. 無学, D.K.	15.	22.	63.	15.	15.	70.+	16.	9.	75.	14.	5.-	82.
勤 務 地												
1. 市 内	18.	28.	54.	25.	29.	46.	30.+	27.	42.-	10.	39.+	51.-
2. 都 下	4.-	16.	80.+	38.	8.-	54.	8.	8.	83.	7.	21.	72.
3. 中 心 区	14.	7.	79.+	0.-	21.	79.+	7.	14.	79.	3.	13.	84.
4. 区 部	15.	8.-	78.+	13.	17.	70.+	12.	14.	74.	9.	24.	67.
5. 無 D.K.	29.+	25.	46.-	27.	29.	44.	19.	14.	68.	15.	5.	80.
住居状況												
1. 一戸建/上	18.	25.	57.	25.	24.	51.	21.	12.	68.	12.	28.	60.
2. 一戸建/中・下	23.	22.	55.	24.	24.	52.	18.	15.	67.	8.	28.	64.
3. 集合/上・中	23.	22.	55.	25.	32.	44.	9.	20.	70.	6.	24.	70.
4. 集合/下	29.	19.	52.	22.	26.	52.	12.	12.	76.	15.	0.-	85.
住居所有												
1. 自 家	22.	23.	54.	24.	24.	52.	16.	15.	70.	10.	26.	63.
2. 借 家	21.	18.	61.	23.	28.	49.	12.	14.	75.	3.	23.	74.
3. 社 宅 等	28.	33.	40.	30.	32.	38.	19.	22.	59.	16.	16.	68.
居 住 年												
1. 35年以前	18.	24.	58.	25.	22.	52.	22.	17.	61.	10.	30.	60.
2. 36~50年	28.	22.	50.	25.	31.	44.	15.	17.	68.	7.	23.	71.
3. 51~53年	26.	18.	56.	23.	21.	56.	7.	13.	79.	10.	19.	71.
4. 54年以降	14.	24.	62.	20.	24.	55.						
支持政党												
1. 自 民 党	24.	27.	50.	30.	33.	37.-	22.	17.	61.	6.	30.	65.
2. 公 明 党	30.	30.	40.	47.+	27.	27.	16.	21.	63.	10.	29.	61.
3. 革 新 系	30.	27.	44.-	27.	29.	44.	9.	13.	78.	12.	19.	69.
4. そ の 他	14.	19.	67.	32.	37.	32.	11.	12.	77.	9.	18.	72.
5. 無 D.K.	17.	16.-	67.+	18.-	20.	62.+						
家族構成												
1. 定 位 家 族	6.-	0.-	94.+	4.-	6.-	90.+	9.	4.	87.	14.	10.	76.
2. 単 身	17.	19.	65.	25.	21.	54.	3.	13.	84.	12.	4.-	83.
3. 既 婚 / 子 無 し	16.	12.-	72.+	23.	26.	51.	20.	20.	60.	14.	25.	61.
4. 学 童 以 下 有	34.+	35.+	32.-	32.+	36.+	32.-	20.	20.	60.	5.	31.	64.
5. 学 童 以 下 無	21.	23.	56.	26.	27.	47.	18.	16.	67.	4.	31.	65.
兄 弟 数												
1. 1 人	18.	32.	50.	23.	19.	58.	0.	7.	93.	30.+	0.	70.
2. 2 人	18.	18.	63.	20.	21.	58.	3.	23.	73.	14.	14.	73.
3. 3 ~ 4 人	21.	25.	55.	27.	25.	48.	14.	9.	76.	4.	34.+	62.
4. 5 人 ~	28.	20.	52.	23.	32.	46.	27.+	24.	49.-	7.	20.	72.
兄 弟 順 位												
1. 1 番 目	20.	23.	57.	24.	25.	51.	10.	11.	79.	15.	18.	68.
2. 2, 3 番 目	21.	22.	57.	24.	25.	51.	15.	16.	69.	5.	29.	66.
3. 4 番 以 降	29.	21.	50.	25.	30.	45.	26.	24.	50.-	5.	23.	72.

付表 20

問33・N「日頃の交際の相手」としての近隣者

回答カテゴリー 属性 カテゴリー	女								男								
	武蔵野				三鷹				武蔵野				三鷹				
	1 近 隣	2 職 場 関 係	3 趣 味 関 係	4 そ の 他	1 近 隣	2 職 場 関 係	3 趣 味 関 係	4 そ の 他	1 近 隣	2 職 場 関 係	3 趣 味 関 係	4 そ の 他	1 近 隣	2 職 場 関 係	3 趣 味 関 係	4 そ の 他	
全 体	39.	21.	13.	27.	38.	21.	13.	28.	全 体	14.	57.	14.	15.	8.	67.	10.	14.
年 齢																	
1. 20歳~25歳	11.-	51.+	9.	30.	7.-	47.+	12.	34.	1. 20歳~30歳	5.	43.	36.+	17.	6.	60.	15.	19.
2. 26歳~35歳	44.	27.	5.-	24.	49.+	16.	8.	26.	2. 31歳~40歳	4.-	73.+	10.	13.	7.	71.	11.	11.
3. 36歳~50歳	40.	17.	13.	30.	40.	19.	16.	26.	3. 41歳~55歳	14.	72.	5.	9.	2.	83.+	5.	10.
4. 51歳~65歳	44.	14.	16.	27.	36.	21.	15.	27.	4. 56歳~	35.+	37.-	7.	21.	26.+	45.-	10.	19.
5. 66歳~	43.	6.-	25.+	26.	53.+	2.-	13.	31.									
学 歴																	
1. 中 学(新)	50.	13.	12.	25.	46.	20.	7.	27.	1. 中 学(新)	32.+	55.	5.	9.	24.+	65.	0.	12.
2. 高 校(新)	39.	20.	13.	27.	40.	19.	15.	26.	2. 高 校(新)	18.	47.	20.	15.	6.	69.	8.	17.
3. 大学 以上	26.	30.	14.	30.	19.-	32.+	12.	37.	3. 大学 以上	6.-	67.	11.	17.	7.	66.	14.	13.
職 業																	
1. 専 業	21.-	50.+	6.-	22.	23.-	44.+	9.	25.	1. 技・管・自由	10.	66.	8.	16.	10.	60.	14.	16.
2. パ ー ト 婦	39.	23.	13.	26.	38.	25.	19.	17.	2. 事 務	10.	69.	8.	13.	0.-	84.+	7.	9.
3. 主 婦	54.+	2.-	14.	30.	53.+	2.-	14.	31.	3. 勞 働・自 営	26.+	62.	6.	6.	14.	68.	5.	14.
4. 無 学,D.K.	32.	2.-	32.+	34.	33.	13.	15.	39.	4. 無 学,D.K.	14.	30.-	34.+	23.	14.	41.-	18.	27.
勤 務 地																	
1. 市 内 下	42.	27.	11.	20.	42.	30.+	11.	17.-	1. 市 内 下	33.+	39.-	15.	12.	20.+	57.	12.	12.
2. 都 下	16.-	56.+	12.	16.	19.-	50.+	15.	15.	2. 都 下	12.	62.	8.	17.	3.	79.	7.	10.
3. 中 心 区 部	7.-	55.+	14.	24.	0.-	50.+	17.	33.	3. 中 心 区 部	9.	72.	12.	7.	0.	75.	13.	13.
4. 区 区 部	13.-	58.+	3.	28.	15.-	48.+	9.	28.	4. 区 区 部	7.	67.	12.	14.	4.	69.	9.	18.
5. 無, D.K.	49.+	4.-	15.	32.	48.+	5.-	14.	33.	5. 無, D.K.	11.	41.-	22.	27.+	10.	60.	10.	20.
住 居 状 況																	
1. 一 戸 建 / 上	30.	16.	18.	36.	34.	16.	18.	32.	1. 一 戸 建 / 上	26.+	44.	15.	15.	8.	60.	12.	20.
2. 一 戸 建 / 中・下	42.	18.	16.	24.	39.	19.	13.	29.	2. 一 戸 建 / 中・下	15.	64.	7.	13.	12.	67.	7.	15.
3. 集 合 / 上・中	41.	26.	8.	25.	43.	21.	10.	26.	3. 集 合 / 上・中	7.	63.	17.	13.	6.	79.+	7.	7.
4. 集 合 / 下	40.	23.	8.	29.	33.	33.+	12.	22.	4. 集 合 / 下	8.	44.	24.	24.	0.	40.-	30.+	30.
住 居 所 有																	
1. 自 家 家	40.	16.	15.	30.	35.	19.	15.	31.	1. 自 家 家	16.	58.	8.	18.	13.	63.	7.	17.
2. 借 家	35.	33.+	10.	23.	41.	25.	9.	25.	2. 借 家	10.	51.	24.+	15.	3.	72.	13.	12.
3. 社 宅 等	50.	10.	10.	30.	49.	19.	14.	19.	3. 社 宅 等	16.	66.	13.	6.	6.	68.	13.	13.
居 住 年																	
1. 35年 以前	44.	19.	17.	21.	44.	16.	13.	27.	1. 35年 以前	24.+	47.	8.	21.	20.+	56.	4.	20.
2. 36~50年	42.	16.	11.	31.	37.	23.	14.	26.	2. 36~50年	12.	66.	12.	10.	3.	76.	9.	12.
3. 51~53年	32.	25.	15.	28.	34.	20.	9.	37.	3. 51年 以降	4.-	63.	21.	12.	5.	66.	16.	13.
4. 54年 以降	26.	34.+	4.	36.	33.	29.	14.	24.									
支 持 政 党																	
1. 自 民 党	43.	16.	14.	27.	45.	10.-	14.	30.	1. 自 民 党	28.+	56.	7.	9.	7.	74.	9.	9.
2. 公 明 党	50.	10.	5.	35.	67.+	27.	0.	7.	2. 革 新 系	16.	58.	16.	11.	6.	68.	13.	13.
3. 革 新 系	49.+	19.	11.	20.	39.	28.	15.	18.	3. そ の 他	4.	61.	13.	22.	8.	65.	8.	19.
4. そ の 他	29.	5.	24.	43.	42.	5.	16.	37.	4. 無, D.K.	5.-	57.	18.	20.	9.	63.	11.	17.
5. 無, D.K.	30.-	29.+	13.	29.	32.	25.	12.	31.									
家 族 構 成																	
1. 定 位 家 族	11.-	56.+	11.	22.	3.-	50.+	15.	32.	1. 定 位 家 族	9.	26.-	35.+	30.+	7.	48.-	14.	31.+
2. 単 身	21.-	40.+	10.	29.	25.	29.	17.	29.	2. 単 身	3.	52.	29.+	16.	4.	71.	21.	4.
3. 既 婚 / 子 無 し	31.	23.	16.	30.	39.	25.	18.	19.	3. 既 婚 / 子 無 し	36.+	48.	8.	8.	7.	61.	14.	18.
4. 学 童 以 下 有	57.+	11.-	7.	25.	58.+	11.-	7.-	24.	4. 学 童 以 下 有	8.	76.+	8.	8.	5.	75.	5.	15.
5. 学 童 以 下 無	39.	13.-	19.	29.	39.	14.-	16.	32.	5. 学 童 以 下 無	18.	61.	4.-	18.	14.	73.	6.	8.
兄 弟 数																	
1. 1 人	36.	27.	5.	32.	27.	27.	15.	31.	1. 1 人	7.	43.	36.+	14.	20.	60.	0.	20.
2. 2 人	29.	29.	13.	30.	30.	31.+	8.	31.	2. 2 人	10.	40.	27.+	23.	2.	52.-	25.+	20.
3. 3~4 人	34.	21.	12.	32.	41.	19.	9.	31.	3. 3~4 人	13.	65.	11.	12.	6.	76.	5.	13.
4. 5 人~	52.+	14.-	16.	19.-	42.	16.	20.+	22.	4. 5 人~	20.	59.	6.	16.	13.	69.	7.	11.
兄 弟 順 位																	
1. 1 番 目	40.	21.	13.	26.	37.	26.	8.	29.	1. 1 番 目	15.	54.	15.	15.	9.	68.	9.	15.
2. 2, 3 番 目	35.	23.	11.	31.	37.	19.	14.	30.	2. 2, 3 番 目	15.	55.	14.	16.	9.	65.	13.	14.
3. 4 番 以 降	45.	16.	17.	23.	43.	17.	19.	22.	3. 4 番 以 降	9.	68.	12.	12.	5.	72.	8.	15.

付表 21
問34・O 近隣との親交度

回答カテゴリー 属性カテゴリー	女						男						
	武蔵野			三鷹			武蔵野			三鷹			
	1 深い 親交	2 中度の 親交	3 疎遠	1 深い 親交	2 中度の 親交	3 疎遠	1 深い 親交	2 中度の 親交	3 疎遠	1 深い 親交	2 中度の 親交	3 疎遠	
全 体	31.	29.	40.	35.	27.	38.	全 体	19.	16.	65.	21.	12.	67.
年 齢							年 齢						
1. 20歳~25歳	9.-	17.	74.+	19.-	15.	66.+	1. 20歳~30歳	12.	2.-	86.+	13.	13.	73.
2. 26歳~35歳	30.	35.	35.	35.	35.+	30.	2. 31歳~40歳	12.	15.	73.	20.	13.	67.
3. 36歳~50歳	39.	35.	26.-	35.	29.	35.	3. 41歳~55歳	26.	23.	51.	22.	12.	66.
4. 51歳~65歳	30.	29.	40.	48.+	20.	32.	4. 56歳~	28.	23.	49.-	32.	10.	58.
5. 66歳~	34.	17.	49.	36.	24.	40.							
学 歴							学 歴						
1. 中 学(新)	27.	37.	37.	38.	25.	37.	1. 中 学(新)	27.	27.	45.	35.	12.	53.
2. 高 校(新)	30.	30.	40.	36.	25.	38.	2. 高 校(新)	18.	18.	65.	19.	17.	64.
3. 大 学 以上	42.	19.	39.	27.	34.	39.	3. 大 学 以上	18.	12.	70.	20.	8.	72.
職 業							職 業						
1. 専 業	21.-	19.-	60.+	28.	23.	49.+	1. 技・管・自由	18.	14.	68.	21.	8.	71.
2. パ ー ト	23.	40.	37.	42.	29.	29.	2. 事 務	12.	13.	75.	17.	12.	71.
3. 主 婦	41.+	36.	23.-	41.	31.	28.-	3. 労働・自営	24.	26.	50.	20.	20.	59.
4. 無 学, D.K.	32.	20.	49.	30.	20.	50.	4. 無 学, D.K.	25.	14.	61.	32.	9.	59.
勤 務 地							勤 務 地						
1. 市 内	28.	32.	40.	41.	29.	30.	1. 市 内	36.+	24.	39.-	20.	18.	63.
2. 都 下	20.	20.	60.+	35.	19.	46.	2. 都 下	12.	12.	75.	31.	7.	62.
3. 中 心 区	21.	14.	66.+	17.	12.	71.+	3. 中 心 区	19.	9.	72.	16.	13.	72.
4. 区 部	15.-	20.	65.+	17.-	22.	61.+	4. 区 部	14.	14.	72.	16.	13.	71.
5. 無 D.K.	37.+	33.	30.-	39.	29.	33.	5. 無 D.K.	14.	22.	65.	30.	5.	65.
住 居 状 況							住 居 状 況						
1. 一戸建/上	29.	28.	43.	41.	25.	34.	1. 一戸建/上	29.	18.	53.	44.+	16.	40.-
2. 一戸建/中・下	35.	28.	37.	33.	29.	38.	2. 一戸建/中・下	18.	16.	66.	16.	11.	73.
3. 集合/上・中	30.	32.	39.	37.	26.	37.	3. 集合/上・中	17.	13.	70.	16.	10.	73.
4. 集合/下	25.	29.	46.	33.	22.	45.	4. 集合/下	12.	20.	68.	25.	20.	55.
住 居 所 有							住 居 所 有						
1. 自 家	33.	29.	38.	38.	24.	38.	1. 自 家	20.	19.	61.	24.	13.	63.
2. 借 家	26.	26.	48.+	30.	32.	39.	2. 借 家	15.	10.	75.	22.	7.	71.
3. 社 宅 等	38.	43.	20.-	41.	22.	38.	3. 社 宅 等	22.	19.	59.	10.	23.	68.
居 住 年							居 住 年						
1. 35年以前	33.	27.	40.	33.	25.	41.	1. 35年以前	24.	22.	54.	24.	16.	60.
2. 36~50年	31.	32.	36.	41.	26.	33.	2. 36~50年	27.	15.	59.	23.	11.	67.
3. 51~53年	24.	34.	43.	30.	24.	46.	3. 51年以降	9.-	10.	81.+	16.	11.	73.
4. 54年以降	32.	22.	46.	31.	35.	35.							
支 持 政 党							支 持 政 党						
1. 自 民 党	34.	34.	32.	46.+	26.	28.-	1. 自 民 党	24.	28.+	48.-	9.-	17.	74.
2. 公 明 党	15.	45.	40.	47.	40.	13.	2. 革 新 系 他	18.	13.	68.	23.	13.	65.
3. 革 新 系 他	37.	26.	38.	34.	28.	38.	3. そ の 他	9.	17.	74.	31.	8.	62.
4. そ の 他	24.	33.	43.	42.	21.	37.	4. 無 D.K.	18.	8.	74.	25.	11.	64.
5. 無 D.K.	27.	26.	47.	28.-	26.	46.+							
家 族 構 成							家 族 構 成						
1. 定 位 家 族	11.-	14.-	75.+	15.-	12.-	74.+	1. 定 位 家 族	17.	4.	78.	17.	17.	66.
2. 単 身	15.-	10.-	75.+	21.	29.	50.	2. 単 身	3.-	13.	84.+	17.	12.	71.
3. 既 婚/子 無 し	23.	27.	50.	42.	26.	32.	3. 既 婚/子 無 し	40.+	8.	52.	14.	18.	68.
4. 学 童 以 下 有	40.+	45.+	15.-	35.	41.+	24.-	4. 学 童 以 下 有	24.	18.	58.	22.	13.	65.
5. 学 童 以 下 無	36.	26.	37.	45.+	20.	34.	5. 学 童 以 下 無	14.	25.	61.	27.	6.	67.
兄 弟 数							兄 弟 数						
1. 1 人	23.	32.	45.	42.	23.	35.	1. 1 人	7.	14.	79.	20.	0.	80.
2. 2 人	29.	18.-	53.+	31.	20.	49.+	2. 2 人	13.	7.	80.	18.	11.	70.
3. 3 ~ 4 人	26.	34.	39.	29.	32.	39.	3. 3 ~ 4 人	18.	14.	68.	18.	11.	71.
4. 5 人 ~	40.+	29.	31.-	44.+	25.	31.	4. 5 人 ~	27.	25.	47.-	28.	17.	56.
兄 弟 順 位							兄 弟 順 位						
1. 1 番 目	27.	28.	45.	31.	30.	39.	1. 1 番 目	18.	12.	69.	19.	12.	69.
2. 2, 3 番 目	34.	26.	40.	35.	24.	41.	2. 2, 3 番 目	20.	15.	65.	19.	10.	71.
3. 4 番 目 以 降	32.	37.	30.	44.	27.	29.	3. 4 番 目 以 降	18.	26.	56.	28.	18.	54.

付表 22

問36 近隣への対処—騒音・悪臭の場合—

回答者属性 カテゴリー	性 女						性 男						
	武蔵野			三 鷹			武蔵野			三 鷹			
	1 卒直	2 間接的	3 内向型	1 卒直	2 間接的	3 内向型	1 卒直	2 間接的	3 内向型	1 卒直	2 間接的	3 内向型	
全 体	41.	32.	27.	41.	37.	23.	全 体	52.	17.	32.	57.	19.	25.
年 齢							年 齢						
1. 20歳~25歳	40.	28.	32.	44.	34.	22.	1. 20歳~30歳	45.	14.	40.	62.	17.	21.
2. 26歳~35歳	45.	28.	26.	48.	35.	17.	2. 31歳~40歳	50.	21.	29.	62.	16.	22.
3. 36歳~50歳	44.	34.	22.	36.	32.	32.+	3. 41歳~55歳	63.	9.	28.	54.	20.	25.
4. 51歳~65歳	33.	37.	30.	40.	40.	20.	4. 56歳~	49.	21.	30.	45.	23.	32.
5. 66歳~	40.	32.	28.	31.	51.+	18.							
学 歴							学 歴						
1. 中学(新)	27.-	33.	40.+	23.-	49.+	28.	1. 中学(新)	36.	32.	32.	29.-	24.	47.+
2. 高校(新)	44.	32.	23.	43.	34.	23.	2. 高校(新)	57.	14.	30.	54.	20.	26.
3. 大学以上	35.	32.	33.	47.	36.	17.	3. 大学以上	51.	15.	33.	65.	16.	19.
職 業							職 業						
1. 専 業	46.	26.	28.	46.	32.	23.	1. 技・管・自由	46.	14.	40.	67.	16.	17.
2. パ ー ト	37.	40.	23.	31.	38.	31.	2. 事 務	52.	17.	31.	57.	22.	21.
3. 主 婦	41.	34.	25.	42.	37.	21.	3. 労働・自営	50.	21.	29.	45.	18.	36.
4. 無, 学, D.K.	27.	37.	37.	28.	50.	22.	4. 無, 学, D.K.	59.	16.	25.	50.	18.	32.
勤 務 地							勤 務 地						
1. 市 内	45.	29.	26.	42.	34.	24.	1. 市 内	55.	18.	27.	55.	22.	24.
2. 都 下	52.	24.	24.	31.	46.	23.	2. 都 下	42.	4.	54.+	66.	14.	21.
3. 中 心 区	45.	28.	28.	62.+	25.	12.	3. 中 心 区	44.	19.	37.	56.	22.	22.
4. 区 部	45.	33.	23.	37.	33.	30.	4. 区 部	58.	21.	21.	60.	20.	20.
5. 無, D.K.	37.	35.	28.	39.	39.	22.	5. 無, D.K.	57.	16.	27.	40.	10.	50.+
住 居 状 況							住 居 状 況						
1. 一戸建/上	33.	48.+	19.	33.	43.	24.	1. 一戸建/上	59.	12.	29.	60.	24.	16.
2. 一戸建/中・下	40.	29.	31.	38.	38.	24.	2. 一戸建/中・下	46.	19.	34.	47.	21.	32.
3. 集合/上・中	44.	29.	27.	44.	36.	20.	3. 集合/上・中	61.	15.	24.	61.	15.	24.
4. 集合/下	46.	25.	29.	50.	26.	24.	4. 集合/下	36.	20.	44.	75.	15.	10.
住 居 所 有							住 居 所 有						
1. 自 家	38.	38.	25.	37.	38.	25.	1. 自 家	54.	19.	27.	52.	21.	28.
2. 借 家	46.	26.	28.	44.	36.	20.	2. 借 家	47.	15.	37.	55.	19.	26.
3. 社 宅 等	40.	23.	38.	46.	30.	24.	3. 社 宅 等	53.	13.	34.	74.	13.	13.
居 住 年							居 住 年						
1. 35年以前	40.	30.	31.	37.	41.	22.	1. 35年以前	54.	18.	28.	54.	26.	20.
2. 36~50年	37.	38.	25.	41.	33.	26.	2. 36~50年	44.	27.	29.	59.	19.	23.
3. 51~53年	51.	29.	19.	47.	36.	17.	3. 51年以降	54.	9.	37.	56.	13.	31.
4. 54年以降	40.	28.	32.	39.	41.	20.							
支 持 政 党							支 持 政 党						
1. 自 民 党	37.	39.	24.	43.	31.	25.	1. 自 民 党	43.	15.	43.	46.	26.	28.
2. 公 明 党	25.	40.	35.	47.	40.	13.	2. 革 新 系	45.	26.	29.	65.	23.	13.
3. 革 新 系	48.	26.	27.	42.	39.	19.	3. そ の 他	74.+	13.	13.	58.	12.	31.
4. そ の 他	38.	33.	29.	32.	42.	26.	4. 無, D.K.	55.	14.	31.	61.	14.	25.
5. 無, D.K.	42.	30.	28.	39.	38.	24.							
家 族 構 成							家 族 構 成						
1. 定 位 家 族	36.	42.	22.	44.	40.	16.	1. 定 位 家 族	43.	22.	35.	66.	17.	17.
2. 単 身	37.	19.-	44.+	33.	50.	17.	2. 単 身	45.	16.	39.	62.	17.	21.
3. 既 婚/子 無 し	31.	50.+	19.	42.	42.	16.	3. 既 婚/子 無 し	48.	16.	36.	39.	29.	32.
4. 学 童 以 下 有	52.+	26.	22.	43.	30.	27.	4. 学 童 以 下 有	58.	18.	24.	60.	13.	27.
5. 学 童 以 下 無	36.	32.	31.	37.	37.	26.	5. 学 童 以 下 無	55.	14.	31.	55.	22.	24.
兄 弟 数							兄 弟 数						
1. 1 人	50.	18.	32.	42.	35.	23.	1. 1 人	50.	29.	21.	60.	30.	10.
2. 2 人	37.	34.	29.	46.	33.	20.	2. 2 人	57.	10.	33.	52.	14.	34.
3. 3 ~ 4 人	40.	34.	25.	36.	39.	24.	3. 3 ~ 4 人	47.	18.	35.	59.	20.	20.
4. 5 人 ~	42.	31.	27.	42.	35.	23.	4. 5 人 ~	57.	16.	27.	56.	19.	26.
兄 弟 順 位							兄 弟 順 位						
1. 1 番 目	40.	35.	25.	40.	40.	20.	1. 1 番 目	46.	19.	35.	57.	22.	21.
2. 2, 3 番 目	40.	32.	28.	40.	34.	26.	2. 2, 3 番 目	57.	12.	31.	54.	18.	29.
3. 4 番 以 降	43.	29.	28.	42.	35.	23.	3. 4 番 以 降	53.	21.	26.	62.	15.	23.

付表 23
問37 近隣からの援助経験

回答カテゴリー 属性 カテゴリー	性 女				性 男			
	武蔵野		三 鷹		武蔵野		三 鷹	
	1	2	1	2	1	2	1	2
全 体	48.	52.	46.	54.	39.	61.	40.	60.
年 齢								
1. 20歳~25歳	45.	55.	36.	64.	40.	60.	38.	62.
2. 26歳~35歳	59.+	41.-	56.+	44.-	37.	63.	38.	62.
3. 36歳~50歳	50.	50.	47.	53.	49.	51.	46.	54.
4. 51歳~65歳	41.	59.	47.	53.	30.	70.	32.	68.
5. 66歳~	43.	57.	29.-	71.+				
学 歴								
1. 中 学(新)	33.-	67.+	35.	65.	41.	59.	41.	59.
2. 高 校(新)	50.	50.	47.	53.	36.	64.	37.	63.
3. 大 学 以 上	53.	47.	54.	46.	40.	60.	42.	58.
職 業								
1. 専 業	51.	49.	47.	53.	40.	60.	40.	60.
2. パ ー ト	45.	55.	48.	52.	40.	60.	40.	60.
3. 主 婦	48.	52.	48.	52.	35.	65.	41.	59.
4. 無, 学, D.K.	44.	56.	35.	65.	39.	61.	36.	64.
勤 務 地								
1. 市 内	52.	48.	50.	50.	36.	64.	49.	51.
2. 都 下	28.-	72.+	54.	46.	46.	54.	34.	66.
3. 中 心 区	62.	38.	42.	58.	35.	65.	31.	69.
4. 区 部	50.	50.	37.	63.	44.	56.	40.	60.
5. 無, D.K.	47.	53.	45.	55.	35.	65.	35.	65.
住 居 状 況								
1. 一戸建/上	45.	55.	36.	64.	29.	71.	56.	44.
2. 一戸建/中・下	43.	57.	49.	51.	43.	57.	41.	59.
3. 集合/上・中	53.	47.	48.	52.	37.	63.	36.	64.
4. 集合/下	58.	42.	48.	52.	44.	56.	25.	75.
住 居 所 有								
1. 自 家	45.	55.	44.	56.	36.	64.	47.	53.
2. 借 家	51.	49.	46.	54.	44.	56.	28.-	72.+
3. 社 宅 等	60.	40.	59.	41.	38.	63.	45.	55.
居 住 年								
1. 35年以前	49.	51.	44.	56.	42.	58.	62.+	38.-
2. 36~50年	47.	53.	51.	49.	34.	66.	32.	68.
3. 51~53年	49.	51.	41.	59.	39.	61.	31.	69.
4. 54年以降	50.	50.	39.	61.				
支 持 政 党								
1. 自 民 党	48.	52.	47.	53.	37.	63.	30.	70.
2. 公 明 党	60.	40.	73.+	27.-	45.	55.	29.	71.
3. 革 新 系	54.	46.	44.	56.	52.	48.	54.	46.
4. そ の 他	33.	67.	37.	63.	32.	68.	46.	54.
5. 無, D.K.	45.	55.	45.	55.				
家 族 構 成								
1. 定 位 家 族	50.	50.	35.	65.	48.	52.	48.	52.
2. 単 身	40.	60.	33.	67.	23.	77.	29.	71.
3. 既 婚/子 無 し	41.	59.	39.	61.	32.	68.	29.	71.
4. 学 童 以 下 有	67.+	33.-	59.+	41.-	50.	50.	45.	55.
5. 学 童 以 下 無	36.-	64.+	45.	55.	37.	63.	39.	61.
兄 弟 数								
1. 1 人	55.	45.	46.	54.	43.	57.	60.	40.
2. 2 人	47.	53.	45.	55.	43.	57.	25.	75.
3. 3 ~ 4 人	49.	51.	47.	53.	39.	61.	41.	59.
4. 5 人 ~	47.	53.	45.	55.	35.	65.	46.	54.
兄 弟 順 位								
1. 1 番 目	50.	50.	50.	50.	40.	60.	43.	57.
2. 2, 3 番 目	49.	51.	43.	57.	41.	59.	38.	63.
3. 4 番 以 降	44.	56.	46.	54.	32.	68.	38.	62.

付表 24
問27・P 近隣関係のわずらわしさ

回答カテゴリー 属性カテゴリー	性 女				性 男			
	武蔵野		三 鷹		武蔵野		三 鷹	
	1 否定	2 肯定	1 否定	2 肯定	1 否定	2 肯定	1 否定	2 肯定
全 体	29.	71.	43.	57.	39.	61.	43.	57.
年 齢								
1. 20歳~25歳	21.	79.	42.	58.	31.	69.	38.	62.
2. 26歳~35歳	34.	66.	51.	49.	46.	54.	44.	56.
3. 36歳~50歳	35.	65.	41.	59.	40.	60.	51.	49.
4. 51歳~65歳	24.	76.	32.	68.+	40.	60.	35.	65.
5. 66歳~	21.	79.	49.	51.				
学 歴								
1. 中 学(新)	33.	67.	37.	63.	45.	55.	41.	59.
2. 高 校(新)	28.	72.	43.	57.	45.	55.	39.	61.
3. 大 学 以 上	26.	74.	49.	51.	33.	67.	48.	52.
職 業								
1. 専 業	24.	76.	45.	55.	42.	58.	38.	62.
2. パ ー ト	24.	76.	42.	58.	35.	65.	47.	53.
3. 主 婦	35.	65.	43.	57.	50.	50.	48.	52.
4. 無, 学, D.K.	22.	78.	35.	65.	34.	66.	41.	59.
勤 務 地								
1. 市 内	31.	69.	53.+	47.-	67.+	33.-	43.	57.
2. 都 下	16.	84.	35.	65.	33.	67.	45.	55.
3. 中 心 区	7.-	93.+	33.	67.	37.	63.	44.	56.
4. 区 部	30.	70.	35.	65.	33.	67.	45.	55.
5. 無, D.K.	32.	68.	41.	59.	30.	70.	35.	65.
住 居 状 況								
1. 一 戸 建 / 上	28.	72.	38.	62.	41.	59.	52.	48.
2. 一 戸 建 / 中・下	34.	66.	44.	56.	40.	60.	49.	51.
3. 集 合 / 上・中	24.	76.	43.	57.	41.	59.	39.	61.
4. 集 合 / 下	27.	73.	45.	55.	32.	68.	25.	75.
住 居 所 有								
1. 自 家	30.	70.	43.	57.	38.	62.	47.	53.
2. 借 家	25.	75.	40.	60.	39.	61.	33.	67.
3. 社 宅 等	33.	68.	54.	46.	44.	56.	55.	45.
居 住 年								
1. 35年以前	27.	73.	38.	62.	44.	56.	32.	68.
2. 36~50年	30.	70.	47.	53.	44.	56.	56.+	44.-
3. 51~53年	29.	71.	44.	56.	31.	69.	37.	63.
4. 54年以降	30.	70.	37.	63.				
支 持 政 党								
1. 自 民 党	27.	73.	43.	57.	43.	57.	50.	50.
2. 公 明 党	35.	65.	47.	53.	42.	58.	48.	52.
3. 革 新 系	37.	63.	37.	63.	30.	70.	42.	58.
4. そ の 他	24.	76.	26.	74.	38.	62.	37.	63.
5. 無, D.K.	25.	75.	46.	54.				
家 族 構 成								
1. 定 位 家 族	17.	83.	46.	54.	30.	70.	41.	59.
2. 単 身	12.-	87.+	29.	71.	29.	71.	42.	58.
3. 既 婚 / 子 無 し	19.	81.	35.	65.	52.	48.	46.	54.
4. 学 童 以 下 有	41.+	59.-	50.	50.	52.	48.	40.	60.
5. 学 童 以 下 無	31.	69.	39.	61.	31.	69.	47.	53.
兄 弟 数								
1. 1 人	18.	82.	50.	50.	29.	71.	60.	40.
2. 2 人	24.	76.	40.	60.	30.	70.	27.-	73.+
3. 3 ~ 4 人	30.	70.	43.	57.	44.	56.	52.	48.
4. 5 人 ~	32.	68.	42.	58.	41.	59.	41.	59.
兄 弟 順 位								
1. 1 番 目	24.	76.	46.	54.	49.	51.	51.	49.
2. 2, 3 番 目	29.	71.	39.	61.	32.	68.	39.	61.
3. 4 番 以 降	35.	65.	45.	55.	35.	65.	38.	62.

付表 25

問40・Q 災害時における近隣関係—地震の場合—

回答カテゴリー 属性カテゴリー	女				男			
	武蔵野		三 鷹		武蔵野		三 鷹	
	1 近所 の人	2 それ 以外	1 近所 の人	2 それ 以外	1 近所 の人	2 それ 以外	1 近所 の人	2 それ 以外
全 体	63.	37.	60.	40.	51.	49.	44.	56.
年 齢								
1. 20歳~25歳	74.	26.	61.	39.	40.	60.	52.	48.
2. 26歳~35歳	72.	28.	71.+	29.-	60.	40.	36.	64.
3. 36歳~50歳	66.	34.	55.	45.	60.	40.	44.	56.
4. 51歳~65歳	55.	45.	61.	39.	42.	58.	42.	58.
5. 66歳~	45.-	55.+	49.	51.				
学 歴								
1. 中 学(新)	53.	47.	59.	41.	45.	55.	59.	41.
2. 高 校(新)	66.	34.	63.	37.	50.	50.	44.	56.
3. 大学 以上	54.	46.	47.-	53.+	54.	46.	41.	59.
職 業								
1. 専 業	64.	36.	58.	42.	62.	38.	37.	63.
2. パ ー ト	65.	35.	60.	40.	44.	56.	43.	57.
3. 主 婦	63.	37.	65.	35.	56.	44.	59.+	41.-
4. 無 学, D.K.	56.	44.	52.	48.	43.	57.	36.	64.
勤 務 地								
1. 市 内	65.	35.	63.	37.	55.	45.	39.	61.
2. 都 下	68.	32.	42.	58.	62.	37.	31.	69.
3. 中 心 区	66.	34.	62.	37.	56.	44.	56.	44.
4. 区 部	60.	40.	57.	43.	49.	51.	47.	53.
5. 無, D.K.	61.	39.	62.	38.	38.	62.	45.	55.
住居状況								
1. 一戸建/上	56.	44.	46.-	54.+	53.	47.	44.	56.
2. 一戸建/中・下	63.	37.	56.	44.	51.	49.	43.	57.
3. 集合/上・中	64.	36.	72.+	28.-	56.	44.	46.	54.
4. 集合/下	69.	31.	69.	31.	40.	60.	40.	60.
住居所有								
1. 自 家	60.	40.	54.	46.	55.	45.	44.	56.
2. 借 家	63.	37.	66.	34.	42.	58.	36.	64.
3. 社 宅 等	75.	25.	76.	24.	56.	44.	61.	39.
居 住 年								
1. 35年 以前	53.-	47.+	53.	47.	51.	49.	52.	48.
2. 36 ~ 50年	70.	30.	62.	38.	46.	54.	36.	64.
3. 51 ~ 53年	65.	35.	69.	31.	54.	46.	47.	53.
4. 54年 以降	66.	34.	65.	35.				
支持政党								
1. 自 民 党	63.	37.	57.	43.	52.	48.	50.	50.
2. 公 明 党	70.	30.	73.	27.	53.	47.	48.	52.
3. 革 新 系 他	64.	36.	66.	34.	48.	52.	42.	58.
4. そ の 他	52.	48.	68.	32.	51.	49.	38.	62.
5. 無, D. K.	61.	39.	58.	42.				
家族構成								
1. 定位家族	67.	33.	51.	49.	52.	48.	48.	52.
2. 単 身	56.	44.	62.	37.	32.-	68.+	46.	54.
3. 既婚/子無し	55.	45.	54.	46.	40.	60.	36.	64.
4. 学童以下有	75.+	25.-	73.+	27.-	66.+	34.-	45.	55.
5. 学童以下無	55.	45.	55.	45.	53.	47.	43.	57.
兄 弟 数								
1. 1 人	64.	36.	69.	31.	29.	71.	70.	30.
2. 2 人	64.	36.	54.	46.	53.	47.	36.	64.
3. 3 ~ 4 人	63.	37.	63.	37.	48.	52.	44.	56.
4. 5 人~	61.	39.	59.	41.	61.	39.	44.	56.
兄 弟 順 位								
1. 1 番 目	59.	41.	66.	34.	49.	51.	49.	51.
2. 2, 3 番 目	63.	37.	60.	40.	50.	50.	40.	60.
3. 4 番 目 降	67.	33.	53.	47.	59.	41.	44.	56.

付表 26

問27・R ボランティア活動への参加の意向

回答カテゴリー 属性 カテゴリー	女						男						
	三 鷹			武 蔵 野			三 鷹			三 鷹			
	1 肯定的	2 中間	3 否定的	1 肯定的	2 中間	3 否定的	1 肯定的	2 中間	3 否定的	1 肯定的	2 中間	3 否定的	
全 体	24.	29.	46.	28.	26.	45.	全 体	9.	27.	63.	14.	33.	53.
年 齢							年 齢						
1. 20歳～25歳	17.	23.	60.	25.	27.	47.	1. 20歳～30歳	14.	29.	57.	13.	33.	54.
2. 26歳～35歳	15.-	40.+	45.	21.	26.	53.	2. 31歳～40歳	8.	27.	65.	11.	33.	56.
3. 36歳～50歳	30.	29.	41.	38.+	28.	34.-	3. 41歳～55歳	5.	35.	60.	14.	36.	51.
4. 51歳～65歳	31.	28.	40.	28.	28.	34.-	4. 56歳～	12.	19.	70.	19.	29.	52.
5. 66歳～	17.	21.	62.+	22.	16.	62.+							
学 歴							学 歴						
1. 中 学(新)	18.	27.	55.	15.-	23.	62.+	1. 中 学(新)	14.	23.	64.	18.	18.	65.
2. 高 校(新)	25.	29.	46.	31.	28.	40.	2. 高 校(新)	8.	36.	55.	12.	38.	50.
3. 大 学 以上	23.	35.	42.	29.	20.	51.	3. 大 学 以上	10.	20.	70.	15.	31.	53.
職 業							職 業						
1. 専 業	21.	35.	45.	25.	34.+	41.	1. 技・管・自由	6.	32.	62.	13.	35.	52.
2. パ ー ト	15.	37.	48.	25.	29.	46.	2. 事 務	6.	27.	67.	17.	34.	48.
3. 主 婦	31.+	25.	44.	33.	21.	46.	3. 労働・自営	12.	29.	59.	11.	36.	52.
4. 無 学, D.K.	20.	22.	59.	26.	17.	57.	4. 無 学, D.K.	16.	20.	64.	14.	18.	68.
勤 務 地							勤 務 地						
1. 市 内	23.	34.	43.	27.	29.	44.	1. 市 内	18.	30.	52.	10.	43.	47.
2. 都 下	24.	28.	48.	27.	38.	35.	2. 都 下	0.	37.	62.	10.	24.	66.
3. 中 心 区	14.	31.	55.	17.	37.	46.	3. 中 心 区	5.	28.	67.	13.	22.	66.
4. 区 部	13.	43.	45.	22.	43.+	35.	4. 区 部	9.	26.	65.	18.	42.	40.
5. 無, D.K.	28.	25.	47.	32.	19.-	49.	5. 無, D.K.	14.	19.	68.	20.	15.	65.
住 居 状 況							住 居 状 況						
1. 一戸建/上	29.	26.	45.	38.	24.	38.	1. 一戸建/上	0.	29.	71.	28.+	32.	40.
2. 一戸建/中・下	26.	28.	45.	29.	29.	43.	2. 一戸建/中・下	19.+	22.	58.	11.	36.	53.
3. 集合/上・中	18.	32.	50.	26.	26.	49.	3. 集合/上・中	4.	31.	65.	13.	34.	52.
4. 集合/下	25.	33.	42.	21.	22.	57.	4. 集合/下	8.	28.	64.	10.	20.	70.
住 居 所 有							住 居 所 有						
1. 自 家	26.	28.	45.	30.	25.	45.	1. 自 家	12.	20.	67.	17.	37.	46.
2. 借 家	20.	31.	49.	27.	26.	47.	2. 借 家	7.	36.	58.	13.	28.	59.
3. 社 宅 等	25.	30.	45.	27.	32.	41.	3. 社 宅 等	6.	31.	63.	6.	35.	58.
居 住 年							居 住 年						
1. 35年以前	29.	30.	42.	28.	23.	49.	1. 35年以前	12.	25.	62.	14.	38.	48.
2. 36～50年	24.	29.	47.	31.	30.	39.	2. 36～50年	7.	32.	61.	15.	33.	52.
3. 51～53年	18.	26.	56.	29.	27.	44.	3. 51年以降	7.	27.	66.	13.	29.	58.
4. 54年以降	20.	34.	46.	20.	20.	59.							
支 持 政 党							支 持 政 党						
1. 自 民 党	22.	29.	49.	25.	23.	51.	1. 自 民 党	11.	24.	65.	9.	37.	54.
2. 公 明 党	15.	20.	65.	27.	27.	47.	2. 革 新 系 他	11.	37.	53.	13.	48.	39.
3. 革 新 系 他	32.	33.	36.-	34.	27.	39.	3. そ の 他	13.	17.	70.	12.	23.	65.
4. そ の 他	24.	29.	48.	42.	26.	32.	4. 無, D.K.	6.	28.	66.	18.	28.	54.
5. 無, D.K.	22.	29.	48.	27.	27.	46.							
家 族 構 成							家 族 構 成						
1. 定 位 家 族	22.	19.	58.	24.	35.	41.	1. 定 位 家 族	9.	26.	65.	10.	34.	55.
2. 単 身	17.	29.	54.	21.	17.	62.	2. 単 身	13.	29.	58.	4.	29.	67.
3. 既 婚/子 無 し	26.	26.	49.	33.	21.	46.	3. 既 婚/子 無 し	4.	28.	68.	21.	32.	46.
4. 学 童 以 下 有	24.	35.	40.	30.	24.	47.	4. 学 童 以 下 有	8.	24.	68.	20.	25.	55.
5. 学 童 以 下 無	26.	28.	45.	29.	28.	43.	5. 学 童 以 下 無	12.	29.	59.	10.	43.	47.
兄 弟 数							兄 弟 数						
1. 1 人	14.	27.	59.	31.	27.	42.	1. 1 人	14.	21.	64.	20.	40.	40.
2. 2 人	18.	29.	53.	24.	36.	40.	2. 2 人	10.	27.	63.	18.	20.	61.
3. 3～4 人	22.	31.	47.	24.	27.	49.	3. 3～4 人	11.	25.	65.	10.	35.	54.
4. 5 人～	32.+	29.	40.	37.+	19.	44.	4. 5 人～	6.	33.	61.	15.	39.	46.
兄 弟 順 位							兄 弟 順 位						
1. 1 番 目	21.	32.	46.	24.	34.+	41.	1. 1 番 目	10.	26.	64.	18.	34.	49.
2. 2, 3 番 目	27.	25.	48.	29.	22.	48.	2. 2, 3 番 目	8.	31.	61.	13.	30.	58.
3. 4 番 以 降	24.	33.	43.	33.	22.	45.	3. 4 番 以 降	12.	21.	68.	10.	38.	51.

付表 27
問28・S ボランティア活動への認識

性 回答カテゴリー 属性 カテゴリー	女				男			
	武蔵野		三 鷹		武蔵野		三 鷹	
	1 高い 認識	2 普通	1 高い 認識	2 普通	1 高い 認識	2 普通	1 高い 認識	2 普通
全 体	60.	40.	52.	48.	59.	41.	58.	42.
年 齢								
1. 20歳~25歳	47.	53.	54.	46.	50.	50.	56.	44.
2. 26歳~35歳	58.	42.	50.	50.	63.	37.	56.	44.
3. 36歳~50歳	60.	40.	53.	47.	63.	37.	59.	41.
4. 51歳~65歳	65.	35.	49.	51.	58.	42.	65.	35.
5. 66歳~	66.	34.	53.	47.				
学 歴								
1. 中 学(新)	55.	45.	51.	49.	59.	41.	59.	41.
2. 高 校(新)	63.	37.	51.	49.	64.	36.	55.	45.
3. 大 学 以 上	51.	49.	58.	42.	55.	45.	62.	38.
職 業								
1. 専 業	57.	43.	51.	49.	58.	42.	63.	37.
2. パ ー ト	63.	37.	40.	60.	58.	42.	60.	40.
3. 主 婦	63.	37.	56.	44.	71.	29.	48.	52.
4. 無 学, D.K.	59.	41.	48.	52.	52.	48.	59.	41.
勤 務 地								
1. 市 内	55.	45.	50.	50.	76.	24.	53.	47.
2. 都 下	52.	48.	54.	46.	62.	37.	62.	38.
3. 中 心 区	55.	45.	37.	62.	49.	51.	53.	47.
4. 区 部	73.	28.	52.	48.	53.	47.	62.	38.
5. 無, D.K.	62.	38.	54.	46.	59.	41.	65.	35.
住 居 状 況								
1. 一戸建/上	52.	48.	51.	49.	65.	35.	72.	28.
2. 一戸建/中・下	68.	32.	52.	48.	58.	42.	59.	41.
3. 集合/上・中	59.	41.	47.	53.	54.	46.	55.	45.
4. 集合/下	56.	44.	60.	40.	64.	36.	50.	50.
住 居 所 有								
1. 自 家	60.	40.	51.	49.	57.	43.	63.	37.
2. 借 家	62.	38.	54.	46.	63.	37.	57.	43.
3. 社 宅 等	55.	45.	49.	51.	56.	44.	48.	52.
居 住 年								
1. 35年以前	63.	37.	60.+	40.-	62.	37.	58.	42.
2. 36~50年	60.	40.	45.	55.	51.	49.	59.	41.
3. 51~53年	57.	43.	50.	50.	60.	40.	58.	42.
4. 54年以降	58.	42.	55.	45.				
支 持 政 党								
1. 自 民 党	62.	38.	52.	48.	70.	30.	63.	37.
2. 公 明 党	70.	30.	47.	53.	53.	47.	45.	55.
3. 革 新 系	66.	34.	47.	53.	48.	52.	50.	50.
4. そ の 他	76.	24.	74.	26.	57.	43.	63.	37.
5. 無, D. K.	52.-	48.+	51.	49.				
家 族 構 成								
1. 定 位 家 族	47.	53.	46.	54.	48.	52.	45.	55.
2. 単 身	62.	37.	46.	54.	48.	52.	50.	50.
3. 既 婚/子 無 し	68.	32.	58.	42.	68.	32.	57.	43.
4. 学 童 以 下 有	54.	46.	53.	47.	58.	42.	65.	35.
5. 学 童 以 下 無	66.	34.	51.	49.	67.	33.	63.	37.
兄 弟 数								
1. 1 人	68.	32.	69.	31.	50.	50.	80.	20.
2. 2 人	60.	40.	50.	50.	53.	47.	50.	50.
3. 3 ~ 4 人	60.	40.	51.	49.	54.	46.	56.	44.
4. 5 人 ~	60.	40.	51.	49.	73.	27.	65.	35.
兄 弟 順 位								
1. 1 番 目	64.	36.	50.	50.	61.	39.	60.	40.
2. 2, 3 番 目	62.	38.	53.	47.	58.	42.	54.	46.
3. 4 番 以 降	50.-	50.+	52.	48.	56.	44.	64.	36.

付表 28
問29・U 要介助者の存在

回答カテゴリー 属性カテゴリー	性 女						性 男					
	武蔵野			三 鷹			武蔵野			三 鷹		
	1 あり	2 無関心	3 消極的	1 あり	2 無関心	3 消極的	1 あり	2 無関心	3 消極的	1 あり	2 無関心	3 消極的
全 体	16.	66.	17.	13.	67.	20.	11.	67.	23.	7.	63.	30.
年 齢												
1. 20歳~25歳	4.-	62.	34.+	7.	71.	22.	5.	62.	33.	4.	58.	38.
2. 26歳~35歳	15.	67.	18.	9.	61.	30.+	13.	54.	33.	11.	49.	40.
3. 36歳~50歳	19.	63.	17.	14.	74.	13.-	12.	79.	9.-	7.	73.	20.
4. 51歳~65歳	18.	70.	12.	21.+	64.	15.	12.	74.	14.	10.	71.	19.
5. 66歳~	17.	70.	13.	16.	62.	22.						
学 歴												
1. 中 学(新)	20.	72.	8.	7.	72.	21.	23.	68.	9.	0.	59.	41.
2. 高 校(新)	15.	67.	19.	15.	69.	17.	14.	66.	20.	4.	65.	31.
3. 大 学 以上	21.	60.	19.	14.	53.-	34.+	5.	67.	29.	13.	60.	27.
職 業												
1. 専 業	13.	66.	21.	13.	65.	23.	16.	66.	18.	11.	71.	17.-
2. パ ー ト 婦	16.	69.	15.	13.	77.	10.	2.-	65.	33.	5.	55.	40.
3. 主 婦	17.	69.	14.	14.	67.	19.	15.	71.	15.	5.	64.	32.
4. 無 学, D.K.	22.	51.-	27.	13.	61.	26.	11.	66.	23.	9.	55.	36.
勤 務 地												
1. 市 内	18.	68.	15.	17.	70.	13.	12.	70.	18.	12.	65.	24.
2. 都 下	0.-	60.	40.+	8.	62.	31.	8.	54.	37.	10.	62.	28.
3. 中 心 区	14.	66.	21.	8.	62.	29.	14.	67.	19.	3.	69.	28.
4. 区 部	13.	68.	20.	9.	67.	24.	5.	70.	26.	5.	58.	36.
5. 無 D.K.	18.	66.	15.	13.	67.	20.	14.	68.	19.	5.	60.	35.
住 居 状 況												
1. 一 戸 建 / 上	16.	71.	13.	17.	64.	18.	15.	71.	15.	12.	76.	12.
2. 一 戸 建 / 中・下	17.	70.	13.	14.	70.	15.	7.	75.	18.	8.	68.	24.
3. 集 合 / 上・中	18.	59.	24.	10.	62.	27.+	13.	57.	30.	6.	52.	42.+
4. 集 合 / 下	10.	69.	21.	10.	69.	21.	8.	60.	32.	5.	60.	35.
住 居 所 有												
1. 自 家	17.	72.	11.-	15.	69.	16.	11.	75.	13.-	8.	71.	21.
2. 借 家	13.	62.	25.+	12.	65.	23.	10.	63.	27.	7.	54.	39.
3. 社 宅 等	23.	48.-	30.+	5.	62.	32.	9.	50.	41.+	6.	58.	35.
居 住 年												
1. 35年以前	21.	72.	6.-	12.	78.+	10.-	12.	75.	12.-	10.	62.	28.
2. 36~50年	14.	67.	18.	17.	67.	16.	12.	63.	24.	5.	65.	29.
3. 51~53年	16.	59.	25.	14.	53.-	33.+	3.	60.	33.	8.	60.	32.
4. 54年以降	6.	56.	38.+	0.-	57.	43.+						
支 持 政 党												
1. 自 民 党	18.	67.	15.	16.	73.	11.-	15.	76.	9.-	6.	76.+	19.
2. 公 明 党	5.	85.	10.	33.+	53.	13.	13.	68.	18.	0.	52.	48.+
3. 革 新 系 他	26.+	62.	12.	16.	71.	13.	9.	70.	22.	4.	62.	35.
4. そ の 他	19.	67.	14.	21.	53.	26.	6.	57.	37.+	13.	58.	29.
5. 無 D.K.	10.-	66.	24.+	8.-	64.	27.+						
家 族 構 成												
1. 定 位 家 族	6.	78.	17.	7.	74.	19.	9.	61.	30.	10.	59.	31.
2. 単 身	12.	50.-	37.+	8.	54.	37.+	3.	52.	45.+	8.	42.-	50.+
3. 既 婚 / 子 無 し	16.	62.	22.	19.	53.-	28.	12.	72.	16.	0.	68.	32.
4. 学 童 以 下 有	17.	69.	14.	8.	70.	22.	14.	64.	22.	9.	65.	25.
5. 学 童 以 下 無	20.	69.	12.	19.+	69.	12.-	12.	78.	10.-	8.	69.	24.
兄 弟 数												
1. 1 人	5.	82.	14.	15.	62.	23.	14.	57.	29.	10.	50.	40.
2. 2 人	10.	67.	23.	10.	75.	15.	7.	70.	23.	11.	50.	39.
3. 3~4 人	17.	63.	19.	12.	61.	27.+	11.	66.	24.	4.	71.	25.
4. 5 人~	20.	68.	12.	16.	71.	13.-	12.	69.	20.	9.	63.	28.
兄 弟 順 位												
1. 1 番 目	13.	70.	17.	16.	60.	24.	7.	65.	28.	10.	57.	32.
2. 2, 3 番 目	19.	63.	18.	8.-	73.	19.	15.	68.	18.	5.	65.	30.
3. 4 番 以 降	18.	66.	17.	20.+	65.	15.	9.	68.	24.	8.	67.	26.

付表 29

問30・V 要介助者への援助の意向

回答カテゴリー 属性カテゴリー	性 女						性 男					
	武蔵野			三 鷹			武蔵野			三 鷹		
	1 意向 あり	2 消極的	3 否定的	1 意向 あり	2 消極的	3 否定的	1 意向 あり	2 消極的	3 否定的	1 意向 あり	2 消極的	3 否定的
全 体	53.	29.	18.	57.	33.	10.	49.	21.	31.	35.	45.	20.
年 齢												
1. 20歳~25歳	47.	23.	30.+	42.-	39.	19.+	43.	21.	36.	25.	46.	29.
2. 26歳~35歳	43.	36.	20.	55.	35.	10.	37.	15.	48.+	36.	44.	20.
3. 36歳~50歳	60.	30.	10.-	59.	31.	10.	65.+	21.	14.-	34.	49.	17.
4. 51歳~65歳	58.	27.	16.	65.	32.	4.-	53.	26.	21.	52.	35.	13.
5. 66歳~	43.	26.	30.+	60.	27.	13.						
学 歴												
1. 中 学(新)	53.	27.	20.	61.	35.	4.	55.	27.	18.	47.	35.	18.
2. 高 校(新)	54.	29.	16.	61.	30.	9.	54.	19.	27.	30.	46.	24.
3. 大学 以上	42.	32.	26.	34.-	42.	24.+	43.	20.	37.	37.	45.	17.
職 業												
1. 専 業	50.	29.	21.	57.	30.	13.	42.	26.	32.	41.	41.	17.
2. パ ー ト	60.	21.	19.	54.	38.	8.	50.	15.	35.	31.	55.	14.
3. 主 婦	56.	32.	12.-	59.	33.	8.	53.	21.	26.	34.	39.	27.
4. 無.学,D.K.	39.	29.	32.+	52.	35.	13.	52.	20.	27.	27.	41.	32.
勤 務 地												
1. 市 内	58.	23.	19.	56.	37.	7.	55.	21.	24.	39.	43.	18.
2. 都 下	52.	28.	20.	62.	19.	19.	33.	21.	46.	41.	41.	17.
3. 中 心 区	41.	28.	31.	50.	42.	8.	42.	19.	40.	28.	47.	25.
4. 区 部	50.	33.	18.	52.	30.	17.	58.	23.	19.	31.	53.	16.
5. 無. D.K.	52.	32.	16.	58.	32.	9.	51.	19.	30.	35.	30.	35.
住 居 状 況												
1. 一戸建/上	53.	27.	20.	50.	33.	17.	50.	21.	29.	48.	40.	12.
2. 一戸建/中・下	54.	29.	17.	57.	35.	8.	52.	22.	25.	33.	52.	15.
3. 集合/上・中	54.	30.	16.	58.	34.	8.	50.	17.	33.	33.	42.	25.
4. 集合/下	44.	31.	25.	62.	24.	14.	36.	24.	40.	30.	35.	35.
住 居 所 有												
1. 自 家	54.	30.	16.	55.	33.	11.	53.	25.	22.	39.	46.	15.
2. 借 家	51.	28.	21.	61.	30.	9.	39.	19.	42.	32.	43.	25.
3. 社 宅 等	48.	28.	25.	51.	41.	8.	56.	13.	31.	29.	45.	26.
居 住 年												
1. 35年以前	55.	25.	19.	64.	26.	9.	47.	26.	26.	50.+	36.	14.
2. 36~50年	55.	30.	15.	56.	33.	11.	66.+	15.	20.	31.	53.	16.
3. 51~53年	53.	32.	15.	56.	37.	7.	40.	18.	42.	27.	42.	31.+
4. 54年以降	38.-	34.	28.	41.-	45.	14.						
支 持 政 党												
1. 自 民 党	51.	28.	21.	59.	34.	7.	52.	24.	24.	28.	57.	15.
2. 公 明 党	50.	25.	25.	60.	33.	7.	63.	13.	24.	39.	39.	23.
3. 革 新 系	58.	31.	11.	67.	19.-	14.	35.	30.	35.	38.	38.	23.
4. そ の 他	62.	14.	24.	89.+	5.-	5.	43.	18.	38.	37.	41.	22.
5. 無. D. K.	50.	32.	19.	49.-	40.+	11.						
家 族 構 成												
1. 定 位 家 族	44.	28.	28.	49.	34.	18.+	35.	26.	39.	31.	45.	24.
2. 単 身	35.-	33.	31.+	62.	21.	17.	39.	19.	42.	29.	37.	33.
3. 既 婚/子 無 し	53.	34.	14.	56.	37.	7.	40.	28.	32.	39.	43.	18.
4. 学 童 以 下 有	53.	32.	15.	54.	37.	9.	58.	14.	28.	31.	45.	24.
5. 学 童 以 下 無	61.	23.	17.	63.	29.	8.	57.	22.	22.	41.	49.	10.
兄 弟 数												
1. 1 人	55.	23.	23.	50.	38.	12.	29.	21.	50.	40.	60.	0.
2. 2 人	47.	30.	23.	54.	35.	12.	33.	20.	47.	30.	30.-	41.+
3. 3 ~ 4 人	53.	30.	17.	53.	37.	10.	51.	22.	27.	30.	54.	15.
4. 5 人 ~	55.	29.	15.	65.	26.	9.	61.	18.	22.	44.	41.	15.
兄 弟 順 位												
1. 1 番 目	50.	31.	18.	50.	39.	11.	50.	18.	32.	34.	49.	18.
2. 2, 3 番 目	56.	26.	19.	59.	31.	10.	45.	23.	32.	30.	43.	28.
3. 4 番 以 降	51.	32.	17.	62.	28.	10.	56.	21.	24.	46.	44.	10.

付表 30
問31・W 独居老人の世話

回答カテゴリー 属性 カテゴリー	女						回答カテゴリー 属性 カテゴリー	男					
	武蔵野			三鷹				武蔵野			三鷹		
	1 近所 の人	2 公的・ 善意の人	3 親戚 など	1 近所 の人	2 公的・ 善意の人	3 親戚 など		1 近所 の人	2 公的・ 善意の人	3 親戚 など	1 近所 の人	2 公的・ 善意の人	3 親戚 など
全 体	13.	31.	55.	16.	26.	58.	全 体	11.	23.	66.	9.	30.	60.
年 齢							年 齢						
1. 20歳~25歳	23.	19.	57.	5.-	17.	78.+	1. 20歳~30歳	12.	19.	69.	15.	25.	60.
2. 26歳~35歳	12.	23.	65.	16.	25.	58.	2. 31歳~40歳	8.	21.	71.	2.	36.	62.
3. 36歳~50歳	11.	32.	57.	18.	32.	50.	3. 41歳~55歳	12.	23.	65.	5.	36.	59.
4. 51歳~65歳	13.	40.+	47.	21.	27.	52.	4. 56歳~	14.	30.	56.	16.	23.	61.
5. 66歳~	13.	36.	51.	11.	22.	67.							
学 歴							学 歴						
1. 中 学(新)	10.	40.	50.	15.	28.	56.	1. 中 学(新)	18.	23.	59.	12.	35.	53.
2. 高 校(新)	13.	31.	56.	17.	27.	56.	2. 高 校(新)	14.	20.	66.	11.	29.	61.
3. 大 学 以上	19.	25.	56.	10.	19.	71.+	3. 大 学 以上	7.	26.	67.	7.	31.	62.
職 業							職 業						
1. 専 業	17.	33.	50.	15.	25.	60.	1. 技・管・自由	4.	20.	76.	8.	33.	59.
2. パ ー ト	8.	27.	65.	13.	29.	58.	2. 事 務	13.	27.	60.	5.	36.	59.
3. 主 婦	11.	32.	57.	19.	26.	55.	3. 労働・自営	12.	32.	56.	14.	25.	61.
4. 無, 学, D.K.	20.	32.	49.	11.	28.	61.	4. 無, 学, D.K.	16.	16.	68.	14.	18.	68.
勤 務 地							勤 務 地						
1. 市 内	9.	34.	56.	11.	26.	63.	1. 市 内	9.	39.+	52.	12.	33.	55.
2. 都 下	20.	24.	56.	19.	27.	54.	2. 都 下	8.	12.	79.	0.	24.	76.
3. 中 心 区	31.+	24.	45.	12.	25.	62.	3. 中 心 区	7.	21.	72.	3.	25.	72.
4. 区 部	13.	30.	58.	17.	26.	57.	4. 区 部	16.	19.	65.	16.	35.	49.
5. 無, D.K.	12.	32.	56.	18.	27.	56.	5. 無, D.K.	14.	24.	62.	5.	30.	65.
住 居 状 況							住 居 状 況						
1. 一戸建/上	8.	38.	54.	22.	26.	51.	1. 一戸建/上	6.	26.	68.	12.	32.	56.
2. 一戸建/中・下	12.	32.	56.	11.	30.	59.	2. 一戸建/中・下	13.	21.	66.	5.	35.	60.
3. 集合/上・中	20.+	27.	53.	17.	21.	62.	3. 集合/上・中	13.	22.	65.	12.	27.	61.
4. 集合/下	12.	27.	62.	19.	28.	53.	4. 集合/下	8.	28.	64.	10.	25.	65.
住 居 所 有							住 居 所 有						
1. 自 家	13.	34.	54.	15.	27.	58.	1. 自 家	11.	21.	67.	8.	36.	56.
2. 借 家	15.	28.	57.	16.	25.	59.	2. 借 家	10.	17.	73.	12.	32.	57.
3. 社 宅 等	13.	30.	58.	19.	27.	54.	3. 社 宅 等	13.	41.+	47.-	6.	13.-	81.+
居 住 年							居 住 年						
1. 35年以前	8.	37.	55.	17.	24.	59.	1. 35年以前	12.	22.	65.	18.+	22.	60.
2. 36~50年	20.+	28.	52.	17.	31.	51.	2. 36~50年	12.	29.	59.	5.	35.	60.
3. 51~53年	13.	38.	49.	16.	20.	64.	3. 51年以降	9.	21.	70.	6.	32.	61.
4. 54年以降	8.	16.-	76.+	6.	24.	69.							
支 持 政 党							支 持 政 党						
1. 自 民 党	13.	31.	56.	17.	24.	59.	1. 自 民 党	13.	28.	59.	9.	37.	54.
2. 公 明 党	20.	35.	45.	0.	33.	67.	2. 革 新 系	13.	26.	61.	10.	32.	58.
3. 革 新 系	14.	39.	47.	18.	28.	54.	3. そ の 他	26.+	13.	61.	0.	23.	77.
4. そ の 他	5.	38.	57.	16.	42.	42.	4. 無, D.K.	3.-	22.	75.	12.	28.	61.
5. 無, D.K.	14.	26.	60.	16.	25.	59.							
家 族 構 成							家 族 構 成						
1. 定 位 家 族	19.	22.	58.	12.	22.	66.	1. 定 位 家 族	9.	9.	83.	17.	28.	55.
2. 単 身	19.	29.	52.	21.	17.	62.	2. 単 身	10.	26.	65.	12.	17.	71.
3. 既 婚/子 無 し	14.	34.	53.	16.	32.	53.	3. 既 婚/子 無 し	16.	24.	60.	14.	43.	43.
4. 学 童 以 下 有	10.	30.	60.	16.	28.	56.	4. 学 童 以 下 有	10.	26.	64.	2.	38.	60.
5. 学 童 以 下 無	13.	34.	53.	17.	26.	57.	5. 学 童 以 下 無	12.	25.	63.	8.	24.	69.
兄 弟 数							兄 弟 数						
1. 1 人	5.	45.	50.	27.	15.	58.	1. 1 人	7.	14.	79.	20.	20.	60.
2. 2 人	14.	37.	49.	11.	20.	69.+	2. 2 人	10.	23.	67.	9.	34.	57.
3. 3~4 人	17.	27.	56.	15.	28.	57.	3. 3~4 人	14.	21.	65.	6.	29.	65.
4. 5 人~	9.	32.	59.	18.	30.	53.	4. 5 人~	8.	29.	63.	11.	31.	57.
兄 弟 順 位							兄 弟 順 位						
1. 1 番 目	11.	34.	55.	16.	22.	61.	1. 1 番 目	11.	25.	64.	9.	34.	57.
2. 2, 3 番 目	17.	27.	56.	15.	25.	60.	2. 2, 3 番 目	11.	19.	70.	11.	29.	60.
3. 4 番 以 降	9.	35.	55.	16.	35.	48.	3. 4 番 以 降	12.	29.	59.	5.	28.	67.

付表 31-1

問22 既成団体への所属と参加（女）

回答カテゴリー 属性カテゴリー	性 女											
	武蔵野						三 鷹					
	1 地域 関係	2 組織活 動関係	3 P.T.A.	4 それ 以外	5 参加 のみ	6 不参加	1 地域 関係	2 組織活 動関係	3 P.T.A.	4 それ 以外	5 参加 のみ	6 不参加
全 体	9.	6.	5.	17.	28.	35.	11.	2.	5.	25.	31.	27.
年 齢												
1. 20歳~25歳	0.-	2.	2.	13.	21.	62.+	2.-	0.	0.	31.	27.	41.+
2. 26歳~35歳	3.	2.	3.	11.	27.	52.+	5.	3.	5.	24.	26.	37.+
3. 36歳~50歳	16.+	4.	13.+	17.	29.	19.-	14.	5.+	12.+	23.	30.	16.-
4. 51歳~65歳	11.	10.	1.-	24.	26.	28.	18.	0.	0.-	26.	41.+	15.-
5. 66歳~	4.	9.	0.	17.	34.	36.	16.	0.	0.	22.	27.	36.
学 歴												
1. 中 学(新)	5.	7.	3.	12.	33.	40.	14.	0.	3.	18.	34.	31.
2. 高 校(新)	11.	6.	6.	16.	27.	35.	12.	3.	5.	26.	30.	25.
3. 大 学 以 上	2.	5.	5.	32.+	26.	30.	5.	3.	8.	24.	31.	29.
職 業												
1. 専 一	8.	3.	2.	21.	26.	40.	11.	3.	1.-	22.	29.	33.
2. パ ー ト	16.	13.+	8.	10.	29.	24.	6.	2.	2.	31.	33.	27.
3. 主 婦	10.	6.	8.	16.	26.	34.	13.	2.	10.+	22.	33.	20.-
4. 無 学, D.K.	0.-	5.	0.	20.	37.	39.	11.	0.	0.	35.	22.	33.
勤 務 地												
1. 市 内	16.+	6.	7.	15.	24.	32.	15.	4.	2.	21.	35.	23.
2. 都 下	8.	0.	0.	20.	32.	40.	12.	0.	0.	35.	19.	35.
3. 中 心 区	7.	3.	0.	24.	21.	45.	0.	4.	4.	37.	25.	29.
4. 区 部	3.	8.	3.	20.	30.	38.	7.	2.	0.	15.	30.	46.+
5. 無 学, D.K.	9.	6.	6.	17.	29.	34.	12.	2.	8.+	25.	30.	23.
住 居 状 况												
1. 一戸建/上	6.	9.	2.	20.	30.	33.	9.	7.+	12.+	24.	30.	18.
2. 一戸建/中・下	12.	6.	8.	23.	21.	29.	14.	3.	2.	20.	34.	27.
3. 集合/上・中	8.	4.	6.	12.	34.	36.	9.	0.	6.	27.	25.	33.
4. 集合/下	8.	4.	0.	10.	25.	54.+	9.	0.	2.	53.	33.	24.
住 居 所 有												
1. 自 家	10.	7.	6.	20.	28.	28.-	12.	4.	5.	24.	30.	24.
2. 借 家	5.	3.	4.	13.	27.	48.+	9.	1.	5.	22.	34.	28.
3. 社 宅 等	18.	8.	8.	13.	25.	30.	11.	0.	3.	38.	16.	32.
居 住 年												
1. 35年以前	8.	9.	3.	23.	32.	25.-	14.	2.	4.	28.	25.	26.
2. 36~50年	12.	4.	7.	19.	25.	33.	13.	3.	7.	19.	36.	21.
3. 51~53年	9.	6.	7.	6.-	31.	41.	4.	1.	1.	26.	33.	34.
4. 54年以降	2.	0.	4.	10.	20.	64.+	6.	0.	4.	31.	22.	37.
支 持 政 党												
1. 自 民 党	8.	5.	8.	18.	31.	31.	16.	2.	4.	25.	29.	24.
2. 公 明 党	10.	5.	0.	35.+	20.	30.	27.	0.	0.	33.	33.	7.
3. 革 新 系	15.+	10.	4.	15.	31.	24.-	14.	5.	8.	25.	29.	19.
4. そ の 他	14.	5.	5.	53.	24.	19.	11.	11.+	11.	26.	21.	21.
5. 無 学, D. K.	6.	4.	5.	13.	24.	48.+	6.-	1.	4.	23.	33.	33.+
家 族 構 成												
1. 定 位 家 族	3.	0.	0.	22.	22.	53.+	1.-	1.	0.	28.	21.	49.+
2. 単 身	0.-	4.	0.	15.	27.	54.+	0.	0.	0.	37.	33.	29.
3. 既 婚/子 無 し	5.	4.	0.-	26.	31.	34.	16.	2.	0.	23.	30.	36.
4. 学 童 以 下 有	12.	4.	12.+	11.	29.	32.	13.	4.	10.+	19.	33.	21.
5. 学 童 以 下 無	13.	11.+	4.	18.	26.	27.	14.	2.	5.	26.	33.	20.
兄 弟 数												
1. 1 人	0.	0.	9.	9.	27.	55.	8.	0.	12.	15.	38.	27.
2. 2 人	2.-	5.	5.	15.	25.	48.+	11.	4.	0.-	26.	26.	33.
3. 3 ~ 4 人	7.	5.	5.	19.	25.	39.	9.	3.	6.	24.	27.	32.
4. 5 人 ~	17.+	9.	5.	17.	33.	19.-	15.	1.	6.	26.	36.	16.-
兄 弟 順 位												
1. 1 番 目	7.	6.	4.	21.	28.	33.	10.	3.	6.	24.	30.	26.
2. 2, 3 番 目	6.	4.	6.	16.	26.	43.+	11.	2.	4.	23.	30.	29.
3. 4 番 以 降	18.+	8.	6.	14.	30.	24.-	13.	1.	4.	27.	32.	23.

付表 31-2

問22 既成団体への所属と参加(男)

回答 カテゴリー 属性 カテゴリー	性		男											
	武蔵野						三 鷹							
	1 地域 関係	2 趣味 関係	3 職域 関係	4 それ 以外	5 参加 のみ	6 不参加	1 地域 関係	2 趣味 関係	3 職域 関係	4 それ 以外	5 参加 のみ	6 不参加		
全 体	11.	16.	12.	6.	26.	29.	8.	10.	7.	7.	34.	34.		
年 齢														
1. 20歳~30歳	0.-	24.	10.	5.	12.-	50.+	4.	15.	8.	6.	27.	40.		
2. 31歳~40歳	10.	10.	17.	2.	31.	31.	9.	9.	11.	4.	29.	38.		
3. 41歳~55歳	16.	19.	14.	12.	26.	14.-	8.	5.	5.	5.	47.+	29.		
4. 56歳~	19.	12.	5.	7.	35.	23.	13.	13.	3.	16.+	29.	26.		
学 歴														
1. 中 学(新)	18.	5.	9.	0.	41.	27.	18.	12.	6.	12.	24.	29.		
2. 高 校(新)	14.	20.	9.	5.	20.	31.	6.	11.	10.	4.	31.	39.		
3. 大学 以上	7.	14.	14.	8.	27.	29.	8.	9.	5.	9.	40.	29.		
職 業														
1. 技・管・自由	8.	14.	14.	6.	30.	28.	8.	11.	5.	10.	35.	32.		
2. 専 務	8.	15.	13.	8.	25.	31.	3.	7.	7.	5.	43.	34.		
3. 労働・自営	26.+	12.	15.	3.	24.	21.	14.	14.	14.	9.	25.	25.		
4. 無,学,D.K.	7.	20.	5.	7.	25.	36.	9.	9.	0.	0.	27.	55.+		
勤 務 地														
1. 市 内	27.+	15.	3.	3.	24.	27.	12.	12.	6.	8.	33.	29.		
2. 都 下	0.	8.	17.	4.	42.	29.	14.	10.	14.	7.	38.	17.		
3. 中 心 区	12.	12.	12.	2.	26.	37.	0.	3.	13.	3.	41.	41.		
4. 区 部	2.	23.	16.	12.	26.	21.	2.	11.	4.	9.	35.	40.		
5. 無, D.K.	14.	16.	11.	8.	19.	32.	20.	15.	0.	5.	20.	40.		
住 居 状 況														
1. 一戸建/上	18.	15.	9.	3.	24.	32.	20.+	12.	0.	16.	28.	24.		
2. 一戸建/中・下	10.	13.	12.	7.	27.	30.	7.	3.-	5.	7.	48.+	31.		
3. 集合/上・中	13.	19.	17.	6.	28.	19.	7.	16.	10.	3.	28.	34.		
4. 集合/下	0.	16.	4.	8.	24.	48.+	0.	15.	10.	10.	10.-	55.+		
住 居 所 有														
1. 自 家	15.	13.	10.	7.	30.	25.	13.	7.	5.	10.	40.	25.		
2. 借 家	5.	17.	12.	5.	25.	36.	6.	12.	4.	4.	32.	42.		
3. 社 宅 等	13.	19.	16.	6.	16.	31.	0.	16.	19.+	3.	23.	39.		
居 住 年														
1. 35年以前	17.	14.	8.	7.	29.	25.	18.+	6.	8.	10.	38.	20.-		
2. 36~50年	7.	20.	10.	5.	32.	27.	7.	9.	4.	7.	36.	37.		
3. 51年以降	7.	15.	16.	6.	19.	36.	2.	15.	10.	5.	29.	40.		
支 持 政 党														
1. 自 民 党	22.+	19.	13.	4.	20.	22.	9.	11.	9.	11.	33.	26.		
2. 革 新 系	13.	18.	6.	8.	26.	26.	13.	16.	13.	0.	32.	26.		
3. そ の 他	9.	13.	13.	4.	30.	30.	0.	0.	0.	12.	50.	38.		
4. 無, D. K.	2.-	12.	12.	6.	29.	37.	8.	11.	5.	5.	30.	41.		
家 族 構 成														
1. 定 位 家 族	0.	17.	13.	0.	17.	52.+	7.	14.	10.	3.	28.	38.		
2. 単 身	3.	23.	16.	10.	13.	35.	0.	21.	8.	4.	25.	42.		
3. 既 婚/子 無 し	12.	0.-	12.	12.	24.	40.	14.	18.	0.	14.	21.	32.		
4. 学 童 以 下 有	12.	14.	10.	6.	38.	20.	5.	7.	11.	7.	31.	38.		
5. 学 童 以 下 無	20.	20.	10.	4.	27.	20.	12.	2.	4.	6.	53.+	24.		
兄 弟 数														
1. 1 人	14.	21.	0.	0.	21.	43.	20.	10.	0.	10.	20.	40.		
2. 2 人	3.	23.	7.	10.	20.	37.	7.	18.	2.	5.	27.	41.		
3. 3 ~ 4 人	7.	16.	16.	6.	29.	25.	5.	8.	10.	6.	37.	34.		
4. 5 人 ~	22.+	8.	10.	6.	25.	29.	11.	7.	7.	9.	39.	26.		
兄 弟 順 位														
1. 1 番 目	8.	17.	8.	3.	25.	39.	7.	7.	6.	9.	34.	37.		
2. 2, 3 番 目	11.	15.	11.	9.	30.	24.	9.	10.	9.	4.	36.	33.		
3. 4 番 以 降	18.	15.	21.	6.	21.	21.	8.	15.	5.	10.	31.	31.		

付表 32
問20 家のなかで話題にすること

回答カテゴリー 属性 カテゴリー	性 女		性 男					
	市		市					
	武蔵野	三 鷹	武蔵野	三 鷹				
	1 2	1 2	1 2	1 2	1 2			
	社会 地域	それ 以外	社会 地域	それ 以外	社会 地域	それ 以外		
全 体	18.	82.	18.	82.	26.	74.	27.	73.
年 齢								
1. 20歳~25歳	13.	87.	22.	78.	29.	71.	27.	73.
2. 26歳~35歳	16.	84.	15.	85.	17.	83.	27.	73.
3. 36歳~50歳	19.	81.	19.	81.	26.	74.	27.	73.
4. 51歳~65歳	24.	76.	20.	80.	33.	67.	26.	74.
5. 66歳~	15.	85.	11.	89.				
学 歴								
1. 中学(新)	8.-	92.+	13.	87.	9.	91.	18.	82.
2. 高校(新)	20.	80.	18.	82.	27.	73.	27.	73.
3. 大学以上	21.	79.	24.	76.	29.	71.	28.	72.
職 業								
1. 専 業	19.	81.	20.	80.	32.	68.	24.	76.
2. パート	21.	79.	19.	81.	17.	83.	26.	74.
3. 主婦	19.	81.	17.	83.	15.	85.	27.	73.
4. 無,学,D.K.	10.	90.	11.	89.	36.	64.	36.	64.
勤 務 地								
1. 市 内	17.	83.	21.	79.	42.+	58.-	27.	73.
2. 都 下	16.	84.	12.	88.	25.	75.	21.	79.
3. 中 心 区	28.	72.	12.	87.	21.	79.	26.	72.
4. 区 部	13.	88.	22.	78.	21.	79.	22.	78.
5. 無, D.K.	19.	81.	16.	84.	22.	78.	45.	55.
住 居 状 況								
1. 一戸建/上	26.	74.	29.+	71.-	35.	65.	36.	64.
2. 一戸建/中・下	19.	81.	18.	82.	22.	78.	27.	73.
3. 集合/上・中	16.	84.	15.	85.	22.	78.	25.	75.
4. 集合/下	10.	90.	7.-	93.+	28.	72.	20.	80.
住 居 所 有								
1. 自 家	22.	78.	23.+	77.-	25.	75.	28.	72.
2. 借 家	11.-	89.+	11.-	89.+	20.	80.	25.	75.
3. 社 宅 等	19.	83.	11.	89.	38.	63.	29.	71.
居 住 年								
1. 35年以前	26.+	74.-	17.	83.	33.	67.	30.	70.
2. 36~50年	14.	86.	18.	82.	24.	76.	29.	71.
3. 51~53年	16.	84.	19.	81.	18.	82.	21.	79.
4. 54年以降	10.	90.	14.	86.				
支 持 政 党								
1. 自 民 党	17.	83.	17.	83.	23.	72.	30.	70.
2. 公 明 党	10.	90.	20.	80.	29.	71.	29.	71.
3. 革 新 系	29.+	71.-	20.	80.	30.	70.	31.	69.
4. そ の 他	33.	67.	37.+	63.-	20.	80.	22.	78.
5. 無, D.K.	12.	88.	15.	85.				
家 族 構 成								
1. 定 位 家 族	19.	81.	21.	79.	26.	74.	34.	66.
2. 単 身	4.-	96.+	4.	96.	23.	77.	21.	79.
3. 既 婚 / 子 無 し	26.	74.	23.	77.	44.+	56.-	21.	79.
4. 学 童 以 下 有	17.	83.	19.	81.	18.	82.	25.	75.
5. 学 童 以 下 無	20.	80.	15.	85.	25.	75.	29.	71.
兄 弟 数								
1. 1 人	9.	91.	27.	73.	29.	71.	30.	70.
2. 2 人	11.	89.	14.	86.	23.	77.	18.	82.
3. 3 ~ 4 人	21.	79.	16.	84.	25.	75.	30.	70.
4. 5 人 ~	20.	80.	20.	80.	27.	73.	28.	72.
兄 弟 順 位								
1. 1 番 目	16.	84.	20.	80.	21.	79.	28.	72.
2. 2, 3 番 目	19.	81.	15.	85.	28.	72.	26.	74.
3. 4 番 以 降	21.	79.	19.	81.	29.	71.	26.	74.

付図

「診断項目」(A~Wの21項目)に対する「説明項目」の連関

付図 1

		三 歳				
		年 齢				
		-2	-1	0	+1	+2
女	D GB EU JSKC F P LVH A			Q W		
				DOE CW H U L J R BPK S A G		
				F G M N		
				(47人)	(59人)	
	RD V G F			SJW EL A C NB K Q HUO P M		
				D G R KU AV SE J F L HO W M B N C		
				(88人)	(110人)	
	W K SN G AQ EB RP V O D F C					
				36歳~50歳		
				(134人)	(133人)	
	C Q P JF LM WO H BA SV D ER G U N K					
				51歳~65歳		
				(109人)	(85人)	
	Q C ABER HMLD WFU ON S G J K P V					
				66歳~		
				(53人)	(45人)	
	D J K N LG SEC B F W					
				20歳~30歳		
				(42人)	(52人)	
	B N KV O E DAN R F C J L PG					
				31歳~40歳		
				(52人)	(45人)	
	R LPU CS J GH DE K V B W F M A					
				41歳~55歳		
				(43人)	(59人)	
	Q FHSPC AB L J MG K D N U RE V W					
				56歳~		
				(43人)	(31人)	
男						

付図 2

		武蔵野					三鷹					
		-2	-1	0	+1	+2	-2	-1	0	+1	+2	
女			Q J R L O B C M K V E P S F A W H		D U	G N	B R C J H E U	P F	A L S K Q W	M O V	D N	G
			G U B O F H D E A J K C S O L P W N M R V							S A L K E W D B Q C V P H J F R M U D N		
		N V S C K G	E M A D J G P R	H U F O B L			V D O	O W M F K C	R U G A I H	L J S P E B		
			B A G J S E V F Q H	D C L W P R	K N					F R P S D R A L J W E V O	K C O G M N	
男		G	K L M F A E C B R O Q I H	J W S P U V N			M U	L E K G J S B F D C Q V P A D N R		W H		
			M P V W	S C J E L F B A G K D R H G	G					W G C N O H A D K B E L G R V S J M F P	U	
		学 歴					学 歴					
		中学(新) 60人 (71人)					中学(新) 314人 (302人)					
		高校(新) 314人 (302人)					高校(新) 74人 (84人)					
		大学以上 57人 (59人)					大学以上 22人 (17人)					
		大学以上 84人 (86人)					大学以上 84人 (86人)					

付図 3

		武蔵野					三鷹				
		-2	-1	0	+1	+2	-2	-1	0	+1	+2
女	M O N	K C P G	J S H E L R U V	A O F	B W		N	O F M D R A	G G H S E J W U K V	L C B P	
		R A O W	P M H	B S E L D C K	J		S	E K R V G B Q D A C M L O W P U N H		F J	
		F W	L J U Q	B V S C E A K K G H	P D R	M N O		K B	P L C A V U J G	W S R O D F E H G	N
	B E	D V A C K G G H J M P R N	L D S	F U W			H C F	L E M D J P O	W B V S R U G A N O		K
	L W F	V A R H C E D R K P N M J O S	G U Q								
	U M O	Q R P B D S C A E J F K V	W L	G H			N	B D	U V M H A E G C P R Q S F	K L J	
	G H	E K A	W L R B U V F J D Q	D S C N M			L S H	J U E M A V F B C P R O G		W N D Q	
		G C S P D J G	H B V L F W E R N K M U				K C F	V J A B R S U Q D P H G	E M N L O		
		職業					職業				
		専業 141人 (151人)					専業 141人 (151人)				
		パート 62人 (52人)					パート 62人 (52人)				
		主婦 187人 (183人)					主婦 187人 (183人)				
		無学, D.K. 41人 (46人)					無学, D.K. 41人 (46人)				
		技管・自由 50人 (63人)					技管・自由 50人 (63人)				
		事務 52人 (58人)					事務 52人 (58人)				
		労働・自営 34人 (44人)					労働・自営 34人 (44人)				
		無学, D.K. 44人 (22人)					無学, D.K. 44人 (22人)				

付図 5

		武蔵野					三鷹					
		-2	-1	0	+1	+2	住居状況					
							-2	-1	0	+1	+2	
女		SCHW J N	J A M	F OKP DH UG V	BL ER	E R	0	C V N	PH BS M K	A E DL G U O	F J W R	
		E WH	E WH	MB D GR A I Q K U V	C P L S	F J	W	Q	FOB CH JAL P U G K M I S E D R V N			
		L FP J R	S O	C B E G A U H D V N O	H K	W	集合/上・中	G E J L U R S	D A R K V F H W M O	B N C		0
		K J	BU L D F G V	O E S H W P C R A N	GM		集合 / 下	R D N	U A F J L B C P E W H G D M K	S G		
		R L	H E W	C F K	P A B M V D S U Q J	0 GN	一戸建/上		C K N A J H G L W M P U	E S V	B R F	D O
男			U GH	O S B G A V W J P N	LE C D K	R		W O R	H D M V G U	S B G L K F E C I P J N		
		K D R M N	S B C A O G L J	F W U E P V	H		集合/上・中	F L B G J M D N S C K R E I O P A V H U	Q W			
		E DC V O	J K P F W M R H B I N G U A O	S L			集合 / 下	P J C F B R U G L G A D N E K S V D	G A D W H	M		

付図 7

		武蔵野							三鷹										
		-2	-1	0	+1	+2	居住年												
		-2	-1	0	+1	+2	-2	-1	0	+1	+2	居住年							
		-2	-1	0	+1	+2	-2	-1	0	+1	+2	35年以前	36~50年	51~53年	54年以降	35年以前	36~50年	51年以降	
		-2	-1	0	+1	+2	-2	-1	0	+1	+2	154人	138人	68人	70人	72人	50人	41人	67人
女	Q	W M C A	P	B E J L D S F H V O	K R U N G	G	Q F B L	PA	O K R D E M W H C U J	N V S									
		H K U	S B D L N A R G P F O V	C E M Q W J			S	H C V N	M Q W R B J K E L P G A O U	F D									
	J	E G R L O N	B S W K P F D A U H V Q	A C			GD	E C A S M F K P O N H V J R W	B L Q										
	J C F G	V E D M L W R	A K S B H P Q D				D J V G E K W F U	PL M N A O B C H S Q											
男		V	H F L C S E Q A U G P W R	J D B K M N			P G H	J S A L O F R M U Q	D K E B W V C N										
		B S	G R N E M D J A L H U K P W	C G F O V			N B O E	U D C H V M K F S L J G A I R O	P										
	NK O J G	D M C F L P V	A E B R U W H S Q				C	A K P N L J D R E B G M Q V I O F W S U	H										

付図 9

		武蔵野					三鷹				
		-2	-1	0	+1	+2	-2	-1	0	+1	+2
女	D O M C N	U S B A G J L P F V H	K R	Q E	W		DEC F G M N O	H	GL U V	S R A I W	K J B P
	J C N P F V K D O	L E B G A M Q U H R	S	W		C J H	D O P E N G R	F U S L R	B M O W	V A W	K
	J C P G M N O	A D E U K B L V R W	H S			J	P C G B L D H M	F E K W G V N M	S O A R U		
	S	W R U K L D B E V G H	A F	O	C J M P N Q	K U G	V A W D O R	S H L	B M F E C		
C	Q	E M H W B L N	P A J U S F V D G								
D B	J K	A L G S H V	P C E M N	W U O R F G							
D C O G I E M F A U S Q J N	P V	W K H B R									
C	Q	R H F E J K	D I G U K	B S L W M	P A	J	U B	O A Q	C S L D H N	E V F I G M R	W K
N		A W S K R	G B M H V D L U O	E P	F J C	W		G N V P M	C K F D H O Q	L A U	S R B J E
P	O F	C B L E R N M U J G H	S A K G	D				M R	B H J E A W Q U	G P L V O S	N F K C D

家族構成

定位家族

36人 (68人)

単身

48人 (24人)

既婚/子無し

74人 (57人)

学童以下有

136人 (135人)

学童以下無

137人 (148人)

定位家族

23人 (29人)

単身

31人 (24人)

既婚/子無し

25人 (28人)

学童以下有

50人 (55人)

学童以下無

51人 (51人)

男

付図 10

武蔵野					三鷹				
-2	-1	0	+1	+2	-2	-1	0	+1	+2
FHU J C O M NLG B K S E A P R V Q D W Q					J V K AH CR L P EB W S M G U D G				
N D CR J LM GE B ASHF Q U K P O W V					NGE UBHFV LPS C A J D RM K W O				
D G BRF S L J U A W C N M H K E P O V V Q					O R V DEL US CBH N G M F KP G J W				
AW CQE S V B F M GR D N L J J H O K P U					MGSPCB J H L U E V R D A K W N F G				
D GMVL D G PS W J CR BE F K U AH N					K C A H O J U DF LP S G B E M V GR W N				
DEV A C FUS L WB H P G J K R O M D N					P FBN S QC VJ D WL R AM H E K O G U				
D B S KHE NC U G L F A G O J R V W M					EL U RJAORS F G HK C P MD WV N G				
R W A F L J C B K E V S M D H P G N G O U					H PM C K A L B E J D R G S F V G U I N O				

女

男

付図 12

武蔵野										三鷹										
コミュニティ地区					No.					コミュニティ地区					No.					
-2	-1	0	+1	+2	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	-2	-1	0	+1	+2
E M V P O B Q H C L S D K U N G R W J A			J		1											N	P F O Q	D S I C A K B H L G M U R W	J	
	P A C B O K M I E Q L N G W D F R		H S U	J	2												U	E B C K R G P Q D H S A W O V M F		
E H J P M N G V	RG CBSA L D W K U O		F		3											J	O K V B F C H L R D M S U P N Q	E A G		
J N	D U G K A L C F S B R M E I P O		H Q W		4												V A J F E L H U M B R S P C G K O Q			
	N K C P M S L J U H G		D B E F W A R O	V G	5												B R L S D H V	G M E Q F C P A U	K J W O	N
J F B K	A V R L P P G		M S C G D O	N U E	6												C L D N S M W	A E H K V G F J U P P R	B	
	B O G W U N K P S D G R V		C H L A H F	E J	7															
E	O G V A K S H W O		C L B P F J N R Q	M	8															
	W M L F B J U R D E O V G A		C S N G K H P A	P	9															
J	S E C K L F D R H N		U M P W A G O O	B	10															
G	U W F S R		D L C A M O V H N	E B J K	11															

武蔵野		三鷹			
番号	地区	人数	番号	地区	人数
1	吉祥寺東	34人	8 関前	1 井の頭	47人
2	吉祥寺北	32人	9 境	2 車礼	61人
3	吉祥寺西	45人	10 桜堤	3 三鷹駅前	89人
4	吉祥寺南	58人	11 境南	4 野崎	83人
5	中央	24人		5 井口、深大寺野崎、大沢	45人
6	中央北	54人		6 新川、北野、中原	12人
7	西久保	35人		7 大沢、野崎	95人

(注)：三鷹の、6、新川・北野・中原地区は、回答者が少ない(12人)ので、安定した結果とは考えられず、図は割愛した。

付図 13

		三 鷹						
		同49 市の建群像						
		-2	-1	0	+1	+2		
女	G	B D V	ACJ W RF P SH K M Q	O L N	6.つき合いの気 やすさ 25人 (58人)	R L SK EH M F AU V O	D G C N Q	W P
		Q BL P H U O	J C R S E K W M F	D A V N	8.弱い者へのい たわり 49人 (50人)	AK PMS R F JM O G O	UE H D	L N C V B
		JU S R D G	K G B L F M C H A E O W	N P V	13.ふれあいのぬ くもり 52人 (58人)	P L S D Q H B U G M O J W	C A N E F V K	
男	H	D U J S E Q	K F G P L N V	R A W	6.つき合いの気 やすさ 14人 (20人)	D F N A L M S U O V	O B R W J E Q W G	K C P
	O D C M Q	N L B H P F E U	A J R K V G W	S	8.弱い者へのい たわり 18人 (17人)	U HSK D W M B E O J P	F O N L C V A R	G
		S W V J B A L H G D I N O Q	R E K C F	P U	13.ふれあいのぬ くもり 13人 (21人)	U MB O V D N L C S G K J P	E H F R Q	W A

付図 14

		武蔵野					西50.コミュニティ						
		「ティ」という言葉からの連想					「ティ」という言葉からの連想						
		-2	-1	0	+1	+2	-2	-1	0	+1	+2		
女			W	G RA	N S DE F JD U H VP M Q	C B K	L		E	U B M V O I A Q N	J W P L R N	K	
			3	GH FB W VL S A N	RP M	C E D	U K J	S	U	BVR LE C HG O AN P Q	D M W M W	J	
		L	Q OF GP A U R	WB H J V	KS E MN H V	CD				L Q GAS V E P	NJ R OB C F K D H M W U		
				SD G	L MA H ER U N V P O	K B W Q	C F	J		P MRGA S E B O NW L Q	D K F C H	U	
		M	BN K P O	SLDHG J A F I U R W	EC V	0			U	HMGSADN E B K RO V Q	J L F P W	C	
男		L	OCPW UFM DK R A	H BS V A	E G	J				SVM DAL B K OC WG F G P R N U	HE	J	
		W	E FAD V C B K NR S L U G H Q	J M P	0			H N	DW	S C F Q R E A M G P U	V BL J K	O	
		N	JF LH UESA C MB R K I G D O V	WP	0					S CL BEH D G WF P K I N R M U O	A Q	J	

1. 運動会など スポーツ活動 (84人) (129人)
 4. 趣味の教室や 同好会 (158人) (169人)
 5. 講演会や講習会 (148人) (166人)
 11. 地域の親睦会 (158人) (153人)
 1. 運動会など スポーツ活動 (44人) (56人)
 4. 趣味の教室や 同好会 (57人) (53人)
 5. 講演会や講習会 (52人) (56人)
 11. 地域の親睦会 (51人) (73人)

付図 18

武蔵野市 希望する市施設		三 鷹						
		-2	-1	0	+1	+2		
女	間13. 希望する市施設 —地域関係— (56人)	MQ J BUH N E A F O D V W	V	H S E W N	R P D	J L R F U Q	C A G K M O	
	間13. 希望する市施設 —地域関係— (65人)	S D R H G E U	A	W S	G P L	R E O B N J H C D U F M M O		
	間37. 近隣からの 援助経験—あり— (199人)	L B J K F G A V P W						
	間39. 淋しいときの行動 —近所関係— (44人)	H B D K G W	R	A G V	F E L B W U D J H	K O C S Q	M P N	
男	間20. 家のかかでの話題 —地域、社会問題— (79人)	K Q C E A D S V M W F O	Q	K B P	A C G F L O R V M S N W H U	E J		
	間13. 希望する市施設 —地域関係— (32人)	H L N C B D E J V K A S P R F M W O		S E W	B J M L N H U O	D A V K C F G R		
	間37. 近隣からの 援助経験—あり— (74人)	G S W B F J C H A R V U P D I O K N		L K H	R S E B D F C V N G A U P O	J M W		
	間20. 家のかかでの話題 —地域、社会問題— (46人)	E K G D U B A M C R V H F S P N		W A M K P U	J V L E B R C S D G H O F Q			

付図 19

武蔵野		性 格		三 感	
-2	-1	0	+1	+2	
Q	E S B W P O J D H U C L G F A K M V N R				EP N R A O GL HK B C D S M U C
9.人をまとめる	31人	41人			
Q	K H D S C J V G E B F L P A M N U O R W				O R H W M GL D K C B A N PS J E V F O
10.最後までやり通す	158人	162人			
H	Q W C A N S K L D G J R B M E F U V O				N O P B K L S G U E F C H W D A M J O
12.責任感がある	126人	148人			
S	Q B E R D C K G L N O F V H A P J M U W				E U B P L C F D G R K V S N H J W Q A O M O
16.頼まれることわれない	251人	243人			
S	A W I N P V B C H F M U J E L D K G Q O D D K R				L R N R W E A H G V F S M C K D Q J U O
17.人とうまくやっつけていける	168人	173人			
R	A H O W B C J G L F P E D M K S Q U V N				L E A H K S G C V B F D J R I M N P G U O
9.人をまとめる	26人	31人			
W	R S A O L N F U C E B D G H K H V J P				K N P C F G B E S R A D J L O H G V U M
10.最後までやり通す	76人	86人			
F	B K L E G S C M D R A G P J U V N O				G A Q H O L M C E K B S J M D N R P U V F
12.責任感がある	73人	91人			
R	S K D G C A W L P E B F G U V J H M N O				DE L N S B R W F C J A M O G K U H P V
16.頼まれることわれない	92人	86人			
W	G J B P A C H E S V N D R K L O F U U M Q				H K W R V A F P L G C B O E J S N D M U
17.人とうまくやっつけていける	75人	59人			